

長万部町
富野3遺跡

北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書

平成10年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

頁	行など	誤	正
IV	口絵下段	2 石刃礫	2 石刃礫石器群
26	1行目 7行目	「わらび手」 比熱	「わらび」 比熱
165	14~15行目	ワラビ手状	わらび状
168	27行目	閉圍	平縁
189	上段キャプション	石礫	剥片石器の分布
200	中段	79 フレイク採命状況図	79 フレイク接合状況図
277	16行目 付編表1・4行目	樺坂秦代 HP-1柱穴覆土	樺坂秦代 HP-1柱穴覆土
319	31行目	超軸方向	長軸方向

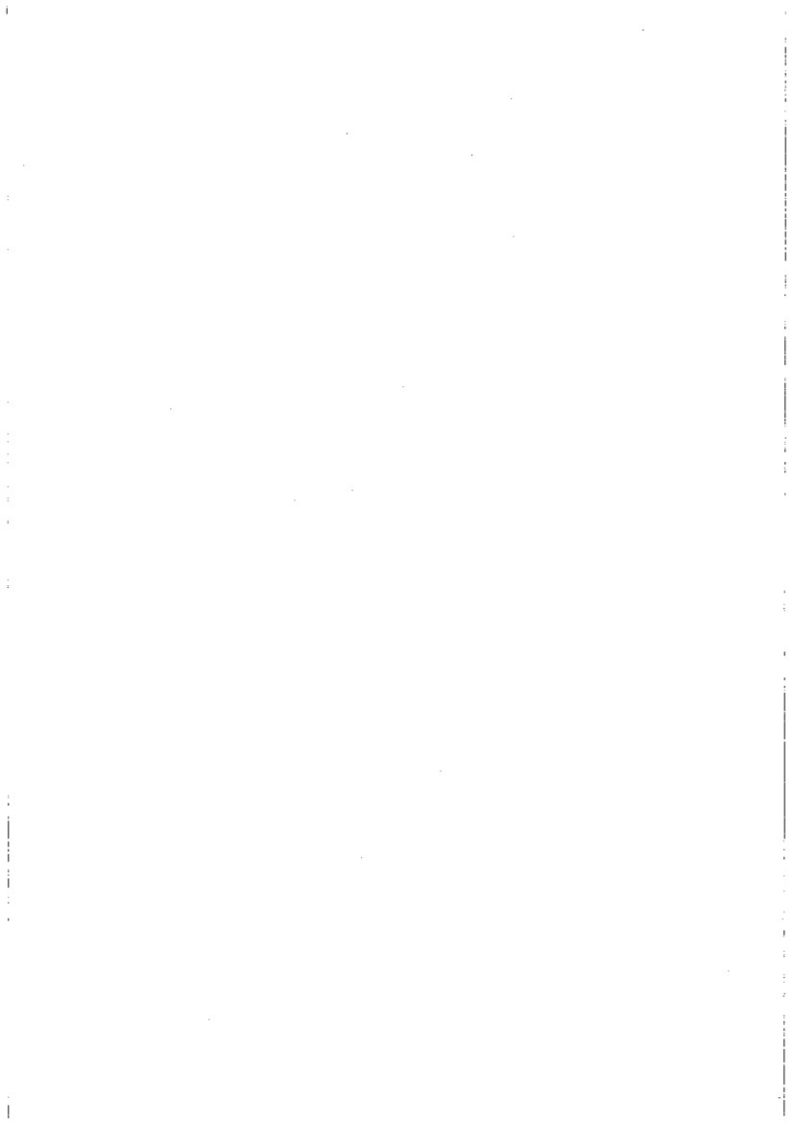
長万部町

富野3遺跡

北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書

平成10年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター





遺跡全景 (RCヘリコプター撮影、西から)



1 遺跡近景 (RCヘリコプターより撮影)



2 H-1 全景 (RCヘリコプターより撮影)



1 H-2 全景 (RCヘリコプターより撮影)



2 P-1 全景 (北西から)



3 P-1 遺物出土状況 (南東から)



1 I 群土器



2 石刃鐵

例 言

1. 本書は、平成10年度に当センターが実施した北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）建設工事に伴う長万部町富野3遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告である。
2. 本書の執筆は、I章：佐藤和雄・皆川洋一・袖岡淳子・広田良成、II章：佐藤和雄・花岡正光、III章：皆川洋一・袖岡淳子・広田良成・立田 理、IV章：皆川洋一・袖岡淳子・広田良成、VI章：皆川洋一・広田良成・立田 理が担当した。
3. 各種測定、同定、分析等は下記に依頼した。

黒曜石産地同定	京都大学 薬科哲男氏
放射性炭素による年代測定	鶴地球科学研究所
植物遺存体の同定	吉崎昌一氏・椿坂恭代氏
テフラの鉱物組成	アースサイエンス株式会社
ロームの鉱物組成	術古澤地質調査事務所

4. 石材鑑定は資料調査課 花岡正光による。
5. 調査報告終了後の出土遺物および記録類については長万部町教育委員会が保管する。
6. 調査にあたっては下記の諸機関、各氏からご指導ご協力をいただいた（順不同、敬省略）。

文化庁、北海道教育委員会、長万部町教育委員会、八雲町教育委員会、北海道文化財保護協会、八雲営林署長万部森林事務所、株式会社シソ技術コンサルタント、日本道路公園北海道支社長万部工事事務所、長万部町教育委員会 佐藤 稔・山田明美・大根田雅美・水野一夫、八雲町教育委員会 三浦孝一・柴田信一、北海道文化財保護協会 竹田輝雄・大島秀俊・谷岡康孝・長谷川徹、今金町教育委員会 寺崎康史、森町教育委員会 藤田 登、南茅部町教育委員会 阿部千春・福田祐二・小林 賢、上磯町教育委員会 森 靖裕、七飯町教育委員会 石本省三・横山英介・竹花和晴・菊池 博・山田 央・宮川博勝・佐々木日登美、函館市教育委員会 田原良信・中村公宣・佐藤智雄 市立函館博物館 長谷部一弘、松前町教育委員会 久保 泰、上ノ国町教育委員会 斎藤邦典、伊達市教育委員会 大島直行・青野友哉・小島朋夏、余市町教育委員会 宮 宏明、平取町教育委員会 森岡健治、浦幌町教育委員会 後藤秀彦、浦河町教育委員会 河内 基・吉田正明・榎屋佳子、富良野市郷土館 杉浦重信・澤田 健、標茶町郷土館 青山俊生、釧路市埋蔵文化財調査センター 西 幸隆・石川 朗・松田 猛、札幌大学 木村英明、札幌学院大学 鶴丸俊明、国学院大学 小林達雄・谷口康浩、八戸市教育委員会 村木 淳、北上市埋蔵文化財調査センター 大渡賢一、鹿児島県歴史資料センター黎明館 牛ノ瀨 修

凡 例

1. 遺構の表記は、以下に示す記号を使用した。
H：住居跡 P：土墳 F：焼土 FC：フレイク・チップ集中 S：集石
HP：住居跡内柱穴 HF：住居跡内焼土 SP：柱穴様小ピット
2. 遺構図の方位は真北を、細数値は、標高（単位 m）を示す。
3. 遺構の規模は、「確認面での長軸長×短軸長/床(底)面での長軸長×短軸長/確認面からの最大深」の順で記した。一部破壊されているものは現在長を（ ）で示し、不明のものは――で示した。
4. 実測図の縮尺は、原則として下記のとおりである。

遺 構	1：40	復元土器	1：3
土器拓本	1：3	剥片石器	1：2
礫石器	1：3	石 斧	1：3
石 皿	1：4	石 製 品	1：2
5. 土層の表記は、基本土層についてはローマ数字で、遺構の層位についてはアラビア数字で示した。
6. 土層の色調は『新版標準土色帖19版』（小山・竹原1997）に従った。
7. 土器、石器、土製品の大きさはいずれも最大のもので、欠損している場合は（ ）を附けた。
8. 遺構出土遺物図の掲載番号の右に付される記号「●」は床面出土のものに限り付してある。

目次

口 絵	
例 言	
凡 例	
目 次	
I 調査の概要	1
1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査にいたる経緯	1
4 調査の概要	2
(1)発掘区の設定	2
(2)調査の方法	2
5 土層	4
6 遺物の分類	5
(1)土器	5
(2)石器等	5
7 調査結果の概要	5
II 遺跡の概要	9
1 遺跡の位置と周辺の遺跡	9
2 遺跡周辺の地形・地質	9
III 遺構	15
1 住居跡	15
2 土壇	82
3 柱穴状小ピット	139
4 焼土	140
5 フレイク・チップ集中	151
6 集石	160
IV 包含層出土の遺物	161
1 土器	161
2 石器	188
資料一覧	206

V	自然科学的手法による分析結果	263
1	富野3遺跡出土の黒曜石製遺物の原材産地分析	薬科哲男 263
2	北海道富野3遺跡から出土した縄文時代の炭化種子	吉崎昌一・榎坂恭代 275
付編	フローテーション試料のサンプリングと成果について	袖岡淳子 277
3	富野3遺跡の放射性炭素年代測定結果	朝地球科学研究所 281
4	長万部町富野3遺跡ローム層分析	古澤 明 287
5	富野3遺跡の完新世テフラについて	花岡正光 305
VI	まとめ	309
1	住居跡	309
2	土器	310
3	剥片石器	315
4	石鏃	316
	引用・参考文献	320
	写真図版	323
	報告書抄録	379

挿 図 目 次

図 I - 1	発掘区の設定	2	図 III-29	H-8と遺物分布	59
図 I - 2	周辺の地形と調査区	3	図 III-30	H-8の遺物	60
図 I - 3	土層柱状図	4	図 III-31	H-9	62
図 I - 4	遺跡位置図	7	図 III-32	H-9の遺物	63
図 II - 1	遺跡の位置と周辺の遺跡	10	図 III-33	H-10	64
図 II - 2	遺跡周辺の地形分類図	13	図 III-34	H-10の遺物	65
図 II - 3	遺跡の位置と旧地形	14	図 III-35	H-10の遺物分布	66
図 III - 1	H-1	17	図 III-36	H-11の遺物	68
図 III - 2	H-1の遺物(1)	19	図 III-37	H-11	69
図 III - 3	H-1の遺物(2)	20	図 III-38	H-12	72
図 III - 4	H-1の遺物(3)	21	図 III-39	H-12の遺物	73
図 III - 5	H-1の遺物分布	22	図 III-40	H-13・H-14と遺物	74
図 III - 6	H-1覆土内の生活痕跡	23	図 III-41	H-15	77
図 III - 7	H-1覆土内の生活痕跡の遺物分布	24	図 III-42	H-15の遺物(1)	78
図 III - 8	H-2の遺物と分布	28	図 III-43	H-15の遺物(2)	79
図 III - 9	H-2	29	図 III-44	H-15の遺物分布	80
図 III-10	H-3	32	図 III-45	P-1~5	83
図 III-11	H-3の遺物	33	図 III-46	P-6~11	87
図 III-12	H-4	35	図 III-47	P-12~15	88
図 III-13	H-4の遺物	37	図 III-48	P-16~21	90
図 III-14	H-5	39	図 III-49	P-22~25・27・28	93
図 III-15	H-5の遺物(1)	40	図 III-50	P-26	95
図 III-16	H-5の遺物(2)	41	図 III-51	P-29~35・38	97
図 III-17	H-5の遺物(3)	42	図 III-52	P-36・39~41	100
図 III-18	H-5の遺物分布	43	図 III-53	P-37	101
図 III-19	H-5の遺物出土状況とFC-1・2	44	図 III-54	P-42	103
図 III-20	H-6	46	図 III-55	P-43	105
図 III-21	H-6の遺物(1)	47	図 III-56	P-44	106
図 III-22	H-6の遺物(2)	48	図 III-57	P-45~50	109
図 III-23	H-6覆土内の生活痕跡と遺物分布(1)	49	図 III-58	P-51~56	111
図 III-24	H-6覆土内の生活痕跡と遺物分布(2)	50	図 III-59	P-57~63	113
図 III-25	H-7	53	図 III-60	P-64~69・74・75	116
図 III-26	H-7の遺物(1)	54	図 III-61	P-70~72	117
図 III-27	H-7の遺物(2)	55	図 III-62	P-73	120
図 III-28	H-7の遺物分布	56	図 III-63	P-76~83	121
			図 III-64	P-84~88・92	125
			図 III-65	P-89~91・93・94・98~100・105~112	127
			図 III-66	P-95~97・101~104	130

図Ⅲ-67	P-113~118	133	図Ⅳ-26	石器(2)	198
図Ⅲ-68	P-119~123	135	図Ⅳ-27	石器(3)	199
図Ⅲ-69	P-124~127	137	図Ⅳ-28	石器(4)	200
図Ⅲ-70	SP-1~8	139	図Ⅳ-29	石器(5)	201
図Ⅲ-71	焼土(1)	146	図Ⅳ-30	石器(6)	202
図Ⅲ-72	焼土(2)	147	図Ⅳ-31	石器(7)	203
図Ⅲ-73	焼土(3)	148	図Ⅳ-32	石器(8)	204
図Ⅲ-74	焼土(4)	149	図Ⅳ-33	石器(9)	205
図Ⅲ-75	焼土の遺物	150	図Ⅴ-1-1	黒曜石原産地	269
図Ⅲ-76	フレイク・チップ集中(1)	155	図Ⅴ-2-1	炭化種子	276
図Ⅲ-77	FC-1の遺物	156	付編図-1	炭化種子を採取した住居跡と土壌サンブルメッシュ	280
図Ⅲ-78	フレイク・チップ集中(2)	157	図Ⅴ-3-1	暦年代グラフ	284
図Ⅲ-79	フレイク・チップ集中(3)	158	図Ⅴ-3-2	暦年代グラフ	285
図Ⅲ-80	S-1	160	図Ⅴ-3-3	暦年代グラフ	286
図Ⅳ-1	土器分布図(1)	162	図Ⅴ-4-1	調査位置図	287
図Ⅳ-2	土器分布図(2)	163	図Ⅴ-4-2	火山ガラスの形態分類法	290
図Ⅳ-3	土器分布図(3)	164	図Ⅴ-4-3	温度変化型屈折率測定のご概念図	291
図Ⅳ-4	土器(1)	171			
図Ⅳ-5	土器(2)	172	図Ⅴ-4-4	ロームの色調と斜方輝石、角閃石の含有率一覧図	294
図Ⅳ-6	土器(3)	173	図Ⅴ-4-5	分析結果総合図	295
図Ⅳ-7	土器(4)	174	図Ⅴ-4-6	B point 柱状図	302
図Ⅳ-8	土器(5)	175	図Ⅴ-4-7	ローム層に含まれる火山灰の顕微鏡写真	303
図Ⅳ-9	土器(6)	176	図Ⅴ-4-8	ローム層採取地点写真	304
図Ⅳ-10	土器(7)	177	図Ⅴ-5-1	B-Tmの火山ガラスの化学分析値散布図	306
図Ⅳ-11	土器(8)	178	図Ⅴ-5-2	Ⅲ層の斜方輝石の化学分析値散布図	307
図Ⅳ-12	土器(9)	179	図Ⅴ-5-3	Ko-gの斜方輝石の化学分析値散布図	308
図Ⅳ-13	土器(10)	180	図Ⅵ-1	遺構出土のⅠ群b-Ⅰ類土器	311
図Ⅳ-14	土器(11)	181	図Ⅵ-2	包含層出土のⅠ群b-Ⅰ類土器	313
図Ⅳ-15	土器(12)	182			
図Ⅳ-16	土器(13)	183	図Ⅵ-3	石刃鎌石器群分布図	315
図Ⅳ-17	土器(14)	184	図Ⅵ-4	石錐の形態と重量分布	316
図Ⅳ-18	土器(15)	185	図Ⅵ-5	石錐	317
図Ⅳ-19	土器(16)	186			
図Ⅳ-20	土器(17)	187			
図Ⅳ-21	石器分布図(1)	189			
図Ⅳ-22	石器分布図(2)	190			
図Ⅳ-23	石器分布図(3)	191			
図Ⅳ-24	石器分布図(4)	192			
図Ⅳ-25	石器(1)	197			

表 目 次

表 I-1	遺構数一覧	6
表 I-2	出土遺物一覧	6
表 II-1	周辺の遺跡一覧	11
表 III-1	遺構時期一覧	15
表 IV-1	包含層出土土器一覧	161
表 IV-2	検出遺構一覧	206
表 IV-3	遺構出土遺物一覧	211
表 IV-4	遺構出土掲載土器一覧	231
表 IV-5	遺構出土掲載石器一覧	240
表 IV-6	包含層出土掲載土器一覧	243
表 IV-7	掲載石器一覧	258
表 IV-8	遺構出土土器規模一覧	261
表 IV-9	包含層出土土器規模一覧	261
表 V-1-1	長万部町富野 3 遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果	267
表 V-1-2	長万部町富野 3 遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定結果	268
表 V-1-3	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値	270
表 V-1-4	各黒曜石の原産地における黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値	274
表 V-2-1	富野 3 遺跡出土炭化種子一覧	276
付編表-1	フローテーション成果試料一覧	277
表 V-3-1	放射性炭素年代測定資料一覧	283
表 V-4-1	鉱物組成分類方法	289
表 V-4-2	鉱物組成一覧	293
表 V-5-1	B-Tm の火山ガラスの化学分析値	306
表 V-5-2	Ⅲ層の斜方輝石の化学分析値	307
表 V-5-3	Ko-g の斜方輝石の化学分析値	308
表 VI-1	石銼属性一覧	318

図 版 目 次

図版 1	1 遺跡遠景(長万部公園より 西から)	323
	2 遺跡遠景(長万部漁港より 東から)	
図版 2	1 作業風景(南東から)	324
	2 調査終了後調査区域(南東から)	
図版 3	1 H-1全景(北東から)	325
	2 H-1土層断面(北東から)	
	3 H-1HP-11・12土層断面(北東から)	
	4 H-1遺物出土状況(北東から)	
図版 4	1 H-2全景(南から)	326
	2 H-3全景(西から)	
図版 5	1 H-5全景(南から)	327
	2 H-5遺物出土状況(南西から)	
	3 H-5遺物出土状況(南西から)	
	4 H-5遺物出土状況(西から)	
	5 H-5遺物出土状況(南から)	
図版 6	1 H-6検出状況(西から)	328
	2 H-6全景(南西から)	
	3 H-7全景(東から)	
	4 H-7・HP-2断面(南東から)	
	5 H-7・HP-22断面(南から)	

図版7	1	H-9全景(北から) ……………329	図版27	1	P-1・P-2・P-7・P-9・P-12の遺物 ……………349
	2	H-10全景(北東から)	図版28	1	P-14・P-15・P-19・P-22・P-25・P-26の遺物 ……………350
	3	H-10土層断面(南から)	図版29	1	P-36・P-37・P-39の遺物 ……………351
図版8	1	H-15全景(西から)……………330	図版30	1	P-42・P-43・P-47・P-49・P-51の遺物 ……………352
	2	H-15遺物出土状況(西から)	図版31	1	P-44・P-50・P-52・P-53・P-55の遺物 ……………353
	3	H-15遺物出土状況(西から)	図版32	1	P-59・P-60・P-62・P-64・P-70・P-71・P-73・P-74の遺物 ……………354
	4	H-15遺物出土状況(北から)	図版33	1	P-75・P-80・P-82・P-87・P-95・P-104・P-114・P-116・P-117・P-122の遺物 ……355
図版9	1	P-1土層断面(南から) ……331	図版34	1	P-123・P-124・P-126・SP-1・F-4・F-7・F-39の遺物 ……356
	2	P-1遺物出土状況(南東から)	図版35	1	FC-1・FC-3・FC-4・FC-5・FC-7の遺物 ……………357
	3	P-1全景(南西から)	図版36	1	土器(1) ……………358
	4	P-10・11全景(南から)	図版37	1	土器(2) ……………359
	5	P-12全景(西から)	図版38	1	土器(3) ……………360
	6	P-23遺物出土状況(南から)	図版39	1	土器(4) ……………361
図版10	1	P-37全景(南東から)……………332	図版40	1	土器(5) ……………362
	2	P-50全景(北西から)	図版41	1	土器(6) ……………363
	3	晩期土壌群(北から)	図版42	1	土器(7) ……………364
図版11	1	FC-1検出状況(南東から)……………333	図版43	1	土器(8) ……………365
	2	FC-3検出状況(西から)	図版44	1	土器(9) ……………366
	3	FC-4検出状況(南東から)	図版45	1	土器(10) ……………367
	4	FC-7検出状況(南から)	図版46	1	土器(11) ……………368
	5	S-1検出状況(東から)	図版47	1	土器(12) ……………369
	6	V層遺物出土状況(西から)	図版48	1	土器(13) ……………370
図版12	1	調査風景(南から)……………334	図版49	1	土器(14) ……………371
	2	旧石器確認調査状況(東から)	図版50	1	土器(15) ……………372
	3	山崎小学校体験学習状況(東から)	図版51	1	土器(16) ……………373
図版13	1	H-1の遺物(1)……………335	図版52	1	石器(1) ……………374
図版14	1	H-1の遺物(2)……………336	図版53	1	石器(2) ……………375
図版15	1	H-2・H-3の遺物 ……………337	図版54	1	石器(3) ……………376
図版16	1	H-4・H-5(1)の遺物 ……………338	図版55	1	石器(4) ……………377
図版17	1	H-5の遺物(2)……………339	図版56	1	石器(5) ……………378
図版18	1	H-5の遺物(3)……………340			
図版19	1	H-6の遺物(1)……………341			
図版20	1	H-6(2)・H-7の遺物(1) ……342			
図版21	1	H-7の遺物(2)……………343			
図版22	1	H-8・H-9の遺物(1) ……344			
図版23	1	H-9(2)・H-10・H-11の遺物 ……345			
図版24	1	H-11(2)・H-12・H-13・H-14の遺物 ……………346			
図版25	1	H-15の遺物(1) ……………347			
図版26	1	H-15の遺物(2)……………348			

I 調査の概要

1 調査要項

事業名 北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査

委託者 日本道路公団北海道支社

受託者 財団法人 北海道埋蔵文化財センター

受託期間 平成10年4月11日～平成11年3月25日

発掘期間 平成10年5月6日～平成10年10月28日

調査遺跡 富野3遺跡（北海道教育委員会登録番号 B-17-30）

所在地 山越郡長万部町字富野129ほか

調査面積 8,500m²

2 調査体制

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

理事長 伊藤 一夫（5月31日退任）

理事長 大澤 潤（6月8日就任）

専務理事 佐藤 哲人

常務理事 柴田 忠昭

常務理事 木村 尚俊

業務部長 中田 仁

第1調査部長 畑 宏明

第2調査課長 佐藤 和雄（発掘担当者）

主任 皆川 洋一（発掘担当者）

文化財保護主事 袖岡 淳子（発掘担当者）

文化財保護主事 広田 良成

文化財保護主事 立田 理

3 調査にいたる経緯

北海道縦貫自動車道函館名寄線は現在、長万部インターチェンジ～旭川鷹栖インターチェンジの間で供用がなされている。これより南は七飯～長万部間で工事が進められている。この事業に関する埋蔵文化財包蔵地については日本道路公団札幌建設局と北海道教育委員会（以下道教委と記す）との間でその取り扱いについて事前協議が行われ、道教委は所在確認調査・範囲確認調査を行ってきている。

長万部町内で確認された遺跡は8ヵ所で、順次範囲確認調査が行われている。七飯～長万部間の発掘調査は今年度が最初で、富野3遺跡のほかにおバルベツ2遺跡・富野5遺跡（北海道文化財保護協会）で調査が実施されている。

富野3遺跡は平成2年度に所在確認調査によって発見された。平成7年度に範囲確認調査が行われ、発掘調査の必要な範囲10,200m²が決定された。今年度、発掘調査を実施したが一部に変更が生じたため、調査面積は8,500m²となった。

4 調査の概要

4 調査の概要

(1) 発掘区の設定

発掘区の設定にあたっては、道路工事用地の中心線杭 STA1018 と STA1019 を結ぶ直線 (M ライン) とこれに直交し STA1018+80R を通る直線 (25ライン) を基線とし、4m 間隔でそれぞれの基線に並行する各ラインを設定した。STA1018杭・STA1019杭・STA1018+80R 杭の測量成果は次のとおりである。

STA1018 X=-164,911.9135 Y=+9,398.6408

STA1019 X=-164,830.7385 Y=+9,456.9822

STA1018+80R X=-164,864.9600 Y=+9,471.813 (平面直角座標系第 XI 系)

区画線は縦線にアルファベット、横線にアラビア数字による呼称を与えた。

各発掘区の呼称は北西隅のラインの交点で表示した。例えば M ラインと 5 ラインの交点の南東側が M-5 区となる。さらに、4m×4m の発掘区を 4 分割し、2m×2m の小発掘区を設定した。小発掘区は逆時計回りに a・b・c・d とし、B-30-a、B-30-b、B-30-c、B-30-d のように表示する (図 I-1)。

(2) 調査の方法

調査区の現況が牧草畑であったため、重機で耕作土を除去することから調査を開始した。人力による調査は始めに発掘区の設定をした後、25%調査、包含層調査、遺構調査の順で調査を進めた。調査区北東側は25%調査の結果、遺構・遺物が極めて少ない事が予想された。そのため重機による調査に切り替え、遺構確認に重点をおいた調査を行った。この調査区の面積は2,060m²である。

包含層の遺物については、2m×2m の小発掘区ごとに取り上げた。住居跡、墓、フレイク・チップ集中の遺物については、出土位置・高さ・層位を記録した。土壌の遺物は、一部を除いて流れ込みあるいは混入したものとみられることから遺構ごと一括して取り上げた。(佐藤和雄)

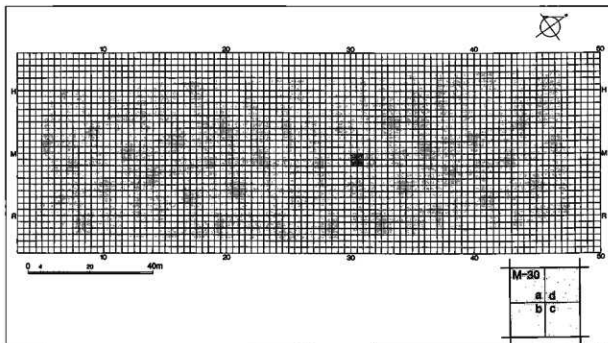


図 I-1 発掘区の設定



図 I -2 周辺の地形と調査区

5 土層 (S-47グリッドポイント)

最も良好な土層の堆積断面から基本となるⅠ～Ⅶ層の分層を行った。Ⅰ～Ⅳ層は開拓期以降の攪乱等によって調査区の約2/3が失われている。段丘縁辺部の斜面の肩にあたる範囲では一部異なる土層が形成されており、これらの部分では包含される遺物などから層位を判断した。

Ⅲ層は従来起源不明の火山灰とされていた土層であるが、今回の分析で複数の火山噴出物を含む二次堆積層であることが判明した(Ⅴ章5節)。火山灰は白頭山-苫小牧火山灰(B-Tm)、駒ヶ岳-d火山灰(Ko-d)、駒ヶ岳-g火山灰(Ko-g)、クツラ火山灰などが認められた。しかし、クツラ火山灰以外は層をなしておらず、これらは埋没途中の遺構や自然の窪み、朽ちた木根の痕や風倒木などの攪乱にしか痕跡をとどめていない。各火山灰の降下した層位は、B-TmとKo-dがⅡ～Ⅲ層、Ko-gがⅤ層中と推定され、クツラ火山灰はⅦ層の頭から1.8～2.0m程下位の層中に見られる(Ⅴ章4節)。

Ⅰ層：表土層である。自然の地表面が残る部分と開拓期以降に耕作を受けた部分とが見られるため、以下の2種類の記号でそれを示した。近・現代の遺構、遺物が検出されている。

Ⅰa層：黒褐(Hue7.5YR3/2)10～15cmの層厚を持つ自然の地表面。現況はまばらな灌木と笹が繁茂する状態である。調査区北東側の約1/3の範囲がこれに該当する。

Ⅰb層：黒褐(Hue7.5YR2/1)耕作を受けた部分(10～20cm)。開拓期以降に数次の耕作もしくは削平が行われた部分で、現況は牧草地である。調査区南西側の約2/3の範囲が該当するが、この部分はⅤ～Ⅶ層にまで攪乱が達しており、当該区に集中する縄文時代早期や晩期末葉の遺構・遺物に大きなダメージを与えている。

Ⅱ層：黒褐(Hue7.5YR2/2)5～10cmの層厚を持つ腐植土層。縄文時代晩期の包含層で、末葉の土壌群はこの層中から掘り込まれたと考えられる。

Ⅲ層：にぶい黄褐(Hue10YR4/3)5～10cmの層厚を持つ腐植土と火山灰の二次堆積層。層の上位から縄文時代中～後期の土器が出土している。

Ⅳ層：暗褐(Hue10YR3/3)3～5cmの層厚を持つ腐植土。Ⅲ層と同質だが腐植化が進行している。本層に伴う明瞭な遺構・遺物は見られない。

Ⅴ層：黒(Hue7.5YR1/1)15～20cmの層厚を持つ腐植土。主に縄文時代早期中～後葉の遺構・遺物が多数見つかった。

Ⅵ層：暗褐(Hue10YR3/4)10cm程の層厚を持つ腐植土でⅤ層とⅦ層の漸移層である。本層の上位からは早期中葉の遺物が見つかる場合もあった。

Ⅶ層：にぶい黄褐(Hue10YR5/4)180～200cmの層厚を持つローム質土である。試掘では旧石器の存在を促す遺物が出土していたため、その地点を中心に約184m²のトレンチを設け各約1～1.5mの深さまで掘り下げて調査を行ったが確認できていない。(皆川洋一)

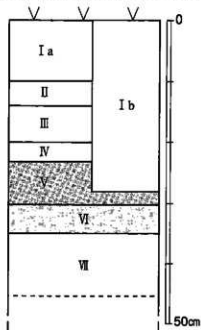


図 I-3 土層柱状図

6 遺物の分類

(1) 土器

I群 縄文時代早期に属するもの。

- a類 貝殻履縁圧痕文、条痕文のあるもの。物見台式に相当する土器群。
- b類 縄文、捺糸文、絡条体圧痕文、組紐圧痕文、貼付文などの施される土器群。
 - b-1類 東銅路Ⅱ式、仮称西桔梗式、赤御堂式、東銅路Ⅲ式に相当するもの。
 - b-2類 コツクロ式に相当するもの。
 - b-3類 中茶路式に相当するもの。
 - b-4類 東銅路Ⅳ式に相当するもの。

II群 縄文時代前期に属するもの。

- a類 縄文の施された丸底、尖底を特色とする土器群（今回は出土していない）。
 - a-1類 網文土器に相当するもの。
 - a-2類 春日町式、中野式など、縄文の施された尖底を特色とするもの。
- b類 円筒土器下層式に相当する土器群（今回は出土していない）。

III群 縄文時代中期に属するもの。

- a類 円筒土器上層式に相当する土器群。
- b類 榎林式、大安在B式、ノグツプⅡ式に相当する土器群。

IV群 縄文時代後期に属するもの。

- a類 余市式、入江式、大津式に相当する土器群。
- b類 船泊上層式、手稻式、ホッケマ式、エリモB式に相当する土器群。
- c類 堂林式、三ツ谷式、御殿山式に相当する土器群。

V類 縄文時代晩期に属するもの。

- a類 大洞B式、上ノ国式に相当する土器群。（今回は出土していない）
- b類 大洞C₁式、大洞C₂式に相当する土器群。
- c類 大洞A式、大洞A'式、タンネトウL式に相当する土器群。

VI群 統縄文時代に属するもの。（今回は出土していない）

VII群 弥文時代に属するもの。（今回は出土していない）（皆川洋一）

(2) 石器等

石器は器種別に分類を行った。剥片石器には石刃鎌、石鎌、石槍、石錐、つまみ付きナイフ、寛状石器、両面調整石器、彫器、スクレイパー、楔形石器、剥片石器片、加工痕のある剥片(Rフレイク)、刃こぼれ状の使用痕のある剥片(Uフレイク)、石核、石刃、フレイク、原石がある。「剥片石器片」は剥片石器の破片で器種が特定できないものである。磨製石器には磨製石斧がある。礫石器にはたたき石、擦り石、石皿あるいは台石片、石鋸、砥石、石錐がある。土製品には焼成粘土塊がある。石製品には軽石製のものがある。他には焼成礫、礫、軽石、その他がある。（広田良成）

7 調査結果の概要

検出された遺構は、竪穴住居跡15軒、土壇127基、柱穴様小ピット8基、焼土40ヵ所、フレイク・チップ集中11ヵ所、集石1ヵ所である。遺構の大半は調査区南西側の台地縁辺部から北東側の平坦部にかけてまとまっている。住居跡は全て縄文時代早期のもので、I群a類土器の時期が2軒、I群b-1類土器の時期が13軒である。確認面での規模は9.57×9.30～3.64×3.30mを測る。H-4が最大で、H-14が最小である。平面形は隅丸方形（H-1・3・5・7・10）、楕円形（H-4・11・14）、長楕円形（H-

7 調査結果の概要

6)、円形(H-13)で、H-2・8・9・12・15は不整の円形・楕円形を呈する。土壌の大半は縄文時代早期と晩期のものである。早期の土壌のうちP-1は土壌墓でI群b-1類の尖底土器・石刃・両面調整石器片が副葬されていた。P-15・50はフラスコ状ピットである。晩期の土壌は約50基で、調査区のほぼ中央でまとまって確認されている。比較的小型のものが多く、土器を伴うものもある。

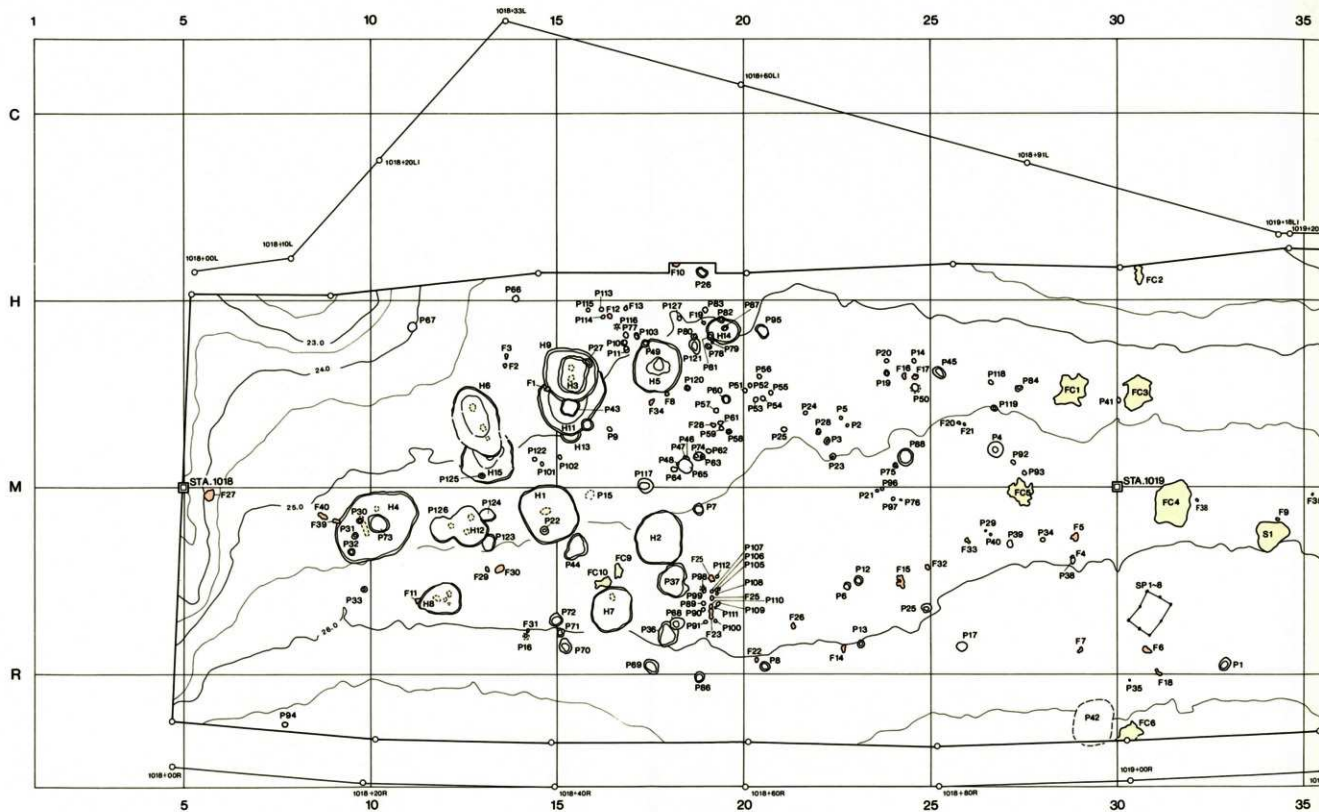
出土した遺物は、約67,000点でこの内土器が約24,000点、石器等が約43,000点である。土器は縄文時代早期・中期～晩期のものである。このうち早期後葉の東銅路Ⅱ式、これと伴出した縄文尖底土器(I群b-1類)が半数を占め、早期中葉の貝殻文尖底土器(I群a類)、早期後葉の東銅路Ⅳ式、晩期の大洞C₂式(V群)、後期の手稲式(Ⅳ群b類)、中期の円筒土器上層式土器(Ⅲ群a類)が順に次ぐ。これらに伴う石器は約1,400点で、石器等の大半は剝片や礫・礫片である。器種別には、台石・石皿、スクレイパー、石鏝、石鏟が多い。その他では、石核も多く出土している。(佐藤和雄)

表 I-1 遺構数一覧

住居跡(H)	土 壌(P)	小ピット(SP)	焼 土(F)	フレイク・チップ集中(F・C)	集 石(S)
15	127	8	40	11	1

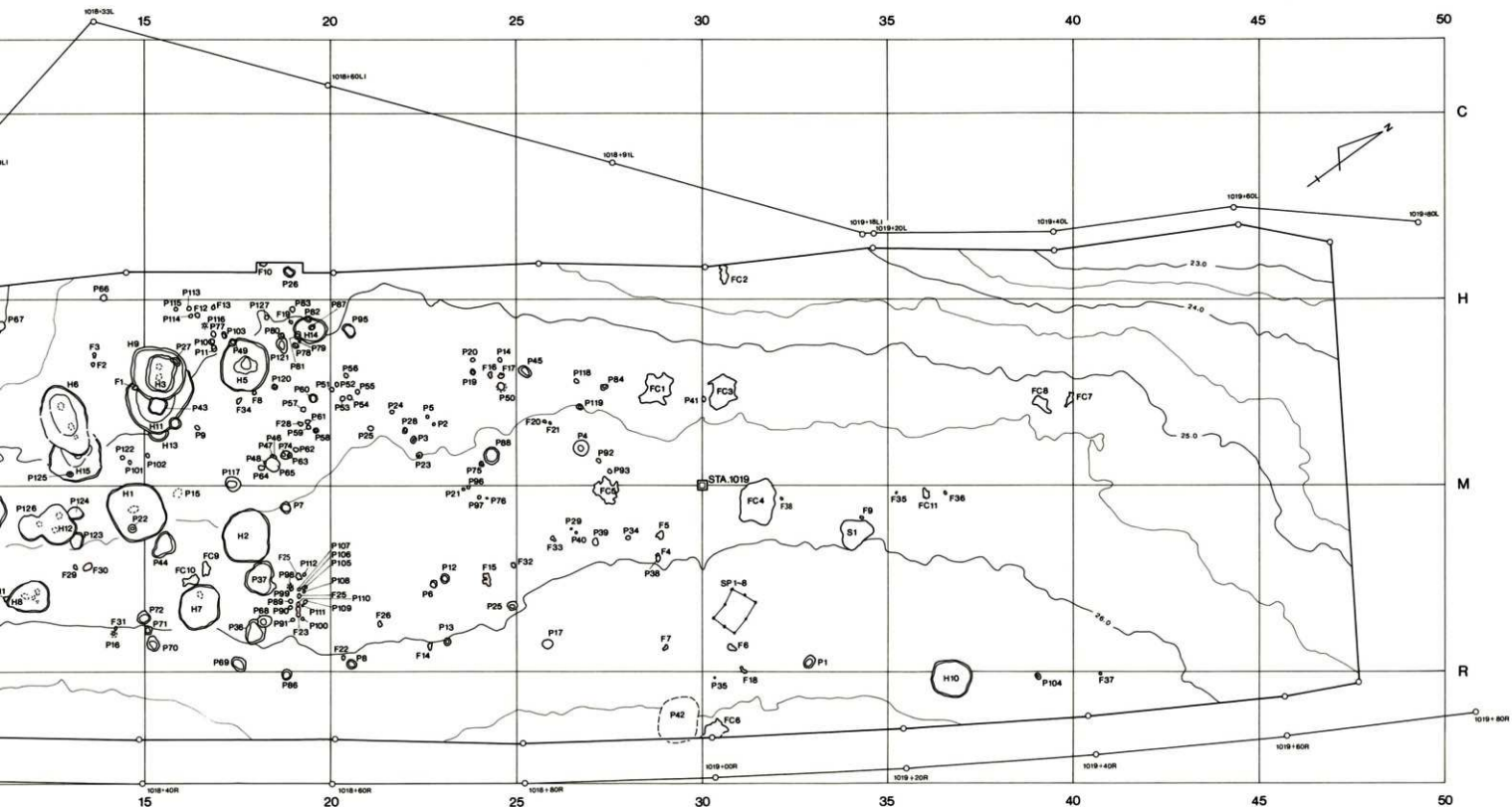
表 I-2 出土遺物一覧

土 器		石 器 等									
時 期	分 類	点 数		点 数				点 数			
		遺 構	包含層	分 類	遺 構	包含層	分 類	遺 構	包含層		
縄文早期	I a	2,137	3,368	石 刃	鐵	3	石	弁	26	40	
	I b-1	5,173	8,114	石	鏟	53	70	擦り切り残片	11	15	
	I b-2	2	4	石	槍	9	10	たたき石	18	36	
	I b-3		81	石	鏟	28	27	すり石	23	43	
中期	I b-4	367	3,140	つまみ付ナイフ		16	41	砥	石	64	2
	Ⅲ a	18	240	笥状石器		4	15	石	鋸	40	58
後期	Ⅲ b		71	両面調整石器		22	50	台石・石皿	130	137	
	Ⅳ b	17	462	形	器	1		石	鏝	55	63
晩期	Ⅳ c		4	スクレイパー		73	195	焼成礫片	8	34	
	V c	315	445	楔形石器		1	1	焼成礫片	7		
不明		147	112	剝片石器片		14	15		7,160	6,441	
	海磁器	6	9	R	フレイク	141	252	礫	片	639	1,246
				U	フレイク	49	128	鏝	石	37	115
				石	核	39	102	土	品	11	
				石	刃	1	5	石	品	5	
				フ	レイク	18,961	6,835	そ	の	4	37
				原	石	4	26				
計		8,182	16,050	計					27,654	16,037	
土器計		24,232		石 器 等 計					43,691		
総 計		67,923									



点名	X座標	Y座標	点名	X座標	Y座標	1018+91L	1018+90R	1019+80R	1019+80R		
1018+80L	-164,897.594	9,380.515	1018+80R	-164,930.449	9,422.103	1018+18L	-164,800.992	9,444.796	1018+20R	-164,830.650	9,494.533
1018+10L	-164,888.370	9,385.403	1018+20R	-164,814.818	9,435.486	1018+20L	-164,799.926	9,445.462	1019+40R	-164,813.124	9,505.234
1018+20L	-164,874.450	9,382.433	1018+40R	-164,899.403	9,447.869	1018+40L	-164,784.061	9,456.959	1019+60R	-164,795.346	9,515.649
1018+33L	-164,854.845	9,376.250	1018+60R	-164,881.705	9,459.870	1019+60L	-164,766.767	9,466.100	1019+80R	-164,777.207	9,525.593
1018+80L	-164,836.448	9,398.512	1018+80R	-164,864.960	9,471.813	1019+80L	-164,751.597	9,479.631			

图 1-4 遺構位置図



名	X座標	Y座標	点名	X座標	Y座標
00L	-164,897.594	9,380.515	1018+00R	-164,930.449	9,422.103
10L	-164,888.378	9,385.003	1018+20R	-164,914.819	9,435.488
20L	-164,874.450	9,382.433	1018+40R	-164,898.403	9,447.869
33L	-164,854.845	9,378.250	1018+60R	-164,881.705	9,459.870
60L	-164,839.448	9,398.512	1018+80R	-164,864.980	9,471.813

1018+91L	-164,818.553	9,423.896	1019+00R	-164,847.886	9,483.286
1018+18L	-164,808.992	9,444.796	1019+20R	-164,838.659	9,494.533
1018+28L	-164,798.928	9,445.462	1019+40R	-164,813.124	9,505.284
1018+48L	-164,784.861	9,456.959	1019+60R	-164,795.346	9,515.849
1018+68L	-164,766.767	9,466.100	1019+80R	-164,777.287	9,525.903
1018+88L	-164,751.597	9,478.031			

図 I-4 選構位置図

II 遺跡の概要

1 遺跡の位置と周辺の遺跡

遺跡の所在する長万部町は渡島半島の付け根に位置している。東側は内浦湾に面し、西側は山地斜面、丘陵斜面、砂丘、沖積低地が発達している。富野3遺跡はJR長万部駅の北西約1km、標高約25mの海岸段丘上に位置している(図II-1)。周辺には多くの遺跡が確認されている。北約700mには旧石器時代・縄文時代早期・中期のオバルベツ2遺跡、南約700mには旧石器時代・縄文時代中期のトド山遺跡、南約300mには縄文時代早期の貝殻文土器、中茶路式土器が発見された富野遺跡、南西約300mには縄文時代早期の富野5遺跡がある。

長万部町内の遺跡は道教委作成の埋蔵文化財分布図によると縄文時代の遺跡が大半を占める。これらの遺跡はおもに段丘と沖積低地に分布する。

旧石器時代の遺跡は2ヵ所登録されている。オバルベツ2遺跡、オバルベツ4遺跡がある。オバルベツ2遺跡では、細石器文化の遺物が出土している(長万部町教委 1995)。

縄文時代早期の遺跡は9ヵ所登録されている。富野遺跡、ナイベコシナイ2遺跡、栄原2遺跡、オバルベツ2遺跡、富野3遺跡、富野4遺跡、富野5遺跡、オバルベツ3遺跡、オバルベツ4遺跡がある。ナイベコシナイ2遺跡は後半期の東創路Ⅳ式土器が出土している(長万部町教委 1996)。栄原2遺跡は前半期の貝殻文土器が主体で後半期の東創路Ⅲ式、中茶路式も出土している(長万部町教委 1997)。

縄文時代前期の遺跡は4ヵ所登録されている。静狩貝塚、中の沢1遺跡、富野3遺跡、オバルベツ4遺跡がある。おもに円筒土器下層式土器が出土している。

縄文時代中期の遺跡は16ヵ所登録されている。静狩貝塚、栄原遺跡、富野遺跡、坊主山遺跡、飯生神社裏遺跡、トド山遺跡、オバルベツ遺跡、トド山2遺跡、ナイベコシナイ2遺跡、栄原2遺跡、オバルベツ2遺跡、富野3遺跡、花岡2遺跡、オバルベツ3遺跡、オバルベツ4遺跡、中の沢1遺跡がある。静狩貝塚は上層から中期末～後期初頭にかけての遺物が、下層から前期の遺物が出土している(大場・田川 1955)。栄原2遺跡は煉瓦台式、ノグップⅡ式に相当するものが出土している。円筒土器上層式期の遺構はオバルベツ2遺跡で住居跡が、ナイベコシナイ2遺跡で墓の可能性のある土壌が発見されている。

縄文時代後期の遺跡は7ヵ所登録されている。静狩貝塚、富野遺跡、坊主山遺跡、飯生神社裏遺跡、栄原2遺跡、富野3遺跡、オバルベツ4遺跡がある。静狩貝塚は余市式、栄原2遺跡は余市式・トリサキ式・大津式、富野遺跡は堂林式が出土している。

縄文時代晩期の遺跡は2ヵ所登録されている。静狩川遺跡で大洞A式、富野3遺跡で大洞C₂式が出土している。

続縄文時代の遺跡は1ヵ所登録されている。静狩川遺跡で恵山式土器が出土している。

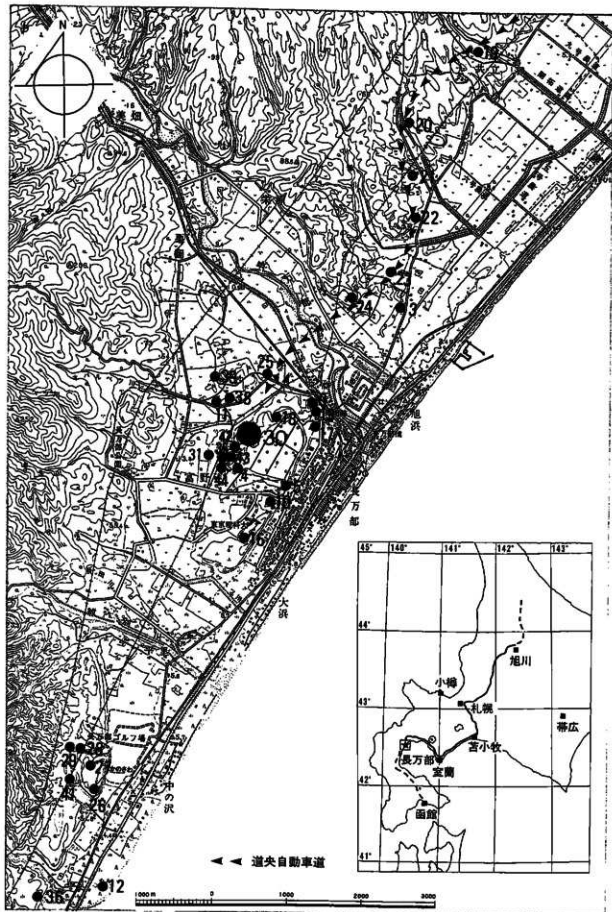
町内にはこれらのほかに花岡遺跡、東蝦夷地南部藩長万部陣屋跡の中・近世の遺跡や史跡がある。

(佐藤和雄)

2 遺跡周辺の地形・地質

図II-2に遺跡周辺の地形分類図を示す。地形図の読図、空中写真の判読、現地調査による概略図である。地質断面を観察できる地点は少ない。

標高50m以上には起伏の大きな山地斜面が発達し、黒松内層のシルト岩部層、ガロ川火山岩類、瀬棚層の砂岩・シルト岩・礫岩から成っている(久保ほか、1983)。



図II-1 遺跡の位置と周辺の遺跡

表II-1 周辺の遺跡一覧

名 称	搭載番号	所 在 地	時 代
栄原遺跡	B-17-3	長万部町字栄原97-1・2・4、98-1、99、101、106、107	縄文中期
富野遺跡	-4	// 字富野138、140	縄文(早・中・後期)
坊主山遺跡	-5	// 字富野117-1	縄文(中・後期)
飯生神社裏遺跡	-9	// 字長万部371-1・2、376	縄文(中・後期)
トド山遺跡	-10	// 字富野102-2・8・16・31	縄文中期
オバルベツ遺跡	-11	// 字富野173	縄文中期
花岡遺跡	-12	// 字花岡48-1・2、62-1	近世アイヌ
東蝦夷地南部藩	-13	// 字長万部375-1・2、376-1~3、379、380	江戸安政
長万部陣屋跡			
トド山2遺跡	-16	// 字富野96-1・3	縄文中期
南部藩長万部陣屋	-17	// 字長万部418-1	縄文
脇遺跡			
富野2遺跡	-18	// 字富野123-1・5、124-1・2	縄文
共立遺跡	-19	// 字共立345-1	縄文
ナイベコシナイ1遺跡	-20	// 字共立474-1~3・6、475-1	縄文
ナイベコシナイ2遺跡	-21	// 字共立51-1・4・6、306-1	縄文(早・中期)
ナイベコシナイ3遺跡	-22	// 字共立14~18、460、508	縄文
栄原2遺跡	-23	// 字栄原64-1、65-1・2、73-1、74、78、79、85-1・4~7、86-1・3・5・6、87-3~5、95-4	縄文(早・中・後期)
栄原3遺跡	-24	// 字栄原187-3	縄文
オバルベツ2遺跡	-25	// 字富野195、199-2、200	旧石器・縄文(早・中期)
中の沢1遺跡	-26	// 字中の沢102	縄文前期
中の沢2遺跡	-27	// 字中の沢1013、14、18、19、35	縄文
中の沢3遺跡	-28	// 字中の沢105-1	縄文
中の沢4遺跡	-29	// 字中の沢105-1	縄文
富野3遺跡	-30	// 字富野129、131、132、135、136	縄文(早~後期)
富野4遺跡	-31	// 字富野146-2・3・6・7、147	縄文早期
富野5遺跡	-35	// 字富野165-23	縄文早期
花岡2遺跡	-36	// 字花岡154、224	縄文中期
オバルベツ3遺跡	-38	// 字富野179-2	縄文早期
オバルベツ4遺跡	-39	// 字富野179-11、227-9、228-1、230、238-1	旧石器・縄文(早~後期)
中の沢5遺跡	-41	// 字中の沢102	縄文中期
富野6遺跡	-42	// 字富野165-23	縄文
富野7遺跡	-43	// 字富野//	縄文
富野8遺跡	-44	// 字富野//	縄文

山地斜面の前面には、標高20～60mの丘陵斜面が発達し、瀬層の分布域と一致している。丘頂の標高は50～60mで定高性を示す。瀬層を切って礫層が水平に堆積していることがあり、元来段丘であつたと考えられる。

段丘は明瞭なものが二段発達している。段丘Ⅰは標高20～30m、段丘Ⅱは標高10～20mで、それぞれ長万部段丘、飯生神社段丘（瀬川、1974；石田、1983；久保ほか、1983）である。段丘Ⅰの段丘面は北西方へ標高を減じ、傾斜していると考えられる。また、この面は開析され、開析された部分は丘陵斜面状を呈している。地点Aではこの段丘の構成物を観察することができる。ここでは砂と礫の互層から成り、砂層部では平行ラミナやクロスラミナが発達している。礫は粒径2cm±で扁平な礫も多い。これらの特徴は海成層を示すと考えられる。この構成物を切つて断層が認められる。断層面の走向がN20°W、傾斜27°Eの正断層で、落差93cmである。段丘Ⅰの傾斜とは直接関係しないと思われる。

山地、丘陵、段丘を開析した谷の底部には谷底平野が認められる。

現海岸線と平行に砂丘が発達している。長万部温泉街がのる標高5m+の細長い高まりは、段丘上に砂丘がのっているようにも見えるが、一括して砂丘Ⅰとした。より海岸線に近い砂丘を砂丘Ⅱとした。

以上の地形の間に沖積低地が広がり、海岸沿いに海浜が発達している。

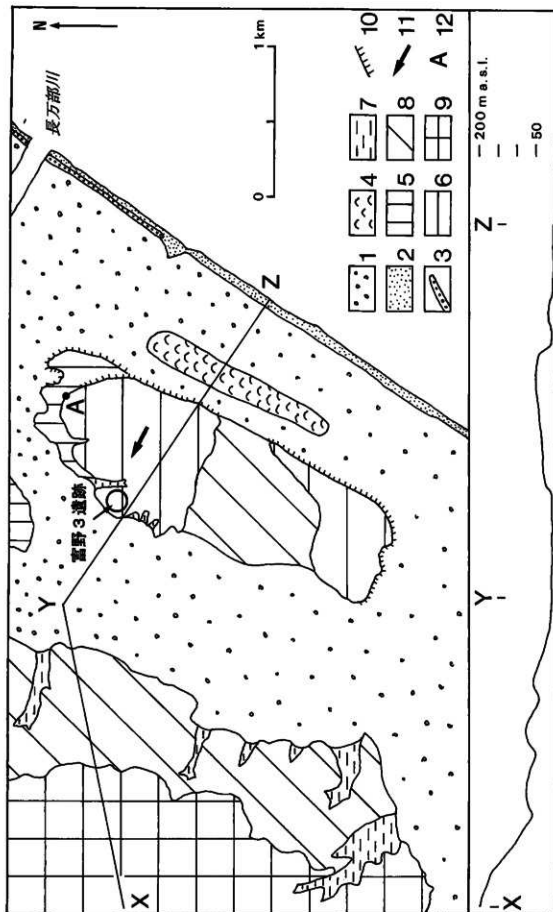
富野3遺跡が立地しているのは段丘Ⅰの段丘面上である。今回発掘した区域は、段丘面が傾斜してできたより低位の平坦面である。この平坦面は沖積低地との比高は10m+で、北東部と南西部で谷底平野によって侵蝕されている。段丘面は風成のローム層に覆われている。発掘区域のトレンチでは、このローム層は層厚約170cmで、ローム層中に砂サイズの橙色降下軽石が認められた。この軽石層は、インポリューションによってローム層中で拡散した状態を示すことが多い。テフラについてはV章-4とV章-5に述べられるが、この軽石はクツラ火山起源のKt-2に対比され、さらに、数枚のテフラがローム層中に介在することが示された。完新世のテフラとして、駒ヶ岳起源のKo-g、白頭山起源のB-Tmが認められた。

遺物の石器石材は珪質の頁岩が多い。この岩石は本遺跡以南の河床礫に含まれており、八雲層の分布域（石田、1983）を流域にもつ河川に多いと思われる。

文献

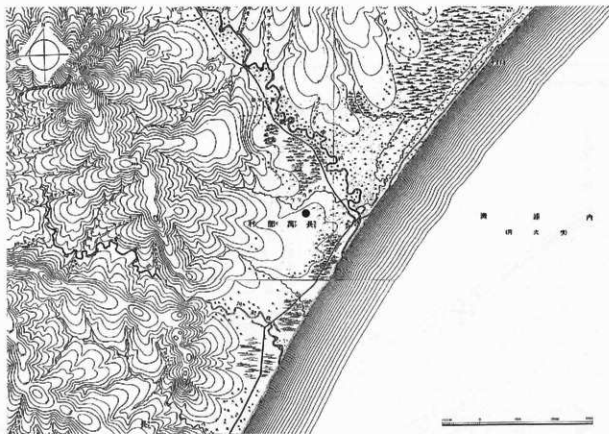
- 石田正夫（1983）：国縫地域の地質。地域地質研究報告（5万分の1図幅）、地質調査所、42p。
 久保和也・石田正夫・成田英吉（1983）：長万部地域の地質。地域地質研究報告（5万分の1図幅）、地質調査所、70p。
 瀬川秀良（1974）：日本地形誌北海道地方。朝倉書店、303p。

（花岡正光）



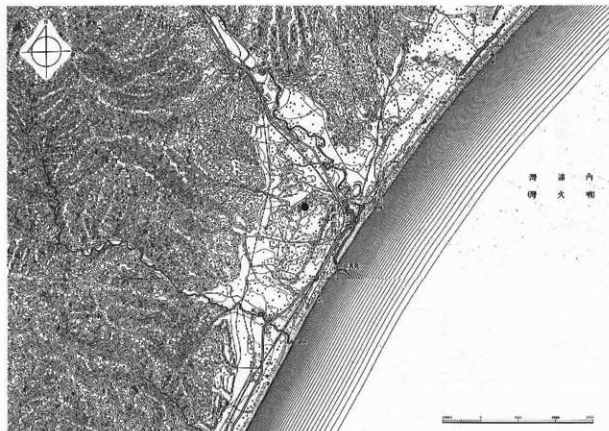
図II-2 遺跡周辺の地形分類図

- 1: 沖積低地 2: 溝浜 3: 砂丘II
 4: 砂丘I 5: 段丘II 6: 段丘I
 7: 谷底平野 8: 丘陵斜面 9: 山地斜面
 10: 急崖 11: 地形面の傾き下る方向 12: 段丘I構成物観察地点



遺跡付近の地形①

(この地図は、「大日本帝国陸軍部発行、明治29年製以北緯東経製5万分の1地形図」を複製したものである。)



遺跡付近の地形②

(この地図は、「大日本帝国陸軍部発行、大正7年12月25日印刷、既1917年発行、5万分の1地形図」を複製したものである。)

図II-3 遺跡の位置と旧地形

III 遺構

遺跡内から検出された総数202カ所の遺構の時期は、縄文時代早・中～晩期、近・現代のもので、細かい時期は下表に示した(表Ⅲ-1)。これらに見られるいくつかの大きな特徴を次に上げる。

1つは、縄文時代早期中葉の物見台式土器を伴うH-1とH-5が、道内では函館市中野A遺跡以外で見つかった初めての住居である点。2つ目は、青森県を中心に分布するI群b-1類の尖底土器を伴う早期後葉の遺構群が見つかった点である。この土器を伴う遺構は道内でも類例に乏しく、中でも土墳墓(P-1)は初めての資料である。また、一部の住居や土墳からは尖底土器に伴って東銅路系と考えられる平底の深鉢形土器が出土しており、道南の早期の土器を編年する際の貴重な資料といえる。

なお、検出された遺構群の多くは調査区の25～30のグリッドラインより南西側で検出されており、特に早期の遺構に関しては遺物の分布範囲と共にその傾向が著しい。これらは同時にV層(早期の包含層)に達する、現代の大きな削平を受けた範囲と重なっており、発掘調査と報告作業に大きな影響を与えている。これには、多くの遺構の掘り込み面が失われたことで本来の形状や土壌の堆積の十分な調査が行えなかったことや、遺構の掘り込み面と共に早期の包含層が失われたため包含層と遺構とを関連付ける調査が希薄になったことなどが上げられる。

1 住居跡

H-1 (図Ⅲ-1～7/図版Ⅲ-3・13・14/表Ⅳ-3～5)

位置: L-14-b・c, L-15-b, M-13-c・d, M-14-a～d, M-15-a～c, N-14-a・c・d, N-15-a・b・d

規模: 6.62×6.43/6.50×6.22/0.33m 長軸方向: N-52°-E

特徴 標高25～26mの緩斜面に作られた平面が不整の限丸方形を呈するI群a類の竪穴住居跡である。表土を除去したVI層中の面から覆土内に厚く堆積する駒ヶ岳-g火山灰(以下:Ko-g)の存在により確認した。重複する遺構はP-22で、これは確認面よりも上位から掘り込まれておりH-1よりも新しい。それ以外では覆土中からI群b-1類土器の時期の生活面と考えられるものも見つかっている。

遺構確認の目印となるKo-gは覆土1層の主体となるもので、断面形が最大20cm程の厚さを持つレンズ型を呈している。このBC5～6,000に降下したとされる火山噴出物は、平地や斜面の土層中には

表Ⅲ-1 遺構時期一覧

時期 遺構名	縄文時代						新縄文時代	縄文時代	近・現代	遺構種合計	備考
	早期	前期	中期	後期	晩期	不明					
穴式住居 (H-1～15)	15									15	早期/1a:2軒 --/1b-1:13軒
土墳 (P-1～127)	99	1	3	51	2				11	127	
土墳墓	(1)	(1?)								(1+1?)	早期/1b-1 中期/遺a
	フラスコ状ピット	(2)								(2)	早期/1a～1b-1
	独柱不明土墳	(56)		(3)	(51)	(3)			(11)	(133)	早期/1a:2基 --/1b-1:50基 --/1b-4:1基 晩期/Vc:51基
柱穴小ピット (SP-1～8)									8	8	
竈土 (F-1～43)	39				1					40	早期/1b-1:22a所
フレイタ・チップ置中 (FC-1～11)	11									11	早期/1b-1:5a所 --/1b-4:1a所
黒石(S-1)	1									1	早期/1b-1
合計	125	0	1	3	51	3	0	0	0	19	202

認められず遺構や窪地などで多く認められることから、降下後間もなくの二次堆積と考えられ、この層中に遺物はほとんど見られない。竪穴住居の確認面はVI層であるが掘り込み面は削平されたV層下位～VI層中と考えられる。このKo-g(覆土1層)の堆積状況から見て本来的な深さは40～50cmと推定される。

覆土2～5層は土質により大きく上位と下位に分けられ、上位(覆土2層)はV層相当の腐植土で主にI群b-1類の遺物を包含し、下位(覆土3～5層)はローム質土を主とするものでI群a類の遺物を包含する。この上下の堆積土の境界付近からは2ヵ所の焼土(HF-1・2)や集散的に置かれた複数の石錘などが見つかっており、埋没しつつある竪穴の窪みを利用した生活の痕跡と考えられる(図III-6・7)。この生活痕跡の形態は平面が不整の楕円で明瞭な床面や壁の見られないだらだらとした浅い楕円状のもので、これは周辺から検出されたI群b-1類の時期の住居跡の形態と良く似る。また、この形態は、埋没遺構の単純な利用ではなく、何らかの掘り込みが行われたものと考えられる。

この痕跡の時代は覆土2層で出土した遺物から見てI群b-1類土器の時期が濃厚で、周囲の住居群と同時期に営まれたものと考えられる。平面形の北側に寄って並ぶ2ヵ所の焼土(HF-1・2)はいずれも小規模なもので赤化の状態から見て極く短時間の焼成だったものと思われる。覆土2層で出土した遺物からは2つの焼土を境に、東側で土器、西側で剝片石器、礫石器などが出土する傾向があり、空間の使い分けが行われていた可能性がある(図III-7)。

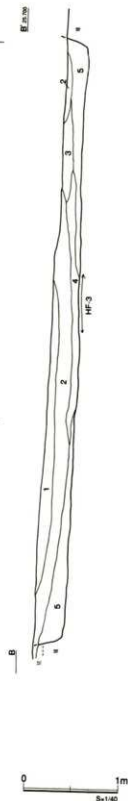
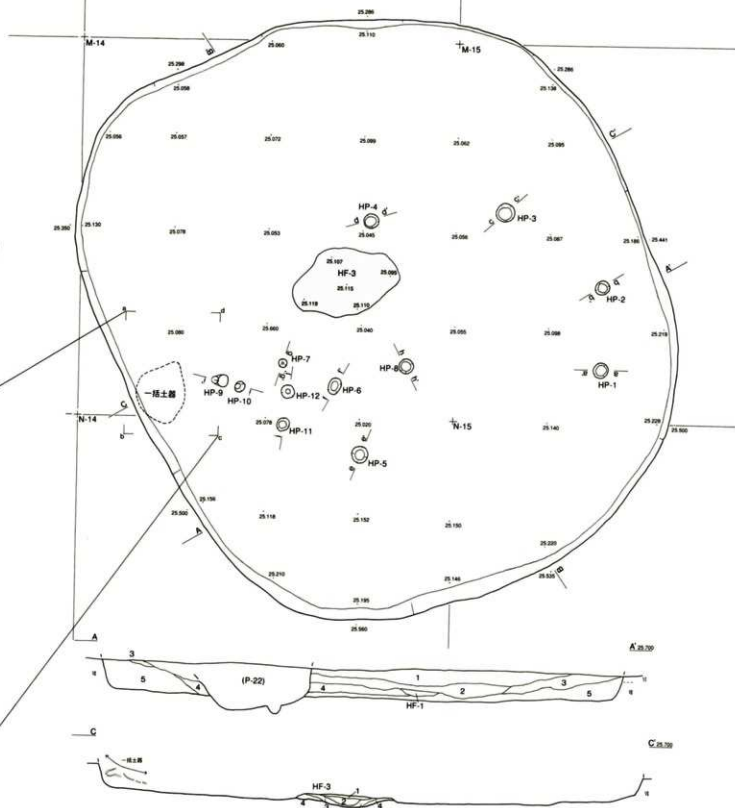
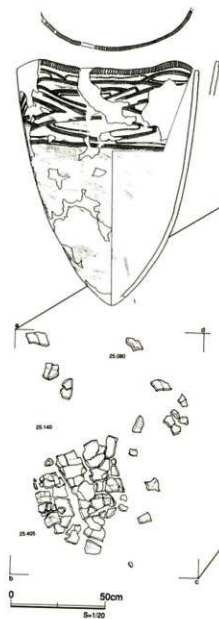
この生活面の下位に存在するローム質土層は床面直上ないし掘り込みの上に堆積するもので出土遺物も少なく腐植土の混じりは見られない。このローム質土は上層の構造物を覆っていた土に由来する可能性が高い。特に西側の壁付近では、比較的多量のローム質土の堆積が見られ、この部分の遺物分布の密度が高いことなどからみて上層構造が他の部分と異なっていたか、他遺構の掘上げ土の流入などが考えられる。

竪穴の掘り込みはVI層に通ずるもので、床面はVI層上面の緩斜面と同じ方向に緩く傾き、壁の立ち上がりはそこから急激に立ち上がる。床面は不明瞭であったが、炉跡と考えられる焼土(HF-3)や柱穴の可能性のある小ピット(HP-1～12)、遺物などが見つかった位置から考えて、竪穴の掘り込みと床面とのレベル差はほとんど無いものと考えられる。HF-3は長径が0.8m程の楕円形を呈すもので赤化の度合いも強く、長期に渡り焼成を受けたと考えられる。炉跡周辺ではキャリバー形の器形を呈するI群a類土器や頁岩製のフレイク、礫・礫片などの分布が目立つ。H-3の焼土より1cm程上位から赤化部分までの土壌を採取し、水洗浮遊選別法を実施したが、炭化種子は見つからなかった。

床面で検出された12箇所の小ピットは、規模から大きく2つのグループに分かれるがいずれも人為か自然かは判断としない。HP-1～8は僅かに入る腐植土から位置を確認し、土の硬さなど頼りに調査を進めたものである。その深度は浅く、竪穴住居の「柱穴」とするには規模が小さく、配列なども見られない。

HP-9～12は床面から更に20cm程掘り下げた位置から検出したもので、覆土に腐植化したローム質土の入る径10～15cm、深度20～66cmの断面が直線的に下方へ延びる長短各2本の計4本が、平面的に密集した位置から見つかっている。これ以外の地点では見られず、床から掘り下げた深さ約20cmを加えると床面からの深さが80cmを超えるものもあり、掘り込みの痕跡を持たないHP-9～12を柱穴もしくは人為的なものとする場合「打込み」によるものと考えざるをえない。反面、自然によるものなら可能性が高いのは木根であるが、「枝分かれ」の痕跡が見られないこと、H-1の床を含めた他地点(例えば、旧石器調査を行ったトレンチなど)と同じ深さで類似の痕跡が一切見られないことなどには疑問が残る。これ以外では、壁中、壁際床面、壁外などにも関しても、入念な調査を行ったが、

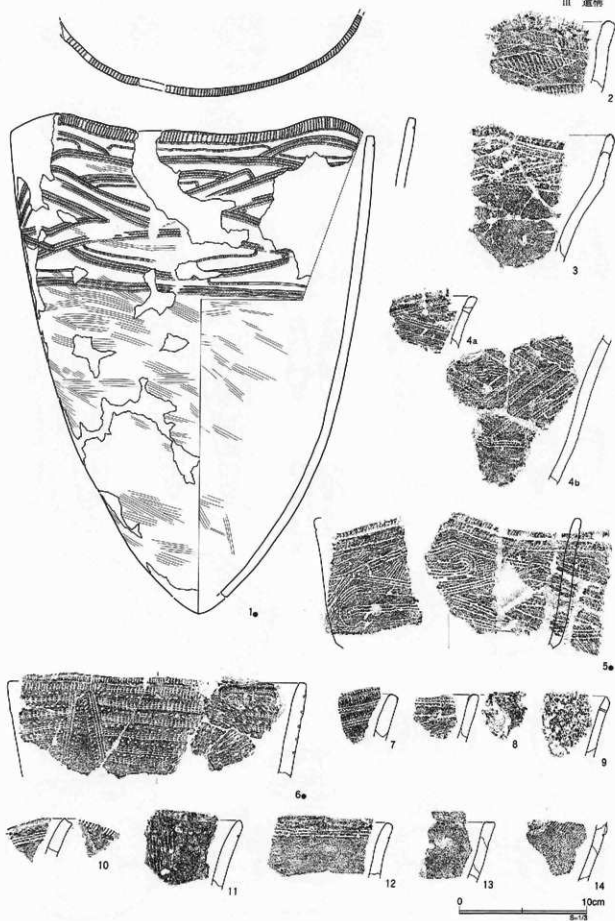
H-1



- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| HP-1
a 底 25.300 | HP-2
b 底 25.300 |
| HP-3
c 底 25.300 | HP-4
d 底 25.300 |
| HP-5
e 底 25.300 | HP-6
f 底 25.300 |
| HP-7
g 底 25.300 | HP-8
h 底 25.300 |
| HP-9-12
2 底 25.300 | HP-9-12
1 底 25.300 |
| HP-10
1 底 25.300 | HP-11
2 底 25.300 |
| HP-12
1 底 25.300 | HP-12
2 底 25.300 |
- HP-9-12
2 底 25.300 (HP-9, HP-10, HP-11, HP-12) 埋葬主体の土壌にV、焼骨が埋蔵される。焼骨は不明瞭である。
- HP-1-8
1 堀 (HP-1, HP-2, HP-3, HP-4, HP-5, HP-6, HP-7, HP-8) 埋葬と焼骨が混じったものにV層焼土が埋蔵される。しまりは少なく、焼骨はある。

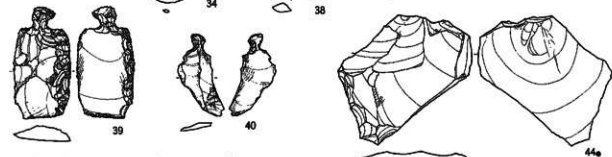
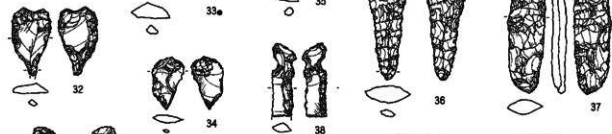
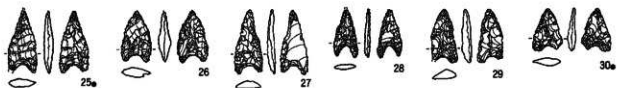
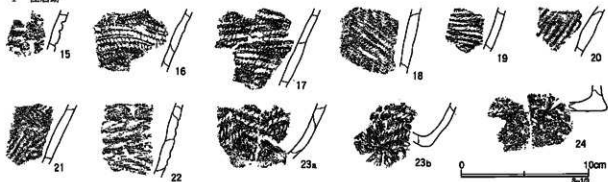
- H-1土層説明
- 1 埋骨層 (Hae2 SYR48) Kogaki主体とする埋葬遺物
 - 2 堀 (Hae1 SYR37) V層焼土主体とする土壌。しまりは少なく、焼骨が中程度いる。
 - 3 高層 (Hae1 SYR31) V層焼土主体の土壌にV、焼骨が埋蔵される。しまりが中程度、焼骨も感じられる。地層構造の取り上げが可能な層。
 - 4 高層 (Hae1 SYR32) V層焼土主体。焼骨が混じる。しまり、焼骨ともにあり
 - 5 低い高層 (Hae1 SYR46) 中程度からロー層焼土 (V層) である。遺物を多数含む。生活面の存在が予想される。
- HP-1
1 高層 (Hae2 SYR46) 焼土
- HP-3
1 堀 (Hae1 SYR37) V層焼土主体の土壌に焼土が埋蔵される。しまりはない
- 2 高層 (Hae1 SYR48) 焼土主体の土壌にV層が少量混じる。
- 3 高層 (Hae1 SYR46) 焼土主体の土壌にV層が中程度に混じる。
- 4 埋骨層 (Hae1 SYR32) 埋葬主体の土壌に焼土が少量混じる。

図III-1 H-1
-17-

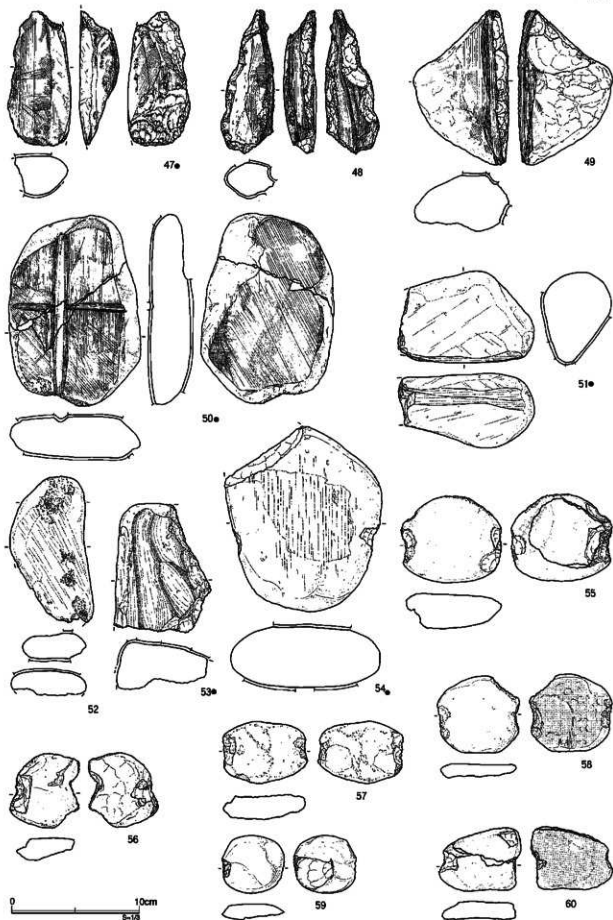


図III-2 H-1の遺物(1)

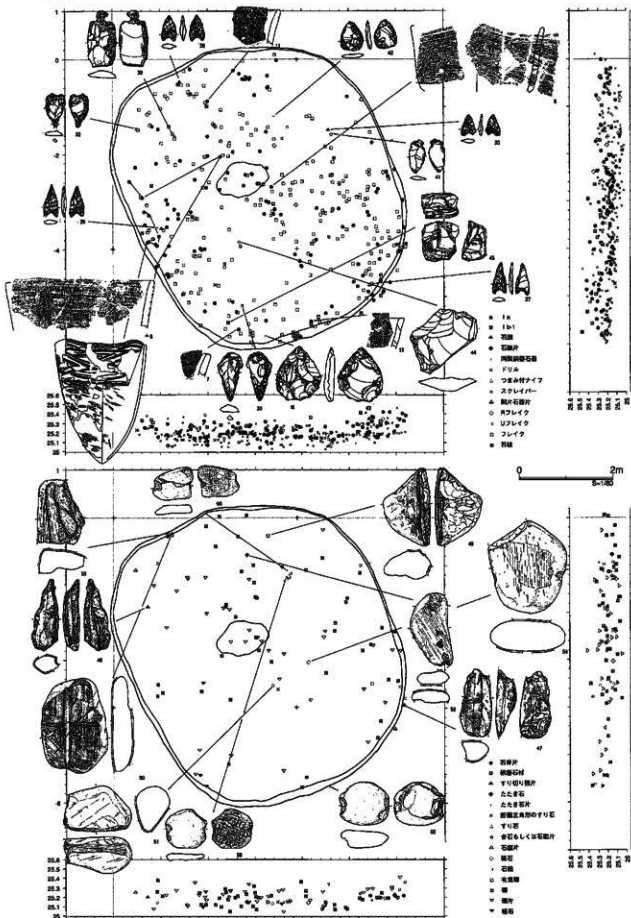
1 住居跡



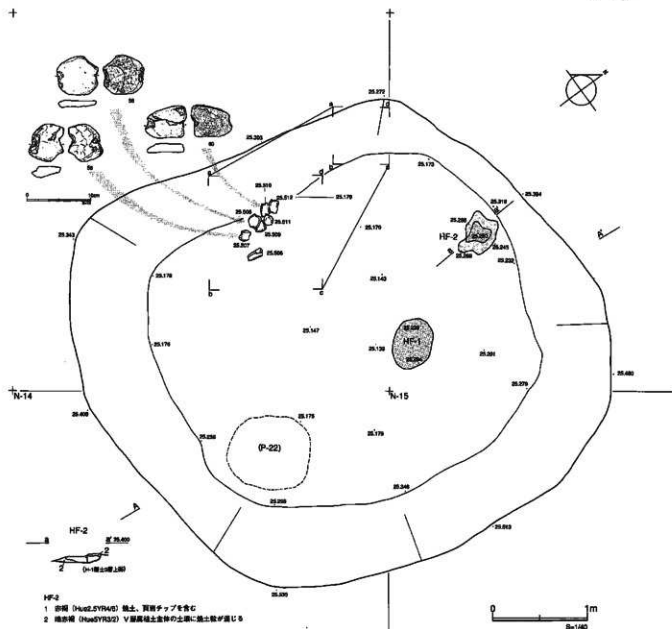
図III-3 H-1の遺物(2)



図III-4 H-1の遺物(3)



図III-5 H-1の遺物分布



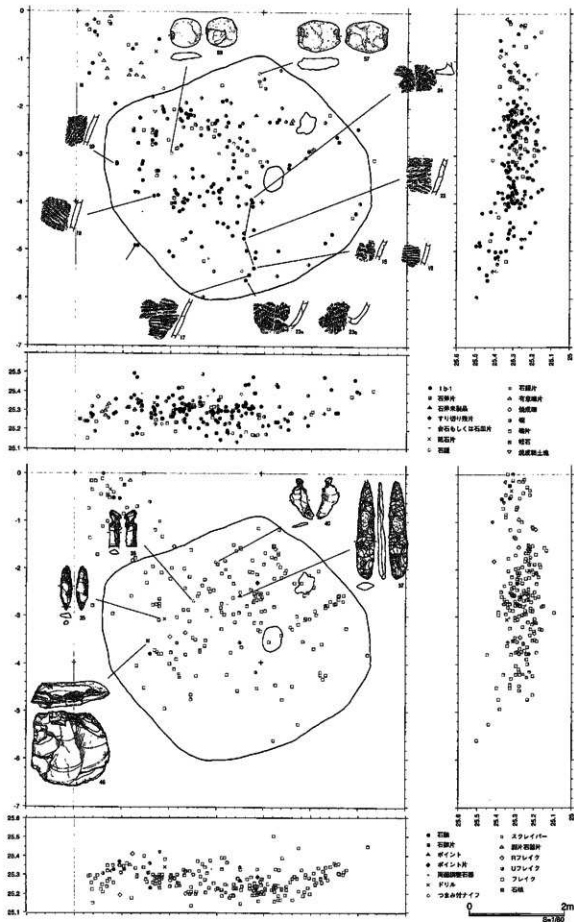
図III-6 H-1覆土内の生活痕跡

柱穴に相当するものは検出されていない。これは同時期のH-5も傾向を同じくしていることから、柱穴に関しては今後の課題となる。

遺物の出土状況には大きく2つの特徴が見られる。1つは土器に関してで、床面からはI群a類でキャリパー形のもの(5)や文様帯の広いもの(6)が出土する傾向があり、その少し上の覆土からは文様帯が狭く幾何学的な貝殻縁文の施される砲弾型の器形のもの(1)が出土する。これはグループの時間差として捉えられる。もう1つは剣片や石屑の出土状況で、壁際の床に集中する部分がある。床に設置した構造物や敷物と床のすき間に落ちて溜まったかの印象を与えるような出土状況を呈しており、床面の出土状況とともに居住空間の構造などを示す可能性がある。

なお、H-1の調査で得られた試料に対して炭化種子の同定・分析と放射性炭素年代の測定を行った。炭化種子はHF-3と床の南側部、それと覆土中の生活面に伴うHF-1・2から採取した土壌を水洗浮遊選別法にかけた結果、床からタラノキ属、HF-1からタデ属の種子各1点が見つかった(第V

1 住居跡



図III-7 H-1覆土内の生活痕跡の遺物分布

章2節)。放射性炭素年代はHF-3に近接した位置と南側床面から出土した炭化材片と考えられる計3点の試料(Beta-126223~126225)に対してAMSによる測定を依頼した。その結果、各試料の測定値が暦年代BC7,010y~BC7,065yの範囲に収まる安定したデータが得られている(第V章3節)。また、試料Beta-126223~126225はタラノキ属の炭化種子が検出された床と同じ地点で採取しており、この炭化種子の採取位置と年代を示す好試料と云える。

遺物 土器はI群a類、I群b-1類などが出土している。各覆土内での出土傾向は2~3層上位でI群b-1類が多くそれ以下から床面ではI群a類が多数を占める。

1~14はI群a類の尖底深鉢形土器で、1~13が口縁部、14が胴部片である。器形は2、3、5がキャリバー形、1は口縁部が外側にやや開く砲弾形でそれ以外のものも同様の器形を呈すると考えられる。口縁部は、低い突起部を有するもの(2~5、7、8)、緩やかな波状を呈するもの(1、10)、平縁のもの(6、9、11~13)などがある。口唇部の断面形は角形のものや丸味を帯びたものなどがある。主体となる文様は貝殻文を基調とした腹縁文や条痕文で、そのほかには沈線文、刺突文などが施される。また、一部の器面や口縁内面には連続して施される爪形の文様が見られるもの(6)や、口縁に沿って表面から穿たれる貫通孔の列を持つものもある(4、9)。

出土地点は5、6が床面、1が床面に近い覆土5層中からで、これらは本住居跡に伴うと考えられる土器である。これらに共通する特徴は、やや先細りの口唇断面形を持ちその口唇平坦部に連続した貝殻腹縁文が施されること、そして沈線上に連続して施すなど刺突文の多用が上げられる。これらから本遺構の時期は所謂「物見台式」土器の時期で、その中でも刺突文の多用や幾何学的な文様構成などから比較的新しい段階の可能性はある。

1は床面に近い覆土5層中から出土した復元個体である。器形は砲弾形で、円錐形の底部に突起の痕跡は窺えない。器面と内面には調整痕と考えられる細い貝殻条痕文が全面に見られる。角形の口唇断面平坦部とそこに接する器面には連続する貝殻腹縁文が施され、口唇上のそれは他と比較してよく摩滅している。口縁部に描かれた幅広の文様帯は、連続した刺突文を伴う沈線文と菱形を意匠とする幾何学的な文様とが描かれている。その幾何学模様は頂点や鋭角部分などには特徴とされる刺突文が見られ、これは沈線上に多数施されたものよりは径が大きく趣が異なる。胎土中には角の取れた小径のチャートや流紋岩に似た小礫岩片、長石などが顕著に認められ、これらは混和材として用いられた可能性がある。2、3は幅の狭い文様帯を持つキャリバー器形の波状口縁部で、いずれも覆土の上位から出土し風化が著しい。2の口縁内面の刻みと沈線で区画された菱形内には貝殻腹縁文を用いて充填している。3の口唇平坦部には貝殻の腹縁を押し引いた文様が施されている。4は外に向かって開く口縁に沿って貫通孔が施されるもので、角形の口唇断面の内面側角には腹縁文が施されている。広い文様帯は3条の貝殻腹縁文を菱形の意匠で幾重にも描いたもので、沈線で区画された最も内側の菱形内は条痕文で充填される。5は貝殻条痕文で充填される3条の腹縁文の菱形区画内を刺突列をともなう沈線で「わらび」¹⁾状に再区画している。4つの緩やかな波状口縁の頂部には小振りの突起が備わる口縁部は、やや先細りで角形の口唇断面形を持ち、その口唇の器面と上部平坦面には連続した貝殻腹縁文(押し引き?)が施されている。6の文様帯には腹縁文の縦位の区画を横位の腹縁の押し引文と刺突文とで交互に充填する文様構成が見られる。7~12は3条一組の腹縁文が施されるもので、8~12は刺突文を伴う。13は角形の断面を持つ口縁部で、口唇の平坦部にだけ押し引文が施されている。14は

注)「わらび」：文様の構成がシダ植物「わらび」の新芽とそれにつながる葉の部分の形状に似ていることからこの名を用いた。中野A遺跡(国史館海防歴史学センター1992、1993)の報告で使われた「ワラビ平」に拠る。

「わらび手」状の区画の一部が見られる胴部片である。区画内は粘土の貼り付けが行われたかのごとく盛り上がっており、器面には引摺り背庄痕文が一面に施されている。

15~24はI群b-I類土器で、15~22が胴部片、23、24が底部片である。全て断片的な資料であるが、器形は深鉢と推定され、その底部は尖底(23)と平底(24)が見られる。特徴となる文様は縄線文(15、22)で、地文は斜行縄文(18、20、21、23)、綾杉状縄文(16、19、22)などを斜行させたり羽状に施したりしている。使われている施文原体は16、17、23が二段単節、18、20、21が0段多条で、19はその両方と考えられる。23は器壁の薄い砲弾形の尖底で、比熱により赤化が著しい。24は下端の張り出す底部で、底面の施文は見られない。

25~31は頁岩製の石鏃。形状はいずれも左右がやや非対称で基部は内湾する。二次加工は粗いものが多い。25、29は基部の片側が欠失する。25~30は側縁が外湾するもの。27~30は縦長剝片を素材とする。27の裏面は左側縁と基部にのみ二次加工を施し、側縁の一部に自然面を残す。28は表面左側縁の先端部付近に再加工が施されている。30は床面出土のもの。31は厚みがあり側縁は直線的である。32~34、36は石錐。32~34は明瞭なつまみ部を有し、両側縁の二次加工により尖頭部を作り出している。また、基部にも加工が施される。33は床面出土のもの。34は小形で薄い縦長剝片を素材とする。36は丁寧な加工が両面に施される。35は棒状のもの。37は石槍。2点接合しており、先端をわずかに欠く。両面の中央付近に焼けによる弾けが認められる。38~41はつまみ付ナイフ。いずれも縦形である。38、39は両面の右側縁に刃部が作り出されている。38は両側縁とも刃部再生が行われ、その結果幅が細くなっている。39は下端部にも細かい加工が施される。40、41は素材の形状を生かし、つまみ部の作り出し以外はほとんど二次加工が施されない。42、43は両面調整石器。どちらもほぼ左右対称である。42は小形で薄身のもの。43は先端がやや尖っているため石槍の可能性がある。44はスクレイパー。表面の左側縁に直線的な急角度の刃部を作り出している。45、46は石核。45は床面出土のもの。3面を作業面として打面転移を頻繁に行いフレイクを取っている。46は作業面を固定し上面と左面の2面を打面として、フレイクを取っている。裏面は自然面を残す。

47、48は石斧。49~59は礫石器。47は石斧で、未製品が破損したものの。側面の研ぎ出しが行われていない。床面出土。48も47と同様で、擦り切り痕が残る。刃部方向の擦り切り痕には炭化物の付着がみられる。49は比較的大型の擦り切り残片。石の節理に沿ってひびが数ヶ所走っている。この残片にも、擦り切り痕には炭化物状のものが付着している。50は石斧の研磨素材礫。研磨による整形後に、節理に沿い破損している。縦に走る深い擦り切りの溝と、横方向に走る細い擦り切りの溝がある。裏面の下部は、刃部を意識して角度を若干付け、研磨している。一部叩いた跡があり、たたき石へ転用された可能性がある。51はすり石。断面三角形で安山岩製である。破損している。52はたたき石。流紋岩で擦り面を持つ。53、54は砥石。流紋岩製。53は幅の細い研ぎ溝が見られる。55~60は石鏃。55、56、58、60は覆土中の生活面(Ib-1期)からまとまって出土した石鏃。55は覆土から出土した石鏃片と接合したもの。56は流紋岩製で、挟入部の作り出しが粗雑である。この他に同じく出土している2個の石鏃は破損、風化が著しいため図化していない。

時期 床面の遺物から縄文時代早期中葉I群a類土器の時期である。

(皆川洋一)

H-2 (図III-8・9/図版III-4・15/表IV-3~5)

位置：M-17-b・c、M-18-b、N-17-a~d、N-18-a・b、O-17-a・d、O-18-a

規模：5.81×5.30/5.16×5.12/0.24m 長軸方向：N-33°-W

特徴 標高25~26mの緩斜面に作られた平面が不整の隈丸方形もしくは円形を呈する竪穴住居跡である。表土を除去したⅦ層中の面でKo-gと暗褐色土の落ち込みを確認した。住居の掘り込み面はⅤ層下位~Ⅶ層中と考えられるが、覆土の堆積状況から見て遺構の上位は大きく削られており、元来のものとの深度差は20cmを越えると推定される。

覆土は上から6層に分けられ、遺構確認の鍵となったのは最上位の覆土1層に混入するKo-gによる。覆土2~6層はローム質土が主で、床面直上もしくは堀込の上から形成されており自然流入などの腐植土が占める割合は極めて少なく、自然の流入と考えるには不自然である。そのため、このローム質土は住居の上層構造を覆っていたものの可能性がある。覆土の遺物出土状況は、竪穴平面の北東側でのフレイク・チップの集中場所(FC-1・2)が2ヵ所覆土3・4層から見つかっており、これらは東方向から埋没中の竪穴へ「廃棄」されたものと考えられる。FC-1は黒曜石の小剥片からなる比較的小規模なもので、範囲が小さく点数も少ないことから1つの作業の単位を示すと考えられる。FC-2は頁岩の剥片が主で、FC-1よりも範囲は大きく点数も多い。異なる石質のものが入り混じりレベル差も見られることから数次の作業の結果と考えられる。その周囲には1群b-1類土器の細片や石斧、たたき石の可能性がある長楕円礫、台石片なども出土しており、これらもFC-2と共に廃棄された可能性が高い。

竪穴の掘り込みはⅦ層に達するものでⅦ層上面の斜面と同じ方向に緩く傾き、壁の立ち上がりは最初緩やかで途中から急激に立ち上がる。床面は不明瞭であったが、柱穴の可能性のある小ピット(HP-1~12)の検出状況や遺物の出土状況から考えて、掘り込みの深さとほとんど差がないと考えられる。床面には炉跡と考えられるものがなく、柱穴を含むと考えられる小ピット20ヵ所だけが検出されている。全て僅かに入る腐植土から位置を確認し土の硬さなどを頼りに調査を進めたためで未検出のものもある可能性を否定できない。しかし、柱穴の調査のため掘り込みの面から更に20cm程掘り下げたが追加となるものは検出されていない。HP-1~20は出土位置と形態から大きく3つのグループに分けられる。第1グループは壁際に位置するもの(HP-1・2・5・13・22)、第2グループは第1グループ以外で径が大きく深度の浅いもの(HP-6・11・20)、第3グループは第1・2グループ以外の小径のもの(HP-3・4・7~12・14~21・23)である。このグループに明瞭な配列は認められないが、一部に近接し対になる配置のもの(HP-7・8やHP-17・18)がある。

第1・3グループのものは、規模や形態に類似点が多く、これらは竪穴住居に伴う柱穴と考えられる。各、第1グループが壁際を巡るものの一部で、第3グループが支柱的な役割のものと考えられる。第2グループは生活の過程で生じたものかもしれない。

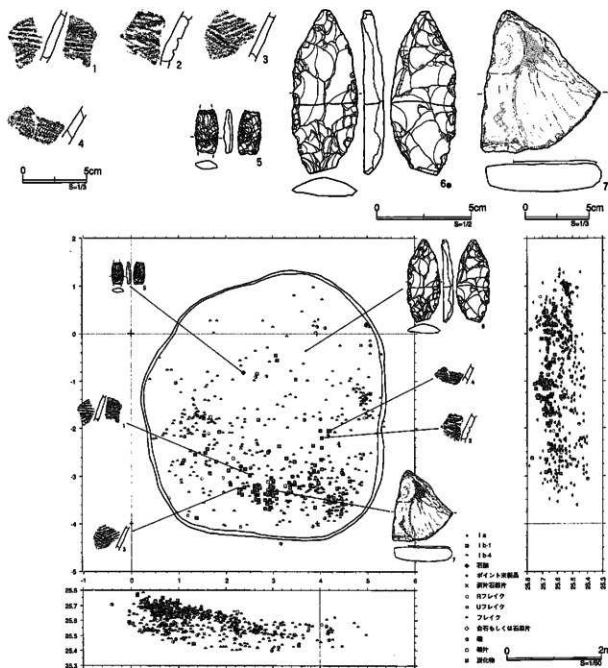
床面の遺物出土状況は、床に達したFC-2の一部を除けば散点的と云える。遺構の時期を決定する資料に乏しく、小さなフレイクの他に礫、炭化材などが出土しているに過ぎない。なお、この炭化材のうち3点(Beta-126226~126228)に対してAMSによる測定を依頼した。その結果、各試料の測定値が暦年代BC 5,705y~BC 5,935yのデータが得られた(第V章3節)。これらは、近くに位置するH-7(Beta-126229~126230)やH-7と同じ型式の土器を伴うP-1(Beta-126222)の値と近いことから、同じ縄文時代早期後葉の可能性が高いと云える。

遺物 土器はI群a類、I群b-1類、I群b-4類などが出土している。ほとんどが覆土のもので、床からのものはI群b-1類の小破片1点である。多数を占めるI群b-1類土器は小破片のものが多く

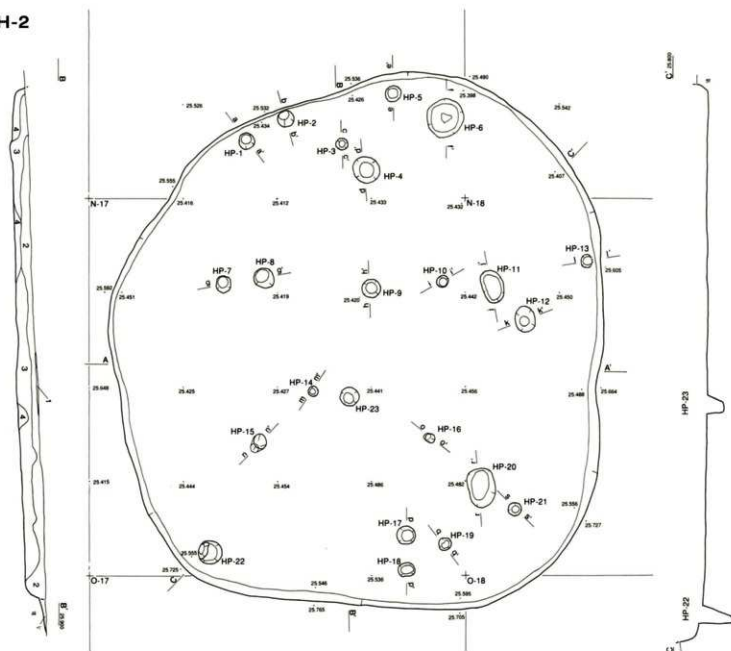
摩滅も著しいが、これらの多くの内面には貝殻条痕文が施されている。文様の大半は斜行縄文と綾杉状縄文で占められ、一部に縄線文の施こされたものもある。

1~4は器形不明のI群b-1類土器の胴部片である。1・2の器面には綾杉状縄文が施されている。1は原体の磨りの乱れから磨り糸文状に施文されており、内面には貝殻によると思われる条痕が見られる。2の器面には地紋の上に0段多条の縄による数条の縄線文が施されている。3・4は0段多条の原体による羽状縄文が施されたものである。

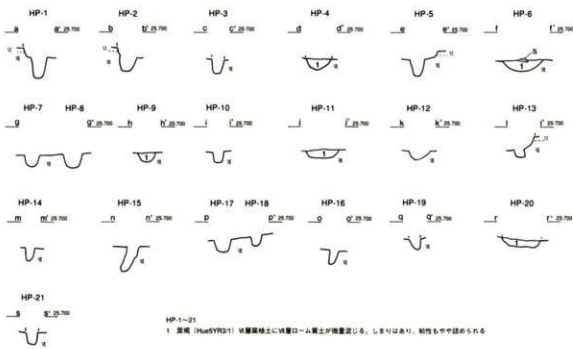
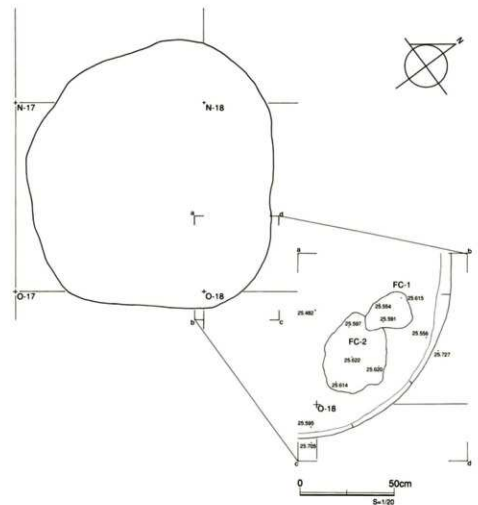
5は石鏃。黒曜石製で肉眼観察では豊泉産と考えられる。先端部と基部を欠失する。薄手で側縁はやや外湾する。側面観はよじれている。6は石槍。基部は床面出土のもので、M-17-Cグリッド出土の



図III-8 H-2の遺物と分布



- H-2土層説明
- 1 腐植 (Hus10YR2/3) V層腐植土とKogが等分した土層
 - 2 腐植 (Hus10YR2/1) V層腐植土を主体とする土層 しまりが中あり、粘性は少ない
 - 3 石灰土 (Hus10YR4/2) 中・弱凝縮状の土層 しまり、粘性ともにあり
 - 4 腐植 (Hus10YR5/5) V層腐植土のローム層土
 - 5 腐植 (Hus10YR4/2) ローム層土 (V・腐植) と腐植土 (V層) が混じる土層 しまりあり、粘性に乏しい
 - 6 腐植 (Hus10YR5/5) V層腐植土のローム層土



図III-9 H-2

先端部と接合した。先端部に自然面をわずかに残す。全体的に二次加工は雑である。

7は台石もしくは石皿片。凝灰岩製である。

時期 覆土中の主要土器と床面出土の炭化材の炭素年代測定値から縄文時代早期後葉 I 群 b-1 類の時期と考えられる。(皆川洋一)

H-3 (図Ⅲ-10・11/図版Ⅲ-4・15/表Ⅳ-3~5)

位置: I-15-a・b・c、J-15-a・d 規模: 4.01×3.25/3.45×2.66/0.29m

長軸方向: N-24°-W

特徴 調査区南西端の平坦面に位置する。H-9、P-27と重複し、H-9より新しく P-27より古い。Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。落ち込みは北西-南東方向に長い不整な楕円形で、西と南西の方向に大きな張り出しがある。中心よりやや北西よりの位置に楕円形を呈する火山灰の堆積を伴う。落ち込みが不整形であったことから、遺構の切り合いが予想された。そこで、火山灰の堆積の長軸に合わせてトレンチを設定し、中心を通り直行するトレンチを追加してⅦ層まで掘りさげた。その結果、焼土と壁・床を確認したため住居跡として調査した。平面形は確認できた部分では隅丸方形で、ほぼ火山灰の堆積に対応する。壁の立ち上がりは緩く、H-9との境界は不明瞭である。床面は中央部に向かって緩く傾斜している。でこぼこしており、やや硬い。土層は3層に区分できる。上位から1層がKo-gを多量に含むⅣ層で、2層が層起源の黒褐色土、3層がⅤ層起源の灰褐色土である。3層と地山であるⅦ層との境界は漸移的である。床面で焼土を2ヵ所検出した。住居跡の長軸からやや南西にずれた平行線上にあり、壁際から約1m程離れている。柱穴は確認できなかった。H-3の外側に位置するH-9とは、出土した土器に時期差がないことから同一の住居跡の可能性もある。

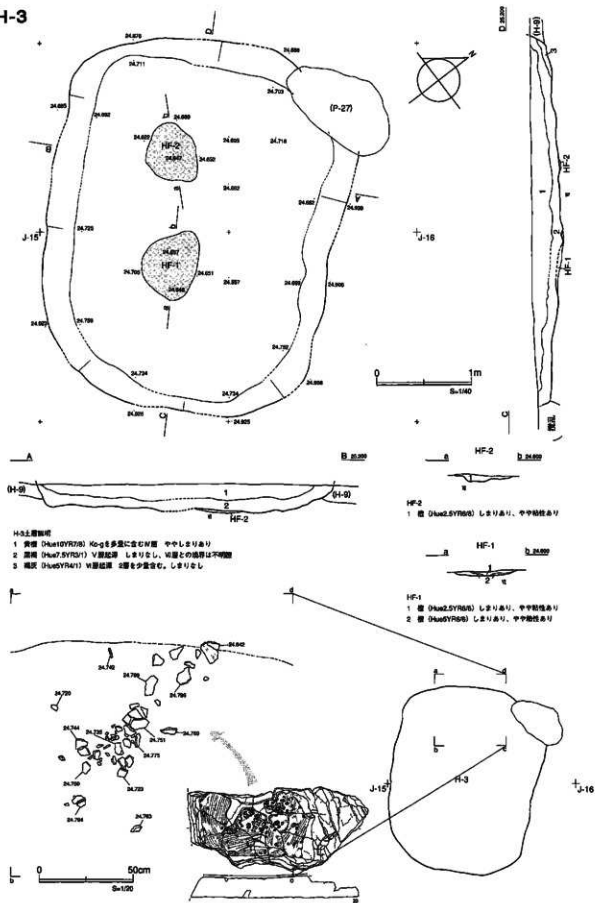
遺物 覆土2層から多くの遺物が出土した。内訳は土器ではI群b-1類土器が最も多く出土している。他I群a類土器、I群b-4類土器も少量出土している。石器類は砥石が多量の破片として出土した(図Ⅲ-10)。また、石錘等礫石器の割合が多い。

床面から出土した遺物は少ないが、I群a類土器、I群b-1類土器が出土している。石器等はフレイクが最も多い。

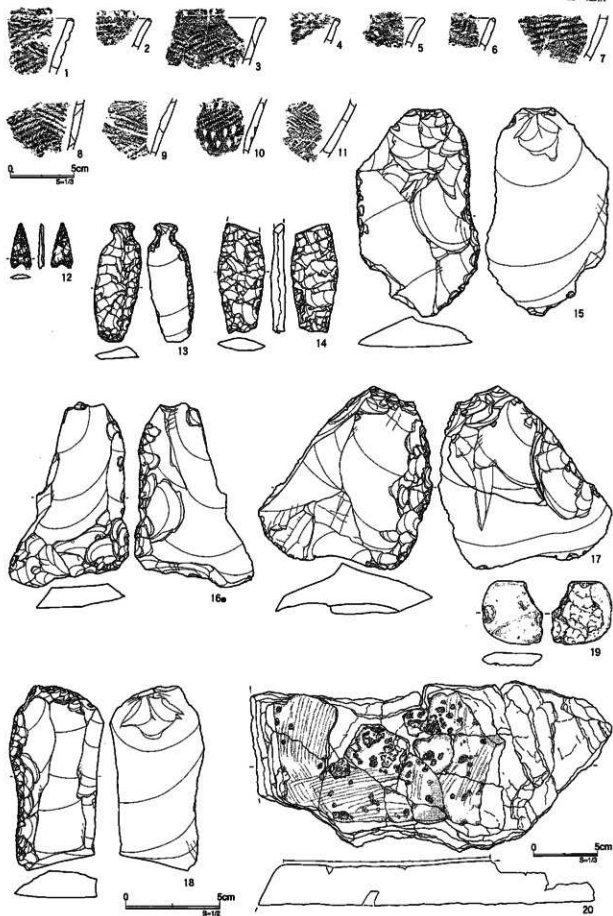
1~10は器壁の薄いI群b-1類土器である。1~6は口唇断面が丸味を帯びる口縁部、7~10が胴部である。1~4・6の口唇部には刻みが施され、その施文具は1が器面の施文に用いた原体で6もその可能性はある。2・3は植物の茎を裂いたようなもの、4は棒状のものを各使用している。刻みの方向は幅の狭い口唇に対して1・6が斜め、2・3が並行する右横から、4が直行する縦である。施される文様は、0段多条の縄線文(1・4・6)、綾杉状縄文(1・2・5・8・9)、二段単節の斜行縄文(3・10)、0段多条の斜行縄文(6・7)、刺突文(10)がある。1は縄線文を交差させた口縁文様帯の一部である。4・6は縄線文で区画した一部分を無文にしている。10の刺突は茎状の施文具で斜め下方向から施している。7の内面の一部には貝殻条痕様のものが見られる。11はI群b-4類土器も胴部である。器面には自縄自巻の原体で撚り糸文風の羽状縄文が施される。

12は石鏃。頁岩製で裏面に一部自然面を残す。基部は内湾し、直線的な側縁を有し基部付近で屈曲する。薄手で丁寧な二次加工が施される。13はつまみ付きナイフ。めのう質頁岩製で表面と裏面の右側縁に二次加工が施される。表面右側縁に急角度の刃部が作り出される。14は両面調整石器。両面共に丁寧な二次加工が施されている。上部を欠いており、石槍の可能性もある。15~18はスクレイパー。縦長剥片の両側縁に細かい二次加工により刃部を作り出している。16は床面出土のもの。裏面の左側縁に粗い二次加工により刃部を作り出す。17は石核素材のスクレイパー。表面右側縁に刃部を作り出す。一緒に出土したフレイク1点と接合しており、残核をスクレイパーに転用している。裏面を作業

H-3



図III-10 H-3



図III-11 H-3の遺物

面とし、左側面を打面としている。18は縦長剥片を素材とし、表面右側縁に刃部を作り出す。19、20は礫石器。19は石錘。安山岩と思われる扁平礫に挟入部がある。欠損する。20は台石もしくは石皿。凝灰岩製。深い敲打痕が幅の広い擦り面で観察される。部分的に赤褐色化しているところは破損後に焼成を受けたと考えられる。

時期 出土した土器や覆土の状態から、縄文時代早期I群b-1類の時期のものである可能性が高い。

(立田 理)

H-4 (図Ⅲ-12・13/図版Ⅲ-16/表Ⅳ-3~5)

位置: M-9-a~d, M-10-a~d, M-11-a~b, N-9-a~d, N-10-a~d, N-11-a, O-9-a~d

規模: 9.57×7.11/9.30×7.06/0.15m 長軸方向: N-9'-W

特徴 標高25~26mの緩斜面に作られた平面が不整の楕円形を呈する堅穴住居跡である。P-73と重複し、F-39・40が南西側に近接して位置する。

表土を除去したVI層中の面からKo-gと暗褐色土の範囲を確認し調査を実施した。確認面から床面とした所まで10cm前後しかなく、覆土のKo-gと腐植土の入り方から考えて掘り込み面は既に削平されたV層中と考えられる。覆土は腐植土とローム質土が入り混じったもので、遺構確認のきっかけとなったKo-gはP-73のものであった。覆土の遺物は中心部に向かって流れ込んだかの様相で出土している。

比較的平坦な床面からは、炉跡と考えられる2ヵ所の焼土(HF-1・2)が見ついている。床面はHF-1・2のレベルと遺物の出土状況から導き出したもので、壁の立ち上がりや柱穴と共に不明瞭な部分が多く、あるいは、壁の立ち上がりなどH-6で見られる浅い槽鉢のような形を呈していた可能性も考慮する必要があるかもしれない。HF-1・2は形態や規模に大きな違いがあるものの、どちらもほぼ同じレベルに位置している。また、赤化の度合いも弱く比較的短い時間で出来上がったであろうと思われる点も同じである。床面の遺物はこれらの炉跡周辺に集まる傾向がみられる。

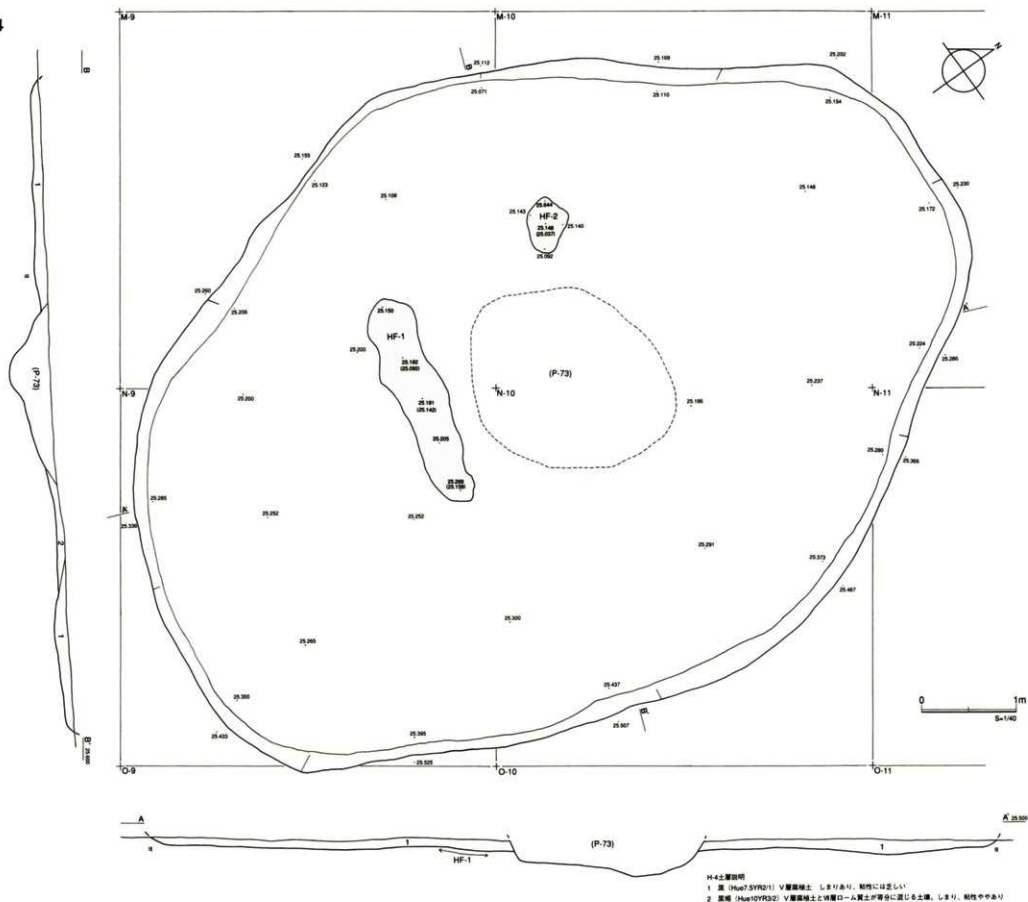
近接するF-39・40との関連は、F-39がH-4の覆土の上に乗っていることからF-39が新しく、それと並列するF-40も同様と考えられる。ただしF-39・40の位置する層位から考えて、H-4のI群b-1類の時期とは大きく外れないと考えられる。

遺物 土器は床面、覆土などからI群a類、I群b-1類が出土しているが、前者は細かい破片が多く後者はややまとまった状態で覆土から床面まで出土している。本住居に伴うのはI群b-1類土器の可能性が高く、図示しなかったがI群b-1類土器には尖底の小破片が伴っている。

1~3はI群a類、4~6はI群b-1類土器である。1は波状口縁の頂部で器面には3条の貝殻腹縁文が施されている。腹縁文の一部は鋭い切っ先の施文具で文様が重ねられている。2も3条の貝殻腹縁文が施された胴部で、それに沈線文と刺突文が加わる。3は平縁の口縁部で器面には幅の細い条痕が認められる。4は内面に貝殻条痕が見られる深鉢形土器の口縁部である。口唇断面は膨らみのある円形で、口唇には茎の様な施文具で右横から斜めに刺突文が施されている。器面は剥落が著しいものの、一部に羽状縄文が見られる。5は肥厚帯の上に0段多条の縄線文が施される口縁付近の胴部である。器面には縄線文と同じ原体で繊維の痕跡が明瞭に残る特徴的な斜行縄文が施され、内面には細い条痕が認められる。以上のことから5はI群b-1類の中でも「仮称西桔梗式」(岡島 1975)に相当する可能性がある(第四章1節)。6は細い紐紐で横位の木目状の回転圧痕文が施された胴部片である。

7、8は頁岩製の石錘で、基部は内湾する。7は先端及び基部の両側を欠失する。側縁は直線状を呈し、丁寧な二次加工により薄身に仕上げられている。8は小形でやや幅が広く、基部の片側を欠失する。側縁はわずかに外湾し、裏面に素材面を残す。9は石錘。つまみ部を有し、2ヵ所に尖頭部を

H-4



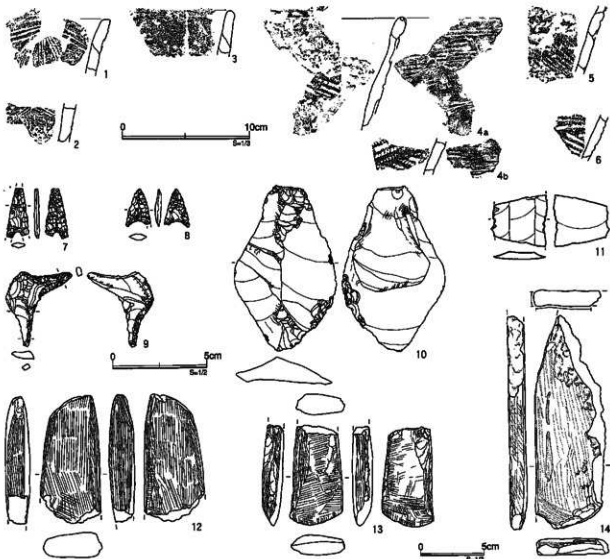
図III-12 H-4

作り出している。10はスクレイパー。縦長剥片を素材とし、表面右側縁下部に刃部を作り出している。刃部はゆるく外湾し、刃縁を整えるため裏面左側縁にも部分的に二次加工を施している。11は黒曜石製の石刃。上下面が折れ面となっており、表面にはほぼ平行する稜線が2本あり、両側縁には使用痕と考えられる微細な剝離が認められる。

12、13は石斧で、擦り切り痕が残る。蛇紋岩製。13は擦り切り痕、折取り痕を研磨されている。14は台石もしくは石皿片。凝灰岩製。一部細い擦り溝を持つ。

時期 遺構の形態と遺物の出土状況から縄文時代早期後葉 I 群 b-1 類の時期と考えられる。

(皆川洋一)



図III-13 H-4の遺物

H-5 (図III-14~19/図版III-5・16~18/表IV-3~5)

位置：I-17、I-18-a・b、J-17-a・b、J-18-a 規模：5.90×5.48/5.60×5.24/0.48m

長軸方向：N-74°-W

特徴 調査区南西部の平坦面に位置する。P-49と重複するが本遺構が古い。VI層上面で黒褐色土の円形を呈する落ち込みを確認した。落ち込みの中心には火山灰が円形に堆積している。中心を通るようにトレンチを設定してVII層まで掘り下げたところ、壁、床を確認し、住居跡であることがわかった。平面形は北側を風倒木の攪乱に切られるが、隅丸方形とみられる。壁の立ち上がりは急である。床面の中央部には南西-北東方向に長い不整形のくぼみがあり、その他は平坦である。覆土は大きく4つに分けられる。上位から1層はKo-gを多量に含むIV層であり、2層はV層起源と考えられる黒褐色土である。3層はVII層起源とみられる土で壁付近に堆積している。いずれも境界は漸移的で明瞭ではない。覆土中にフレイクの集中と焼土各1ヵ所を検出した。フレイク集中は住居跡北西部分の壁際付近で、焼土は住居跡のほぼ中央で検出した。柱穴は3ヵ所検出した。いずれも床面付近を精査中に掲灰色の落ち込みとして検出したものである。HP-1以外は浅い。

また、I群b-1類土器が覆土2層中で集中して出土していること。覆土2層の下位に焼土があり、フレイクの集中も存在することから、覆土2層中にI群b-1類期の生活面があった可能性がある。

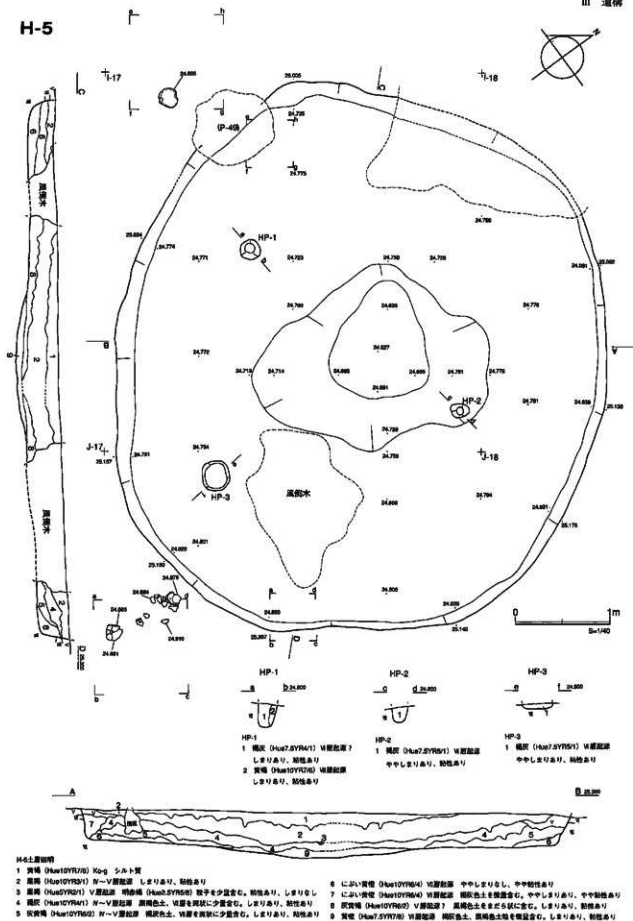
遺物 覆土2層から、土器はI群a類土器とI群b-1類器が出土し、前者が多い。石器は礫石器が多く、特に石錐が最も多いが、まとめて出土する傾向は見られない。覆土3層からは、I群a類土器が多く出土している。石器類は、住居跡南側隅で台石もしくは石皿が出土した。覆土3層の傾斜に沿って使用面を上にした状態であった(図III-14)。その他覆土3層からは、石鏃、両面調整石器、ドリル、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石錐等が出土している。床面の遺物はI群a類土器と石錐1点、石核1点、礫1点の他、フレイクが63点出土している。

I-17はI群a類で、器形の分かる1・3・4・9・14は大雑把に見て砲弾型尖底の器形を呈しているといえるが、その一部には乳房状の尖底に向かう変化の兆しをうかがうことができる。口縁部は真直ぐに立ち上がるか外に向かってやや開くものが主体で、口唇断面の形は、丸みを帯びたり先細りする角形か切出し形のものが多い。この内床から出土したのは7・9・14である。1・4・8・9の内面などには爪形の文様が認められ、3・4・7・8には補修孔が穿たれている。

これらで特徴的なのは、簡素化傾向の文様が施される7・9・14が床面から出土し、上位の覆土中からは、より装飾傾向の強い文様の施されるI-6が出土している。後者の一部にはより古い段階の特徴を備えるものもあり、層位とは矛盾する。このことが何を示すのかは明らかではないが、掘り上げ土による混入・逆転などの可能性が考えられる。

I-6は多数の刺突文を伴った沈線や貝殻腹縁文による区画の内割を連続する腹縁文や条直文で充填するなど文様が装飾傾向の強いものである。2以外は波状口縁で、1・4・6はそれに小突起が加わる。1は波状口縁の頂部から垂下する文様とそこから延びるわらび状の文様とが施されたもので、切出し形の口唇の内面側の角には短い腹縁文が施されている。そこから3~4cmの内面には爪形文も認められる。2は3条の貝殻腹縁文をクランク状に施した胴部である。3は波状口縁の頂部下にわらび状の文様が配置されたもので、断面が丸みを帯びた角形口唇の平坦部には貝殻の押し文、内面側の角には腹縁文の刻み、器面側の角には連続する爪形の文様が各施される。4は口唇の断面が先細りする角形を呈するもので、その口縁に沿った内外両面に連続した腹縁文が施されている。内面側の口縁から約3cm下には連続する爪形の文様が認められる。5は波状の頂部が2つの山になる口縁部で、その口唇には深い一文字の沈線が施されている。口唇の内外両面の角には連続する腹縁文の刻みが施され

H-5

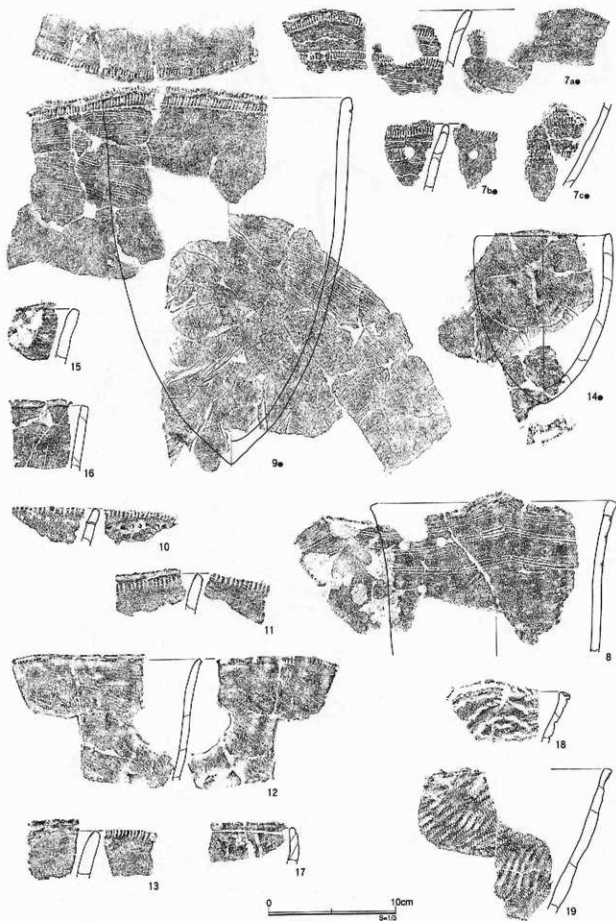


図III-14 H-5

1 住居跡

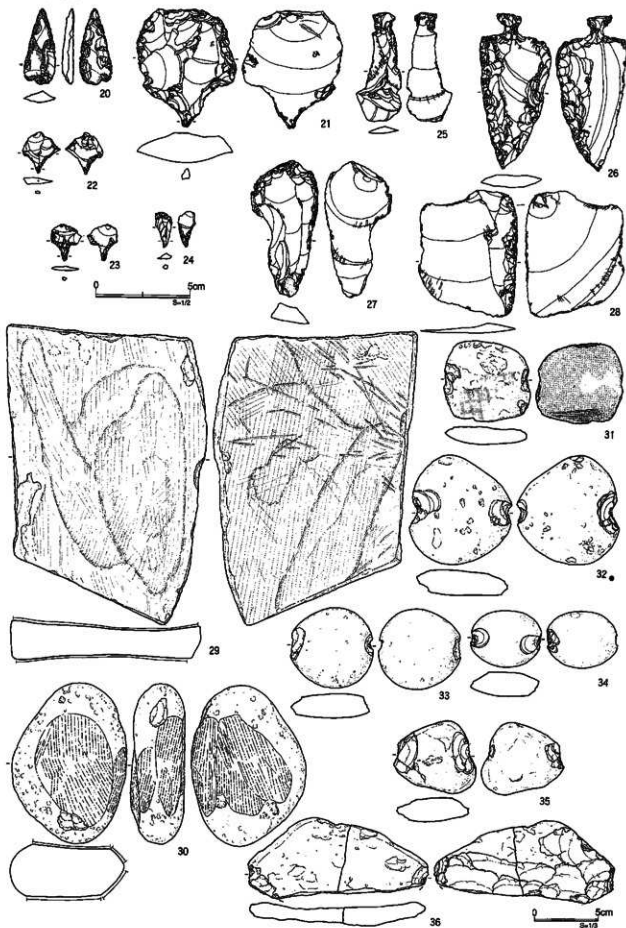


図III-15 H-5の遺物(1)



圖III-16 H-5の遺物(2)

1 住居跡



図III-17 H-5の遺物(3)

覆土 3 層

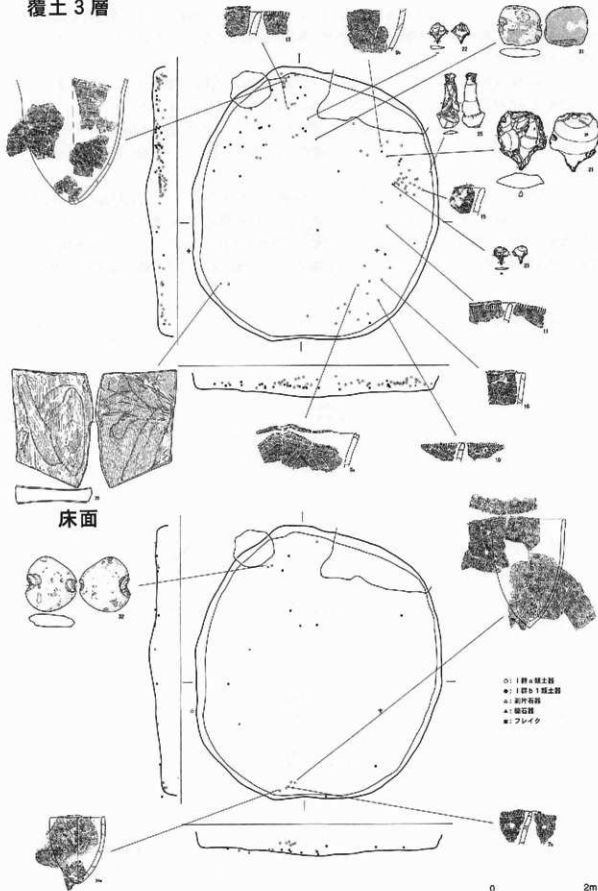
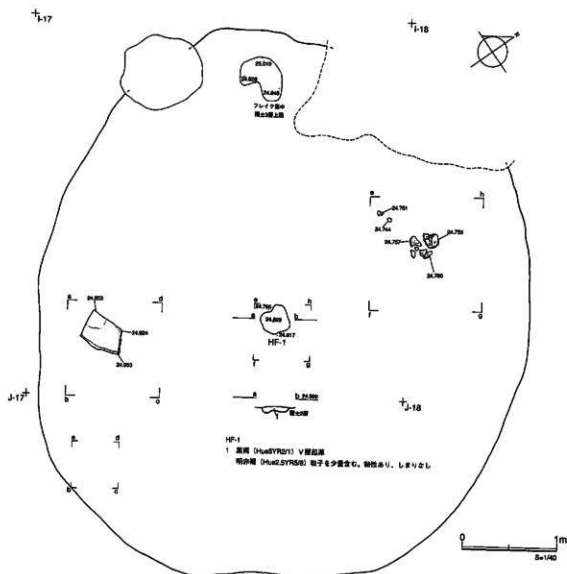


図 III-18 H-5 の遺物分布

る。器面の刺突文はかなり小径の施文具によるもので、充填される条痕文はやや背圧痕文気味に施される。6は器面に菱形の区画が描かれたもので、断面が切出し形の口唇部は内面側の角に押引気味の腹縁文が施されている。

7・8は簡素な文様の施されたものである。7は波状の口縁に突起が加わるもので、先細りで角形の口唇部は内外両面に連続する腹縁文が施される。器面には全面に施された条痕文の上から鋸歯状の沈線を施している。8は3条の貝殻腹縁文を三対平行に施したもので、波状の頂部直下ではそれらに刺突文が加わる。断面が角形の口唇の内面には連続する腹縁文が施され、その3~4cm下位には爪形の模様が見られる。

9~17は施文が口唇周辺に集中する文様に乏しいか無文のものである。9~12は口唇の内外両面、13は内面だけに連続する腹縁文が施されるものである。9は尖底部に変化の兆しうかがえる平縁の深鉢形土器である。器面の上半部には不均一な貝殻の条痕が施されているが、それが文様か調整痕かは判断に迷う範疇である。断面の丸い口唇には腹縁文以外に外面に沈線に伴う刺突文の列が、内面には



図III-19 H-5の遺物出土状況とFC-1・2

腹縁文の2~3cm 下位にはっきりとした連続する爪形の文様が認められる。10は口縁部に刺突文の列が施されたもので、通常よりも深い刺突のため内面は瘤状に飛びだし、その瘤が剥落した箇所は貫通孔のように見える。11は口唇断面が切出し形を呈し、12は口唇部の周辺だけが外に向かって大きく傾斜する深鉢の平縁である。14~16は無文で平縁のものである。14は小型の器形で、口唇断面は14が丸形、15・16は角形である。17は断面が内側に傾く小型の器形のもので、平縁に沿って沈線が1本巡っている。

18・19はI群b-1類土器である。18は口唇部に2種類の文様が施された口縁部である。向かって半分から左側には口唇の中央に沈線が施され、そのため口唇断面は上から潰されたように変形している。更にその上からは棒状の施文具による斜めの刻みが施されている。器面には0段多条の縄縁文で曲線を主体とする文様が描かれている。19は器面に0段多条の斜行縄文が施される口縁部で口唇直下には同じ原体による曲線的な縄縁文が施されている。

20は石鏃。側縁はやや外湾し、両面に素材面を残す。両側縁に粗い二次加工が施される。21~24は石錐。いずれもつまみ部を有し、縦長剥片の末端部に尖頭部を作り出している。21は大きなつまみ部を有し、表面の両側縁の二次加工により尖頭部を作り出す。22~24は薄身で小形のもの。いずれも素材の剥片の形状を生かし、尖頭部の二次加工はわずかに施される。22、23のつまみ部は大きく、24は幅が狭い。25、26はつまみ付ナイフ。25は薄い縦長剥片の素材の形状を生かし、二次加工はつまみ部と表面右側縁にわずかに施される。26は横長剥片を素材とし、裏面右側縁を除き周縁部に二次加工が施される。27、28はスクレイパー。27の刃部はやや厚みがあり、ゆるく外湾する。28は直線的で薄く鋭利な刃部を有する。

29~36は礫石器。30は砥石。流紋岩製。31~36は石錘。31は焼成を受け赤褐色化している。36は破損しているが、今回調査した富野3遺跡から出土した石錘では最も大型のものである。流紋岩製。29は台石もしくは石皿。凝灰岩製である。表面、裏面ともに幅広い擦り面を持つ。

時期 床面から出土した土器と、平面形から縄文時代早期I群A類の時期のものとみられる。

(立田 理)

H-6 (図III-20~24/図版III-6・19・20/表IV-3~5)

位置：J-12、J-13-a・b、K-12、K-13-a・b・c、L-12-d、L-13-a・b

規模：8.04×(4.82)/7.90×(4.67)/0.43 長軸方向：N-76°-W

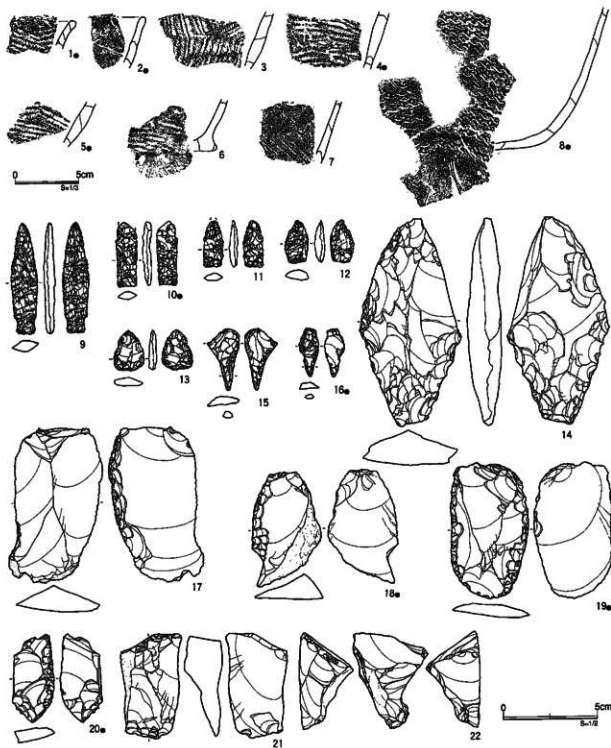
特徴 調査区南西部の緩斜面に位置する。H-15と重複し、本住居跡が新しい。Ⅶ層上面で中心に火山灰の堆積を持つ灰褐色土の落ち込みを検出した。落ち込みの形状は東西に長い長楕円形で、南東側は不整形の灰褐色土の落ち込みと重なっていた。そのため、2つの住居跡の重複を想定し、火山灰の堆積の長軸方向にトレンチを設定し、Ⅶ層まで掘り下げた。その結果、H-6の落ち込みがH-15を切つて構築されていること、前者は断面形が浅い皿状で、焼土を伴うことを確認した。この落ち込みは南側に大きな風倒木痕があり、西部分は落ち込みの境界がはっきりしなかったため、さらにトレンチを追加して形状の把握に努めた。その結果、この落ち込みは南北、東西方向にも浅い皿状を呈することがわかり、3ヵ所の焼土が長軸上に並ぶことがわかった。平面形は中央部が膨らむ長楕円形である。壁の立ち上がりは緩やかで床と連続しており、HF-3の周辺が最も低くなっている。床は平坦面は少なく、小刻みにてこぼこしている。

床面で焼土を3ヵ所検出した。全て長軸上、壁から1m以上離れた比較的平坦な面に並んでいる。柱穴は確認できなかった。また、覆土2層の中位にフレイクの集中を検出し、またこの層位にI群b-4類土器がやまよまよって出土していることから、この面(図III-23)にI群b-4類期の生活面があつ

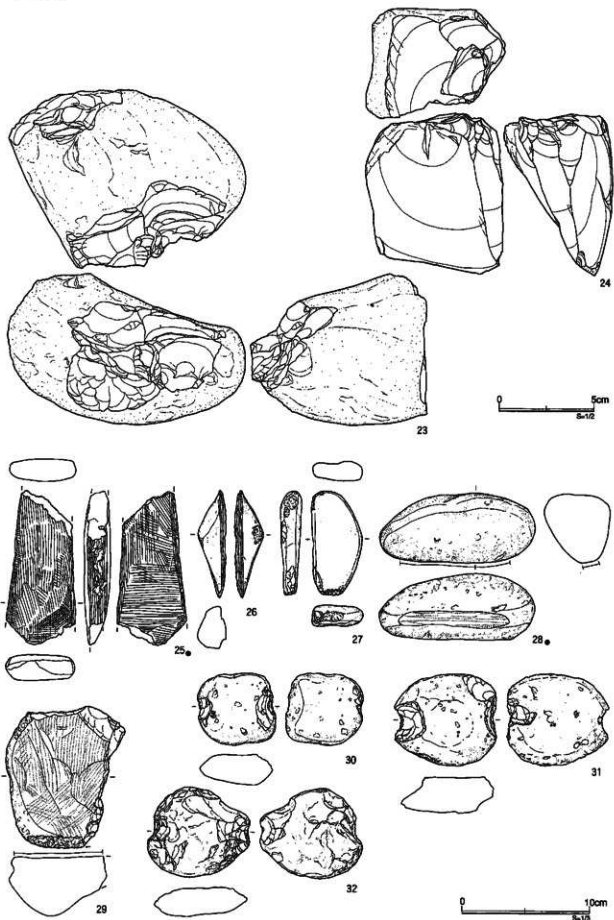
た可能性が高い。

遺物 覆土から土器はI群b-4類土器が多く出土している。剥片石器は石鏃が4点とやや多く出土している。礫石器は台石、砥石、石鏟の順が多い。床面からは、土器はI群b-1類土器が多く出土している。石器等は石鏃片、ドリル、スクレイパー、Rフレイク、Uフレイク、石斧、フレイク、礫等が出土している。

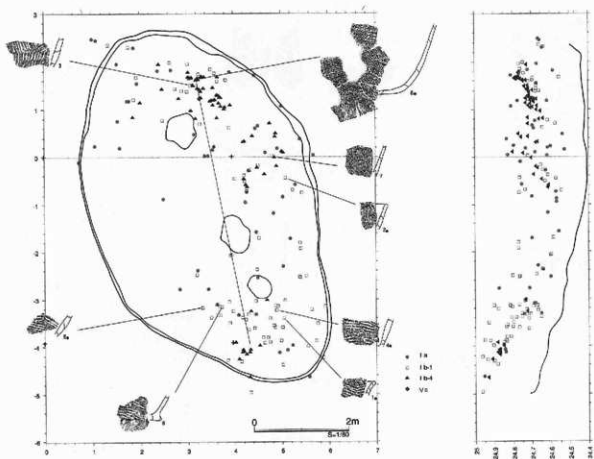
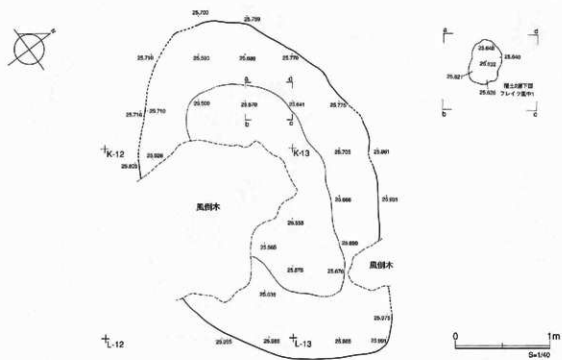
1~6はI群b-1類土器である。1は外側に開き気味の口縁で、器面には不明瞭な羽状縄文が施され



図III-21 H-6の遺物(1)

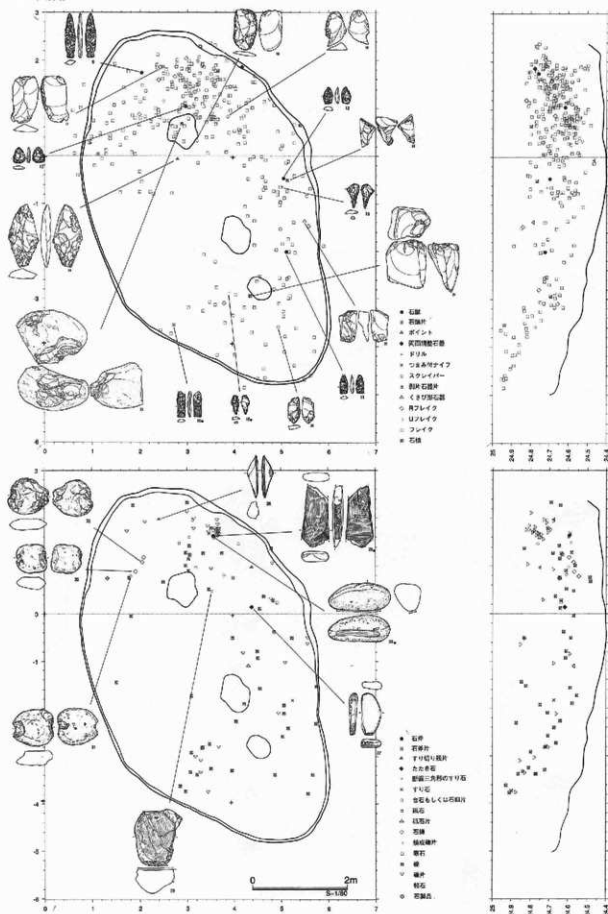


図III-22 H-6の遺物(2)



図III-23 H-6覆土内の生活痕跡と遺物分布(1)

1 住居跡



図III-24 H-6覆土内の生活痕跡と遺物分布(2)

る。2は無文の口縁である。器形は小さな鉢形と推定され、I群b-4類の可能性を残す。3~5は胴部で、器面の文様は3が綾杉状の縄文、7・8が0段多条の羽状縄文である。6は下端部の張り出した底部である。その器面には0段多条の斜行縄文が施され、張り出した下部にはための施文具で刻みが入る。残存部分から、口縁が開き底部で極度に絞込まれる器形になると推定される。

7・8はI群b-4類土器である。7は撚りの異なる自縄自巻の原体で細い撚り糸文風の羽状縄文の施された胴部である。8は丸味を帯びた底部で、器面には広く綾絡文が施されている。

9~13は石鏝。9は細長い柳葉形で、基部付近でゆるく内湾する。両面に丁寧な二次加工が施される。10~12は黒曜石製で、いずれも肉眼観察では赤井川産の黒曜石と考えられる。10、11は先端部を欠失する。10は床面出土で、丁寧な作りのもの。11は被熱のため表面の光沢が鈍くなっている。12は小形で厚みがあり、裏面に素材面を残す。素材は横長剥片である。13は頁岩製で両面の周縁部に粗雑な加工を施す。14は石槍。表面の右側縁上部は素材の形状を生かし、他は周縁部に二次加工を施す。15、16は石鏝。どちらもつまみ部を有し、周縁部に二次加工が施される。16は床面出土。黒曜石製である。17~20はスクレイパー。いずれも縦長剥片を素材とする。17は腹面側に外湾する刃部が作り出される。また、被熱によるひびが所々に認められる。18は表面の左側縁にゆるく外湾する刃部が作り出される。19は打点側以外の3辺に浅い二次加工が施され、薄身の刃部が作り出される。20は短辺に尖頭部が作り出される。二次加工は細かく、刃部は丁寧に仕上げられている。21は楔形石器。大型でいわゆる楔形石器とは少し異なるが、便宜状楔形石器に含める。両端に対となる階段状の剝離痕があり、断面形は三角形を呈する。22~24は石核。22は打面を固定し、作業面を3面設定し、作業面を移動しながらフレイクを取っている。かなり小形のフレイクも剝がしており、残核として放棄されたものと考えられる。打面調整は認められない。23はめのう製。原石の両端からフレイクを取っている。作業面を2面設定し、交互にたたいている。数枚フレイクを剝がしただけで、打面調整等は認められない。24はまず上面を作業面とした後、その面を打面としてフレイクを取っている。図示していないが、K-12-a グリッド出土のフレイク1点と接合している。

25、26は石斧。27~32は礫石器。25は蛇紋岩の石斧。擦り切り痕と折取りの跡には研磨による調整痕が見られる。刃縁が欠損し、基部は破損している。26は泥岩の擦り切り残片。少し厚みのある幅広い扁平礫の縁片を利用している。敲打痕が僅かに見られる。27は粘板岩のたたき石。28は断面三角形の擦り石。29は流紋岩の砥石。幅の細い研ぎ溝が見られる。30~32は石鏝。

時期 縄文時代早期I群b-1類土器の時期のものと思われる。

(立田 理)

H-7 (図Ⅲ-25~28/図版Ⅲ-6・20・21/表Ⅳ-3~5)

位置：O-15-c、O-16-b・c、P-15-c・d、P-16-a~d、P-17-a・b

規模：5.02×4.62/4.95×4.44/0.21m 長軸方向：N-17°-W

特徴 標高25~26mの緩斜面に作られた平面が不整の隈丸方形を呈するI群b-1類の竪穴住居跡である。北西側にはFC-9・10が見つまっている。

表土を除去したVI層中の面から偏向する遺物出土状況により確認した。覆土は中央の上位に見られる腐植土の1層と、覆土の主体である2層とに別れる。覆土1層は本来レンズ状の堆積だったものが近・現代の削平で大半が失われたと考えられる。覆土2層は腐植土とローム質土が混じるVI層類似のもので、遺物の大半はこの2層と床面から出土する。覆土1層はV層が流れ込んだもの、覆土2層は掘り上げ土を含む土が崩落や流れ込みで堆積したものと考えられる。竪穴住居の確認面はVI層中であるが、掘り込み面は削平されたV層下位~VI層中と考えられ、覆土1・2層の堆積状況から見て図との深度の違いは深い部分で10~15cm程と推定される。

竪穴の掘り込みはVI層に達するもので底部分は斜面と同じ方向に緩く傾いている。床面もそれとほとんど同一と考えられ、壁の立ち上がりは緩やかに立ち上がる。床面からは炉跡と考えられる焼土(HF-1)や柱穴(HP-1~23)と共に、I群b-1類土器や石器などの遺物も見つまっている。床面西側で見つかったHF-1は長径が0.8m程の不整楕円形を呈すもので赤化の度合いも高く、比較的長期に亘り焼成を受けたと考えられる。

床面で検出されたHP-1~23の柱穴は全て僅かに入る腐植土から位置を確認したもので、これらには出土位置と形態からいくつかの特徴をもつグループが見られる。HF-1を取り囲む様な配置を見せるHP-1・2・12・14・22はいずれも深さが30~40cmのもので、他のものよりも一回り規模が大きいのが特徴である。それらの中央付近に位置するHP-15と共に上屋を支える主柱穴の配列と考えられる。南東側の壁際にある傾斜する柱穴のHP-7も同様の規模で、前述の配列に強く関係する可能性がある。また、HP-19は規模・形態が他と異なり、HF-1の近くに位置することから炉跡に付随する可能性がある。

土器はI群a類・I群b-1類が出土しており、主体は尖底の器形を呈した後者である。石器は石鏃・両面調整石器・石槍・ドリル・つまみ付ナイフ・石斧・たたき石・すり石・石鏃・砥石・台石などが出土している。遺物出土状況は土器と石器では傾向が異なる。主体となるI群b-1類土器はHF-1の周辺にその多くが分布し、石器類は剥片石器も礫石器も竪穴の中央から東半分の範囲に分布する傾向が見られる。空間的な使い分けを反映している可能性がある。

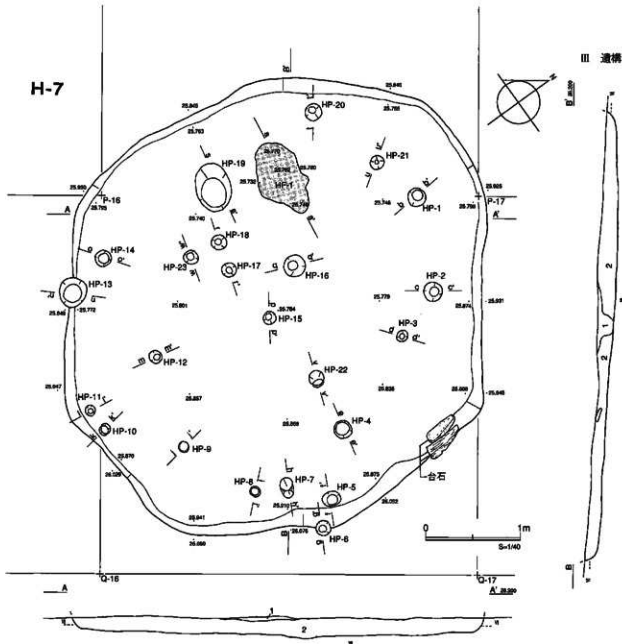
床面近くの覆土2層中には大小の炭化材が多数含まれており、その部分とHF-1の1cm程上位から赤化した部分の土壌を採取し、水洗浮遊選別法を実施した。その結果、竪穴の中央の床付近から炭化したタデ属の種子2粒が見つまっている(第V章2節)。また、床面出土のI群b-1類土器内面に厚く附着した炭化物と床面中央付近から出土した炭化材の試料2点(Beta-126229・126230)に対してAMSによる放射性炭素年代の測定を依頼した結果、暦年代BC6,380yとBC5,938yの測定値が得られている(第V章3節)。後者の値は、同じ遺跡内のH-2やP-1の値に近く土器型式から見ても妥当と考えられる。また、これら尖底器形のI群b-1類土器を伴う住居の年代測定は道内でも少なく、今後、年代観の基本となるものと期待される。

近くで検出されたFC-9・10はこの竪穴から緩斜面の下方に延びるような平面形を見せており、H-7からの廃棄の可能性がある。

遺物 1~9はI群b-1類土器で、1~5が口縁部、6~9が胴部である。この内、床面出土のものは1と

H-7

III 遺構



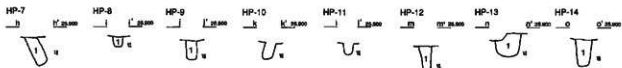
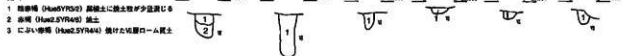
H-7土層地層

- 1 層 (Hue10YR1.7/1) V層純粘土を主体とする土。しまり、粘性中あり
- 2 層 (Hue10YR3/1) V層主体にW、W層が少量入る。しまりあり、粘性なし、腐物 (b-r) 腐化物を多数含む。

HP-1



HP-1 1 腐物層 (Hue10YR3/1) 腐物土に粘土が少量混入
2 赤褐色 (Hue2.5YR4/5) 粘土
3 にかい層 (Hue2.5YR4/4) 焼けた瓦器口-A質土

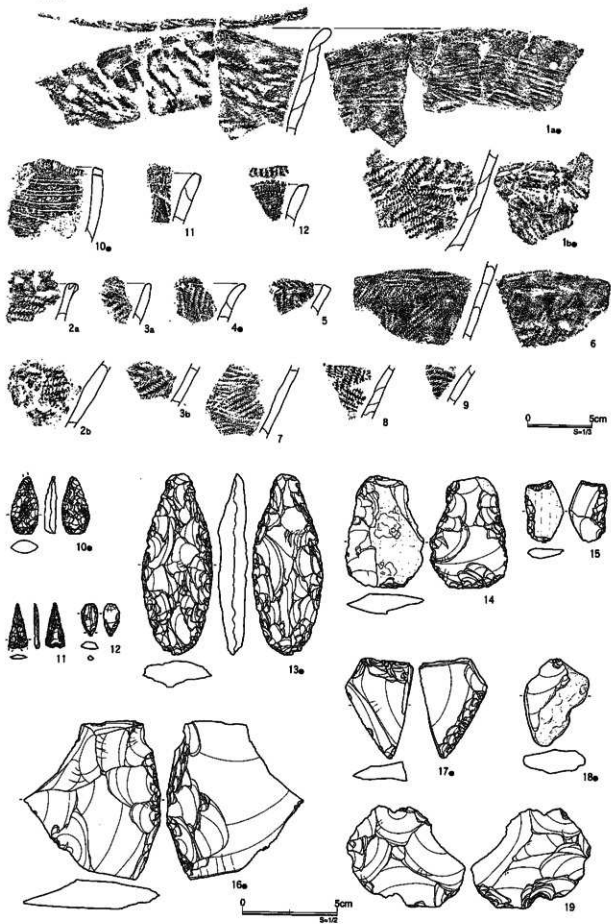


HP-1-23

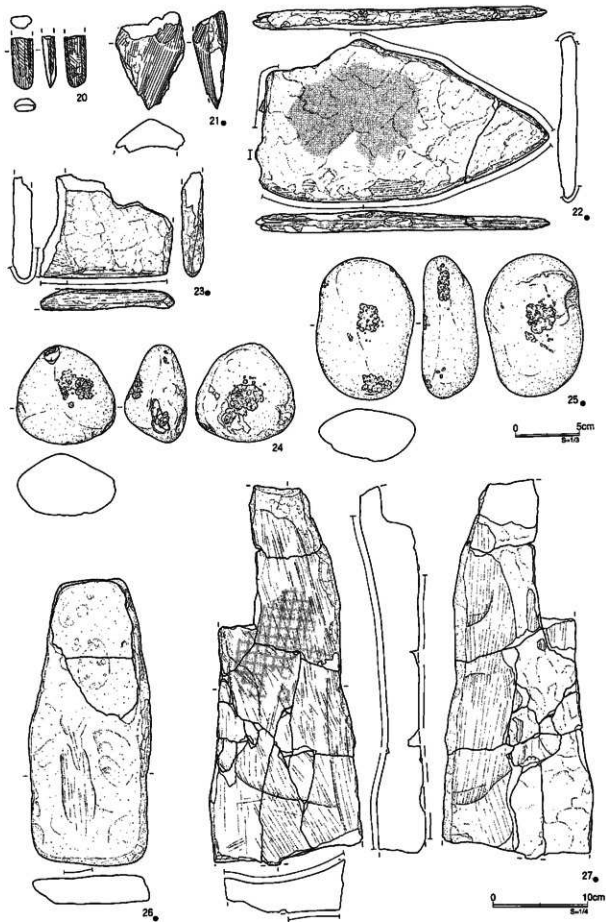
- 1 腐物層 (Hue10YR3/1) V、W、W層を主体とする土。しまりあり、粘性でなくし
- 2 層 (Hue7.5YR2/1) V層を主体にW層が少し入る

図III-25 H-7

1 住居跡



図III-26 H-7の遺物(1)



圖III-27 H-7の遺物(2)

4である。1はHF-1の周辺から小破片の状態出土した尖底の深鉢形土器で、内面には貝殻を使った雑な条痕が全面に見られる。斜行縄文らしきもので施文された口唇の断面は丸形を呈し、外側に向かって屈曲する。口縁には太い0段多条の原体を使った斜めと横の縄線文の施された文様帯があり、胴部には同じ原体を使い押捺する回転方向変えた羽状縄文が施されている。口縁内面には炭化物が厚く付着しており、それを対象にAMSによる放射性炭素年代の測定を行った結果、暦年代BC6,380y (Beta-126229)の測定値が得られている(第V章3節)。本遺構で内面に条痕文の見られるI群b-1類は、この土器に限られる。2は口唇の端部が外に向かって肥厚する口縁部である。口唇部には茎状の施文具で横斜めからの刺突列が加えられ、器面には太い二段単節の原体の施文方向を変えた羽状縄文が施されている。3は綾杉状の縄文が羽状に施される口縁部である。4・5は0段多条の斜行縄文が施されるもので、5は口唇部にも同じ文様を施している。6は器面に二段単節もしくは0段多条の原体を使った羽状縄文、内面に0段多条の斜行縄文が施されている。7は0段多条、8は二段単節の原体を羽状に施している。9に施されているのは綾杉状の縄文である。

10~12はI群a類土器である。10は小型の突起が付く口縁部である。口縁の傾きはやや内側に入るもので、貝殻の腹線文が連続して施される口唇の断面は角形を呈する。器面には刺突文を伴う腹線文と沈線文の区画内を背圧痕で充填する文様が施され、内面全体には幅の細い条痕が見られる。11は口唇断面が先細りの角形を呈する口縁部である。口唇の内外両面には腹線文が施され、器面には腹線文と多数の刺突文が施されている。12は波状口縁の山形部で、口唇部に押引文、その外面に連続する腹線文と沈線文に沿う刺突列が施される。

10、11は石鏝。10は床面出土で黒曜石製のもの。縦長剥片を素材とし先端部をわずかに欠く。厚みがあり、側面の稜線は基部付近でやや屈曲する。11は基部の先の部分を欠失する。裏面に素材面を残す。基部は内湾し、側縁はわずかに外湾する。12は石鏝。めのう製で小形の縦長剥片を素材とする。両側縁に二次加工を施し、尖頭部を作り出している。13は両面調整石器。両面のほぼ全体に二次加工を施し、側縁付近は特に丁寧に整形している。上部にわずかに抉りがあり、つまみ状を呈する。14~16はスクレイパー。16、17は床面出土。14、17は腹面側に刃部が作り出されている。14の腹面左側縁の二次加工は厚みを取るためのものである。17は丁寧に二次加工により外湾する刃部が作り出されている。15は黒曜石製の縦長剥片を素材とし、表面に節理面を残す。16は大形の剥片を素材とし、側縁に外湾する刃部を作り出す。18、19は石核。18はHF-1出土でめのう製。小形の原石から長軸方向に沿ってフレイクを数枚取っている。小形のたたき石の可能性もある。19は打面を固定せず周縁から求心状にフレイクを取っている。20は蛇紋岩製の石弁。破損している。ほぼ全面研磨されているが、僅かに擦り切り痕が残る。21も蛇紋岩の擦り切り残片。23~27は礫石器。24、25はたたき石。厚みのある円あるいは楕円の礫を使用している。22、23は石鏝。22は流紋岩、23は凝灰岩である。薄い板状礫の縁辺を刃部としている。26、27は凝灰岩製の台石もしくは石皿。27は幅の広い擦り面を持つ。

時期 床面の土器から縄文時代早期後葉I群b-1類の時期と考えられる。

(菅川洋一)

H-8 (図Ⅲ-29・30/図版Ⅲ-22/表Ⅳ-3~5)

位置：O-11-b~d、O-12-b、P-11-a・d、P-12-a

規模：4.82×3.30/4.64×3.13/0.16m 長軸方向：N-20°-E

特徴 標高25~26mの緩斜面に作られた竪穴住居跡である。完掘での平面形は不整の楕円であるが近・現代の削平で形態や規模は大きく変化したと考えられる。表土を除去したVI層中の面から竪穴内に堆積するKo-gと黒褐色土により確認した。南西側には近接してF-11が検出されている。

3層に分けられる覆土の中で、遺構確認の目印となったKo-gは覆土1層の腐植土に混じるものである。覆土2層はV層腐植土の自然流入と考えられる。覆土3層はローム質土を含む割合が高く、これは構造物を覆っていたものが崩落したか、竪穴の周囲に置いた盛り上げ土が流入した可能性がある。掘り込み面は近・現代の削平で既に失われているが、覆土の堆積状況から考えて10~15cm上位のV層中にあつたと考えられる。

竪穴の掘り込みはVII層にまで達しており、その底面はVI層上面の緩斜面と同じ方向に緩く傾いている。床面は炉跡と考えられる焼土(HF-1・2)の位置や柱穴状の小ピット(HP-1~4)の確認レベル、遺物の出土状況から求めたもので、竪穴の掘り込みとほぼ同じレベルと考えられる。壁は斜面上方側が床からの立ち上がりが急激なもので、下方側の壁の多くは削平で欠失している。

炉跡と考えられる2ヵ所の焼土(HF-1・2)は、HF-1が赤化の程度も強く中心的な役割を担っていたと考えられる。7の篋状石器はHF-1に伴って出土したものである。HF-2は規模こそ大きいものの赤化の程度は弱く、二次的な堆積の可能性を残す。

床面で検出された4ヵ所の小ピット(HP-1~4)は、僅かに入る腐植土から位置を確認し、土の硬さなど頼りに調査を進めたものである。これらには明瞭な配列は見られず構造などは不明である。

遺物は土器がI群a類とI群b-1類とが出土しており、主体は後者でいずれも小破片である。石器類は石鏃・ポイント片・両面調整石器・トランシェ様石器・篋状石器・スクレイパー・石核・たたき石・石錐・台石・石器製作後の石屑と考えられるフレイクなども見つかっている。これらの大半は覆土2・3層から出土したもので、床面のものは少ない。覆土3層で出土した多数の頁岩のフレイクは緩斜面上方から流れ込む様な状態で出土しており、これらは土器片や礫片等とともに「廃棄」された可能性が高い。

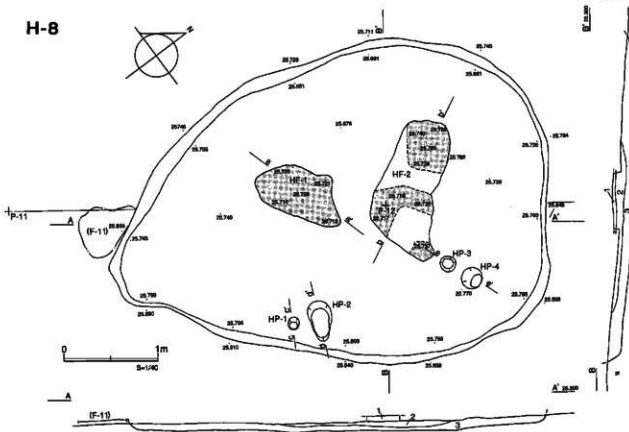
遺物 土器は、I群a類とI群b-1類が出土しているが全て小さな破片である。この内、I群b-1類には小型の平底の小破片も含まれていた。

1~5はI群b-1類土器である。1は幅の狭い口唇部に、裂いた茎状の施工具で右横から斜めに施した刺突文がある口縁部である。器面には0段多条の縄線文が施されている。2は0段多条の羽状縄文が施された胴部で、内面には貝殻の条痕が見られる。3は尖底近くの破片で、器面には二段単節の斜行縄文が施される。4は二段単節の縄による羽状縄文である。器面への押捺が擦り糸文に近く、擦りの不均一な鏡形状縄文の原体によるものかもしれない。5は器面に横方向の粘土紐を貼り付けたもので、地文は羽状縄文のと考えられる。

6は石鏃で横長剥片を素材とする。基部は内湾し、側縁はわずかに外湾する。二次加工は丁寧である。7、8は篋状石器。7はHF-1出土。撥形を呈し、刃部は中央付近がやや挟れる。8はトランシェ様石器。形状は二等辺三角形に近い。刃部の表面は自然面の形状をそのまま利用され、裏面は一次加工の剝離面を残す。側縁は細かい二次加工が施され、やや内湾する。9はスクレイパー。縦長剥片の1側縁にゆるく外湾する刃部を作り出す。10は石核。裏面に自然面を残す。作業面として正面と裏面の2面を設定し、打点を固定せず頻りに移動しながらフレイクを取っている。11~13は礫石器。11は

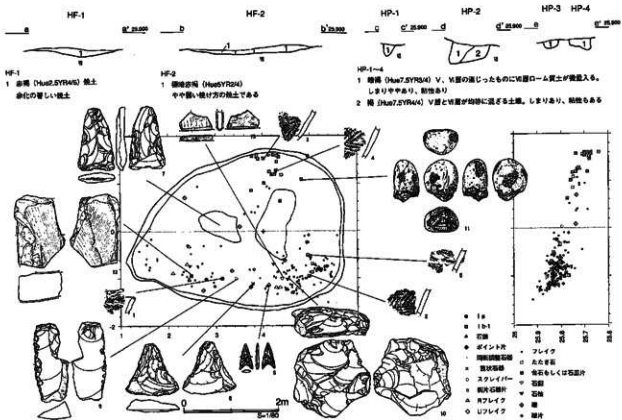
H-8

III 遺構



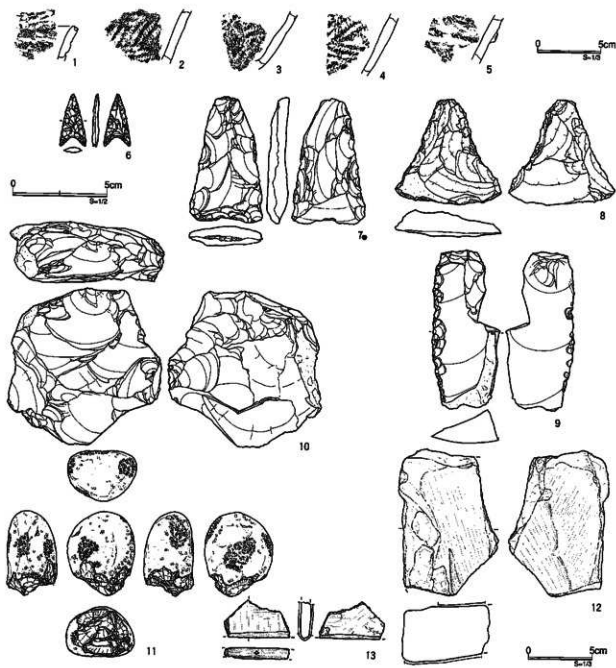
H-8土層図例

- 1 雑草 (Hus7.SYR33) V層黄粘土とKogが混在に混じる。しまりはあるが、動物はない
 - 2 原相 (Hus7.SYR1.271) V層黄粘土層 しまり、動物ともあり、遺物を包含する
 - 3 扇相 (Hus10YR32) V、V、V層がほぼ等しく混ざる土層である。しまりがあり、動物もある。遺物を包含する
- 2.3層の境界は不明瞭である



図III-29 H-8と遺物分布

1 住居跡



図Ⅲ-30 H-8の遺物

めのうの円礫を使用したたき石。表面の各所に敲打痕と、端部に剝離痕のある敲き跡がある。13は薄い板状の凝灰岩を利用した石鋸。12は流紋岩の砥石。幅の細い研ぎ溝がある。

時期 主体となる土器の出土状況から、縄文時代早期後葉I群b-1類の時期と考えられる。

(皆川洋一)

H-9 (図Ⅲ-31・32/図版Ⅲ-7・22・23/表Ⅳ-3~5)

位置 : I-14-c・d、I-15、I-16、J-14-c・d、J-15、J-16-a

規模 : 6.36×(5.83)/5.96×(5.76)/0.18m 長軸方向 : N-87°-E

特徴 調査区南西端の平坦面に位置する。VI層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。落ち込みは北

西—南東方向に長い不整な楕円形で、西と南西の方向に大きな張り出しがある。やや北西よりの位置には楕円形を呈する火山灰の堆積を伴う。落ち込みが不整形であったことから、遺構の切り合いを想定し、火山灰の落ち込みの長軸に合わせてトレンチを設定した。調査の結果 H-3 を確認した。黒褐色土の落ち込みは H-3 の外側をめぐる、さらに精査を重ねると南東方向にも別の単位とみられる長楕円形の落ち込みが重複していることが観察された。このためトレンチを延長し、さらに反対側にサブトレンチを設けてⅦ層まで掘り下げた。その結果、H-3 の外側をめぐる浅い皿状の落ち込みを確認し、南西にある住居跡を切って構築されていることがわかった。これを H-9 とした。黒褐色土の落ち込みは合計で H-3、H-9、H-11、H-13、P-18、P-27、P-43 の 7 つの遺構の切り合いにより構成されることがわかった。H-9 は、H-3、P-43 より古く H-11 より新しい。平面形はやや西側に張り出す不整形を呈する。壁は北西から北東方向にやや急に立ち上がるが、他は緩く、床との境は不明瞭である。床はほぼ平坦ではあるが、小刻みに凸凹している。覆土は灰黄褐色で火山灰を微量含んでいる。床、壁と地山であるⅦ層との境界は不明瞭で漸移的に変化している。付属施設は柱穴の可能性のある土壌が 5 基検出された。平坦面に位置する HP-2 を除いて、全て壁際にあたる緩斜面にある。いずれもほぼ水平に掘られ、浅い。また、入れ子状に重複する H-3 とは壁の立ち上がり、覆土の質感の相違から別の住居跡としたが、H-9 を H-3 のテラス状のものと考えて 1 つの住居跡となる可能性もある。

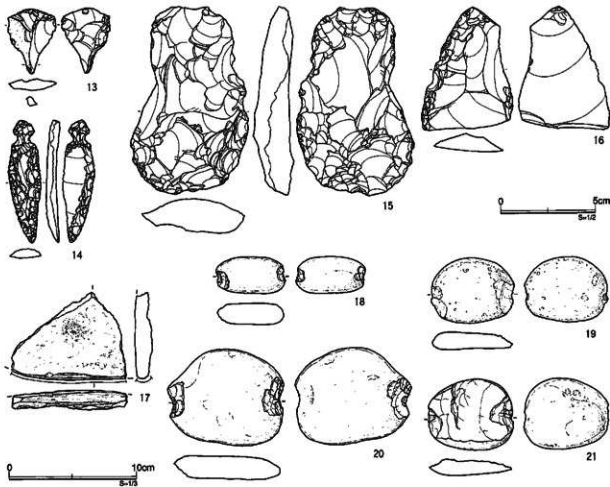
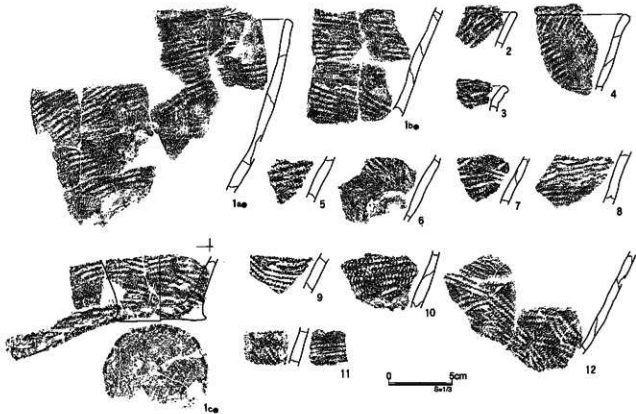
遺物 覆土から土器は I 群 b-1 類土器が多く出土し、石器等は R フレイク、両面調整石器等の剥片石器の他、石錘等の礫石器が多く出土している。床面からは剥片 3 点、礫 1 点が出土している。

1~12 は I 群 b-1 類土器で、この内 1 が床面から見つかっている。器形の分かるものは 1 と 12 で、1 が平底の深鉢形土器、12 が尖底土器と考えられる。1 は底部の下端が張り出す平底の土器で、H-9・11、P-43 の重複する 3 つの遺構から出土し接合したものである。口縁部は平縁で口唇の断面は丸形である。土器の表面には粘土の輪積や指の跡など製作時に付いた凹凸が多数見られるため、比較的粗雑な作りが特徴である。口縁から胴部の文様は 0 段多条の原体による条が水平に近い斜行縄文を主体としたもので、部分的に同じ原体の回転方向を変化させたものが加わる。更に、底部の張り出し近くの器面と底面には縞杉状の縄文が施されるなど文様構成は特徴的である。また内面には、幅の広い施文具による横方向の条痕が広く認められる。2~4 はいずれも口唇断面が丸形で器壁の薄い口縁部である。2・4 は 0 段多条、3 は二段単節の斜行縄文が各施されている。5~7 は異条縄文が羽状に施された胴部、8~10 は条が水平近くにまで覆る斜行縄文で、原体は 8 が 0 段多条、9・10 が二段単節である。11 は器面に二段単節の斜行縄文が施された胴部小片で内面には明確な貝殻条痕文が施されている。12 は同じ二段単節原体の回転方向を変えて器面に条による菱形を描いた尖底土器の底部付近胴部である。

13 は石錘。黒曜石製で、大きめのつまみ部を有する。尖頭部を作り出すために二次加工が表面左側縁のほぼ全体に施される。右側縁は業材の形状を生かし、ほとんど二次加工が認められない。14 はつまみ付きナイフ。表面のほぼ全面と裏面の右側縁に二次加工が施される。断面形はカマボコ形である。15 は両面調整石器。中央付近でややくびれる。両面共に下部の二次加工は入念に施される。16 はスクレイパー。縦長剥片の一侧縁に外湾する刃部を作り出す。中央付近でやや鋸歯状を呈する。

17~21 は礫石器。17、13 は石鋸で薄い板状の凝灰岩を利用している。僅かに炭化物状のものが付着する。18~21 は石錘。21 は流紋岩の偏平礫が薄く割れたものに挟入部を作りだし石錘にしている。

時期 出土した土器と覆土の状態、また住居跡の形状から、縄文時代早期 I 群 b-1 類土器の時期のものと思われる。(立田 理)



図III-32 H-9の遺物

1 住居跡

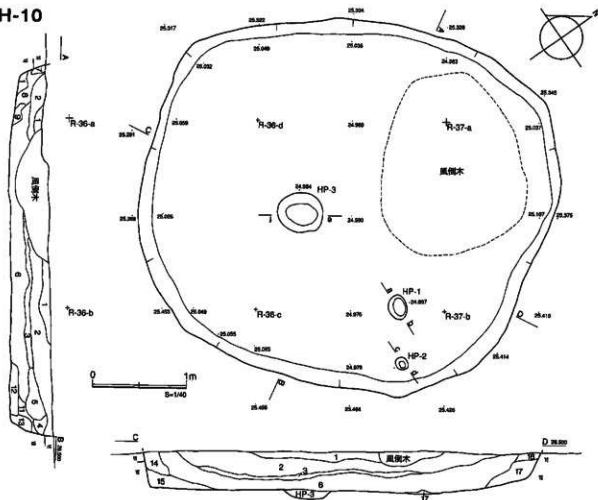
H-10 (図III-33~35/図版III-7・23/表3~5)

位置：Q-36-b・c、Q-37-b・c、R-36-a・b・c・d、R-37-a・b

規模：4.52×4.51/4.18×4.18/0.43m 長軸方向：N-7-W

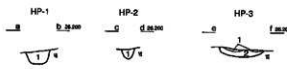
特徴 VII層上面でK₀-g混じりの黒褐色土の落ち込みを検出した。遺構の存在を想定し、トレンチ調査を行ったところ、竪穴住居跡であることが判明した。北東部は部分的に風倒木痕で床面まで壊されていた。平面形は隅丸方形を呈する。床面はVII層中にある。全体的に平坦で、東側部分は中央付近に向かってゆるやかに傾斜する。壁の立ち上がりは急で、西側は特に急角度をなす。掘込みは今回調査した竪穴住居跡の中では深い方に入る。覆土上部は黒みが強く、下部はVII層土の褐色土主体で、攪乱さ

H-10



H-10土層説明

- | | |
|--|---|
| 1 黄褐 (Hus7.SYR32) V<K ₀ -g (ブロック状) しまり部層にあり、粘性なし | 9 黄 (Hus7.SYR44) W しまりやや強い、粘性あり |
| 2 黄 (Hus10YR1.7) V<W<M<K ₀ -g 炭化物粒子少量含む。しまり部層にあり、粘性ややあり | 10 黄 (Hus7.SYR44) Wよりやや強い W<V<W しまりややあり、粘性あり |
| 3 黄 (Hus7.SYR42) V<M<W しまりあり、粘性あり | 11 黄褐 (Hus7.SYR34) W<W しまりあり、粘性あり |
| 4 黄 (Hus7.SYR42) V<W しまりあり、粘性あり | 12 黄 (Hus7.SYR44) W<W 炭化物粒子少量含む。しまり部層にあり、粘性あり |
| 5 黄 (Hus7.SYR42) W 煤土質・炭化物を少量含む。しまりあり、粘性あり | 13 黄 (Hus7.SYR44) W<W しまり部層にあり、粘性あり |
| 6 黄褐 (Hus7.SYR34) W<V 炭化物粒子少量含む。しまりややあり、粘性あり | 14 黄褐 (Hus10YR32) V<V<W<W しまりあり、粘性ややあり |
| 7 黄 (Hus7.SYR42) W しまりややあり、粘性あり | 15 黄 (Hus7.SYR44) V<W<W しまりややなし、粘性あり |
| 8 黄 (Hus7.SYR44) W (ブロック状) しまりあり、粘性あり | 16 黄褐 (Hus10YR32) V<W<W しまりややなし、粘性強い |
| | 17 黄 (Hus7.SYR44) W<V しまりあり、粘性あり |



- HP-1-2
- 黄 (Hus7.SYR44) W<V しまり部層にあり、粘性あり
 - 黄 (Hus7.SYR42) W<W 炭化物粒子を含む。しまり部層にあり、粘性あり
 - 黄 (Hus7.SYR44) W<W 炭化物粒子を含む。しまり部層にあり、粘性あり

図III-33 H-10

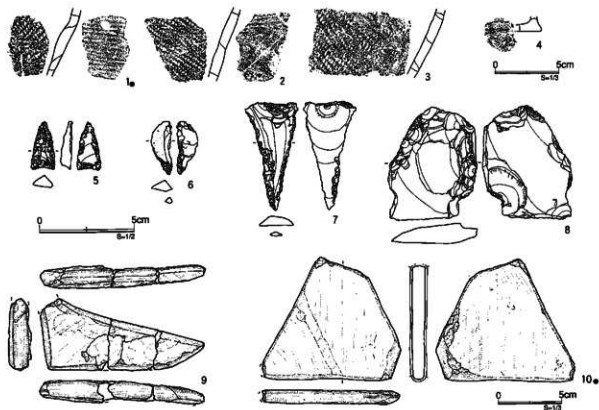
れている部分以外はきれいなレンズ状堆積を示す。付属のピットは3個検出され、いずれも掘込みは浅い。HP-3は覆土に炭化物を含んでおり、平面上の位置を考慮すると炉跡の可能性がある。床面出土の炭化物の放射性年代測定の結果、BC6,055/BC6,145 to 6,020という結果がでている(第V章3節参照)。

遺物 覆土からI群a類、I群b-1類、I群b-4類土器、石鏃、石錐、両面調整石器、スクレイパー、Rフレイク、Uフレイク、石核、フレイク、砥石、台石、石鋸、礫、炭化物が出土している。床面からはI群b-1類土器、石錐、Rフレイク、フレイク、すり石、砥石、台石、石鋸、礫、炭化物が出土している。他の住居跡に比べて遺物は小さいものが多く、床面出土のものは少量である。

1~4はI群b-1類で、その内1は床面出土である。1~3は二段単節の斜行縄文が施された深鉢胴部で、1と2はその上から更に貝殻による条痕文が施され、内面にも条痕が見られる。4は下咽の張り出した小型土器の底部である。底面には不明瞭な縄文が施されている。1~4はI群b-1類の「仮称西枯梗式」(岡島 1975)に相当すると考えられる。

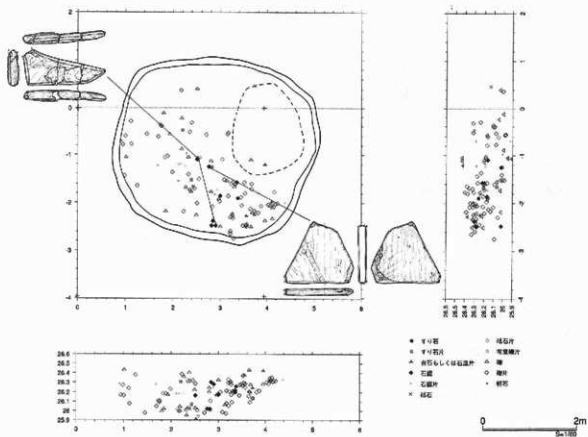
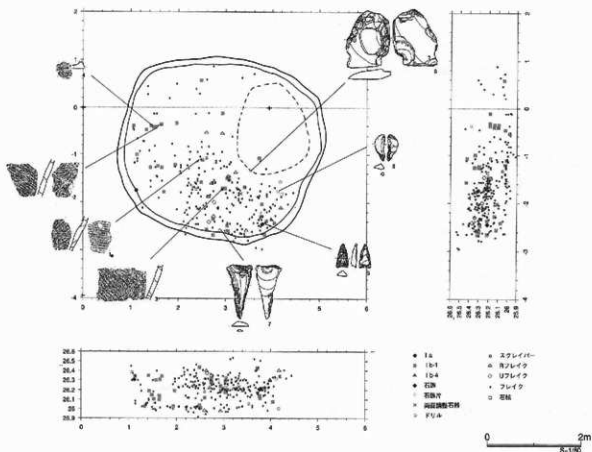
5は頁岩製の石鏃。基部は若干内湾し、側縁はゆるやかに外湾する。両面に素材面を残し、裏面は浅い周縁加工を施す。厚みがあり、断面形は三角形状を呈する。6、7は石錐。共につまみ部を有している。剥片の形状を生かし、二次加工は両側縁に浅く施すのみである。8はスクレイパー。横長剥片を素材とし、長辺にほぼ直線状の刃部を作り出す。

9、10は石鋸。薄い板状の凝灰岩の縁辺を利用している。9は全ての縁辺を刃部としている。時期 床面出土の遺物から縄文時代早期後葉I群b-1類の時期と考えられる。(広田良成)



図III-34 H-10の遺物

1 住居跡



図III-35 H-10の遺物分布

H-11 (図III-36・37/図版III-23・24/表IV-3~5)

位置：I-16-b、J-14、J-15-b・c・d、J-16-a・b、K-14-c・d、K-15

規模：7.85×(6.35)/7.56×(6.16)/0.26 長軸方向：N-A-W

特徴 調査区南西端の平坦面に位置する。VI層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。落ち込みは北西-南東方向に長い不整な楕円形で、西と南西の方向に大きな張り出しがある。中心よりやや北西よりの位置に火山灰の楕円形を呈する堆積を伴う。落ち込みが不整形であったことから、遺構の切り合いを想定し、火山灰の堆積の長軸に合わせてトレンチ調査をした。その結果、H-3とその外側にH-9を確認した。トレンチをさらに南東方向に南西側の張り出しの先端まで延長し、その短軸に合わせて新たなトレンチを追加して掘り下げたところ、張り出しのほぼ中心部で焼土を検出した。これらのことからこの張り出しは、北西部分の大半をH-9に切られる浅い皿状の住居跡であることがわかった。重複関係はP-43、P-18、H-9より古く、H-13より新しい。平面形は確認できた部分で南北に長い楕円形を呈する。床面は平坦面が2段あり、さらにその中心には浅いすり鉢状を呈するくぼみがある。壁は不明瞭で緩やかである。土層は上位から灰褐色土の覆土1層、VII層との漸移層である覆土2層とに分けられる。焼土2ヵ所、柱穴の可能性ある土壌5基が検出された。焼土は覆土1層と2層の境界で検出された。H-9、H-3を結んだ線上に並んでいる。より中心側で検出した焼土(HF-2)は中心のくぼみ部分にある。土壌は全て床面で検出した。いずれも浅い。

遺物 覆土から、土器はI群b1類土器、I群a類土器、石鏃、ポイント、ドリル、スクレイパー、Rフレイク、台石もしくは石皿片が出土している。床面からは、土器はI群b-1類土器、I群a類土器、フレイク、礫等が出土している。

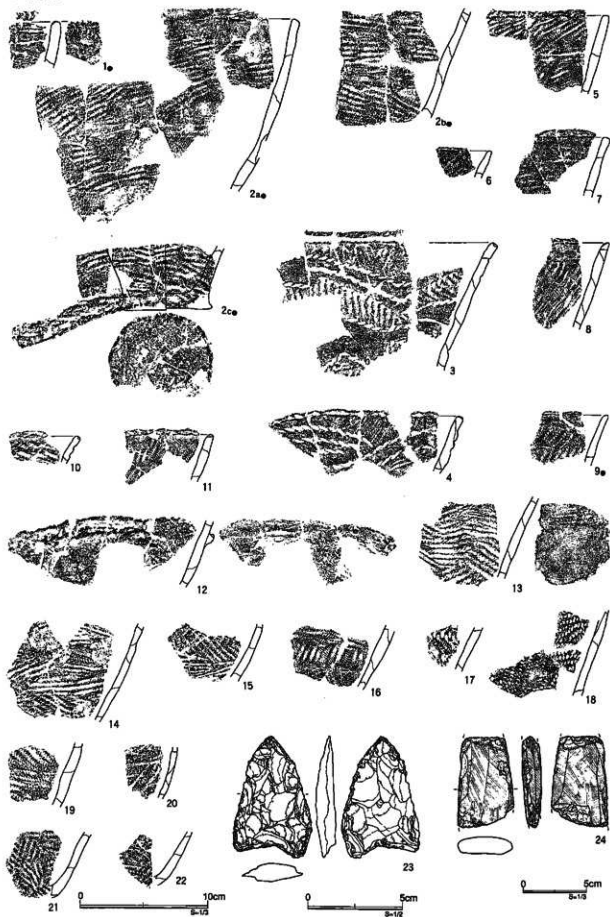
1はI群a類、2~22はI群b-1類土器である。1はHP-2から出土した口縁部である。口唇部には貝殻の腹縁を使用した刻みが、器面には刺突列を伴う沈線と度線文が施されている。内面には異なる方向の爪形の列が見られる。

2は底部の下端が張り出す平底の土器で、H-9・11、P-43の重複する3つの遺構から出土し接合したものである。口縁部は平縁で口唇の断面は丸形である。土器の表面には粘土の輪積や指の跡など製作時に付いた凹凸が多数見られるなど、比較的粗雑な作りが特徴である。口縁から胴部の文様は0段多条の原体による条の一部が水平に近い斜行縄文を主体としたもので、部分的に同じ原体の回転方向を変化させたものが加わる。更に、底部の張り出し近くの器面と底面には綾杉状の縄文が施されるなど文様構成は特徴的である。また内面には、幅の広い施工具による横方向の条痕が広く認められる。3・4・10は0段多条の原体で複数本の縄文を施した口縁部である。3・4は口唇断面が角形で複数本の縄を使って入り組んだ曲線による区画を描いたもので、その区画内には無文の部分と0段多条の斜行縄文が施される部分がある。各口唇部には斜めの刻みが施されており、施工具は3が0段多条の縄で、4は棒状のものが使われている。10は口唇に縄の斜めの刻みが施されたもので、その断面は丸形である。

5~9・11は0段多条の原体が使われた平縁の口縁部で、器面の文様は5~8・11が斜行縄文、9が羽状縄文である。口唇の断面は5・7が角形で5の口唇には器面と同じ文様が施文される。6・8・11は先細りの丸形で、8・9・11の口唇は外に向かって僅かに開く。8・11の口唇部には縄の刻みが施されている。

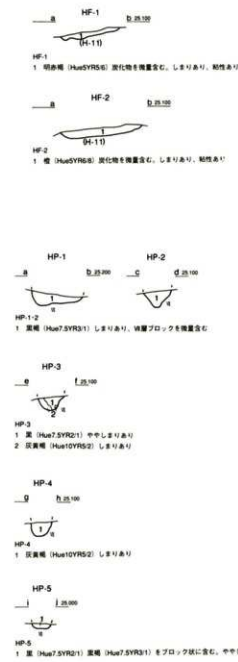
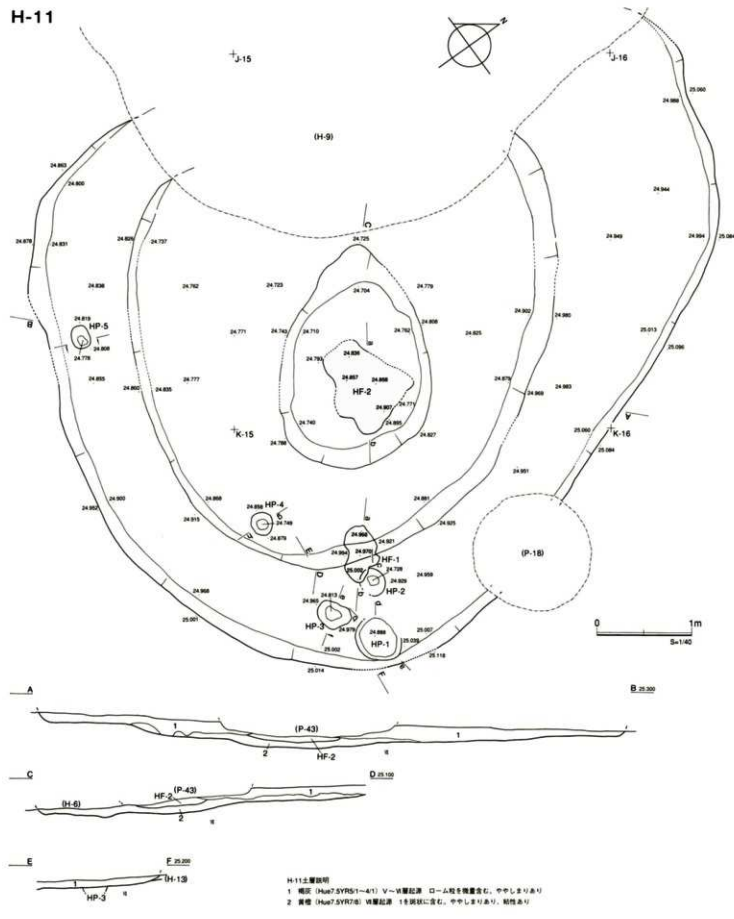
12は粘土紐を横位に貼り付けた底に近い胴部である。器面には0段多条の斜行縄文が施され、粘土紐はその地文の上から貼り付けられている。貼り付けの断面は山形を呈し、器面には茎状の道具による刻みですりつけている。13・14・20は綾杉状縄文が羽状に施された胴部である。13の内面には不鮮

I 住居跡



図III-36 H-11の遺物

H-11



H-11(主要部) 1 検定 (Hua7 SVR3) 4-1) V-埋蔵記録 □-土坑を埋蔵含む、ややしまりあり 2 検定 (Hua7 SVR7) 埋蔵記録 1を現状に含む、ややしまりあり、陥凹あり

図III-37 H-11

明ながら条痕が見られる。20は撚りが乱れて撚糸の様な施文になっている。15～22は羽状縄文が施された胴部である。原体は15～17・19・20が0段多条、18・22が二段単節である。15は器面下位に撚糸文が施され、17は結束の羽状縄文である。21・22は尖底部に近い部位のものである。

23は石楕。玄武岩製で左右非対称の形状である。基部は浅く内湾し、側縁はゆるく外湾する。二次加工は全体的に粗い。24は蛇紋岩製の石斧。

時期 床面から出土した土器から、縄文時代早期後葉I群b-1類土器の時期のものである可能性がある。

(立田 理)

H-12 (図III-38・39/図版III-24/表IV-3~5)

位置：M-12-b・c、M-13-a、N-12-a~d、N-13-a

規模：4.25×3.63/4.16×3.48/0.13m 長軸方向：N-79°-W

特徴 標高25～26mの緩斜面に作られた竪穴住居跡である。平面形は本来不整の円であったと思われるが、近・現代の削平で掘り込み面を含む遺構の上位を失っていること、更に初期段階の調査で遺構の検出に手間どりNラインより上のグリッドにかかる部分を失ったことなどにより、形態や規模など本来の姿を留めていない。表土を除去したVI層中の面から竪穴内に堆積する薄いKo-gと黒褐色土が存在することにより遺構を確認した。周囲には近接してP-123・124・126が検出されている。

2層に分けられる覆土の中で、遺構確認の目印となったKo-gは覆土1層の腐植土に混じるものである。覆土2層はV層腐植土の自然流入と考えられる。掘り込み面は近・現代の削平で既に失われているが、覆土の堆積状況から考えて15～20cm上位のV層中に在ったと考えられる。竪穴の掘り込みはVI層にまで達しており、その底面はほぼ平坦である。床面は炉跡と考えられる焼土(HF-1・2・3)の確認レベルや遺物の出土状況から求めたもので、竪穴の掘り込みとほぼ同じレベルと考えられる。壁は斜面上方が床からの立ち上がりが緩やかなもので、下方側の壁の多くは欠失している。

炉跡と考えられる3ヵ所の焼土(HF-1~3)は、いずれも赤化の程度が弱く炉として使用された期間は極く短いものと考えられる。床面で検出された5箇所の小ピット(HP-1~5)は、僅かに入る腐植土から位置を確認したもので、この内HP-1・3~5は壁の近くに位置し巡るように配置されている。これらはいずれも小規模で深度も浅く、上屋は比較的簡易な構造の物であったと推定される。

遺物は土器がI群a類とb-1類、b-4類、III群a類土器とが出土しており、主体はI群b-1類で他はいずれも小破片である。石器類は石鏃・ドリル・両面調整石器・スクレイパー・すり切り残片、石鋸・台石などが見つかった。これらの大半は覆土2層から出土したもので、床面のものは少ない。

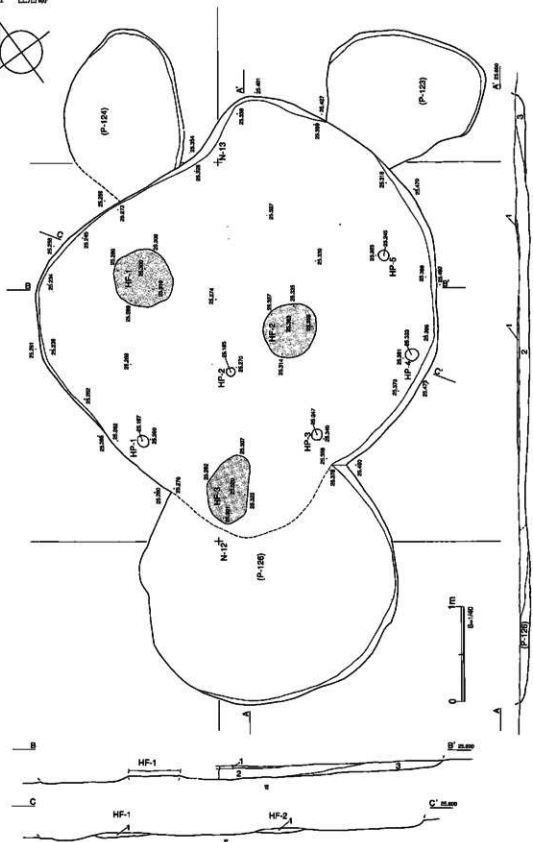
近接するP-123・124・126は壁の一部を重複させながらこのH-12を取り巻くように位置する。各遺構の底面レベルは近い値で、その重複の先後はトレンチ断面にその痕跡が認められず、含まれる土器も同じI群b-1類であることから、これらに時期差はなくH-12の機能を補うために追加された遺構と考えられる。簡易な作りのH-12ゆえに再び作り直すのではなく、P-123・124・126はH-12に対して追加もしくは拡張した関連遺構の可能性がある。

遺物 1はI群a類、2~9はI群b-1類土器である。床面出土のものは6だけである。1は無文の口縁部である。内面には幅の細い条痕が広く見られる。

2・3は口唇が外に向かって開き気味の口縁部で内面には無数の擦痕が見られる。2は口唇の断面が角形で、その口唇部には二段単節の斜行縄文が施されている。口縁の文様帯には撚りの乱れた綾杉状縄文もしくは撚りの異なるものを軸に巻き付けた撚糸文が、胴部に口唇部と同じ原体で二段単節の斜行縄文が施される。3はP-123出土のものと同接した尖底器形の土器である。器面には撚りの異なる0段多条と二段単節との結束羽状縄文が施されている。同じものが9にも見られるため同一個体の

H-12

1 住居跡



H-12本層平面図

- 1 溝跡 (Hm2.570x0.70) V層掘削時にNo.5号坑内に埋じる。しまりなし。形状は少ない
- 2 溝 (Hm2.570x0.70) V層掘削土層上
- 3 土坑 (Hm2.570x0.70) 埋土を伴って掘削された土坑は、V層掘削土層に埋じる。しまりあり。形状あり

HF-1-2-3

1 焼土塊 (Hm2.570x0.70) 溝C跡付近に出土

図III-38 H-12

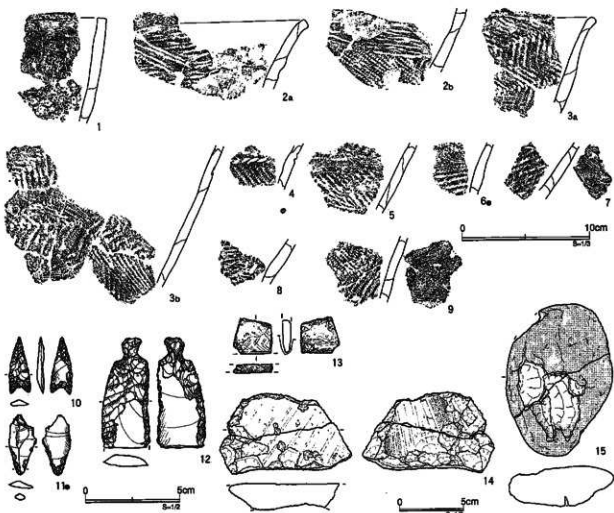
可能性がある。4は0段多条の縦線文と二段単節の斜行縄文が施される胴部である。5・6は細い粗紐の圧痕文と考えられるもの、8は綾杉状の縄文が施されている。7は0段多条の斜行縄文が施される尖底部の破片で内面には幅の細い貝殻条痕が施されている。

10は頁岩製の石鏃。基部は内湾し、左右非対称の形状である。裏面は素材面を残し、周縁部のみ二次加工が施される。11は床面出土の石鏃。両側縁にわずかに二次加工を施し、尖頭部を作り出している。12はつまみ付きナイフで下部を欠失する。表面と裏面の右側縁に二次加工が施され、裏面左側縁には微細な剥離痕が認められる。

13は石鋸。14は石皿もしくは台石片。共に凝灰岩製。15は礫で焼成を受けており赤褐色化が著しい。使用によるものと考えられる剥離が表面にみられる。

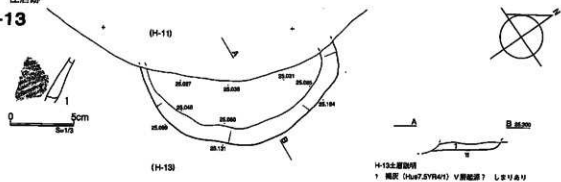
時期 主体となる土器から縄文時代早期後葉I群b-1類の時期と考えられる。

(皆川洋一)

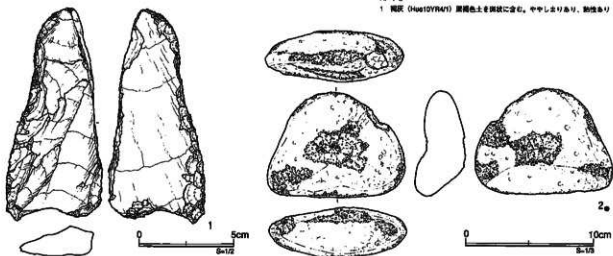
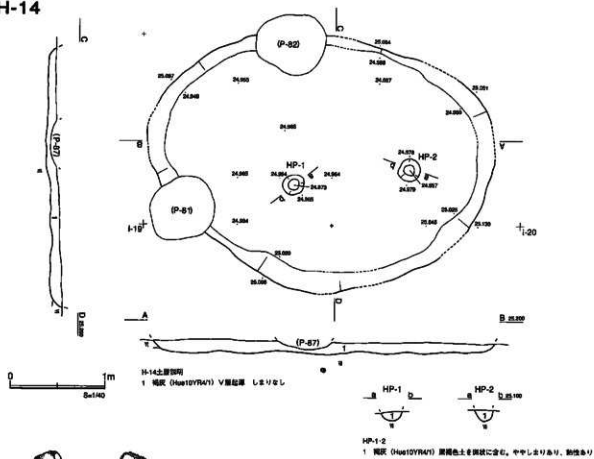


図III-39 H-12の遺物

I 住居跡
H-13



H-14



図III-40 H-13・H-14と遺物

H-13 (図III-40/図版III-24/表IV-3・4)

位置：K-15-b・c

規模：1.99×1.68/1.70×0.49/0.08m 長軸方向：N-29°-E

特徴 調査区南西部の平坦面に位置する。H-11の上面を精査中、H-11に切られる、張り出し状の落ち込みを検出した。H-11の調査終了後、中心を通るようにトレンチを設定してⅦ層まで掘り下げると、緩やかな立ち上がりを有する浅い落ち込みであることがわかった。平面形は確認された部分ではほぼ半円形を呈する。壁は緩やかで床は平坦である。

遺物 覆土から土器はI群b-2類土器、I群b-1類土器、I群a類土器が少量出土し、石器等はフレイク、石核、礫が出土している。

1はI群b-1類の胴部である。器面には0段多条の斜行縄文が施される。

時期 覆土の状態や出土した遺物から縄文時代早期後葉I群b-1類土器の時期のものである可能性がある。(立田 理)

H-14 (図III-40/図版III-24/表IV-3・5)

位置：H-19-b・c、I-19-a・d

規模：3.64×2.70/3.30×2.37/0.12 長軸方向：N-49°-E

特徴 調査区西部の平坦面に位置する。P-82、P-81、P-87と重複するが、本遺構が最も古い。Ⅵ層上面を精査中に褐色の落ち込みを検出した。落ち込みの形状は北東-南西方向に長い楕円形である。平面形の長短軸に合わせてトレンチを設定した。Ⅶ層まで掘り下げたところ、壁と床を確認し、住居跡であることが判明した。平面形は南西-北東方向に長い楕円形である。壁は緩やかに立ち上がり、床は平坦である。付属施設は柱穴の可能性がある土壌が2基検出された。HP-1は中心から約40cm程南にずれている。HP-2は長軸上の北西側に壁から約80cm離れている。いずれも小規模である。

遺物 覆土中から土器はI群a類土器、I群b-1類土器が出土しているが、いずれも小破片で剥落も著しく未掲載とした。石器等は石鏃、スクレイパー、Uフレイクが各1点づつ、その他フレイクが20点などが出土している。床面からは土器の出土はなく、たたき石1点、フレイクが30点、礫片が1点出土している。

1はスクレイパー。玄武岩製で縦長剝片を素材とする。主に腹面側に二次加工を施し、1側縁にほぼ直線状の刃部を作り出す。2は安山岩のたたき石。全面に敲打痕がみられる。

時期 覆土の状態から縄文時代早期後葉I群b-1類土器の時期のものである可能性が高い。

(立田 理)

H-15 (図Ⅲ-41~44/図版Ⅲ-8・25・26/表Ⅳ-3~5)

位置: K-12-c、K-13-b+c、L-12、L-13

規模: 6.05×4.15/5.83×3.93/0.18m 長軸方向: N-20°-E

特徴 調査区南西部の平坦部分に位置する。H-6と重複するが、本住居跡が古い。Ⅶ層上面で火山灰の堆積を中心にした灰褐色土の落ち込みを検出した。落ち込みの形状は東西に長い長楕円形で、南東側は不整形の灰褐色土の落ち込みと重なっていた。トレンチ調査の結果、これらの落ち込みは、H-6、H-15の重複した2つの住居跡であることがわかった。H-15の平面形は確認した部分では、不整形である。断面形は中央部に向かって低くなるすり鉢状を呈する。付属施設は柱穴の可能性が高い土壌が7基検出された。住居跡南側と北東側の壁にやや近い平坦面で6基、住居跡中央にあるくぼみ部分の南側緩斜面に1基である。平坦面に位置する6基は西部分が不明であるものの、ほぼ同心円上に並んでいる。そのうち最も西側にあるHP-2は内傾しており、先端は尖っている。これ以外の土壌はほぼ垂直に掘られ浅く、大きさもばらつきがある。

遺物 床面からI群b-1類の土器がまとまって出土した。台石、石核等を伴っている(図Ⅲ-41)。

1はI群a類、2~18はI群b-1類、19はI群b-4類土器である。主体はI群b-1類で、床面出土のものは2・7・8・13・14・18である。これらには尖底器形のもの(2)と平底器形のもの(18)が含まれており、前者は「赤御堂式」新手法、後者は「東銅路Ⅱ式」新手法に相当すると考えられる。また、内面に条痕の見られるもの(1)や縄文の施されるもの(7)などもある。

1は波状を呈する口縁の一部で、断面角形の口唇には内外両面の角に貝殻の復縁による連続した刻みが施される。器面には口唇に沿う腹縁文が施されている。

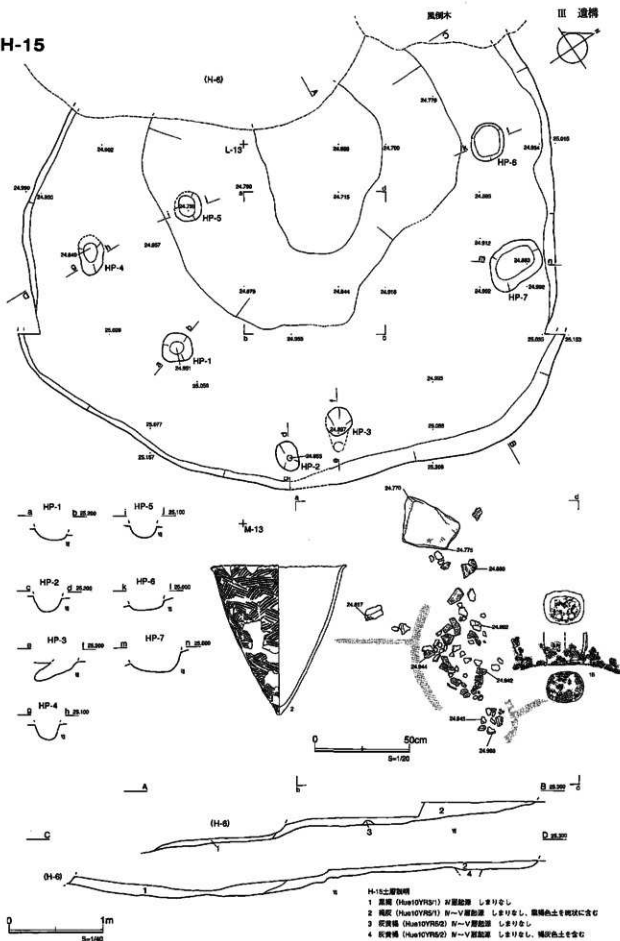
2は床面から出土した平縁尖底の復元個体である。器壁が薄く外に向かって開く口唇には茎状の施文具による向かって右からの斜めの刺突が連続して施されている。器面の文様は綾杉状縄文で羽状もしくは菱形を構成するものが全面に施されている。器面の色調は口縁部、胴部、底部で異なり、口縁部、底部で暗褐色を呈し、胴部には明褐色を呈する幅の広い帯が見られる。胴部の色調は煮沸などによって熱を受けた範囲と考えられるが、底部に熱を受けた痕跡が見られないのは特異な使用方法の結果によるものであろう。内面には指の跡など製作時の細い凹凸が顕著に観察される。

3~11は口縁部である。3は口縁に沿って器面に粘土紐を貼り付けたもので、その断面は薄錐形を呈す。口唇には先端が尖り気味の施文具による横からの刺突が施され、器面には二段単節の原体による羽状縄文が施される。4~6は口縁の文様帯に縄文が施されるものである。4は0段多条の縄文で区画された部分を同じ原体の斜行縄文で充填している。口唇部に施される横方向の刺突は縄の端部による。5は口縁が外に開くもので、口唇の刺突は縄もしくは細い棒状の施文具による横方向からのものである。縄文は二段単節の縄が使われ、地文は同じ原体の羽状縄文である。6の縄文の原体は0段多条で、口唇部には先端の平らな棒状の施文具による横からの刺突が施されている。

7~9は0段多条もしくは二段単節の原体が使われるものである。7は器面に同一原体で回転方向を変化させた羽状縄文が施されている。この原体は外に開く角形口唇に施される斜めの刻みや、内面の斜行縄文にも使われている。8・9の口唇部には茎状の施文具による右横からの刺突が施される。10は無文のもので、これはI群b-4類の可能性もある。11は綾杉状縄文の施されたもので、口唇部は外に向かって開く。

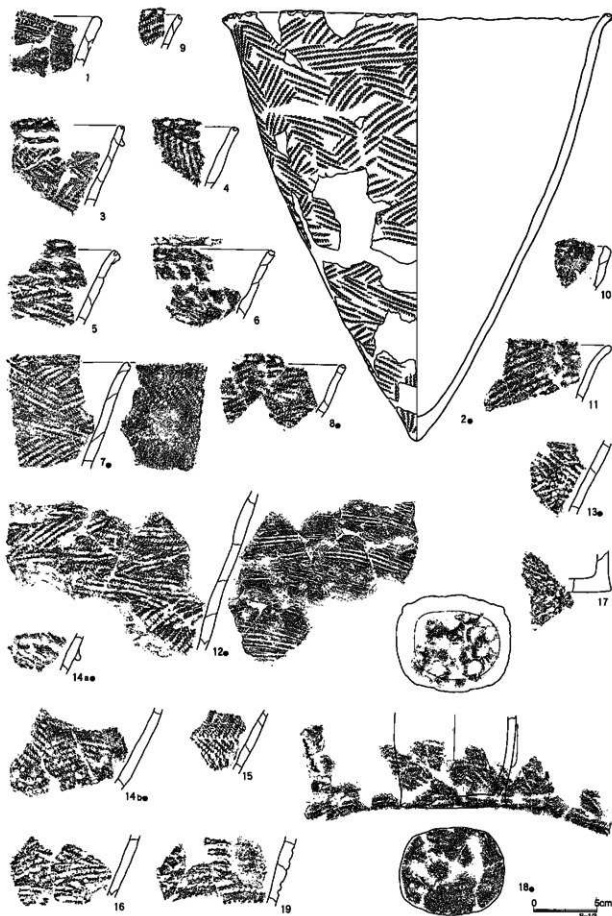
12~16は胴部である。12は同一原体による羽状縄文が施されたもので原体は二段単節と考えられる。内面には貝殻の条痕が認められる。13は器面に細い紐を羽状に施している。14は横位に粘土紐を貼り付けたもので、貼り付け後に地紋の羽状縄文を施している。原体は0段多条である。15・16は羽状

H-15

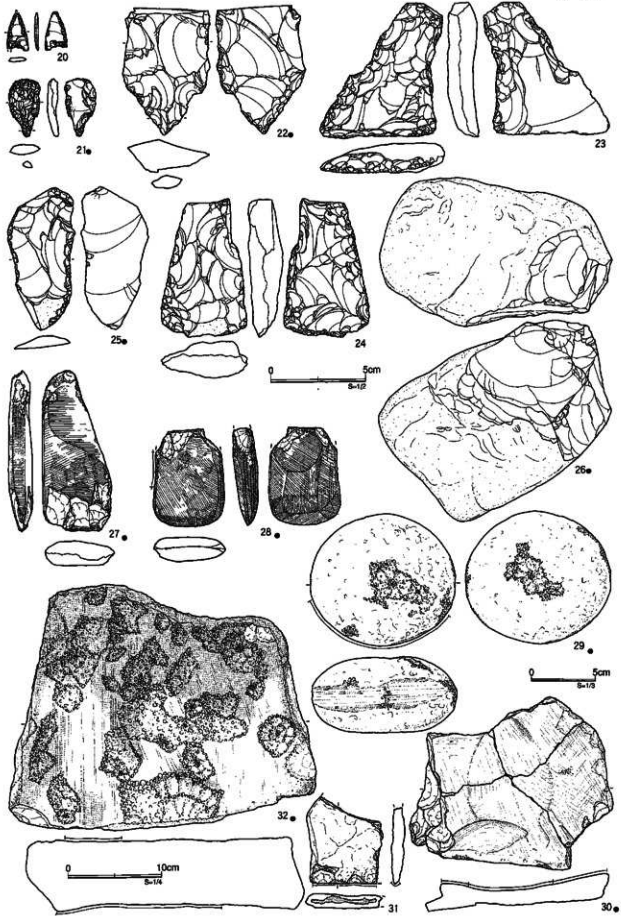


図III-41 H-15

1 住居跡



図III-42 H-15の遺物(1)



図III-43 H-15の遺物(2)

縄文の施されるもので、15は結束、16は同一原体による。

17・18は下端部が僅かに張り出す平底の底部である。17の器面には斜行縄文が施されている。18は底が小判形を呈するものである。器面には胴部に延びる縦の細い粘土紐の貼り付けと羽状縄文が施されており、貼り付けの上には縄のようなもので刻みが入る。羽状は片翼の条が水平近くまで寝るもので、施文原体は二段単節によると考えられる。内底面には指頭による刺突が面全体に施される特徴を持つ。

19は太い原体で縞糸文状の文様が施されるI群b-4類の胴部である。

20は頁岩製の石鏃。基部は内湾し、側縁はやや外湾する。薄い縦長剥片を素材としており、周縁加工が施され、両面共に素材面を大きく残す。21、22は石錐。どちらも床面出土で、つまみ部を有する。21は小形で、二次加工は表面のほぼ全面と裏面の側縁に施される。22は粗い加工で全体を整形し、尖頭部の作りも雑である。23、24は寛状石器。23は柄部が作り出されており、刃部は柄部に対して斜めにつく。刃部は急角度で、厚みがある。片刃で刃縁は直線状を呈する。24は両面加工のもの。片刃で刃縁は外湾し、やや凹凸がある。25は床面出土のスクレイパー。縦長剥片を素材とし、両側縁に浅い二次加工により刃部を作り出す。刃部は薄く両側縁共に外湾する。26は石核。めのう製で裸の一端を打面にしてフレイクを数枚取っている。

29～32は礫石器。27、28は泥岩製の石斧。27は使用によるものか、刃部先端が打撃による潰れと、それによる剥離痕がある。29は安山岩のたたき石。擦り石に転用している。31は流紋岩の板状礫の縁辺を刃部とした石鋸。30は凝灰岩の石皿もしくは台石片。幅の細い研ぎ溝があり、砥石に転用された可能性がある。32は凝灰岩製の石皿もしくは台石。焼成を受け赤褐色化している。

時期 床面出土の土器から縄文時代早期I群b-1類土器の時期のものとみられる。(立田 理)

2 土墳

2 土墳

P-1 (図Ⅲ-45Ⅲ- / 図版Ⅲ-9・27Ⅲ- / 表Ⅳ-3~5)

位置: Q-32-c、Q-33-b 規模: 1.39×1.12/0.85×0.65/0.59m

長軸方向: N-6°-E

特徴 長軸がほぼ南北の限丸長方形の土墳墓である。Ⅵ層の上面で黒褐色土の輪郭を確認し調査を行った。覆土は5つの層に分けられ、土質から大きく2つに性格分けが出来る。1つはⅥ層の腐植土を主体とするもので覆土1層がこれに相当する。もう1つはⅧ層のローム質土を主体とするもので覆土2~4層が相当する。後者は掘り上げた土を埋め戻したもので、前者は遺体が朽ちて陥没した部分に流れ込んだ土と考えられる。このことから考えて掘り込み面はⅤ層下位からⅦ層上位と推定される。

墳底はほぼ平坦に作られ、底から緩やかに立ち上がる壁はそのまま広がりがながら墳口へ続く。墳底からは埋納された土器と石器が出土しており、土器はⅠ群b-1類の尖底土器が東壁近く、石器は黒曜石製の両面調整石器片といくつかに割れた石刃状剥片が北壁近くから見つかっている。墳底付近からは炭化材の出土が目を引き、これは埋葬時に、散布された可能性がある。

遺体は既に朽ちて痕跡も認められないが、穴の規模から考えて「屈葬」もしくはそれに類した埋葬形態が取られた可能性が高い。

なお、墳底中央から出土した炭化材試料(Beta-126222)に関して AMSによる炭素年代測定を依頼した結果、暦年代 BC5,820y のデータが得られている(第Ⅴ章3節)。これは、H-2やH-7の値に近いもので、出土した土器の型式から見ても矛盾しない。

縄文時代早期後葉の赤御堂式土器を伴う土墳墓は、道内でも珍しく恐らく初めての出土例と考えられる。本遺跡内では同土器を伴う住居群も見つかっており、この土墳墓はこれらと一体をなすものであろう。

遺物 1は墳底から出土したⅠ群b-1類の尖底土器である。断面が丸形の口唇部は外に向かって僅かに開き、胴部も僅かに膨らむ器形を持つ。主に製作時の粘土の接合部で凹凸が著しく、またその部分からの破損も多く見られる。内面には先に丸みを帯びた篋状の道具による横方向の調整が見られ、あたかも糸痕の様相を呈している。器面には燃りの異なる二段単節と0段多糸の縄で乱れた羽状縄文が施されている。

口縁の内面には薄い炭化物の付着が認められることから、少なくとも1回以上使用されてから埋納されたと考えられる。しかし、その使用もそれほど多くなく規模も小型で強度にやや疑問が残ることから埋納用に製作され、埋葬に伴う儀式的なものに使用されたとも考えられる。

2はスクレイパー。2点が接合したもので、黒曜石製で3と同一個体である。両側縁に細かい二次加工による抉り部を作り出しており、分類上はスクレイパーとした。両側縁の抉りはほぼ対向している。打面部及び末端部が欠失するが、石刃素材と考えられる。素材には側縁に平行する稜線が2本認められる。背面右側に自然面を残す。また、石核調整と考えられる加工が認められ、稜付き石刃の可能性が高い。厚みがあり、断面は三角形に近い形状を呈する。黒曜石原産地分析では白滝村赤石山産という結果が出ている(Ⅴ章1節参照)。3は2と同一個体であり、接合関係は認められないが、2より打点に近い部分と考えられる。背面の左側縁下部に微細な剝離痕が認められる。2と同様背面側の側縁に平行する稜線が2本認められる。また、右側には自然面を残す。4は両面調整石器。上部が欠失しており、石鎌の基部である可能性が高い。両面に丁寧な二次加工が施されている。現存部分はほぼ左右対称で基部は浅く内湾する。黒曜石原産地分析では白滝村あじさい滝産という結果が出ている(Ⅴ章1節)。

2 土壌

時期 埋納された土器と年代測定の値から縄文時代早期後葉 I 群 b-1 類の時期である。(皆川洋一)
P-2 (図Ⅲ-45/図版Ⅲ-27/表Ⅳ-3~5)

位置: K-22-d 規模: $0.39 \times 0.33 / 0.16 \times 0.11 / 0.10\text{m}$

長軸方向: N-55°-W

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I 層を除去後、VII 層において黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壌と認定した。平面形はほぼ円形である。壁の立上りは急であり、墳底との境は明瞭である。覆土は、V 層土より粘性が低く、黒みが強い。覆土から大洞 C₂ 式の土器片が検出された。この土壌の掘込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い部分のみが確認できた。

遺物 1 は V 群 c 類鉢形土器の口縁部である。平縁の口縁に沿って 2 本の幅広で浅い沈線が巡らされている。器面には二段単節の原体で糸が縦の縄文が施されている。内面には炭化物の付着が見られる。

2 は石鏃。黒曜石製で、形状は左右非対称である。尖頭部が作り出されていないため未成品と考えられる。裏面は素材面を大きく残し、ほとんど二次加工が施されない。

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。

(袖岡淳子)

P-3 (図Ⅲ-45/表Ⅳ-3)

位置: K-22-b 規模: $0.77 \times 0.55 / 0.55 \times 0.37 / 0.11\text{m}$

長軸方向: N-37°-W

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I 層を除去後、VII 層において黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壌と認定した。平面形は楕円形である。耕作により墳底近くまで攪乱が進んでいたが、壁の立上りは急で、墳底との境は明瞭である。墳底は平坦である。覆土は、V 層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の掘込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い部分のみが確認できた。

遺物 掲載する遺物はない。

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。

(袖岡淳子)

P-4 (図Ⅲ-45/表Ⅳ-3)

位置: L-26-d 規模: $(1.76) \times 1.68 / 0.67 \times 0.70 / -\text{m}$

長軸方向: N-55°-W

特徴 調査区中央よりやや東に位置する。I 層を除去後、V 層において黒色土と黄褐色土の混じる覆土をもつ明瞭な落ち込みを検出した。半載したところ、墳底から多数の礫と昭和初期頃と推測される鉄製の耕作具の一部分を検出した。このことからこの土壌は近・現代のものと認定し、調査の対象外とした。

遺物 掲載する遺物はない。

時期 近・現代の土壌と考えられる。

(袖岡淳子)

P-5 (図Ⅲ-45/表Ⅳ-3)

位置: K-22-d 規模: $0.47 \times 0.40 / 0.23 \times 0.19 / 0.16\text{m}$

長軸方向: N-10°-W

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I 層を除去後、VII 層において黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壌と認定した。平面はほぼ円形である。壁の立上りは急で墳底との境は明瞭である。覆土は、V 層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の掘込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い部分のみが確認できた。

遺物 掲載する遺物はない。

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。

(袖岡淳子)

P-6 (図III-46/表IV-3)

位置: O-22-c

規模: 0.74×0.70/0.63×0.52/0.10m 長軸方向: N-87°-W

特徴 調査区中央部の平坦面に位置する。VI層上面を精査中に黒褐色土の不整形の落ち込みを検出した。中心を通るように十字にトレンチを設定してVII層まで掘り下げ、浅い皿状の壁・墳底を確認した。平面形は不整形、壁は緩やかである。墳底は小さなくぼみが多く、でこぼこしている。覆土は炭化物を含んでいる。

遺物 覆土からI群a類土器、I群b1類土器、Rフレイク、フレイク、礫等が出土している。

時期 覆土の状態、平面形、規模から縄文時代晩期V群c類土器の時期である可能性が高い。

(立田 理)

P-7 (図III-46/図版III-27/表IV-3・4)

位置: M-18-c・d

規模: 1.14×1.11/1.02×0.96/0.17m 長軸方向: N-41°-W

特徴 調査区南部の平坦面に位置する。VI層上面を精査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ壁、墳底を確認し、土壌であることがわかった。平面形は西側がややつぶれる不整形である。壁はやや急で、墳底と緩やかに連続している。墳底は平坦である。

遺物 覆土からI群a類土器がややまとまって出土している。埋没過程で流れ込んだものと思われる。

1はI群a類の口縁部と胴部である。小型の山形突起を備え、断面角形の口唇の内外両面には連続する貝殻腹縁文が施されている。器面に施されているのは腹縁文、刺突文、条痕文などである。

時期 覆土の状態から縄文時代早期のものである可能性が高い。

(立田 理)

P-8 (図III-46/表IV-3)

位置: Q-20-d 規模: 1.01×0.93/0.77×0.74/0.26m

長軸方向: N-35°-E

特徴 VI層上面を掘り下げていたところ、暗褐色土の落ち込みを検出する。半載したところ明瞭な堀込みを確認し、土壌と認定した。平面形は円形である。墳底は平坦である。壁の立上りは急で、墳底との境は明瞭である。覆土は黒色土にローム質土が多く混じる。自然に埋没したものと考えられる。

遺物 覆土4層からI群a類土器と、覆土2層から台石もしくは石皿が1点出土している。

時期 縄文時代早期と考えられる。

(袖岡淳子)

P-9 (図III-46/図版III-27/表IV-3・4)

位置: K-16-a 規模: 0.58×0.37/0.36×0.22/0.20m

長軸方向: N-72°-W

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VII層において黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壌と認定した。平面形は楕円形である。壁の立上りは急で墳底との境は明瞭である。墳底は平坦である。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の堀込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い部分のみが確認できた。

遺物 1はIII群a類の口縁部である。口唇部には細い粘土紐の貼り付けがなされ器面にはRLの斜行縄文が施される。

2 土壌

時期 縄文時代晩期と考えられる。

(袖岡淳子)

P-10 (図Ⅲ-46/図版Ⅲ-9/表Ⅳ-3)

位置: I-16-d

規模: $0.72 \times 0.59 / 0.49 \times 0.49 / 0.12\text{m}$ 長軸方向: N-59°-W

特徴 調査区南西部の平坦面に位置する。VI層を精査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ壁、墳底を確認し、土壌であることがわかった。平面形は南西側がやや膨らむ円形である。壁は急であるが、南西部分ではやや緩い。墳底は小さなくぼみが多く、でこぼこしている。覆土には炭化物を含んでいる。東に隣接してP-11があるが、新旧関係は不明である。

遺物 覆土からI群a類土器等が出土している。

時期 覆土の状態、平面形、規模から縄文時代晩期V群c類土器の時期のものである可能性が高い。

(立田 理)

P-11 (図Ⅲ-46/図版Ⅲ-9/表Ⅳ-3)

位置: I-16-d

規模: $0.69 \times 0.60 / 0.46 \times 0.44 / 0.20\text{m}$ 長軸方向: N-79°-W

特徴 調査区南西部の平坦面に位置する。VI層上面を精査中に黒褐色土をまだら状に含む褐灰色土の落ち込みを検出した。半載して墳底と壁を確認した。平面形は東向きの卵形で、壁は緩やかで墳底と連続している。墳底には小さなくぼみが多く、でこぼこしている。

遺物 出土していない

時期 覆土の状態、平面形、規模から縄文時代晩期V群c類土器の時期のものである可能性が高い。

(立田 理)

P-12 (図Ⅲ-47/図版Ⅲ-9・27/表Ⅳ-3~5)

位置: O-23-b 規模: $0.98 \times 0.85 / 0.79 \times 0.63 / 0.28\text{m}$

長軸方向: N-60°-E

特徴 VI層上面を掘り下げていたところ、暗褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壌と認定した。平面は円形である。壁の立上りは急であり、墳底との境は明瞭である。墳底は平坦である。覆土は黒色土にローム質土を多く含むものである。自然に埋没していったものと考えられる。周辺にはIb-4類土器の小破片が集中的に出土した。その遺物の集中区域を切るようなかたちで土壌は掘込まれていると考えられる。

遺物 遺物は出土していない。

時期 縄文時代早期末か中期と考えられる。

(袖岡淳子)

P-13 (図Ⅲ-47/図版Ⅲ-28/表Ⅳ-3)

位置: Q-23-a 規模: $0.79 \times 0.74 / 0.44 \times 0.44 / 0.16\text{m}$

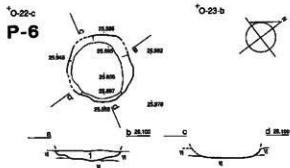
長軸方向: N-23°-W

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VI層において黒褐色土の落ち込みを検出した。平面形はほぼ円形である。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壌と認定した。壁の立上りは急で墳底との境は明瞭である。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の掘込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い部分のみが確認できた。

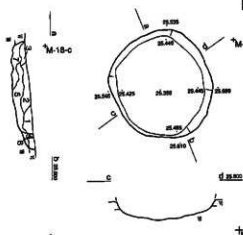
遺物 IはI群b-4類の深鉢形土器である。口縁には低い山形の突起が備わり、底部に近い胴部には一段の括れが作られている。器面には撚りの異なる2本の原体で撚糸文風の羽状縄文が施されている。

2は擦り石。凝灰岩製。焼成を受けており、赤褐色化と炭化物の付着が著しい。

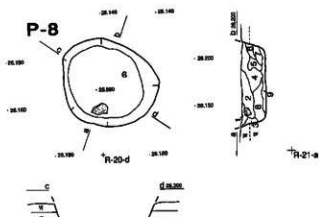
III 遺構
P-7



P-6土層説明
1 基 (Hae7.5YR2/1) N-V層ベース, 1m程度の炭化物・1m以下のローム粒を少量含む。ややしるる

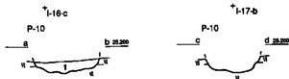
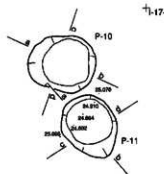


P-7土層説明
1 基構 (Hae7.5YR3/1) V層を母材とする。ややしるりあり
2 基 (Hae7.5YR2/1) V層を母材とする。ややしるりあり
3 地盤 (Hae10YR7/4) V→V層地盤。V層を炭粒に含む。ややしるりあり
4 地盤 (Hae10YR7/4) V→V層地盤。V層を炭粒に含む。しるりあり
5 地盤 (Hae10YR7/4) V→V層地盤。しるりあり
6 地盤 (Hae10YR2/2) V→V層地盤。V層ブロックを含む。しるりなし
7 炭層 (Hae10YR7/8) V層を多く含む。しるりなし



P-8土層説明
1 基構 (Hae10YR3/1) 黒色土を主体とする。ややわらわら土
2 基構 (Hae10YR2/2) 黒色土を主体とする。ややしるる土
3 基 (Hae10YR4/2) V層を主体とする。地盤の黒色土
4 地盤 (Hae10YR4/2) V層上に黒色土が薄層に覆じる。ややわらわら土
5 基 (Hae10YR2/1) 黒色土を主体とする。ややわらわら土
6 基 (Hae10YR4/2) V層上に黒色土が薄層に覆じる。ややしるる土
7 地盤 (Hae10YR2/2) 黒色土に少量の炭粒を含む。ややしるる土
8 基 (Hae10YR2/1) 黒色土にV層土が薄層状に覆じる。ややしるる土
9 にかい潰屑 (Hae10YR3/2) V層上に黒色土が薄層に覆じる。ややしるる土

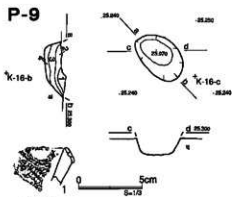
P-10
P-11



P-10土層説明
1 基構 (Hae7.5YR3/1) N-V層に1m以下の炭化物・1m以下のローム粒をブロック状に少量含む。ややしるりあり



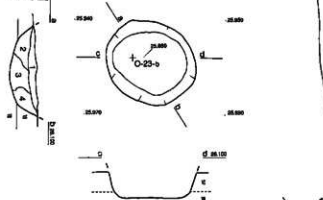
P-11土層説明
1 地盤 (Hae7.5YR4/1) N-V層地盤。1m以下の炭化物。ローム粒を少量含む。ややしるりあり
2 炭層 (Hae7.5YR3/1) N-V層地盤。1m以下の炭化物。ローム粒を含む。ややしるりあり
3 地盤 (Hae10YR2/2) N-V層地盤。1m以下の炭化物。ローム粒を少量含む。ややしるりあり
4 にかい潰屑 (Hae10YR7/4) N-V層地盤。ローム粒を少量含む。炭化物を少量含む。ややしるりなし
5 地盤 (Hae10YR7/1) N-V層地盤。炭化物。ローム粒を少量含む。ややしるりあり



P-9土層説明
1 基構 (Hae10YR2/1) 黒色土に炭化物を多く含む。
2 地盤 (Hae10YR3/4) 黒色土にV層土が薄層に覆じる。炭化物を多く含む
3 基 (Hae10YR1/1) 黒色土に炭化物を多く含む。
4 地盤 (Hae10YR2/2) 黒色土にV層土が薄層に覆じる。炭化物を含む

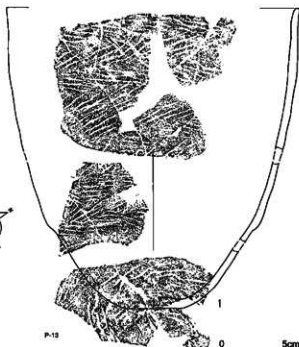
2 土壌

P-12

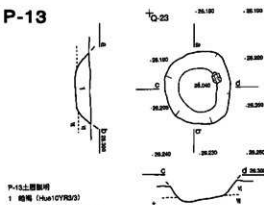


P-12土壌説明

- 1 粘層 (Hae10YR3/4) 黒色土にV、粘土が少量混入。ややしるる
- 2 腐 (Hae10YR6/4) 褐色土と黒褐色土 (Hae10YR3/4) の混雑体。ややしるる
- 3 にごい腐層 (Hae10YR5/3) 黒色土とV層土。粘土が混入。ややしるる
- 4 腐 (Hae10YR4/4) 褐色土と粘褐色土の混雑体。ややしるる



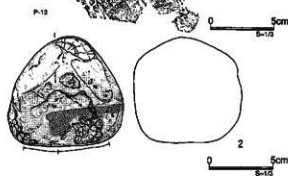
P-13



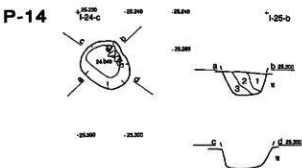
P-13土壌説明

- 1 粘層 (Hae10YR3/3)

ややしるる。炭化物を多く含む

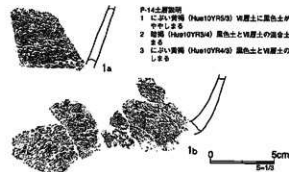


P-14

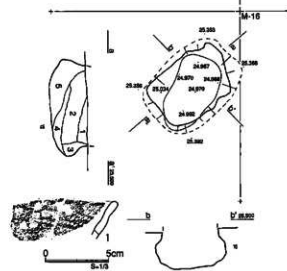


P-14土壌説明

- 1 にごい腐層 (Hae10YR5/3) V層土に黒色土が混入。ややしるる
- 2 粘層 (Hae10YR3/4) 黒色土とV層土の混雑土。ややしるる
- 3 にごい腐層 (Hae10YR4/3) 黒色土とV層土の混雑土。しるる



P-15



P-15土壌説明

- 1 腐層 (Hae10YR3/2) 炭化物を含む。V_h層にV_h層が混入。粘性に乏しい
- 2 腐層 (Hae10YR3/2) V_h層にV_h層が混入。粘性に乏しい。土層を混合
- 3 腐 (Hae10YR3/1) V_h層にV_h層が混入。粘性に乏しい。粘土あり
- 4 粘層 (Hae10YR3/2) V_h層にV_h層が混入。粘性に乏しい。粘土あり
- 5 腐層 (Hae10YR3/2) 粘土あり。粘土あり。V_h層にV_h層を混合



図III-47 P-12~15

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。

(袖岡淳子)

P-14 (図Ⅲ-47/図版Ⅲ-28/表Ⅳ-3・4)

位置: I-24-c 規模: 0.54×0.45/0.37×0.28/0.25m

長軸方向: N-70°-E

特徴 VI層上面を掘り下げているところ暗褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ明瞭な掘込みを確認し、土壌と認定した。平面形は円に近い楕円である。覆土は黒色土にローム質土を多く含む暗褐色土である。遺物はb-4類土器と鏝2点が覆土中で確認されている。

遺物 1は綾格文の施されたI群b-4類の深鉢形土器胴部と底部である。

時期 縄文時代早期と考えられる。

(袖岡淳子)

P-15 (図Ⅲ-47/図版Ⅲ-28/表Ⅳ-3・4)

位置: M-15-d, M-16-a 規模: 0.93×0.66/1.06×0.79/0.40m

長軸方向: N-31°-W

特徴 平面形が不整の長楕円を呈すフラスコ状ピットである。確認面はVI層上面で、覆土には崩落のローム質土と流れ込みの腐植土が混じるものである。掘り込み面はV層中と考えられる。遺物は平面中央の覆土下位からまとまって出土しているが、これらは流れ込みと考えられる。南側の比較的近い位置にH-1が見つかっており、関連する可能性がある。

遺物 1は低い山形突起のあるI群b-1類の深鉢形土器口縁部である。器面には二段単節の斜行縄文が施されている。

時期 H-1の近くに位置すること、覆土の遺物から縄文時代早期の中～後葉(I群a類～I群b-1類)と考えられる。

(皆川洋一)

P-16 (図Ⅲ-48/表Ⅳ-3)

位置: P-14-b, Q-14-a 規模: 0.53×0.41/0.72×0.49/0.39m

長軸方向: N-47°-E

特徴 平面が不整楕円形を呈するフラスコ状ピット類似の小型土壌である。覆土はV層腐植土で充填されており、I群b-1類土器の小片やフレイクなどの遺物はこの腐植土と共に流れ込んだと考えられる。確認はVI層上面での黒色土の輪郭によるもので、掘り込み面はV層下位からVI層上面と考えられる。本土壌に接してF-31がV層中から検出されているが、位置と本土壌の掘り込み面から考えてこれらは関連する可能性が強い。この焼土とフラスコ状ピット類似の小土壌のセットは1つのパターンを形成すると考えられ、遺跡内での類例にはF-23・25・26とその周囲の小土壌、F-12とその周囲の小土壌などが上げられる。この土壌の性格は、火を使う作業場に作られた貯蔵用の穴などが考えられる。

遺物 掲載遺物無し。

時期 類例遺構セットの各位置と遺物分布範囲の重複から、縄文時代早期中～後葉(I群a類 or I群b-1類)の時期と考えられるが、V層腐植土との関り具合から見てI群b-1類の時期の可能性がやや強いと思われる。

(皆川洋一)

P-17 (図Ⅲ-48)

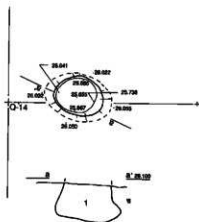
位置: Q-25-a 規模: 1.07×0.87/0.89×0.55/0.32m

長軸方向: N-36°-E

特徴 V層を掘り下げているところ、暗褐色土の落ち込みを検出した。半載してみたところ明瞭な掘込みを確認し土壌と認定した。平面形は楕円形である。墳底部から8cm程度まっすぐに立上り、それより墳口部までは外反している。覆土は底部と外反する墳口部の境で2層に分けられ、下層は暗褐色

2 土壌

P-16

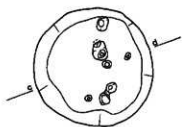


P-16土壌説明
1 黒 (Hue5YR1.7/1) V層腐植土を主体とする土壌

K-15-d

K-16-a

P-18



K-15-c

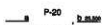
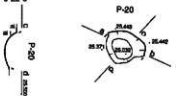
K-16-b



P-20

J-22-a

J-23-b



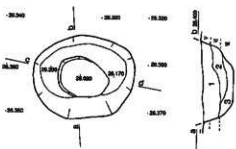
P-20土壌説明
1 黒層 (Hue7.5YR2/2) V層土が主体でW層土を少量混入する。ローム数は少量含む。しまりやや中あり、粘性あり



P-17

Q-25-d

Q-26-a



Q-25-c

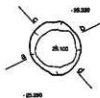
Q-26-b



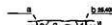
P-17土壌説明
1 黒 (Hue10YR1.7/1) 黒色土を主体とする。やや中からかい
2 暗層 (Hue10YR3/4) 黒色土にW層土が混入している。炭化物を若干含む。ややしまる
3 にかい質層 (Hue10YR5/2) 黒色土にW層土が多く混入している。しまる

P-19

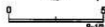
25.200 25.200



J-24



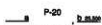
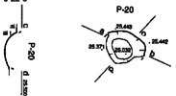
P-19土壌説明
1 にかい質層 (Hue10YR6/4) W層を主体とする。しまる
2 暗層 (Hue10YR3/4) 黒色土とW層土の混合土。炭化物を混入。ややしまる
3 にかい質層 (Hue10YR5/2) W層に黒色土が混入する。しまる
4 暗層土 (Hue10YR3/4) 黒色土にW層土が混入している。ややしまる
5 暗 (Hue10YR4/4) W層土に黒色土が混入している。ややしまる



P-20

J-22-a

J-23-b

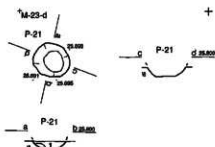


P-20土壌説明
1 黒層 (Hue7.5YR2/2) V層土が主体でW層土を少量混入する。ローム数は少量含む。しまりやや中あり、粘性あり



P-21

P-21



P-21土壌説明
1 黒 (Hue7.5YR2/1) V層土を主体とする。ローム数は少量含む。炭化物・粘土質を少量含む。しまりやや中あり 粘性あり
2 黒層 (Hue7.5YR2/1) V層土を主体とする。ロームがブロック状に混入している。しまりやや中あり 粘性あり

図III-48 P-16~21

を呈し、ローム質土を多く含む。外反する墳口部までの覆土は下層より黒みが強い。自然埋没によるものと考えられる。

遺物 遺物は出土していない。

時期 縄文時代早期と考えられる。

(袖岡淳子)

P-18 (図III-48/表IV-3)

位置: K-15-d

規模: $1.26 \times 1.25 / 1.00 \times 0.97 / 0.33\text{m}$ 長軸方向: N-72°-W

特徴 調査区南西部の平坦面に位置する。H-11と重複し、本遺構が新しい。H-11の上面を精査中にローム粒が混じる灰褐色土の落ち込みを検出した。平面形は円形で墳底は平坦であるが、墳底には根跡状の小規模なピットが計7基ある。土層はI層を基調として、VII層とみられる黄褐色土、IV、V層相当とみられる黒褐色土を含むよれた土である。

遺物 覆土中からI群a類土器、石鏃等が出土しているが、全て掘削の際の混入とみられる。

時期 現代の農機具が出土しているP-4と平面形、土層の状態が類似するため、現代の攪乱であるとみられる。

(立田 理)

P-19 (図III-48図版III-28/表IV-3・5)

位置: I-23-c 規模: $0.58 \times 0.53 / 0.40 \times 0.42 / 0.23\text{m}$

長軸方向: N-73°-W

特徴 VI層上面を掘り下げていたところ、暗褐色土の落ち込みを検出した。半載してみたところ明瞭な掘込みを確認し土壇と認定した。平面形は円形である。覆土はローム質土を多く含む暗褐色土である。5層に分層できる。墳底面は平坦で明瞭に立ち上がる。

遺物 石鏃が1点出土している。

11は石鏃。黒曜石製で柳葉形を呈し、先端部をわずかに欠失する。丁寧な二次加工により薄身で精巧に仕上げられている。

時期 縄文時代早期と考えられる。

(袖岡淳子)

P-20 (図III-48/表IV-3)

位置: K-23-c 規模: $0.45 \times 0.35 / 0.19 \times 0.20 / 0.12\text{m}$

長軸方向: N-67°-W

特徴 VI層調査中に黒曜石製のフレイクの集中か所を見つけ、周囲の精査を行ったところ黒褐色土の落ち込みを確認した。ただし、南壁付近はすでに掘り下げていたため、確認面の形状は不明である。平面形は確認面、墳底部共に、不整の楕円形と推定される。墳底はやや凹凸があるが全体としては皿状を呈し、東側に向かってやや傾斜する。

遺物 覆土中位から石核、フレイクがまとまって出土している。ほとんどが黒曜石製で、頁岩製のものもわずかである。黒曜石製のフレイクと石核は同一母岩のものであり、小形の円礫を原材としている。肉眼観察では豊泉産と推定される。

時期 規模、形態、覆土から縄文時代晩期V群c類の時期と考えられる。

(広田良成)

P-21 (図III-48/表IV-3)

位置: M-23-d 規模: $0.39 \times 0.34 / 0.21 \times 0.21 / 0.10\text{m}$

長軸方向: N-51°-E

特徴 VII層上面で黒色土の落ち込みを確認した。平面形は確認面、墳底部共にやや不整の楕円形である。壁の立ち上がりは南北方向ではゆるやかで、東西方向は急である。

2 土壇

遺物 出土していない。

時期 規模、形態、覆土から縄文時代晩期V群c類土器の時期の可能性が高い。(広田良成)

P-22 (図Ⅲ-49/表Ⅳ-3~5)

位置: N-14-d 規模: (0.89) × (0.83) / 0.47 × 0.40 / 0.50m

長軸方向: N-9°-E

特徴 H-1の覆土3層以下を切って掘り込んだ平面が不整の円形を呈する性格不明の土壇である。覆土は4層に分けられる。覆土1・2層はKo-gと腐植土の流れ込みで一部に木根の攪乱を受けている。覆土3・4層はローム質土の含まれる割合が高いものの、やはり流れ込みの可能性が高い。掘り込み面はH-1の覆土内で検出されたI群b-1類の生活面付近と考えられる。壇底には小さな凹凸があり、壁は緩やかに広がる。本遺構の覆土中に含まれる遺物の多くはH-1の覆土を切った際に紛れ込んだ可能性が高い。

遺物 1は下端が僅かに張り出すI群b-1類の底部である。器面には斜行縄文が施される。

2はつまみ付きナイフ。薄い縦長剣片を素材とし、二次加工はつまみの挟り部と周縁部に浅く施している。

時期 推定される掘り込み面から、縄文時代早期後葉I群b-1類頃のものと考えられる。

(皆川洋一)

P-23 (図Ⅲ-49/図版Ⅲ-9/表Ⅳ-3)

位置: L-22-a 規模: 0.66 × 0.63 / 0.35 × 0.40 / 0.16m

長軸方向: N-87°-E

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VI層において黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ、明瞭な掘り込みを確認し土壇と認定した。壁面の立上りは急で、壇底との境は明瞭である。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。ここからは多くの礫片が出土した。この土壇の掘込みが包含層の上部と考えられ、壇底に近い部分がVII層において確認できたものと考えられる。

遺物 掲載する遺物はない。

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。

(袖岡淳子)

P-24 (図Ⅲ-49/表Ⅳ-3)

位置: K-21-d 規模: 0.41 × 0.40 / 0.19 × 0.17 / 0.17m

長軸方向: N-55°-W

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VI層において黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壇と認定した。平面形は円形である。壁の立上りは急で壇底との境は明瞭である。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壇の構築面は包含層の上部とみられ、壇底に近い部分が確認できた。

遺物 遺物は出土していない。

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。

(袖岡淳子)

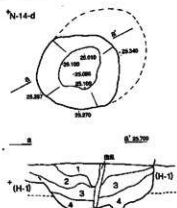
P-25 (図Ⅲ-49/図版Ⅲ-28/表Ⅳ-3・5)

位置: K-21-a 規模: 0.62 × 0.48 / 0.13 × 0.19 / 0.24m

長軸方向: N-46°-E

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VII層において黒褐色土の落ち込みを検出する。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壇と認定した。平面形は円形に近い楕円形であ

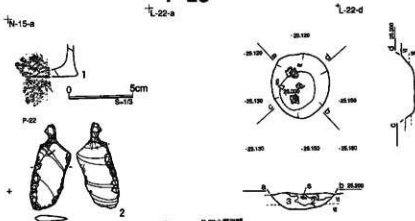
P-22



P-22土層説明

- 1 明溝 (Hue7.5YR6) K-g
- 2 黒層 (Hue2.5YR2) 腐植土 (V層) にプロック状のK-gが散在する。しりしりがあるが、粘性に乏しい。
- 3 土 (Hue10YR1.7/1) V層腐植土を主体とする土層。しりしりがあるが、粘性に乏しい。
- 4 黒層 (Hue10YR2/2) V層腐植土にW・K層が混ざり見える。

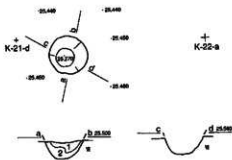
P-23



P-23土層説明

- 1 黒層 (Hue10YR1.7/1) 黒色・腐植土を主体とする。やや中やらかい。
- 2 粘層 (Hue10YR3/4) 黒色土にW層土が散在し混じる。炭化物を含む中やしめる。
- 3 にかい質層 (Hue10YR5/2) 黒色土にW層土より多く炭灰に混じりしめる。

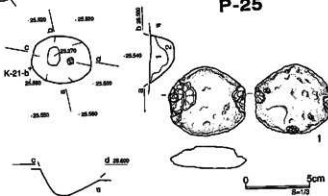
P-24



P-24土層説明

- 1 粘層 (Hue10YR3/1) 黒色土を主体とする土に炭化物が混じる。ややしめる。
- 2 黒層 (Hue10YR3/1) 黒色土と褐色土 (Hue10YR4/4) の割合ほぼ1割の土とW層土の腐植土混合土 ややしめる。

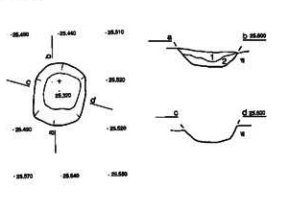
P-25



P-25土層説明

- 1 粘層 (Hue10YR3/2) 黒色土にW層土が混じる。ややしめる。
- 2 黒層 (Hue10YR4/4) W層を主体とする土に黒色土が散在し混じる。

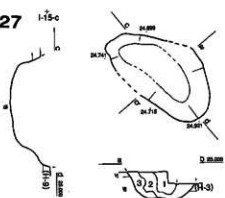
P-28



P-28土層説明

- 1 粘層 (Hue10YR3/4) 黒色土とW層の腐植土。強くしめる。
- 2 褐色土と腐植土の腐植土 (Hue10YR4-2/4) 強くしめる。

P-27



P-27土層説明

- 1 粘層 (Hue7.5YR4/1) N~V層粘層。K-g・W層を散在に少量含む。しりしりなし。
- 2 粘層 (Hue7.5YR3/1) N~V層粘層。K-g・W層を散在に少量含む。しりしりなし。
- 3 にかい質層 (Hue10YR6/4) W層粘層。しりしりなし。

図III-49 P-22~25・27・28

2 土壌

る。墳底部分は平坦であるがほかの同時期の土壌より狭い。掘り込みや土壌壁面の立上りは明瞭である。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の掘り込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い部分のみが確認できた。

遺物 1は石鍾。安山岩製。

時期 縄文時代晩期と考えられる。

(袖岡淳子)

P-26 (図Ⅲ-50/図版Ⅲ-28/表Ⅳ-3・4)

位置: G-18-d、G-19-a

規模: (1.21)×1.08/1.07×0.87/0.19m 長軸方向: N-67°-W

特徴 調査区西端の平坦部に位置する。G-18地区の調査区境でVI層を調査中に縄文時代晩期土器片がややまとまって出土した。付近を精査すると調査区外に延びる灰黄褐色の落ち込みがあることがわかった。そのため調査区を北西に約1m拡張し、V層上面で不整な長方形のプランを確認した。平面形はやや歪な長方形である。墳底は長軸を境にして南北で異なり、南側は平坦であるが、北側は同規模のくぼみが2つ並んだ状態を呈する。壁は比較的緩やかで、墳底との境界は不明瞭である。覆土は埋戻しの様相を呈し、炭化物が混じる。

遺物 検出面ではV群c類土器が土壌の中央付近にややまとまって出土している。また、覆土の中心でV群c類の高坏の脚部が座った状態で出土している。(図Ⅲ-50)その他覆土中からは、礫、炭化物も出土している。炭化物の中には2cm台の短冊状のものもある。墳底からは遺物は出土していない。

1~6は全てV群c類土器である。1は復元された小型の壺形土器である。口縁の向かい合う位置には対となる貫通孔があり、頸部には3条の浅い沈線と2つが対になる突起が4ヶ所付けられている。胴部に施されているのは細いLRの斜行縄文である。3・4は壺形文の施された浅鉢形土器で、3は口縁と胴部、4は底部である。4の口縁部には浅い平行沈線が多用されている。5は台付の鉢形土器であるが台の部分は欠失している。器面には条が縦になる縄文が施される。全体的に被熱による赤化が著しい。6は壺形文の施された台付鉢の台部分で、5とは別個体である。下端には2つが対になる突起と山形の突起が交互に巡らされている。これも全体的に赤化が著しい。

時期 覆土から出土した土器から、縄文時代晩期V群c類土器の時期のものとみられる。

(立田 理)

P-27 (図Ⅲ-49/表Ⅳ-3)

位置: I-15-c

規模: 1.28×0.67/0.86×0.31/0.30m 長軸方向: N-67°-E

特徴 調査区南西部の平坦面に位置する。H-3、H-9と重複するが、本遺構が最も新しい。H-3の覆土2層を調査中に黒褐色土が斑状に混じる黄褐色土の落ち込みを確認した。この落ち込みとH-3との関係を確かめるため、短軸上にトレンチを設定してVII層まで掘り下げた。その結果この落ち込みはH-3を切っていることを確認した。平面形は長楕円形、壁はやや急で、墳底はでこぼこしている。

遺物 覆土からフレイクが1点出土している。

時期 不明であるが、H-3を切っていること、また覆土の状態から、縄文早期以降の時期とみられる。

(立田 理)

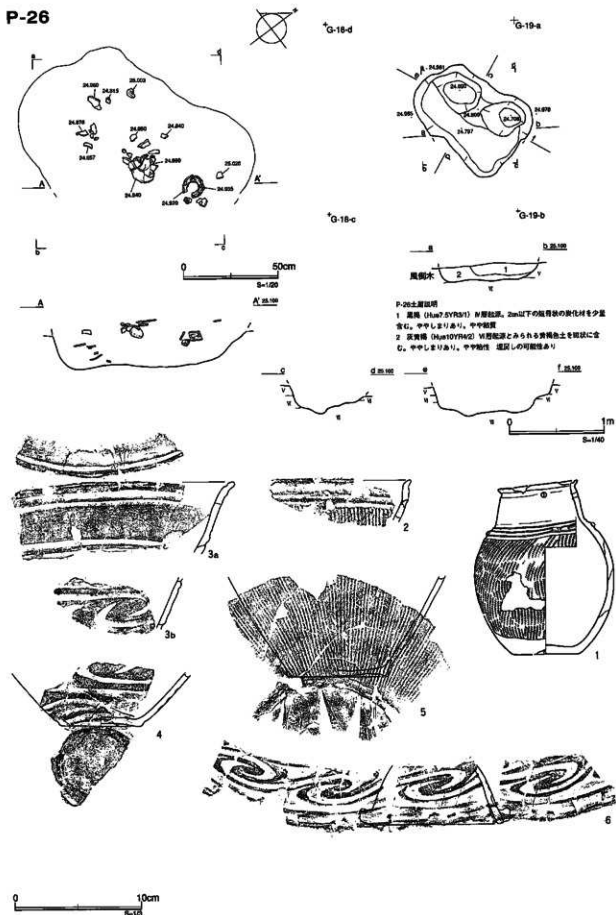
P-28 (図Ⅲ-49/)

位置: K-22-b 規模: 0.65×0.55/0.36×0.37/0.14m

長軸方向: N-55°-W

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VII層において黒褐色土の落ち込みを検

P-26



圖III-50 P-26

出した。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壌と認定した。平面形はほぼ円形である。壁の立上りは急で墳底との境は明瞭である。墳底は平坦である。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の掘込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い部分が確認できた。

遺物 掲載する遺物はない。

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。

(袖岡淳子)

P-29 (図Ⅲ-51/表Ⅳ-3)

位置：N-26-a、N-26-d 規模：0.23×0.20/0.08×0.11/0.23m

長軸方向：N-36°-E

特徴 V層上面でIV群b類土器を伴ったⅢ層土の落ち込みを確認した。確認面での平面形は円形である。墳底面は小さく、断面はやや尖る柱穴様のビットである。

遺物 覆土からI群a類土器、IV群b類土器が出土している。

時期 覆土の遺物及び遺構の掘込み面から、縄文時代後期IV群b類土器の時期と考えられる。

(広田良成)

P-30 (図Ⅲ-51/表Ⅳ-3)

位置：M-9-c 規模：0.67×0.58/0.43×0.47/0.11m

長軸方向：N-36°-E

特徴 平面が不整の円形を呈する性格不明の土壌である。VI層上面での確認だが覆土の状態と遺物から見て表土層から掘り込まれたと推定される。

遺物 掲載遺物無し。

時期 覆土の状態と遺物から近・現代と考えられる。

(皆川洋一)

P-31 (図Ⅲ-51/表Ⅳ-3)

位置：N-9-d 規模：0.71×0.61/0.35×0.41/0.15m

長軸方向：N-29°-W

特徴 平面が不整の円形を呈する性格不明の土壌である。VI層上面での確認だが覆土の状態とP-30との類似性から見て表土層から掘り込まれたと推定される。

遺物 掲載遺物無し。

時期 覆土の状態と遺物から近・現代と考えられる。

(皆川洋一)

P-32 (図Ⅲ-51/表Ⅳ-3)

位置：N-9-b・c 規模：0.74×0.64/0.45×0.41/0.06m

長軸方向：N-36°-E

特徴 平面が不整の円形を呈する性格不明の土壌である。VI層上面での確認だが覆土の状態とP-30との類似性から見て表土層から掘り込まれたと推定される。

遺物 掲載遺物無し。

時期 覆土の状態と遺物から近・現代と考えられる。

(皆川洋一)

P-33 (図Ⅲ-51/表Ⅳ-3)

位置：O-9-c 規模：0.56×0.51/0.39×0.33/-m

長軸方向：N-30°-E

特徴 平面が不整の円形を呈する性格不明の土壌である。VI層上面での確認だが覆土の状態とP-30との類似性から見て表土層から掘り込まれたと推定される。

遺物 掲載遺物無し。

P-29



P-29土層説明

1 盛積 (Hus7YR3/2) M+N>>W 炭化植物を多数含む。しまりや
やみり。粘性なし

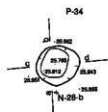
2 盛積 (Hus7.5YR3/2) M>W しまりあり。粘性あり

P-33

O-9-c



P-34



P-34土層説明

1 盛積 (Hus10YR3/2) V-W>>W しまりあり。粘性ややあり

2 盛 (Hus7.5YR4/2) M>>W しまりややあり。粘性ややなし

3 盛 (Hus7.5YR4/1) M>W しまりややあり。粘性ややあり

4 盛 (Hus7.5YR4/2) M>W しまりややなし。粘性ややあり

R-36-a

P-35

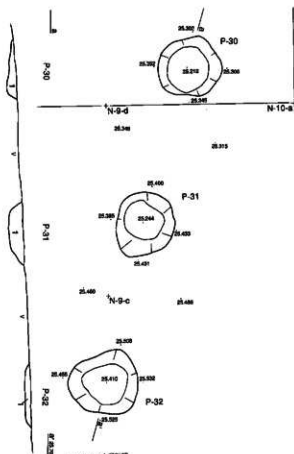
R-36-d



P-35土層説明

1 盛積 (Hus10YR2/2) V>>W 白色土を少量含む。しまりややあり。
粘性あり

P-30 P-31 P-32



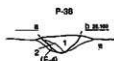
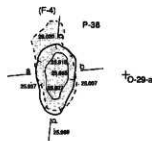
P-30P-31P-32土層説明

1 盛積 (Hus10YR2/2) 炭化土主体にKog-gが少量混じる。しまりな
し。粘性なし



P-38

O-28-d



P-38土層説明

1 盛積 (Hus10YR2/2) V>>W 粘土粒を少量含む。しまりややあ
り。粘性ややあり

2 盛積 (Hus5YR2/2) M-W>>V 粘土粒を少量含む。しまりあ
り。粘性ややあり

図III-51 P-29~35・38

時期 覆土の状態と遺物から近・現代と考えられる。

(皆川洋一)

P-34 (図Ⅲ-51)

位置: N-27-d、N-28-a 規模: 0.47×0.41/0.28×0.30/0.22m

長軸方向: N-27°-E

特徴 VI層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。平面形は確認面、墳底部共にやや不整の楕円形である。墳底は小さな凹凸があり、北東から南西にむかってゆるく傾斜している。壁の立ち上がりは南西部では比較的ゆるやかだが、他は急である。

遺物 出土していない。

時期 確認面及び覆土から縄文時代早期の可能性が高い。

(広田良成)

P-35 (図Ⅲ-51)

位置: R-36-a 規模: 0.16×0.15/0.05×0.05/0.12m

長軸方向: N-65°-W

特徴 H-10のプラン確認時にH-10の覆土上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。平面形は確認面、墳底部共に小形の円形である。墳底部は丸底で、壁の立ち上がりは急である。堀込みは浅く、H-10覆土上部に墳底面が形成されている。

遺物 出土していない。

時期 切り合い関係、確認面、覆土から縄文時代後期の可能性がある。

(広田良成)

P-36 (図Ⅲ-53/図版Ⅲ-29/表Ⅳ-3~5)

位置: P-17-d、P-18-b、Q-17-d、Q-18-a 規模: 2.26×2.03/2.00×1.52/0.34m

長軸方向: N-45°-W

特徴 VI層上面で確認された平面が不整形を呈する堅穴状の土壌である。P-68に北側の壁を切られておりP-68よりも古い。覆土は腐植土を主体とするもので大半はV層の流れ込みと考えられる。掘り込み面はV層中と考えられる。平坦に作られた墳底から壁への繋がりには緩やかである。遺物は主に覆土2・3層出土のもので、土器がI群a類、I群b-1類の細片、石器が石鏃未成品、つまみ付ナイフ、剥片石器片である。これらは全て流れ込みと考えられる。

全体的に乱れのある作りが特徴である。これはP-37・43・44などにも共通するもので覆土の堆積状況なども似ている。性格は不明であるが、これらは同じ時期に同じ目的のために作られた可能性がある。

遺物 1はI群b-1類の胴部小破片である。器面には0段多条の原体による羽状縄文が施されている。2はつまみ付きナイフ。表面と裏面の右側縁に二次加工を施す。表面の右側縁には微細な刻離痕が認められる。

時期 覆土3層の遺物から縄文時代早期後葉I群b-1類の時期の可能性が高い。

(皆川洋一)

P-37 (図Ⅲ-52/図版Ⅲ-10・29/表Ⅳ-3~5)

位置: O-17-c・d、O-18-a・b 規模: 3.48×3.46/2.61×3.11/0.26m

長軸方向: N-61°-E

特徴 VI層上面で確認された不整形を呈する堅穴状の大型土壌である。H-2の壁を僅かに切って掘り込まれていると考えられ、H-2よりも新しいと思われる。覆土は腐植土が主で大半はV層の流れ込みと考えられ、掘り込み面もV層中と考えられる。墳底は僅かに起伏があり、壁の立ち上がりは急激に変化する部分と緩やかな部分とがあり不均一である。遺物は覆土と墳底から出土しており、主要な土器はI群b-1類である。他にI群a類土器、石器は石鏃、スクレイパー、たたき石、石鏝などが出土

しているが、多くは流れ込みと考えられる。

遺構としては乱れの顕著な作りが特徴となる。類似の特徴を持つ遺構には、P-36・43・44などがあり、これらは覆土の堆積状況なども似る。性格は不明であるが、これらは同じ時期に同じ目的のために作られた可能性がある。

遺物 1~4はI群b-1類土器で、この内4は床面で出土した。1は内面に貝殻の条痕がある口縁部である。口唇部には茎状の施文具右横からの刺突列が施され、器面には2段単節の羽状縄文が施されている。2は断面角形の口唇部に縄文が施される口縁部で、器面には同じている。3は異なる2段単節の原体を使った羽状縄文が施されるもので、器面には補修孔が穿たれている。4は0段多条の羽状縄文が施された尖底部である。

5は黒曜石製の石鏃。先端部を大きく欠失している。両面の二次加工は丁寧である。6、7はスクレイパー。6は縦長剥片を素材とし、表面の両側縁のみに刃部を作り出している。二次加工は浅く、刃部は表面左側縁では内湾し、右側縁では外湾する。7は黒曜石製で下部に刃部を作り出すいわゆるエンドスクレイパーである。刃部の作り出しは雑で、表面に一部自然面を残す。

8はたたき石。珉岩の亜円礫を使用している。9、10は石鏟。9は凝灰岩製、10は安山岩製。

時期 墳底の遺物から縄文時代早期後葉I群b-1類の時期と考えられる。(皆川洋一)

P-38 (図III-51/表IV-3)

位置：N-28-c、O-28-d 規模：0.75×0.40/0.49×0.23/0.18m

長軸方向：N-50°-W

特徴 F-4のトレンチ調査時にF-4を切っている黒褐色土の落ち込みを確認した。平面形は確認面、墳底面共に不整の長楕円形である。墳底部は細かい凹凸があり、南西側に向かって傾斜している。壁はゆるやかに立ち上がる。P-38の平面形はF-4とほぼ重なることからF-4に関連する遺構の可能性が高い。

遺物 覆土からフレイクが2点出土している。

時期 切り合い関係からF-4より新しく、縄文時代早期I群b類土器以降の時期と考えられる。

(広田良成)

P-40 (図III-53)

位置：N-26-d 規模：0.26×0.25/0.09×0.13/0.20m

長軸方向：N-51°-E

特徴 VII層上面で、黒褐色土の落ち込みを検出した。西側にはP-29、東側にはP-39がある。平面形は確認面では円形、墳底部では不整の楕円形である。墳底は平坦で、南東側に向かって傾斜している。壁の立ち上がりは急で、南壁は中位で屈曲する。

遺物 出土していない。

時期 周辺包含層出土の遺物から縄文時代後期の可能性がある。

(広田良成)

P-41 (図III-53/表IV-3)

位置：J-29-c、J-30-b 規模：0.48×0.39/0.12×0.10/0.24m

長軸方向：N-87°-W

特徴 VII層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。平面形は確認面、墳底部ともに不整の楕円形である。墳底の断面形は東西方向では丸底状、南北方向は皿状を呈する。壁の立ち上がりは急である。

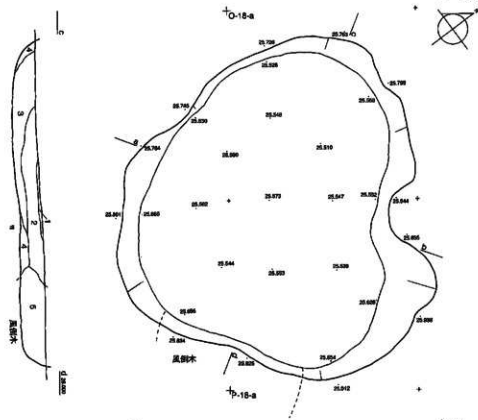
遺物 覆土からフレイクが2点出土している。

時期 確認面、覆土から縄文時代の可能性がある。

(広田良成)

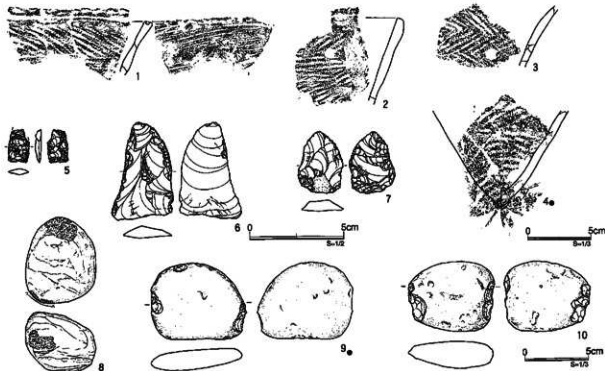
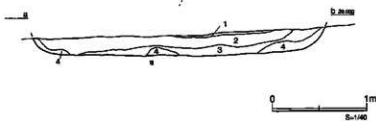
P-37

III 遺構



P-37土層説明

- 1 雑相 (Hue10YR3) KgcとV層間粘土が等しく混じる。しまりがなく、粘性にも乏しい
- 2 黒 (Hue10YR2) V層間粘土層 遺物をまむ。しまりがあり、粘性もある
- 3 黒相 (Hue10YR3) V層間粘土にM・W層が少量混じる。しまりも粘性もある
- 4 黒相 (Hue10YR2) M・W層が主体となる土。しまりはあるが、粘性にはやや乏しい



図III-53 P-37

P-42 (図Ⅲ-54/図版Ⅲ-30/表Ⅳ-3~5)

位置: R-28-c, S-28-c'd, R-29-b*c, S-29 規模: (5.37)×(4.75)/—×—/0.24m

長軸方向: N-7°-W

特徴 V層調査中、S-29グリッドで遺物がややまとまって出土したため、調査区壁沿いにトレンチを設定し調査したところ、断面に黒褐色土の落ち込みを確認した。壁の立ち上がりを検出できなかったため、トレンチ調査による土層観察及び遺物の分布状況から範囲の推定を行った。底面は皿状で平坦だが部分的に凹凸がある。壁の立ち上がりは非常にゆるやかである。

遺物 覆土からI群b-1類土器が出土している。壇底からI群a類、I群b-1類土器、スクレイパー、Rフレイク、Uフレイク、フレイク、石核、礫が出土している。

1・2はI群b-1類土器である。1は貼付帯の施された器壁の薄い深鉢形土器の口縁〜胴部である。口縁は口唇部が外に向かって開く平縁のもので、口唇部の断面は端部が外に張り出す丸形である。貼付帯は口縁文様帯と胴部を区切る位置に太い粘土紐を張り巡らせたもので、断面は裾野の延びた山形を呈している。文様は粘土紐を貼り付けた後、口縁部に平行する数条の縄線文、胴部に横位の斜行縄文が施されている。口縁部と胴部の施文原体は同一のもので、織維の粗い二段単節のRLが使われている。これらの特徴から1は「仮称西桔梗式」の可能性がある。2は張り出した下部に指のようなもので刻みが巡らされる底部である。器壁は薄く、器形の一部には歪みが見られる。文様は異なる2段単節の原体による乱れた羽状縄文が施されている。

3はスクレイパー。柄部を作り出しており、円形の刃部をもつ。柄部以外は素材の形状をあまり変えず、二次加工は周縁部のみ施される。4は石核。黒曜石製で打面、作業面に頻りに移動してフレイクを取っている。打面調整は認められない。

時期 壇底出土の遺物から縄文時代早期I群b-1類土器の時期と考えられる。(広田良成)

P-43 (図Ⅲ-55/図版Ⅲ-30/表Ⅳ-3)

位置: J-15-b*c, K-15-a

規模: 2.17×1.90/2.06×1.90/0.16m 長軸方向: N-13°-E

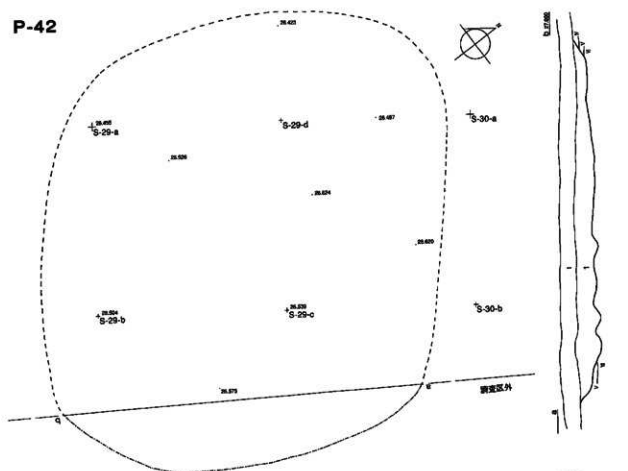
特徴 調査区南西部の平坦面に位置する。H-9、H-11と重複するが、本遺構が最も新しい。H-9とH-11の前後関係を調べるためトレンチを精査した際、黒褐色の落ち込みが両者を切っていることを確認した。平面形はやや不整な隅丸方形である。壁は緩やかで壇底は平坦である。

遺物 覆土からI群b-1類土器、I群a類土器、石鏃、スクレイパー、Rフレイク、Uフレイク、石鏃、石核等が出土しているが、遺構構築時にH-11もしくはH-9の遺物が混入したものとみられる。

1~11はI群b-1類土器である。1は底部の下端が張り出す平底の土器で、H-9・11、P-43の重複する3つの遺構から出土し接合したものである。口縁部は平縁で口唇の断面は丸形である。土器の表面には粘土の輪痕や指の跡など製作時に付いた凹凸が多数見られるため、比較的粗雑な印象が1つの特徴となっている。口縁から胴部の文様は0段多条の原体による条が水平に近い斜行縄文を主体としたもので、部分的に同じ原体の回転方向を変化させたものが加わる。更に、底部の張り出し近くの器面と底面には絞形状の縄文が施されるなど文様構成は特徴的である。また内面には、幅の広い施文具による横方向の条痕が広く認められる。2・3・6・9は0段多条の原体で縄線文を施した口縁部である。2・6は複数本の縄を使って入り組んだ曲線による区画を描いたもので、その区画内には無文の部分と0段多条の斜行縄文が施される部分がある。2の口唇には棒状の施文具で斜めと直行する刻みが、6は口唇断面が角形でその口唇部には斜めの刻みが施されている。3は外に開く口縁部で、口唇には棒状の施文具による斜めの刺突が施されている。9は同じ二段単節の原体を使って口唇に斜

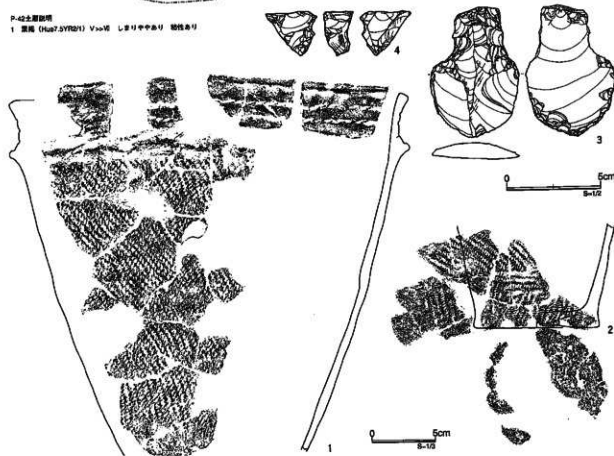
P-42

口 遺構



P-42土器図例

1 竪筒 (Has7.5YR5/1) V=6 Lは口の中あり 縦紋あり



図III-54 P-42

2 土墳

行縄文、器面に羽状縄文を施している。

5・8は0段多条の原体による斜行縄文が施された口縁部である。口唇の斜めの刺突は、5が茎状の施文具、8が棒状の施文具による。4・7・10は0段多条の原体による羽状縄文が施された底近くの胴部である。4と10は尖底の可能性が高い。11は綾杉状縄文の施されたもので、内面に条痕が見られる。

12は石鉢。柳葉形で、肉眼観察では豊泉産の黒曜石と推定される。

13、14は石鍾。共に流紋岩製。14は不整な偏平礫に扶入部が作られている。

時期 覆土の上面にKo-gが堆積しているため縄文時代早期の可能性が高い。 (立田 理)
P-44 (図Ⅲ-56/図版Ⅲ-31/表Ⅳ-3~5)

位置：N-15-a~d 規模：2.83×2.18/2.30×1.82/0.36m

長軸方向：N-34°-W

特徴 VI層上面で確認された不整形を呈する竪穴状の大型土墳である。H-1の壁を僅かに切って掘り込まれている。覆土は腐植土を主体とするもので大半はV層の流れ込みと考えられ、掘り込み面もV層中と考えられる。墳底は僅かに起伏があり、壁の立ち上がりは急激に変化する部分と緩やかな部分とがあり不均一である。遺物は覆土と墳底から出土しており、主要な土器はI群b-1類である。他にI群a類土器、石器は石鉢、スクレイパー、たたき石、すり石、砥石、石鍾などが出土しているが、墳底のもの以外は流れ込みと考えられる。

墳底からはH-1の覆土中で検出した生活面と同じI群b-1類の土器が出土することから、これと強く関連する可能性がある。性格は不明である。

遺構としては乱れの顕著な作りが特徴で、類似の特徴を持つ遺構にはP-36・37・43などがある。これらは覆土の堆積状況なども似ており、同じ時期の共通した性格のもの可能性がある。

遺物 1はI群a類、2~6はI群b-1類土器である。全て床面から出土した。1は小突起を有する波状口縁の頂部である。断面切出し形の口唇の角には、内外両面に貝殻の復縁による連続する刻み施される。また口縁に平行する沈線文に沿って表面からの貫通孔が穿たれている。

2・3・6は0段多条の原体が使われるものである。2は口唇が外に開く平縁のもので、口唇の断面形は丸形である。文様は上半部が斜行縄文、下半部ではそれが乱れて羽状のように見える。内面には不鮮明な条痕が認められる。3は口唇部に器面と同じ原体の刻みが施される。6は比較的底に近い胴部で乱れた羽状縄文が施される。4は細い組紐を軸に巻き付けて横位に回転施文したものである。この文様は「東銅路Ⅱ式」に見られる特徴的な文様と共通するもので、これらと当遺跡のI群b-1類との強い関連を示す資料である。5は二段単節の羽状縄文が施される尖底付近の胴部である。

7は石鉢。先端部を欠失する。現存部は側縁、基部共に直線状である。やや厚みがあり、断面形は凸レンズ状を呈する。肉眼観察では赤井川産の黒曜石と推定される。8はスクレイパー。縦長切片の背面右側縁に粗い二次加工により刃部を作り出している。

時期 墳底の遺物から縄文時代早期後葉のI群b-1類の時期と考えられる。 (皆川洋一)

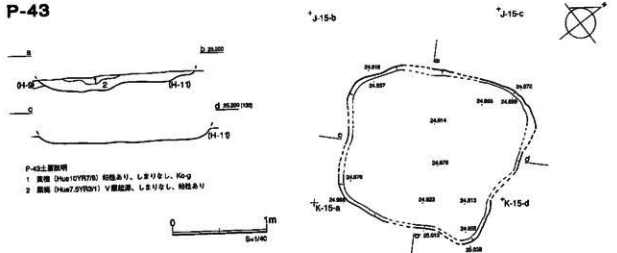
P-45 (図Ⅲ-57)

位置：I-25-b 規模：1.51×1.00/1.17×0.61/0.30m

長軸方向：N-72°-E

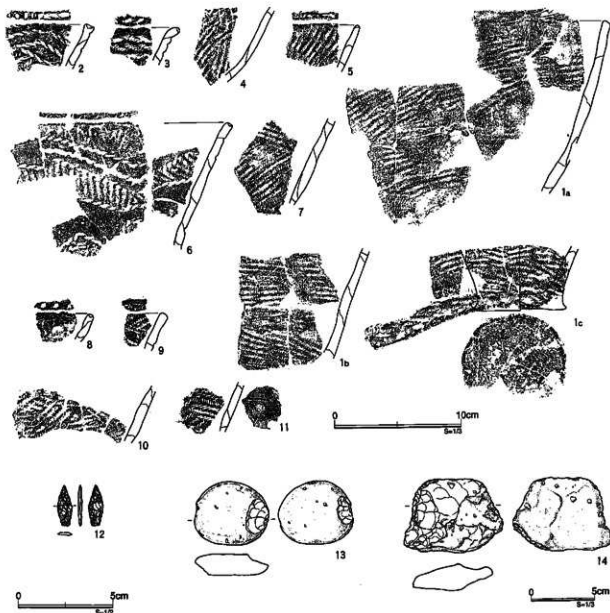
特徴 VI層上面を掘り下げていたところ暗褐色土の落ち込みを検出する。平面形は楕円形である。半截したところ明瞭な掘込みを確認し土壌と認定した。覆土は大きく分けて2層に分かれる。下層がローム質の土を多く含むのに対し、上層はV層に由来する黒褐色土である。自然に埋没していったものと

P-43



P-43土層説明

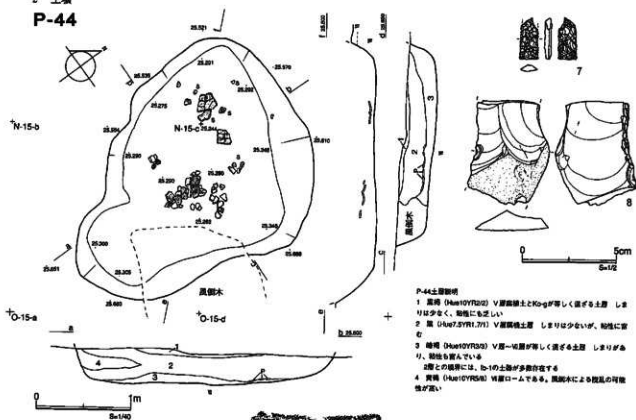
- 1 黄砂 (No.107923) 砂粒多し、L.S.V.S.L.、No-g
2 黄砂 (No.727924) V層砂混、L.S.V.S.L.、砂粒多し



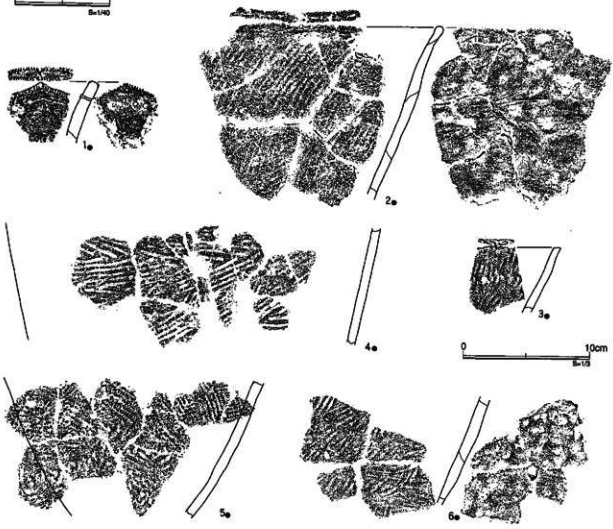
图III-55 P-43

2 土壤

P-44



- P-44土壤説明
- 1 黒腐 (44a10YR2/2) V層腐植土とKogが著しく混ざる土層 しまりは少なく、粘性にも乏しい
 - 2 腐 (44a7.5YR1.2/1) V層腐植土層 しまりは少ないが、粘性に富む
 - 3 暗腐 (44a610YR3/3) V層-V6層が著しく混ざる土層 しまりがあり、粘性も富んでいる
2層との境界には、3a-1の土層が多量存在する
 - 4 黄腐 (44a610YR5/3) 粘層ロームである。腐植体により脱炭の可能性がある



図III-56 P-44

考えられる。

遺物 遺物は出土していない。

時期 縄文時代早期と考えられる。

(袖岡淳子)

P-46 (図Ⅲ-57/表Ⅳ-3)

位置：L-19-a 規模：0.49×0.30/0.36×0.20/0.16m

長軸方向：N-81°-E

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、IV層において黒褐色土の落ち込みを検出した。この落ち込みは近現代のP-65に切られている。この土壌の覆土を除去し土層断面を観察したところ、2基重複するピットであることを確認した。この土壌の新旧関係で新しい方をP-46、古い方をP-47とした。平面形は楕円に近い円形ないし円形と推測される。P-46の掘り込みや土壌壁面の立上りは明瞭である。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌は、掘込みが包含層の上部とみられ、墳底に近い部分が確認できた。

遺物

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。

(袖岡淳子)

P-47 (図Ⅲ-57/図版Ⅲ-30/表Ⅳ-3・4)

位置：L-19-a 規模：0.35×0.08/—×—/0.22m

長軸方向：N-0°-W

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VI層において黒褐色土の落ち込みを検出した。この落ち込みは近現代のP-65に切られている。この土壌の覆土を除去し土層断面を観察したところ、2基重複するピットであることを確認した。この土壌の新旧関係で新しい方をP-46、古い方をP-47とした。P-65、P-46によって1/4以下にまで破壊されていると見られるが、明瞭な壁面の立上りを確認し土壌と認定した。平面形は円形であったことが推測される。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の掘込みが包含層の上部とみられ、墳底に近い壁面部分のみが確認できた。

遺物 1は平行沈線の施されたV群c類の口縁部である。

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。

(袖岡淳子)

P-48 (図Ⅲ-57/表Ⅳ-3)

位置：L-19-a 規模：0.38×0.15/0.24×0.04/0.14m

長軸方向：N-54°-W

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VI層において黒褐色土の落ち込みを検出する。この落ち込みは近現代攪乱のP-65に切られている。この土壌の土層断面の観察によりピットであることを確認した。P-45によって1/2以下にまで切られていると考えられるが土壌壁面の立上りを明瞭に確認し土壌と認定した。平面形は円形と推測される。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の掘込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い壁面部分のみが確認できた。

遺物 掲載する遺物はない。

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。

(袖岡淳子)

P-49 (図Ⅲ-57/図版Ⅲ-30/表Ⅳ-3・4)

位置：I-17-a

規模：0.89×(0.78)/0.55×0.54/0.26m 長軸方向：N-14°-E

特徴 調査区南西部の平坦面に位置する。H-5と重複するが本遺構が新しい。H-5の西部で覆土2

2 土壌

層を調査中に、縄文時代晩期の土器片が出土した。攪乱もしくは他の遺構が重複していると考え付近を精査した結果、褐灰色の落ち込みがH-5を切っていることがわかった。平面形は不整形円形、壁はやや急で、墳底は南西半分が丸底状にくぼんでいる。

遺物 V群c類土器、石鏃、フレイク、礫、炭化物が出土している。石器等はH-5の遺物が混入している可能性がある。

1は平行沈線の入る壺の口縁部、2は沈線の下位にRLの斜行縄文が施される浅鉢の胴部である。

時期 出土した土器、覆土の状況、平面形、規模から縄文時代晩期V群c類土器の時期のものとみられる。

(立田 理)

P-50 (図III-57/図版III-10・31/表IV-3・5)

位置: J-24-d 規模: 0.88×0.87/0.74×0.91/0.44m

長軸方向: N-89°-E

特徴 包含層を調査中、VII層で礫石器の集中と暗褐色土の落ち込みを検出した。この暗褐色土の広がりや礫石器にかかるトレンチを設定し掘り下げたところ、フラスコ状ビットであることが確認された。墳口部の平面形はほぼ円形である。壁は土壌の北側一部を除きオーバーハングする。墳底は平坦である。覆土は黒色土よりVI、VII層土がやや多く混入する暗褐色土である。

遺物 覆土から台石2点とすり石1点が出土している。

1はすり石。珪岩製で断面三角形のもの。敲打痕が表面と端部にみられ、すり石とたたき石との複合した用途が考えられる。2は台石あるいは石皿で安山岩製。全体の1/3程度が焼成を受け変色している。僅かに敲打痕がある。3は台石の可能性のある礫で、焼成を受け赤褐色化が著しい。披熱により、礫の節理に沿ってひびが数ヶ所入る。敲かれたことによるものと考えられる剝離が表面に観察される。

時期 縄文時代早期と考えられる。

(袖岡淳子)

P-51 (図III-58/図版III-10・30/表IV-3~5)

位置: J-20-a 規模: 0.53×0.48/0.43×0.34/0.11m

長軸方向: N-84°-E

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VI層において黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壌と認定した。平面形はほぼ円形である。壁の立上りは急で、墳底との境は明瞭である。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の掘り込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い部分が確認できた。

遺物 1は幅広い沈線が施されたV群c類の口縁部である。

2は石鏃。両面加工が施され、つまみ部と尖頭部の境は明瞭でない。裏面に素材面を残す。

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。

(袖岡淳子)

P-52 (図III-58/図版III-10・31/表IV-3・4)

位置: J-20-a 規模: 0.50×0.46/0.34×0.32/0.24m

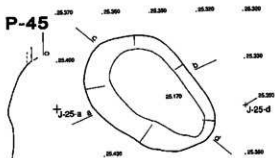
長軸方向: N-78°-W

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VI層において黒褐色土の落ち込みを検出する。半載したところ、土壌であることが確認された。平面形はほぼ円形である。壁の立上りは急で、墳底との境は明瞭である。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の掘り込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い部分が確認できた。

遺物 1はRLの斜行縄文が施されたV群c類の深鉢胴部である。

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。

(袖岡淳子)



P-45土層説明

- 1 基 (Hae10YR1.7/1) やわらかい土
- 2 階層 (Hae10YR2/4) 黒色土と埴野土の混合土、ややしるる
- 3 広い穴溝 (Hae10YR2/3) 埴野土を主体とする土に黒色土が混入して置ける、ややしるる
- 4 埴野土を主体とした土

L-19-a



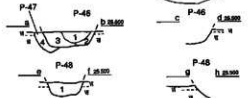
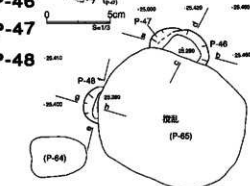
L-19-d



P-46

P-47

P-48



P-46土層説明

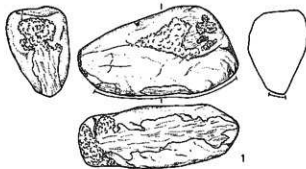
- 1 基 (Hae10YR1.7/1) 黒色土を主体とする、やや細かい
- 2 階層 (Hae10YR2/4) 黒色土と埴野土の混合土、やや細かい
- 3 埴層 (Hae10YR2/3) 黒色土に埴野土が多く混入する、ややしるる

P-47土層説明

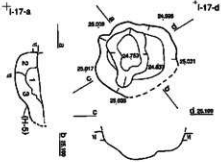
- 1 階層 (Hae10YR2/3) 黒色土を主体とする土に埴野土が多く混入する、ややしるる

P-48土層説明

- 1 階層 (Hae10YR2/4) 黒色土と埴野土の混合土、しるる

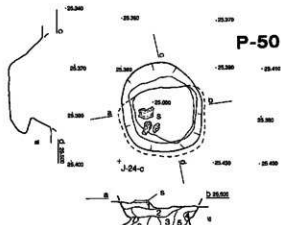
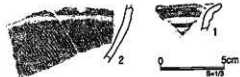


P-49



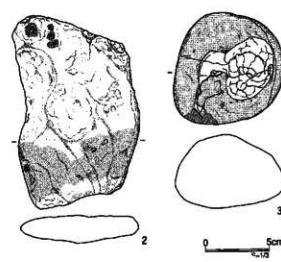
P-49土層説明

- 1 階層 (Hae7.5YR3/1) 埴野土、黄褐色土層を少量含む、しるる
- 2 階層 (Hae7.5YR3/1) 埴野土、黄褐色土層を少量含む、しるる
- 3 階層 (Hae10YR6/1) 埴野土、黄褐色土層を少量含む、しるる



P-50土層説明

- 1 階層 (Hae10YR2/1) 黒色土を主体とする、ややしるる
- 2 広い穴溝 (Hae10YR2/3) 黒色土と埴野土が混入して置ける、しるる
- 3 階層 (Hae7YR3/4) 黒色土と埴野土の混合土、黄化層を含む、ややしるる
- 4 埴 (Hae10YR4/4) 埴野土を主体とする、しるる
- 5 階層 (Hae7.5YR3/3) 黒色土を主体とする土に埴野土が混入する、やや細かい
- 6 階層 (Hae10YR2/3) 黒色土を主体とする土に埴野土が混入する、やや細かい
- 7 埴 (Hae10YR2/3) 埴野土に黒色土を少量混入して置ける、しるる
- 8 階層 (Hae10YR2/2) 黒色土を主体とする土に埴野土がわずかに混入する、しるる



図III-57 P-45~50

P-53 (図Ⅲ-58/図版Ⅲ-10・31/表Ⅳ-3・4)

位置: J-20-b 規模: 0.54×0.50/0.36×0.36/0.16m

長軸方向: N-37°-W

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VI層において黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壌と認定した。平面形はほぼ円形である。壁の立上りは急で墳底との境は明瞭である。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の掘込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い部分が確認できた。

遺物 1は糸が縦走するRLの縄文が施されたV群c類の鉢胴部である。

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。

(袖岡淳子)

P-54 (図Ⅲ-58/図版Ⅲ-10/表Ⅳ-3)

位置: J-20-c 規模: 0.54×0.56/0.32×0.36/0.29m

長軸方向: N-90°-W

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VI層において黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壌と認定した。平面形はほぼ円形である。壁の立上りは急で墳底との境は明瞭である。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の掘込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い部分が確認できた。

遺物 掲載する遺物はない。

時期 縄文時代晩期と考えられる。

(袖岡淳子)

P-55 (図Ⅲ-58/図版Ⅲ-10・31/表Ⅳ-3・4)

位置: J-20-d 規模: 0.51×0.50/0.31×0.30/0.22m

長軸方向: N-84°-W

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VI層において黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壌と認定した。平面形は円形である。壁の立上りは急で墳底との境は明瞭である。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の掘込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い部分が確認できた。

遺物 1は口唇直下に平行沈線が施された壺口縁部、2は口縁に幅の狭い肥厚部が巡る鉢口縁部である。いずれもV群c類のものである。

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。

(袖岡淳子)

P-56 (図Ⅲ-58/図版Ⅲ-10/表Ⅳ-3)

位置: J-20-a 規模: 0.48×0.42/0.30×0.28/0.26m

長軸方向: N-75°-E

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VI層において黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壌と認定した。平面形はほぼ円形である。壁の立上りは急で墳底との境は明瞭である。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の掘込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い部分が確認できた。

遺物 図示した遺物はない。

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。

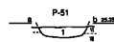
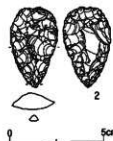
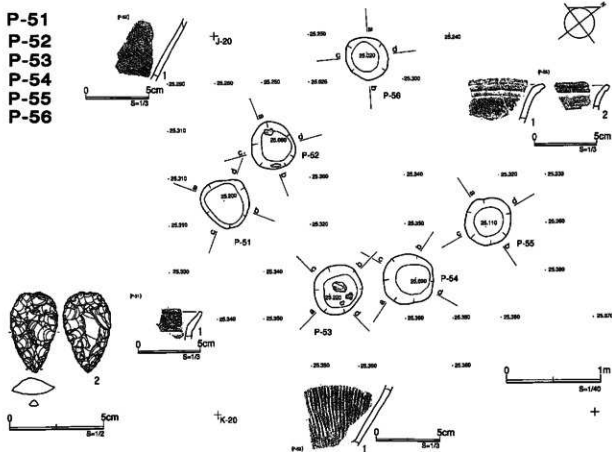
(袖岡淳子)

P-57 (図Ⅲ-59/表Ⅳ-3)

位置: J-19-b 規模: 0.56×0.49/0.32×0.33/0.14m

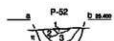
長軸方向: N-20°-W

P-51
P-52
P-53
P-54
P-55
P-56



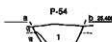
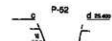
P-51土層説明

- 1 埴輪 (Hae10YR2) 黒色土を主体とする。炭化物を含む。ややしまる



P-52土層説明

- 1 黒 (Hae10YR1.7/1) 黒色土を主体とする。炭化物を含む
- 2 埴輪 (Hae10YR3/4) 黒色土に焼土が混じる。やや細かい。炭化物を含む
- 3 埴輪 (Hae10YR3/1) 黒色土に焼土が混じる。ややしまる。炭化物を含む
- 4 埴輪 (Hae10YR3/2) 黒色土に焼土が混じる。やややわらかい。炭化物を含む



P-54土層説明

- 1 黒 (Hae10YR1.7/1) 黒色土に焼土が少量混じる。炭化物を含む。ややしまる
- 2 埴輪 (Hae10YR3/1) 黒色土に焼土が少量混じる。やや細かい



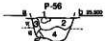
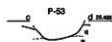
P-55土層説明

- 1 黒 (Hae10YR1.7/1) 黒色土に焼土の層が少量混じる。炭化物を含む。ややしまる



P-53土層説明

- 1 埴輪 (Hae10YR3/2) 黒色土を主体とする。炭化物を含む。ややしまる
- 2 埴輪 (Hae10YR3/4) 黒色土に焼土が混じる。炭化物を含む。ややしまる



P-56土層説明

- 1 細かい埴輪 (Hae10YR4/3) 黒色土に焼土が混じる。やや細かい
- 2 黒 (Hae10YR3/1) 黒色土に焼土が混じる。ややしまる。炭化物を含む
- 3 埴輪 (Hae10YR4/1) 黒色土と焼土の混合物。しまる
- 4 埴輪 (Hae10YR3/2) 黒色土に焼土が混じる。炭化物を含む
- 5 埴輪 (Hae10YR4/2) 黒色土を主体とする。しまる

図III-58 P-51~56

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VI層において黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壌と認定した。平面形はほぼ円形である。壁の立上りは急で墳底との境は明瞭である。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の掘込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い部分が確認できた。

遺物 図示した遺物は無い。

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。

(袖岡淳子)

P-58 (図Ⅲ-59/表Ⅳ-3)

位置: K-19-c 規模: 0.61×0.50/0.45×0.34/0.16m

長軸方向: N-43°-E

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VI層において黒褐色土の落ち込みを確認した。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壌と認定した。平面形はほぼ円形である。壁の立上りは急で墳底との境は明瞭である。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の掘込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い部分が確認できた。

遺物 図示した遺物は無い。

時期 縄文時代晩期と考えられる。

(袖岡淳子)

P-59 (図Ⅲ-59/図版Ⅲ-32/表Ⅳ-3・5)

位置: K-19-a 規模: 0.52×0.47/0.41×0.36/0.11m

長軸方向: N-39°-E

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VII層において黒褐色土の落ち込みを確認した。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壌と認定した。平面形はほぼ円形である。壁面の立上りは急で墳底との境は明瞭である。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の掘込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い部分が確認できた。

遺物 2は石錐。両面加工が施され、つまみ部と尖頭部の境は明瞭でない。裏面に素材面を残す。

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。

(袖岡淳子)

P-60 (図Ⅲ-59/図版Ⅲ-32/表Ⅳ-3・4)

位置: J-19-c 規模: 0.93×0.89/0.74×0.74/0.21m

長軸方向: N-76°-E

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VI層において黒褐色土の落ち込みを確認した。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壌と認定した。平面形は円形である。壁の立上りは急で墳底との境は明瞭である。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の掘込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い部分が確認できた。

遺物 1はV群c類の壺口縁部である。

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。

(袖岡淳子)

P-61 (図Ⅲ-59/表Ⅳ-3)

位置: K-19-a 規模: 0.57×0.52/0.44×0.20/0.19m

長軸方向: N-34°-E

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VI層において黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壌と認定した。平面形はほぼ円形だが墳底部分は楕円形である。掘り込みや土壌壁面の立上りは明瞭である。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の掘込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い部分が確認できた。

Ⅲ 遺構
P-57
P-58
P-59
P-61
P-62



P-57土層説明

- 1 層 (Hae10YR3/3) 黒色土を主体とする。しよる
- 2 に近い黄褐色 (Hae10YR4/2) 赤褐色土に黒色土が少量混じる。しよる



P-58土層説明

- 1 層 (Hae10YR3/1) 黒色土を主体とする。ややしよる
- 2 層 (Hae10YR3/4) 黒色土に赤褐色土が混じる。ややしよる



P-59土層説明

- 1 層 (Hae10YR3/1) 黒色土を主体とする。ややしよる
- 2 に近い黄褐色 (Hae10YR4/2) 黒色土と赤褐色土の混合土。ややしよる
- 3 に近い黄褐色 (Hae10YR5/4) 赤褐色土に黒色土が混じる。ややしよる



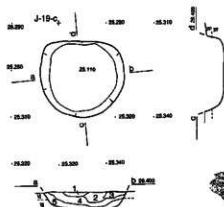
P-61土層説明

- 1 層 (Hae10YR1/1) 黒色土を主体とする。やわらかい。炭化物を含む



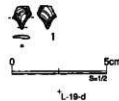
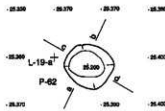
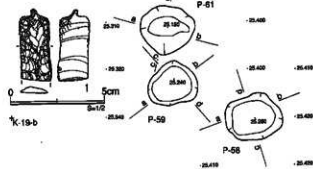
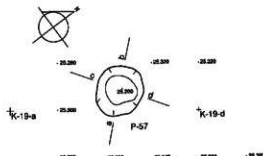
P-60

25.270 25.300 25.270 25.300



P-60土層説明

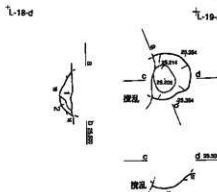
- 1 層 (Hae10YR4/2) 黒色土と赤褐色土の混合土。ややしよる
- 2 層 (Hae10YR3/4) 黒色土と赤褐色土が少量混じる。ややしよる
- 3 層 (Hae10YR4/2) 黒色土と赤褐色土の混合土。ややしよる
- 4 層 (Hae10YR4/4) と5層 (Hae10YR3/1) の混合土。ややしよる



P-62土層説明

- 1 層 (Hae10YR1/1) 黒色土を主体とする土に赤褐色土が混在している。炭化物を含む。ややしよる

P-63



P-63土層説明

- 1 層 (Hae7.5YR2/1) 黒-N層粘土。粘粒を混在させる。しよる
- 2 炭質 (Hae10YR2/2) V層粘土。ややしよるあり。粘性あり

図Ⅲ-59 P-57~63

遺物 掲載する遺物はない。

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。

(袖岡淳子)

P-62 (図Ⅲ-59/図版Ⅲ-32/表Ⅳ-3・5)

位置: K-19-b 規模: $0.52 \times 0.47 / 0.37 \times 0.27 / 0.21\text{m}$

長軸方向: N-33°-E

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VI層において黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壌と認定した。平面形はほぼ円形である。壁の立上りは急で、墳底面との境は明瞭である。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の掘込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い部分が確認できた。

遺物 1は石錐。黒曜石製で、石錐の転用品と考えられる。

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。

(袖岡淳子)

P-63 (図Ⅲ-59/表Ⅳ-3・4)

位置 L-18-d

規模 $0.49 \times (0.41) / 0.27 \times 0.22 / 0.13\text{m}$ 長軸方向: N-57°-W

特徴 調査区中央部の平坦面に位置する。VII層上面でP-74に切られる黒色土の落ち込みを検出した。半載したところ、壁、墳底が確認されたため土壌と判明した。平面形は確認できた部分では不整形円形を呈する。壁は緩やかであり、断面形は浅い皿状を呈する。

遺物 覆土からV群c類土器、フレイク、礫・礫片が出土している。

時期 出土した土器、平面形及び規模から縄文時代晩期V群c類土器の時期のものである可能性がある。

(立田 理)

P-64 (図Ⅲ-60/図版Ⅲ-32/表Ⅳ-3・4)

位置: L-19-b 規模: $0.60 \times 0.47 / 0.40 \times 0.35 / 0.09\text{m}$

長軸方向: N-65°-E

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VI層において黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壌と認定した。平面形はやや円形に近い楕円形である。壁の立上りは急で墳底との境は明瞭である。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の掘込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い部分が確認できた。

遺物 1はV群c類の浅鉢口縁部である。

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。

(袖岡淳子)

P-65 (図Ⅲ-60/表Ⅳ-3)

位置: L-19-a 規模: $1.58 \times 1.53 / 1.10 \times 1.09 / 0.51\text{m}$

長軸方向: N-77°-W

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VI層において黒色土とVI、VII層土が混じる明瞭な土壌跡を検出した。半載したところ覆土にビニールやプラスチックの小片が混じる近・現代のものであることが確認された。このことから、この土壌は調査の対象外とした。

遺物 掲載する遺物はない。

時期 近・現代と考えられる。

(袖岡淳子)

P-66 (図Ⅲ-60)

位置: G-13-c、H-13-d

規模: $0.69 \times 0.64 / 0.52 \times 0.48 / 0.10\text{m}$ 長軸方向: N-27°-E

特徴 調査区南西端の緩斜面に位置する。Ⅶ層上面を精査中に、灰褐色の落ち込みを検出した。覆土はⅠ層を基調とし、Ⅶ層起源とみられる黄褐色土が斑状に混じる汚れた土である。平面形は東西に長軸のある楕円形に近い隅丸方形である。壁の立ち上がりは緩やかで、墳底は平坦である。

遺物 出土していない。

時期 覆土の状態から現代のものとみられる。

(立田 理)

P-67 (図Ⅲ-60/表Ⅳ-3)

位置 : H-10-c、H-11-b

規模 : $0.95 \times 0.93 / 0.68 \times 0.61 / 0.36\text{m}$ 長軸方向 : N-24°-E

特徴 調査区南西端の斜面に位置する。Ⅶ層上面を精査中に灰褐色の落ち込みを検出した。平面形は墳口墳底ともに円形で、壁は急激に立ち上がる。覆土はⅠ層を基調とし、Ⅶ層起源とみられる黄褐色土が斑状に混じる汚れた土である。

遺物 覆土からⅠ群bⅠ類土器、フレイク、礫が出土しているが、混入とみられる。

時期 覆土の状態から、現代のものとみられる。

(立田 理)

P-68 (図Ⅲ-60/表Ⅳ-3)

位置 : P-18-b **規模** : $(1.62) \times 0.75 / 0.64 \times 0.72 / 0.25\text{m}$

長軸方向 : N-10°-E

特徴 P-36を切って掘り込まれた平面が不整の円形を呈す性格不明の土壌である。Ⅶ層上面で確認したもので、覆土には流れ込んだ腐植土で充填されている。墳底は丸味を帯びたもので壁との境は不明瞭である。遺物はⅠ群b-1類土器などが出土しているが全て覆土の腐植土と共に流れ込んだものと考えられる。

遺物 掲載遺物無し。

時期 覆土の遺物と遺構の切り合いから縄文時代早期後葉Ⅰ群b-1類のP-36よりも新しい時期と考えられる。

(皆川洋一)

P-69 (図Ⅲ-60/表Ⅳ-3)

位置 : Q-17-b-c **規模** : $1.75 \times 1.31 / 1.38 \times 0.96 / 0.22\text{m}$

長軸方向 : N-61°-E

特徴 平面が不整の楕円形を呈す性格不明の土壌である。Ⅶ層上面で確認したもので、覆土には流れ込んだ腐植土で充填されている。墳底は丸味を帯びたもので壁との境は不明瞭である。遺物はⅠ群a類、Ⅰ群b-1類土器、石片などが出土しているが全て覆土の腐植土と共に流れ込んだものと考えられる。

遺物 掲載遺物なし。

時期 覆土の遺物から縄文時代早期後葉Ⅰ群b-1類の時期の可能性がある。

(皆川洋一)

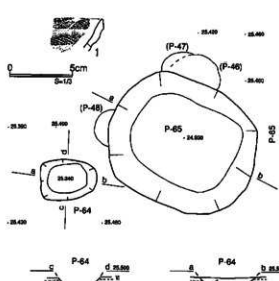
P-70 (図Ⅲ-61/図版Ⅲ-32/表Ⅳ-3・5)

位置 : Q-15-a **規模** : $1.62 \times 1.31 / 0.99 \times 0.69 / 0.35\text{m}$

長軸方向 : N-88°-E

2 土坑

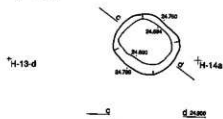
L-19-a P-64 P-65



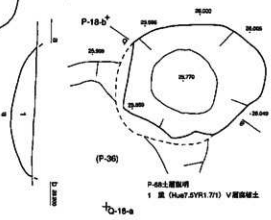
P-64土層説明
1 層 (No.10YR1.7/1) 黒色土を主体とする。中b5P-

L-19-d

P-66

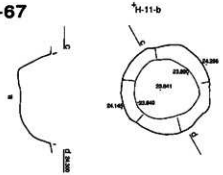


P-68

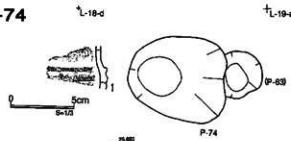


P-68土層説明
1 層 (No.7.5YR1.7/1) V層腐植土

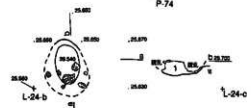
P-67



P-74

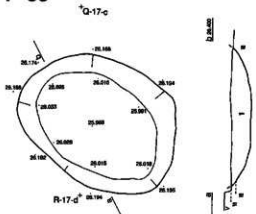


P-75

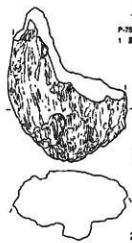


P-75土層説明
1 層 (No.10YR1.7/1) 黒色土を主体とする。炭化物を含む

P-69

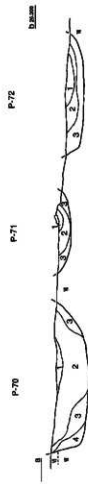
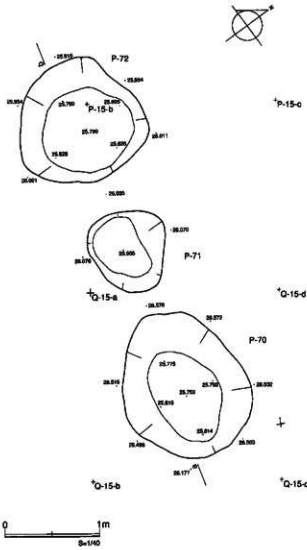


P-69土層説明
1 層 (No.7.5YR1.7/1) V層腐植土

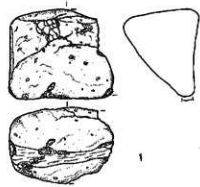
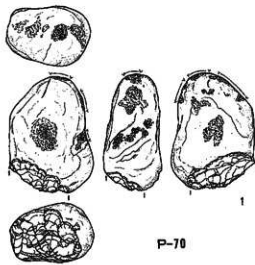


III-60 P-64~69・74・75

P-70 P-71 P-72



- P-72は遺構不明
1 層 (25.800m) 土質不明
2 層 (25.790m) 土質不明
3 層 (25.780m) 土質不明
4 土質不明 (25.770m) 土質不明
- P-71は遺構不明
1 層 (25.570m) 土質不明
2 層 (25.572m) 土質不明
3 層 (25.570m) 土質不明
4 土質不明 (25.560m) 土質不明
- P-70は遺構不明
1 層 (25.710m) 土質不明
2 層 (25.700m) 土質不明
3 層 (25.690m) 土質不明
4 土質不明 (25.680m) 土質不明



図III-61 P-70~72

特徴 VI層上面で確認された平面が不整楕円形を呈する性格不明の土壇である。付近には列をなす配置でP-71・72が位置している。覆土は流れ込みと考えられるV層腐植土を主体とする土壇で充填されており、掘り込み面はV層中と推定される。壇底は丸味を帯びたもので壁からは緩やかに立ち上がる。遺物は全て覆土から出土したもので、I群a類、I群b-1類土器、たたき石などが出土している。これらは覆土の腐植土と共に流れ込んだものと考えられる。

P-71~73は各配置とよく似た覆土の堆積状況から関連する可能性が高い。

遺物 1はたたき石でめのうの罌臼を使用している。表面の各所に敲打痕がみられる。端部には叩きによる剝離痕がみられる。

時期 覆土の遺物から縄文時代早期後葉I群b-1類の時期の可能性がある。 (皆川洋一)

P-71 (図Ⅲ-61/図版Ⅲ-32/表Ⅳ-3・5)

位置 : P-14-c、P-15-b、Q-15-a 規模 : $0.92 \times 0.83 / 0.69 \times 0.45 / 0.15m$

長軸方向 : N-88°-W

特徴 VI層上面で確認された平面が不整楕円形を呈する性格不明の土壇である。付近には列を構成するP-70・72が位置している。覆土は流れ込んだと考えられるV層腐植土主体の土壇で充填されており、掘り込み面はV層中と推定される。壇底は丸味を帯びたもので壁との境は不鮮明である。遺物は全て覆土上位から出土したもので、すり石などが出土している。これらは覆土の腐植土と共に流れ込んだものと考えられる。

P-71~73は各配置とよく似た覆土の堆積状況から関連する可能性が高い。

遺物 1はすり石。安山岩製。断面三角形で、破損している。

時期 覆土の遺物から縄文時代早期後葉I群b-1類の時期の可能性がある。 (皆川洋一)

P-72 (図Ⅲ-61/表Ⅳ-3)

位置 : P-14-c・d、P-15a・b 規模 : $1.36 \times 0.82 / 0.95 \times 0.89 / 0.19m$

長軸方向 : N-46°-E

特徴 VI層上面で確認された平面が不整楕円形を呈する性格不明の土壇である。付近には列をなす配置でP-70・71が位置している。覆土は流れ込んだと考えられるV層腐植土を主体とする土壇で充填されており、掘り込み面はV層中と推定される。壇底は丸味を帯びたもので壁からは緩やかに立ち上がる。遺物は全て覆土上位から出土したもので、I群b-1類土器などが出土している。これらは覆土の腐植土と共に流れ込んだものと考えられる。

P-71~73は各配置とよく似た覆土の堆積状況から関連する可能性が高い。

遺物 掲載遺物無し。

時期 P-7071との配置から縄文時代早期後葉I群b-1類の時期の可能性がある。 (皆川洋一)

P-73 (図Ⅲ-62/図版Ⅲ-32/表Ⅳ-3~5)

位置 : M-9-d、M-10-b、N-9-d、N-10-a 規模 : $2.35 \times 1.87 / 0.75 \times 0.53 / 0.44m$

長軸方向 : N-69°-E

特徴 平面が不整の楕円形を呈する性格不明の土壇である。確認面はVI層上面のH-4覆土上で、P-73はそれを切って掘り込んでいる。壇底は起伏の著しく壁は緩やかに広がっており、その境は不明瞭である。覆土は上位にKo-gが入り、この下位にはV層腐植土を主体とするものが流れ込んだ様相で堆積している。掘り込み面は覆土から見てV層中と推定される。遺物は覆土と壇底から出土しているが、特に大半のI群b-1類土器は図の波線部に積み重なって出土したことからこの土壇に伴うものと見られる。この土器の集中範囲からは、図示した1・2・3・6の尖底土器4個体が潰れた状態で出土

しており、これらは据え置かれていた可能性もある。

遺物 1~6はI群b-1類の土器である。土器集中範囲で見つかった1・2・3・6の尖底土器は、本来的な全ての部位が揃っていたと考えられるが、脆い作りと風化の進行により、復元は掲載された部分に止まったものである。1・6は口唇が外に開くもので、器面の文様は1が二段単節の羽状縄文、6が綾杉状縄文である。1の口唇断面は角形でその平坦部には茎状の施文具で右横からの刺突が施される。2・3は0段多条の縄線文が施される幅の狭い文様帯を有したものである。二は同じ縄を使って口唇部に刻みを施し、器面には斜行縄文を施している。3の器面には0段多条と二段単節の羽状縄文が施されている。

4は器壁の厚い口縁部で、口唇には茎状の施文具による右横からの刺突が、器面には二段単節の斜行縄文が施されている。5は二段単節の羽状縄文が施された尖底部である。

7、8は擦り石。共に安山岩製。7は偏平の円礫の縁辺を使用しているもの。8は断面三角形である。

時期 墳底の土器から縄文時代早期後葉I群b-1類の時期である。 (皆川洋一)

P-74 (図III-60/図版III-32/表IV-3・4)

位置: L-18-d 規模: 1.06×0.92/0.32×—/—m

長軸方向: N-72°-E

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VI層において黒色土の明瞭な土壌跡を検出した。半載したところ、覆土にビニールやプラスチックの小片が混じる近・現代のものであることが確認された。このことから、この土壌は調査の対象外とした。

遺物 1は浅い平行沈線が施されたV群c類の壺頸部の破片である。

時期 近・現代と考えられる。 (袖岡淳子)

P-75 (図III-60/図版III-33/表IV-3~5)

位置: L-24-a 規模: (0.59)×(0.46)/0.41×0.24/0.15m

長軸方向: N-59°-W

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VII層において黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壌と認定した。壁の立上りは急で墳底との境は明瞭である。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の掘り込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い部分が確認できた。

遺物 1は平行沈線が施されたV群c類の壺口縁部の破片である。

3は石製品。軽石製。著しく破損しており、全体の形状は不明である。

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。 (袖岡淳子)

P-76 (図III-63)

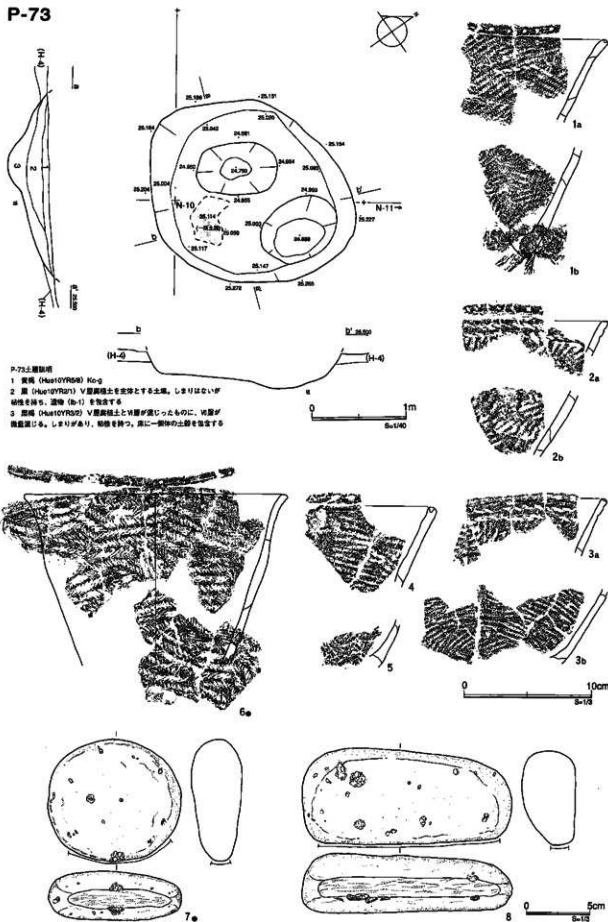
位置: M-24-a 規模: 0.33×0.21/0.23×0.14/0.08m

長軸方向: N-4°-W

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VIII層において黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ明瞭な掘り込みを確認し、土壌と認定した。壁の立上りは急で土壌との境は明瞭である。覆土は、V層土より粘性が低く、黒みが強い。この土壌の掘り込みは包含層の上部とみられ、墳底に近い部分が確認できた。

遺物 遺物は出土していない。

時期 縄文時代晩期末葉と考えられる。 (袖岡淳子)



図III-62 P-73

2 土墳

P-77 (図Ⅲ-63/表Ⅳ-3)

位置: H-16-c, I-16-d

規模: $0.66 \times 0.56 / 0.36 \times 0.34 / 0.23\text{m}$ 長軸方向: N-88°-E

特徴 調査区南西端の平坦面に位置する。南東方向に P-10、北東方向に P-49 が隣接している。VI 層上面で炭化物を含む褐色土の落ち込みを検出した。半載して壁、墳底を確認し土墳であることがわかった。平面形は南と西に小さく張り出す不整形である。壁は緩やかで、墳底はややでこぼこしており、断面形はボール状で丸い。

遺物 覆土から I 群 a 類土器、V 群 c 類土器、剥片、石核、礫・礫片、炭化物が出土している。

時期 出土遺物、覆土の状態から縄文時代晩期 V 群 c 類土器の時期のものとみられる。(立田 理)

P-78 (図Ⅲ-63/表Ⅳ-3)

位置: I-18-d, I-19-a

規模: $0.66 \times 0.55 / 0.50 \times 0.36 / 0.20\text{m}$ 長軸方向: N-33°-E

特徴 調査区南西部の平坦面に位置する。北側に隣接して P-79、北西約 2m の位置には P-81 があ
る。VI 層上面を精査中に褐色土の落ち込みを検出した。半載して墳底と壁を確認し土墳であることが
わかった。平面形は北東向きの卵形である。壁はやや急で、墳底は平坦である。覆土は埋戻しの様相
を呈する。

遺物 覆土からフレイクが 2 点出土している。

時期 平面形や規模から縄文時代晩期 V 群 c 類土器の時期のものである可能性がある。(立田 理)

P-79 (図Ⅲ-63)

位置: I-19-d

規模: $0.21 \times 0.14 / 0.11 \times 0.09 / 0.11\text{m}$ 長軸方向: N-37°-E

特徴 調査区南西部の平坦面に位置する。南側に P-78 が隣接する。P-78 を精査中にその北側に小規
模な落ち込みを検出した。半載したところ土墳であることがわかった。平面形は円形、墳底は丸く浅
い。

遺物 出土していない。

時期 覆土の様相が隣接する P-78 と類似するため、縄文時代晩期のものである可能性がある。

(立田 理)

P-80 (図Ⅲ-63/図版Ⅲ-33/表Ⅳ-3・4)

位置: H-18-c, I-18-d

規模: $0.66 \times 0.64 / 0.43 \times 0.45 / 0.18\text{m}$ 長軸方向: N-42°-E

特徴 調査区南西部の平坦面に位置する。P-121 と重複するが、先後関係は不明である。VI 層上面を
精査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ壁、墳底を確認し、土墳であることがわかっ
た。平面形は南西部が張り出すいびつな円形で、壁の立ち上がりは緩やかである。墳底は南側に風倒
木痕があるため明確ではないが、ほぼ平坦である。また覆土中には炭化物が含まれる。

遺物 覆土から縄文時代晩期 V 群 c 類土器、フレイク、礫が出土している。

1 は条が縦走する RL の縄文が施された鉢の胴部である。

時期 出土した土器、覆土の状態から縄文時代晩期 V 群 c 類土器の時期とみられる。(立田 理)

P-81 (図Ⅲ-63/表Ⅳ-3)

位置: H-19-b, I-19-a

規模: $0.75 \times 0.65 / 0.50 \times 0.41 / 0.32\text{m}$ 長軸方向: N-13°-W

特徴 調査区南西端の平坦部に位置する。H-14と重複し、本遺構が新しい。VI層上面を精査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ壁、墳底を確認し、土壌であることが判明した。平面形は楕円形で、墳口が南の方向に少し張り出す。断面形は碗状で、壁は墳口付近で急激に立ち上がる。覆土4層とした黒褐色土は炭化物を含み、VII層のブロックがみられることから、人為的埋戻しとみられる。

遺物 覆土1、2、3層からV群c類土器、フレイク、礫が出土している。覆土4層からはI群a類土器、フレイクが出土している。

時期 覆土の状態、平面形、規模から、縄文時代晩期V群c類土器の時期のものである可能性がある。
(立田 理)

P-82 (図III-63/図版III-33/表IV-3・4)

位置 : H-19-a・b

規模 : $0.75 \times 0.64 / 0.41 \times 0.34 / 0.26\text{m}$ 長軸方向 : N-20°-E

特徴 調査区南西部の平坦面に位置する。P-81の約1m北に位置する。H-14と重複するが、本遺構が新しい。V層上面を精査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。半載して碗状の壁・墳底を確認し、土壌であることがわかった。平面形は北西—南東方向に長い不整な楕円形を呈する。墳底は平坦である。また覆土に炭化物が微量混じっている。

遺物 覆土からV群c類土器、フレイクが出土している。

1は口唇と器面に浅い平行沈線が施されたV群c類の壺形土器口縁部である。

時期 出土した土器、覆土の状態、平面形から縄文時代晩期V群c類土器の時期のもものとみられる。
(立田 理)

P-83 (図III-63/表IV-3)

位置 : H-18-d、H-19-a

規模 : $0.64 \times 0.54 / 0.47 \times 0.35 / 0.17\text{m}$ 長軸方向 : N-76°-E

特徴 調査区南西端の平坦部に位置する。P-82より2mほど西に位置する。VI層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ、平坦な墳底と緩やかに立ち上がる壁を確認したため、土壌であることが判明した。平面形は墳口・墳底ともに楕円形に近い隅丸方形である。また覆土には炭化物が混じる。

遺物 覆土から石鏡片、フレイクが出土している。

時期 覆土の状態、平面形から縄文時代晩期V群c類土器の時期のものである可能性が高い。

(立田 理)

P-84 (図III-64)

位置 : J-27-a

規模 : $0.89 \times 0.51 / 0.78 \times 0.31 / 0.24\text{m}$ 長軸方向 : N-5°-E

特徴 調査区中央部の平坦面に位置する。VII層上面を精査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。落ち込みの西側を半載し、土壌であることを確認した。平面形は不整な楕円形である。壁は緩やかに立ち上がる。墳底は中心から南東側が碗状にくぼんでいるがその他は平坦である。

遺物 出土していない。

時期 覆土の色調からすると縄文時代晩期のものである可能性がある。

(立田 理)

P-85 (図III-64/表IV-3)

位置 : P-24-d 規模 : $1.08 \times 0.92 / 0.56 \times 0.48 / 0.62\text{m}$

長軸方向：N-58°-E

特徴 VI層上面を掘り下げていたところI群b-4類土器の集中と暗褐色土の落ち込みを検出する。遺物のある状況でトレンチを入れたところ堀込みを確認し土壌と認定した。構築面は遺物のあるレベルより高いと考えられる。覆土は暗褐色土にローム質の土が多く混じる。2層に分層できる。墳底部は平坦であり、立上りは明瞭である。

遺物 掲載する遺物はない。

時期 縄文時代早期末葉と考えられる。

(袖岡淳子)

P-86 (図III-64/表IV-3)

位置：Q-18-c、R-18-d

規模：1.02×0.98/0.76×0.78/0.33m 長軸方向：N-27°-E

特徴 調査区南部の平坦面に位置する。VII層上面を精査中に褐灰色土の落ち込みを検出した。平面形は円形である。壁はやや急で、墳底は平坦である。

遺物 覆土からI群b-4類土器、陶磁器、つまみ付ナイフ、フレイクが出土している。いずれも掘削時に混入したものとみられる。

時期 覆土がI層とみられる褐灰色土を基調とするため、また平面形の類似などから現代のものとみられる。

(立田 理)

P-87 (図III-64/図版III-33/表IV-6)

位置：H-19-b・c

規模：0.65×0.52/0.45×0.32/0.11m 長軸方向：N-23°-E

特徴 調査区南西部の平坦面に位置する。VI層上面を精査中にI群b-4類土器がややまとまって出土した(図III-64)。土器を記録し取り上げた後、周囲をさらに精査すると、火山灰を微量含む黒褐色土の落ち込みを検出した。落ち込みの東側を半載し、土壌であることが判明した。平面形はやや不整な楕円形を呈し、断面形は浅い皿状である。壁は緩やかで、墳底は平坦である。

遺物 出土していない。

時期 上面でI群b-4類土器がまとまって出土しているため縄文時代早期のものである可能性がある。

(立田 理)

P-88 (図III-64/表IV-3)

位置：L-24-a・d 規模：1.78×1.61/1.35×1.40/0.16m

長軸方向：N-48°-W

特徴 VII層上位で確認された平面が不整の円形を呈す土壌である。覆土はローム質土を主体とするものでこれらは埋め戻された可能性がある。遺物は大半が墳底壁際に近い覆土中からのもので、意図して置かれた可能性を残す。1点出土したV群c類土器は、近くで検出した風倒木の攪乱によるものである。掘り込み面は近・現代の削平により大きく失われており、覆土に入る腐植土の状態から見て本来的にはVI層上面に近いレベルと考えられる。墳底は平坦に作られ、壁へは緩やかに繋がっている。

覆土と遺物の出土状況から土壌墓の可能性はある。

遺物 掲載遺物無し。

時期 覆土に混ざる腐植土の割合から縄文時代早期中～後葉の可能性が高い。

(皆川洋一)

P-89~91・98~100・105~112 (図III-65/表IV-3)

P-89 位置: P-18-d、P-19-a 規模: $0.46 \times 0.44 / 0.65 \times 0.59 / 0.37m$ 長軸方向: N-55°-W

P-90 位置: P-18-d、P-19-a 規模: $0.45 \times 0.46 / 0.52 \times 0.55 / 0.24m$ 長軸方向: N-54°-W

P-91 位置: P-18-c、P-19-b 規模: $0.42 \times 0.34 / 0.20 \times 0.18 / 0.21m$ 長軸方向: N-7°-E

P-98 位置: O-18-c 規模: $0.38 \times 0.38 / 0.70 \times 0.58 / 0.37m$ 長軸方向: N-37°-W

P-99 位置: O-18-c、O-19-b 規模: $0.41 \times 0.37 / 0.17 \times 0.20 / 0.15m$ 長軸方向: N-49°-E

P-100 位置: P-19-b 規模: $0.37 \times 0.35 / 0.54 \times 0.46 / 0.28m$ 長軸方向: N-40°-E

P-105 位置: O-19-b 規模: $0.38 \times 0.38 / 0.47 \times 0.53 / 0.30m$ 長軸方向: N-77°-E

P-106 位置: O-19-b 規模: $0.33 \times 0.37 / 0.46 \times 0.42 / 0.32m$ 長軸方向: N-76°-E

P-107 位置: O-19-b 規模: $0.41 \times 0.43 / 0.68 \times 0.60 / 0.40m$ 長軸方向: N-30°-W

P-108 位置: O-19-b 規模: $0.35 \times 0.29 / 0.20 \times 0.12 / 0.13m$ 長軸方向: N-21°-W

P-109 位置: P-19-a 規模: $0.45 \times 0.39 / 0.18 \times 0.18 / 0.35m$ 長軸方向: N-45°-W

P-110 位置: P-19-a 規模: $0.61 \times 0.34 / 0.45 \times 0.34 / 0.25m$ 長軸方向: N-53°-W

P-111 位置: P-19-a 規模: $0.32 \times 0.29 / 0.07 \times 0.10 / 0.15m$ 長軸方向: N-67°-W

P-112 位置: O-19-a 規模: $0.45 \times 0.45 / 0.34 \times 0.33 / 0.26m$ 長軸方向: N-30°-W

特徴 F-23・25・26の周囲で検出された小型のものからなる土壌群である。形態は89・90・98・100・105・107が小型のプラスチック状ピットの形を呈し、他は柱穴の様な形である。規模は確認面からの深度が40cm前後のものが多く、その他は5~10cmと浅くなる。確認面はⅦ層上面で、覆土はⅤ層腐植土を主体とする土壌が堆積している。掘り込み面はⅤ層下位からⅥ層上面と考えられる。出土する遺物は少なく、それらも腐植土とともに流れ込んだ可能性が高い。F-23・25・26とは強く関連する可能性があり、この焼土とプラスチック状ピット類似の小土壌のセットは1つのパターンを形成すると考えられる。遺跡内での類別にはF-31とP-16、F-12とその周囲の小土壌などが上げられる。これらの性格としては、火を使う作業場に作られた貯蔵用の穴などが考えられる。これ以外には柱の跡などにも可能性がある。

遺物 掲載遺物なし。

時期 類別遺構セットの各位置と遺物分布範囲の重複から、縄文時代早期中~後葉(I群a類 or I群b-1類)の時期と考えられるが、Ⅴ層腐植土との関り具合から見てI群b-1類の時期の可能性がやや強いと思われる。

(皆川洋一)

P-92 (図III-64/表IV-3)

位置: L-27-a

規模: $0.67 \times 0.47 / 0.34 \times 0.15 / 0.27m$ 長軸方向: N-81°-E

特徴 調査区中央部の平坦面に位置する。Ⅴ層上面で黒色土の落ち込みを検出した。平面形は楕円形で断面形は碗状を呈する。

遺物 覆土からⅢ群a類土器片が出土している。

時期 覆土中から出土した土器、覆土の色調から、縄文時代中期以降に構築された可能性がある。

(立田 理)

P-93 (図III-65/表IV-3)

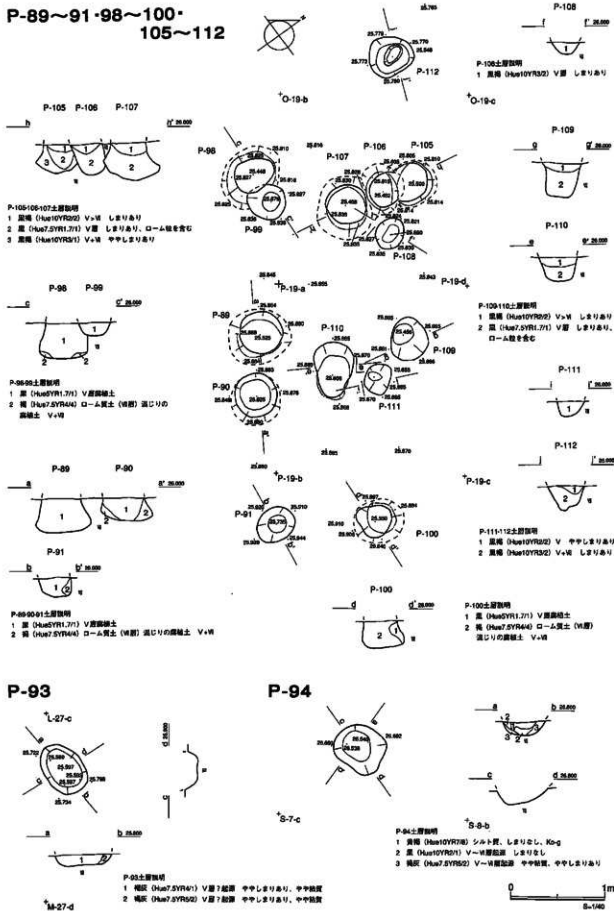
位置: L-27-b・c

規模: $0.58 \times 0.42 / 0.45 \times 0.30 / 0.12m$ 長軸方向: N-82°-E

特徴 調査区中央部の平坦面に位置する。Ⅶ層上面を精査中に、褐灰色の落ち込みを検出した。半截

P-89~91-98~100・
105~112

III 遺構



図III-65 P-89~91・93・94・98~100・105~112

2 土壇

したところ壁、墳底を確認し、土壇であることが判明した。平面形は楕円形で長軸は東西方向である。掘り込みは浅い。壁は緩やかで、墳底は平坦である。

遺物 覆土の中位からフレイクが出土している。

時期 不明であるが、覆土の色調からすると縄文早期のものである可能性が高い。(立田 理)

P-94 (図Ⅲ-65)

位置: S-7-d

規模: $0.55 \times 0.53 / 0.27 \times 0.32 / 0.14\text{m}$ 長軸方向: N-28°-E

特徴 調査区南部の平坦面に位置する。Ⅵ層上面を精査中に黒色土の落ち込みを検出した。落ち込みの中心に火山灰が堆積していた。半載して椀状の壁・墳底を確認し、土壇であることが判明した。平面形は墳口・墳底ともに不整の楕円形である。

遺物 出土していない。

時期 覆土の上位に Ko-g の堆積があるため、縄文時代早期のものとみられるが、土壇の断面とⅦ層の境が不明瞭なことなどから、自然攪乱の可能性もある。(立田 理)

P-95 (図Ⅲ-66/図版Ⅲ-33/表Ⅳ-3~5)

位置: H-20-b・c、I-20-a・d

規模: $1.53 \times 1.04 / 0.34 \times 0.92 / 0.22$ 長軸方向: N-77°-E

特徴 調査区西部の平坦面に位置する。Ⅵ層上面を精査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。半載して土壇であることがわかった。平面形は東西に長い楕円形で、南西側に直角に近い角がある。壁はやや急で墳底は平坦である。覆土の下位は、人為的埋め戻しの様相を呈する。また覆土の最下層で炭化物の堆積を検出した。堆積の平面形は不整形で、土壇の中心から北西隅までの範囲にひろがっている。

遺物 墳底からたたき石片が置かれた状態で出土している(図Ⅲ-66)。その他に覆土、墳底からⅢ群 a 類土器の小片が出土している。炭化物の堆積からはⅢ群 a 類土器の他、小礫が出土している。

1、2 は内面が研摩されたⅢ群 a 類土器の胴部である。器面にはいずれも二段単節の羽状縄文と綾絡文が施されている。

3 はたたき石。珪岩製。亜円礫の端部を使用したと考えられる。破損している。

時期 墳底から出土した土器から、縄文時代中期Ⅲ群 a 類土器の時期の可能性が高い。(立田 理)

P-96 (図Ⅲ-66)

位置: M-23-d 規模: $0.38 \times 0.30 / 0.25 \times 0.20 / 0.08\text{m}$

長軸方向: N-23°-W

特徴 平面が不整の円形を呈する性格不明の小土壇である。Ⅶ層での確認だが土壇の上位は近・現代の削平で失われており、覆土に入る腐植土の様子から見て本来の掘り込み面はⅡ~Ⅲ層付近と考えられる。小型ながら墳底には平坦部が作られ、壁は緩やかに立ち上がっている。覆土に入る腐植土は掘り上げたローム質土が混じるもので、埋め戻しが行われた可能性がある。遺物は出土していない。

遺跡内では類似の土壇が多数検出されているが、本遺構と P-21・75・76・97 には配置にまとまりが見られ、これらは小さな群を構成する可能性がある。

遺物 掲載遺物無し。

時期 遺跡内の類似土壇内に入るⅤ群 c 類土器から、縄文時代晩期後葉と考えられる。(皆川洋一)

P-97 (図Ⅲ-66)

位置: M-23-d、M-24-a 規模: $0.48 \times 0.41 / 0.18 \times 0.23 / 0.17\text{m}$

長軸方向: N-66°-W

特徴 平面が不整の円形を呈する性格不明の小土壇である。Ⅶ層での確認だが土壇の上位は近・現代の削平やⅥ層の調査で失われており、覆土に入る腐植土の様子から見て本来の掘り込み面はⅡ～Ⅲ層付近と考えられる。小型ながら墳底には平坦部が作られ、壁は緩やかに広がりながら立ち上がる。覆土に入る腐植土は掘り上げたローム質土が混じるもので、埋め戻しが行われた可能性がある。遺物は出土していない。遺跡内では類似の土壇が多数検出されているが、本遺構とP-21・75・76・97には配置にまとまりが見られ、これらは小さな群を構成する可能性がある。

遺物 掲載遺物無し。

時期 遺跡内の類似土壇内に入るⅤ群c類土器から、縄文時代晩期後葉と考えられる。(皆川洋一)

P-101 (図Ⅲ-66/表Ⅳ-3)

位置 : L-14-d

規模 : $0.44 \times 0.38 / 0.28 \times 0.27 / 0.14\text{m}$ 長軸方向 : N-73°-W

特徴 調査区南西部の平坦面に位置する。2m北にP-102がある。Ⅶ層上面を精査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。南側を半載したところ、壁と墳底を確認し、土壇であることが判明した。平面形は不整の楕円形、墳底の平坦面は小さく、東西方向の断面は碗状を呈する。壁は緩やかに立ち上がり、墳底は平坦である。

遺物 覆土からⅠ群b-1類土器、フレイクが出土している。

時期 覆土の状態、平面形、規模から縄文時代晩期Ⅴ群c類土器の時期のものである可能性がある。

(立田 理)

P-102 (図Ⅲ-66/表Ⅳ-3)

位置 : L-15-a

規模 : $0.47 \times 0.39 / 0.33 \times 0.25 / 0.13\text{m}$ 長軸方向 : N-58°-W

特徴 調査区南西部の平坦面に位置する。P-101より2m南に位置する。Ⅶ層上面を精査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。西側を半載して浅い皿状の壁、墳底を確認し、土壇であることが判明した。平面形は楕円形である。壁は緩やかで墳底は平坦である。

遺物 覆土からⅠ群b-1類土器、砥石片、フレイクが出土している。

時期 覆土の状態、平面形、規模から縄文時代晩期Ⅴ群c類土器の時期のものとみられる。

(立田 理)

P-103 (図Ⅲ-66/表Ⅳ-3)

位置 : H-17-b、I-17-a

規模 : $0.66 \times 0.48 / 0.46 \times 0.30 / 0.16\text{m}$ 長軸方向 : N-76°-E

特徴 調査区南西部の平坦面に位置する。1m東側にP-49、南西側にP-77、1.5m南側にP-10・11が位置する。Ⅶ層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。南側を半載して碗状の断面を確認し、土壇であることが判明した。平面形は墳口墳底ともに東西に長い楕円形である。

遺物 覆土から土器片、フレイクが出土している。

時期 覆土の状態、平面形、規模から縄文時代晩期Ⅴ群c類土器の時期の可能性はある。

(立田 理)

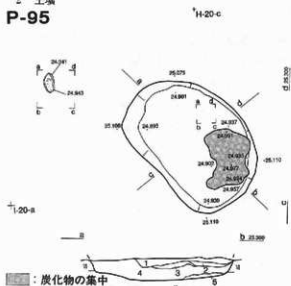
P-104 (図Ⅲ-66/図版Ⅲ-33/表Ⅳ-3・4)

位置 : R-39-a **規模** : $0.60 \times 0.55 / 0.47 \times 0.31 / 0.30\text{m}$

長軸方向 : N-78°-W

特徴 平面が不整の楕円形を呈する性格不明の土壇である。Ⅵ層での確認だが、覆土に入る腐植土の

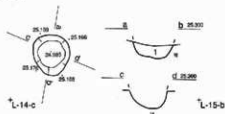
2 土層
P-95



P-95土層説明

- 1 黒 (Hue7.5YR1.7/1) しまりなし、灰層?
- 2 灰黒 (Hue7.5YR6/2) 炭〜灰層混在 しまりなし
- 3 黒灰 (Hue7.5YR3/1) 炭〜灰層混在 しまりなし
- 4 黒灰 (Hue7.5YR3/1) 炭〜灰層混在 炭層ブロックを含む、球質
- 5 黒灰 (Hue7.5YR3/1) 4層に炭化物が多量に含まれる

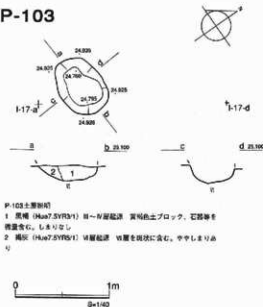
P-101



P-101土層説明

- 1 黒灰 (Hue7.5YR3/1) 炭〜灰層混在 やや粘質、ややしまりあり

P-103



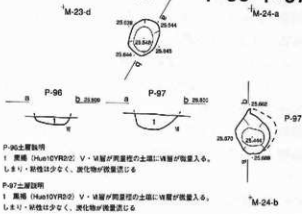
P-103土層説明

- 1 黒灰 (Hue7.5YR3/1) 炭〜灰層混在 灰褐色土ブロック、石層等を包含、しまりなし
- 2 黒灰 (Hue7.5YR3/1) 炭層混在 炭層を塊状に含む、ややしまりあり



M-23-d

P-96 P-97



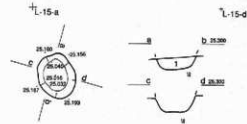
P-96土層説明

- 1 黒灰 (Hue10YR2/2) V・炭層が両面性の土壌に炭層が散入る、しまり・粘性は少なく、炭化物が塊状混在

P-97土層説明

- 1 黒灰 (Hue10YR2/2) V・炭層が両面性の土壌に炭層が散入る、しまり・粘性は少なく、炭化物が塊状混在

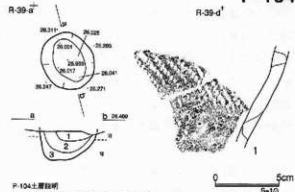
P-102



P-102土層説明

- 1 黒灰 (Hue7.5YR3/1) 炭〜灰層混在 やや粘質、ややしまりあり

P-104



P-104土層説明

- 1 黒 (Hue5YR1.7/1) V層腐植土 灰1層を含む
- 2 灰黒 (Hue7.5YR3/2) V層腐植土にN、V層のローム質土が混在
- 3 黒灰 (Hue10YR3/3) V層腐植土とローム質がほぼ等しく混在、しまりも粘性もない



図III-66 P-95~97・101~104

様子から見て掘り込み面はV層中と考えられる。墳底にはやや傾斜が見られ、壁は緩やかに広がりながら立ち上がる。覆土下位には掘り上げたローム質土が混じる腐植土が入り、埋め戻しが行われた可能性がある。覆土1層から出土したI群b-1類土器は、周辺の出土状況から見て本土墳の上に据え置かれた可能性が高い。

遺物 1はI群b-1類の深鉢形土器である。平底のもので器壁は厚く器面には太い二段単節の原体で羽状縄文が施されている。東釧路Ⅲ式に相当すると考えられる。

時期 覆土1層の土器出土状態から、縄文時代早期後葉I群b-1類の時期と考えられる。

(皆川洋一)

P-113 (図Ⅲ-67/表Ⅳ-3)

位置: H-16-a

規模: $0.49 \times 0.46 / 0.39 \times 0.35 / 0.24\text{m}$ 長軸方向: N-23°-E

特徴 調査区南西端の平坦面に位置する。P-113~116は、東西4m、南北1.5mの範囲に集中して検出した。これらの土壌は平面形、覆土の様相、遺物あまり出土しないこと等の類似点があるため、同時期のものとみられる。P-113は集中の北西部分に位置し、西側にP-114が隣接する。Ⅶ層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。落ち込みを半載して壁、墳底を確認し、土壌であることを確認した。墳口が狭く、内部が袋状に広がるフラスコ状ピットである。平面形は墳口・墳底ともに歪な円形である。墳底は丸底状で、壁は中位から急にオーバーハングする。

遺物 覆土からフレイクが出土している。

時期 覆土の色調から、縄文時代早期の可能性が高い。

(立田 理)

P-114 (図Ⅲ-67/図版Ⅲ-33/表Ⅳ-3・5)

位置: H-16-a・b

規模: $0.40 \times 0.40 / 0.27 \times 0.33 / 0.25\text{m}$ 長軸方向: N-62°-W

特徴 調査区南西端の平坦面に位置する。P-114は、前述の集中の中央に位置する。Ⅶ層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。半載して壁、墳底を確認し、土壌であることがわかった。墳口は狭く、内部が袋状に広がるフラスコ状ピットである。平面形は墳口でほぼ円形、墳底は不整の楕円形である。断面形は丸底状を呈し、壁は南東部分以外ではオーバーハングする。

遺物 覆土からI群a類土器、すり石、礫が出土している。

1はたたき石。凝灰岩製。偏平な棒状の表面に敲打痕がある。破損している。

時期 覆土の状態から、縄文時代早期のものである可能性が高い。

(立田 理)

P-115 (図Ⅲ-67/表Ⅳ-3)

位置: H-15-d

規模: $0.44 \times 0.39 / 0.24 \times 0.26 / 0.19\text{m}$ 長軸方向: N-79°-E

特徴 調査区南西端の平坦面に位置する。P-115は、前述の集中の西側の先端に位置する。Ⅶ層上面を精査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。墳口が狭く、内部が袋状に広がるフラスコ状ピットである。墳口の平面形は卵形である。墳底は円形を呈する。壁は北西側以外でオーバーハングし、東西の断面は袋状を呈する。

遺物 覆土から・群a類土器、I群b-1類土器が出土している。

時期 覆土の状態から、縄文時代早期のものである可能性が高い。

(立田 理)

P-116 (図Ⅲ-67/図版Ⅲ-33/表Ⅳ-3・5)

位置: H-16-c

規模：0.49×0.45/0.40×0.35/0.34 長軸方向：N-53°-W

特徴 調査区南西端の平坦面に位置する。P-116は、前述の集中の東側の先端に位置する。隣接するP-114は1m20cm東に位置する。Ⅶ層上面を精査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。墳口が狭く、内部が袋状に広がるフラスコ状ピットある。墳口の平面形は不整形である。断面はややいびつな袋状を呈し、墳底は丸底状である。

遺物 覆土からI群a類土器、石鏡が出土している。

1は石鏡。黒曜石製で柳葉形を呈する。丁寧な二次加工で薄身に仕上げられている。

時期 縄文時代早期のものである可能性が高い。

(立田 理)

P-117 (図Ⅲ-67/図版Ⅲ-33/表Ⅳ-3・4)

位置：L-17-b・c、M-17-a・d 規模：1.65×1.52/0.70×0.91/0.50m

長軸方向：N-80°-W

特徴 Ⅶ層上面で確認された平面が不整の楕円形を呈する性格不明の土壌である。覆土の主体はⅤ層腐植土で、覆土1層には遺構検出の鍵層となるKo-gが堆積する。土壌の上位は近・現代の削平やⅥ層の調査で失われており、覆土に入る腐植土の様子から見て本来の掘り込み面はⅤ層下位からⅥ層上位と考えられる。墳底はゆるく起伏するもので、壁は緩やかに広がりながら立ち上がる。遺物の大半は覆土4層から出土したものである。I群a類土器や台石片などがあり、波線で図示した墳底付近からは黒曜石製のフレイク・チップが出土している。

遺物 1はI群a類の口縁部である。器面には貝殻の腹縁文や条痕文、刺突文を伴う沈線文などによる文様が施される。H-1出土の図Ⅲ-5-5の土器と同一個体の可能性が高い。

時期 Ko-gの堆積状況と出土遺物から、縄文時代早期後葉かそれ以前の時期と考えられる。

(皆川洋一)

P-118 (図Ⅲ-67/表Ⅳ-3)

位置：J-26-d

規模：0.61×0.40/0.43×0.22/0.13m 長軸方向：N-77°-E

特徴 調査区中央部の平坦面に位置する。Ⅶ層上面で褐色土の落ち込みを検出した。平面形は東西に長い楕円形である。壁は墳底と緩やかに連続している。

遺物 覆土からI群b-1類土器、フレイクが出土している。

時期 縄文時代早期のものである可能性が高い。

(立田 理)

P-119 (図Ⅲ-68/表Ⅳ-3)

位置：J-26-c

規模：0.77×0.59/0.41×0.34/0.12m 長軸方向：N-33°-W

特徴 調査区中央部の平坦面に位置する。Ⅶ層上面で褐色土の落ち込みを検出した。平面形は、墳口ではいびつな楕円形を呈し、墳底では卵形を呈する。壁は緩やかに墳底と連続し、断面形は浅い皿状を呈する。

遺物 覆土からI群a類土器、石核が出土している。

時期 縄文時代早期のものである可能性が高い。

(立田 理)

P-120 (図Ⅲ-68)

位置：I-18-d

規模：0.55×(0.34)/0.39×(0.30)/0.10m 長軸方向：N-55°-W

特徴 調査区南西部の平坦面に位置する。Ⅶ層上面を精査中に、自然攪乱に切られるややよごれた黄

褐色土の落ち込みを検出した。平面形は確認できた部分では半円形を呈する。壁は緩やかで墳底と連続している。

遺物 出土していない。

時期 覆土がⅦ層あるいはⅥ層で構成されるため、縄文時代早期である可能性が高い。(立田 理)

P-121 (図Ⅲ-68/表Ⅳ-3)

位置: I-18-d

規模: $1.63 \times 1.12 / 0.90 \times 0.65 / 0.21m$ 長軸方向: N-80°-W

特徴 調査区南西部の平坦面に位置する。P-80の調査終了後、付近を精査したところ、黒褐色の落ち込みを検出した。落ち込みの長軸の南側を半載して、壁、墳底を確認し、土壇であることがわかった。平面形は墳口・墳底ともに北西-南東方向に長い楕円形である。壁は緩やかに墳底と連続し、断面形は浅い椀状を呈する。P-80との重複関係は不明である。

遺物 覆土からI群a類土器、フレイクが出土している。

時期 縄文時代晩期V群c類土器の時期である可能性が高い。

(立田 理)

P-122 (図Ⅲ-68/図版Ⅲ-33/表Ⅳ-3~5)

位置: L-14-a 規模: $0.43 \times 0.38 / 0.21 \times 0.28 / 0.15m$

長軸方向: N-26°-E

特徴 Ⅶ層で確認された平面が不整の円形を呈する性格不明の小土壇である。土壇の上位は近・現代の削平やⅥ層の調査で失われており、覆土に入る腐植土の様子から見て本来の掘り込み面はⅡ~Ⅴ層付近と考えられる。小型ながら墳底には平坦部が作られ、壁は緩やかに広がりながら立ち上がる。覆土に入る腐植土は掘り上げたローム質土が混じるもので、埋め戻しが行われた可能性がある。遺物はI群b-1類、I群b-4類土器、石錐などが出土している。

遺物 1は0段多条の原体を使った従位の羽状縄文が施されるI群b-1類の口縁部である。2は石錐で流紋岩製。

時期 覆土の遺物から見て縄文時代後葉I群b-4類の時期の可能性はある。しかし、遺跡内で検出されている晩期のものと形態や規模、覆土の状態等の点で共通点が多いことから縄文時代晩期後葉V群c類の時期の可能性も残る。

(皆川洋一)

P-123 (図Ⅲ-68/図版Ⅲ-34/表Ⅳ-3・4)

位置: N-13-a・b 規模: $1.67 \times 1.37 / 1.59 \times 1.33 / 0.12m$

長軸方向: N-31°-W

特徴 H-12に近接して作られた浅い竪穴状の土壇である。完掘での平面形は不整形であるが、近・現代の削平で遺構の上位が失われており、形態や規模などは本来のものを留めていない。表土を除去したⅦ層中の面から竪穴内に堆積する黒褐色土により確認した。周囲には類似するP-124・126も検出されている。覆土はⅤ層腐植土の自然流入と考えられる。掘り込み面は覆土から見てⅤ層中と推定される。

底面はほぼ平坦で壁の立ち上がりが緩やかである。H-12との切り合いは不明瞭で、南側の壁の多くは欠失している。遺物は土器がI群a類とb-1類が出土しており主体は後者と考えられる。石器類は砥石片などが見つかった。

本土壇とP-124・126は壁の一部を重複させながらこのH-12を取り巻くように位置している。各遺構の底面レベルは近い値で、トレンチにその痕跡が認められず、含まれる土器も同じI群b-1類であることから、これらに時期差はなくH-12の機能を補うために追加された遺構と考えられる。簡易

2 土壌

な作りのH-12ゆえに再び作り直すのではなく、P-123・124・126はH-12に対して追加もしくは拡張した関連遺構の可能性はある。

遺物 1・2はI群b-1類土器の胴部である。1は縞杉状縄文の施されたもので内面には条痕が見られる。2は0段多条の結束羽状縄文が施されている。

時期 覆土の遺物から縄文時代早期後葉I群b-1類の時期と考えられる。(皆川洋一)

P-124 (図Ⅲ-69/図版Ⅲ-34/表Ⅳ-3・5)

位置 M-12-c、M-13-b **規模** 1.50×(1.38)/1.45×(1.31)/0.08m

長軸方向 N-1'-W

特徴 H-12に近接して作られた浅い土壌である。周囲には類似するP-123・126が検出されている。完掘での平面形は不整形であるが、近・現代の削平で遺構の上位が失われており、形態や規模などは本来のものを留めていない。表土を除去したⅦ層中の面から整穴内に堆積する黒褐色土により確認した。覆土はⅦ層腐植土の自然流入と考えられ、掘り込み面は覆土から見てⅦ層中と推定される。

底面はほぼ平坦で壁の立ち上がりが緩やかである。H-12との切り合いは不明瞭で、北西側の壁の多くは欠失している。遺物はI群a類土器の細片、石器類はドリル片、石鏃片などが見つかったが、ほとんどは流れ込みと考えられる。

本土壌とP-123・126は壁の一部を重複させながらこのH-12を取り巻くように位置している。各遺構の底面レベルは近い値で、トレンチにその痕跡が認められず、含まれる土器も同じI群b-1類であることから、これらに時期差はなくH-12の機能を補うために追加された遺構と考えられる。簡易な作りのH-12ゆえに再び作り直すのではなく、P-123・124・126はH-12に対して追加もしくは拡張した関連遺構の可能性はある。

遺物 1は石鏃。凝灰岩製。破損している。

時期 周辺遺構との配置や共通点から縄文時代早期後葉I群b-1類の時期と思われる。(皆川洋一)

P-125 (図Ⅲ-69)

位置 L-12-c、L-13-b

規模 0.61×0.47/0.45×0.29/0.14m **長軸方向** N-11'-E

特徴 調査区南西端の平坦面に位置する。H-15と重複し、本遺構が新しい。H-15の上面を精査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。半載して土壌であることがわかった。平面形は隅丸方形に近い楕円形である。壁は緩やかで、墳底は平坦である。

遺物 出土していない。

時期 縄文時代晩期Ⅶ群c類土器の時期のものである可能性が高い。(立田 理)

P-126 (図Ⅲ-69/図版Ⅲ-34/表Ⅳ-3・5)

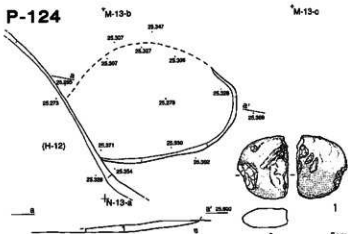
位置 M-11-c、M-12-b、N-11-d、N-12-a **規模** 2.82×2.68/2.70×2.60/0.07m

長軸方向 N-69'-E

特徴 H-12に近接して作られた浅い整穴状の土壌である。周囲には類似するP-123・124が検出されている。完掘での平面形は不整形であるが、近・現代の削平で遺構の上位が失われており、形態や規模などは本来のものを留めていない。表土を除去したⅦ層中の面から整穴内に堆積する黒褐色土により確認した。覆土はⅦ層腐植土の自然流入と考えられ、掘り込み面は覆土から見てⅦ層中と推定される。

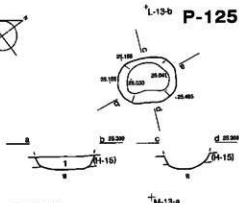
底面はほぼ平坦で壁の立ち上がりが緩やかである。H-12との切り合いは不明瞭で、北西側の壁の多くは欠失している。遺物はI群a類、I群b-1類土器の細片、石器類は石斧片、砥石片などが見つかった。

P-124



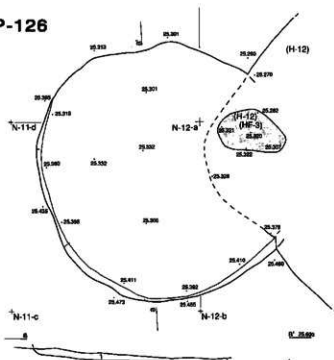
P-124土層説明
1 基 (Oha7.5YR1.7/1) V層腐植土 しまりあり、粘性は少ない

P-125



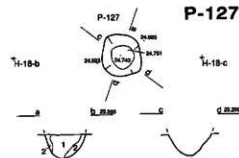
P-125土層説明
1 基層 (Oha7.5YR2/1) M-V層腐植土 しまりなし

P-126

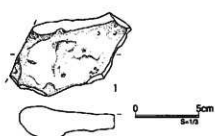


P-126土層説明
1 基 (Oha7.5YR1.7/1) V層腐植土 しまりあり、粘性は少ない

P-127



P-127土層説明
1 基 (Oha7.5YR2/1) M層腐植土 しまりなし
2 腐植層 まだら状、しまりなし



図III-69 P-124~127

2 土壇

ているが、ほとんどは流れ込みと考えられる

本土壇と P-123・124 は壁の一部を重複させながら H-12 を取り巻くように位置している。各遺構の底面レベルは近い値で、トレンチ断面にその痕跡が認められず、含まれる土器も同じ I 群 b-1 類であることから、これらにほとんど時期差はなく H-12 の機能を補うために追加された遺構と考えられる。簡易な作りの H-12 ゆえに再び作り直すのではなく、P-123・124・126 は H-12 に対して追加もしくは拡張した関連遺構の可能性はある。

遺物 1 は石皿もしくは台石片。凝灰岩製。

時期 周辺遺構との配置や共通点から縄文時代早期後葉 I 群 b-1 類の時期と思われる。(皆川洋一)
P-127 (図 III-69/表 IV-3)

位置：H-18-a・b

規模：0.48×0.43/0.24×0.23/0.25m 長軸方向：N-83°-E

特徴 調査区南西端の平坦面に位置する。Ⅶ層上面を精査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。平面形は円形、断面形は U 字状を呈する。

遺物 出土していない。

時期 不明であるが、縄文時代に属する可能性が高い。

(立田 理)

3 柱穴状小ピット

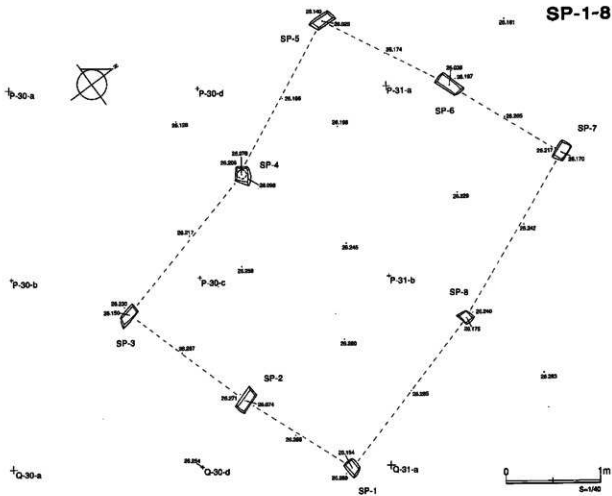
SP-1~8 (図III-70/図版III-34/表IV-3・5) 位置: O-30-c, O-31-b, P-30-b'd, P-31-a*b, Q-30-d

特徴 個々の規模が長さが15~20cm程の長方形や方形からなる、掘立て小屋の柱と考えられる小ピット群である。確認したVI層上面からの深さは10~15cm程で、8ヵ所のいずれの穴にも剣先状のスコップのような金属器を使って掘り込まれた痕跡が窺え、覆土には形10cm程の柱が埋め込まれていた痕も残る。小屋の大きさは長軸をほぼ南北に向けた4×3mのものである。

遺物 SP-2からは陶磁器の徳利の破片が出土している。

時期 掘り具の痕跡と徳利から近・現代のものと考えられる。

(皆川洋一)



図III-70 SP-1~8

4 焼土

4 焼土

F-1 (図Ⅲ-71/表Ⅳ-3)

位置: J-14-d

規模: $0.55 \times 0.48 / - \times - / 0.10\text{m}$ 長軸方向: N-11'-W

特徴 調査区南西端の平坦面に位置する。H-9の確認作業中に検出した。H-9、H-11の埋没後に形成されたとみられる。

遺物 上面でRフレイク、剥片、礫が出土している。

時期 不明であるが、縄文時代早期のものである可能性が高い。

(立田 理)

F-2 (図Ⅲ-71)

位置: I-13-c

規模: $0.53 \times 0.42 / - \times - / 0.06\text{m}$ 長軸方向: N-43'-W

特徴 調査区南西端の緩斜面に位置する。約50cm北にF-3が位置する。VI層上面を精査中に検出した。

遺物 出土していない。

時期 検出面から縄文時代早期に形成された可能性が高い。

(立田 理)

F-3 (図Ⅲ-71)

位置: I-13-c-d

規模: $0.60 \times 0.38 / - \times - / 0.06\text{m}$ 長軸方向: N-41'-W

特徴 調査区南西端の緩斜面に位置する。約50cm南にF-2が位置する。VI層上面を精査中に検出した。

遺物 出土していない。

時期 検出面から縄文時代早期に形成された可能性が高い。

(立田 理)

F-4 (図Ⅲ-71・75/図版Ⅲ-34/表Ⅳ-3)

位置: N-28-c、N-29-d 規模: $0.93 \times 0.41 / \times / 0.18\text{m}$

長軸方向: N-61'-W

特徴 VII層上面で確認した。トレンチ調査の結果P-38に切られていることが判明した。平面、深さがP-38とほぼ重なることから関連する遺構である可能性が高い。焼土の赤化は弱く、あまり焼けていない。周辺の包含層からはフレイク等が比較的まとまった状態で検出された。

遺物 周辺の包含層からI群b-1類と不明土器、石鏃、スクレイパー、Rフレイク、Uフレイク、フレイク、石核が出土している。分布は焼土の南東部にほぼまとまっており、高さもほぼ同じであるため焼土に伴う可能性が高い。

1は石鏃。小形で、やや厚みがある。側縁は外湾し基部は内湾する。2はスクレイパー。腹面の右側縁に外湾する刃部が作り出される。

時期 周辺出土の遺物から縄文時代早期I群b-1類の時期と考えられる。

(広田良成)

F-5 (図Ⅲ-71)

位置: N-28-d 規模: $0.89 \times 0.61 / \times / 0.10\text{m}$

長軸方向: N-44'-W

特徴 VII層上面で確認した。焼け方は漸移的で、中央付近はよく焼け周辺部は赤化が弱い。周辺の包含層からはI群b-1類、I群b-4類土器が出土している。

遺物 出土していない。

時期 周辺出土の遺物及び検出層位から縄文時代早期の可能性がある。 (広田良成)

F-6 (図III-71)

位置: Q-30-d 規模: $0.88 \times 0.52 / \times / 0.13\text{m}$

長軸方向: N-62°-E

特徴 VII層上面で確認した。焼けかたは漸移的で、上部はよく焼け下部になるに従い赤化が弱くなる。

周辺の包含層からはI群b-1類土器が出土している。

遺物 出土していない。

時期 周辺出土の遺物から縄文時代早期I群b-1類土器の時期の可能性がある。 (広田良成)

F-7 (図III-71・75/図版III-34/表IV-3)

位置: Q-28-d、Q-29-a 規模: $0.63 \times 0.26 / \times / 0.06\text{m}$

長軸方向: N-8°-W

特徴 VII層上面で確認した。北側が比較的良好に焼けて、南に行くほど赤化が弱くなる。焼土の東側でI群b-1類土器等がややまとまった状態で検出された。

遺物 周辺の包含層からほぼ同じ高さで、I群b-1類土器、たたき石、フレイクが出土した。I群b-1類土器片は焼土の東側を囲むように出土している。

1・2はI群b-1類と考えられる器壁の薄い平底の深鉢形土器である。

1は口縁部に備わる折り返しの肥厚帯上に2列の刺突列が施されるもので、口唇には細い棒状の施文具による横からの刺突列、器面には整ったLRの斜行縄文が施される。底部は下端が僅かに張り出すもので、その上位の器面と底面には縄線文かRLの斜行縄文のようなものが施されている。2は肥厚帯の上に斜めの縄線文が施されるものである。口縁に近い器面にはRL、底部に近い器面にはLRの斜行縄文が各施される。器面の縄文の上と内面には更に条痕が施されるのは1と同じである。底部はやはり下端が僅かに張り出すもので底面には結束の羽状縄文が施されている。上げ底気味の底部は熱による赤化が著しく内外両面に炭化物の付着が観察される。

器形はどちらも平縁の口縁が大きく開き底部で窄まる形のものと考えられる。表裏の貝殻条痕が大きな特徴となっており、このことから1・2は、「仮称西桔梗式」相当の土器と考えられる。

時期 周辺出土の遺物から縄文時代早期I群b-1類土器の時期の可能性が高い。 (広田良成)

F-8 (図III-72)

位置: J-17-c+d、J-18-a+b

規模: $0.47 \times 0.44 / - \times - / 0.18\text{m}$ 長軸方向: N-79°-W

特徴 調査区南西部の平坦面に位置する。VI層上面で検出した。

遺物 出土していない。

時期 検出面から縄文時代早期に形成された可能性が高い。 (立田 理)

F-9 (図III-72/表IV-3)

位置: M-34-b 規模: $0.42 \times 0.31 / \times / 0.08\text{m}$

長軸方向: N-39°-E

特徴 V層中位で確認した。赤化が弱い焼土である。

遺物 出土していない。周辺の包含層からはI群b-1類土器が出土している。

時期 周辺出土の遺物からI群b-1類土器の時期の可能性が高い。 (広田良成)

F-10 (図III-72)

位置: G-18-a

4 焼土

規模：0.82×0.35/—×—/0.12m 長軸方向：N-33°-E

特徴 調査区西端の平坦面に位置する。約半分ほど調査区外に延びている。検出面はVI層上面である。

遺物 出土していない。

時期 検出面から縄文時代早期に形成された可能性が高い。

(立田 理)

F-11 (図III-72)

位置：O-11-b、P-11-a 規模：0.63×0.45/×/0.03m

長軸方向：N-4°-W

特徴 VI層上面で確認されたH-8と接する赤化の弱い焼土である。遺物は伴わず、二次堆積の可能性も在る。H-8との先後は不明である。

遺物 掲載遺物なし。

時期 検出層位から縄文時代早期後葉の可能性が高い。

(皆川洋一)

F-12 (図III-72)

位置：H-16-a・b

規模：0.66×0.50/—×—/0.07m 長軸方向：N-56°-E

特徴 調査区南西端の平坦面に位置する。検出面はVI層上面である。

遺物 出土していない。

時期 検出面から縄文時代早期に形成された可能性が高い。

(立田 理)

F-13 (図III-72)

位置：H-16-d

規模：0.55×0.46/—×—/0.04m 長軸方向：N-31°-W

特徴 調査区南西端の平坦面に位置する。VI層上面で検出した。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代早期に形成された可能性が高い。

(立田 理)

F-14 (図III-72)

位置：Q-22-d 規模：0.89×0.54/×/0.05m

長軸方向：N-38°-W

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VII層において赤褐色の広がりを検出した。

遺物 遺物は出土していない。

時期 確認した層位と周辺の遺物から縄文時代早期と考えられる。

(袖岡淳子)

F-15 (図III-72/表IV-3)

位置：O-24-b 規模：1.40×0.90/×/0.04m

長軸方向：N-69°-W

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。I層を除去後、VII層において赤褐色の広がりを検出した。

遺物 掲載する遺物はない。

時期 確認した層位と周辺の遺物から縄文時代早期と考えられる。

(袖岡淳子)

F-16 (図III-72/表IV-3)

位置：J-24-a 規模：(0.65)×0.45/×/0.06m

長軸方向：N-57°-W

特徴 調査区中央部よりやや西側に位置する。V層下面を調査中、赤褐色の広がりを検出した。

遺物 掲載する遺物はない。

時期 確認した層位と周辺の遺物から縄文時代早期と考えられる。

(袖岡淳子)

F-17 (図III-72/表IV-3)

位置: J-24-d 規模: $0.72 \times (0.48) / \times / 0.13\text{m}$

長軸方向: N-22°-E

特徴 V層下面を調査中、赤褐色の広がりを検出した。

遺物 掲載する遺物はない。

時期 確認した層位と周辺の遺物から縄文時代早期と考えられる。

(袖岡淳子)

F-18 (図III-72/表IV-3)

位置: Q-31-b, R-31-a 規模: $0.62 \times 0.25 / \times / 0.11\text{m}$

長軸方向: N-55°-E

特徴 V層下位で確認した。赤化が強くよく焼けている。周辺の包含層からI群b-1類土器が出土している。

遺物 礫が10点出土している。

時期 周辺出土の遺物からI群b-1類の時期の可能性はある。

(広田良成)

F-19 (図III-73)

位置: H-18-c

規模: $0.43 \times 0.25 / - \times - / 0.03\text{m}$ 長軸方向: N-66°-E

特徴 調査区南西部の平坦面に位置する。V層を掘削中に検出した。北西部分を欠失する。

遺物 出土していない。

時期 検出面から縄文時代早期に形成された可能性が高い。

(立田 理)

F-20 (図III-73)

位置: K-25-d

規模: $0.41 \times 0.33 / - \times - / 0.07\text{m}$ 長軸方向: N-60°-E

特徴 調査区中央部の平坦面に位置する。VII層上面で検出した。約30cm南東にF-21がある。

遺物 出土していない。

時期 検出面から縄文時代早期に形成された可能性が高い。

(立田 理)

F-21 (図III-73/表IV-3)

位置: K-25-d

規模: $0.32 \times 0.30 / - \times - / 0.06\text{m}$ 長軸方向: N-46°-W

特徴 調査区中央部の平坦面に位置する。F-20に隣接する。VII層上面で検出した。

遺物 上面でI群a類土器、礫片が出土している。

時期 検出面から、縄文時代早期に形成された可能性が高い。

(立田 理)

F-22 (図III-73)

位置: Q-20-b 規模: $0.43 \times 0.38 / \times / 0.06\text{m}$

長軸方向: N-6°-E

特徴 VII層上面で確認された赤化の弱い焼土である。近くからはP-8が検出されている。遺物は伴わず、二次堆積の可能性もある。

遺物 出土していない。

時期 検出層位と位置から縄文時代早期後葉と思われる。

(皆川洋一)

F-23・24・25 (図Ⅲ-73/表Ⅳ-3)

F-23 位置: P-19-a・b 規模: $1.07 \times 0.31 / \times / 0.07m$ 長軸方向: N-54°-W

F-24 位置: O-19-b、P-19-a 規模: $0.51 \times 0.35 / \times / 0.07m$ 長軸方向: N-62°-W

F-25 位置: O-19-a・b 規模: $0.79 \times 0.55 / \times / 0.09m$ 長軸方向: N-42°-W

特徴 列をなして検出された3ヵ所の焼土である。確認面はⅦ層上面で、周囲からはフラスコ状ビット類似のものを含む多数の小土壌が検出されている。遺物はほとんど伴わず、F-25のⅠ群b-4類土器の細片は攪乱による混入である。この焼土とフラスコ状ビット類似の小土壌のセットは1つのパターンを形成すると考えられ、遺跡内ではF-31とP-16、F-12とその周囲の小土壌などの類例がある。

時期 検出層位と位置から縄文時代早期後葉と思われる。

(皆川洋一)

F-26 (図Ⅲ-73)

位置: P-21-b 規模: $0.69 \times 0.44 / \times / 0.07m$

長軸方向: N-59°-W

特徴 Ⅶ層上面で検出した赤化の著しい焼土である。伴う遺物はなく、周囲の包含層からも遺物は出土していない。

遺物 掲載遺物無し。

時期 検出層位と位置から縄文時代早期後葉と思われる。

(皆川洋一)

F-27 (図Ⅲ-73)

位置: M-6-a・d

規模: $1.30 \times 1.03 / - \times - / 0.05m$ 長軸方向: N-26°-W

特徴 調査区南部の緩斜面に位置する。Ⅶ層上面で検出した。

遺物 出土していない。

時期 検出面から縄文時代早期の時期のものである可能性があるが、同一グリッドから北海道式石冠、扁平打製石器が出土していることから、Ⅲ群a類土器の時期の可能性もある。

(立田 理)

F-28 (図Ⅲ-74)

位置 K-19-a

規模 $0.64 \times 0.44 / - \times - / 0.07$ 長軸方向: N-56°-E

特徴 調査区南西部の平坦面に位置する。検出面はⅦ層上面である。

遺物 出土していない。

時期 検出面から縄文時代早期に形成された可能性が高い。

(立田 理)

F-29・30 (図Ⅲ-73)

F-29 位置: O-13-a 規模: $0.61 \times 0.35 / \times / 0.04m$ 長軸方向: N-87°-E

F-30 位置: O-13-a・d 規模: $1.01 \times 0.74 / \times / 0.09m$ 長軸方向: N-0°-W

特徴 Ⅶ層上面で検出した並列する焼土である。いずれも焼土内に僅かな炭化物を含むもので、赤化は弱く二次堆積の可能性はある。伴う遺物はないが、周囲のグリッドからはⅠ群b-1類土器が多数出土している。

遺物 掲載遺物無し。

時期 検出された層位と位置から縄文時代早期後葉と思われる。

(皆川洋一)

F-31 (図III-74/表IV-3)

位置：P-14-b 規模：0.45×0.29/×/0.03m

長軸方向：N-43°-W

特徴 VI層上面で検出した並列する焼土である。赤化は弱く二次堆積の可能性がある。遺物は頁岩製の石核を伴っている。プラスチック状を呈すP-16と近接しており、これらはセット関係にあると考えられる。

遺物 掲載遺物無し。

時期 検出された層位と位置から縄文時代早期後葉と思われる。

(皆川洋一)

F-32 (図III-74/表IV-3)

位置：O-24-c 規模：0.69×0.48/×/0.10m

長軸方向：N-89°-W

特徴 VI層上面で検出した焼土である。赤化は弱く二次堆積の可能性がある。遺物はI群a類土器、焼成粘土塊などが伴っている。周辺のグリッドからはI群b-1類やI群b-4類が出土している。

遺物 掲載遺物無し。

時期 検出された層位と位置から縄文時代早期と思われる。

(皆川洋一)

F-33 (図III-74/表IV-3)

位置：N-25-c・d、N-26-a・b 規模：0.65×0.35/×/0.11m

長軸方向：N-71°-E

特徴 VI層上面で検出した焼土である。強く赤化しており長時間使用された可能性がある。遺物は焼成粘土塊などが伴っている。周辺のグリッドからはI群b-1類やI群b-4類が出土している。

遺物 掲載遺物無し。

時期 検出された層位と位置から縄文時代早期と思われる。

(皆川洋一)

F-34 (図III-74/表IV-3)

位置：J-17-b・c

規模：0.75×0.37/—×—/0.10m 長軸方向：N-12°-W

特徴 調査区南西部の平坦面に位置する。VII層上面で検出した。

遺物 上面で礫が出土している。

時期 検出面から縄文時代早期に形成された可能性が高い。

(立田 理)

F-35 (図III-74)

位置：M-35-a 規模：0.27×0.23/×/0.03m

長軸方向：N-6°-E

特徴 V層中から検出された焼土である。赤化は弱く、二次堆積の可能性もある。伴う遺物はなく、FC-11が比較的近くに位置する。周辺のグリッドからはI群b-1類土器が出土している。

遺物 掲載遺物なし。

時期 検出された層位と位置から縄文時代早期と思われる。

(皆川洋一)

F-36 (図III-74/表IV-3)

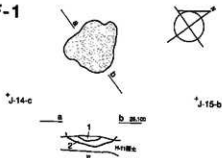
位置：M-36-d 規模：0.36×0.20/×/0.03m

長軸方向：N-71°-E

特徴 VI層上面から検出された焼土である。赤化は弱く、二次堆積の可能性もある。伴う遺物はなく、FC-11が比較的近くに位置する。周辺のグリッドからはI群b-1類土器が出土している。

4 焼土

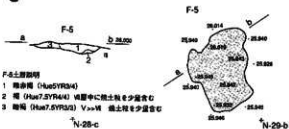
F-1



F-1土層説明

- 1 地層層 (Hus07SR56) 中々硬質、土層を既状に含む
- 2 砂 (Hus7.SYR76) 浅層部 土層を既状に含む。

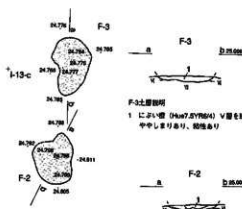
F-5



F-5土層説明

- 1 地層層 (Hus07SR34)
- 2 砂 (Hus7.SYR64) 浅層中に焼土粒を少量含む
- 3 砂層 (Hus7.SYR52) V>W 焼土粒を少量含む

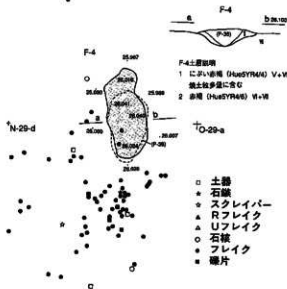
F-2 F-3



F-2土層説明

- 1 地層 (Hus10YR52) V層が7 しまりなし
- 2 におい層 (Hus07SR4) ややしまり、動物あり

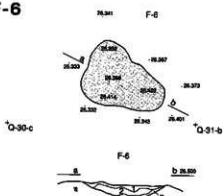
F-4



F-4土層説明

- 1 におい層 (Hus07SR4) V+W 焼土粒を少量含む
- 2 砂層 (Hus07SR6) V+W

F-6



F-6土層説明

- 1 地層 (Hus7.SYR32) 焼土粒、灰(砂粒)を少量含む
- 2 におい層 (Hus07SR4) 焼土粒を少量含む
- 3 砂 (Hus7.SYR64) 焼土粒を少量含む



F-7



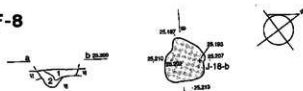
F-7土層説明

- 1 地層層 (Hus02.SYR32) 灰化層物を少量含む
- 2 砂層 (Hus7.SYR32) V>W 焼土粒を少量含む
- 3 砂層 (Hus7.SYR32) Z.Zリや中々い V>W 焼土粒を少量含む

- 土器
- フレイク
- ▲ 骨石もしくは石皿片

図III-71 焼土(1)

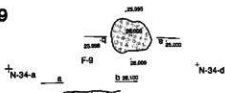
F-8



F-8土層説明

- 1 明砂層 (Hus2.SYR56) しまりあり、粘性あり
- 2 にかい質層 (Hus7.SYR64) 粘層粘層 しまりあり、粘性あり

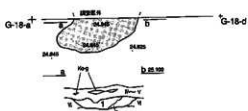
F-9



F-9土層説明

- 1 粘砂層 (Hus2.YR34) 炭化物物も少量含む

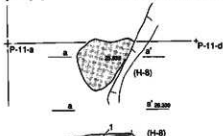
F-10



F-10土層説明

- 1 明砂層 (Hus2.SYR56) 黒色土を少量含むN-V層混入 しまりなし、やや粘質
- 2 粘砂層 (Hus5.YR32) 1を混入に含む、しまりなし、やや粘質

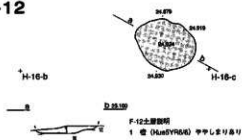
F-11



F-11土層説明

- 1 粘土層粘砂層 (Hus2.YR34) 抜けの強い黒土

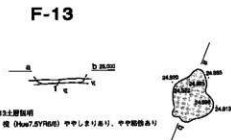
F-12



F-12土層説明

- 1 砂 (Hus5.YR66) ややしまりあり

F-13

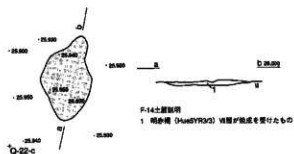


F-13土層説明

- 1 砂 (Hus7.SYR66) ややしまりあり、やや粘質あり

Q-22-d

F-14



F-14土層説明

- 1 明砂層 (Hus5.YR32) 粘層が混成を受けたもの

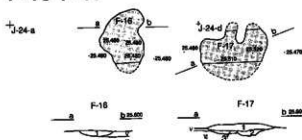
F-15



F-15土層説明

- 1 粘砂層 (Hus5.YR34)

F-16 F-17



F-16土層説明

- 1 粘砂層 (Hus5.YR32) 黒色土に粘土粒が混じる

F-17土層説明

- 1 粘砂層 (Hus5.YR32) 黒色土に粘土粒が混じる
- 2 砂層 (Hus5.YR44) 混成を受け赤褐色化した土
- 3 粘砂層 (Hus5.YR32) 黒色土に粘土粒が多く混じる

F-18



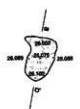
F-18土層説明

- 1 粘砂層 (Hus5.YR46)



図III-72 焼土(2)

F-31



F-31土層説明
1 C-21の沖積 (HuoSYR44) 焼土

O-14-a

O-14-d

M-35-a

F-35



F-35土層説明
1 磁器片層 (HuoSYR20) 焼りの磁い焼土

F-32

O-25-a



F-32土層説明
1 焼層 (HuoSYR34) 焼土酸化磁片散見層じ

F-33

N-26-a



F-33土層説明
1 磁器片 (HuoSYR38) 焼土 狭い穴と高さ5m.8

F-34

J-17-c



F-34土層説明
1 磁器片 (HuoSYR46) V層を剥取に含む。やや多量あり。磁器あり

F-36

M-36-d



F-36土層説明
1 C-21の沖積 (HuoSYR44) 焼土

F-37

R-13-d



F-37土層説明
1 磁器片 (HuoSYR34) 焼土

R-14-a

M-32-a



F-38土層説明
1 磁器片 (HuoSYR46) 焼土



M-32-b

F-38



N-8-d

F-40土層説明
1 磁器片 (HuoSYR48) 焼土

F-39 F-40



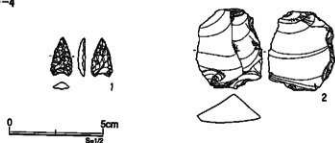
N-9-a

F-39土層説明
1 磁器片 (HuoSYR46) 焼土

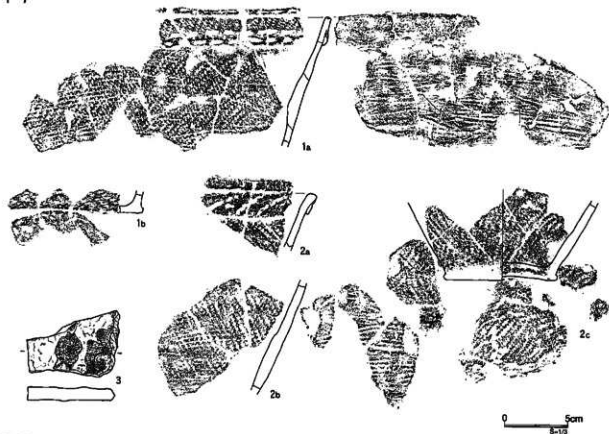


図III-74 焼土(4)

F-4 焼土



F-7



F-39



図III-75 焼土の遺物

遺物 掲載遺物なし。

時期 検出された層位と位置から縄文時代早期と思われる。

(楮川洋一)

F-37 (図III-74)

位置：R-41-d 規模：0.29×0.25/×/0.02m

長軸方向：N-67-E

特徴 V層中から検出された焼土である。赤化は弱く、二次堆積の可能性もある。伴う遺物はなく、周辺のグリッドからはI群b-1類土器が出土する。

遺物 掲載遺物なし。

時期 検出された層位と位置から縄文時代早期と思われる。

(皆川洋一)

F-38 (図Ⅲ-74)

位置: M-32-a 規模: $0.37 \times 0.20 / \times / 0.03m$

長軸方向: N-65°-E

特徴 風倒木による攪乱部から検出された焼土である。赤化は弱く、二次堆積の可能性もある。伴う遺物はなく、南側にはFC-4が検出されている。周辺のグリッドからはI群b-1類土器が出土する。

遺物 掲載遺物なし。

時期 検出された層位と周囲の遺物から縄文時代早期と思われる。

(皆川洋一)

F-39・40 (図Ⅲ-74・75/図版Ⅲ-34/表Ⅳ-3・4)

F-39 位置: M-9-c, M-10-b 規模: $0.81 \times 0.37 / \times / 0.06m$ 長軸方向: N-54°-E

F-40 位置: M-9-c 規模: $1.20 \times 0.54 / \times / 0.05m$ 長軸方向: N-57°-E

特徴 VI層上面で並んで検出された焼土で、北東側に近接してH-4が検出されている。いずれも赤化の程度は弱く、二次堆積の可能性もある。遺物はF-39にI群b-1類土器などが伴う。周辺のグリッドからはI群b-1類土器が出土する。

遺物 1は0段多条の縄線文が施されたI群b-1類土器胴部である。

時期 検出された層位と周囲の遺物から縄文時代早期後葉と思われる。

(皆川洋一)

5 フレイク・チップ集中

FC-1 (図Ⅲ-76・77/図版Ⅲ-11・35/表Ⅳ-3・5)

位置: J-28, J-29-a・b 規模: $4.55 \times 2.69 / \times / m$

長軸方向: N-33°-E

特徴 V層中部でフレイク・チップのまとまりを検出した。遺物は、大きなものは出土位置を計測し、小さなものに関しては1mメッシュで取り上げた。また遺物が多いメッシュは土ごと取り上げ、水洗を行い微細な遺物の検出に努めた。可能な限り母岩別に分類を試み、4種類を判別した(母岩別資料No.1~4)。出土点数は今回検出したフレイク・チップ集中の中でも多い方である。分布は比較的まとまっていて、特に集中する範囲は約2m四方に取まる。母岩別資料1は453点を確認できた。フレイクは1cm以下~4cm程度で小形のものが多く、分布は遺物全体の集中範囲とほぼ重なる。1は母岩別資料1の接合資料。フレイク6点が接合している。打面、作業面を共に固定して、小形で不定形のフレイクを取っている。打面調整は認められない。母岩別資料2は78点で数量的には最も少ない。分布は遺物全体の集中範囲とほぼ重なる。フレイクは縦長で不定形のものが主体である。大きさは1cm以下~5cm程度で、1~3cmのものが多く。母岩別資料3は327点確認できた。分布は遺物全体の集中範囲から北側にかけてまとまっている。2は母岩別資料3の接合資料。ほぼ原石の形がわかる資料で、29点接合している。やや大形で縦長の礫を素材としている。作業の順序としては、まず、原石の中央付近で2つに分割され(個体No.1・2)、それからそれぞれ剥片剥離作業を行っている。個体No.1の剥片剥離の工程は、1. 礫面を打面とした長軸に直行する横方向の剥離(1~6)、2.1の作業面を打面とした礫の長軸に沿った縦方向の剥離(7~12)、3.2の作業面を打面とした斜め方向の剥離(13~16)、である。フレイクは不定形で縦長のものが主体で、特に大形のものが多く点が特徴的である。個体No.2は欠けている部分が多く、全ての剥離工程が明らかではないが、接合できた資料からみると、打面、作業面共に移動しながら、周辺部から求心状にフレイクを剥がしている(①~⑥)。石核は確認できず、

この場から持ち出されている可能性が高い。母岩別資料4は453点を数え、分布は遺物全体の集中範囲とほぼ重なる。フレイクは不定形で縦長のものが多いが、横長のものも少数認められる。

遺物 出土点数は2,286点で、今回確認されたフレイク・チップ集中のなかでFC-5と並んで最も遺物の出土量が多い。I群b-1類、I群b-4類、不明土器、スクレイパー、Rフレイク、Uフレイク、両面調整石器、フレイク、石核、礫、炭化物が出土している。

時期 検出層位から縄文時代早期の可能性がある。

(広田良成)

FC-2 (図III-78/表IV-3)

位置: G-30-a~d 規模: 2.06×0.90/×/m

長軸方向: N-60°-W

特徴 V層下部でフレイク・チップのまとまりを検出した。斜面に位置する。周囲の精査及びトレンチ調査を行ったが遺構は検出できなかった。遺物は大きなものは出土位置を計測し、小さなものに関しては1mメッシュで取り上げた。可能な限り母岩別分類を試み、2種類を判別した(母岩別資料1・2)。遺物の分布は比較的狭い範囲にまとまっている。フレイクは1~4cm程度で不定形で縦長のものが多い。礫の表皮を残すものは少ない。母岩別資料1は44点、母岩別資料2は39点確認できた。どちらも接合関係は認められなかった。斜面に位置するため、投げ棄てられた可能性がある。

遺物 出土点数は326点である。Rフレイク、フレイク、礫が出土している。

時期 検出層位から縄文時代早期の可能性がある。

(広田良成)

FC-3 (図III-78/図版III-11・35/表IV-3・4)

位置: J-30-a~d 規模: 3.61×3.43/×/m

長軸方向: N-26°-W

特徴 V層中部でフレイク・チップのまとまりを検出した。遺物は大きなものは出土位置を計測し、小さなものに関しては1mメッシュで取り上げた。可能な限り母岩別分類を試み、2種類を判別した(母岩別資料1・2)。全体的な遺物の分布はJ-30-aグリッド東側付近にまとまり、母岩別資料1、2の分布も同傾向にある。フレイクは全体的に礫の表皮を残すものが多く、大きさは1~4cm程度のものが多い。母岩別資料1は39点確認でき、図示していないが石核1点にフレイク2点が接合した。母岩別資料1のフレイクはほとんどのものが礫の表皮を残しており、おそらく原石がこの場に持ち込まれ、一次加工を行っていると考えられる。母岩別資料2は12点確認できた。2~4cmの縦長で不定形のフレイクが多く、礫の表皮を残すものは少ない。接合関係は確認されなかった。

遺物 出土点数は237点である。I群b-1類、スクレイパー、Rフレイク、両面調整石器、有意礫、フレイク、石核、礫が出土している。フレイク以外ではI群b-1類土器の出土点数が多い。

1~4はI群b-1類土器である。1は僅かに肥厚する口縁に二段単節の縄線文を施したもので、胴部にはLRの斜行縄文が施される。2・3もLRの斜行縄文が施される胴部であるが、3はその上に条痕の様なものが施されている。4は小型土器の底部である。下端部が張り出し上げ底気味である。これらはI群b-1類の中でも「仮称西枯梗式」に相当すると考えられる。

時期 検出層位と出土遺物から縄文時代早期I群b-1類土器の時期と考えられる。

(広田良成)

FC-4 (図III-78/図版III-11・35/表IV-3・4)

位置: L-31-b・c、M-31、N-31-a・d 規模: 4.95×3.89/×/m

長軸方向: N-10°-W

特徴 V層下部でフレイク・チップのまとまりを検出した。遺物は大きなものは出土位置を計測し、小さなものに関しては1mメッシュで取り上げた。可能な限り母岩別分類を試み、2種類を判別した(母岩別資料1・2)。遺物の全体的な分布はM-31-a～cグリッド付近にまとまりをみせ、母岩別資料1、2の分布も同傾向を示す。母岩別資料1は34点確認できた。数点礫の表皮を残すものがある。母岩別資料2は29点を数える。母岩別資料1、2共に接合関係は確認できなかった。フレイクは1～5cmで不定形で縦長のものが多い。全体的に、礫の表皮を残すフレイクは少ない。

遺物 出土点数は315点である。I群a類、I群b-1類、IV群b類、不明土器、石槍、スクレイパー、Rフレイク、Uフレイク、両面調整石器、礫石、フレイク、礫、高師小僧が出土している。

1～4は僅かに肥厚する口縁に二段単筋の縄線文を施したI群b-1類土器である。胴部にはRLの斜行縄文が施され、内面には条痕文が施されている。これらはI群b-1類の中でも「仮称西楕円式」に相当すると考えられる。

時期 検出層位と出土遺物から縄文時代早期I群b-1類土器の時期と考えられる。(広田良成)

FC-5 (図III-79/図版III-35/表IV-3・4)

位置: L-27-b・c、M-27 規模: 2.98×2.43/×/m

長軸方向: N-70°-W

特徴 V層中部でフレイク・チップのまとまりを検出した。遺物は1mメッシュで取り上げ、また遺物が多いメッシュでは土ごと取り上げ、水洗を行い微細な遺物の検出に努めた。分布としてはM-27-a・dグリッドに集中する傾向が認められる。出土したフレイクは1cm以下～5cm程度のものが主体をなす。不定形で縦長のものも多く、礫の表皮を残すものはほとんどない。また、土洗いの結果チップが多量に検出されている。

遺物 出土点数は2,902点である。I群a類、I群b-1類、I群b-4類、IV群b類、V群c類、不明土器、Rフレイク、フレイク、礫、鉄製品、炭化物が出土している。鉄製品は流れ込みと考えられ、その他の遺物に伴う可能性は低い。

1～3はI群b-4類土器である。1は原体不明の魚骨回転文の施される口縁部で、器面には炭化物が厚く付着する。2・3は綾絡文の施された口縁部と胴部である。いずれも器壁が薄く、小型の深鉢もしくは鉢形土器の一部と推定される。

時期 検出層位と出土遺物から縄文時代早期I群b-4類土器の時期と考えられる。(広田良成)

FC-6 (図III-79/表IV-3)

位置: S-29-c、S-30 規模: 1.61×1.43/×/m

長軸方向: N-1°-W

特徴 V層中部でフレイク・チップのまとまりを検出した。南東側は調査区外に広がっている。分布傾向としてはS-30-bグリッドが最も多く、大形のフレイクもこのグリッドにまとまっている。フレイクは不定形で縦長のものも多く、大きさは1～6cm程度で特に2～3cmのものが多い。ただし、土洗いで検出されたチップは少量である。

遺物 出土点数は401点である。I群a類、I群b-1類土器、たたき石、礫石片、フレイク、礫、礫片、炭化物が出土している。

時期 検出層位と出土遺物から縄文時代早期I群b-1類土器の時期と考えられる。(広田良成)

FC-7 (図Ⅲ-79/図版Ⅲ-11・35/表Ⅳ-3・5)

位置: J-39-c, J-40-b 規模: 1.69×0.71/×/m

長軸方向: N-22'-W

特徴 IV-V層から検出されたフレイク・チップ集中である。頁岩製のもの1,341点で構成されており、近くに位置するFC-8とは関連する可能性が高い。大半が中央付近に集中する傾向があり、二次的に廃棄されたものと考えられる。遺物はI群b-1類、Ⅲ群a類土器、スクレイパー、両面調整石器片などが同じ範囲から出土している。周囲のグリッドのV層中からはI群b-1類土器が少量出土している。

遺物 1は剥片接合資料。12点接合している。接合した部分での剥片剥離作業の工程は、1. 作業面を固定し打面を移動する周縁からの剥離(1~4)、2. 作業面、打面共に固定する上部からの剥離(5~9)である。特に打面調整は認められない。フレイクは不定形で縦長のものが多い。

時期 周囲のグリッドではI群b-1類土器が少なからず出土することから縄文時代早期の可能性が高い。(皆川洋一)

FC-8 (図Ⅲ-79/表Ⅳ-3)

位置: J-38-c, J-39-b, K-39-a 規模: 2.34×1.06/×/m

長軸方向: N-81'-E

特徴 V層から検出されたフレイク・チップ集中である。頁岩製のもの25点からなる小規模なもので、近くのFC-7とは関連する可能性が高い。大半が中央付近に集中する傾向があり、二次的に廃棄されたものと考えられる。周囲のグリッドのV層中からはI群b-1類土器が少量出土している。

遺物 掲載遺物無し。

時期 周囲のグリッドではI群b-1類土器が少なからず出土することから縄文時代早期の可能性が高い。(皆川洋一)

FC-9 (図Ⅲ-79/表Ⅳ-3)

位置: O-16-d 規模: 1.57×0.88/×/m

長軸方向: N-66'-W

特徴 VI層から検出されたフレイク・チップ集中である。黒曜石製154点、頁岩製41点で構成されており、近くに位置するH-7、FC-10とは関連する可能性が高い。大半が北西側に集中する傾向があり、二次的に廃棄されたものと考えられる。遺物はI群b-1類土器、すり切り残片などが同じ範囲から出土している。周囲のグリッドのV層中からはI群b-1類土器が出土している。

遺物 掲載遺物なし。

時期 遺物と近くのH-7から縄文時代早期後葉I群b-1類の時期と考えられる。(皆川洋一)

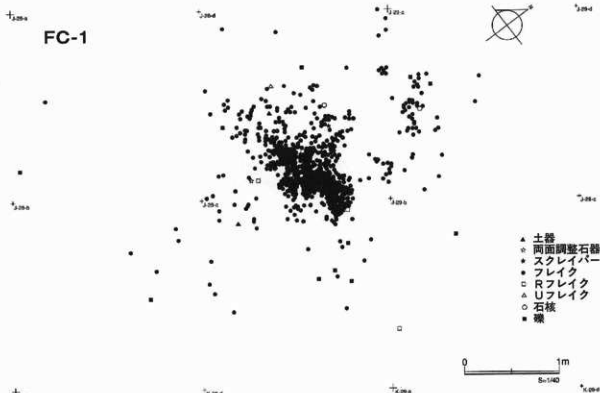
FC-10 (図Ⅲ-79/表Ⅳ-3)

位置: O-16-a・b 規模: 1.82×1.00/×/m

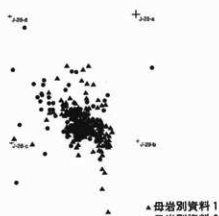
長軸方向: N-3'-E

特徴 VI層から検出されたフレイク・チップ集中である。黒曜石製47点、頁岩製24点、メノウ製12点で構成されており、近くに位置するH-7、FC-9とは関連する可能性が高い。薄く全体的に分布する傾向があり、原位置を保っている可能性がある。遺物はI群a類I群b-1類土器、石鏃、たたき石、台石片などが同じ範囲から出土している。周囲のグリッドのV層中からはI群b-1類土器が出土している。

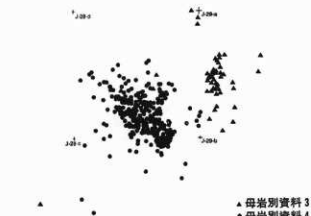
遺物 掲載遺物なし。



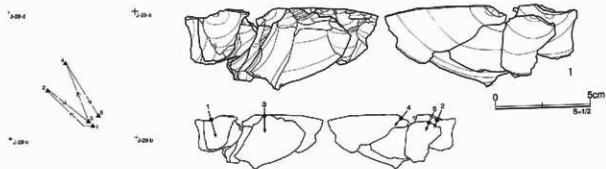
FC-1 石器分布図



FC-1 母岩別分布図(1)



FC-1 母岩別分布図(2)

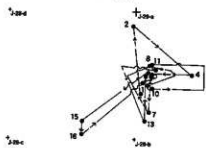


FC-1 母岩別資料1 接合図

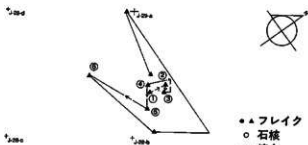
● 打点の位置
→ 加撃方向

図III-76 フレイク・チップ集中(1)

5 フレイク・チップ集中

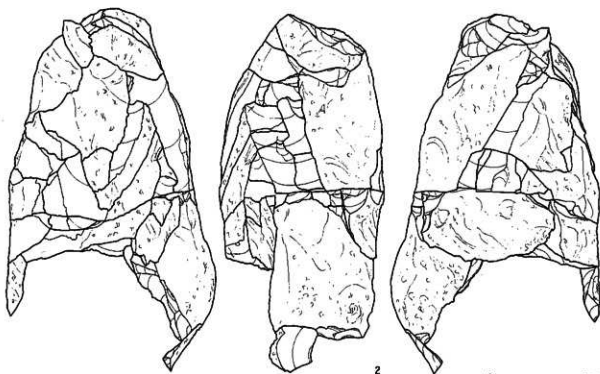


FC-1 母岩別資料 3
接合図 (個体 No.1)

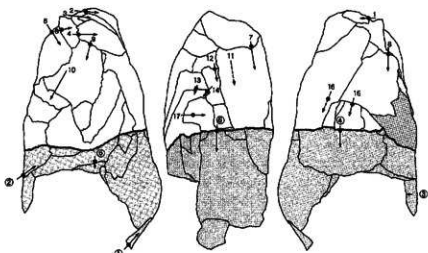


FC-1 母岩別資料 3
接合図 (個体 No.2)

- フレイク
- 石核
- 接合
- 折れ面での接合



0 5cm
8x12



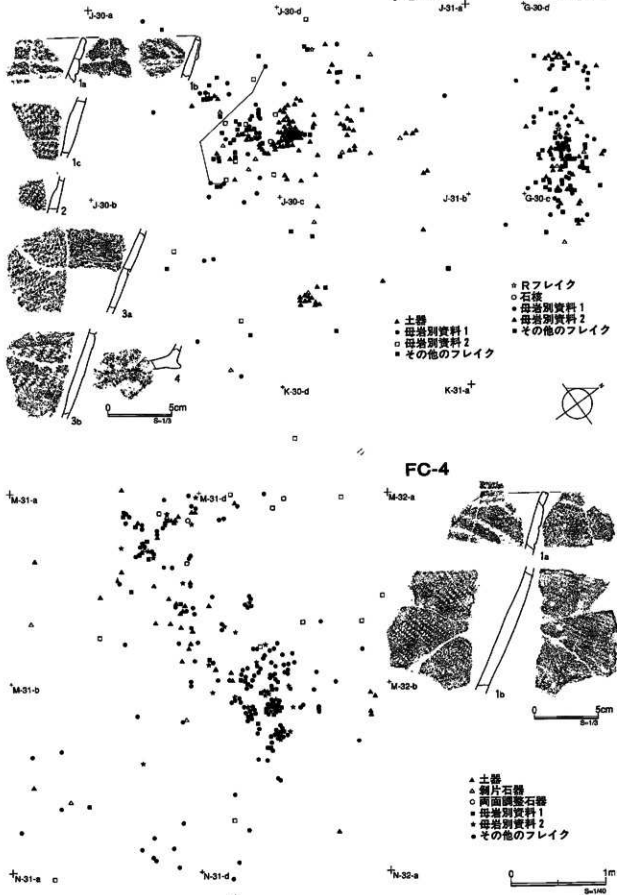
FC-1 母岩別資料 No.3 剥片・石核接合

- 個体 No.1
- ▨ 個体 No.1の石核
- ▩ 個体 No.2
- 打点の位置
- 加撃方向

図Ⅲ-77 FC-1の遺物

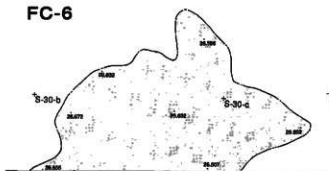
FC-3

FC-2



図III-78 フレイク・チップ集中(2)

FC-6



調査区外



FC-6

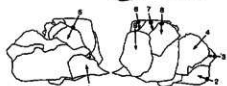
1

2

FC-5

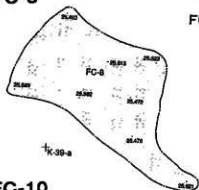


FC-7

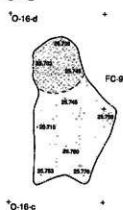


FC-7 剥片接合

FC-8



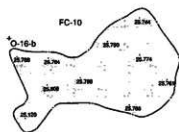
FC-9



FC-11



FC-10



図III-79 フレイク・チップ集中(3)

時期 遺物と近くの H-7 から縄文時代早期後葉 I 群 b-1 類の時期と考えられる。 (皆川洋一)

FC-11 (図Ⅲ-79/表Ⅳ-3)

位置: M-35-d、M-36-a 規模: 1.18×0.69/×/m

長軸方向: N-77°-W

特徴 IV~V 層から検出されたフレイク・チップ集中である。黒曜石製 254 点で構成されており、近くに位置する F-35・36 とは関連する可能性が強い。小さな範囲に集中しており、二次的に廃棄されたものと考えられる。遺物はポイント、石鏃などが同じ範囲から出土している。周囲のグリッドの V 層中からは I 群 b-1 類土器が出土している。

遺物 掲載遺物無し。

時期 層位と付近の遺物から縄文時代早期と考えられる。 (皆川洋一)

6 集石

6 集石

S-1 (図III-80/図版III-11/表IV-3)

位置：M-33-d、N-33-c+d、N-34-a+b+d 規模：3.64×2.91/×/m

長軸方向：N-27°-E

特徴 V層から検出された集石である。0.5~2cmの小円礫6,190点が、まるで敷き詰められたかのように図示した範囲で出土したもので、高低のレベル差は10cm前後、ほぼ均一の厚さを持っている。この小円礫以外の遺物には、I群b-1類やI群b-4類土器の小破片や砥石片などがあり、これらも同じ様子で出土している。北側にはF-9が位置しており関連する可能性がある。性格は不明である。

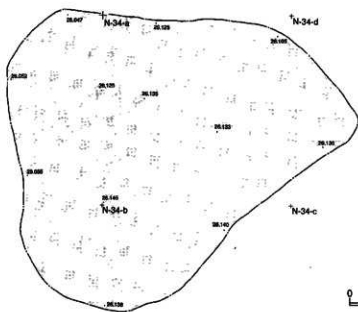
遺物 掲載遺物なし。

時期 含まれるI群b-1類の細片から、縄文時代早期後葉I群b-1類の時期と考えられる。

(皆川洋一)

S-1

S-1



図III-80 S-1

IV 包含層出土の遺物

1 土器 (図IV-4~7、図版-36~39、表IV-6・8)

富野3遺跡からは縄文時代早・中~晩期、土器が出土しており、点数は遺構8,182点、包含層16,050点である。早期はI群a類、I群b-1類・b-2類・b-3類・b-4類、中期はIII群a類・b類、後期はIV群a類・b類・c類、晩期はV群c類などで、早期(約92%)のものが多く、中でもI群b-1類が最も多く、I群a類、I群b-4類がそれに次ぐ。

I群a類 (図IV-4-1~7-70、図版-36~39)

貝殻文を主体とする尖底深鉢形土器群である。縄文時代早期中葉のいわゆる「物見台式」に相当するもので、出土した遺構2,137点、包含層3,368点の内、識別された個体数は約78個体(口縁部による。以下個体数の表記は全て同じ。)である。ここではその中の70個体を掲載した。遺跡内からはこの土器を伴う竪穴住居跡が2軒(H-1・H-5)見つかっており、分布範囲もこれらの竪穴住居跡周辺に集中する。

器形は頸部がキャリバー状のものと砲弾型のものがあり、後者には口縁部が直立するものと外に広がるものがある。口縁の形状は波状のものと平縁のものがあり、前者は山形の波頂部を有するものと緩やかな波状になるものが見られる。後者には施される文様の簡素化傾向がみられる。口唇部の断面形は角形が主体で、それらには先細りのものや角に丸みを帯びたものなどがある。底部の形状は砲弾型がほとんどで、明瞭な突起を持つ尖底部は1個体のみであるが、砲弾型を呈するものの中には突起化する兆しが見られるものもある。

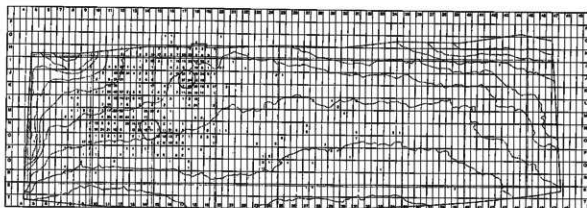
有文の土器は約68個体、無文の土器は約20個体で、有文のものは簡素化された文様を持つものも含めてそのほとんどが口縁部や口唇部、口縁部内面などに施されている。文様には貝殻を使ったもので腹縁文、その刻み列、押引文、条痕文などが見られ、これに沈線文、刺突文、貫通孔などが加わる。描かれる文様構成には、菱形など幾何学的な区画にクランク状やわらび状、垂下する帯状の文様などが多く、区画された内側には腹縁文や条痕文、押引文などを充填する傾向がある。特徴的なのは口唇部に腹縁の連続した刻みが施されるもの(1・3・21・23・27・46・48)や器面の沈線に多数の刺突文が伴うものが多いことである。刺突文は多いもので1cm区間に3~5ヵ所が施されるものもある(1・9・20~23・25・29・41)。これら以外に、鋸歯状沈線の施されたものも見られるが、極く僅か

表IV-1 包含層出土土器一覧

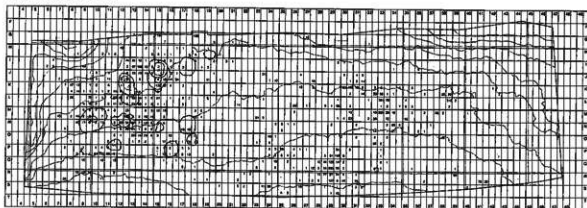
時期	縄文時代										その他		近・現代					
	I群	II群				III群	IV群	V群			その他	不明	陶磁器	土器合計				
土器	Ia	Ib-1	Ib-2	Ib-3	Ib-4	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IVa-b	IVc	Va	Vb	Vc	その他	不明	陶磁器	土器合計
Ia類	2	1													12		1	16
Ib類	638	753	1	9	167			4		25	1			133	5	3	1,509	0
II群																		0
III群	10	53	2	1	36	1		67	17	95				110		4	386	8
IV群																		8
V群	2,781	7,050	1	65	2,555	246		141	54	317	3			186	80	5	13,484	
その他	1	17			3			9							4			34
不明															1			1
不明	2	45			4			10										70
陶磁	55	90																145
炭焼木	109	94		6	138					25				4	17			383
炭屑粒		3															1	4
分類合計	3,368	8,114	4	81	2,893	247	0	0	240	71	462	4	0	0	445	112	9	16,650

1 土器

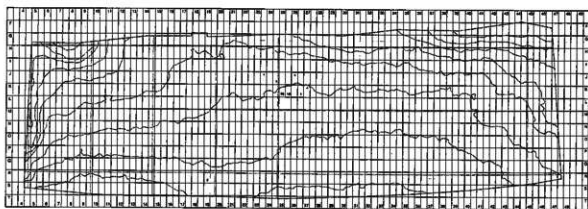
I群a類土器の分布



I群b-1類土器の分布

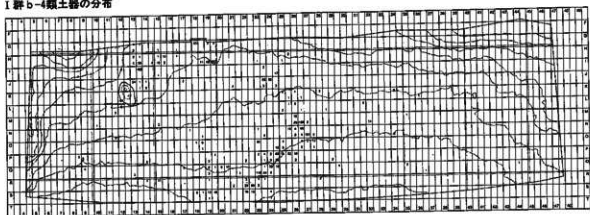


I群b-2類土器の分布

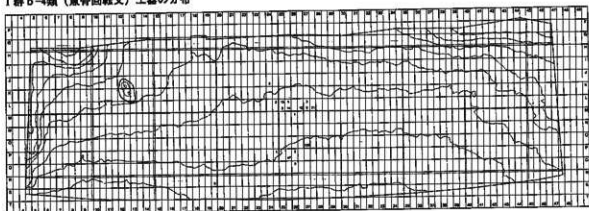


図IV-1 土器分布図(1)

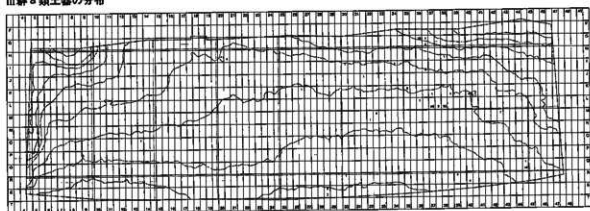
I 群 b-4 類土器の分布



I 群 b-4 類 (魚骨回転文) 土器の分布



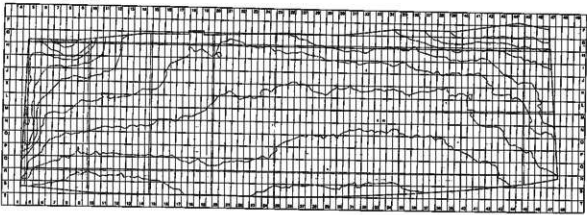
III 群 a 類土器の分布



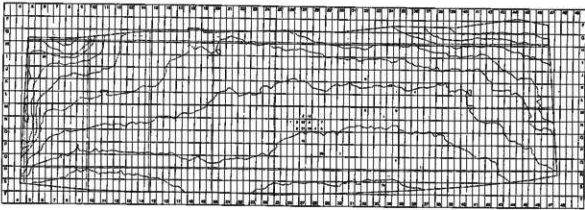
図IV-2 土器分布図(2)

1 土器

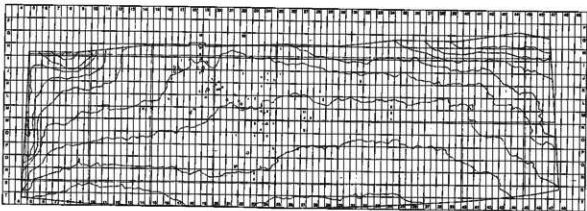
III群b類土器の分布



IV群a・b類土器の分布



V群c類土器の分布



図IV-3 土器分布図(3)

である。

この他、爪形の文様が見られるものは12個体(6・7・9・10・12・21・22・27・32・34・41・42)含まれているが、これらには器面(21)や口唇部(1)に施されるものもある。この他、棒状の施文具による深い刺突もしくは貫通孔を口縁部に巡らせるものが5個体(26・49~52)出土している。

1) 頸部がキャリバー状のもの(1~8)

主にH-1とその周辺から出土する傾向がある。1~5は腹縁文と沈線による菱形の区画が描かれたもので、1はその区画内にわらび状の文様が施される。区画内の充填は、1・7が条痕文、2・4~6・8が腹縁文による。

2) 器形が砲弾型のもの(9~70)

ここには砲弾型と推定されるものも含める。有文のもの(10~52、65~68)と無文のもの(53~64)とがあり、前者にはいわゆる「貝殻文」が主に施されるものと、沈線文が主に施されるものとに分けられる。無文のものは口縁部の形状や口唇部の断面形から見て、「貝殻文」のものと類似する。

A. 「貝殻文」が主に施されるもの(10~52・69)。

10~32は口縁部に貝殻腹縁文、沈線文、刺突文など複数の文様で多彩な構成を施すものである。ワラビ手状やクランク状、垂下する文様、菱形などを含む幾何学的な区画などが施されるもの(10~28)と口縁部と並行もしくは横方向を意識した文様の見られるもの(29~40)とがある。前者は区画内の充填に腹縁文と条痕文が使われており、後者は条痕文によるが充填そのものが少なくなる。後者と鋸歯状沈線の施されるもの(29・33)は、前者よりも明らかに装飾性の低い文様構成で、大きさはやや小さく、口縁の波状部も山が低いか平縁の占める割合が高い。爪形の文様が内面などに見られるのはこのグループで最も多い。26には口縁に沿って貫通孔の列が穿たれている。33の口縁内面の刻みは助のない貝殻状の施文具による。

41~48・69は口唇部付近に簡素な文様が施されるもので、口縁の形状は極めて緩やかな波状か平縁である。連続する腹縁文が多く、それが表裏、口唇部に施されている。最小限の施文部位は口唇部と内面である。41・44の器面には条痕が施され、41には刺突文が多数ともなう沈線も施されている。

49~52は口縁部に突瘤(49・50)もしくは貫通孔(51・52)の列が施されるものである。簡素な文様のものも多く、例外的には26の様なものもある。

B. 沈線文が主に施されるもの(65~68・70)。

これらはいずれも小型のもので、65は尖底部に突起を持つ。口縁部には数条の沈線で曲線的な文様が描かれ、幅広の文様帯を形成する。66は口縁の断面が内側に傾くもので、口唇直下には沈線が巡る。67・68は2本の細い並行沈線が施された波状口縁部である。70は2本の太い並行沈線が巡る胴部である。器壁は厚く、混和材のせいか、他のものより質量がある。器面の条痕は下部で横位から従位に変化しており、内面は無文で研磨されている。70はアルトリ式に相当する可能性がある。

I 群b-1類(図IV-7-71~17-322、図版-39~48・50)

今回の調査で最も多く出土した縄文時代早期後葉の土器群である。遺構からは5,173点、包含層からは8,194点が出土しており、識別された個体数は約170個体である。その中からここには151個体を図示した。

これらはその特徴から大きく第1~3の3つのグループに分けられる。

第1グループ(図IV-7-71~9-110)

主な特徴は、平縁平底の深鉢形で、口縁部は開き、底部ではすばまる器形である。器壁は薄く口唇

部の断面は角形または丸形が主体である。口縁部の肥厚帯は口唇の折り返しによるものと、粘土紐を貼付するものがある。地文は2段単節の原体による斜行縄文が主体で一部に無節や3段複節のものも見られる。下端が僅かに張り出す小径の底部は少なからず上げ底の状態で、その底面にも地文と同じ文様が見られる。更に一部の個体には内面と地文の上に条痕文が施されており、大きな特徴の1つとなっている。文様にはこれら以外に、沈線文や綾絡文、結束羽状縄文なども見られる。遺跡内の分布は主にグリッドの20ラインから北東側で広く出土しており、関連する遺構はH-1・P-42・F-7・FC-3・4である。

これらの多くは「仮称西桔梗式」(岡島1975)に相当すると考えられるが、条痕の施され方と肥厚帯から貼付帯への変遷から見て、A~Cの土器群に分けられる。

A土器群：(71~75)

口縁の肥厚帯が口唇の折り返しによるもので表裏に条痕文が施される、F-7出土のものを中心とした資料である。71の口唇上には細い棒状の施工具で連続するような横からの刺突が施されている。折り返しの肥厚帯には、棒状の施工具で右横から器面に対し斜角度で連続した刺突を加えている。僅かに張り出した底部下端直上の器面には縄線文の様なものが施されている。底面の文様は不明瞭である。72は肥厚帯に斜めの縄線文が施されるもので、原体は地紋と同じである。底面には結束羽状縄文が施される。73~75はH-10から出土したもので、73・74の表裏にも条痕がみられる。

B土器群：(77~83・110)

口縁の肥厚帯がAと同じで条痕文が内面に施されるか全く見られないものである。77~79・82の肥厚帯には地紋と同じ文様が施され、80・81・83は地紋が見られない。81は茎状の施工具による刺突列、81は並行沈線、83はその両方が施されるもので、内面には条痕が見られる。

110は綾絡文の施されるもので、内面全体に貝殻条痕が施されている。この土器群では唯一異質な存在と言えるものであるが、条痕文の状態と器壁の作りから、A~B土器群に入る可能性が極めて強いと考えられる。

C土器群：(76・84~91・94)

器面に粘土紐を貼付するもので条痕文が内面に施されるか全く見られないものである。76はK-30グリッド周辺から出土したもので、文様帯は厚味がなく目立たない粘土紐を蛇行させて貼り付けた上から絡糸体圧痕文を施したものである。地紋は原体端部の一方に力を強くかける特徴的な回転圧痕文が施されている。84・87・91も目立たない粘土紐を蛇行させて貼り付けたもので、その上からは縄線文が施されている。91はFC-3・4から出土した。85・86は貼付帯上から口縁にも地紋が施されるものである。88はP-42から出土したもので、口縁の無文部に施した縄線文が蛇行しながら貼付帯の上にも延びている。貼付帯の断面は山形である。89・90は貼付上に棒状の施工具で刺突を施した胴部である。内面には条痕が見られる。94は無文の肥厚帯に並行する縄線文を施した口縁部である。95~100は斜行縄文の施される胴部である。95の上方には縄線文が見える。98の原体は3段複節、100は無節である。101~110は底部である。下端部の張り出しは僅かで上げ底気味の底面には地紋が施される。ほとんどの器面に整然とした施文が見られるが、107は施文方向に変化を付けた羽状縄文が施されており、指状のもので下端部に付けられた刻みと合わせてみるならば、東館路II~III式に含まれる可能性がある。109の底部間際の器面には2条の縄線文が施されている。

この土器群にみられる貼付には、厚さの薄い目立たないものと、断面が山形になるようなものがあり、これらはさらに細分される可能性がある。

第2グループ(図Ⅳ-10-111~15-309)

早期後葉の堅穴住居・遺構群とその周辺から出土した土器群で約197個体が識別された。一部遺構床の同じレベルからは、器形の異なる尖底深鉢形土器と平底深鉢形土器が出土しており、これらが同時に使われていた可能性は強い。また、底部以外の器形や文様、胎土などには類似点が多く破片ではどちらに属するものか判別しがたいなどの理由からこのグループを設けた。よって更に次のA~Cのサブグループに分けて検討を加える。

A. 尖底深鉢形土器(図Ⅳ-10-111~140)

器形が推定されるものも含めて29個体が識別された。関連する主な遺構はH-2・3・4・6・7・8・9・11・12・13・14・15、P-1・37・43・44・73など多数である。

111~112は復元された器形の解のもの、114~118は底部を伴う口縁部、119~129は胴部、13~140は尖底部である。器形は口縁部が外に向かってやや開くものが多く、口縁は平縁、口唇断面は丸形か丸味を帯びた角形である。口縁部の残る8個体で、口唇部に何らかの工具による刺突が入るもの4個体(111・115~117)、縄文の施されるもの1個体(114)、他は無文である。内面に条痕文の見られるものは2個体(113・114)である。文様は縄線文、斜行縄文、羽状縄文など、原体は2段単節と0段多条が多く、綾杉状縄文もある。114・116・117は縄線文の施されるものである。114・122は太い縄が数条斜めに、116・117は細いものが2条が並行して施されている。

116の器面には端部に丘を加える斜行縄文が施されている。111・118・122~129・132の文様は綾杉状縄文である。

以上の特徴から、道内では函館市豊原2遺跡出土のⅢ群b・c類土器(中村・佐藤1994)、道外では八戸市赤御堂遺跡出土のⅤ群土器(八戸市教委1988)の一部に相当する土器群と考えられる。

B. 平底深鉢形土器(図Ⅳ-11-141~149)

9個体が識別された。関連する主な遺構はH-9・11・15、P-43などである。

141~149は平底の深鉢形土器である。口縁部は平縁で外に向かって開くもので、底部は下端が張り出し、一部に刻みの巡らされるものもある。底部は平坦か僅かに上げ底になり底面に施文されるものは多い。文様は条が水平近くまで覆る斜行縄文か羽状縄文で、原体は0段多条が大半を占め一部に2段単節も見られる。

144は下端部が僅かに張り出し、底が小判形を呈する平底の底部である。器面には胴部に延びる縦の細かい粘土紐の貼り付けと羽状縄文が施されており、貼り付けの上には縄のようなもので刻みが入る。羽状は片翼の条が水平近くまで覆るもので、施文原体は2段単節によると考えられる。内底面には指頭による刺突が面全体に施されており特徴的である。

以上の特徴から、道内では東訓路Ⅱ式土器に相当する土器群と考えられる。

C. 器形の不明なもの(図Ⅳ-11-150~15-309)

150~167は内面に条痕が見られるもので、150・153・155~157が口縁部を含むもの、151・152・154・158~167が胴部である。151・152・155は縄線文の施されるもので、155の胴部には貼付文が見られる。文様は166が三段複節の斜行縄文で、これは「仮称西栝梗式」の可能性はある。167は綾杉状縄文が施されている。これ以外は、大半が羽状を構成するものである。

303~309は内面に斜行縄文が施されるものである。303と304の口唇部には縄の刻みもしくは縄文が施される。綾杉状縄文の施される308以外は全て羽状縄文である。

168~302は内面に文様がなく指頭の凹凸だけが見られるものである。168~172は貼付文が施されるもので、168・170・171は横位、169は横位と従位である。172の貼付帯は上から棒状工具をすり付けて

器面に馴染ませている。173・174は刺突文の施される胴部である。刺突の方向は173が右横から、174が下の方からである。175～199は縄線文が施されるもので、175～182が曲線的、183～199が数条を並行に施したものの。これらの口唇部には刺突文が備わるものがほとんどである。200は沈線文の施される小破片である。

291～295は細い紐紐文を羽状に構成したものである。296～302は捺糸文が施されるもので、299と301は斜行縄文と組み合わせて羽状を構成する。

201～229・231～234・239～244は器面に縄文など施される口縁部である。201～216は口唇部に刺突文の施されるもの、217～230は縄文もしくは縄による刻み、231～234・239～244は口唇部が無文のものである。刺突文に使う施文具は比較的太い棒や角棒、茎状のものなどで、横や真上から施文している。口唇部に施される縄文は器面に施されるものと同じ原体が使われ、縄の刻みは口唇に対して斜めの押捺が多い。器面に施される文様には綾杉状縄文、斜行縄文、羽状縄文などが見られる。

235～238・247～290は器面に縄文など施される胴部である。文様は235～238が2段単節の斜行縄文、247・248が0段多条の斜行縄文、249～265が綾杉状縄文、266～270が結束羽状縄文、271が綾絡文、272～283が0段多条の羽状縄文、283～290が2段単節の羽状縄文である。

245・246は無文の口縁部で、これらは同一個体の可能性がある。

第3グループ (図Ⅳ-16-310～17-322)

東朝鮮Ⅲ式に相当する土器群で約13個体が識別された。器形は大型の深鉢形を呈し、口縁は平縁か緩やかな波状で、底部の大きく張り出した下端部には縄などによる刻みが巡らされる。口唇の断面は外に向かって張り出すか角形で、器壁は厚く、太い粘土紐が横位に貼り付けられるものもある。文様は太い原体で縄線文、短縄文、斜行縄文、羽状縄文などが施される。胎土中にはチャートの小円礫が少なからず認められる。

遺跡内の分布は主にグリッドの20ラインから北東側の包含層で広く出土しており、関連する遺構はP-104である。

310・311・313・314・316～319は太い原体で斜行縄文が施されるものである。310の底部は下端部の張り出しが少なく、そこには短縄文が施される。318は口唇に太い棒状の施文具で刻みが施される。319の張り出した口唇部には器面と同じ文様が見られる。312は口唇部が外に向かって大きく傾くもので、閉口の口縁部には短縄文と縄線文とが組み合わさる文様帯があり、胴部には捺りの異なる二段単節と0段多条の原体で羽状縄文が施されている。底部下端には口縁と同じ短縄文が巡らされる。315は緩やかな波状口縁を持つもので、器面には0段多条の原体を使った結束羽状縄文で菱形を構成する文様が施され、胴下半部には太い粘土紐の貼付が巡っている。断面が角形の口唇には斜行縄文と底部下端に施された短縄文は、恐らく地文と同じ原体によるもので、貼付帯には指頭で連続する刻みが施されている。320は底部近くの胴部で、地文は三段複節の斜行縄文で下の方の器面には同じ原体による短縄文か絡糸体瓦裏文が見える。321・322は底面に文様が見られるものである。321は張り出した下端部の直上に縦の沈線が施される底部で、胴部と底面には0段多条の斜行縄文が施されている。322の底面には外周に沿って縄端の刺突が巡っている。320～322は本グループより一時期古い段階の可能性があり、

I群b-2類 (図Ⅳ-17-323、図版-47)

縄文時代早期後葉のコックロ式土器に相当するものである。遺構からは2点、包含層からは4点が出土した。323は粘土紐を横位に貼り付けた胴部である。貼付帯には縄の刻みが入り、器面には0段多条の斜行縄文が施されている。周囲の状況から見てI群b-1類に入る可能性もある。

I群 b-3類 (図IV-17-324~327、図版-48)

縄文時代早期後葉の中茶路式土器に相当するものである。包含層から81点が出土した。324は微隆起線と羽状縄文が施された平縁の深鉢口縁部である。325は深鉢の底近くの胴部で、器面には細い原体による短縄文が施される。326は綾絡文が施される胴部。327は無文の口縁部である。これらから中茶路式相当の中でも次のI群 b-4類に近い、極めて新しい段階のものと判断される。

I群 b-4類 (図IV-17-328~18-348、図版-48・49)

縄文時代早期後葉の東銅路IV式土器に相当するものである。遺構からは367点、包含層からは3,140点が出土した。328は器壁の薄い丸底の深鉢に綾絡文と短縄文とを施したもので、I群 b-3類にも類似する。329は器壁のやや厚い胴部で、器面には極細の隆起線を挟んで綾絡文と燃糸文風の羽状縄文が施されている。330も綾絡文と燃糸文風の羽状縄文が施された口縁部である。332は魚骨回転文が全体に施された平縁の深鉢形土器である。原体は比較的大型のニシンの脊椎骨と考えられる。333~336・341・346は綾絡文の施されるもので、337~348は燃糸文風の羽状縄文が施される。337は緩やかな波状を呈する口縁で、底部近くの胴部には器形の屈曲部が認められる。343には短縄文が加わる。347・348の施文には太い原体が使われている。349は丸底の大型深鉢である。地文は異なるより糸を同じ軸に巻き付けた燃糸文で変形を構成するもので、それに平縁の口縁部と胴部には結節のある短縄文が加わる。350は異なるより糸を同じ軸に並べて巻き付けた燃糸文と縄の端部近くを使った短縄文が施されている。

III群 a類 (図IV-19-1~18-12、図版-50)

縄文時代中期前半の円筒上層式土器に相当するものである。遺構からは18点、包含層からは240点が出土した。1~5は口縁部を含むものである。1は平縁に大小の粘土塊を貼付けたもので、貼付の先端には篋条の施文具で切れ目が入られている。器面の縄文は無節の原体による。2は細い粘土紐が巻き付けられ山形突起部である。地紋はRLの斜行縄文である。3は口縁突起部と胴部・底部である。突起部は頂に凹みのあるもので、その上には茎状の施文具による刺突列と沈線が施されている。地紋はRL0段多条の斜行縄文である。4は口唇部に刻みが入る口縁部で器面にはボタン状の貼付と沈線がある胴部である。9の上端には沈線文も見える。11・12は2本の並行沈線が施されるもので同一個体の可能性がある。11の口唇部には指頭のような施文具で刻みが施されている。

III群 b類 (未掲載)

縄文時代早期後葉の東銅路IV式土器に相当するものである。包含層からは71点が出土した。細い破片が多く図示していない。これらはIII群 a類の可能性もある。

IV群 a・b類 (図IV-19-13~18、図版-51)

縄文時代後期前~中葉の大津式、ウサクマイ C式、手稻式に相当するものである。遺構からは17点、包含層からは462点が出土した。破片だけでは細分出来なかったため、IV群 a類とIV群 b類をまとめて報告する。13~16は後期前葉の大津式相当の深鉢形土器である。深く深い沈線でダイナミックな文様を描き出している。17は波状口縁の頂部である。口唇左側が凹んでおり、器面は沈線で区画された面に、縄文と研磨された無文部が見られる。18は手稻式の浅鉢形土器口縁部である。口縁部は研磨された無文で、胴部の並行沈線による細い区画部にはLRの斜行縄文が施されている。

1 土器

IV群c類 (未掲載)

縄文時代後期後葉の堂林式土器に相当するものである。包含層からは4点が出土した。沈線が施されたものもあるが小破片のため図示しなかった。

V群c類 (図IV-19-13~18、図版-36~39)

縄文時代晩期末葉の大洞C₂~A式に相当する土器である。遺構からは315点、包含層からは445点が出土した。関連する遺構はP-26ほかである。1~11は壺形土器で、比較的小型のものが多く、1は口縁部には突起を備え、胴部には浅い沈線で雲形文を描き出した装飾性の高い小型の壺である。2~10は並行沈線の施された口縁と頸部である。11は頸部に並行沈線と突起を有し、胴部にLRの斜行縄文が施された小型の壺で、口縁部には貫通孔が穿たれている。12~25は鉢もしくは深鉢形土器で、この内13・14は台付のものである。12は浅い沈線で雲形文の描かれた鉢形土器である。15は同一個体の可能性がある。13は縄文の施された台付鉢の胴部である。口縁部と台部は欠失している。14は浅い沈線で雲形文の描かれた台付鉢の台部分である。16~18・22~25は並行沈線の施されたもので、19~21は縄文の施された胴部である。23の胴部には雲形文らしきものが描かれている。26は浅鉢形土器である。体部には縄文の施された雲形文が描かれている。

陶磁器 (未掲載)

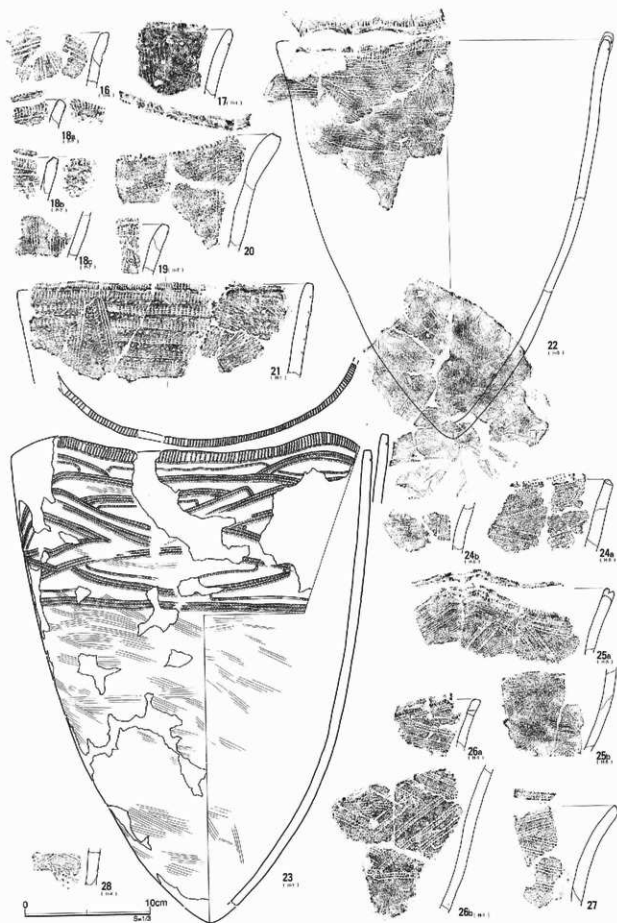
開拓期以降のもので遺構6点、包含層9点が出土している。関連遺構はSP-1~8などである。徳利や染付の茶碗、三瓶皿などの小破片が出土している。図示していない。



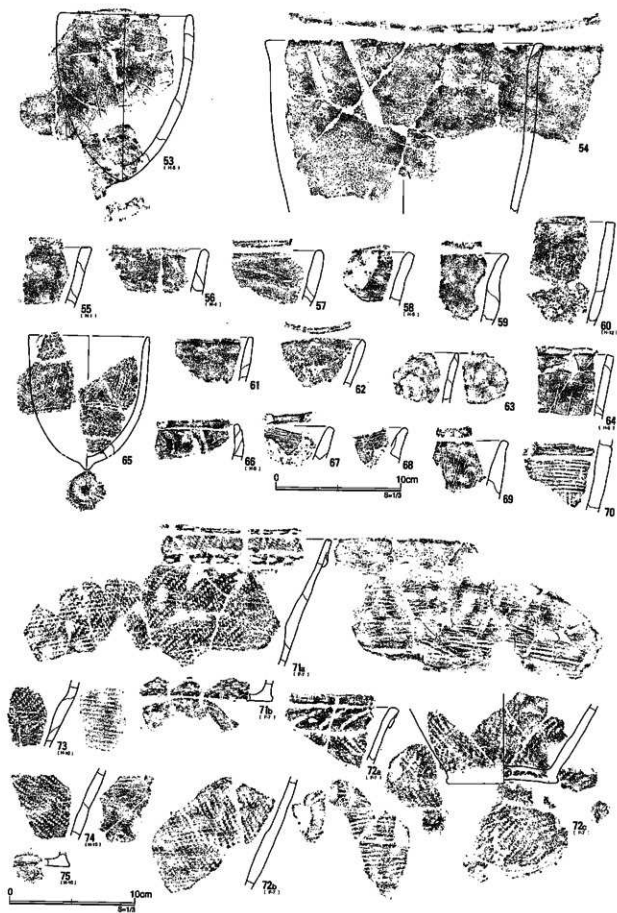
図IV-4 土器(1)



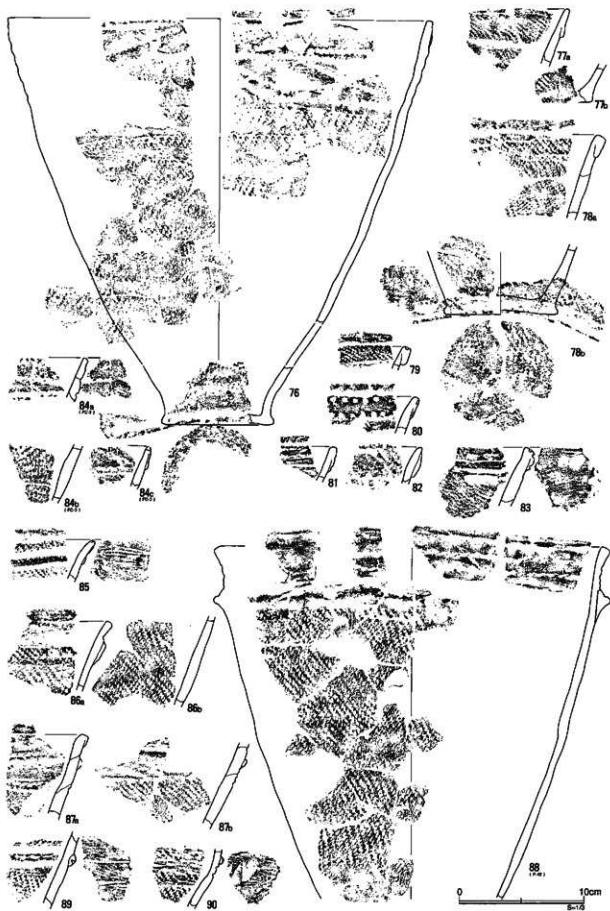
图IV-5 土器(2)



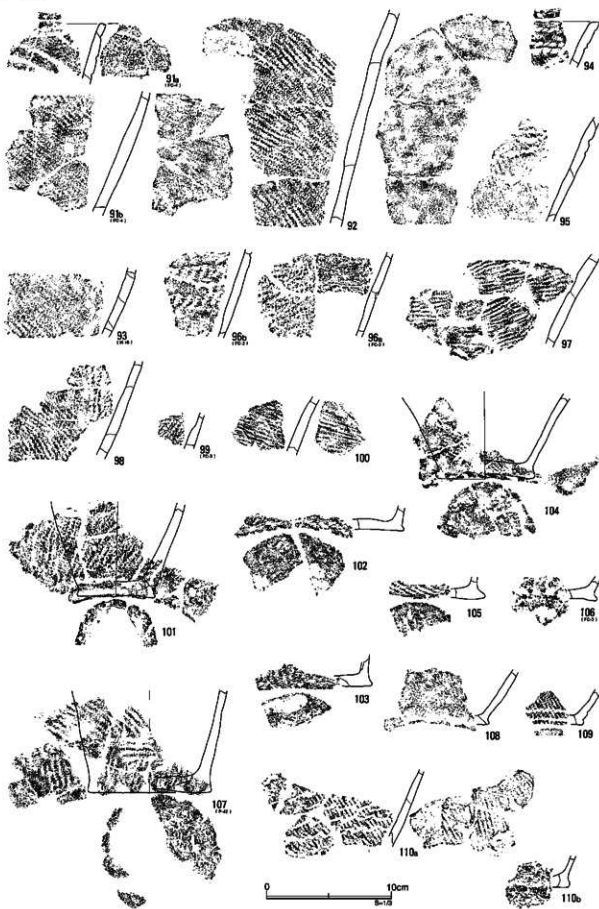
図IV-6 土器(3)



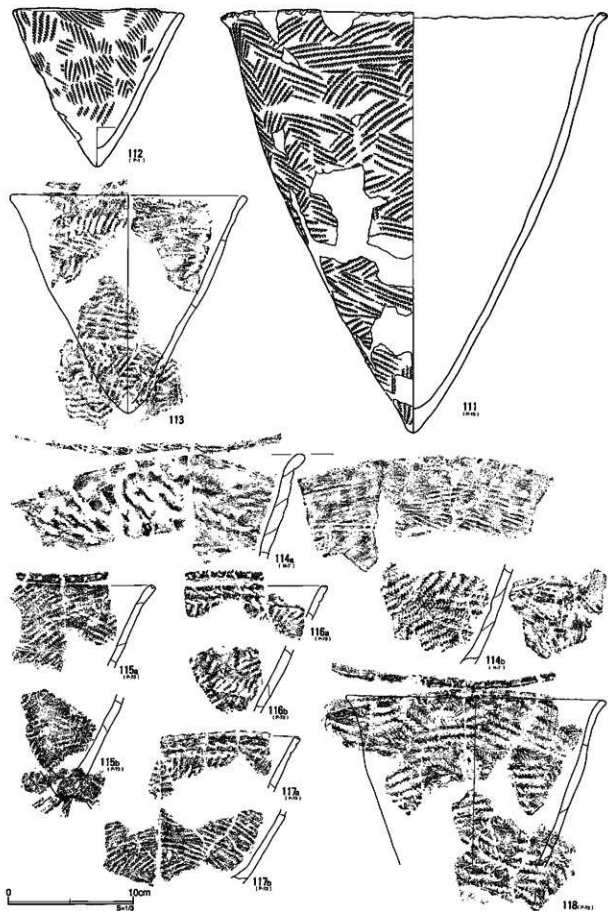
图IV-7 土器(4)



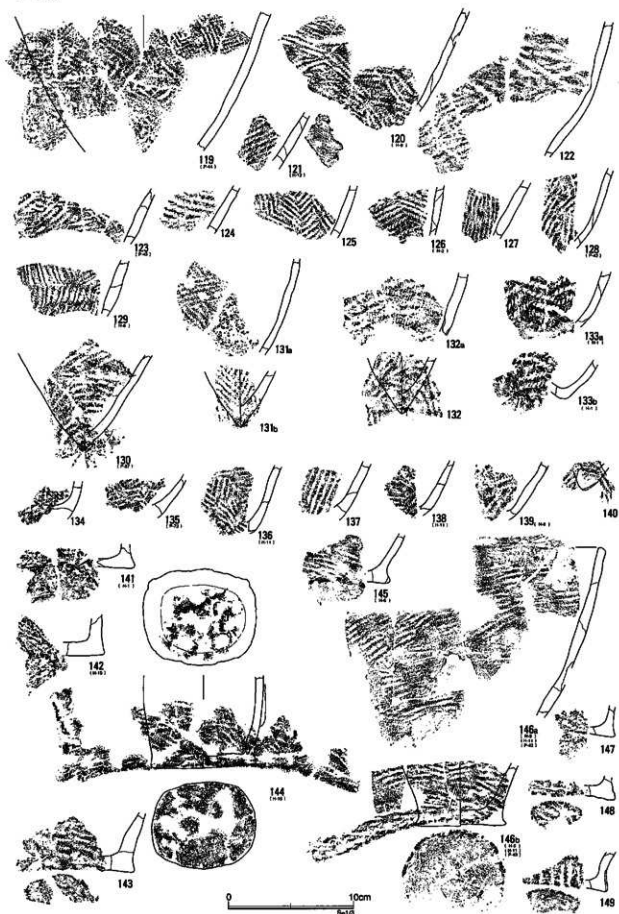
図IV-8 土器(5)



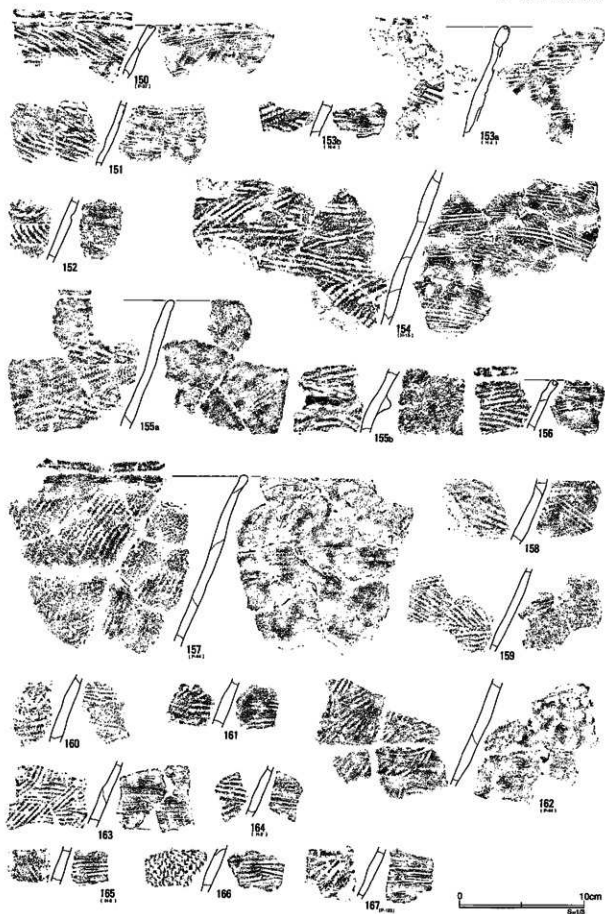
図IV-9 土器(6)



図IV-10 土器(7)

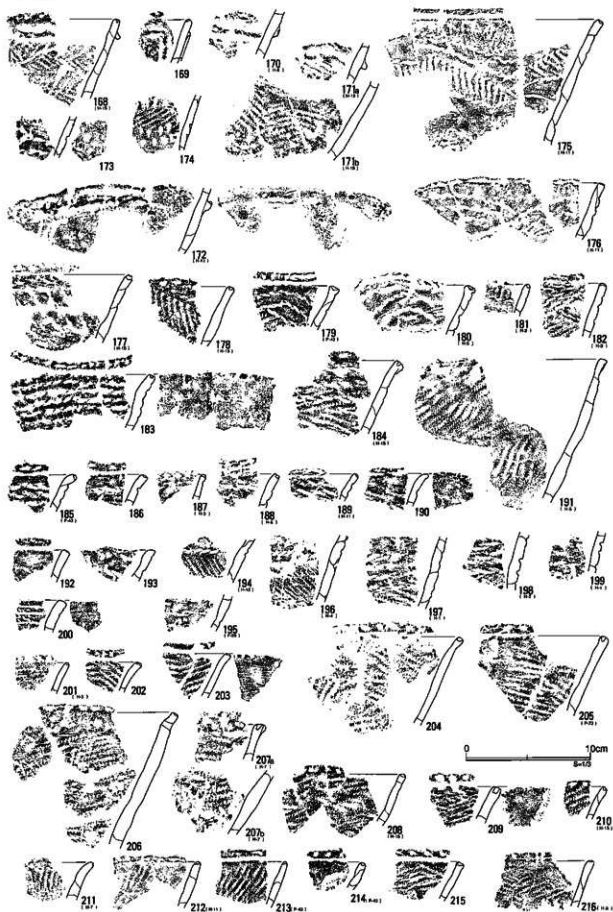


图IV-11 土器(8)

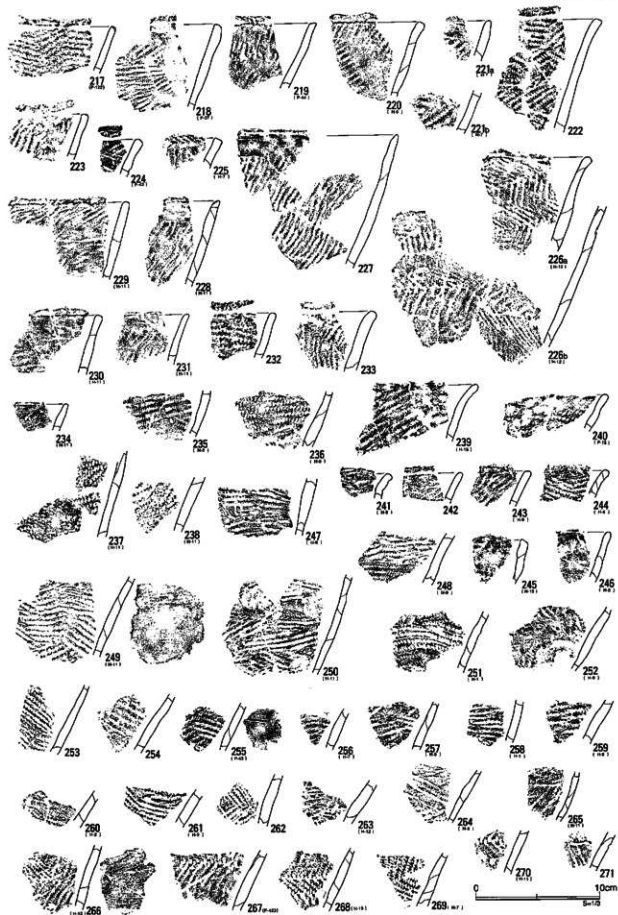


図IV-12 土器(9)

I 土器

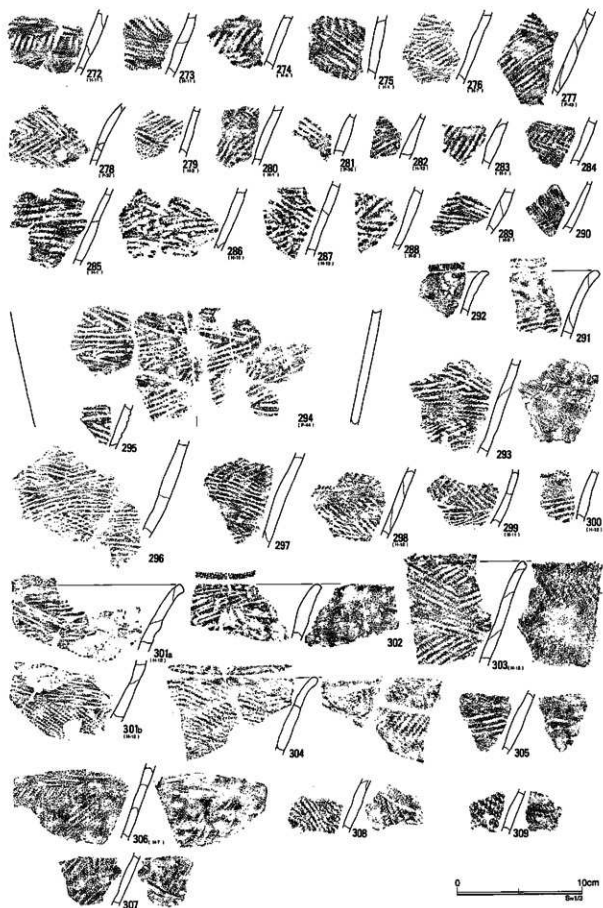


图IV-13 土器(0)

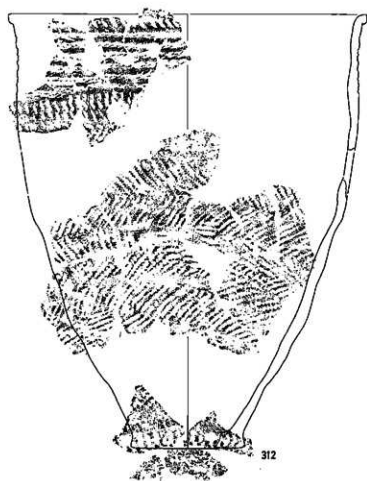
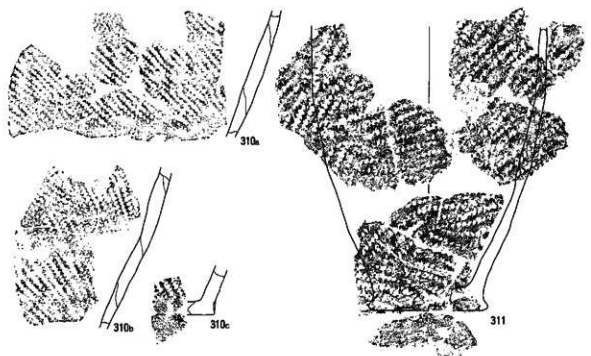


圖IV-14 土器(1)

1 土器



图IV-15 土器(2)

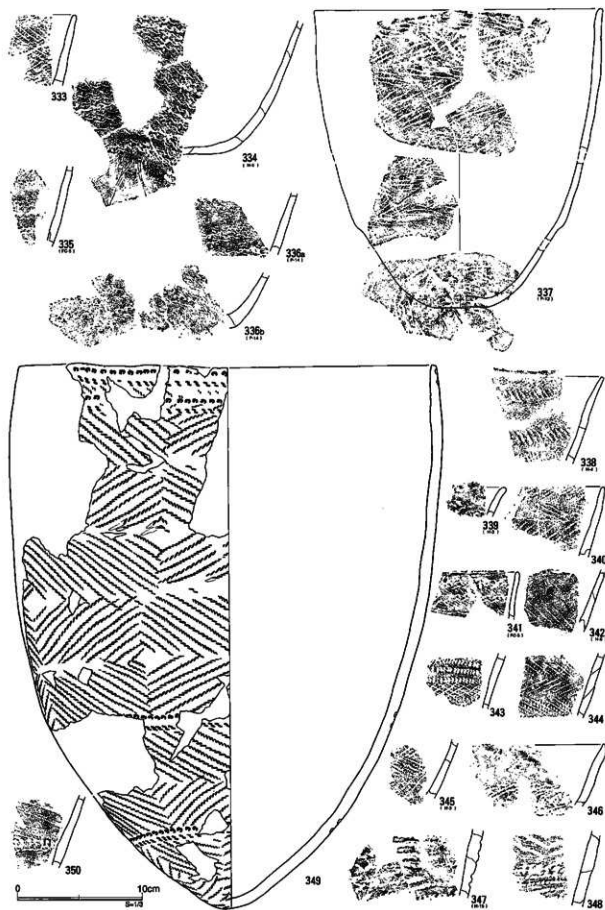


図IV-16 土器13

1 土器

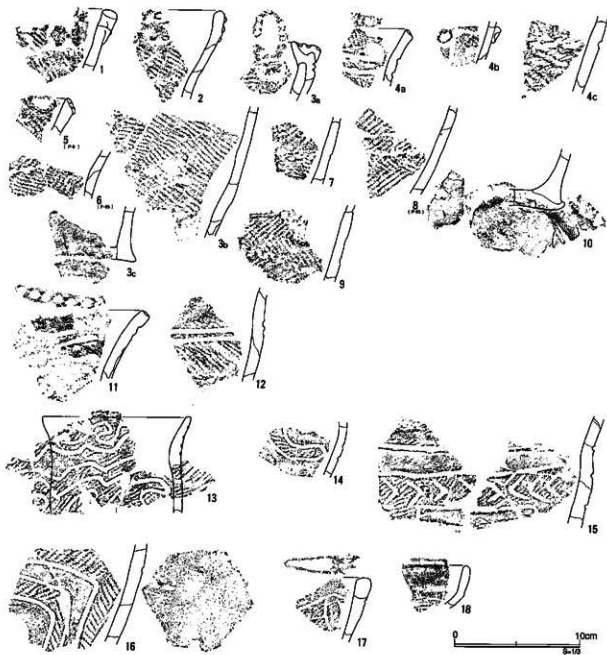


图IV-17 土器04

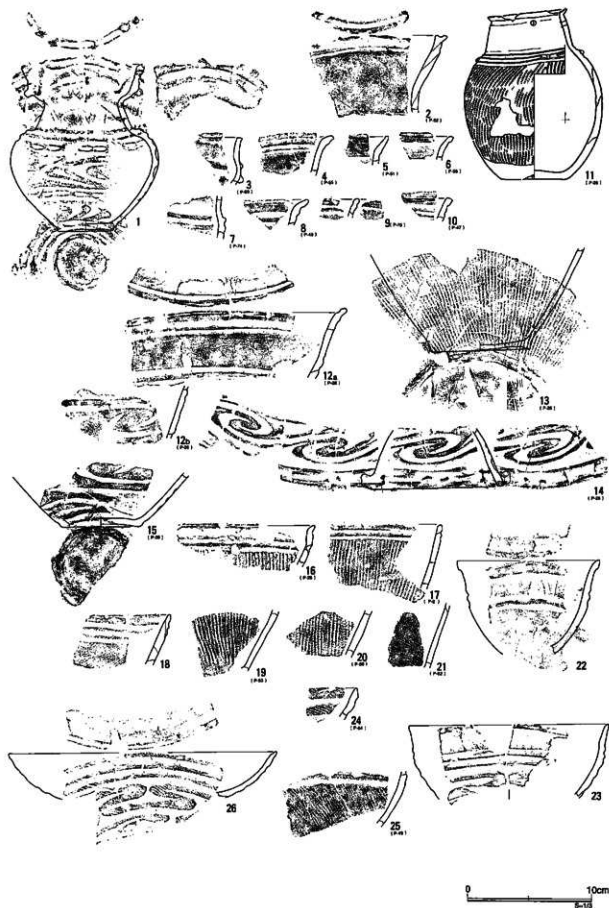


図IV-18 土器(5)

1 土器



图IV-19 土器(6)



図IV-20 土器(17)

2 石器

(1) 剥片石器

包含層出土の剥片石器ではフリイクが5,793点と最も多く、次いでRフリイク、スクレイパーが続く。定形的な剥片石器としてはスクレイパーの出土量が最も多く、次いで石鏃、つまみ付ナイフが続く。縄文時代早期の特徴的な石器としては、石刃鏃石器群、トランシェ様石器が挙げられる。石器全体の分布は、遺構の密度が高い調査区南西部に多く北東部は少ない傾向にある。ただし、北東部側は、珪質頁岩製のフリイクがまとまった場所が数か所みられる。さらにフリイク・チップの集中域もほとんどが北東部に分布しており、これらも含めてこの場所が石器の加工場ないしフリイクの捨て場となっていた可能性が高い。出土層位としてはV層出土のものがほとんどで、I層、II層からの出土は少量である。石器の石材は珪質頁岩がほぼ9割以上を占め、次いで黒曜石がある。わずかにめのう、玄武岩も認められる。黒曜石は肉眼観察では赤井川産が多く、次いで豊泉産のものが少量認められる。

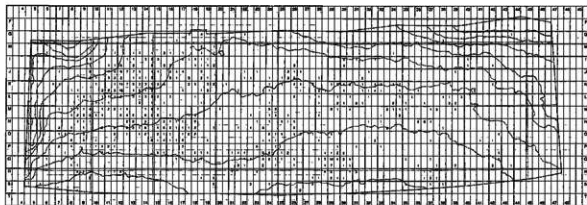
石刃鏃石器群 (図IV-25-1~8、表IV-7、図版52)

石刃鏃とそれに伴うと考えられる石刃が計8点出土している。いずれも黒曜石製である。石刃鏃は3点出土している。全て図示した。1、2はどちらも半柳葉形で、素材の石刃の打点部側を石刃鏃の先端にしている。表面には2本の稜線を残し、基部は折れ面を利用している。表面は先端部付近、裏面は両側縁に丁寧な二次加工が施される。特に先端部の二次加工は入念に施される。基部にもやや雑な二次加工が施される。1は包含層出土の破片2点が接合している。2は基部の二次加工による剝離が部分的に細長く伸びている。3はやや幅が広く、左右非対称のもの。素材の石刃の打点部側を石刃鏃の基部側にしている。基部は内湾し、側縁はやや外湾する。両面の周縁部にやや雑な二次加工が施される。表面右側縁上部の二次加工は稜線を整えるためのものである。基部の二次加工による剝離が細長く伸びている。4~8は石刃もしくは石刃素材の石器。5点出土しており、全点図示した。いずれも上下部を欠失する。背面には素材である石刃の稜線を残す。4~6は幅広で大型のもの。4はスクレイパー。打点付近の部分である。全体に被熱の痕跡が認められ、欠失は被熱によるものと考えられる。裏面左側縁に刃部を作り出している。5は4と同一個体と考えられる。上下部を欠失する。6はスクレイパー。両側縁に部分的に二次加工を施し、刃部を作り出す。7、8は小形のもの。どちらも上下面は折れ面で、側縁には微細な剝離痕が認められる。8は原産地分析の結果、白滝村置戸産という結果が出ている (V章1節参照)。他の石刃鏃と石刃も肉眼観察では、置戸産である可能性が高い。

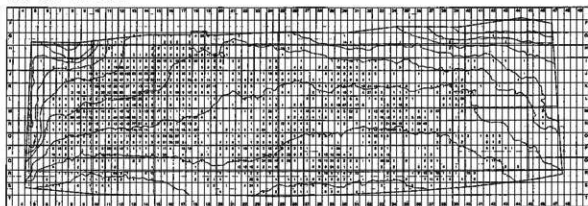
石鏃 (図IV-25-9~33、表IV-7、図版52)

70点出土している。25点図示した。分布は調査区全体に広がるが、J~Kライン付近に比較的多い。石材は珪質頁岩と黒曜石がある。形状は無茎凹基のものが大半を占め、有茎のものはわずかである。珪質頁岩製のものは無茎凹基のものが多く、黒曜石製のものは柳葉形のもの、有茎のものが多く、9~24は無茎で基部が内湾する凹基のもの。9~14は側縁が外湾する。9、10は基部が大きく内湾する凹基でのもので、側縁は大きく外湾する。二次加工は雑で、左右は非対称の形状である。10は先端部を欠失する。11、13は細かい二次加工が施され、丁寧に仕上げられている。12は薄い縦長剥片を素材とし、周縁加工が施され素材面を両面に残す。14は先端部と基部の片側を欠失する。15~18は側縁がほぼ直線状のもの。15は縄文時代晩期のピットであるP-49出土のものだが、形状からは早期の石鏃と考えられる。側縁上部はほぼ直線状だが、下部は内側に屈曲する。16は先端部と基部を欠失する。丁寧な二次加工により側縁はほとんど歪みのない直線に仕上げられている。17は幅が狭く、基部の挟りは深い。先端部をわずかに欠失する。18は裏面にはあまり二次加工が施されず、素材面を大きく残す。19~24は長さが短く、凹基で基部の内湾が浅いもの。側縁はゆるく外湾するものが多い。19は側縁の外湾が

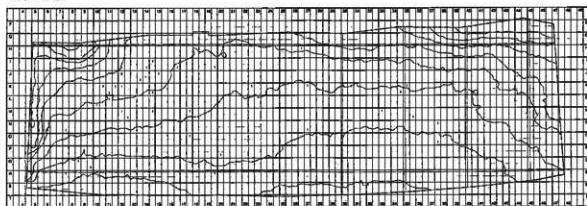
石鏃



石核・銅片・原石の分布



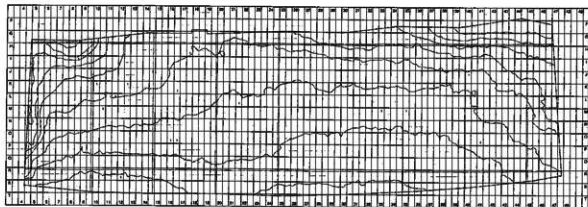
石斧の分布



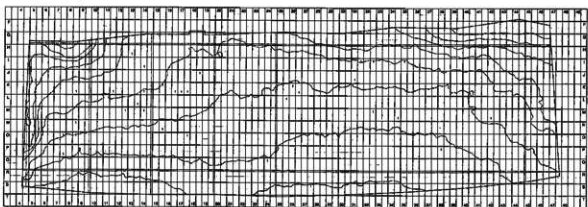
図IV-21 石器分布図(1)

2 石器

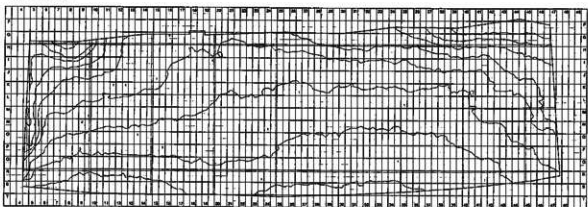
擦り切り残片の分布



たたき石の分布

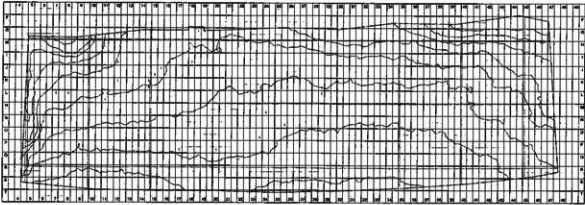


すり石の分布

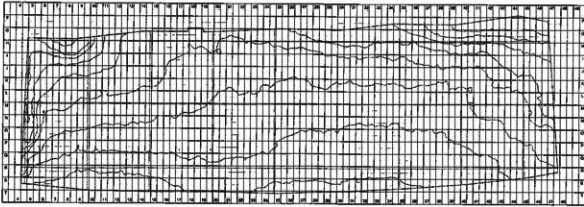


図IV-22 石器分布図(2)

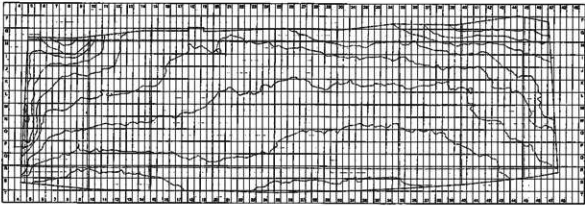
断面三角形のすり石の分布



扁平打製石器・北海道式石冠の分布



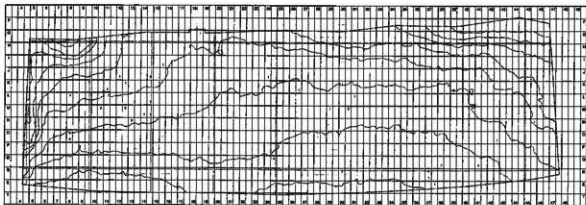
礫石の分布



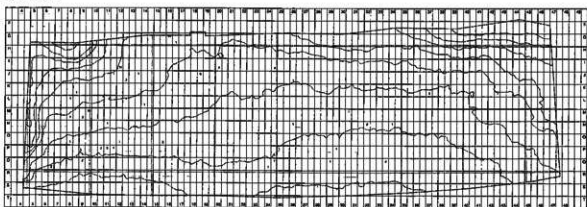
図IV-23 石器分布図(3)

2 石器

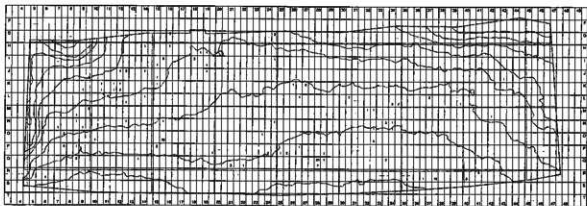
石鏃の分布



石皿の分布



台石・台石片の分布



図Ⅳ-24 石器分布図(4)

大きく、基部先端は平坦である。20は基部の作り出しは丁寧だが、他の二次加工は雑である。21はやや厚みがある。22は表面に焼け弾けの痕が認められる。23は裏面側に入念な二次加工が施される。24は裏面の加工が雑である。25～29は柳葉形のもの。27のみ珪質頁岩製で、他は全て黒曜石製である。25は小形で丁寧な作りである。26は先端部を欠失する。丁寧な二次加工が施され、薄身に作り上げられている。黒曜石は肉眼観察では赤井川産と考えられる。27は基部にわずかに黒色付着物が認められる。28、29は基部がやや大きなもの。どちらも二次加工は丁寧である。29は裏面に素材面をわずかに残す。30、31は平基で大型のもの。30の側面は素材の形状のため、やや湾曲している。31は先端部をわずかに欠失する。丁寧な二次加工が施され、薄身に作り上げられている。32、33は有茎のもの。32は近・現代のピットであるP-18出土のものを便宜上ここで報告する。黒曜石の横長剝片を素材とし、両面に周縁加工が施される。33はめのう製で先端部を大きく欠失する。基部の作り出しは長い。

石槍 (図Ⅳ-25-4～6、表Ⅳ-7、図版52)

10点出土し、3点図示した。出土点数が少なく、そのほとんどが破片である。全て珪質頁岩製である。分布は調査区南東部側に多い傾向がある。34～36は全て木葉形を呈する。34は中央付近で折れていて、H-17-bグリッドとM-17-dグリッド出土の破片が接合した。先端部は検出されなかった。両面の全面に二次加工が施され、ほぼ左右対称に作り上げられている。35、36は小形で幅の広いもの。35は薄い縦長剝片を素材とし、両面に素材面を残す。側縁の二次加工は細かく丁寧に仕上げられている。36は先端部から側縁にかけて大きく広がる。二次加工は雑で全体的に粗い作りである。

石錐 (図Ⅳ-26-37～50、表Ⅳ-7、図版52)

27点出土し、14点図示した。分布は調査区南東部側に多い傾向がみられる。つまみ部を有するものが多く、棒状のものはほとんどみられなかった。素材の剝片として薄手の縦長剝片、もしくは断面三角形で幅が狭く厚みのある剝片を選択している。石材は珪質頁岩もしくは頁岩である。37～41は両面ほぼ全面に二次加工が施されるもの。37～39はつまみ部と尖頭部の境が不明瞭なもの。37、38、41は尖頭部の断面がほぼ円形を呈する。37は表面中央や下の部分が特に分厚くなっている。38は三角形を呈し、側縁はほぼ直線状に仕上げられている。39は側面に素材の形状のため湾曲している。40、41はつまみ部の作りだしが明瞭なもの。40は尖頭部をわずかに欠失する。やや左右非対称の形状だが、二次加工は丁寧である。41は裏面に打層を残す。42～50は素材の形状を生かし、わずかな二次加工で尖頭部を作り出すもの。42～47は比較的幅の狭いもの。42、46は表面左側縁にのみ二次加工が施される。43は表面と、裏面の右側縁に粗い二次加工が施される。45はつまみ部の断面が三角形を呈し、裏面のみ二次加工が施される。44、46、47はつまみ部、尖頭部共に断面が三角形を呈する。48～50は幅の広いもの。48は幅の広い尖頭部を有する。49は横長剝片を素材とする。尖頭部の断面は四角形状である。50は頁岩製で横長剝片を素材とする。

つまみ付ナイフ (図Ⅳ-26-51～57、図Ⅳ-27-58～75、表Ⅳ-7、図版52・53)

41点出土し、25点図示した。分布は散漫な傾向を示す。縦形のものほとんど、横形のもの1点のみ出土している。比較的丁寧な二次加工が施されるものと、素材にあまり手を加えないものに大きく分かれる。石材は珪質頁岩がほとんどで、黒曜石が1点ある。51～57は表面全面と裏面の右側縁に二次加工を施すもの。刃部は表面右側縁に作り出される。また末端部にも二次加工が認められ、刃部としている可能性がある。二次加工は先に裏面右側縁に施され、その後表面に施される。表面左側縁の二次加工は、裏面右側縁の二次加工により作り出された面を打面としている。51、55は刃部に使用痕と考えられる不連続な微細な剝離痕が認められる。52、56は刃部再生が行われている。53、55の刃部は比較的急角度である。54はつまみ部の作り出しがやや雑である。57は末端部の幅が広く、全

体としては三角形に近い形状を呈する。58、59は両面加工のもの。58の側縁は刃部再生のため不整で、末端部は尖る。59は小形で厚みがある。黒曜石製で肉眼観察では赤井川産と考えられる。60～63は両面に周縁加工が施されるもの。全周に施されるものはほとんどなく、側縁等に部分的に施されるものが多い。61は両刃である。62は表面左側縁に刃部が作り出される。64～70は片面加工のもの。64～66は片面のほぼ全体に二次加工が施されるもの。64は素材の末端部をつまみ部側にもってきている。65は表面に一部素材面を残す。66はつまみ部を除くほぼ全周に微細な剝離痕が認められる。67～70は片面周縁加工のもの。67、69は二次加工がほぼ全周する。70の表面左側縁は折れ面の形状をそのまま生かしている。71～75はつまみ部以外はほぼ素材の形状を生かし二次加工をほとんど施さないもの。薄手の縦長剝片を素材とするものが多い。74は表面に2ヵ所焼けはじけが認められる。75は横長剝片を素材とする。

寛状石器 (図Ⅳ-27-76～78、図Ⅳ-28-79～86、表Ⅳ-7、図版53)

15点出土し、11点図示した。分布をみると12ライン付近にやや多い傾向がある。完形品が多く、破損しているものは少ない。両面加工、半両面加工のものがほとんどで、片面加工のものはわずかである。全体的に二次加工は粗いものが多い。石材は全て珪質頁岩である。76、77はいわゆるトランシェ様石器で、隣接するグリッドから出土している。刃部は一次加工でできた剝片の縁辺を、そのまま利用している。ただし刃縁には細かい二次加工が施される。76の表面右側縁はほぼ直線状で、左側縁はやや内湾する。刃部はやや外湾し、基部に対してやや斜めになる。裏面の部分的に黒色付着物が認められる。77は基部を欠失する。側縁は内湾し、刃縁はほぼ直線状を呈する。79は大形の寛状石器。周囲の包含層から同一母岩と考えられるフレイクが出土しており、その内3点と接合した。偏平な礫を両面からの加工により寛状に作り上げている石核石器である。加工は全体的に粗く両面に自然面を残す。刃部は部分的に二次加工が認められ、未成品の可能性も有る。78、80、81、83、84は両面加工のもの。二次加工は全体的に粗い。刃部は両刃のものが多い。78、80、84は刃部がやや丸みを帯びる。80は同一グリッド内から出土した破片が接合した。81、83は形状が左右非対称である。84は片刃で刃部は急角度である。82、85、86は半両面加工のもので、裏面周縁部にも二次加工が施される。いずれも片刃である。85、86は小形で丁寧な二次加工が施されるもの。

両面調整石器 (図Ⅳ-29-87～91、表Ⅳ-7、図版53)

両面調整石器は両面加工及び半両面加工の石器で上記の分類に当てはまらないものとした。50点出土し、6点図示した。分布は調査区南西部側に多い傾向がある。大きくみて、ナイフ的な性格をもつもの、機能部の特定し難いもの、石器の未成品と考えられるもの、石核の可能性のあるものに分けられる。石材は珪質頁岩が多く頁岩、黒曜石、玄武岩もわずかにある。87はナイフ的な性格と考えられるもの。柄部を有し、表面右下部に急角度の刃部を作り出している。88～91は接合して完形品になったものである。88は機能部が特定し難いもの。左右非対称でほぼ両面全面に二次加工が施される。中央よりやや下で折れている。89～91は石核の可能性のあるもの。まず腹面に細かい周縁加工を施し、そこを打面として背面側に加工を施している。取っている剝片がかなり小形のため、石核ではなく石槍等の未成品の可能性も有る。92は小円形のもの。黒曜石製で肉眼観察では豊浦産と考えられる。

スクレイパー (図Ⅳ-29-92～100、表Ⅳ-7、図版53)

195点出土し、8点図示した。分布は調査区南西部に濃く、特にH～N-9～19グリッド付近に多い傾向がある。大形の縦長剝片を素材とし、側縁にわずかに二次加工を施しているものが多い。刃部は外湾もしくは直線状を呈するものがほとんどで、内湾するものや抉り部をもつものは少ない。片刃で背面側に刃部を作り出すものが多いが、腹面側に刃部を作り出すものもわずかに認められる。石材は

珪質頁岩が多く、黒曜石、玄武岩も少量ある。93～95は下部に刃部を作り出すいわゆるエンドスクレイパー。いずれも黒曜石製で、外湾する刃部が作り出される。96は浅く内湾する刃部をもつもの。裏面には厚みを取るための二次加工が施される。97、98は外湾する刃部を有するもの。共に二次加工は雑である。99は玄武岩製でやや粗い二次加工によりほぼ直線状の刃部が作り出される。100は背面の右側縁に鋸歯状の刃部が作り出されるもの。

(2) 磨製石器

石斧(図IV-30-101～110、表IV-6、図版54)

石斧は40点出土しており、そのうち10点を図示した。石斧石材の内訳は蛇紋岩が28点、泥岩が6点、粘板岩が3点、緑色凝灰岩が2点、不明が1点である。蛇紋岩製の磨製石斧はすべて擦り切り残片技法によるものである。泥岩のものも擦り切り技法による磨製石斧であるが、刃部や側面に敲打痕の見られるものもある。敲打へ転用されたものと推測される。富野3遺跡出土の石斧全般に共通することは、破損品、欠損品がほとんどである。また、未製品の破損したものも多く見られる。石材の割合は擦り切り残片を含み、蛇紋岩72.7%、泥岩12.8%、粘板岩5.5%、緑色凝灰岩3.6%、凝灰岩1.8%、その他不明が3.6%である。

103は凝灰岩製で基部に孔があげられている。中央部から刃部方向にかけて表面磨滅が著しい。表面、側面は研磨によって整形されている。104～110までは擦り切り技法によるもの。すべて蛇紋岩製である。108は製作過程で破損したもの。105、107、109、110はのみ形の石斧。すべて欠損している。110の基部は刃部のように研ぎ出されている。

104は基部、106は刃部で共に欠損品。102は泥岩製。製作時に破損したと考えられる。破損した切断面、刃部、基部、側面の一部に敲打痕がみられる。特に刃部の敲打痕が著しい。破損後、敲石に転用したものと考えられる。

101は粘板岩製。非常に粗雑な作りである。刃部を僅かに欠損する。使用によるものと考えられる。擦り切り残片(図IV-30-111、112、表IV-6、図版54)

包含層出土の擦り切り残片はすべて蛇紋岩である。111、112は比較的大型のものである。やや厚みのある蛇紋岩の縁片に相当する部分である。112はタール状のものが付着している。

(3) 礫石器

礫石器の出土総数は583点である。たたき石、すり石、砥石、石鋸、石錐、石皿もしくは台石やその破片、北海道式石冠、偏平打製石器などが出土している。礫石器の組成は北海道式石冠、偏平打製石器を除いては縄文時代早期の様相を呈している。

たたき石(図IV-30-113～115、図IV-31-116～117、表IV-6、図版54)

36点出土している。石質は安山岩が52.8%、珪岩25%、流紋岩5.5%、粘板岩、凝灰岩が各々2.8%、その他不明8.3%である。

113～117まで敲石。113は石質不明のもの。焼成を著しく受けており、炭化物が多く付着している。114は泥岩製。115～117は亜円礫の両端に敲打痕がみられる。115、117は珪岩製、116は安山岩製である。

砥石(図IV-31-118～119、表IV-6、図版54)

包含層出土のものは2点のみである。118、119は砥石。全て流紋岩製である。

すり石(図IV-31-120～123、表IV-6、図版54)

41点出土している。そのうち20点は断面三角形のものである。それ以外のものでは偏平な円礫の縁片を擦り面にしているものがある。石質は安山岩を81.8%使用している。その他、流紋岩15.2%、粘

2 石器

板岩3%である。

120～123まで断面三角形のすり石。120は礫の稜を擦っているが、表面には砥石のような幅の狭い擦り面と、敲打痕がある。両端をたたき石に転用しているものとみられる。粘板岩製。121は礫の稜のほか、表面にも擦り面がある。焼成を受けており、赤褐色化している。123は礫の稜の2辺を擦り面にしている。

石鏝(図Ⅳ-31-124、125、表Ⅳ-6、図版54)

包含層出土の石鏝は全てが凝灰岩製である。遺構出土のものには流紋岩製のものがある。他の礫石器で凝灰岩を主に使用する石器として石皿もしくは台石があるが、その破片として分類しているなかにも、刃部を破損した石鏝の破片も含まれている可能性がある。また、石皿もしくは台石の破損したものを石鏝として使用している可能性もある。124は擦り石と複合している石鏝。わずかに敲打痕もみられる。炭化物状のものが付着する。125は板状礫の表面を擦っている。破損している。

石鏝(図Ⅳ-32-126～129、図Ⅳ-33-150～152、表Ⅳ-6、図版55)

石鏝は63点出土している。石質は安山岩36.5%、流紋岩34.9%、泥岩6.3%、凝灰岩4.8%、粘板岩3.2%、砂岩、チャート各々1.6%、その他不明11.1%である。比較的、安山岩と流紋岩が多い。素材の形状は偏平礫が多い。しかし、偏平礫が薄く割れたものや、全体の1/3程度が割れたものなどに挟入部を作り出し石鏝にしているものがあり、素材の選択は余りこだわっていないようである。また、後述する形状、重量なども大小の幅がある。挟入部は長軸の両端に作り出すものが多いが、3ヶ所挟入部を作り出すものもある。

128、133は割れた偏平礫に挟入部を作り出しているもの。131、132は薄く割れた礫片に挟入部が作り出されている。136は長軸方向に挟入部がある。短軸方向には剝離による整形が施されている。表面には僅かに擦痕がある。138、144、145は挟入部が3ヶ所ある。このうち138は表面に擦痕がある。145は短軸方向の縁辺に挟入部がある。151は短軸方向に挟入部があるもの。

台石もしくは石皿(図Ⅳ-33-153、表Ⅳ-6、図版56)

台石もしくは石皿は137点出土している。石材は凝灰岩が84.4%、安山岩15.6%である。153は凝灰岩製。幅広い擦り面をもつ。

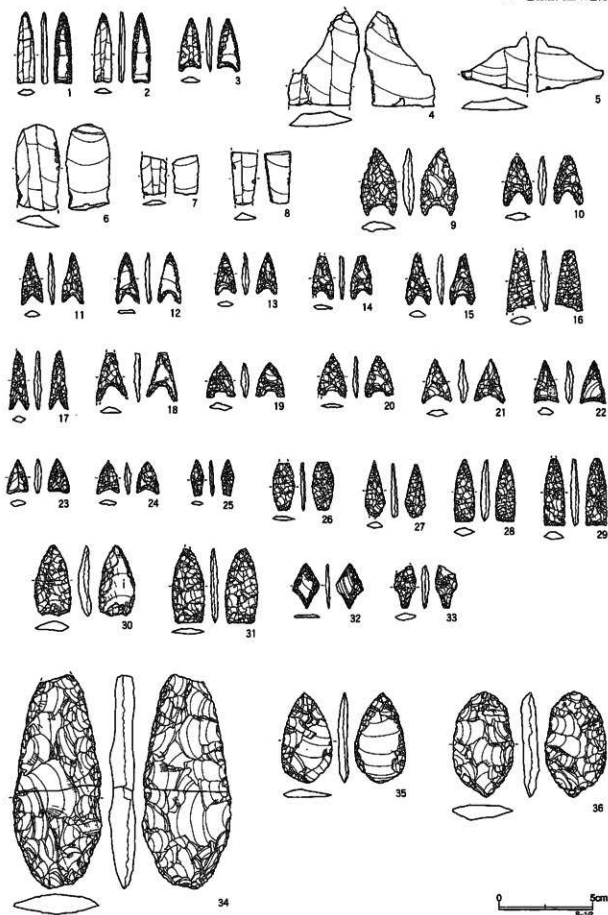
北海道式石冠(図Ⅳ-33-154、表Ⅳ-6、図版56)

1点のみ出土している。図Ⅳ-33-154の偏平打製石器とともに出土している。154は胴部にあるはちまき状の溝が周縁部にもみられる。擦り面は炭化物状のものが付着している。敲打による整形のほか、擦って整形している。

偏平打製石器(図Ⅳ-33-155、表Ⅳ-6、図版56)

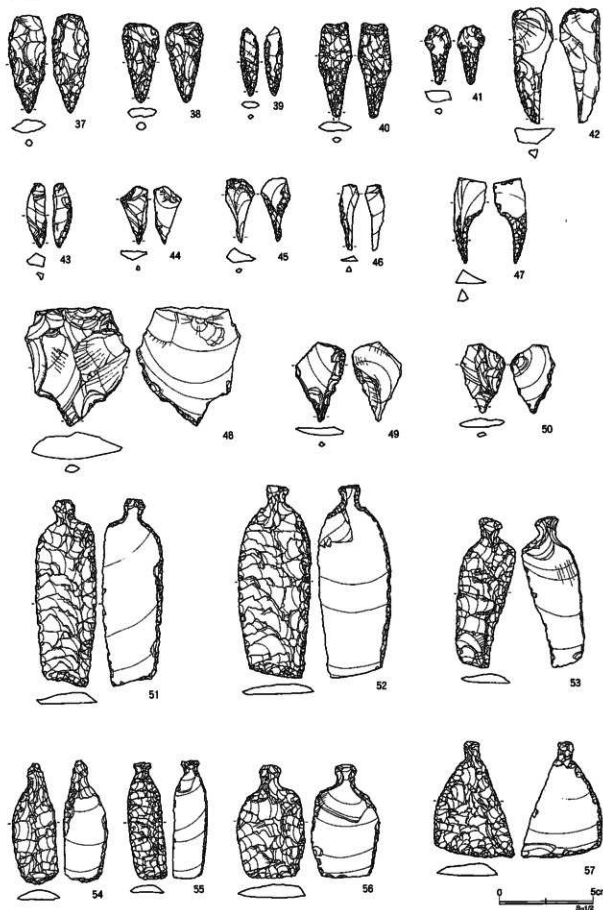
3点出土している。安山岩製が2点、流紋岩製が1点である。155は偏平礫を打ち欠いているもの。安山岩製。

今回検出された礫石器は、石鏝を除きその機種毎に素材をある程度限定して使用していたことがわかる。擦り切りの石斧には蛇紋岩、泥岩が選択されている。敲石には、特徴的なものとして珪岩や安山岩の円礫や歪円礫の端部や表面を使用しているものが挙げられる。擦り石は断面三角形のものが多く、安山岩製のものが多い。その他の石材のものがあるが、敲石などと複合している。石鏝は凝灰岩が最も多く、遺構からは流紋岩のものも出土している。石皿もしくは台石にはほとんどが凝灰岩製で他に安山岩が僅かにある。

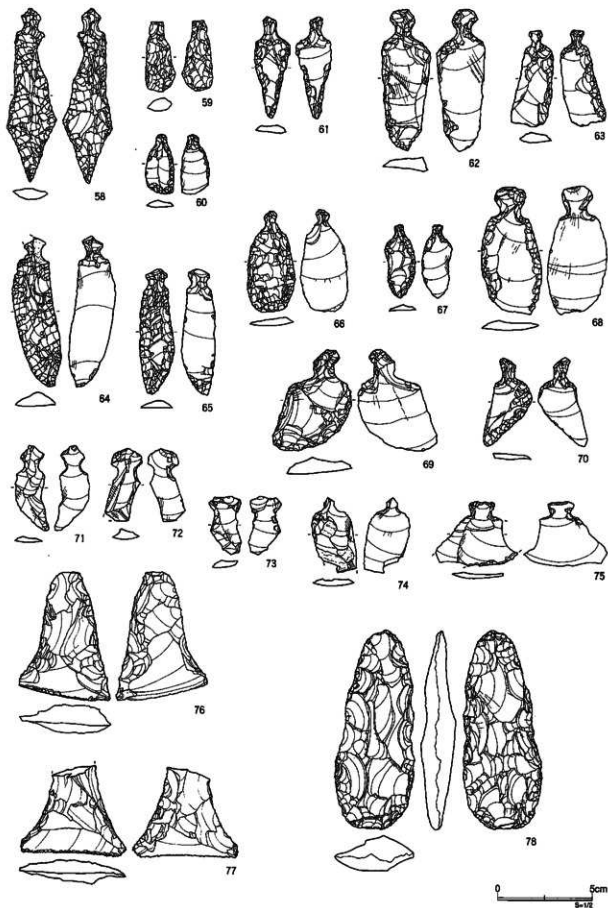


図IV-25 石器(1)

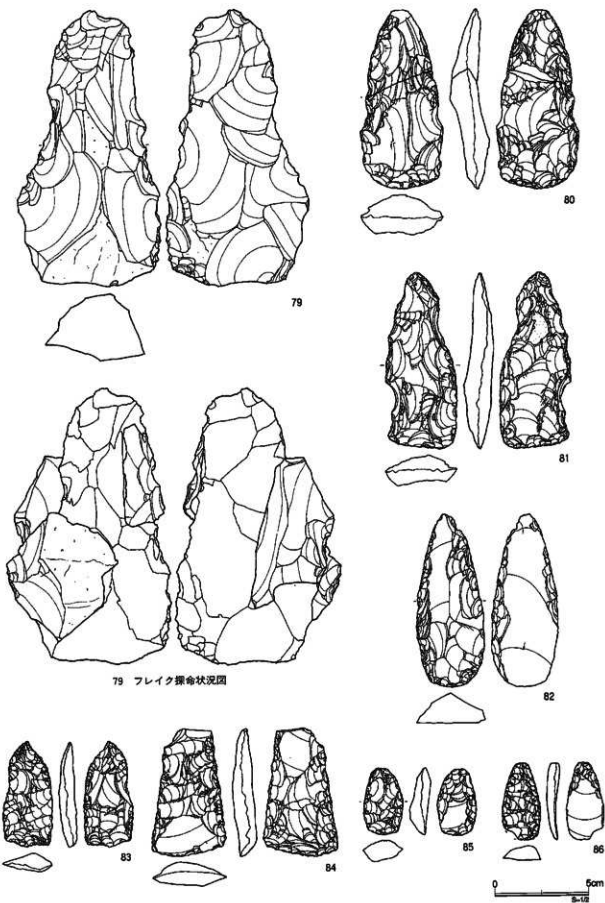
2 石器



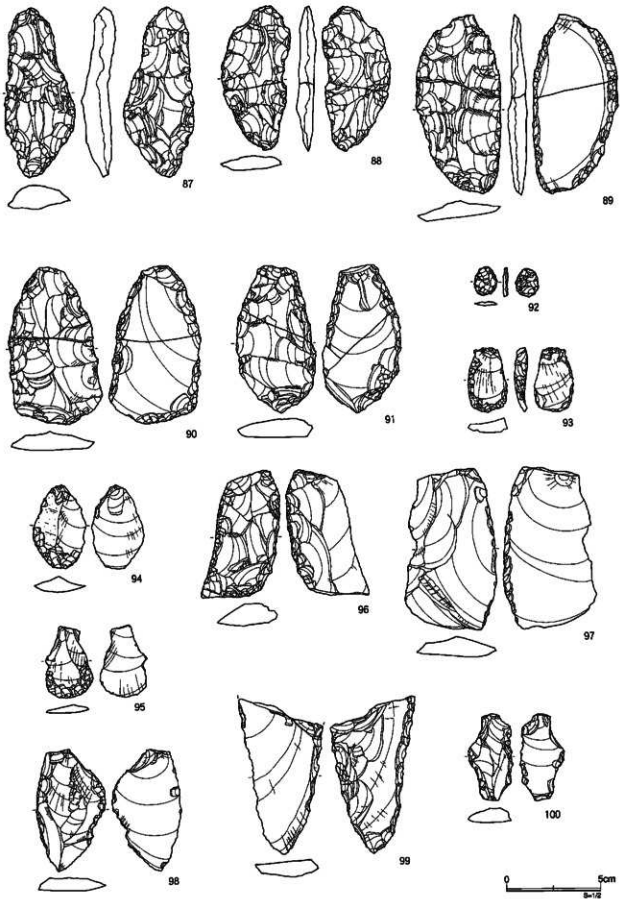
图IV-26 石器(2)



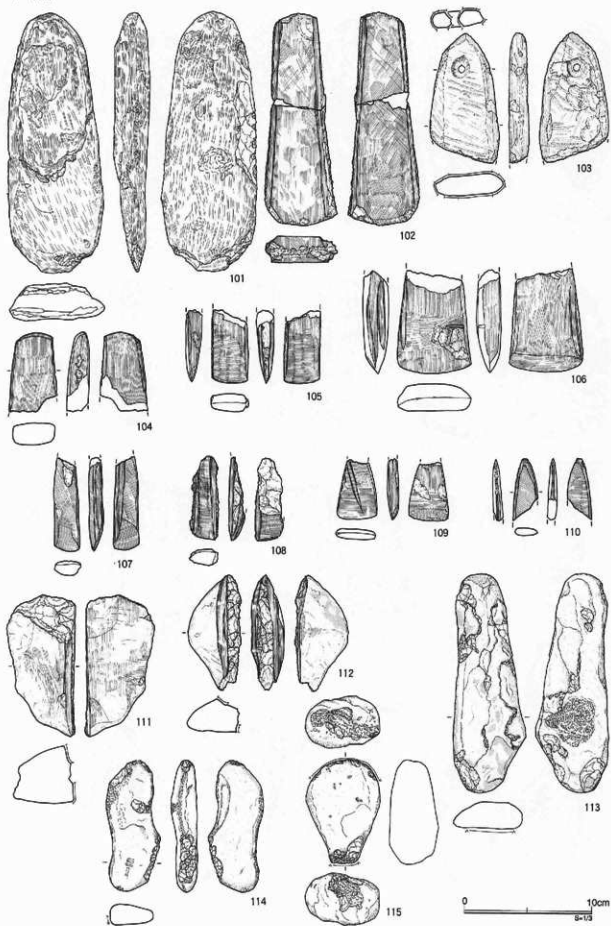
図IV-27 石器(3)



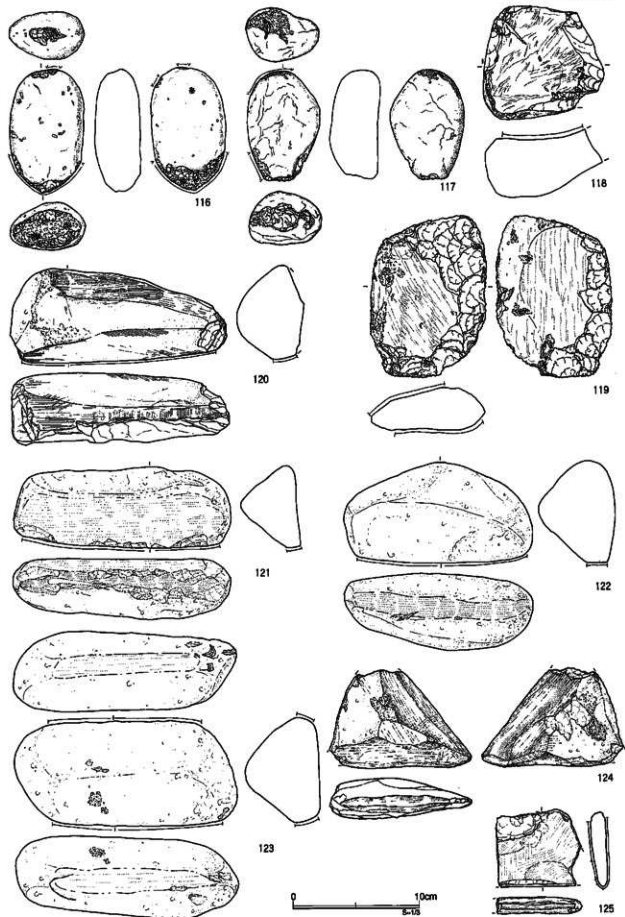
図IV-28 石器(4)



図IV-29 石器(5)

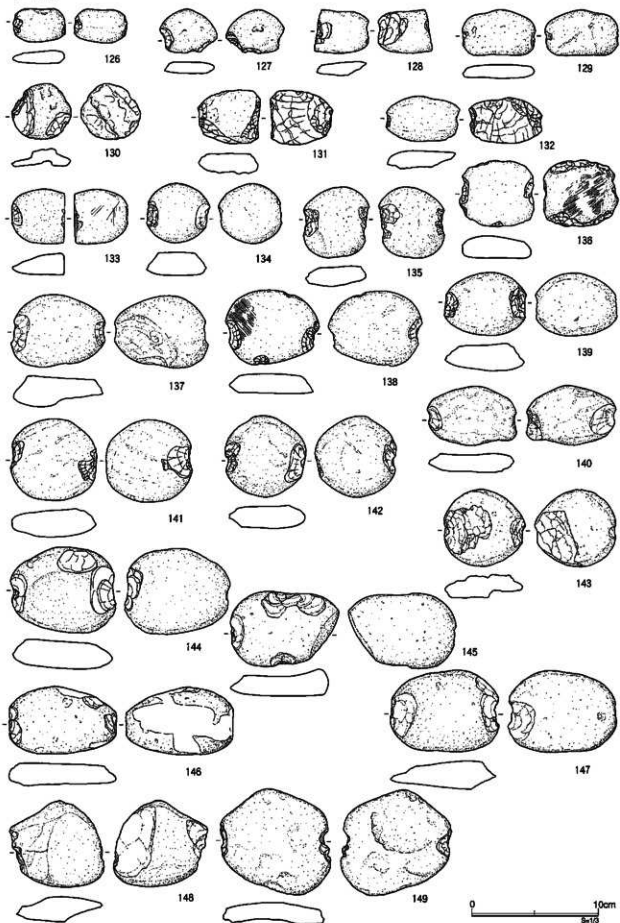


图IV-30 石器(6)

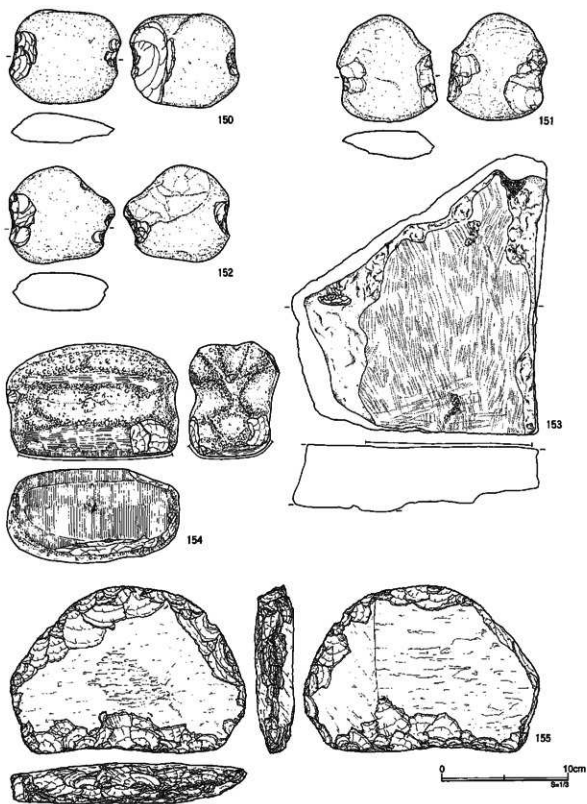


図IV-31 石器(7)

2 石器



图IV-32 石器(8)



図IV-33 石器(9)

資料一覽
表IV-2 検出遺構一覽

遺構名	遺構種	グリッド	規模		長軸方向	時期
			上層長×上層幅	下層長×下層幅		
H-1	竪穴式住居	L-14-b-c, L-15-b, M-13-c-D, M-14-a~d, M-15-a-c, M-14-a-c-d, N-15-a-b-d	6.62×6.43	6.50×6.22/0.33m	N-52-E	縄文時代早期中葉 (I a)
H-2	竪穴式住居	M-17-b-c, M-18-b, N-17-a~d, N-18-a-b, O-17-a-d, O-18-a	5.81×5.30	5.16×5.12/0.24m	N-33-W	縄文時代早期後葉 (I b-1)
H-3	竪穴式住居	J-15-a+b+c, J-15-a+d	4.01×3.25	3.45×2.66/0.29m	N-24-W	縄文時代早期後葉 (I b-1)
H-4	竪穴式住居	M-9-a~d, M-10-a~d, M-11-a+b, N-9-a~d, N-10-a~d, N-11-a, O-9-a~d	5.57×7.11	9.30×7.06/0.15m	N-9-W	縄文時代早期後葉 (I b-1)
H-5	竪穴式住居	I-17, I-18-a+b, J-17-a+d, J-18-a	9.90×5.48	5.50×5.24/0.40m	N-74-W	縄文時代早期中葉 (I a)
H-6	竪穴式住居	J-12, J-13-a+b, K-12, K-13-a+b+c, L-12-d, L-13-a+d	8.04×(4.82)	7.90×(4.67)/0.43m	N-76-W	縄文時代早期後葉 (I b-1)
H-7	竪穴式住居	O-15-c, O-16-b+c, P-15-c+d, P-16-a~d, P-17-a+b	5.02×4.62	4.90×4.44/0.21m	N-17-W	縄文時代早期後葉 (I b-1)
H-8	竪穴式住居	O-11-b-d, O-12-b, P-11-a+d, P-12-a	4.82×3.33	4.64×3.13/0.16m	N-20-E	縄文時代早期後葉 (I b-1)
H-9	竪穴式住居	I-14-c+d, I-15, I-16-b, J-14-c+d, J-15, J-16-a	6.36×(5.83)	5.96×(5.76)/0.18m	N-67-E	縄文時代早期後葉 (I b-1)
H-10	竪穴式住居	Q-36-b+c, Q-37-b+c, R-36-a+b+c+d, R-37-a+b	4.52×4.51	4.18×4.18/0.43m	N-7-W	縄文時代早期後葉 (I b-1)
H-11	竪穴式住居	I-16-b, J-14, J-15-b+c+d, J-18-a+b, K-14-c-d, K-15	7.85×(6.35)	7.56×(6.16)/0.26m	N-7-W	縄文時代早期後葉 (I b-1)
H-12	竪穴式住居	M-12-b+c, M-13-a, N-12-a~d, N-13-a	4.25×3.63	4.16×3.48/0.13m	N-79-W	縄文時代早期後葉 (I b-1)
H-13	竪穴式住居	K-15-b+c	1.99×(1.68)	1.70×(0.48)/0.08m	N-29-E	縄文時代早期後葉 (I b-1)
H-14	竪穴式住居	H-19-b+c, I-19-a+d	3.64×2.70	3.30×2.37/0.12m	N-49-E	縄文時代早期後葉 (I b-1)
H-15	竪穴式住居	K-12-c, K-13-b+c, L-12-a~d, L-13-a~d	6.05×4.15	5.83×3.93/0.18m	N-20-E	縄文時代早期後葉 (I b-1)
P-1	土壇基	Q-32-c, Q-33-b	1.39×1.12	0.85×0.65/0.59m	N-6-E	縄文時代早期後葉 (I b-1)
P-2	土壇	K-22-d	0.35×0.33	0.16×0.11/0.10m	N-55-W	縄文時代早期末葉 (V c)
P-3	土壇	K-22-b	0.77×0.55	0.55×0.37/0.11m	N-37-W	縄文時代早期末葉 (V c)
P-4	土壇	L-26-d	(1.76)×1.68	0.67×0.70/-m	N-55-W	近・現代
P-5	土壇	K-22-d	0.47×0.40	0.23×0.19/0.16m	N-10-W	縄文時代早期末葉 (V c)
P-6	土壇	O-22-c	0.74×0.70	0.63×0.52/0.10m	N-67-W	縄文時代早期末葉 (V c)
P-7	土壇	M-18-c+d	1.14×1.11	1.02×0.96/0.17m	N-41-W	縄文時代早期後葉 (I b-1)
P-8	土壇	Q-20-d	1.01×0.93	0.77×0.74/0.26m	N-35-E	縄文時代早期中葉 (I a)
P-9	土壇	K-16-a	0.58×0.37	0.36×0.22/0.20m	N-72-W	縄文時代早期末葉 (V c)
P-10	土壇	I-16-d	0.72×0.59	0.49×0.45/0.12m	N-58-W	縄文時代早期末葉 (V c)
P-11	土壇	J-16-d	0.69×0.60	0.46×0.44/0.20m	N-78-W	縄文時代早期末葉 (V c)
P-12	土壇	O-23-b	0.98×0.85	0.73×0.63/0.20m	N-60-E	縄文時代早期末葉 (I b-1) 中-中葉
P-13	土壇	Q-23-a	0.79×0.74	0.44×0.44/0.16m	N-23-W	縄文時代早期末葉 (V c)
P-14	土壇	I-24-c	0.54×0.45	0.37×0.28/0.25m	N-70-E	縄文時代早期後葉 (I b-1)
P-15	フラスコ状ピット	M-15-d, M-16-a	0.93×0.96	1.06×0.79/0.40m	N-31-W	縄文時代早期中葉 (I a)?
P-16	土壇	P-14-b, Q-14-a	0.53×0.41	0.72×0.49/0.30m	N-47-E	縄文時代早期後葉 (I b-1)?
P-17	土壇	Q-25-a	1.07×0.87	0.89×0.55/0.32m	N-36-E	縄文時代早期
P-18	土壇	K-15-d	1.26×1.25	1.00×0.97/0.33m	N-72-W	近・現代
P-19	土壇	I-23-c	0.58×0.53	0.40×0.42/0.23m	N-73-W	縄文時代早期
P-20	土壇	K-23-c	0.45×0.35	0.19×0.26/0.12m	N-67-W	縄文時代早期末葉 (V c)
P-21	土壇	M-23-d	0.39×0.34	0.21×0.21/0.10m	N-51-E	縄文時代早期末葉 (V c)?
P-22	土壇	N-14-d	(0.80)×(0.83)	0.47×0.40/0.50m	N-9-E	縄文時代?
P-23	土壇	L-22-a	0.66×0.63	0.35×0.46/0.16m	N-87-E	縄文時代早期末葉 (V c)
P-24	土壇	K-21-d	0.41×0.40	0.19×0.17/0.17m	N-55-W	縄文時代早期末葉 (V c)

遺構名	遺構種	グリッド	規模		長軸方向	時期
			上部基壇×上層階高×下部基壇×下部階高×厚さ(m)			
P-25	土壇	K-21-a	0.62×0.48/0.13×0.19/0.24m		N-45-E	縄文時代晩期末葉 (Y c)
P-26	土壇	G-18-d, G-19-a	(1.21)×1.08/1.07×0.87/0.19m		N-67-W	縄文時代晩期末葉 (Y c)
P-27	土壇	I-15-c	1.28×0.67/0.86×0.31/0.30m		N-67-E	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
P-28	土壇	K-22-b	0.65×0.55/0.36×0.37/0.14m		N-60-W	縄文時代晩期末葉 (Y c)
P-29	土壇	N-26-a, N-26-d	0.23×0.20/0.08×0.11/0.23m		N-36-E	縄文時代後期中葉 (0 b)
P-30	土壇	M-9-c	0.67×0.58/0.43×0.47/0.11m		N-36-E	近・現代
P-31	土壇	N-9-d	0.71×0.61/0.35×0.41/0.15m		N-29-W	近・現代
P-32	土壇	N-9-b・c	0.74×0.64/0.45×0.41/0.06m		N-36-E	近・現代
P-33	土壇	O-9-c	0.56×0.51/0.39×0.33/-m		N-30-E	近・現代
P-34	土壇	N-27-d, N-28-a	0.47×0.41/0.28×0.30/0.22m		N-27-E	縄文時代早期
P-35	土壇	R-36-a	0.16×0.15/0.05×0.05/0.12m		N-65-W	縄文時代後期?
P-36	土壇	P-17-d, P-18-b, Q-17-d, Q-18-a	2.26×2.03/2.06×1.52/0.34m		N-45-W	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
P-37	土壇	O-17-c・d, O-18-a・b	3.48×3.46/2.51×3.11/0.26m		N-61-E	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
P-38	土壇	N-28-c, O-28-d	0.75×0.40/0.49×0.23/0.18m		N-50-W	縄文時代早期後葉 (1 b-1)?
P-39	土壇	N-27-c	0.82×0.64/0.43×0.30/0.32m		N-54-W	縄文時代早期
P-40	土壇	N-26-d	0.26×0.25/0.09×0.13/0.20m		N-61-E	縄文時代後期?
P-41	土壇	J-29-c, J-30-b	0.48×0.39/0.12×0.10/0.24m		N-87-W	縄文時代
P-42	土壇	R-28-c, S-28-c・d, R-29-b・c, S-29	(6.37)×(4.75)/-x-/0.24m		N-7-W	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
P-43	土壇	J-15-b・c, K-15-a	2.17×1.90/2.06×1.90/0.16m		N-13-E	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
P-44	土壇	N-15-a~d	2.83×2.18/2.30×1.82/0.36m		N-34-W	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
P-45	土壇	I-25-b	1.51×1.00/1.17×0.61/0.30m		N-72-E	縄文時代早期
P-46	土壇	L-19-a	0.45×0.30/0.36×0.20/0.16m		N-61-E	縄文時代晩期末葉 (Y c)
P-47	土壇	L-19-a	0.35×0.08/-x-/0.22m		N-6-W	縄文時代晩期末葉 (Y c)
P-48	土壇	L-19-a	0.38×0.15/0.24×0.04/0.14m		N-54-W	縄文時代晩期末葉 (Y c)
P-49	土壇	I-17-a	0.89×(0.78)/0.55×0.54/0.26m		N-14-E	縄文時代晩期末葉 (Y c)
P-50	プラスチック ピット	J-24-d	0.88×0.87/0.74×0.91/0.44m		N-89-E	縄文時代早期
P-51	土壇	J-20-a	0.53×0.48/0.43×0.34/0.11m		N-84-E	縄文時代晩期末葉 (Y c)
P-52	土壇	J-20-a	0.50×0.46/0.34×0.32/0.24m		N-78-W	縄文時代晩期末葉 (Y c)
P-53	土壇	J-20-b	0.54×0.50/0.36×0.36/0.16m		N-37-W	縄文時代晩期末葉 (Y c)
P-54	土壇	J-20-c	0.54×0.56/0.32×0.36/0.29m		N-90-W	縄文時代晩期末葉 (Y c)
P-55	土壇	J-20-d	0.51×0.58/0.31×0.30/0.22m		N-84-W	縄文時代晩期末葉 (Y c)
P-56	土壇	J-20-a	0.48×0.42/0.30×0.28/0.26m		N-75-E	縄文時代晩期末葉 (Y c)
P-57	土壇	J-19-b	0.56×0.49/0.32×0.33/0.14m		N-20-W	縄文時代晩期末葉 (Y c)
P-58	土壇	K-19-c	0.61×0.58/0.45×0.34/0.16m		N-43-E	縄文時代晩期末葉 (Y c)
P-59	土壇	K-19-a	0.52×0.47/0.41×0.36/0.11m		N-38-E	縄文時代晩期末葉 (Y c)
P-60	土壇	J-15-c	0.83×0.80/0.74×0.74/0.21m		N-76-E	縄文時代晩期末葉 (Y c)
P-61	土壇	K-19-a	0.57×0.52/0.44×0.20/0.19m		N-34-E	縄文時代晩期末葉 (Y c)
P-62	土壇	K-19-b	0.52×0.47/0.37×0.27/0.21m		N-33-E	縄文時代晩期末葉 (Y c)
P-63	土壇	L-18-d	0.49×(0.41)/0.27×0.22/0.13m		N-57-W	縄文時代晩期末葉 (Y c)

遺構名	遺構種	グリッド	断面		長軸方向	時期
			上断面長×上断面幅×下断面長×下断面幅×厚さ(m)			
P-64	土塼	L-19-b	0.50×0.47/0.40×0.35/0.09m		N-65-E	縄文時代晩期末葉(Vc)
P-65	土塼	L-19-a	1.58×1.53/1.10×1.09/0.51m		N-77-W	近・現代
P-66	土塼	G-13-c, H-13-d	0.69×0.64/0.52×0.48/0.16m		N-27-E	近・現代
P-67	土塼	H-10-c, H-11-b	0.95×0.93/0.58×0.61/0.36m		N-24-E	近・現代
P-68	土塼	P-18-b	(1.62)×0.75/0.64×0.72/0.25m		N-10-E	縄文時代早期後葉(I b-1) ?
P-69	土塼	Q-17-b・c	1.75×1.31/1.38×0.96/0.22m		N-61-E	縄文時代早期後葉(I b-1)
P-70	土塼	Q-15-a	1.62×1.31/0.99×0.69/0.35m		N-88-E	縄文時代早期後葉(I b-1)
P-71	土塼	P-14-c, P-15-b, Q-15-a	0.92×0.83/0.66×0.45/0.15m		N-88-W	縄文時代早期後葉(I b-1)
P-72	土塼	P-14-c・d, P-15-a・b	1.36×0.82/0.95×0.89/0.19m		N-46-E	縄文時代早期後葉(I b-1)
P-73	土塼	M-9-d, M-10-b, N-9-d, N-10-a	2.35×1.87/0.75×0.53/0.44m		N-69-E	縄文時代早期後葉(I b-1)
P-74	土塼	L-18-d	1.06×0.92/0.32×-/m		N-72-E	近・現代
P-75	土塼	L-24-a	(0.59)×(0.46)/0.41×0.24/0.15m		N-59-W	縄文時代晩期末葉(Vc)
P-76	土塼	M-24-a	0.33×0.21/0.23×0.14/0.06m		N-4-W	縄文時代晩期末葉(Vc)
P-77	土塼	H-16-c, I-16-d	0.66×0.56/0.36×0.34/0.23m		N-88-E	縄文時代晩期末葉(Vc)
P-78	土塼	I-18-d, I-19-a	0.66×0.55/0.50×0.38/0.20m		N-33-E	縄文時代晩期末葉(Vc)
P-79	土塼	I-19-d	0.21×0.14/0.11×0.09/0.11m		N-37-E	縄文時代晩期末葉(Vc)
P-80	土塼	H-18-c, I-18-d	0.66×0.64/0.43×0.45/0.18m		N-42-E	縄文時代晩期末葉(Vc)
P-81	土塼	H-19-b, I-19-a	0.75×0.65/0.50×0.41/0.32m		N-12-W	縄文時代晩期末葉(Vc)
P-82	土塼	H-19-a・b	0.75×0.64/0.41×0.34/0.26m		N-20-E	縄文時代晩期末葉(Vc)
P-83	土塼	H-18-d, H-19-a	0.64×0.54/0.47×0.35/0.17m		N-76-E	縄文時代晩期末葉(Vc)
P-84	土塼	J-27-a	0.89×0.51/0.78×0.31/0.24m		N-5-E	縄文時代晩期末葉(Vc)
P-85	土塼	P-24-d	1.08×0.92/0.56×0.48/0.62m		N-58-E	縄文時代早期後葉(I b-1)
P-86	土塼	Q-18-c, R-18-d	1.02×0.98/0.78×0.78/0.33m		N-27-E	近・現代
P-87	土塼	H-19-b・c	0.65×0.52/0.45×0.32/0.11m		N-23-E	縄文時代早期後葉(I b-1)
P-88	土塼	L-24-a・d	1.78×1.61/1.35×1.40/0.16m		N-48-W	縄文時代早期後葉(I b-1) ?
P-89	土塼	P-18-d, P-19-a	0.46×0.44/0.65×0.59/0.37m		N-55-W	縄文時代早期後葉(I b-1)
P-90	土塼	P-18-d, P-19-a	0.45×0.46/0.32×0.55/0.24m		N-54-W	縄文時代早期後葉(I b-1)
P-91	土塼	P-18-c, P-19-b	0.42×0.34/0.20×0.18/0.21m		N-7-E	縄文時代早期後葉(I b-1)
P-92	土塼	L-27-a	0.67×0.47/0.34×0.15/0.27m		N-81-E	縄文時代晩期末葉(Vc)
P-93	土塼	L-27-b・c	0.58×0.42/0.45×0.30/0.12m		N-82-E	縄文時代早期後葉(I b-1) ?
P-94	土塼	S-7-d	0.55×0.53/0.27×0.32/0.14m		N-28-E	縄文時代早期後葉(I b-1)
P-95	土塼基?	H-20-b・c, I-20-a・d	1.53×1.04/0.34×0.92/0.22m		N-77-E	縄文時代中期前半(Ⅱa)
P-96	土塼	M-23-d	0.38×0.30/0.25×0.20/0.08m		N-23-W	縄文時代晩期末葉(Vc)
P-97	土塼	M-23-d, M-24-a	0.48×0.41/0.18×0.23/0.17m		N-66-W	縄文時代晩期末葉(Vc)
P-98	土塼	O-18-c	0.38×0.38/0.70×0.58/0.37m		N-37-W	縄文時代早期後葉(I b-1)
P-99	土塼	O-18-c, O-19-b	0.41×0.37/0.17×0.20/0.15m		N-48-E	縄文時代早期後葉(I b-1)
P-100	土塼	P-19-b	0.37×0.35/0.54×0.46/0.28m		N-40-E	縄文時代早期後葉(I b-1)
P-101	土塼	L-14-d	0.44×0.38/0.28×0.27/0.14m		N-72-W	縄文時代晩期末葉(Vc)
P-102	土塼	L-15-a	0.47×0.35/0.33×0.25/0.13m		N-58-W	縄文時代晩期末葉(Vc)

遺構名	遺構種	グリッド	規模		長軸方向	時期
			上層長さ×上部幅長×下部長さ×下部幅長×高さ(m)			
P-103	土壇	H-17-b、I-17-a	0.66×0.48/0.46×0.30/0.16m		N-78-E	縄文時代前期後半 (V c)
P-104	土壇	R-39-a	0.60×0.55/0.47×0.31/0.30m		N-78-W	縄文時代前期後半 (I b-1)
P-105	土壇	O-19-b	0.38×0.38/0.47×0.53/0.30m		N-77-E	縄文時代前期後半 (I b-1)
P-106	土壇	O-19-b	0.33×0.37/0.46×0.42/0.32m		N-78-E	縄文時代前期後半 (I b-1)
P-107	土壇	O-19-b	0.41×0.43/0.58×0.60/0.40m		N-30-W	縄文時代前期後半 (I b-1)
P-108	土壇	O-19-b	0.35×0.29/0.26×0.12/0.13m		N-21-W	縄文時代前期後半 (I b-1)
P-109	土壇	P-19-a	0.45×0.39/0.18×0.18/0.36m		N-45-W	縄文時代前期後半 (I b-1)
P-110	土壇	P-19-a	0.61×0.34/0.46×0.34/0.25m		N-63-W	縄文時代前期後半 (I b-1)
P-111	土壇	P-19-a	0.32×0.29/0.07×0.10/0.15m		N-67-W	縄文時代前期後半 (I b-1)
P-112	土壇	O-19-a	0.45×0.45/0.34×0.33/0.26m		N-30-W	縄文時代前期後半 (I b-1)
P-113	土壇	H-16-a	0.49×0.46/0.39×0.35/0.24m		N-23-E	縄文時代前期後半 (I b-1)
P-114	土壇	H-16-a・b	0.40×0.40/0.27×0.33/0.25m		N-62-W	縄文時代前期後半 (I b-1)
P-115	土壇	H-15-d	0.44×0.38/0.24×0.26/0.19m		N-79-W	縄文時代前期後半 (I b-1)
P-116	土壇	H-16-c	0.49×0.45/0.40×0.35/0.34m		N-53-W	縄文時代前期後半 (I b-1)
P-117	土壇	L-17-b・c、M-17-a・d	1.65×1.52/0.70×0.91/0.50m		N-80-W	縄文時代前期中層 (I a) ?
P-118	土壇	J-26-d	0.61×0.40/0.43×0.22/0.13m		N-77-E	縄文時代前期後半 (I b-1)
P-119	土壇	J-26-c	0.77×0.59/0.41×0.34/0.12m		N-33-W	縄文時代前期後半 (I b-1)
P-120	土壇	I-18-d	0.56×(0.34)/0.39×(0.30)/0.10m		N-55-W	縄文時代前期後半 (I b-1)
P-121	土壇	I-18-d	1.63×1.12/0.90×0.65/0.21m		N-80-W	縄文時代前期後半 (V c)
P-122	土壇	L-14-a	0.43×0.38/0.21×0.28/0.15m		N-26-E	縄文時代前期後半 (I b-4) ?
P-123	土壇	N-13-a・b	1.67×1.37/1.59×1.33/0.12m		N-31-W	縄文時代前期後半 (I b-1)
P-124	土壇	M-12-c、M-13-b	1.50×(1.38)/1.45×(1.31)/0.08m		N-1-W	縄文時代前期後半 (I b-1)
P-125	土壇	L-12-c、L-13-b	0.61×0.47/0.45×0.29/0.14m		N-11-E	縄文時代前期後半 (V c)
P-126	土壇	M-11-c、M-12-b、N-11-d、N-12-a	2.82×2.68/2.70×2.60/0.07m		N-69-E	縄文時代前期後半 (I b-1)
P-127	土壇	H-18-a・b	0.48×0.43/0.24×0.23/0.25m		N-83-E	縄文時代前期後半 (I b-1)
F-1	竈土	J-14-d	0.55×0.48/-x-/0.10m		N-11-W	縄文時代前期後半 (I b-1)
F-2	竈土	I-13-c	0.53×0.42/-x-/0.06m		N-43-W	縄文時代前期後半 (I b-1)
F-3	竈土	I-13-c・d	0.60×0.38/-x-/0.06m		N-41-W	縄文時代前期後半 (I b-1)
F-4	竈土	N-28-c、N-29-d	0.93×0.41/-x-/0.18m		N-61-W	縄文時代前期後半 (I b-1)
F-5	竈土	N-28-d	0.89×0.61/-x-/0.10m		N-44-W	縄文時代前期
F-6	竈土	Q-30-d	0.88×0.52/-x-/0.13m		N-62-E	縄文時代前期後半 (I b-1)
F-7	竈土	Q-28-d、Q-29-a	0.63×0.26/-x-/0.06m		N-8-W	縄文時代前期後半 (I b-1)
F-8	竈土	J-17-c・d、J-18-a・b	0.47×0.44/-x-/0.18m		N-79-W	縄文時代前期後半 (I b-1)
F-9	竈土	M-34-b	0.42×0.31/-x-/0.08m		N-39-E	縄文時代前期後半 (I b-1)
F-10	竈土	G-18-a	0.82×0.35/-x-/0.12m		N-33-E	縄文時代前期後半 (I b-1)
F-11	竈土	O-11-b、P-11-a	0.63×0.45/-x-/0.03m		N-4-W	縄文時代前期後半 (I b-1)
F-12	竈土	H-16-a・b	0.66×0.58/-x-/0.07m		N-55-E	縄文時代前期後半 (I b-1)
F-13	竈土	H-16-d	0.55×0.46/-x-/0.04m		N-31-W	縄文時代前期後半 (I b-1)
F-14	竈土	Q-22-d	0.89×0.54/-x-/0.05m		N-38-W	縄文時代前期

遺構名	遺構種	グリッド	規模		長軸方向	時期
			上部長さ×上部幅×下部長さ×下部幅×高さ(m)	面積		
F-15	焼土	O-24-b	1.40×0.90/-x-/0.04m		N-69-W	縄文時代早期
F-16	焼土	J-24-a	(0.65)×0.45/-x-/0.06m		N-57-W	縄文時代早期
F-17	焼土	J-24-d	0.72×(0.48)/-x-/0.13m		N-22-E	縄文時代早期
F-18	焼土	Q-31-b、R-31-a	0.62×0.25/-x-/0.11m		N-55-E	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
F-19	焼土	H-18-c	0.43×0.25/-x-/0.03m		N-66-E	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
F-20	焼土	K-25-d	0.41×0.33/-x-/0.07m		N-60-E	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
F-21	焼土	K-25-d	0.32×0.30/-x-/0.06m		N-46-W	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
F-22	焼土	Q-20-b	0.43×0.38/-x-/0.06m		N-6-E	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
F-23	焼土	P-19-a・b	1.07×0.31/-x-/0.07m		N-54-W	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
F-24	焼土	O-19-b、P-19-a	0.51×0.35/-x-/0.07m		N-62-W	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
F-25	焼土	O-19-a・b	0.79×0.35/-x-/0.09m		N-42-W	縄文時代早期
F-26	焼土	P-21-b	0.69×0.44/-x-/0.07m		N-59-W	縄文時代早期
F-27	焼土	M-6-a・d	1.30×1.02/-x-/0.05m		N-26-W	縄文時代早期後葉 (1 b-1)?
F-28	焼土	K-19-a	0.64×0.44/-x-/0.07m		N-56-E	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
F-29	焼土	O-13-a	0.61×0.35/-x-/0.04m		N-87-E	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
F-30	焼土	O-13-a・d	1.01×0.74/-x-/0.09m		N-0-W	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
F-31	焼土	P-14-b	0.45×0.28/-x-/0.03m		N-43-W	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
F-32	焼土	O-24-c	0.69×0.48/-x-/0.10m		N-89-W	縄文時代早期
F-33	焼土	N-25-c・d、N-26-a・b	0.65×0.35/-x-/0.11m		N-71-E	縄文時代早期
F-34	焼土	J-17-b・c	0.75×0.37/-x-/0.10m		N-12-W	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
F-35	焼土	M-35-a	0.27×0.23/-x-/0.03m		N-6-E	縄文時代早期?
F-36	焼土	M-36-d	0.36×0.20/-x-/0.03m		N-71-E	縄文時代早期?
F-37	焼土	R-13-d	0.29×0.25/-x-/0.02m		N-67-E	縄文時代早期?
F-38	焼土	M-32-a	0.37×0.20/-x-/0.03m		N-65-E	縄文時代?
F-39	焼土	M-9-c、M-10-b	0.81×0.37/-x-/0.06m		N-54-E	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
F-40	焼土	M-9-c	1.20×0.54/-x-/0.05m		N-57-E	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
FC-1	フレイク・チップ集中	J-28、J-29-a・b	4.55×2.69/-x-/m		N-33-E	縄文時代早期
FC-2	フレイク・チップ集中	G-30-a・d	2.06×0.90/-x-/m		N-60-W	縄文時代早期
FC-3	フレイク・チップ集中	J-30-a・d	3.61×3.43/-x-/m		N-26-W	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
FC-4	フレイク・チップ集中	L-31-b・c、M-31、N-31-a・d	4.95×3.89/-x-/m		N-10-W	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
FC-5	フレイク・チップ集中	L-27-b・c、M-27	2.98×2.43/-x-/m		N-70-W	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
FC-6	フレイク・チップ集中	S-29-c、S-30	1.61×1.43/-x-/m		N-1-W	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
FC-7	フレイク・チップ集中	J-39-c、J-40-b	1.69×0.71/-x-/m		N-22-W	縄文時代早期
FC-8	フレイク・チップ集中	J-38-c、J-39-b、K-39-a	2.34×1.06/-x-/m		N-81-E	縄文時代早期
FC-9	フレイク・チップ集中	O-15-d	1.57×0.88/-x-/m		N-66-W	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
FC-10	フレイク・チップ集中	O-15-a・b	1.82×1.00/-x-/m		N-3-E	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
FC-11	フレイク・チップ集中	M-35-d、M-36-a	1.18×0.69/-x-/m		N-77-W	縄文時代早期
S-1	小竪溝中	M-33-d、N-33-c・d、N-34-a・b・d	3.64×2.91/-x-/m		N-27-E	縄文時代早期後葉 (1 b-1)
SP-1~8	掘穴・小ピット	O-30-c、O-31-b、P-30-b・d、P-31-a・b、Q-30-d	x/-x-/m			近・現代

表IV-3 遺構出土遺物一覽

遺構名	層位	遺物名	分類	点数	遺構名	層位	遺物名	分類	点数
H-1	覆土1層		合計	2,030点				I b-1	26点
			合計	6点				15点	
		銅片・石屑等	小計	4点			銅片石屑	小計	3点
		フレイク	4点	石鏃			3点		
		鏃・鏃片等	小計	2点			同層銅鏃石屑	1点	
		鏃	2点	ドリル			2点		
								つまみ付ナイフ	1点
								スタレイバー	3点
								R フレイク	2点
								L フレイク	3点
	覆土2層		合計	890点			鏃石鏃	小計	12点
		縄文早期土層	小計	457点					
		I a	218点	石屑片			3点		
		I b-1	239点	研磨石屑			1点		
		その他の土層	小計	7点			すり切り残片	1点	
		不明土層	7点	たなき石			1点		
		銅片石屑	小計	34点			たなき石片	1点	
							銚石もしくは石鏃片	4点	
							石鏃	1点	
	覆土3層		合計	25点			銅片・石屑等	小計	132点
		石屑片	2点				フレイク	132点	
		石屑未製品	1点	石鏃			小計	1点	
		すり切り残片	1点						
		銚石もしくは石鏃片	14点	石鏃			小計	1点	
		石鏃	5点	自然遺物			小計	5点	
		石鏃片	1点	スコリア			5点		
		有蓋鏃片	11点						
		銅片・石屑等	小計	238点					
		フレイク	238点						
	覆土4層		合計	46点			覆土5層	合計	12点
		縄文早期土層	小計	11点			縄文早期土層	小計	3点
		I a	5点	I a			3点		
		I b-1	6点	銅片・石屑等			小計	9点	
		銅片石屑	小計	3点			フレイク	9点	
		スタレイバー	2点						
		R フレイク	1点						
		鏃石鏃	小計	9点					
		石屑片	2点						
		石鏃	7点						
	覆土5層		合計	115点			覆土6層	合計	666点
		鏃石片	1点	縄文早期土層			小計	376点	
		石鏃片	1点	I a			376点		
		長巻鏃	1点	その他の土層			小計	1点	
		鏃	61点	不明土層			1点		
		鏃片	47点	銅片石屑			小計	15点	
		鏃石	4点						
土製品		小計	2点	石鏃	2点				
縄織粘土塊		2点							
				石鏃片	1点				
覆土6層		合計	343点	同層銅鏃石屑	1点				
	縄文早期土層	小計	107点	ドリル	2点				
	I a	81点	つまみ付ナイフ	1点					
				スタレイバー	3点				
				銅片石鏃片	1点				
				R フレイク	4点				
覆土7層		合計	343点	鏃石鏃	小計	9点			
	縄文早期土層	小計	107点						
	I a	81点	石屑片	1点					
				研磨石屑	2点				
				新羅三角部のすり石	1点				
				すり石	1点				
				鏃石	2点				

遺構名	層位	遺物名	分類	点数	遺構名	層位	遺物名	分類	点数		
H-2	H-1	有蓋罐		1点	H-2	覆土2層	銅片・石筒等	有意線片	1点		
			銅片	223点							
		フレイク		223点			銅片・石筒等	小計	223点		
			石核類	小計				1点			
		鏃・鏃片等	石核	1点			鏃・鏃片等	鏃	15点		
			鏃片	37点				鏃片	5点		
		自然遺物	石燧片	1点			自然遺物	自然遺物	小計	点	
			鏃	24点				炭化物	点		
			鏃片	8点				合計	22点		
			燧石	4点				縄文早期土器	小計	3点	
		HP-1	炭化陶				点	HP-1	縄文早期土器	I a	3点
				スコリア			4点			銅片・石筒等	銅片
			合計	8点			フレイク		フレイク		14点
			縄文早期土器						小計	3点	鏃・鏃片等
	I a			3点	鏃	5点					
	銅片・石筒			小計	1点	自然遺物	自然遺物		小計	点	
		U フレイク	1点	炭化物	点						
	銅片・石筒等		小計	4点	HP-2	縄文早期土器		合計	28点		
		フレイク	4点	縄文早期土器			小計	7点			
	覆土1層	HP-2	合計	28点	HP-2	縄文早期土器	I a	7点			
				縄文早期土器			小計	7点			
		縄文早期土器		小計	21点	銅片・石筒等	銅片・石筒等	小計	21点		
			I a	7点	フレイク		21点				
		銅片・石筒等		小計	21点	覆土1層	縄文早期土器		合計	5点	
			フレイク	21点	縄文早期土器			小計	1点		
		鏃		1点	鏃	I b-1	1点				
			合計	5点		銅片・石筒	小計	2点			
		銅片・石筒		小計	2点	銅片・石筒等	U フレイク	1点			
			U フレイク	1点	U フレイク		1点				
	銅片・石筒等		小計	1点	自然遺物	自然遺物	小計	点			
		フレイク	1点	炭化物		点					
	鏃・鏃片等		小計	1点	HP-6	銅石筒		合計	1点		
		鏃	1点	銅石筒			小計	1点			
	鏃		1点	HP-8	鏃		合計	1点			
		合計	5,645点			台石もしくは石燧片	1点				
	覆土2層	縄文早期土器		合計	193点	HP-8	鏃・鏃片等		合計	1点	
			I a	5点	鏃			1点			
	銅片・石筒	I b-1	10点	銅片・石筒	銅片・石筒片	小計	6点				
		銅片・石筒	小計		6点						
	銅石筒		小計	1点	銅石筒	銅片石燧片	1点				
台石もしくは石燧片		1点	U フレイク	2点							
銅片・石筒等		小計	155点	銅片・石筒等	フレイク	2点					
	フレイク	155点	合計		2点						
鏃・鏃片等		小計	18点	HP-15	銅片・石筒等	フレイク	2点				
	鏃	16点	合計			2点					
自然遺物	鏃片	2点	HP-20	銅片・石筒等	銅片・石筒等	小計	2点				
	自然遺物	小計			点	フレイク	2点				
炭化物		点	HP-20	銅片・石筒等	フレイク	2点					
	合計	376点			合計	2点					
覆土3層	縄文早期土器		合計	321点	HP-20	銅片・石筒等	合計	2点			
		I a	3点	合計			389点				
その他の土器	I b-1	117点	HP-1	縄文早期土器		合計	389点				
	I b-4	1点			I b-1	4点					
不明土器		小計	2点	HP-1	銅片・石筒等	銅片・石筒等	小計	185点			
	不明土器	2点	フレイク			185点					
覆土2層	縄文早期土器		合計	4,894点	HP-2	銅片・石筒等	合計	4,877点			
		銅片・石筒等	小計	4,877点							
鏃・鏃片等		小計	7点	HP-2	鏃・鏃片等	鏃	7点				
	鏃	7点	合計			433点					
覆土2層	縄文早期土器		合計	318点	H-3	覆土2層	縄文早期土器		合計	318点	

遺構名	層位	遺物名	分類	点数		
		Uフレイク スタレイバー片		4点		
				1点		
		礫石類	小計		29点	
				石押片	1点	
				たたき石	1点	
				台石もしくは石皿	1点	
				台石もしくは石皿片	14点	
				礫石	1点	
				石盤	9点	
		石皿片	2点			
		銅片・石銅等	小計		170点	
				フレイク	170点	
		石鉄類	小計		1点	
				石鉄	1点	
		骨・骨片等	小計		91点	
				骨	43点	
				骨片	45点	
				骨石	3点	
		土製品	小計		1点	
				焼成粘土類	1点	
		自然遺物	小計		1点	
	炭化物 スコリア			点 1点		
	墓土1層	合計		289点		
			縄文早期土層	小計	160点	
					I a	166点
					I b-1	3点
			その他の土層	小計	1点	
					不明土層	1点
			銅片石類	小計	16点	
					石銅	1点
					両面調整石類	2点
					ドリル	2点
					つまみ付ナイフ	1点
スタレイバー					5点	
銅片石皿片					1点	
Rフレイク					3点	
礫石類					小計	6点
	台石もしくは石皿	1点				
	台石もしくは石皿片	1点				
	石盤	1点				
	石皿片	3点				
銅片・石銅等	小計	63点				
		フレイク	63点			
骨・骨片等	小計	31点				
		骨	14点			
		骨片	14点			
		骨石	3点			
自然遺物	小計	3点				
		スコリア	3点			
床面	合計	93点				
		縄文早期土層	小計	26点		
				I a	26点	
		礫石類	小計	1点		
				石銅	1点	
		銅片・石銅等	小計	61点		
				フレイク	61点	
		石鉄類	小計	1点		
				石鉄	1点	
		骨・骨片等	小計	1点		
				骨片	1点	
		自然遺物	小計	点		
				炭化物	点	

遺構名	層位	遺物名	分類	点数			
H-6	墓土2層	合計		1,240点			
			合計	373点			
			縄文早期土層	小計	209点		
					I a	40点	
					I b-1	59点	
			縄文晩期土層	小計	3点		
					V c	3点	
			その他の土層	小計	6点		
					不明土層	6点	
			銅片石類	小計	22点		
					石銅	4点	
					石銅片	1点	
					ボイント	1点	
					ドリル	2点	
					つまみ付ナイフ	1点	
					スタレイバー	4点	
					銅片石皿片	1点	
					くまび彫石類	1点	
					Rフレイク	7点	
			礫石類	小計	18点		
					石押片	1点	
					ナリ切り残片	1点	
					たたき石	1点	
					台石もしくは石皿片	7点	
			銅片・石銅等	小計	248点		
					フレイク	248点	
					石鉄類	4点	
			骨・骨片等	小計	61点		
					焼成骨片	1点	
			石製品	小計	1点		
					石製品	1点	
			自然遺物	小計	1点		
					スコリア	1点	
					合計	17点	
			墓土	合計	2点		
					I a	2点	
					銅片石類	小計	2点
							両面調整石類
					Rフレイク	1点	
					礫石類	小計	1点
							ナリ切り残片
					銅片・石銅等	小計	10点
							フレイク
骨・骨片等	小計	2点					
		骨	1点				
骨片	1点						
床面	合計	210点					
		縄文早期土層	小計	79点			
				I a	21点		
				I b-1	36点		
		その他の土層	小計	22点			
				I b-4	22点		
		銅片石類	小計	9点			
				不明土層	1点		
		銅片石類	小計	9点			
				石銅片	1点		
ドリル	2点						
スタレイバー	6点						

遺跡名	層位	遺物名	分類	点数	遺跡名	層位	遺物名	分類	点数		
H-7	Ⅰ	Rフレイク Uフレイク		2点	Ⅱ	Ⅱ	鏝・鏡片等	小計	13点		
				1点				鏝	7点		
		礫石類		4点			鏡片	6点			
			石片 新田三角形のすり石	1点 1点 2点			合計	1,153点			
		銅片・石屑等	フレイク	89点			縄文早期土器		小計	289点	
				89点				I a I b-1	50点 219点		
		鏝・鏡片等	小計	27点			銅片石類		小計	14点	
			灰石 鏝 鏡片 礫石	1点 20点 5点 1点				石類 石鏡片 石鏝未製品 阿蘇銅鍍石鏝 ドリル Rフレイク Uフレイク	2点 3点 1点 1点 1点 5点 1点		
		自然遺物	小計	1点			礫石類		小計	6点	
			炭化物 スコリア	点 1点				石片 石屑片 礫石片 有意礫片	1点 1点 2点 2点		
		FC-1	縄文早期土器	合計			415点	銅片・石屑等		小計	779点
							11点		フレイク	779点	
	I a I b-4		10点 1点	石鏡類		小計	1点				
	銅片・石屑等		フレイク		402点	石鏡	1点				
			鏝・鏡片等	小計	2点	鏝・鏡片等		小計	34点		
	鏝 鏡片		1点 1点	組成鏡片 鏝 鏡片	2点 37点 45点						
	HF-1		縄文早期土器	合計	10点	自然遺物		小計	点		
					1点		炭化物	点			
			I b-1	1点	灰層		合計	390点			
			その他の土器	不明土器		2点	縄文早期土器		小計	181点	
			銅片・石屑等		小計	7点		I a I b-1	28点 133点		
				フレイク	7点	その他の土器		小計	1点		
	HF-2	合計	3点	不明土器	1点						
		鏝・鏡片等	小計	3点	銅片石類		小計	12点			
	鏝	3点	縄文早期土器			小計	12点				
	HF-3	合計		12点		異面異型石鏝 スクレイパー Rフレイク	2点 3点 7点				
		縄文早期土器		小計		1点	礫石類		小計	38点	
	I a	1点	石屑片 すり切り鏡片 たたき石 すり石 台石もしくは石皿 台石もしくは石皿片 石鏝 石鏡片 礫石 有意礫片	1点 3点 1点 1点 6点 2点 4点 1点 19点 1点							
	その他の土器	不明土器	3点	銅片・石屑等			小計	132点			
	銅片・石屑等		小計		8点	フレイク	132点				
		フレイク	8点	鏝・鏡片等		小計	13点				
	Ⅱ-7	Ⅱ土1層	縄文早期土器		合計	1,718点	鏝		小計	5点	
					179点	鏡片		7点			
			縄文早期土器		小計	72点	石製品		小計	2点	
				I a I b-1	21点 51点	石製品		2点			
			銅片石類		小計	9点	自然遺物		小計	点	
				つまみ付ナイフ スクレイパー 銅片石鏝片 Rフレイク スクレイパー片	1点 2点 1点 4点 1点	炭化物		点			
			礫石類		小計	5点	HF-1		合計	12点	
				たたき石 台石もしくは石皿片 石鏝 有意礫片	1点 2点 1点 1点	縄文早期土器			小計	2点	
			銅片・石屑等		小計		72点	I b-1	2点		
フレイク				72点	石鏡類		小計	4点			
石鏡類				小計		4点	石鏡	4点			
			石鏝	4点	銅片・石屑等		小計	9点			

遺構名	層位	遺物名	分類	点数
H-5	HP-2	石楕圓	フレイク	9点
			小野	1点
			石楕圓	1点
		合計	点	
	HP-7	自然遺物	小野	点
		炭化物		点
	HP-10		合計	1点
		銅片・石筒等	小計	1点
	HP-16		合計	13点
		縄文早期土器	小計	1点
			1 b-1	1点
		銅片・石筒等	小計	1点
			石楕圓	1点
		銅片・石筒等	小計	10点
			フレイク	10点
		鏝・礫片等	小計	1点
			鏝	1点
			合計	1点
	HP-19	縄文早期土器	小計	1点
			1 b-1	1点
	HP-20		合計	2点
		縄文早期土器	小計	2点
			1 b-1	2点
		総計	925点	
		合計	179点	
H-8	覆土2層	縄文早期土器	小計	21点
			1 a	5点
			1 b-1	16点
		銅片・石筒	小計	13点
			石楕圓	1点
			スクレイパー	2点
			銅片・石楕圓片	1点
			R フレイク	8点
			U フレイク	1点
		礫石筒	小計	3点
			たたき石	1点
			奇石もしくは石楕圓片	1点
			石楕圓	1点
	銅片・石筒等	小計	123点	
		フレイク	123点	
	石楕圓	小計	3点	
		石楕圓	3点	
	鏝・礫片等	小計	7点	
		鏝	8点	
		礫片	1点	
		合計	696点	
	覆土3層	縄文早期土器	小計	58点
			1 b-1	58点
その他の土器		小計	1点	
		不明土器	1点	
銅片・石筒		小計	3点	
		ポイント片	1点	
		河原調整器石楕圓	1点	
		扇状石楕圓	1点	
銅片・石筒等		小計	385点	
		フレイク	385点	

遺構名	層位	遺物名	分類	点数
H-9	床面	鏝・礫片等	小計	49点
			鏝	41点
			礫片	8点
		合計	4点	
	HP-1	銅片・石筒等	小計	4点
			フレイク	4点
			合計	14点
		その他の土器	小計	1点
			不明土器	1点
		銅片・石筒	小計	1点
			扇状石楕圓	1点
		銅片・石筒等	小計	7点
			フレイク	7点
		鏝・礫片等	小計	5点
		鏝	5点	
	自然遺物	小計	点	
		炭化物	点	
	HP-2		合計	40点
		その他の土器	小計	16点
			不明土器	16点
		銅片・石筒等	小計	4点
			フレイク	4点
		鏝・礫片等	小計	20点
		鏝	12点	
	礫片	8点		
HP-3		合計	1点	
	銅片・石筒等	小計	1点	
		フレイク	1点	
		総計	358点	
		合計	349点	
覆土2層	縄文早期土器	小計	170点	
		1 a	20点	
		1 b-1	150点	
	その他の土器	小計	2点	
		不明土器	2点	
	銅片・石筒	小計	11点	
		河原調整器石楕圓	1点	
		ドリル	1点	
		つまみ付ナイフ	1点	
		スクレイパー	2点	
		銅片・石楕圓片	1点	
		R フレイク	3点	
		U フレイク	2点	
礫石筒	小計	8点		
	石楕圓	1点		
	石楕圓	5点		
	石楕圓片	1点		
	有意礫片	1点		
銅片・石筒等	小計	121点		
	フレイク	121点		
石楕圓	小計	1点		
	石楕圓	1点		
鏝・礫片等	小計	36点		
	鏝	23点		
	礫片	12点		
	礫石	1点		
	合計	4点		
床面	銅片・石筒等	小計	3点	
		フレイク	3点	
	鏝・礫片等	小計	1点	
	礫片	1点		

遺跡名	層位	遺物名	分類	点数	遺跡名	層位	遺物名	分類	点数
H-12	覆土2層	I a I b-1		7点	H-13	床面	不明土層		5点
				256点				不明土層	小計
		その他の土層	小計	17点			石壁		石壁
			不明土層	17点				異相異型石壁	1点
		割片石層	小計	7点			石壁	ドリル	1点
				石壁				2点	つまみ付ナイフ
		割片・石屑等	小計	1点			割片・石屑等	スタレイベー	3点
				3点				Rフレイク	4点
		礫石層	小計	2点			礫石層	小計	9点
				3点					すり切り瓦片
		割片・石屑等	小計	41点			割片・石屑等	小計	116点
				フレイク					41点
		礫・礫片等	小計	22点			礫・礫片等	小計	46点
				焼成礫					2点
		礫	小計	14点			礫	小計	39点
				礫片					6点
		覆土2層	合計	304点			床面	合計	22点
				縄文早期土層					小計
		縄文早期土層	小計	5点			縄文早期土層	小計	7点
				I b-1					246点
	縄文中期土層	小計	3点	割片石層		小計	1点		
			III a				3点	ドリル	1点
	その他の土層	小計	1点	割片・石屑等		小計	8点		
			不明土層				1点	フレイク	8点
	割片石層	小計	3点	礫・礫片等		小計	6点		
			ポイント				1点	礫	4点
	割片石層	小計	1点	礫片		小計	2点		
			スタレイベー				1点		
	割片石層	小計	1点	割片石層		小計	6点		
			Rフレイク				1点	合計	10点
	礫石層	小計	1点	縄文早期土層		小計	9点		
			石押				1点	I a	7点
	割片・石屑等	小計	22点	割片・石屑等		小計	2点		
			フレイク				22点	I b-1	2点
	礫・礫片等	小計	23点	割片・石屑等		小計	1点		
			礫				19点	フレイク	1点
	礫片	小計	4点	礫片		小計	13点		
			合計				35点	合計	13点
	床面	合計	35点	縄文早期土層		小計	26点		
			縄文早期土層				小計	26点	合計
	縄文早期土層	小計	1点	縄文早期土層		小計	1点		
			I a				1点	合計	1点
	縄文早期土層	小計	25点	縄文早期土層		小計	1点		
			I b-1				25点	I b-1	1点
	割片・石屑等	小計	5点	割片・石屑等		小計	2点		
フレイク			5点		小計		2点		
礫・礫片等	小計	4点	礫・礫片等	小計	1点				
		礫			3点	礫	1点		
礫片	小計	1点	礫片	小計	1点				
		合計			1点	合計	1点		
HP-1	合計	1点	HP-1	縄文早期土層	小計	1点			
		礫・礫片等			小計	1点	I a	1点	
礫	小計	1点	礫	小計	1点				
		合計			1点	合計	4点		
HP-2	合計	2点	HP-2	縄文早期土層	小計	1点			
		縄文早期土層			小計	1点	I b-1	1点	
縄文早期土層	小計	1点	縄文早期土層	小計	1点				
		I a			1点	小計	2点		
礫・礫片等	小計	1点	礫・礫片等	小計	1点				
		礫			1点	フレイク	2点		
礫	小計	1点	礫	小計	1点				
		合計			503点	合計	7点		
H-12	覆土2層	合計	446点	縄文早期土層	小計	1点			
					縄文早期土層	小計	256点	I a	1点
縄文早期土層	小計	77点	縄文早期土層	小計	1点				
		I b-1			186点	I b-1	1点		
縄文早期土層	小計	1点	縄文早期土層	小計	2点				
		III a			1点	III a	1点		
その他の土層	小計	5点	その他の土層	小計	2点				
		不明土層			3点	不明土層	3点		
礫石層	小計	1点	礫石層	小計	1点				
		石壁			1点	石壁	1点		
割片・石屑等	小計	2点	割片・石屑等	小計	2点				
		フレイク			2点	フレイク	2点		
礫・礫片等	小計	1点	礫・礫片等	小計	1点				
		礫片			1点	礫片	1点		
H-13	合計	25点	合計	25点	合計	25点			

遺構名	階位	遺物名	分類	点数	遺構名	階位	遺物名	分類	点数		
H-14	覆土1層		合計	25点	H-14	覆土1層		合計	79点		
		縄文早期土器	小計	5点			覆土1層	縄文早期土器	合計	34点	
			1 a	2点					縄文早期土器	小計	8点
			1 b-1	1点						1 a	6点
		1 b-2	2点	1 b-1						2点	
		刺片・石屑等	小計	16点					刺片石器	小計	2点
			フレイク	16点						石鏃	1点
	石鉄類	小計	1点	スタレイパー					1点		
		石鏃	1点	Uフレイク			1点				
	鏝・鍬片等	小計	2点	刺片・石屑等			小計	30点			
		鏝	2点				フレイク	30点			
				鍬片			1点				
				鏝			2点				
				鍬片			1点				
			合計	15点							
床面	鍬石器	小計	1点	床面	鍬石器	小計	1点				
		たたき石	1点			たたき石	1点				
	刺片・石屑等	小計	13点		刺片・石屑等	小計	13点				
		フレイク	13点			フレイク	13点				
	鏝・鍬片等	小計	1点		鏝・鍬片等	小計	1点				
		鍬片	1点			鍬片	1点				
	FC-1	合計	30点		FC-1	合計	30点				
刺片・石屑等		小計	30点	刺片・石屑等		小計	30点				
フレイク		30点	フレイク	30点							
自然遺物	小計	点	自然遺物	小計	点						
	炭化物	点		炭化物	点						
	総計	79点		総計	79点						
H-15	覆土1層		合計	476点	H-15	覆土1層		合計	1,065点		
		縄文早期土器	小計	255点			縄文早期土器	小計	255点		
	1 a		14点	1 a		14点					
	1 b-1		237点	1 b-1		237点					
				4点					4点		
	刺片石器	小計	13点	刺片石器		小計	13点				
		石鏃	1点			石鏃	1点				
	スタレイパー	1点	スタレイパー	1点							
	鍬片石鏃片	1点	鍬片石鏃片	1点							
	Uフレイク	6点	Uフレイク	6点							
	Uフレイク	1点	Uフレイク	1点							
	筒状石器	2点	筒状石器	2点							
	鏝石器	小計	7点	鏝石器		小計	7点				
		たたき石	1点			たたき石	1点				
	台石もしくは石鏃	1点	台石もしくは石鏃	1点							
	台石もしくは石鏃片	3点	台石もしくは石鏃片	3点							
	石鏃	1点	石鏃	1点							
	石鏃	1点	石鏃	1点							
	刺片・石屑等	小計	138点	刺片・石屑等		小計	138点				
		フレイク	138点			フレイク	138点				
	石鉄類	小計	2点	石鉄類		小計	2点				
		石鏃	2点			石鏃	2点				
	鏝・鍬片等	小計	62点	鏝・鍬片等		小計	62点				
	覆土2層	覆土2層		合計		110点	覆土2層	覆土2層		合計	110点
			縄文早期土器	小計		89点			縄文早期土器	小計	89点
				1 a		12点				1 a	12点
1 b-1				77点	1 b-1	77点					
刺片石器			小計	1点	刺片石器	小計			1点		
			Uフレイク	1点		Uフレイク			1点		
刺片・石屑等			小計	15点	刺片・石屑等	小計			15点		
			フレイク	15点		フレイク			15点		
鏝・鍬片等			小計	5点	鏝・鍬片等	小計			5点		
			鏝	4点		鏝			4点		
					鍬片	1点					
					合計	1点					
					縄文早期土器	小計			1点		
					1 b-1	1点					
			合計	497点							
覆土	覆土		合計	497点	覆土	覆土		合計	497点		
		縄文早期土器	小計	382点			縄文早期土器	小計	382点		
			1 a	4点				1 a	4点		
			1 b-1	377点				1 b-1	377点		
							1 b-4	1点			
		その他の土器	小計	5点			その他の土器	小計	5点		
			不明土器	5点				不明土器	5点		
		刺片石器	小計	6点			刺片石器	小計	6点		
			Fリル	2点				Fリル	2点		
		スタレイパー	2点	スタレイパー			2点				
		Uフレイク	1点	Uフレイク			1点				
		Uフレイク	1点	Uフレイク			1点				
		礫石器	小計	5点			礫石器	小計	5点		
			石鏃	2点				石鏃	2点		
たたき石	1点	たたき石	1点								
台石もしくは石鏃	1点	台石もしくは石鏃	1点								
台石もしくは石鏃片	1点	台石もしくは石鏃片	1点								
刺片・石屑等	小計	41点	刺片・石屑等	小計	41点						
	フレイク	41点		フレイク	41点						
石鉄類	小計	1点	石鉄類	小計	1点						
	石鏃	1点		石鏃	1点						
鏝・鍬片等	小計	17点	鏝・鍬片等	小計	17点						
	焼成鍬片	1点		焼成鍬片	1点						
鏝	15点	鏝	15点								
鍬片	1点	鍬片	1点								
自然遺物	小計	点	自然遺物	小計	点						
	炭化物	点		炭化物	点						
	合計	3点		合計	3点						
HP-3	HP-3		合計	3点	HP-3	HP-3		合計	3点		
		刺片・石屑等	小計	1点			刺片・石屑等	小計	1点		
			フレイク	1点				フレイク	1点		
鏝・鍬片等	小計	2点	鏝・鍬片等	小計	2点						
	鏝	2点		鏝	2点						
	合計	4点		合計	4点						
HP-4	HP-4		合計	4点	HP-4	HP-4		合計	4点		
		縄文早期土器	小計	2点			縄文早期土器	小計	2点		
			1 b-1	2点				1 b-1	2点		
刺片石器	小計	2点	刺片石器	小計	2点						
	石鏃	1点		石鏃	1点						
Uフレイク	1点	Uフレイク	1点								
筒状	合計	12点	筒状	合計	12点						
	縄文早期土器	小計		6点	縄文早期土器	小計	6点				
1 a	1点	1 a	1点								

遺構名	部位	遺物名	分類	点数	遺構名	部位	遺物名	分類	点数			
P-15	覆土	鍔・鍔片等	小計	2点	P-23	覆土1層	刺片・石屑等	小計	15点			
			覆片	2点				フリタ	15点			
			総計	33点			覆土2層	鍔・鍔片等	小計	3点	鍔 鍔片	2点 1点
			合計	32点						総計		11点
		縄文早期土器	小計	15点					合計	13点		
			1 a 1 b-1	3点 12点				刺片・石屑等	小計	10点		
		礫石屑	小計	1点		フリタ			10点			
			有蓋鍔片	1点		石鉄類	小計		1点			
		刺片・石屑等	小計	8点			石鉄	1点				
			フリタ	8点		P-25	覆土2層		総計	1点		
	鍔・鍔片等	小計	8点		合計			1点				
		鍔 鍔片	7点 1点	礫石屑	小計	1点						
		合計	1点		石鉄	1点						
	横溝	縄文早期土器	小計	1点	P-26	覆土1層		総計	126点			
			1 a	1点				合計	60点			
	P-16	覆土		総計	6点	覆土1層	縄文早期土器	小計	3点			
				合計	6点			1 b-1 1 b-4	2点 1点			
縄文早期土器			小計	1点	縄文晩期土器		小計	49点				
			1 b-1	1点			V c	49点				
刺片・石屑等			小計	1点	刺片・石屑等		小計	7点				
			フリタ	1点			フリタ	7点				
鍔・鍔片等			小計	1点	土製品		小計	1点				
			鍔片	1点			焼成粘土塊	1点				
自然遺物		小計	3点	自然遺物	小計		点					
		スコリア	3点		炭化物		点					
		総計	13点	覆土2層			合計	2点				
	合計	13点	縄文晩期土器		小計	1点						
P-18	覆土	縄文早期土器		小計	5点	V c	1点					
			1 a	6点	刺片・石屑等		小計	1点				
		その他の土器	小計	1点		フリタ	1点					
			不明土器	1点	覆土	合計	64点					
		刺片石屑	小計	1点		縄文早期土器	小計	1点				
			石鉄	1点	1 b-4		1点					
		刺片・石屑等	小計	2点	縄文晩期土器	小計	62点					
			フリタ	2点		V c	62点					
		鍔・鍔片等	小計	5点	鍔・鍔片等	小計	1点					
			鍔片	3点		鍔	1点					
		総計	1点	自然遺物	小計	点						
		合計	1点		炭化物	点						
	P-19	覆土	刺片石屑	小計	1点	P-27	覆土		総計	1点		
				石鉄	1点				合計	1点		
P-20	覆土		総計	106点	刺片・石屑等	小計	1点					
			合計	106点		フリタ	1点					
		刺片・石屑等	小計	105点		石鉄類	小計	1点				
			フリタ	105点	石鉄		1点					
		P-22	覆土		総計	77点	P-29	覆土		総計	5点	
	合計			77点	縄文早期土器	小計			6点			
縄文早期土器	小計			57点		縄文後期土器		小計	5点			
	1 a 1 b-1 1 b-4			2点 51点 4点	1 a			5点				
その他の土器	小計			1点	IV b	小計		1点				
	不明土器			1点				総計	6点			
刺片石屑	小計			1点	刺片石屑	小計		2点				
	つまみ付ナイフ			1点		刺片・石屑等		フリタ	3点			
	合計			6点				ドリル スタレイバー	1点 1点			
	合計			6点		フリタ		3点				

道標名	階位	遺物名	分類	点数	道標名	階位	遺物名	分類	点数			
P-31		ガラス製品	小計	1点	P-38		縄文早期土器	小計	51点			
			ガラス製品	1点				I a	3点			
			総計	11点			I b-1	4点				
	覆土		合計	11点		礫石層			小計	1点		
		縄文早期土器	小計	1点			石鏝	1点				
			I a	1点			銅片・石屑等	小計	2点			
		銅片・石屑等	小計	8点		フレイク		2点				
			フレイク	8点		礫・礫片等	小計	3点				
			小計	2点			礫	2点				
		礫片	2点			礫片	1点					
P-32	覆土		総計	3点	覆土			総計	2点			
			合計	3点			合計	2点				
		礫石層	小計	1点		銅片・石屑等	小計	2点				
		石屑片	1点			フレイク	2点	P-39	覆土		総計	1点
		銅片・石屑等	小計	2点	礫石層		合計			1点		
		フレイク	2点				小計	1点	P-41	覆土		総計
P-33	覆土		総計	1点			合計	4点				
			合計	1点	銅片・石屑等		合計	4点				
		礫・礫片等	小計	1点			小計	4点				
		礫	1点			フレイク	4点	P-42	覆土		総計	490点
P-36	覆土2層		総計	46点			合計			490点		
			合計	30点	縄文早期土器		小計	384点				
		縄文早期土器	小計	20点		I a	3点					
			I a	20点	I b-1	381点						
		銅片石鏝	小計	3点	銅片石鏝		小計	4点				
		銅片石鏝片	3点	ステンパー		1点						
	銅片・石屑等	小計	1点	Rフレイク	1点							
		フレイク	1点	Uフレイク	2点							
	礫・礫片等	小計	6点	礫石層		小計	1点					
		礫	1点		礫石片	1点						
	礫片	5点	銅片・石屑等		小計	35点						
	合計	15点		フレイク	35点							
覆土3層	縄文早期土器	小計	13点	石鏝類		小計	3点					
		I b-1	13点		石鏝	3点						
	銅片石鏝	小計	2点	礫・礫片等		小計	23点					
		石鏝未製品	1点		礫	11点						
		つまみ付ナイフ	1点	礫片	12点							
		礫・礫片等	小計	1点			総計	438点				
		礫	1点	P-43	覆土1層		合計	252点				
P-37	覆土		総計			183点	縄文早期土器		小計	187点		
			合計			126点		I a	4点			
		縄文早期土器	小計			70点	I b-1	183点				
			I a			4点	銅片石鏝		小計	3点		
		I b-1	66点		石鏝	3点						
	その他の土器	小計	3点		不明土器	3点	銅片石鏝		小計	4点		
		不明土器	3点		石鏝	1点						
	銅片石鏝	小計	4点		ステンパー	2点						
		石鏝	1点		Rフレイク	1点						
	礫石層	小計	3点									
たたき石		1点										
銅片・石屑等	小計	22点										
	フレイク	22点										
礫・礫片等	小計	24点										
	礫	23点										
	礫片	1点										
墳底	合計	57点										
P-38	覆土1層	縄文早期土器	小計	187点	銅片石鏝		小計	3点				
			I a	4点		石鏝	1点					
		I b-1	183点	Rフレイク	1点							
		銅片石鏝	小計	3点	Uフレイク	1点						
			石鏝	3点	礫石層		小計	3点				
	礫石層	小計	3点	石屑片		1点						
		すり切り機片	1点	石鏝	1点							
	銅片・石屑等	小計	30点									
		フレイク	30点									
	礫・礫片等	小計	9点									
焼成礫片		1点										
	礫	4点										
	礫片	4点										
覆土		合計	186点	縄文早期土器		小計	154点					
		縄文早期土器	小計		154点							

遺構名	層位	遺物名	分類	点数	遺構名	層位	遺物名	分類	点数		
		銅片・石筒等	Y c	1点			銅片・石筒等	小計	1点		
			小計	24点				フレイク	1点		
			フレイク	24点			漆・漆片等	小計	3点		
		漆・漆片等	小計	3点			漆	1点			
		漆	3点	土製品			小計	1点			
P-54	覆土		焼成粘土塊	1点				総計	17点		
			合計	17点				合計	6点		
			縄文晩期土器	小計				4点	縄文早期土器	小計	2点
			Y c	4点				I a	2点		
			銅片・石筒等	小計				9点	銅片・石筒等	小計	4点
P-55	覆土1層		フレイク	9点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
P-56	覆土		漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
P-57	覆土		漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
P-58	覆土		漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
P-59	覆土		漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
P-60	覆土		漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
P-61	覆土		漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
P-62	覆土		漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
P-63	覆土		漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
P-64	覆土		漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
P-65	覆土		漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
P-66	覆土		漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
P-67	覆土		漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		
			漆	4点				漆	4点		

遺構名	階位	遺物名	分類	点数	遺構名	階位	遺物名	分類	点数
	Ⅱ土		合計	3点	P-66	Ⅱ土		新築三角形のすり石	1点
		縄文早期土器	小計	1点			銅片・石鏃等	小計	6点
			I b-1	1点				フレイク	6点
		銅片・石鏃等	小計	1点			漆・漆片等	小計	3点
			フレイク	1点				漆	3点
		漆・漆片等	小計	1点				合計	86点
				1点		縄文中期土器	小計	85点	
				1点		I b-1	85点		
				1点		礫石類	小計	1点	
				1点		すり石	1点		
				15点				総計	18点
				15点				合計	2点
				6点			縄文晩期土器	小計	1点
				6点			I b-1	1点	
				1点			V c	1点	
				1点			銅片・石鏃	小計	1点
				2点			I a	1点	
				1点			I b-1	1点	
				2点			フレイク	2点	
				5点			漆・漆片等	小計	2点
				2点				2点	
				1点			漆片	1点	
				15点			総計	15点	
				15点			合計	15点	
				13点			縄文早期土器	小計	13点
				12点			I a	12点	
				1点			I b-1	1点	
				1点			礫石類	小計	1点
				1点			石片	1点	
				1点			漆・漆片等	小計	1点
				1点			炭石	1点	
				点			自然遺物	小計	点
				点			炭化物	点	
				8点			総計	8点	
				8点			合計	8点	
				3点			縄文早期土器	小計	3点
				2点			I a	2点	
				1点			I b-1	1点	
				1点			その他の土器	小計	1点
				1点			不明土器	1点	
				1点			礫石類	小計	1点
				1点			たたき石	1点	
				3点			銅片・石鏃等	小計	3点
				3点			フレイク	3点	
				3点			総計	3点	
				3点			合計	3点	
				2点			礫石類	小計	2点
				2点			新築三角形のすり石	2点	
				1点			銅片・石鏃等	小計	1点
				1点			フレイク	1点	
				11点			総計	11点	
				11点			合計	11点	
				2点			縄文早期土器	小計	2点
				2点			I b-1	2点	
				5点			銅片・石鏃等	小計	5点
				5点			フレイク	5点	
				4点			漆・漆片等	小計	4点
				4点			漆	4点	
				494点			総計	494点	
				399点			合計	399点	
				388点			縄文早期土器	小計	388点
				388点			I b-1	388点	
				1点			礫石類	小計	1点
				1点			銅片・石鏃等	小計	1点
				6点			新築三角形のすり石	1点	
				6点			銅片・石鏃等	小計	6点
				3点			漆・漆片等	小計	3点
				3点			漆	3点	
				86点			合計	86点	
				85点			縄文中期土器	小計	85点
				1点			I b-1	1点	
				1点			礫石類	小計	1点
				1点			すり石	1点	
				18点			総計	18点	
				2点			合計	2点	
				1点			縄文晩期土器	小計	1点
				1点			V c	1点	
				1点			銅片・石鏃	小計	1点
				1点			I a	1点	
				4点			フレイク	4点	
				6点			漆・漆片等	小計	6点
				6点			漆	6点	
				17点			総計	17点	
				17点			合計	17点	
				1点			縄文晩期土器	小計	1点
				1点			V c	1点	
				7点			銅片・石鏃等	小計	7点
				7点			フレイク	7点	
				7点			漆・漆片等	小計	7点
				2点			漆	2点	
				5点			礫石	5点	
				2点			石製品	小計	2点
				2点			石製品	2点	
				38点			総計	38点	
				38点			合計	38点	
				18点			縄文早期土器	小計	18点
				18点			I a	18点	
				3点			縄文晩期土器	小計	3点
				3点			V c	3点	
				14点			銅片・石鏃等	小計	14点
				14点			フレイク	14点	
				1点			石灰類	小計	1点
				1点			石灰	1点	
				2点			漆・漆片等	小計	2点
				1点			漆	1点	
				1点			礫石	1点	
				点			自然遺物	小計	点
				点			炭化物	点	
				2点			総計	2点	
				2点			合計	2点	
				2点			銅片・石鏃等	小計	2点
				2点			フレイク	2点	
				7点			総計	7点	
				7点			合計	7点	
				5点			縄文晩期土器	小計	5点
				5点			V c	5点	
				1点			銅片・石鏃等	小計	1点

遺跡名	層位	遺物名	分類	点数	遺跡名	層位	遺物名	分類	点数	
	覆土	鉄・銅片等	合計	1点	P-109			I a	8点	
			小計	1点				銅片・石鞘等	小計	3点
			鏝	1点				フレイク	3点	
			総計	1点				総計	8点	
			合計	1点				合計	8点	
			小計	1点				小計	4点	
			鏝	1点				I b-1	2点	
			フレイク	1点				I b-4	2点	
			銅片・石鞘等	1点				銅片・石鞘	小計	2点
			フレイク	1点				瓦フレイク	2点	
			総計	5点				緑石鏝	小計	1点
			合計	5点				石鏝	1点	
			小計	2点				鉄・銅片等	小計	1点
			I a	2点				鏝	1点	
			緑石鏝	小計	1点			総計	69点	
			ナリ石	1点				合計	69点	
			鉄・銅片等	2点				銅文早期土器	小計	36点
			鏝	2点				I a	17点	
			総計	3点				I b-1	19点	
			合計	3点				緑石鏝	小計	1点
			小計	3点				緑石片	1点	
			I a	2点				銅片・石鞘等	小計	23点
			I b-1	1点				フレイク	23点	
			総計	7点				鉄・銅片等	小計	8点
			合計	7点				鏝	8点	
			小計	6点				自然遺物	小計	1点
			I a	6点				スコリア	1点	
			銅片・石鞘	小計	1点			総計	22点	
			石鏝	1点				合計	22点	
			総計	36点				銅文早期土器	小計	16点
			合計	2点				I a	16点	
			小計	2点				銅片・石鞘	小計	1点
			鉄・銅片等	小計	2点			フリル片	1点	
			鏝	1点				緑石鏝	小計	1点
			銅片	1点				石鏝片	1点	
			合計	34点				銅片・石鞘等	小計	2点
			銅文早期土器	小計	3点			フレイク	2点	
			I a	3点				鉄・銅片等	小計	2点
			緑石鏝	小計	1点			鐵片	2点	
			青石もしくは緑石鏝片	1点				総計	292点	
			銅片・石鞘等	小計	20点			合計	292点	
			フレイク	20点				銅文早期土器	小計	17点
			鉄・銅片等	小計	16点			I a	15点	
			鏝	16点				I b-1	2点	
			総計	3点				緑石鏝	小計	3点
			合計	3点				石片 鐵石片	1点 2点	
			銅文早期土器	小計	2点			銅片・石鞘等	小計	175点
			I b-1	2点				フレイク	175点	
			銅片・石鞘等	小計	1点			鉄・銅片等	小計	7点
			フレイク	1点				灰石 鏝	1点 5点	
			総計	3点				鏝片	1点	
			合計	3点				総計	4点	
			銅文早期土器	小計	2点			合計	4点	
			I a	2点				陶磁器	小計	4点
			石鏝	小計	1点			陶磁器	4点	
			石鏝	1点				総計	3点	
			総計	11点				合計	3点	
			合計	11点				銅文早期土器	小計	8点
			銅文早期土器	小計	8点			合計	8点	

遺構名	層位	遺物名	分類	点数	遺構名	層位	遺物名	分類	点数	
FC-3	Y層	銅片石器	合計	326点	FC-3	Y層	銅片・石器等	Rフレイク	2点	
			小計	1点				銅片・石器等	小計	2,800点
			Rフレイク	1点				フレイク	2,600点	
		銅片・石器等	小計	316点			漆・漆片等	小計	45点	
		フレイク	316点	漆			27点			
	漆・漆片等	小計	7点	漆片		19点				
			漆	7点		金属製品	小計	1点		
						新製品	1点			
			総計	237点		自然遺物	小計	点		
			合計	237点		炭化物	点			
FC-4	Y層	縄文早期土器	I b-1	126点	FC-4	Y層	縄文早期土器	合計	401点	
			小計	126点				縄文早期土器	小計	401点
		銅片石器	小計	6点			銅片石器	I a	2点	
			阿南調整石器	1点				I b-1	72点	
			スクレイパー	1点				漆石器	小計	2点
		Rフレイク	4点	漆石器			小計	2点		
		漆石器	小計	1点			漆石器	小計	2点	
			有窓鏡片	1点			たつき石	1点		
		銅片・石器等	小計	89点			砥石片	1点		
			フレイク	89点			銅片・石器等	小計	304点	
		石鏡類	小計	2点			フレイク	304点		
			石鏡	2点			漆・漆片等	小計	21点	
		漆・漆片等	小計	11点			漆	11点		
			漆	10点			漆片	10点		
			漆片	1点			自然遺物	小計	点	
		総計	315点	炭化物	点					
		合計	315点							
FC-5	Y層	縄文早期土器	I a	6点	FC-5	Y層	縄文早期土器	合計	1,348点	
			I b-1	25点				縄文早期土器	小計	1,348点
		縄文後期土器	小計	11点			I b-1	1点		
		N b	11点	縄文中期土器			小計	2点		
		その他の土器	小計	2点			田 a	2点		
		銅片石器	不明土器	2点			銅片石器	小計	2点	
			ポイント片	1点			スクレイパー	1点		
		阿南調整石器	1点	阿南調整石器片			1点			
		スクレイパー	1点	銅片・石器等			小計	1,341点		
		Rフレイク	3点	フレイク			1,341点			
		Uフレイク	1点	漆・漆片等			小計	2点		
		漆石器	小計	1点			漆	1点		
			砥石	1点			砥石	1点		
		銅片・石器等	小計	246点						
			フレイク	246点			総計	27点		
漆・漆片等	小計	15点	合計	27点						
	漆	14点	銅片・石器等	小計	25点					
漆片	1点	フレイク	25点							
自然遺物	小計	2点	漆・漆片等	小計	2点					
	漆器小骨	2点	漆	1点						
		総計	2,902点	漆片	1点					
		合計	2,902点	自然遺物	小計	2点				
FC-6	Y層	縄文早期土器	I a	6点	FC-6	Y層	縄文早期土器	合計	196点	
			I b-1	4点				縄文早期土器	小計	196点
		I b-4	49点	I b-1			1点			
		縄文後期土器	小計	5点			銅片石器	小計	1点	
		N b	5点	Rフレイク			1点			
		縄文中期土器	小計	112点			漆石器	小計	1点	
		V c	112点	ナリ切り鏡片			1点			
		その他の土器	不明土器	27点			銅片・石器等	小計	195点	
		不明土器	27点	フレイク			195点			
		銅片石器	小計	2点			総計	114点		
				合計			114点			
				縄文早期土器			小計	13点		
				I a			9点			

遺跡名	層位	遺物名	分類	点数		
		その他の土器	I b-1	4点		
			小計	3点		
			不明土器	3点		
		銅片石器	小計	1点		
			石鏃	1点		
		銅石器	小計	3点		
			たつき石 銚石もしくは石鏃片	1点 2点		
		銅片・石鏃等	小計	35点		
			フレイク	33点		
		銅・銅片等	小計	11点		
			銅片	11点		
		PC-11	W～Y層		総計	298点
					合計	298点
銅片石器	小計			3点		
	石鏃			1点		
	ポイント			2点		
銅片・石鏃等	小計			254点		
	フレイク			254点		
銅・銅片等	小計			1点		
	鏃			1点		
S-1	Y層				総計	6,306点
					合計	6,306点
				縄文早期土器	小計	8点
					I b-1	6点
		I b-4	2点			
		その他の土器	小計	2点		
			不明土器	2点		
		銅片石器	小計	1点		
			R フレイク	1点		
		銅石器	小計	1点		
			銅石片	1点		
		銅片・石鏃等	小計	108点		
			フレイク	108点		
銅・銅片等	小計	6,196点				
	鏃	6,196点				
自然遺物	小計	1点				
	瓦器小骨	1点				

表IV-4 遺構出土掲載土器一覽

遺構名	掲載番号	土器分類	番号	層位	集計	遺構名	掲載番号	土器分類	番号	層位	集計
H-1	図III-2 1	夾灰陶 1群a類土器	No.1	合計	254点	H-1	図III-2 11	拓影陶 1群a類土器	No.10	合計	1点
				小計	254点			接合		小計	1点
				床面	254点			H-1		覆土4層	1点
H-1	図III-2 2	拓影陶 1群a類土器	No.5	合計	1点	H-1	図III-2 12	拓影陶 1群a類土器	No.11	合計	2点
		接合		小計	1点			接合		小計	1点
		H-1		覆土層	1点			H-1		覆土2層	1点
H-1	図III-2 3	拓影陶 1群a類土器	No.3	合計	8点			未接合		小計	1点
		接合		小計	8点			H-1		覆土2層	1点
		H-1		覆土2層	8点	H-1	図III-2 13	拓影陶 1群a類土器	No.13	合計	1点
H-1	図III-2 4	拓影陶 1群a類土器	No.4	合計	14点			接合		小計	1点
		接合a		小計	2点			H-1		床面	1点
		K-17-a			2点	H-1	図III-2 14	拓影陶 1群a類土器	No.14	合計	1点
		接合b		小計	4点			接合		小計	1点
		H-1		覆土2層	3点			H-1		覆土2層	1点
		グリップ不明			1点	H-1	図III-3 15	拓影陶 1群b-1類土器	No.15	合計	2点
		未接合		小計	8点			接合		小計	2点
		H-1		覆土4層	1点			H-1		覆土2層	2点
		J-10-d			1点	H-1	図III-3 16	拓影陶 1群b-1類土器	No.16	合計	2点
		J-17-a			1点			接合		小計	2点
		K-18-c			4点			H-1		覆土2層	2点
		P-18-c			1点	H-1	図III-3 17	拓影陶 1群b-1類土器	No.19	合計	3点
H-1	図III-2 5	拓影陶 1群a類土器	No.2	合計	29点			接合		小計	3点
		接合a		小計	9点			H-1		覆土2層	3点
		H-1		床面	9点	H-1	図III-3 18	拓影陶 1群b-1類土器	No.17	合計	1点
		接合b		小計	5点			接合		小計	1点
		H-1		床面	4点			H-1		覆土2層	1点
		H-1		覆土2層	1点	H-1	図III-3 19	拓影陶 1群b-1類土器	No.20	合計	1点
		接合c		小計	1点			接合		小計	1点
		H-1		床面	1点			H-1		覆土2層	1点
		未接合		小計	14点	H-1	図III-3 20	拓影陶 1群b-1類土器	No.21	合計	1点
		H-1		床面	1点			接合		小計	1点
		H-1		覆土2層	10点			H-1		覆土2層	1点
		H-1		覆土4層	1点	H-1	図III-3 21	拓影陶 1群b-1類土器	No.18	合計	1点
		H-1-HF-2			1点			接合		小計	1点
		N-16-b			1点			H-1		覆土2層	1点
H-1	図III-2 6	拓影陶 1群a類土器	No.5	合計	13点	H-1	図III-3 22	拓影陶 1群b-1類土器	No.117	合計	2点
		接合a		小計	7点			接合		小計	2点
		H-1		床面	4点			H-1		覆土2層	2点
		H-1		覆土4層	3点	H-1	図III-3 23	拓影陶 1群b-1類土器	No.23	合計	4点
		接合b		小計	1点			接合a		小計	3点
		H-5		覆土2層	1点			H-1		覆土2層	3点
		接合c		小計	2点			接合b		小計	1点
		H-1		床面	1点			H-1		覆土2層	1点
		P-123		覆土1層	1点	H-1	図III-3 24	拓影陶 1群b-1類土器	No.22	合計	2点
		未接合		小計	3点			接合		小計	2点
		H-1		覆土2層	1点			H-1		覆土2層	2点
		H-1		覆土4層	2点	H-2	図III-9 1	拓影陶 1群b-1類土器	No.26	合計	1点
H-1	図III-2 7	拓影陶 1群a類土器	No.7	合計	1点			接合		小計	1点
		接合		小計	1点			H-2		覆土3層	1点
		H-1		覆土4層	1点	H-2	図III-9 2	拓影陶 1群b-1類土器	No.24	合計	1点
H-1	図III-2 8	拓影陶 1群a類土器	No.8	合計	3点			接合		小計	1点
		接合		小計	3点			H-2		覆土3層	1点
		H-1		覆土2層	3点	H-2	図III-9 3	拓影陶 1群b-1類土器	No.25	合計	1点
H-1	図III-2 9	拓影陶 1群a類土器	No.12	合計	1点			接合		小計	1点
		接合		小計	1点			H-2		覆土3層	1点
		H-1		覆土2層	1点	H-2	図III-9 4	拓影陶 1群b-1類土器	No.27	合計	2点
H-1	図III-2 10	拓影陶 1群a類土器	No.9	合計	2点			接合		小計	2点
		接合		小計	1点			H-2		覆土3層	2点
		H-1		覆土2層	1点	H-3	図III-11 1	拓影陶 1群b-1類土器	No.28	合計	2点
		未接合		小計	1点			接合		小計	2点
		H-1		覆土4層	1点			H-3		覆土2層	2点

道標名	道標番号	土壌分類	番号	層位	累計		
H-3	国田-11 2 拓影図	I群b-1類土壌	No.30	合計	1点		
				小針	1点		
				H-3	覆土2層	1点	
H-3	国田-11 3 拓影図	I群b-1類土壌	No.29	合計	2点		
				小針	2点		
				H-3	覆土2層	2点	
H-3	国田-11 4 拓影図	I群b-1類土壌	No.31	合計	1点		
				小針	1点		
				H-3	覆土2層	1点	
H-3	国田-11 5 拓影図	I群b-1類土壌	No.32	合計	1点		
				小針	1点		
				H-3	覆土1層	1点	
H-3	国田-11 6 拓影図	I群b-1類土壌	No.34	合計	1点		
				小針	1点		
				H-3	覆土2層	1点	
H-3	国田-11 7 拓影図	I群b-1類土壌	No.37	合計	3点		
				小針	3点		
				H-3	覆土2層	3点	
H-3	国田-11 8 拓影図	I群b-1類土壌	No.36	合計	1点		
				小針	1点		
				H-3	覆土2層	1点	
H-3	国田-11 9 拓影図	I群b-1類土壌	No.35	合計	2点		
				小針	2点		
				H-3	覆土2層	2点	
H-3	国田-11 10 拓影図	I群b-1類土壌	No.33	合計	1点		
				小針	1点		
				H-3	V層	1点	
H-3	国田-11 11 拓影図	I群b-4類土壌	No.38	合計	1点		
				小針	1点		
				H-3	覆土2層	1点	
H-4	国田-12 1 拓影図	I群a類土壌	No.39	合計	5点		
				小針	5点		
				H-4	覆土1層	5点	
H-4	国田-12 2 拓影図	I群a類土壌	No.41	合計	1点		
				小針	1点		
				H-4	覆土1層	1点	
H-4	国田-12 3 拓影図	I群a類土壌	No.40	合計	2点		
				小針	2点		
				H-4	覆土1層	2点	
H-4	国田-12 4 拓影図	I群b-1類土壌	No.42	合計	16点		
				接合a	小針	5点	
					H-4	覆土1層	5点
				接合b	小針	1点	
					H-4	覆土1層	1点
				未接合	小針	10点	
				H-4	覆土1層	9点	
				H-11	覆土1層	1点	
H-4	国田-12 5 拓影図	I群b-1類土壌	No.43	合計	5点		
				小針	5点		
				H-4	覆土1層	4点	
				グリッド不明		1点	
H-4	国田-12 6 拓影図	I群b-1類土壌	No.44	合計	26点		
				小針	1点		
					H-4	覆土1層	1点
				未接合	小針	25点	
				H-4	覆土1層	25点	
H-5	国田-16 1 拓影図	I群a類土壌	No.46	合計	36点		
				小針	8点		
					H-5	覆土2層	6点
					H-5	覆土3層	1点
					グリッド不明		1点
				接合b	小針	5点	

道標名	道標番号	土壌分類	番号	層位	累計		
				H-5	覆土2層	4点	
				H-5	覆土3層	1点	
				接合c	小針	7点	
				H-5	覆土2層	5点	
				H-5	覆土3層	2点	
				接合d	小針	3点	
				H-5	覆土3層	3点	
				未接合	小針	13点	
				H-5	覆土2層	8点	
				H-5	覆土3層	5点	
H-5	国田-16 2 拓影図	I群a類土壌	No.62	合計	3点		
				接合a	小針	1点	
					J-17-a		1点
				接合b	小針	1点	
				H-5	覆土2層	1点	
				未接合	小針	1点	
				N-19-d		1点	
H-5	国田-16 3 拓影図	I群a類土壌	No.48	合計	16点		
				接合a	小針	4点	
					H-5	覆土2層	3点
					H-5	覆土3層	1点
				接合b	小針	9点	
					H-5	覆土2層	2点
					H-5	覆土3層	7点
				未接合	小針	3点	
					H-5	覆土2層	1点
				M-14-b		1点	
H-5	国田-16 4 拓影図	I群a類土壌	No.47	合計	36点		
				接合a	小針	10点	
				H-5	覆土2層	2点	
				H-5	覆土3層	6点	
				グリッド不明		2点	
接合b	小針	9点					
				H-5	覆土2層	9点	
未接合	小針	7点					
				H-5	覆土2層	2点	
				H-5	覆土3層	5点	
H-5	国田-16 5 拓影図	I群a類土壌	No.49	合計	5点		
				接合a	小針	3点	
					H-5	覆土3層	2点
					L-12-d		1点
				接合b	小針	2点	
				H-5	覆土3層	2点	
H-5	国田-16 6 拓影図	I群a類土壌	No.50	合計	6点		
				接合a	小針	4点	
					H-5	覆土2層	1点
					J-17-a		3点
接合b	小針	2点					
				J-17-a		2点	
H-5	国田-17 7 拓影図	I群a類土壌	No.52	合計	22点		
				接合a	小針	5点	
					H-5	覆土2層	5点
				接合b	小針	1点	
					H-5	床面	1点
				接合c	小針	3点	
					H-5	覆土2層	1点
	H-5	覆土3層	2点				
未接合	小針	13点					
				H-5	覆土2層	11点	
				H-5	覆土3層	2点	
H-5	国田-17 8 拓影図	I群a類土壌	No.51	合計	16点		

道標名	掲載番号	土器分類	番号	層位	集計
		接合		小計	12点
		H-5		覆土2層	5点
		K-11-d			6点
		グリッド不明			1点
		未接合		小計	4点
		H-12		覆土2層	3点
H-5	図面-17 9	拓影図	1群a類土器 No.53	合計	37点
		接合a		小計	13点
		H-5		覆土3層	13点
		接合b		小計	21点
		H-5		床面	10点
		H-5		覆土2層	3点
		H-5		覆土3層	7点
		グリッド不明			1点
		未接合		小計	3点
		H-5		覆土2層	2点
		H-5		覆土3層	1点
H-5	図面-17 10	拓影図	1群a類土器 No.56	合計	3点
		接合		小計	1点
		H-5		覆土2層	1点
		未接合		小計	2点
		H-5		覆土3層	2点
H-5	図面-17 11	拓影図	1群a類土器 No.57	合計	1点
		接合		小計	1点
		H-5		覆土3層	1点
		未接合		小計	1点
H-5	図面-17 12	拓影図	1群a類土器 No.54	合計	11点
		接合		小計	6点
		H-5		覆土2層	1点
		H-5		覆土3層	5点
		未接合		小計	5点
		H-5		覆土2層	1点
		H-5		覆土3層	4点
H-5	図面-17 13	拓影図	1群a類土器 No.58	合計	2点
		接合		小計	1点
		H-5		覆土3層	1点
		未接合		小計	1点
		H-5		覆土3層	1点
H-5	図面-17 14	拓影図	1群a類土器 No.55	合計	13点
		接合a		小計	8点
		H-5		床面	5点
		H-5		覆土2層	2点
		グリッド不明			1点
		接合b		小計	4点
		H-5		覆土2層	4点
未接合		小計	1点		
H-5		覆土2層	1点		
H-5	図面-17 15	拓影図	1群a類土器 No.60	合計	1点
		接合		小計	1点
		H-5		覆土3層	1点
		未接合		小計	1点
H-5	図面-17 16	拓影図	1群a類土器 No.59	合計	4点
		接合		小計	4点
		H-5		覆土3層	4点
		未接合		小計	2点
H-5		覆土2層	1点		
H-5	図面-17 17	拓影図	1群a類土器 No.61	合計	4点
		接合		小計	2点
		H-5		覆土2層	1点
		I-17-d			1点
		未接合		小計	2点
		H-5		覆土2層	1点
		H-5		覆土3層	1点
H-5	図面-17 18	拓影図	1群b-1類土器 No.63	合計	3点
		接合		小計	3点

道標名	掲載番号	土器分類	番号	層位	集計		
		H-5		覆土2層	3点		
		H-5	図面-17 19	拓影図	1群b-1類土器 No.64	合計	96点
		接合		小計	5点		
		H-5		覆土2層	5点		
		未接合		小計	90点		
H-5		覆土2層	89点				
H-5		グリッド不明		1点			
H-6	図面-21 1	拓影図	1群b-1類土器 No.65	合計	1点		
		接合		小計	1点		
		H-6		床面	1点		
H-6	図面-21 2	拓影図	1群b-1類土器 No.66	合計	2点		
		接合		小計	2点		
		H-6		床面	1点		
		H-6		覆土2層	1点		
H-6	図面-21 3	拓影図	1群b-1類土器 No.67	合計	1点		
		接合		小計	1点		
		H-6		覆土2層	1点		
H-6	図面-21 4	拓影図	1群b-1類土器 No.68	合計	1点		
		接合		小計	1点		
		H-6		床面	1点		
H-6	図面-21 5	拓影図	1群b-1類土器 No.69	合計	1点		
		接合		小計	1点		
		H-6		床面	1点		
H-6	図面-21 6	拓影図	1群b-1類土器 No.70	合計	1点		
		接合		小計	1点		
		H-6		覆土2層	1点		
H-6	図面-21 7	拓影図	1群b-4類土器 No.71	合計	1点		
		接合		小計	1点		
		H-6		覆土2層	1点		
H-6	図面-21 8	拓影図	1群b-4類土器 No.72	合計	72点		
		接合		小計	8点		
		H-6		床面	7点		
		H-6		覆土2層	1点		
		未接合		小計	64点		
		H-6		床面	4点		
		H-6		覆土2層	1点		
		J-13-a			1点		
		K-12-a			43点		
		L-11-c			6点		
		L-12-a			6点		
N-11-c			2点				
P-23-a			1点				
H-7	図面-26 1	拓影図	1群b-1類土器 No.76	合計	96点		
		接合a		小計	8点		
		H-7		床面	5点		
		H-7		覆土1層	1点		
		H-7-HP-19		覆土層	1点		
		グリッド不明			1点		
		接合b		小計	4点		
		H-7		床面	4点		
		未接合		小計	84点		
		H-7		床面	53点		
		H-7		覆土1層	13点		
H-7		覆土2層	13点				
H-7		覆土層	4点				
P-15-c			1点				
H-7	図面-26 2	拓影図	1群b-1類土器 No.77	合計	5点		
		接合a		小計	2点		
		H-7		覆土層	2点		
接合b		小計	3点				
H-7		覆土1層	3点				
H-7	図面-26 3	拓影図	1群b-1類土器 No.80	合計	2点		

道標名	掲載番号	土部分類	番号	層位	累計	
		接合a		小計	1点	
		H-7		覆土2層	1点	
		接合b		小計	1点	
		H-7		覆土層	1点	
H-7	国Ⅲ-26 4	拓影図	1群b-1順土層	No.79	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-7		床面	1点	
H-7	国Ⅲ-26 5	拓影図	1群b-1順土層	No.78	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-7		覆土2層	1点	
H-7	国Ⅲ-26 6	拓影図	1群b-1順土層	No.83	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-7		覆土1層	1点	
H-7	国Ⅲ-26 7	拓影図	1群b-1順土層	No.82	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-7		覆土2層	1点	
H-7	国Ⅲ-26 8	拓影図	1群b-1順土層	No.84	合計	5点
		接合		小計	3点	
		H-7		覆土2層	3点	
H-7	国Ⅲ-26 9	拓影図	1群b-1順土層	No.81	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-7		覆土1層	1点	
H-7	国Ⅲ-26 10	拓影図	1群a順土層	No.73	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-7		床面	1点	
H-7	国Ⅲ-26 11	拓影図	1群a順土層	No.74	合計	2点
		接合		小計	2点	
		H-7		覆土2層	2点	
H-7	国Ⅲ-26 12	拓影図	1群a順土層	No.75	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-7		覆土1層	1点	
H-8	国Ⅲ-30 1	拓影図	1群b-1順土層	No.85	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-8		覆土1層	1点	
H-8	国Ⅲ-30 2	拓影図	1群b-1順土層	No.87	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-8		覆土2層	1点	
H-8	国Ⅲ-30 3	拓影図	1群b-1順土層	No.88	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-8		覆土1層	1点	
H-8	国Ⅲ-30 4	拓影図	1群b-1順土層	No.89	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-8		覆土1層	1点	
H-8	国Ⅲ-30 5	拓影図	1群b-1順土層	No.86	合計	2点
		接合		小計	2点	
		H-8		覆土1層	2点	
H-9	国Ⅲ-32 1	拓影図	1群b-1順土層	No.90	合計	47点
		接合a		小計	11点	
		H-9		覆土2層	2点	
		H-11		覆土2層	2点	
		P-43		覆土1層	7点	
		接合b		小計	4点	
		H-9		覆土2層	3点	
		H-11		覆土2層	1点	
		接合c		小計	7点	
		H-11		覆土2層	7点	
		未接合		小計	25点	
		H-9		覆土2層	4点	
H-11		床面	2点			
H-11		覆土1層	8点			
H-11		覆土2層	9点			
P-43		覆土1層	2点			

道標名	掲載番号	土部分類	番号	層位	累計	
H-9	国Ⅲ-32 2	拓影図	1群b-1順土層	No.91	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-9		覆土2層	1点	
H-9	国Ⅲ-32 3	拓影図	1群b-1順土層	No.92	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-9		覆土2層	1点	
H-9	国Ⅲ-32 4	拓影図	1群b-1順土層	No.111	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-9		覆土2層	1点	
H-9	国Ⅲ-32 5	拓影図	1群b-1順土層	No.93	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-9		覆土2層	1点	
H-9	国Ⅲ-32 6	拓影図	1群b-1順土層	No.94	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-9		覆土2層	1点	
H-9	国Ⅲ-32 7	拓影図	1群b-1順土層	No.95	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-9		覆土2層	1点	
H-9	国Ⅲ-32 8	拓影図	1群b-1順土層	No.96	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-9		覆土2層	1点	
H-9	国Ⅲ-32 9	拓影図	1群b-1順土層	No.97	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-9		覆土2層	1点	
H-9	国Ⅲ-32 10	拓影図	1群b-1順土層	No.99	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-9		覆土2層	1点	
H-9	国Ⅲ-32 11	拓影図	1群b-1順土層	No.98	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-9		覆土2層	1点	
H-9	国Ⅲ-32 12	拓影図	1群b-1順土層	No.100	合計	7点
		接合		小計	5点	
		H-9		覆土2層	5点	
		未接合		小計	2点	
		H-9		覆土2層	2点	
		接合		小計	1点	
H-10	国Ⅲ-34 1	拓影図	1群b-1順土層	No.101	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-10		床面	1点	
H-10	国Ⅲ-34 2	拓影図	1群b-1順土層	No.102	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-10		覆土3層	1点	
H-10	国Ⅲ-34 3	拓影図	1群b-1順土層	No.103	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-10		覆土2層	1点	
H-10	国Ⅲ-34 4	拓影図	1群b-1順土層	No.104	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-10		覆土3層	1点	
H-11	国Ⅲ-36 1	拓影図	1群a順土層	No.105	合計	1点
		接合		小計	1点	
		H-11-HP-2		覆土層	1点	
		未接合		小計	1点	
H-11	国Ⅲ-36 2	拓影図	1群b-1順土層	No.90	合計	47点
		接合a		小計	11点	
		H-9		覆土2層	2点	
		H-11		覆土2層	2点	
		P-43		覆土1層	7点	
		接合b		小計	4点	
		H-9		覆土2層	3点	
		H-11		覆土2層	1点	
		接合c		小計	7点	
		H-11		覆土2層	7点	
		未接合		小計	25点	
		H-9		覆土2層	4点	
H-11		覆土2層	1点			
接合c		小計	7点			
H-11		覆土2層	7点			
未接合		小計	25点			
H-9		覆土2層	4点			

遺構名	掲載番号	土層分類	層号	層位	累計
		H-11		床面	2点
		H-11		覆土1層	8点
		H-11		覆土2層	9点
		P-43		覆土1層	2点
				合計	27点
H-11	図面-36 3	拓影図	1群b-1順土層	No.106	合計
		接合		小計	10点
		H-11		覆土2層	8点
		P-43		覆土1層	1点
		グリッド不明			1点
		未接合		小計	17点
		H-9		覆土2層	1点
		H-11		覆土1層	7点
		H-11		覆土2層	4点
		P-43		覆土1層	2点
		P-43		覆土層	2点
		グリッド不明			1点
H-11	図面-36 4	拓影図	1群b-1順土層	No.107	合計
		接合		小計	5点
		H-11		覆土2層	5点
H-11	図面-36 5	拓影図	1群b-1順土層	No.109	合計
		接合		小計	3点
		H-11		覆土1層	2点
		H-11		覆土2層	1点
H-11	図面-36 6	拓影図	1群b-1順土層	No.114	合計
		接合		小計	1点
		H-11		覆土2層	1点
H-11	図面-36 7	拓影図	1群b-1順土層	No.113	合計
		接合		小計	2点
		H-11		覆土2層	2点
H-11	図面-36 8	拓影図	1群b-1順土層	No.110	合計
		接合		小計	1点
		H-11		覆土2層	1点
H-11	図面-36 9	拓影図	1群b-1順土層	No.115	合計
		接合		小計	1点
		H-11		床面	1点
H-11	図面-36 10	拓影図	1群b-1順土層	No.108	合計
		接合		小計	1点
		H-11		覆土2層	1点
H-11	図面-36 11	拓影図	1群b-1順土層	No.112	合計
		接合		小計	3点
		H-11		覆土1層	1点
		H-11		覆土2層	2点
H-11	図面-36 12	拓影図	1群b-1順土層	No.116	合計
		接合		小計	5点
		H-11		覆土1層	2点
		H-11		覆土2層	2点
		グリッド不明			1点
H-11	図面-36 13	拓影図	1群b-1順土層	No.118	合計
		接合		小計	1点
		H-11		覆土2層	1点
H-11	図面-36 14	拓影図	1群b-1順土層	No.119	合計
		接合		小計	4点
		H-11		覆土2層	4点
H-11	図面-36 15	拓影図	1群b-1順土層	No.120	合計
		接合		小計	2点
		H-11		覆土1層	2点
H-11	図面-36 16	拓影図	1群b-1順土層	No.121	合計
		接合		小計	2点
		H-11		覆土1層	1点
		H-11		覆土2層	1点
H-11	図面-36 17	拓影図	1群b-1順土層	No.122	合計
		接合		小計	1点

遺構名	掲載番号	土層分類	層号	層位	累計
		H-11		覆土1層	1点
				合計	3点
H-11	図面-36 18	拓影図	1群b-1順土層	No.45	合計
		接合		小計	3点
		H-11		覆土1層	3点
H-11	図面-36 19	拓影図	1群b-1順土層	No.123	合計
		接合		小計	1点
		H-11		覆土1層	1点
H-11	図面-36 20	拓影図	1群b-1順土層	No.124	合計
		接合		小計	1点
		H-11		覆土1層	1点
H-11	図面-36 21	拓影図	1群b-1順土層	No.125	合計
		接合		小計	1点
		H-11		覆土2層	1点
H-11	図面-36 22	拓影図	1群b-1順土層	No.126	合計
		接合		小計	1点
		H-11		覆土1層	1点
H-12	図面-38 1	拓影図	1群a順土層	No.127	合計
		接合		小計	2点
		H-12		覆土層	2点
H-12	図面-38 2	拓影図	1群b-1順土層	No.129	合計
		接合a		小計	4点
		H-12		覆土層	4点
		接合b		小計	3点
		H-12		覆土2層	1点
		H-12		覆土層	2点
		未接合		小計	12点
		H-12		覆土2層	3点
		H-12		覆土層	9点
H-12	図面-38 3	拓影図	1群b-1順土層	No.128	合計
		接合a		小計	2点
		H-12		覆土2層	2点
		接合b		小計	7点
		M-12-c			5点
		M-12-b			2点
		未接合		小計	31点
		H-12		覆土2層	3点
		H-12		覆土層	6点
		L-13-a			4点
		M-12-c			16点
		M-13-b			1点
		P-123		覆土1層	1点
H-12	図面-38 4	拓影図	1群b-1順土層	No.131	合計
		接合		小計	1点
		H-12		覆土2層	1点
H-12	図面-38 5	拓影図	1群b-1順土層	No.132	合計
		接合		小計	1点
		H-12		覆土層	1点
H-12	図面-38 6	拓影図	1群b-1順土層	No.130	合計
		接合		小計	1点
		H-12		床面	1点
H-12	図面-38 7	拓影図	1群b-1順土層	No.135	合計
		接合		小計	1点
		H-12		覆土層	1点
H-12	図面-38 8	拓影図	1群b-1順土層	No.133	合計
		接合		小計	1点
		H-12		覆土2層	1点
H-12	図面-38 9	拓影図	1群b-1順土層	No.134	合計
		接合		小計	2点
		H-12		覆土層	2点
H-13	図面-40 1	拓影図	1群b-1順土層	No.136	合計
		接合		小計	1点
		H-13		覆土2層	1点

道橋名	掲載番号	土質分類	番号	層位	集計
H-15 国田-42 1 拓影図	I 群b-1順土層	No.137	合計		3点
			接合	小計	3点
	H-15		覆土2層	3点	
H-15 国田-42 2 実測図	I 群b-1順土層	No.138	合計		260点
			接合	小計	260点
	H-15		床面	260点	
H-15 国田-42 3 拓影図	I 群b-1順土層	No.139	合計		6点
			接合	小計	4点
	H-15		覆土1層	4点	
	未接合		小計	2点	
	H-15		覆土1層	2点	
H-15 国田-42 4 拓影図	I 群b-1順土層	No.142	合計		1点
			接合	小計	1点
	H-15		覆土2層	1点	
H-15 国田-42 5 拓影図	I 群b-1順土層	No.140	合計		2点
			接合	小計	2点
	グリッド不明		2点		
H-15 国田-42 6 拓影図	I 群b-1順土層	No.141	合計		2点
			接合	小計	2点
	H-15		覆土1層	2点	
H-15 国田-42 7 拓影図	I 群b-1順土層	No.145	合計		1点
			接合	小計	1点
	H-15		床面	1点	
H-15 国田-42 8 拓影図	I 群b-1順土層	No.144	合計		2点
			接合	小計	2点
	H-15		床面	1点	
	H-15		覆土2層	1点	
H-15 国田-42 9 拓影図	I 群b-1順土層	No.146	合計		1点
			接合	小計	1点
	H-15		覆土2層	1点	
H-15 国田-42 10 拓影図	I 群b-1順土層	No.147	合計		1点
			接合	小計	1点
	H-15		覆土1層	1点	
H-15 国田-42 11 拓影図	I 群b-1順土層	No.143	合計		4点
			接合	小計	4点
	H-15		覆土1層	4点	
H-15 国田-42 12 拓影図	I 群b-1順土層	No.148	合計		19点
			接合	小計	9点
	H-15		床面	1点	
	H-15		覆土2層	8点	
	未接合		小計	10点	
	H-15		覆土2層	10点	
H-15 国田-42 13 拓影図	I 群b-1順土層	No.149	合計		11点
			接合	小計	1点
	H-15		覆土1層	1点	
	未接合		小計	10点	
	H-15		床面	1点	
	H-15		覆土1層	8点	
	グリッド不明		1点		
H-15 国田-42 14 拓影図	I 群b-1順土層	No.150	合計		28点
			接合a	小計	4点
	H-15		覆土2層	1点	
	グリッド不明		3点		
	接合b		小計	4点	
	H-15		覆土1層	3点	
	グリッド不明		1点		
	未接合		小計	20点	
	H-15		床面	6点	
	H-15		覆土1層	7点	
	H-15		覆土2層	4点	
	グリッド不明		3点		
H-15 国田-42 15 拓影図	I 群b-1順土層	No.151	合計	1点	

道橋名	掲載番号	土質分類	番号	層位	集計	
				接合	小計	1点
	H-15		覆土2層	1点		
H-15 国田-42 16 拓影図	I 群b-1順土層	No.152	合計		2点	
			接合	小計	2点	
	H-15		覆土1層	2点		
H-15 国田-42 17 拓影図	I 群b-1順土層	No.155	合計		1点	
			接合	小計	1点	
	H-15		覆土1層	1点		
H-15 国田-42 18 拓影図	I 群b-1順土層	No.154	合計		60点	
			接合	小計	22点	
	H-15		床面	21点		
	グリッド不明		1点			
	未接合		小計	38点		
	H-15		床面	33点		
	グリッド不明		5点			
H-15 国田-42 19 拓影図	I 群b-1順土層	No.153	合計		3点	
			接合	小計	3点	
	H-15		覆土1層	3点		
P-1 国田-45 1 実測図	I 群b-1順土層	No.156	合計		54点	
			接合	小計	54点	
	P-1		床面	54点		
P-2 国田-45 1 拓影図	V 群c順土層	No.157	合計		3点	
			接合	小計	3点	
	P-2		覆土層	3点		
P-7 国田-46 1 拓影図	I 群b-1順土層	No.158	合計		33点	
			接合a	小計	1点	
	P-7		覆土層	1点		
	接合b		小計	1点		
	P-7		覆土層	1点		
	接合c		小計	1点		
	P-7		覆土層	1点		
	未接合		小計	30点		
	P-7		覆土層	30点		
P-9 国田-46 1 拓影図	IV 群b順土層	No.159	合計		1点	
			接合	小計	1点	
	P-9		覆土2層	1点		
P-13 国田-47 1 拓影図	I 群b-4順土層	No.160	合計		232点	
			接合a	小計	17点	
	O-23-a		7点			
	P-13		覆土層	10点		
	接合b		小計	4点		
	O-23-a		4点			
	接合c		小計	5点		
	O-23-a		5点			
	未接合		小計	206点		
	O-23-a		65点			
	P-13		覆土層	21点		
	P-85		覆土層	1点		
	Q-23-a		76点			
	Q-24-a		2点			
	グリッド不明		41点			
P-14 国田-47 1 拓影図	I 群b-4順土層	No.161	合計		45点	
			接合a	小計	1点	
	P-14		覆土層	1点		
	接合b		小計	7点		
	I-24-c		2点			
	P-14		覆土層	4点		
	グリッド不明		1点			
	未接合		小計	37点		
	I-24-c		8点			
	P-14		覆土層	29点		
P-15 国田-47 1 拓影図	I 群b-1順土層	No.162	合計	2点		

道標名	路線番号	土層分類	番号	層位	集計
		接合		小計	2点
		P-15		覆土層	2点
P-22	国田-49 1 拓影図	1群b-1類土層	No.163	合計	1点
		接合		小計	1点
		P-22		覆土層	1点
P-26	国田-50 1 実測図	V群c類土層	No.164	合計	37点
		接合		小計	35点
		G-18-d		3点	
		G-19-a		6点	
		P-25		覆土1層	10点
		P-25		覆土層	14点
		グリッド不明		2点	
		未接合		小計	2点
		P-25		覆土1層	2点
P-26	国田-50 2 拓影図	V群c類土層	No.173	合計	11点
		接合		小計	4点
		G-18-d		1点	
		G-19-a		1点	
		P-25		覆土1層	2点
		未接合		小計	7点
		G-19-a		6点	
		J-24-b		1点	
P-26	国田-50 3 拓影図	V群c類土層	No.165	合計	21点
		接合a		小計	9点
		G-19-a		2点	
		P-26		覆土1層	3点
		P-26		覆土層	4点
		接合b		小計	4点
		G-19-a		2点	
		P-25		覆土1層	2点
		未接合		小計	8点
		G-19-a		1点	
		P-26		覆土1層	6点
		P-26		覆土層	1点
P-26	国田-50 4 拓影図	V群c類土層	No.174	合計	6点
		接合		小計	6点
		P-26		覆土層	6点
P-26	国田-50 5 拓影図	V群c類土層	No.156	合計	34点
		接合		小計	24点
		G-19-a		3点	
		P-25		覆土1層	5点
		P-25		覆土層	16点
		未接合		小計	10点
		G-18-d		2点	
		G-19-a		2点	
		P-25		覆土1層	5点
		P-25		覆土層	1点
P-26	国田-50 6 拓影図	V群c類土層	No.167	合計	12点
		接合		小計	12点
		P-25		覆土1層	2点
		P-25		覆土層	10点
P-37	国田-52 1 拓影図	1群b-1類土層	No.169	合計	11点
		接合		小計	3点
		P-37		覆土層	3点
		未接合		小計	8点
		P-37		覆土層	8点
P-37	国田-52 2 拓影図	1群b-1類土層	No.170	合計	1点
		接合		小計	1点
		P-37		覆土層	1点
P-37	国田-52 3 拓影図	1群b-1類土層	No.171	合計	30点
		接合		小計	1点
		P-37		覆土層	1点

道標名	路線番号	土層分類	番号	層位	集計
		未接合		小計	29点
		P-37		床面	3点
		P-37		覆土層	26点
P-37	国田-52 4 拓影図	1群b-1類土層	No.172	合計	27点
		接合		小計	3点
		P-37		床面	3点
		未接合		小計	24点
		P-37		床面	23点
		グリッド不明		1点	
P-36	国田-53 1 拓影図	1群b-1類土層	No.168	合計	1点
		接合		小計	1点
		P-36		覆土3層	1点
P-42	国田-54 1 拓影図	1群b-1類土層	No.175	合計	346点
		接合a		小計	22点
		P-42		覆土層	22点
		接合b		小計	6点
		P-42		覆土層	6点
		未接合		小計	318点
		H-10		覆土3層	1点
		P-29-b		1点	
		P-30-b		1点	
		P-42		覆土層	254点
		P-42		1点	
		Q-25-b		1点	
		R-29-a		59点	
P-42	国田-54 2 拓影図	1群b-1類土層	No.176	合計	70点
		接合		小計	23点
		P-42		覆土層	18点
		グリッド不明		5点	
		未接合		小計	47点
		P-42		覆土層	47点
P-43	国田-55 1 拓影図	1群b-1類土層	No.90	合計	47点
		接合a		小計	11点
		H-9		覆土2層	2点
		H-11		覆土2層	2点
		P-43		覆土1層	7点
		接合b		小計	4点
		H-9		覆土2層	3点
		H-11		覆土2層	1点
		接合c		小計	7点
		H-11		覆土2層	7点
		未接合		小計	25点
		H-9		覆土2層	4点
		H-11		床面	2点
		H-11		覆土1層	8点
		H-11		覆土2層	9点
		P-43		覆土1層	2点
P-43	国田-55 2 拓影図	1群b-1類土層	No.177	合計	1点
		接合		小計	1点
		P-43		覆土1層	1点
P-43	国田-55 3 拓影図	1群b-1類土層	No.178	合計	1点
		接合		小計	1点
		P-43		覆土層	1点
P-43	国田-55 4 拓影図	1群b-1類土層	No.185	合計	1点
		接合		小計	1点
		P-43		覆土1層	1点
P-43	国田-55 5 拓影図	1群b-1類土層	No.179	合計	1点
		接合		小計	1点
		P-43		覆土1層	1点
P-43	国田-55 6 拓影図	1群b-1類土層	No.106	合計	27点
		接合		小計	10点
		H-11		覆土2層	8点

遊樂名	施設番号	土器分類	器号	層位	累計	
		P-43		覆土1層	1点	
				グリッド不明	1点	
		未接合			小計	17点
		H-9		覆土2層	1点	
		H-11		覆土1層	7点	
		H-11		覆土2層	4点	
		P-43		覆土1層	2点	
		P-43		覆土層	2点	
				グリッド不明	1点	
		P-43	図田-56 7	拓影図 1群b-1類土器	No.183	合計
		接合		小計	1点	
		P-43		覆土1層	1点	
P-43	図田-55 8	拓影図 1群b-1類土器	No.180	合計	1点	
		接合		小計	1点	
		P-43		覆土1層	1点	
P-43	図田-55 9	拓影図 1群b-1類土器	No.181	合計	1点	
		接合		小計	1点	
		P-43		覆土1層	1点	
P-43	図田-56 10	拓影図 1群b-1類土器	No.184	合計	4点	
		接合		小計	4点	
		P-43		覆土層	3点	
		グリッド不明			1点	
P-43	図田-55 11	拓影図 1群b-1類土器	No.182	合計	1点	
		接合		小計	1点	
		P-43		覆土1層	1点	
P-44	図田-56 1	拓影図 1群a類土器	No.186	合計	1点	
		接合		小計	1点	
		P-44		床面	1点	
P-44	図田-56 2	拓影図 1群b-1類土器	No.187	合計	47点	
		接合a		小計	12点	
		P-44		床面	12点	
		接合b		小計	11点	
		P-44		床面	11点	
		未接合		小計	24点	
		P-44		床面	23点	
		P-44		覆土層	1点	
P-44	図田-56 3	拓影図 1群b-1類土器	No.188	合計	3点	
		接合		小計	1点	
		P-44		床面	1点	
		未接合		小計	2点	
		P-44		床面	1点	
		P-44		覆土層	1点	
P-44	図田-56 4	拓影図 1群b-1類土器	No.190	合計	37点	
		接合		小計	14点	
		P-44		床面	10点	
		グリッド不明			4点	
		未接合		小計	23点	
		P-44		床面	22点	
		P-44		覆土層	1点	
P-44	図田-56 5	拓影図 1群b-1類土器	No.191	合計	17点	
		接合		小計	10点	
		P-44		床面	10点	
		未接合		小計	7点	
		P-44		床面	7点	
P-44	図田-56 6	拓影図 1群b-1類土器	No.189	合計	56点	
		接合		小計	4点	
		P-44		覆土層	3点	
		グリッド不明			1点	
		未接合		小計	52点	
		P-44		床面	37点	
		P-44		覆土層	15点	
P-47	図田-57 1	拓影図 Ⅴ群c類土器	No.192	合計	1点	

遊樂名	施設番号	土器分類	器号	層位	累計	
		接合			小計	1点
					P-47	
P-49	図田-57 1	拓影図 Ⅴ群c類土器	No.193	合計	1点	
		接合			小計	1点
		P-49		覆土層	1点	
P-49	図田-57 2	拓影図 Ⅴ群c類土器	No.194	合計	2点	
		接合			小計	2点
		[I]-7a			1点	
		P-49		覆土層	1点	
P-51	図田-58 1	拓影図 Ⅴ群c類土器	No.195	合計	1点	
		接合			小計	1点
		P-51		覆土層	1点	
P-52	図田-58 1	拓影図 Ⅴ群c類土器	No.196	合計	1点	
		接合			小計	1点
		P-52		覆土層	1点	
P-53	図田-58 1	拓影図 Ⅴ群c類土器	No.197	合計	1点	
		接合			小計	1点
		P-53		覆土層	1点	
P-55	図田-58 1	拓影図 Ⅴ群c類土器	No.199	合計	3点	
		接合			小計	3点
		P-55		覆土層	3点	
P-55	図田-58 2	拓影図 Ⅴ群c類土器	No.198	合計	1点	
		接合			小計	1点
		P-55		覆土層	1点	
P-60	図田-59 1	拓影図 Ⅴ群c類土器	No.200	合計	1点	
		接合			小計	1点
		P-60		覆土層	1点	
P-64	図田-60 1	拓影図 Ⅴ群c類土器	No.201	合計	1点	
		接合			小計	1点
		P-64		覆土層	1点	
P-74	図田-60 1	拓影図 Ⅴ群c類土器	No.208	合計	1点	
		接合			小計	1点
		P-74		覆土層	1点	
P-75	図田-60 1	拓影図 Ⅴ群c類土器	No.209	合計	1点	
		接合			小計	1点
		P-75		覆土層	1点	
P-73	図田-62 1	拓影図 Ⅰ群b-1類土器	No.205	合計	158点	
		接合a		小計	7点	
		P-73		覆土層	7点	
		接合b			小計	3点
		P-73		覆土層	3点	
		未接合			小計	148点
		P-73		覆土層	148点	
P-73	図田-62 2	拓影図 Ⅰ群b-1類土器	No.204	合計	74点	
		接合a		小計	5点	
		P-73		覆土層	5点	
		接合b			小計	1点
		P-73		覆土層	1点	
		未接合			小計	68点
		P-73		覆土層	68点	
P-73	図田-62 3	拓影図 Ⅰ群b-1類土器	No.202	合計	106点	
		接合a		小計	4点	
		P-73		覆土層	4点	
		接合b			小計	9点
		P-73		覆土層	9点	
		未接合			小計	99点
		P-73		覆土層	99点	
P-73	図田-62 4	拓影図 Ⅰ群b-1類土器	No.206	合計	22点	
		接合			小計	3点
		P-73		覆土層	3点	
		未接合			小計	19点
		P-73		覆土層	19点	

図構名	図構番号	土質分類	番号	層位	累計
P-73	図III-62	5 拓影図	I 群b-1順土層	No.207	合計 1点
			接合		小計 1点
			P-73	覆土層	1点
P-73	図III-62	6 拓影図	I 群b-1順土層	No.203	合計 87点
			接合a		小計 15点
			P-73	床面	15点
			接合b		小計 9点
			P-73	床面	9点
			未接合		小計 63点
			P-73	床面	62点
			P-73	覆土層	1点
P-90	図III-63	1 拓影図	V 群c順土層	No.210	合計 1点
			接合		小計 1点
			P-90	覆土層	1点
P-82	図III-63	1 拓影図	V 群c順土層	No.211	合計 1点
			接合		小計 1点
			P-82	覆土層	1点
P-95	図III-66	1 拓影図	II 群a順土層	No.212	合計 2点
			接合		小計 2点
			P-95	覆土1層	2点
P-95	図III-66	2 拓影図	II 群a順土層	No.213	合計 2点
			接合		小計 2点
			P-95	床面	1点
			P-95	覆土1層	1点
P-104	図III-66	1 拓影図	I 群b-1順土層	No.214	合計 11点
			接合a		小計 1点
			P-104	覆土1層	1点
			接合b		小計 2点
			P-104	覆土1層	2点
			未接合		小計 8点
			P-104	覆土1層	8点
P-117	図III-67	1 拓影図	I 群a順土層	No.215	合計 3点
			接合		小計 3点
			P-117	覆土4層	3点
P-122	図III-68	1 拓影図	I 群b-1順土層	No.217	合計 1点
			接合		小計 1点
			P-122	覆土層	1点
P-123	図III-68	1 拓影図	I 群b-1順土層	No.218	合計 1点
			接合		小計 1点
			P-123	覆土1層	1点
P-123	図III-68	2 拓影図	I 群b-1順土層	No.219	合計 1点
			接合		小計 1点
			P-123	覆土1層	1点
SP-2	図III-70	1 写真	陶磁器	No.220	合計 1点
			接合		小計 1点
			SP-2	覆土層	1点
F-7	図III-75	1 拓影図	I 群b-1順土層	No.221	合計 63点
			接合a		小計 20点
			F-7	7点	
			Q-29-a	13点	
			接合b		小計 3点
			F-7	3点	
			接合c		小計 3点
			Q-29-a	3点	
			未接合		小計 37点
			F-7	30点	
			Q-29-a	7点	
F-7	図III-75	2 拓影図	I 群b-1順土層	No.222	合計 411点
			接合a		小計 3点
			L-33-a	3点	
			接合b		小計 3点
			L-33-a	3点	
			接合c		小計 10点
			Q-29-b	10点	

図構名	図構番号	土質分類	番号	層位	累計
			未接合		小計 395点
			F-7		15点
			K-33-b		22点
			L-33-a		309点
			Q-29-a		49点
F-39	図III-75	1 拓影図	I 群b-1順土層	No.223	合計 1点
			接合		小計 1点
			F-39		1点
FC-3	図III-78	1 拓影図	I 群b-1順土層	No.224	合計 68点
			接合a		小計 4点
			FC-3		4点
			接合b		小計 1点
			FC-3		1点
			接合c		小計 2点
			FC-3		2点
			未接合		小計 61点
			FC-3		61点
FC-3	図III-78	2 拓影図	I 群b-1順土層	No.226	合計 1点
			接合		小計 1点
			FC-3		1点
FC-3	図III-78	3 拓影図	I 群b-1順土層	No.225	合計 26点
			接合a		小計 6点
			FC-3		6点
			接合b		小計 2点
			FC-3		2点
			未接合		小計 18点
			FC-3		18点
FC-3	図III-78	4 拓影図	I 群b-1順土層	No.227	合計 1点
			接合		小計 1点
			FC-3		1点
FC-4	図III-78	1 拓影図	I 群b-1順土層	No.228	合計 30点
			接合a		小計 3点
			FC-4		3点
			接合b		小計 3点
			FC-4		3点
			未接合		小計 24点
			FC-3		1点
			FC-4		22点
			グリッド不明		1点
FC-5	図III-79	1 拓影図	I 群b-4順土層	No.229	合計 21点
			接合		小計 1点
			FC-5	V層	1点
			未接合		小計 20点
			FC-5	V層	20点
FC-5	図III-79	2 拓影図	I 群b-4順土層	No.231	合計 14点
			接合		小計 2点
			FC-5	V層	1点
			N-29-d		1点
			未接合		小計 12点
			K-26-c		1点
			L-25-b		1点
			L-26-a		1点
			M-25-a		1点
			N-25-d		5点
			N-28-c		1点
			O-26-d		1点
			P-19-d		1点
FC-5	図III-79	3 拓影図	I 群b-4順土層	No.230	合計 14点
			接合		小計 2点
			FC-5	V層	2点
			未接合		小計 12点
			FC-5	V層	8点
			FC-5	V層	8点
			グリッド不明		3点

表IV-5 遺構出土掲載石器一覧

遺構名	掲載順No	分類	層位	形状	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
H-1	図III-3	25 石鏃	灰層	欠損品	(3.3)×(1.5)×0.4	(1.7)	瑤瑯質岩	
H-1	26	石鏃	覆土4層		2.7×1.5×0.4	1.7	瑤瑯質岩	
H-1	27	石鏃	覆土4層		3.4×1.4×0.4	1.4	瑤瑯質岩	
H-1	28	石鏃	覆土2層	欠損品	(2.5)×1.2×0.2	(0.5)	瑤瑯質岩	
H-1	29	石鏃	覆土2層	欠損品	(2.2)×(0.3)×0.4	(1.5)	瑤瑯質岩	
H-1	30	石鏃	床面		2.2×1.6×0.4	1.0	瑤瑯質岩	
H-1	31	石鏃	覆土2層	欠損品	(3.0)×1.8×0.6	(2.3)	瑤瑯質岩	
H-1	32	石鏃	覆土4層		3.6×2.1×0.5	3.7	瑤瑯質岩	
H-1	33	石鏃	床面		5.2×2.7×1.1	9.9	瑤瑯質岩	
H-1	34	石鏃	覆土4層		2.7×1.6×0.5	1.4	瑤瑯質岩	
H-1	35	石鏃	覆土2層		4.6×1.2×0.6	3.5	瑤瑯質岩	
H-1	36	石鏃	覆土2層		9.5×2.5×0.9	20.3	瑤瑯質岩	
H-1	37	石鏃	覆土2層	欠損品	(10.3)×2.9×0.7	(12.3)	頁岩	H-1-207、243融合
H-1	38	つまみ付ナイフ	欠損品		(3.8)×(1.1)×(0.6)	(2.5)	瑤瑯質岩	
H-1	39	つまみ付ナイフ	覆土4層		5.8×3.0×0.8	12.8	瑤瑯質岩	
H-1	40	つまみ付ナイフ	覆土2層		4.3×1.8×0.4	2.6	瑤瑯質岩	
H-1	41	つまみ付ナイフ	床面		3.1×1.7×0.4	1.8	瑤瑯質岩	
H-1	42	両面調整石器	覆土4層		3.0×2.4×0.5	3.0	瑤瑯質岩	
H-1	43	両面調整石器	床面		5.7×4.7×0.9	26.5	瑤瑯質岩	
H-1	44	スクレイパー	床面		6.8×7.0×1.7	64.9	瑤瑯質岩	
H-1	45	石鏃	床面		4.2×3.8×2.6	49.1	瑤瑯質岩	
H-1	46	石鏃	覆土2層		7.7×8.2×3.0	191.8	瑤瑯質岩	
H-1	図III-4	47 石片	床面	燧石片	(10.5)×(4.9)×(3.2)	(179.9)	燧石	
H-1	48	磨り切り残片	覆土4層	炭化物付着	11.2×4.2×2.6	117.8	燧石	
H-1	49	磨り切り残片	覆土4層	欠損品炭化物付着	(12.1)×7.6×4.4	(426.6)	燧石	
H-1	50	石鏃素材鏃	床面	炭化物付着	14.9×10.6×3.2	798.2	燧石	H-1-1184、1185融合
H-1	51	すだ石	灰層	欠損品	(10.8)×7.1×5.4	(563.1)	安山岩	
H-1	52	たつき石	覆土2層		11.6×6.6×(2.0)	(144.2)	燧石	
H-1	53	砥石片	床面	燧石片	(10.2)×(7.7)×(3.7)	(327.4)	燧石	
H-1	54	砥石	床面	欠損品	(14.7)×(12.4)×4.8	(911.7)	燧石	
H-1	55	石鏃	焼痕有		7.9×6.8×2.8	159.2	砂岩	H-1-345、589融合
H-1	56	石鏃	覆土3層		5.8×5.5×1.8	50.7	燧石	
H-1	57	石鏃	覆土2層		6.8×4.9×2.0	61.0	安山岩?	
H-1	58	石鏃	覆土3層	焼痕有	6.5×6.1×1.2	47.2	砂岩	
H-1	59	石鏃	覆土2層		4.9×4.6×1.2	39.6	泥岩	
H-1	60	石鏃	覆土3層	焼痕有	6.5×5.0×1.4	54.3	燧石	
H-2	図III-9	5 石鏃	覆土1層	欠損品	(2.3)×1.2×0.4	(1.3)	燧石	
H-2	6	石鏃	床面		8.7×3.4×1.1	35.6	瑤瑯質岩	H-2-86、M-II-C-1融合
H-2	7	台石片	覆土1層	燧石片焼痕有	11.2×9.5×2.2	230.5	燧石	
H-3	図III-11	12 石鏃	覆土1層		2.4×1.0×0.2	0.5	瑤瑯質岩	
H-3	13	つまみ付ナイフ	覆土2層		6.3×2.3×0.7	11.5	燧石	
H-3	14	両面調整石器	覆土2層		5.8×2.5×0.8	11.4	瑤瑯質岩	
H-3	15	スクレイパー	覆土2層		11.0×6.4×1.7	114.6	瑤瑯質岩	
H-3	16	スクレイパー	床面		9.7×6.4×1.9	61.3	瑤瑯質岩	
H-3	17	スクレイパー	覆土2層		9.6×8.5×2.8	198.7	瑤瑯質岩	
H-3	18	スクレイパー	覆土2層		9.8×8.8×1.6	66.4	瑤瑯質岩	
H-3	19	石鏃	覆土2層	欠損品	(4.7)×(4.9)×(1.1)	(24.1)	安山岩?	
H-3	20	台石もしくは石鏃	覆土2層	欠損品焼痕有	(13.5)×(28.7)×(3.5)	(966.2)	砂岩	
H-4	図III-12	7 石鏃	覆土1層	欠損品	(2.6)×(1.1)×0.2	(0.6)	瑤瑯質岩	
H-4	8	石鏃	覆土1層	欠損品	(2.0)×(1.3)×0.3	(0.6)	瑤瑯質岩	
H-4	9	石鏃	覆土1層		3.9×3.5×0.9	4.7	瑤瑯質岩	
H-4	10	スクレイパー	覆土1層		8.7×5.4×1.4	53.5	瑤瑯質岩	
H-4	11	石片	覆土1層	欠損品	(2.8)×2.0×0.4	(4.9)	燧石	
H-4	12	石片	覆土1層	欠損品	(10.1)×5.8×2.0	(150.8)	燧石	
H-4	13	石片	覆土1層	欠損品	(7.8)×4.2×1.6	(81.4)	燧石	
H-4	14	砥石	覆土1層	欠損品	(16.8)×(5.6)×(1.3)	(141.1)	燧石	
H-5	図III-18	20 石鏃	覆土2層		4.0×1.7×0.6	3.2	瑤瑯質岩	
H-5	21	石鏃	覆土3層		6.2×5.2×1.4	48.2	瑤瑯質岩	
H-5	22	石鏃	覆土3層		2.2×2.0×0.3	0.8	瑤瑯質岩	
H-5	23	石鏃	覆土3層		1.9×1.6×0.2	0.4	瑤瑯質岩	
H-5	24	石鏃	覆土2層		1.8×0.9×0.3	0.3	瑤瑯質岩	
H-5	25	つまみ付ナイフ	覆土3層		5.7×2.4×0.4	3.6	瑤瑯質岩	
H-5	26	つまみ付ナイフ	覆土2層		8.2×3.8×0.7	29.3	瑤瑯質岩	
H-5	27	スクレイパー	覆土2層		7.1×3.5×1.1	29.2	瑤瑯質岩	
H-5	28	スクレイパー	覆土2層		6.6×6.1×0.7	19.4	瑤瑯質岩	
H-5	29	台石6しくは石鏃	覆土3層		23.3×15.1×3.0	1200.0	凝灰岩	
H-5	30	砥石	覆土2層		12.7×9.1×4.2	522.9	燧石	
H-5	31	石鏃	覆土2層	焼痕有	6.5×6.3×1.3	82.8	安山岩?	

遺構名	発掘順No.	分類	層位	形状	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考	
H-5	32	石礎	床面		8.1×8.6×2.0	155.5	鹿岩?		
H-5	33	石礎	覆土2層		6.6×6.3×1.9	87.7	安山岩		
H-5	34	石礎	覆土2層		5.6×4.4×1.9	57.8	鹿岩		
H-5	35	石礎	覆土2層		6.6×5.7×1.9	90.1	鹿岩		
H-5	36	石礎	覆土2層	破損品	(14.3)×(6.5)×(1.8)	(160.9)	鹿岩		
H-6	図B-21	9	石礎	覆土2層	5.8×1.4×0.6	4.2	埴質頁岩		
H-6	10	石礎	床面	欠損品	(3.3)×1.1×0.4	(1.5)	黒曜石		
H-6	11	石礎	覆土2層	欠損品	(2.4)×1.0×0.4	(1.0)	黒曜石		
H-6	12	石礎	覆土2層		2.2×1.2×0.5	1.3	黒曜石		
H-6	13	石礎	覆土2層		2.1×1.5×0.4	1.3	埴質頁岩		
H-6	14	石礎	覆土2層		10.9×5.4×1.8	87.9	珪岩		
H-6	15	石礎	覆土2層		3.3×1.2×0.5	2.2	埴質頁岩		
H-6	16	石礎	床面		2.8×1.1×0.4	0.8	黒曜石		
H-6	17	スタレイバー	覆土2層		8.2×5.0×1.4	57.4	埴質頁岩		
H-6	18	スタレイバー	床面		6.0×3.7×1.3	22.7	埴質頁岩		
H-6	19	スタレイバー	床面		7.2×4.1×0.8	24.4	頁岩		
H-6	20	スタレイバー	床面		4.7×2.2×1.2	8.7	埴質頁岩		
H-6	21	楔形石礎	覆土2層		5.6×3.3×2.5	27.8	頁岩		
H-6	22	石礎	覆土2層		5.1×4.0×2.8	40.9	埴質頁岩		
H-6	図B-22	23	石礎	覆土2層	9.4×12.5×9.3	973.0	めもの		
H-6	24	石礎	覆土2層		7.4×8.5×5.8	367.1	埴質頁岩		
H-6	25	石斧	床面	破損品	(12.1)×(5.5)×2.1	(210.9)	蛇紋岩		
H-6	26	すり切り残片	覆土2層		8.4×2.7×3.3	70.6	鹿岩		
H-6	27	たたき石	覆土2層		8.1×3.9×1.6	74.6	粘板岩		
H-6	28	すり石	床面		12.3×5.5×5.2	469.0	安山岩		
H-6	29	礎石	覆土2層	欠損品	(11.2)×(9.3)×(4.7)	(501.4)	鹿岩		
H-6	30	石礎	覆土2層		6.1×5.6×2.3	126.4	安山岩		
H-6	31	石礎	覆土2層		8.1×7.2×2.8	181.8	安山岩		
H-6	32	石礎	覆土2層		8.1×7.2×2.3	155.7	鹿岩		
H-7	図B-26	10	石礎	覆土	欠損品	(3.0)×1.4×0.6	(2.5)	黒曜石	HP-16出土
H-7	11	石礎	覆土2層	欠損品	(2.3)×(1.0)×0.2	(0.4)	埴質頁岩		
H-7	12	石礎	覆土2層		1.7×0.9×0.4	0.7	めもの		
H-7	13	両面削磨石礎	床面		9.6×3.7×1.5	47.7	埴質頁岩		
H-7	14	スタレイバー	覆土1層		5.9×4.1×1.3	29.5	埴質頁岩		
H-7	15	スタレイバー	覆土1層		3.3×2.0×0.6	3.1	黒曜石		
H-7	16	スタレイバー	床面		8.5×7.2×1.9	86.0	埴質頁岩		
H-7	17	スタレイバー	床面		5.3×3.6×1.3	18.9	埴質頁岩		
H-7	18	石礎	床面		4.7×3.4×1.6	24.3	めもの	HF-1出土	
H-7	19	石礎	覆土1層		5.4×6.3×2.7	46.3	埴質頁岩		
H-7	図B-27	20	石斧	覆土	破損品	(4.0)×(1.6)×(1.0)	(9.8)	蛇紋岩	
H-7	21	すり切り残片	床面		7.6×5.5×2.6	88.8	蛇紋岩		
H-7	22	石礎	床面	破損品	(23.3)×12.7×1.6	(438.4)	鹿岩	H-7-470、478融合	
H-7	23	石礎	床面	欠損品	(10.6)×(8.1)×1.7	(121.4)	凝灰岩		
H-7	24	たたき石	覆土1層		7.8×7.8×4.8	331.8	安山岩		
H-7	25	たたき石	床面	破損品	(11.2)×(7.8)×(4.2)	(527.5)	珪岩		
H-7	26	石皿もしくは台石	床面		30.3×13.6×3.1	1400.0	凝灰岩		
H-7	27	石皿もしくは台石	床面		40.2×16.2×6.2	3000.0	凝灰岩		
H-8	図B-30	6	石礎	覆土1層		2.7×1.4×0.3	0.8	埴質頁岩	
H-8	7	筒状石礎	床面		6.7×3.9×1.1	23.5	埴質頁岩		
H-8	8	筒状石礎	覆土2層		5.6×5.6×1.4	31.4	埴質頁岩		
H-8	9	スタレイバー	覆土1層		8.4×3.6×1.8	45.6	埴質頁岩		
H-8	10	石礎	覆土3層		8.2×8.1×3.2	109.6	埴質頁岩		
H-8	11	たたき石	覆土3層		6.6×5.4×4.0	174.2	めもの		
H-8	12	砥石片	覆土3層	破損品	(11.5)×(8.0)×(4.5)	(500.8)	凝灰岩		
H-8	13	石礎片	覆土3層	破損品	(5.2)×(2.9)×(0.9)	(15.6)	凝灰岩		
H-9	図B-32	13	石礎	覆土2層	3.4×2.5×0.7	4.1	黒曜石		
H-9	14	つまみ付ナイフ	覆土2層		6.5×1.7×0.6	6.0	埴質頁岩		
H-9	15	両面削磨石礎	覆土2層		9.9×6.3×1.9	111.8	埴質頁岩		
H-9	16	スタレイバー	覆土2層		6.5×4.8×1.2	35.9	埴質頁岩		
H-9	17	石礎	覆土2層	破損品	(9.1)×(6.9)×(1.6)	(78.3)	凝灰岩		
H-9	18	石礎	覆土2層		5.5×2.9×1.7	33.8	安山岩?		
H-9	19	石礎	覆土2層		6.6×5.2×1.4	67.7	安山岩		
H-9	20	石礎	覆土2層		9.3×7.6×2.0	167.7	安山岩?		
H-9	21	石礎	覆土2層		6.7×5.7×1.3	59.4	鹿岩		
H-10	図B-34	5	石礎	覆土2層	2.5×1.2×0.6	1.4	埴質頁岩		
H-10	6	石礎	覆土1層		2.6×1.1×0.7	1.3	埴質頁岩		
H-10	7	石礎	覆土2層		5.7×2.8×0.6	5.8	埴質頁岩		
H-10	8	スタレイバー	覆土4層		5.9×4.7×1.2	39.9	埴質頁岩		
H-10	9	石礎	覆土2層	一欠欠損	(13.1)×(5.6)×1.3	(107.5)	凝灰岩	H-10-94、99、118融合	

遺構名	発掘面No.	分類	層位	形状	長さ×幅×厚み (cm)	重量 (g)	石材	備考
H-10	10	石籠	床面	一部欠損	(11.0)×(9.7)×1.1	(124.4)	凝灰岩	
H-11	湖田-36 23	石籠	覆土2層		6.3×4.1×1.0	23.9	玄武岩	
H-11	24	石弁片	覆土2層	欠損品	7.1×(4.4)×1.5	(76.6)	凝灰岩	
H-12	湖田-36 10	石籠	覆土2層		3.0×1.1×0.3	0.8	地質頁岩	
H-12	11	石籠	床面		3.2×1.4×0.4	1.3	地質頁岩	
H-12	12	つまみ付ナイフ	覆土	欠損品	(5.8)×(2.5)×0.8	(10.7)	地質頁岩	
H-12	13	石籠片	覆土		3.0×2.7×0.7	6.1	凝灰岩	
H-12	14	石籠もしくは台石	覆土2層	破損品	(10.4)×(6.4)×2.1	(125.9)	凝灰岩	
H-12	15	無地のある礎	覆土2層	破損品	(12.0)×(8.4)×(3.1)	(425.5)	凝灰岩	H-12-16組合
H-14	湖田-46 1	スクレイパー	覆土1層		11.5×5.0×1.9	93.1	玄武岩	
H-14	2	たたき石	床面		8.3×10.9×4.0	290.0	安山岩	
H-15	湖田-43 20	石籠	覆土		2.0×1.1×0.2	0.4	地質頁岩	
H-15	21	石籠	床面		3.0×1.6×0.5	2.4	地質頁岩	
H-15	22	石籠	床面		6.7×4.7×1.8	53.4	地質頁岩	
H-15	23	塚状石籠	覆土1層		7.1×6.2×1.6	59.6	地質頁岩	
H-15	24	塚状石籠	覆土1層		7.3×4.6×1.8	55.9	地質頁岩	
H-15	25	スクレイパー	床面		7.5×3.6×0.7	17.6	地質頁岩	
H-15	26	石籠	床面		10.6×12.3×7.8	1015.2	のう	
H-15	27	石弁	床面		(13.0)×(5.5)×1.9	(178.9)	凝灰岩	
H-15	28	石弁	床面		(7.7)×(5.7)×1.9	(129.5)	凝灰岩	
H-15	29	たたき石	床面		10.4×11.6×5.9	1009.5	安山岩	
H-15	30	石籠	床面		13.7×15.2×2.9	392.4	凝灰岩	H-15-215、216組合
H-15	31	石籠片	覆土1層		(6.1)×(6.5)×(1.1)	(47.5)	凝灰岩	
H-15	32	石籠もしくは台石	床面		(32.5)×(26.0)×(7.8)	(7400.0)	凝灰岩	
P-1	湖田-45 2	スクレイパー	壊底	上下折れ	(5.2)×1.4×0.9	(6.7)	黒曜石	石乃楽村3と同一個体
P-1	3	石乃	壊底	上下折れ	(2.1)×(1.2)×0.9	(2.3)	黒曜石	2と同一個体
P-1	4	角形調整石籠	壊底	欠損品	(2.9)×(1.7)×0.5	(2.5)	黒曜石	
P-2	湖田-45 2	石籠	覆土		1.7×1.1×0.4	6.5	黒曜石	
P-13	湖田-47 2	ナリ石	覆土		8.6×9.2×8.5	692.0	凝灰岩	虎痕あり
P-19	湖田-48 1	石籠	覆土	欠損品	(2.4)×1.0×0.2	(0.5)	黒曜石	
P-22	湖田-49 2	つまみ付ナイフ	覆土		4.5×2.2×0.3	2.5	地質頁岩	
P-25	湖田-49 1	石籠	覆土		6.1×5.3×2.3	60.8	安山岩	
P-36	湖田-53 2	つまみ付ナイフ	覆土3層		8.1×3.1×0.7	13.7	地質頁岩	
P-37	湖田-53 5	石籠	覆土	欠損品	(1.7)×1.0×0.3	(0.6)	黒曜石	
P-37	6	スクレイパー	覆土		5.1×2.3×0.9	10.3	地質頁岩	
P-37	7	スクレイパー	覆土		3.2×2.4×0.8	5.0	黒曜石	
P-37	8	たたき石	覆土		6.8×5.6×4.7	225.8	凝灰岩	
P-37	9	石籠	壊底		7.5×6.0×1.2	89.0	凝灰岩	
P-37	10	石籠	覆土		6.8×5.5×2.1	107.2	凝灰岩	
P-39	湖田-53 1	石籠もしくは台石	覆土		23.4×30.9×8.5	8200.0	安山岩	
P-42	湖田-54 3	スクレイパー	覆土		7.0×4.7×1.1	31.9	地質頁岩	
P-42	4	石籠	覆土		2.4×2.8×1.6	6.5	黒曜石	
P-43	湖田-55 12	石籠	覆土		2.2×0.8×0.2	0.3	黒曜石	
P-43	13	石籠	覆土		5.8×5.1×1.7	72.3	凝灰岩	
P-43	14	石籠	覆土		7.8×5.8×2.1	95.5	凝灰岩	
P-44	湖田-56 7	石籠	覆土	破損品	(2.2)×1.0×0.4	(0.8)	黒曜石	
P-44	8	スクレイパー	覆土3層		5.5×4.3×1.4	32.0	地質頁岩	
P-50	湖田-57 1	ナリ石	覆土		12.1×7.1×4.9	557.9	凝灰岩	
P-50	2	石	覆土		10.0×15.3×2.2	393.6	安山岩	
P-50	3	無地のある礎	覆土		8.8×8.7×5.8	608.9	不明	
P-61	湖田-58 2	石籠	覆土		4.3×2.5×0.9	8.6	地質頁岩	
P-59	湖田-59 1	つまみ付ナイフ	覆土	欠損品	(3.7)×1.7×0.5	(3.4)	地質頁岩	
P-62	湖田-59 1	石籠	覆土		1.2×1.0×0.1	0.2	地質頁岩	
P-70	湖田-61 1	たたき石	覆土		9.2×6.6×4.7	373.5	のう	
P-71	湖田-61 1	ナリ石	覆土	破損品	(8.3)×(7.1)×6.0	(434.3)	安山岩	
P-73	湖田-62 7	ナリ石	壊底		10.6×9.6×4.0	599.8	安山岩	
P-73	湖田-62 8	ナリ石	壊底		16.7×7.7×4.2	976.5	安山岩	
P-75	湖田-60 2	石籠	覆土	破損品	(12.2)×(19.5)×(5.5)	(121.0)	凝灰岩	
P-95	湖田-66 3	たたき石	壊底	欠損品	(7.0)×(6.2)×(2.9)	(142.4)	凝灰岩	
P-114	湖田-67 1	ナリ石	覆土	破損品	(4.6)×(7.4)×(2.3)	(95.3)	凝灰岩	
P-116	湖田-67 1	石籠	覆土		2.8×0.8×0.3	0.7	黒曜石	
P-122	湖田-68 2	石籠	覆土		7.1×5.2×1.4	59.6	凝灰岩	
P-124	湖田-69 1	石籠	覆土	破損品	(4.9)×(3.9)×1.5	(59.8)	凝灰岩	
P-126	湖田-69 1	石籠	覆土	破損品	(9.7)×(6.5)×2.1	(130.6)	安山岩?	
F-4	湖田-75 1	石籠	-		2.1×1.1×0.4	0.7	地質頁岩	F-4周辺出土
F-4	2	スクレイパー	-		4.2×3.5×1.5	22.4	地質頁岩	F-4周辺出土
FC-1	湖田-76 1	母岩別検合資料1	-		4.3×10.2×1.7	47.5	地質頁岩	
FC-1	湖田-77 1	母岩別検合資料2	-		19.1×11.1×8.8	1157.8	地質頁岩	
FC-7	湖田-79 1	母岩別検合資料1	-		7.0×10.1×3.2	146.8	地質頁岩	

表IV-6 包含層出土掲載土器一覽

掲載番号	土器分類	整理番号	層位	累計	掲載番号	土器分類	整理番号	層位	累計							
図W-4 1	拓影図	I群a類土器 No.2	合計	29点	図W-4 10	拓影図	I群a類土器 No.234	合計	4点							
			接合 a	小計				9点	接合	小計	3点					
			H-1	床面				9点	I-18-a		2点					
			接合 b	小計				5点	N-20-b		1点					
			H-1	床面				4点	未接合	小計	1点					
			H-1	覆土2層				1点	G-18-b		1点					
			接合 c	小計				1点	図W-4 11	拓影図	I群a類土器 No.235	合計	5点			
			H-1	床面				1点				接合	小計	5点		
			未接合	小計				14点	H-17-b		5点	図W-4 12	拓影図	I群a類土器 No.48	合計	16点
			H-1	床面				1点	接合 a	小計	4点					
			H-1	覆土2層				10点	H-5	覆土2層	3点					
			H-1	覆土4層				1点	H-5	覆土3層	1点					
			H-1-HF-2					1点	接合 b	小計	9点					
			N-16-b					1点	H-5	覆土2層	2点					
図W-4 2	拓影図	I群a類土器 No.216	合計	3点	H-5	覆土3層	7点									
			接合	小計	3点	未接合	小計	3点								
P-117	覆土4層	3点	図W-4 3	拓影図	I群a類土器 No.3	合計	8点									
図W-4 3	拓影図	I群a類土器 No.3				合計	8点	H-5	覆土2層	1点						
			接合	小計	8点	J-17-a		1点								
H-1	覆土2層	8点	図W-4 4	拓影図	I群a類土器 No.5	合計	1点									
接合	小計	1点				図W-4 5	拓影図	I群a類土器 No.232	合計	20点						
H-1	覆土1層	1点	接合	小計	5点				図W-4 6	拓影図	I群a類土器 No.233	合計	2点			
図W-4 4	拓影図	I群a類土器 No.5	合計	1点	接合 a	小計	1点									
			接合	小計	1点	H-17-b		1点								
H-1	覆土1層	1点	接合 b	小計	1点	図W-4 7	拓影図	I群a類土器 No.237				合計	6点			
図W-4 5	拓影図	I群a類土器 No.232	合計	20点	O-19-a								2点			
			接合	小計	5点	接合 b	小計	4点								
グリッド不明		1点	図W-4 8	拓影図	I群a類土器 No.244	合計	2点									
J-13-c		4点				接合	小計	2点								
未接合	小計	15点				J-12-a		2点								
I-12-b		6点				図W-4 9	拓影図	I群a類土器 No.46	合計	36点						
J-12-a		2点							接合 a	小計	8点					
K-11-d		6点				H-5	覆土2層	6点	図W-5 16	拓影図	I群a類土器 No.39	合計	5点			
L-15-a		1点	H-5	覆土3層	1点	接合	小計	5点								
図W-4 6	拓影図	I群a類土器 No.233	合計	2点	H-4	覆土1層	5点	図W-5 17	拓影図	I群a類土器 No.10	合計	1点				
			接合 a	小計	1点	接合	小計				1点					
H-17-b		1点	図W-4 7	拓影図	I群a類土器 No.237	合計	6点	H-1	覆土4層	1点						
接合 b	小計	1点				接合 a	小計	1点								
K-17-b		1点	O-19-a		2点	P-7	覆土層	1点	図W-5 18	拓影図	I群a類土器 No.158	合計	33点			
図W-4 7	拓影図	I群a類土器 No.237	合計	6点	接合 b	小計	1点									
			接合 a	小計	2点	P-7	覆土層	1点								
J-12-a		4点	接合 b	小計	1点	接合 c	小計	1点								
図W-4 8	拓影図	I群a類土器 No.244	合計	2点	J-12-a		4点	P-7				覆土層	1点			
			接合	小計	2点	図W-4 9	拓影図	I群a類土器 No.46				合計	36点	接合 c	小計	1点
J-12-a		2点	接合 a	小計	30点											
図W-4 9	拓影図	I群a類土器 No.46	合計	36点	P-7	覆土層	1点	図W-5 19				拓影図	I群a類土器 No.74	合計	2点	
			接合 a	小計	8点	未接合	小計							30点		
H-5	覆土2層	6点	図W-5 20	拓影図	I群a類土器 No.240	合計	4点	図W-5 21				拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点	
H-5	覆土3層	1点				接合	小計		3点							
グリッド不明		1点	H-5	覆土2層	4点	J-12-a		3点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点			
接合 b	小計	5点	H-5	覆土3層	2点	未接合	小計	1点								
H-5	覆土2層	4点	図W-5 16	拓影図	I群a類土器 No.39	合計	5点	J-12-a		1点						
H-5	覆土3層	1点				接合	小計	5点	図W-5 20	拓影図	I群a類土器 No.240	合計	4点			
接合 c	小計	7点	H-4	覆土1層	5点	接合	小計	3点								
H-5	覆土2層	5点	図W-5 17	拓影図	I群a類土器 No.10	合計	1点	J-12-a		1点						
H-5	覆土3層	2点				接合	小計	1点	未接合	小計	1点					
接合 d	小計	3点	H-1	覆土4層	1点	図W-5 18	拓影図	I群a類土器 No.158	合計	33点						
未接合	小計	13点	接合 a	小計	1点											
H-5	覆土2層	8点	図W-5 19	拓影図	I群a類土器 No.74	合計	2点	P-7	覆土層	1点						
H-5	覆土3層	5点				接合	小計	2点								
図W-4 9	拓影図	I群a類土器 No.46	合計	36点	H-7	覆土2層	2点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点				
			接合 a	小計	8点	接合 a	小計				7点					
H-5	覆土2層	6点	図W-5 20	拓影図	I群a類土器 No.240	合計	4点	H-1	床面	4点						
H-5	覆土3層	1点				接合	小計	3点								
グリッド不明		1点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点	H-1	覆土4層	3点						
接合 b	小計	5点				接合 a	小計	7点								
H-5	覆土2層	4点	図W-5 19	拓影図	I群a類土器 No.74	合計	2点	図W-5 20	拓影図	I群a類土器 No.240	合計	4点				
H-5	覆土3層	2点				接合	小計				2点					
接合 c	小計	7点	図W-5 18	拓影図	I群a類土器 No.158	合計	33点	接合 b	小計	1点						
H-5	覆土2層	5点				接合 a	小計	1点								
H-5	覆土3層	2点	図W-5 17	拓影図	I群a類土器 No.10	合計	1点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点				
接合 d	小計	3点				接合	小計				1点					
未接合	小計	13点	図W-5 16	拓影図	I群a類土器 No.39	合計	5点	図W-5 20	拓影図	I群a類土器 No.240	合計	4点				
H-5	覆土2層	8点				接合	小計				5点					
H-5	覆土3層	5点	図W-5 15	拓影図	I群a類土器 No.62	合計	3点	図W-5 19	拓影図	I群a類土器 No.74	合計	2点				
図W-4 9	拓影図	I群a類土器 No.46				合計	36点				接合 a	小計	1点			
			接合 a	小計	8点	接合 b	小計	1点								
H-5	覆土2層	6点	図W-5 16	拓影図	I群a類土器 No.39	合計	5点	図W-5 18	拓影図	I群a類土器 No.158	合計	33点				
H-5	覆土3層	1点				接合	小計				5点					
グリッド不明		1点	図W-5 17	拓影図	I群a類土器 No.10	合計	1点	図W-5 20	拓影図	I群a類土器 No.240	合計	4点				
接合 b	小計	5点				接合	小計				1点					
H-5	覆土2層	4点	図W-5 18	拓影図	I群a類土器 No.158	合計	33点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点				
H-5	覆土3層	1点				接合 a	小計				1点					
接合 c	小計	7点	図W-5 19	拓影図	I群a類土器 No.74	合計	2点	図W-5 19	拓影図	I群a類土器 No.74	合計	2点				
H-5	覆土2層	5点				接合	小計				2点					
H-5	覆土3層	2点	図W-5 20	拓影図	I群a類土器 No.240	合計	4点	図W-5 20	拓影図	I群a類土器 No.240	合計	4点				
接合 d	小計	3点				接合 a	小計				1点					
未接合	小計	13点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点				
H-5	覆土2層	8点				接合	小計				13点					
H-5	覆土3層	5点	図W-5 16	拓影図	I群a類土器 No.39	合計	5点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点				
図W-4 9	拓影図	I群a類土器 No.46				合計	36点				接合 a	小計	7点			
			接合 a	小計	8点	H-1	床面	4点								
H-5	覆土2層	6点	図W-5 17	拓影図	I群a類土器 No.10	合計	1点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点				
H-5	覆土3層	1点				接合	小計				1点					
グリッド不明		1点	図W-5 18	拓影図	I群a類土器 No.158	合計	33点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点				
接合 b	小計	5点				接合 a	小計				7点					
H-5	覆土2層	4点	図W-5 19	拓影図	I群a類土器 No.74	合計	2点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点				
H-5	覆土3層	2点				接合	小計				2点					
接合 c	小計	7点	図W-5 20	拓影図	I群a類土器 No.240	合計	4点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点				
H-5	覆土2層	5点				接合 a	小計				7点					
H-5	覆土3層	2点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点				
接合 d	小計	3点				接合	小計				13点					
未接合	小計	13点	図W-5 16	拓影図	I群a類土器 No.39	合計	5点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点				
H-5	覆土2層	8点				接合	小計				5点					
H-5	覆土3層	5点	図W-5 17	拓影図	I群a類土器 No.10	合計	1点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点				
図W-4 9	拓影図	I群a類土器 No.46				合計	36点				接合	小計	1点			
			接合 a	小計	8点	接合 a	小計	7点								
H-5	覆土2層	6点	図W-5 18	拓影図	I群a類土器 No.158	合計	33点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点				
H-5	覆土3層	1点				接合	小計				33点					
グリッド不明		1点	図W-5 19	拓影図	I群a類土器 No.74	合計	2点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点				
接合 b	小計	5点				接合	小計				2点					
H-5	覆土2層	4点	図W-5 20	拓影図	I群a類土器 No.240	合計	4点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点				
H-5	覆土3層	1点				接合 a	小計				7点					
接合 c	小計	7点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点				
H-5	覆土2層	5点				接合	小計				13点					
H-5	覆土3層	2点	図W-5 16	拓影図	I群a類土器 No.39	合計	5点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点				
接合 d	小計	3点				接合	小計				5点					
未接合	小計	13点	図W-5 17	拓影図	I群a類土器 No.10	合計	1点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点				
H-5	覆土2層	8点				接合	小計				1点					
H-5	覆土3層	5点	図W-5 18	拓影図	I群a類土器 No.158	合計	33点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点				
図W-4 9	拓影図	I群a類土器 No.46				合計	36点				接合 a	小計	7点			
			接合 a	小計	8点	H-1	床面	4点								
H-5	覆土2層	6点	図W-5 19	拓影図	I群a類土器 No.74	合計	2点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点				
H-5	覆土3層	1点				接合	小計				2点					
グリッド不明		1点	図W-5 20	拓影図	I群a類土器 No.240	合計	4点	図W-5 21	拓影図	I群a類土器 No.6	合計	13点				
接合 b	小計	5点				接合 a	小計				7点					
H-5	覆土2層	4点	図W-5 21	拓影図												

掲載番号	土壌分類	整理番号	層位	集計	掲載番号	土壌分類	整理番号	層位	集計								
			H-5	覆土 2層	1点			H-5	覆土 3層	2点							
			接合 c	小計	2点			覆土 3層	No.7	合計	1点						
			H-1	床面	1点			接合		小計	1点						
			P-123	覆土 1層	1点			H-1	覆土 4層	1点							
			未接合	小計	3点			覆土 4層	No.239	合計	4点						
図 N-5 22	拓影図	I群 a 類土層	No.47	合計	26点			接合	小計	2点							
				接合 a	小計			10点	J-12-a		2点						
				H-5	覆土 2層			2点	未接合	小計	2点						
				H-5	覆土 4層			2点	J-12-a		1点						
				グリッド不明	2点			K-11-d		1点							
図 N-5 23	実測図	I群 a 類土層	No.1	合計	254点	図 N-5 32	拓影図	I群 a 類土層	No.51	合計	16点						
				接合 a	小計					9点	接合	小計	12点				
				H-5	覆土 2層					9点	H-5	覆土 2層	5点				
				未接合	小計					7点	グリッド不明		1点				
				H-5	覆土 2層					2点	K-11-d		6点				
図 N-5 24	拓影図	I群 a 類土層	No.50	合計	6点					未接合	小計	4点					
				接合 a	小計					4点	H-12	覆土 2層	3点				
				H-5	覆土 2層					1点	H-12-HP-1	覆土層	1点				
				J-17-a	3点					図 N-5 33	拓影図	I群 a 類土層	No.241	合計	1点		
				接合 b	小計					2点	接合	小計	1点				
図 N-5 25	拓影図	I群 a 類土層	No.336	合計	6点						未接合	小計	1点				
				接合 a	小計						3点	H-21-d		1点			
				H-5	覆土 3層						2点	図 N-5 34	拓影図	I群 a 類土層	No.105	合計	1点
				L-12-d	1点						接合	小計	1点				
				接合 b	小計						2点	H-11-HP-2	覆土層	1点			
図 N-5 26	拓影図	I群 a 類土層	No.4	合計	14点	図 N-5 35	拓影図	I群 a 類土層	No.8	合計	3点						
				接合 a	小計					2点	接合	小計	3点				
				K-17-a	2点					H-1	覆土 2層	3点					
				接合 b	小計					4点	図 N-5 36	拓影図	I群 a 類土層	No.73	合計	1点	
				H-1	覆土 2層					3点	接合	小計	1点				
図 N-5 27	拓影図	I群 a 類土層	No.238	合計	2点						未接合	小計	1点				
				接合 a	小計						2点	H-7	床面	1点			
				K-17-a	2点						図 N-5 37	拓影図	I群 a 類土層	No.75	合計	1点	
				接合 b	小計						4点	接合	小計	1点			
				H-1	覆土 2層						3点	H-7	覆土 1層	1点			
図 N-5 28	拓影図	I群 a 類土層	No.41	合計	1点	図 N-5 38	拓影図	I群 b-1 類土層	No.137	合計	3点						
				接合	小計					1点	接合	小計	3点				
				未接合	小計					8点	H-15	覆土 2層	3点				
				H-1	覆土 4層					1点	図 N-5 39	拓影図	I群 a 類土層	No.11	合計	2点	
				J-10-d	1点					接合	小計	1点					
図 N-5 29	拓影図	I群 a 類土層	No.52	合計	22点						未接合	小計	1点				
				接合 a	小計						5点	H-1	覆土 2層	1点			
				H-5	覆土 2層						5点	未接合	小計	1点			
				J-17-a	1点						H-1	覆土 2層	1点				
				K-16-c	4点						未接合	小計	1点				
図 N-5 30	拓影図	I群 a 類土層	No.7	合計	1点	図 N-5 40	拓影図	I群 a 類土層	No.9	合計	2点						
				接合	小計					1点	接合	小計	1点				
				未接合	小計					3点	H-1	覆土 2層	1点				
				H-1	覆土 1層					1点	未接合	小計	1点				
				P-123	覆土 1層					1点	H-1	覆土 4層	1点				
図 N-5 31	拓影図	I群 a 類土層	No.239	合計	4点	図 N-5 41	拓影図	I群 a 類土層	No.53	合計	37点						
				接合	小計					2点	接合 a	小計	13点				
				J-12-a						2点	H-5	覆土 3層	13点				
				未接合	小計					2点	接合 b	小計	21点				
				J-12-a						1点	H-5	床面	16点				
図 N-5 32	拓影図	I群 a 類土層	No.51	合計	16点						H-5	覆土 2層	3点				
				接合	小計						12点	H-5	覆土 3層	7点			
				H-5	覆土 2層						5点	グリッド不明	1点				
				グリッド不明	1点						未接合	小計	3点				
				K-11-d	6点						H-5	覆土 3層	1点				
図 N-5 33	拓影図	I群 a 類土層	No.241	合計	1点	図 N-5 42	拓影図	I群 a 類土層	No.57	合計	1点						
				接合	小計					1点	接合	小計	1点				
				H-21-d	1点					H-5	覆土 3層	2点					
				図 N-5 34	拓影図					I群 a 類土層	No.105	合計	7点				
				接合	小計					1点	接合	小計	7点				
図 N-5 35	拓影図	I群 a 類土層	No.8	合計	3点	図 N-5 43	拓影図	I群 a 類土層	No.249	合計	7点						
				接合	小計					3点	接合	小計	7点				
				H-1	覆土 2層					3点							
				図 N-5 36	拓影図					I群 a 類土層	No.73	合計	1点				
				接合	小計					1点							
図 N-5 36	拓影図	I群 a 類土層	No.73	合計	1点						H-5	覆土 2層	2点				
				接合	小計						1点	H-5	覆土 3層	1点			
				H-7	床面						1点						
				図 N-5 37	拓影図						I群 a 類土層	No.75	合計	1点			
				接合	小計						1点						
図 N-5 37	拓影図	I群 a 類土層	No.75	合計	1点						未接合	小計	3点				
				接合	小計						1点	H-6	覆土 2層	2点			
				H-7	覆土 1層						1点	H-5	覆土 3層	1点			
				図 N-5 38	拓影図						I群 b-1 類土層	No.137	合計	3点			
				接合	小計						3点						
図 N-5 38	拓影図	I群 b-1 類土層	No.137	合計	3点						未接合	小計	1点				
				接合	小計						3点	H-5	覆土 2層	1点			
				H-15	覆土 2層						3点						
				図 N-5 39	拓影図						I群 a 類土層	No.11	合計	2点			
				接合	小計						1点						
図 N-5 39	拓影図	I群 a 類土層	No.11	合計	2点						H-5	覆土 3層	2点				
				接合	小計						1点	H-5	覆土 3層	1点			
				H-1	覆土 2層						1点						
				未接合	小計						1点						
				H-1	覆土 2層						1点						
図 N-5 40	拓影図	I群 a 類土層	No.9	合計	2点						未接合	小計	1点				
				接合	小計						1点	H-5	覆土 2層	1点			
				H-1	覆土 2層						1点						
				未接合	小計						1点						
				H-1	覆土 4層						1点						
図 N-5 41	拓影図	I群 a 類土層	No.53	合計	37点						未接合	小計	3点				
				接合 a	小計						13点	H-6	覆土 2層	2点			
				H-5	覆土 3層						13点	H-5	覆土 3層	1点			
				接合 b	小計						21点						
				H-5	床面						16点						
図 N-5 42	拓影図	I群 a 類土層	No.57	合計	1点						未接合	小計	3点				
				接合	小計						1点	H-6	覆土 2層	2点			
				H-5	覆土 3層						2点	H-5	覆土 3層	1点			
				図 N-5 43	拓影図						I群 a 類土層	No.249	合計	7点			
				接合	小計						7点						

掲載番号	土器分類	整理番号	層位	集計	
図N-6 44	拓影図 I群a類土器	No.248	I-18-d	7点	
			合計	2点	
			小計	2点	
図N-6 45	拓影図 I群a類土器	No.58	合計	2点	
			接合	小計	1点
			H-5	覆土3層	1点
			未接合	小計	1点
図N-6 46	拓影図 I群a類土器	No.251	合計	2点	
			接合	小計	2点
			J-12-a	2点	
図N-6 47	拓影図 I群a類土器	No.250	合計	1点	
			接合	小計	1点
			I-16-d	1点	
図N-6 48	拓影図 I群a類土器	No.54	合計	11点	
			接合	小計	6点
			H-5	覆土2層	1点
			H-5	覆土3層	5点
			未接合	小計	5点
			H-5	覆土2層	1点
図N-6 49	拓影図 I群a類土器	No.56	合計	3点	
			接合	小計	1点
			H-5	覆土2層	1点
			未接合	小計	2点
図N-6 50	拓影図 I群a類土器	No.12	合計	1点	
			接合	小計	1点
			H-1	覆土2層	1点
図N-6 51	拓影図 I群a類土器	No.186	合計	1点	
			接合	小計	1点
			P-44	床面	1点
図N-6 52	拓影図 I群a類土器	No.252	合計	4点	
			接合	小計	4点
			M-12-a	4点	
図N-7 53	拓影図 I群a類土器	No.55	合計	13点	
			接合a	小計	8点
			H-5	床面	5点
			H-5	覆土2層	2点
			グラッド不明	1点	
			接合b	小計	4点
			H-5	覆土2層	4点
			未接合	小計	1点
図N-7 54	拓影図 I群a類土器	No.259	合計	44点	
			接合	小計	10点
			グラッド不明	1点	
			J-12-a	9点	
			未接合	小計	34点
図N-7 55	拓影図 I群a類土器	No.13	合計	1点	
			接合	小計	1点
			H-1	床面	1点
			未接合	小計	2点
図N-7 56	拓影図 I群a類土器	No.40	合計	2点	
			接合	小計	2点
			H-4	覆土1層	2点
図N-7 57	拓影図 I群a類土器	No.254	合計	1点	
			接合	小計	1点
			N-10-d	1点	
図N-7 58	拓影図 I群a類土器	No.80	合計	1点	
			接合	小計	1点

掲載番号	土器分類	整理番号	層位	集計	
図N-7 59	拓影図 I群a類土器	No.253	H-5	覆土3層	1点
			合計	1点	
			接合	小計	1点
図N-7 60	拓影図 I群a類土器	No.127	K-18-a	1点	
			合計	2点	
			接合	小計	2点
図N-7 61	拓影図 I群a類土器	No.255	H-12	覆土2層	2点
			合計	2点	
			接合	小計	2点
図N-7 62	拓影図 I群a類土器	No.256	L-18-a	2点	
			合計	1点	
			接合	小計	1点
図N-7 63	拓影図 I群a類土器	No.258	M-18-b	1点	
			合計	1点	
			接合	小計	1点
図N-7 64	拓影図 I群a類土器	No.59	Q-25-d	1点	
			合計	4点	
			接合	小計	4点
図N-7 65	拓影図 I群a類土器	No.247	H-5	覆土3層	4点
			合計	18点	
			接合a	小計	2点
			N-13-a	2点	
図N-7 66	拓影図 I群a類土器	No.61	合計	4点	
			接合	小計	2点
			H-5	覆土2層	1点
			I-17-d	1点	
			未接合	小計	2点
			H-5	覆土2層	1点
図N-7 67	拓影図 I群a類土器	No.242	合計	1点	
			接合	小計	1点
			J-17-c	1点	
図N-7 68	拓影図 I群a類土器	No.243	合計	3点	
			接合	小計	2点
			I-16-d	2点	
			未接合	小計	1点
図N-7 69	拓影図 I群a類土器	No.257	J-18-a	1点	
			合計	1点	
			接合	小計	1点
図N-7 70	拓影図 I群a類土器	No.246	M-18-c	1点	
			合計	1点	
			接合	小計	1点
図N-7 71	拓影図 I群b-1類土器	No.221	I-42-d	1点	
			合計	63点	
			接合a	小計	20点
			F-7	7点	
図N-7 72	拓影図 I群b-1類土器	No.222	合計	411点	
			接合a	小計	3点
			Q-29-a	13点	
			F-7	3点	
			接合c	小計	3点
			Q-29-a	3点	
図N-7 72	拓影図 I群b-1類土器	No.222	合計	411点	
			接合a	小計	3点
			F-7	7点	
			Q-29-a	7点	

掲載番号	土壌分類	整理番号	層位	集計	掲載番号	土壌分類	整理番号	層位	集計			
		L-33-a		3点	図N-8 80	拓影図	I群b-1類土層 No.332	集合	合計	2点		
		集合b	小計	3点				集合	小計	2点		
		L-33-a		3点				Q-29-b		2点		
		集合c	小計	10点				図N-8 81	拓影図	I群b-1類土層 No.331	合計	1点
		Q-29-b		10点				集合	小計	1点		
		未集合	小計	395点				J-31-c		1点		
		F-7		15点				図N-8 82	拓影図	I群b-1類土層 No.334	合計	1点
K-33-b		22点	集合	小計	1点							
K-33-a		309点	L-35-b		1点							
Q-29-a		49点	図N-8 83	拓影図	I群b-1類土層 No.330	合計	1点					
図N-7 73	拓影図	I群b-1類土層 No.101	合計	1点	集合	小計	1点					
集合	小計	1点	図N-8 84	拓影図	I群b-1類土層 No.224	合計	68点					
H-10	床面	1点	集合a	小計	4点							
図N-7 74	拓影図	I群b-1類土層 No.102	合計	1点	FC-3		4点					
集合	小計	1点	集合b	小計	1点							
H-10	覆土3層	1点	FC-3		1点							
図N-7 75	拓影図	I群b-1類土層 No.104	合計	1点	集合c	小計	2点					
集合	小計	1点	FC-3		2点							
H-10	覆土3層	1点	未集合	小計	61点							
図N-8 76	拓影図	I群b-1類土層 No.264	合計	190点	FC-3		61点					
集合a	小計	25点	図N-8 85	拓影図	I群b-1類土層 No.313	合計	1点					
K-30-d		25点	集合	小計	1点							
集合b	小計	14点	N-36-c		1点							
K-30-d		14点	図N-8 86	拓影図	I群b-1類土層 No.266	合計	11点					
集合c	小計	3点	集合a	小計	2点							
グリフ不明		1点	S-29-c		2点							
M-31-a		2点	集合b	小計	3点							
未集合	小計	146点	S-29-c		3点							
J-30-c		3点	未集合	小計	6点							
J-31-c		7点	S-24-a		1点							
K-30-d		115点	S-29-c		5点							
K-31-a		2点	図N-8 87	拓影図	I群b-1類土層 No.267	合計	15点					
K-32-c		1点	集合a	小計	1点							
L-31-b		2点	K-34-a		1点							
L-32-a		1点	集合b	小計	3点							
L-33-c		2点	K-31-c		3点							
M-31-a		9点	未集合	小計	11点							
M-33-d		2点	K-31-c		8点							
M-34-a		4点	L-33-b		1点							
図N-8 77	拓影図	I群b-1類土層 No.268	合計	32点	O-24-a		1点					
集合a	小計	2点	P-27-a		1点							
M-33-c		2点	図N-8 88	拓影図	I群b-1類土層 No.175	合計	346点					
集合b	小計	1点	集合a	小計	22点							
M-33-c		1点	P-42	覆土層	22点							
未集合	小計	29点	集合b	小計	6点							
L-33-d		2点	P-42	覆土層	6点							
M-33-c		26点	未集合	小計	318点							
S-29-c		1点	H-10	覆土3層	1点							
図N-8 78	拓影図	I群b-1類土層 No.265	合計	138点	P-29-b		1点					
集合a	小計	3点	P-30-b		1点							
M-33-a		3点	P-42	覆土層	1点							
集合b	小計	8点	P-42	覆土層	254点							
M-33-a		8点	Q-29-b		1点							
未集合	小計	127点	R-29-a		59点							
グリフ不明		2点	図N-8 89	拓影図	I群b-1類土層 No.299	合計	1点					
M-32-c		3点	集合	小計	1点							
M-33-a		119点	N-34-d		1点							
M-34-a		2点	図N-8 90	拓影図	I群b-1類土層 No.298	合計	1点					
M-40-a		1点	集合	小計	1点							
図N-8 79	拓影図	I群b-1類土層 No.333	合計	2点	L-35-b		1点					
集合	小計	2点	図N-9 91	拓影図	I群b-1類土層 No.228	合計	30点					
R-31-b		2点										

掲載番号	土器分類	整理番号	層位	集計
		H-7	覆土層	4点
		P-15-c		1点
図N-10 115	拓影図	1群 b-1類土器 No.205	合計	156点
		接合 a	小計	7点
		P-73	覆土層	7点
		接合 b	小計	3点
		P-73	覆土層	3点
		未接合	小計	148点
		P-73	覆土層	148点
図N-10 116	拓影図	1群 b-1類土器 No.204	合計	74点
		接合 a	小計	5点
		P-73	覆土層	5点
		接合 b	小計	1点
		P-73	覆土層	1点
		未接合	小計	68点
		P-73	覆土層	68点
図N-10 117	拓影図	1群 b-1類土器 No.202	合計	108点
		接合 a	小計	4点
		P-73	覆土層	4点
		接合 b	小計	9点
		P-73	覆土層	9点
		未接合	小計	95点
		P-73	覆土層	95点
図N-10 118	拓影図	1群 b-1類土器 No.203	合計	87点
		接合 a	小計	15点
		P-73	床面	15点
		接合 b	小計	9点
		P-73	床面	9点
		未接合	小計	63点
		P-73	床面	62点
		P-73	覆土層	1点
図N-11 119	拓影図	1群 b-1類土器 No.191	合計	17点
		接合	小計	10点
		P-44	床面	10点
		未接合	小計	7点
		P-44	床面	7点
図N-11 120	拓影図	1群 b-1類土器 No.100	合計	7点
		接合	小計	5点
		H-9	覆土 2層	5点
		未接合	小計	2点
		H-9	覆土 2層	2点
図N-11 121	拓影図	1群 b-1類土器 No.135	合計	1点
		接合	小計	1点
		H-12	覆土層	1点
図N-11 122	拓影図	1群 b-1類土器 No.281	合計	25点
		接合	小計	9点
		L-9-d		9点
		未接合	小計	16点
		L-9-b		16点
図N-11 123	拓影図	1群 b-1類土器 No.184	合計	4点
		接合	小計	4点
		グリッド不明		1点
		P-43	覆土層	3点
図N-11 124	拓影図	1群 b-1類土器 No.297	合計	1点
		接合	小計	1点
		O-15-c		1点
図N-11 125	拓影図	1群 b-1類土器 No.341	合計	1点
		接合	小計	1点
		I-13-a		1点
図N-11 126	拓影図	1群 b-1類土器 No.36	合計	1点
		接合	小計	1点
		H-3	覆土 2層	1点

掲載番号	土器分類	整理番号	層位	集計
図N-11 127	拓影図	1群 b-1類土器 No.342	合計	1点
		接合	小計	1点
		M-10-a		1点
図N-11 128	拓影図	1群 b-1類土器 No.185	合計	1点
		接合	小計	1点
		P-43	覆土層	1点
図N-11 129	拓影図	1群 b-1類土器 No.67	合計	1点
		接合	小計	1点
		H-6	覆土 2層	1点
図N-11 130	拓影図	1群 b-1類土器 No.172	合計	27点
		接合	小計	3点
		P-37	床面	3点
		未接合	小計	24点
		グリッド不明		1点
		P-37	床面	23点
図N-11 131	拓影図	1群 b-1類土器 No.262	合計	19点
		接合 a	小計	2点
		I-13-b		2点
		接合 b	小計	1点
		I-13-b		1点
		未接合	小計	16点
		I-13-a		16点
図N-11 132	拓影図	1群 b-1類土器 No.263	合計	39点
		接合 a	小計	3点
		L-13-d		3点
		接合 b	小計	1点
		L-13-d		1点
		未接合	小計	35点
		グリッド不明		15点
		L-13-a		20点
図N-11 133	拓影図	1群 b-1類土器 No.23	合計	4点
		接合 a	小計	3点
		H-1	覆土 2層	3点
		接合 b	小計	1点
		H-1	覆土 2層	1点
図N-11 134	拓影図	1群 b-1類土器 No.345	合計	1点
		接合	小計	1点
		G-15-a		1点
図N-11 135	拓影図	1群 b-1類土器 No.207	合計	1点
		接合	小計	1点
		P-73	覆土層	1点
図N-11 136	拓影図	1群 b-1類土器 No.125	合計	1点
		接合	小計	1点
		H-11	覆土 2層	1点
図N-11 137	拓影図	1群 b-1類土器 No.343	合計	1点
		接合	小計	1点
		M-12-c		1点
図N-11 138	拓影図	1群 b-1類土器 No.126	合計	1点
		接合	小計	1点
		H-11	覆土 1層	1点
図N-11 139	拓影図	1群 b-1類土器 No.89	合計	1点
		接合	小計	1点
		H-8	覆土 1層	1点
図N-11 140	拓影図	1群 b-1類土器 No.344	合計	1点
		接合	小計	1点
		O-17-d		1点
図N-11 141	拓影図	1群 b-1類土器 No.22	合計	2点
		接合	小計	2点
		H-1	覆土 2層	2点
図N-11 142	拓影図	1群 b-1類土器 No.155	合計	1点
		接合	小計	1点
		H-15	覆土 1層	1点
図N-11 143	拓影図	1群 b-1類土器 No.348	合計	3点

掲載番号	土器分類	整理番号	層位	集計
	接合		小計	3点
		O-12-b		3点
図N-11 144	拓影図 1群 b-1類土器	No.154	合計	90点
	接合		小計	22点
		H-15	床面	21点
		グリッド不明		1点
	未接合		小計	38点
		H-15	床面	33点
		グリッド不明		5点
図N-11 145	拓影図 1群 b-1類土器	No.70	合計	1点
	接合		小計	1点
		H-6	覆土2層	1点
図N-11 146	拓影図 1群 b-1類土器	No.90	合計	47点
	接合 a		小計	11点
		H-9	覆土2層	2点
		H-11	覆土2層	2点
		P-43	覆土1層	7点
	接合 b		小計	4点
		H-9	覆土2層	3点
		H-11	覆土2層	1点
	接合 c		小計	7点
		H-11	覆土2層	7点
	未接合		小計	25点
		H-9	覆土2層	4点
		H-11	床面	2点
		H-11	覆土1層	8点
		H-11	覆土2層	9点
		P-43	覆土1層	2点
図N-11 147	拓影図 1群 b-1類土器	No.163	合計	1点
	接合		小計	1点
		P-22	覆土層	1点
図N-11 148	拓影図 1群 b-1類土器	No.346	合計	2点
	接合		小計	2点
		グリッド不明		2点
図N-11 149	拓影図 1群 b-1類土器	No.349	合計	1点
	接合		小計	1点
		I-13-c		1点
図N-12 150	拓影図 1群 b-1類土器	No.199	合計	11点
	接合		小計	3点
		P-37	覆土層	3点
	未接合		小計	8点
		P-37	覆土層	8点
図N-12 151	拓影図 1群 b-1類土器	No.303	合計	2点
	接合		小計	2点
		L-13-d		2点
図N-12 152	拓影図 1群 b-1類土器	No.302	合計	1点
	接合		小計	1点
		J-15-b		1点
図N-12 153	拓影図 1群 b-1類土器	No.42	合計	16点
	接合 a		小計	5点
		H-4	覆土1層	5点
	接合 b		小計	1点
		H-4	覆土1層	1点
	未接合		小計	10点
		H-4	覆土1層	9点
		H-11	覆土1層	1点
図N-12 154	拓影図 1群 b-1類土器	No.148	合計	15点
	接合		小計	9点
		H-15	床面	1点
		H-15	覆土層	8点
	未接合		小計	10点
		H-15	覆土2層	10点

掲載番号	土器分類	整理番号	層位	集計
図N-12 155	拓影図 1群 b-1類土器	No.280	合計	29点
	接合 a		小計	5点
		I-13-c		5点
	接合 b		小計	1点
		I-13-c		1点
	未接合		小計	23点
		I-13-c		20点
		J-13-a		3点
図N-12 156	拓影図 1群 b-1類土器	No.316	合計	3点
	接合		小計	3点
		グリッド不明		1点
		L-13-c		2点
図N-12 157	拓影図 1群 b-1類土器	No.187	合計	47点
	接合 a		小計	12点
		P-44	床面	12点
	接合 b		小計	11点
		P-44	床面	11点
	未接合		小計	24点
		P-44	床面	23点
		P-44	覆土層	1点
図N-12 158	拓影図 1群 b-1類土器	No.306	合計	1点
	接合		小計	1点
		I-13-b		1点
図N-12 159	拓影図 1群 b-1類土器	No.308	合計	2点
	接合		小計	2点
		グリッド不明		1点
		K-17-b		1点
図N-12 160	拓影図 1群 b-1類土器	No.354	合計	3点
	接合		小計	3点
		N-9-a		3点
図N-12 161	拓影図 1群 b-1類土器	No.305	合計	1点
	接合		小計	1点
		N-8-d		1点
図N-12 162	拓影図 1群 b-1類土器	No.189	合計	56点
	接合		小計	4点
		グリッド不明		1点
		P-44	覆土層	3点
	未接合		小計	52点
		P-44	床面	37点
		P-44	覆土層	15点
図N-12 163	拓影図 1群 b-1類土器	No.276	合計	20点
	接合		小計	3点
		I-12-d		3点
	未接合		小計	17点
		I-12-d		11点
		I-13-a		4点
		I-14-c		2点
図N-12 164	拓影図 1群 b-1類土器	No.26	合計	1点
	接合		小計	1点
		H-2	覆土3層	1点
図N-12 165	拓影図 1群 b-1類土器	No.98	合計	1点
	接合		小計	1点
		H-0	覆土2層	1点
図N-12 166	拓影図 1群 b-1類土器	No.275	合計	35点
	接合		小計	1点
		I-9-b		1点
	未接合		小計	34点
		グリッド不明		3点
		I-9-b		29点
		N-13-a		2点
図N-12 167	拓影図 1群 b-1類土器	No.218	合計	1点
	接合		小計	1点

掲載番号	土器分類	整理番号	層位	数計	
図N-13 168	拓影図	I群b-1類土器 No.139	P-123 覆土1層	1点	
			合計	6点	
			接合	小計	4点
			H-15 覆土1層	4点	
図N-13 169	拓影図	I群b-1類土器 No.329	未接合	小計	2点
			H-15 覆土1層	2点	
			合計	1点	
			接合	小計	1点
図N-13 170	拓影図	I群b-1類土器 No.86	K-12-a	1点	
			合計	2点	
			接合	小計	2点
			H-8 覆土1層	2点	
図N-13 171	拓影図	I群b-1類土器 No.150	合計	28点	
			接合 a	小計	4点
			H-15 覆土2層	1点	
			グリッド不明	3点	
図N-13 172	拓影図	I群b-1類土器 No.116	合計	5点	
			接合	小計	5点
			H-11 覆土1層	2点	
			H-11 覆土2層	2点	
図N-13 173	拓影図	I群b-1類土器 No.328	グリッド不明	1点	
			合計	2点	
			接合	小計	2点
			J-31-a	2点	
図N-13 174	拓影図	I群b-1類土器 No.33	合計	1点	
			接合	小計	1点
			H-3	V層	1点
			合計	27点	
図N-13 175	拓影図	I群b-1類土器 No.106	合計	10点	
			接合	小計	10点
			H-11 覆土2層	8点	
			グリッド不明	1点	
図N-13 176	拓影図	I群b-1類土器 No.107	P-43 覆土1層	1点	
			未接合	小計	17点
			H-9 覆土2層	1点	
			H-11 覆土1層	7点	
図N-13 177	拓影図	I群b-1類土器 No.141	H-11 覆土2層	4点	
			グリッド不明	1点	
			P-43 覆土1層	2点	
			P-43 覆土層	2点	
図N-13 178	拓影図	I群b-1類土器 No.142	合計	1点	
			接合	小計	1点
			H-15 覆土2層	1点	
			合計	1点	
図N-13 179	拓影図	I群b-1類土器 No.177	合計	1点	
			接合	小計	1点
			P-43 覆土1層	1点	
			合計	3点	
図N-13 180	拓影図	I群b-1類土器 No.63	合計	3点	
			接合	小計	3点
			H-5 覆土2層	3点	

掲載番号	土器分類	整理番号	層位	数計	
図N-13 181	拓影図	I群b-1類土器 No.34	合計	1点	
			接合	小計	1点
			H-3	覆土2層	1点
			合計	2点	
図N-13 182	拓影図	I群b-1類土器 No.28	合計	2点	
			接合	小計	2点
			H-3	覆土2層	2点
			合計	6点	
図N-13 183	拓影図	I群b-1類土器 No.335	合計	6点	
			接合	小計	6点
			L-26-b	6点	
			合計	2点	
図N-13 184	拓影図	I群b-1類土器 No.140	合計	2点	
			接合	小計	2点
			グリッド不明	2点	
			合計	1点	
図N-13 185	拓影図	I群b-1類土器 No.178	合計	1点	
			接合	小計	1点
			P-43	覆土層	1点
			合計	1点	
図N-13 186	拓影図	I群b-1類土器 No.314	合計	1点	
			接合	小計	1点
			N-12-c	1点	
			合計	1点	
図N-13 187	拓影図	I群b-1類土器 No.31	合計	1点	
			接合	小計	1点
			H-3	覆土2層	1点
			合計	1点	
図N-13 188	拓影図	I群b-1類土器 No.85	合計	1点	
			接合	小計	1点
			H-8	覆土1層	1点
			合計	1点	
図N-13 189	拓影図	I群b-1類土器 No.108	合計	1点	
			接合	小計	1点
			H-11	覆土2層	1点
			合計	1点	
図N-13 190	拓影図	I群b-1類土器 No.319	合計	1点	
			接合	小計	1点
			L-9-d	1点	
			合計	95点	
図N-13 191	拓影図	I群b-1類土器 No.64	合計	95点	
			接合	小計	5点
			H-5	覆土2層	5点
			未接合	小計	90点
図N-13 192	拓影図	I群b-1類土器 No.324	H-5	覆土2層	89点
			グリッド不明	1点	
			合計	1点	
			接合	小計	1点
図N-13 193	拓影図	I群b-1類土器 No.315	合計	1点	
			接合	小計	1点
			I-13-c	1点	
			合計	1点	
図N-13 194	拓影図	I群b-1類土器 No.131	合計	1点	
			接合	小計	1点
			J-15-c	1点	
			合計	1点	
図N-13 195	拓影図	I群b-1類土器 No.223	合計	1点	
			接合	小計	1点
			H-12	覆土2層	1点
			合計	1点	
図N-13 196	拓影図	I群b-1類土器 No.43	合計	1点	
			接合	小計	1点
			F-30	1点	
			合計	5点	
図N-13 197	拓影図	I群b-1類土器 No.117	合計	5点	
			接合	小計	5点
			H-4	覆土1層	4点
			グリッド不明	1点	
図N-13 198	拓影図	I群b-1類土器 No.24	合計	2点	
			接合	小計	2点
			H-1	覆土2層	2点
			合計	1点	
図N-13 199	拓影図	I群b-1類土器 No.15	合計	1点	
			接合	小計	1点
			H-2	覆土3層	1点
			合計	2点	
図N-13 200	拓影図	I群b-1類土器 No.327	合計	2点	
			接合	小計	2点
			H-1	覆土2層	2点
			合計	1点	

掲載番号	土層分類	整理番号	層位	集計
	接合		小計	1点
		Q-9-a		1点
図N-13 201	拓影図 1群 b-1類土層	No.30	合計	1点
	接合		小計	1点
		H-1	覆土 2層	1点
図N-13 202	拓影図 1群 b-1類土層	No.323	合計	1点
	接合		小計	1点
		I-13-d		1点
図N-13 203	拓影図 1群 b-1類土層	No.322	合計	2点
	接合		小計	2点
		I-15-a		2点
図N-13 204	拓影図 1群 b-1類土層	No.261	合計	20点
	接合		小計	8点
		P-10-c		8点
	未接合		小計	12点
		P-10-c		12点
図N-13 205	拓影図 1群 b-1類土層	No.206	合計	22点
	接合		小計	3点
		P-73	覆土層	3点
	未接合		小計	19点
		P-73	覆土層	19点
図N-13 206	拓影図 1群 b-1類土層	No.279	合計	43点
	接合		小計	6点
		P-10-c		6点
	未接合		小計	37点
		P-10-c		31点
		Q-10-d		6点
図N-13 207	拓影図 1群 b-1類土層	No.77	合計	5点
	接合 a		小計	2点
		H-7	覆土層	2点
	接合 b		小計	3点
		H-7	覆土 1層	3点
図N-13 208	拓影図 1群 b-1類土層	No.144	合計	2点
	接合		小計	2点
		H-15	床面	1点
		H-15	覆土 2層	1点
図N-13 209	拓影図 1群 b-1類土層	No.318	合計	1点
	接合		小計	1点
		P-15-a		1点
図N-13 210	拓影図 1群 b-1類土層	No.146	合計	1点
	接合		小計	1点
		H-15	覆土 2層	1点
図N-13 211	拓影図 1群 b-1類土層	No.79	合計	1点
	接合		小計	1点
		H-7	床面	1点
図N-13 212	拓影図 1群 b-1類土層	No.112	合計	3点
	接合		小計	3点
		H-11	覆土 1層	1点
		H-11	覆土 2層	2点
図N-13 213	拓影図 1群 b-1類土層	No.179	合計	1点
	接合		小計	1点
		P-43	覆土 1層	1点
図N-13 214	拓影図 1群 b-1類土層	No.180	合計	1点
	接合		小計	1点
		P-43	覆土 1層	1点
図N-13 215	拓影図 1群 b-1類土層	No.317	合計	1点
	接合		小計	1点
		K-16-a		1点
図N-13 216	拓影図 1群 b-1類土層	No.29	合計	2点
	接合		小計	2点
		H-3	覆土 2層	2点
図N-14 217	拓影図 1群 b-1類土層	No.217	合計	1点

掲載番号	土層分類	整理番号	層位	集計
	接合		小計	1点
		P-122	覆土層	1点
図N-14 218	拓影図 1群 b-1類土層	No.170	合計	1点
	接合		小計	1点
		P-37	覆土層	1点
図N-14 219	拓影図 1群 b-1類土層	No.188	合計	3点
	接合		小計	3点
		P-44	床面	1点
	未接合		小計	2点
		P-44	床面	1点
		P-44	覆土層	1点
図N-14 220	拓影図 1群 b-1類土層	No.111	合計	1点
	接合		小計	1点
		H-9	覆土 2層	1点
図N-14 221	拓影図 1群 b-1類土層	No.80	合計	2点
	接合 a		小計	1点
		H-7	覆土 2層	1点
	接合 b		小計	1点
		H-7	覆土層	1点
図N-14 222	拓影図 1群 b-1類土層	No.321	合計	5点
	接合		小計	5点
		J-14-d		5点
図N-14 223	拓影図 1群 b-1類土層	No.292	合計	1点
	接合		小計	1点
		J-13-d		1点
図N-14 224	拓影図 1群 b-1類土層	No.181	合計	1点
	接合		小計	1点
		P-43	覆土 1層	1点
図N-14 225	拓影図 1群 b-1類土層	No.78	合計	1点
	接合		小計	1点
		H-7	覆土 2層	1点
図N-14 226	拓影図 1群 b-1類土層	No.128	合計	46点
	接合 a		小計	2点
		H-12	覆土 2層	2点
	接合 b		小計	7点
		M-12-c		5点
		M-18-b		2点
	未接合		小計	31点
		H-12	覆土 2層	3点
		H-12	覆土層	6点
		L-13-a		4点
		M-12-c		16点
		M-13-b		1点
		P-123	覆土 1層	1点
図N-14 227	拓影図 1群 b-1類土層	No.278	合計	21点
	接合		小計	4点
		K-15-a		4点
	未接合		小計	17点
		K-15-a		17点
図N-14 228	拓影図 1群 b-1類土層	No.110	合計	1点
	接合		小計	1点
		H-11	覆土 2層	1点
図N-14 229	拓影図 1群 b-1類土層	No.109	合計	3点
	接合		小計	3点
		H-11	覆土 1層	2点
		H-11	覆土 2層	1点
図N-14 230	拓影図 1群 b-1類土層	No.113	合計	2点
	接合		小計	2点
		H-11	覆土 2層	2点
図N-14 231	拓影図 1群 b-1類土層	No.115	合計	1点
	接合		小計	1点
		H-11	床面	1点

掲載番号	土器分類	整理番号	層位	集計
図N-14 232	拓影図	I群b-1類土器 No.339	合計	1点
			小計	1点
			K-31-d	1点
図N-14 233	拓影図	I群b-1類土器 No.293	合計	1点
			小計	1点
			J-12-d	1点
図N-14 234	拓影図	I群b-1類土器 No.114	合計	1点
			小計	1点
			H-11	覆土2層 1点
図N-14 235	拓影図	I群b-1類土器 No.37	合計	3点
			小計	3点
			H-3	覆土2層 3点
図N-14 236	拓影図	I群b-1類土器 No.99	合計	1点
			小計	1点
			H-9	覆土2層 1点
図N-14 237	拓影図	I群b-1類土器 No.45	合計	3点
			小計	3点
			H-11	覆土1層 3点
図N-14 238	拓影図	I群b-1類土器 No.273	合計	25点
			小計	1点
			H-11-c	1点
			未接合	小計 24点
			H-11-c	23点
			H-12-c	1点
図N-14 239	拓影図	I群b-1類土器 No.143	合計	4点
			小計	4点
			H-15	覆土1層 4点
図N-14 240	拓影図	I群b-1類土器 No.162	合計	2点
			小計	2点
			P-15	覆土層 2点
図N-14 241	拓影図	I群b-1類土器 No.92	合計	1点
			小計	1点
			H-9	覆土2層 1点
図N-14 242	拓影図	I群b-1類土器 No.326	合計	1点
			小計	1点
			K-15-a	1点
図N-14 243	拓影図	I群b-1類土器 No.91	合計	1点
			小計	1点
			H-9	覆土2層 1点
図N-14 244	拓影図	I群b-1類土器 No.85	合計	1点
			小計	1点
			H-6	床面 1点
図N-14 245	拓影図	I群b-1類土器 No.147	合計	1点
			小計	1点
			H-15	覆土1層 1点
図N-14 246	拓影図	I群b-1類土器 No.66	合計	2点
			小計	2点
			H-6	床面 1点
			H-6	覆土2層 1点
図N-14 247	拓影図	I群b-1類土器 No.68	合計	1点
			小計	1点
			H-6	床面 1点
図N-14 248	拓影図	I群b-1類土器 No.96	合計	1点
			小計	1点
			H-9	覆土2層 1点
図N-14 249	拓影図	I群b-1類土器 No.118	合計	1点
			小計	1点
			H-11	覆土2層 1点
図N-14 250	拓影図	I群b-1類土器 No.119	合計	4点
			小計	4点
			H-11	覆土2層 4点
図N-14 251	拓影図	I群b-1類土器 No.16	合計	2点

掲載番号	土器分類	整理番号	層位	集計
			接合	小計 2点
			H-1	覆土2層 2点
図N-14 252	拓影図	I群b-1類土器 No.94	合計	1点
			小計	1点
			H-9	覆土2層 1点
図N-14 253	拓影図	I群b-1類土器 No.294	合計	1点
			小計	1点
			K-15-a	1点
図N-14 254	拓影図	I群b-1類土器 No.295	合計	3点
			小計	1点
			H-11-c	1点
図N-14 255	拓影図	I群b-1類土器 No.182	合計	1点
			小計	1点
			P-43	覆土1層 1点
図N-14 256	拓影図	I群b-1類土器 No.81	合計	1点
			小計	1点
			H-7	覆土1層 1点
図N-14 257	拓影図	I群b-1類土器 No.95	合計	1点
			小計	1点
			H-9	覆土2層 1点
図N-14 258	拓影図	I群b-1類土器 No.29	合計	1点
			小計	1点
			H-1	覆土2層 1点
図N-14 259	拓影図	I群b-1類土器 No.93	合計	1点
			小計	1点
			H-9	覆土2層 1点
図N-14 260	拓影図	I群b-1類土器 No.27	合計	2点
			小計	2点
			H-2	覆土3層 2点
図N-14 261	拓影図	I群b-1類土器 No.97	合計	1点
			小計	1点
			H-9	覆土2層 1点
図N-14 262	拓影図	I群b-1類土器 No.296	合計	1点
			小計	1点
			M-14-d	1点
図N-14 263	拓影図	I群b-1類土器 No.133	合計	1点
			小計	1点
			H-12	覆土2層 1点
図N-14 264	拓影図	I群b-1類土器 No.35	合計	2点
			小計	2点
			H-3	覆土2層 2点
図N-14 265	拓影図	I群b-1類土器 No.124	合計	1点
			小計	1点
			H-11	覆土1層 1点
図N-14 266	拓影図	I群b-1類土器 No.134	合計	2点
			小計	2点
			H-12	覆土層 2点
図N-14 267	拓影図	I群b-1類土器 No.219	合計	1点
			小計	1点
			P-123	覆土1層 1点
図N-14 268	拓影図	I群b-1類土器 No.151	合計	1点
			小計	1点
			H-15	覆土2層 1点
図N-14 269	拓影図	I群b-1類土器 No.84	合計	3点
			小計	3点
			H-7	覆土2層 3点
図N-14 270	拓影図	I群b-1類土器 No.122	合計	1点
			小計	1点
			H-11	覆土1層 1点
図N-14 271	拓影図	I群b-1類土器 No.304	合計	1点
			小計	1点
			J-8-c	1点

掲載番号	土層分類	整理番号	層位	集計
図N-15 272	拓影図 1群b-1順土層	No.121	合計	2点
			接合	小計 2点
			H-11	覆土1層 1点 覆土2層 1点
図N-15 273	拓影図 1群b-1順土層	No.123	合計	1点
			接合	小計 1点
			H-11	覆土1層 1点
図N-15 274	拓影図 1群b-1順土層	No.87	合計	1点
			接合	小計 1点
			H-8	覆土1層 1点
図N-15 275	拓影図 1群b-1順土層	No.17	合計	1点
			接合	小計 1点
			H-1	覆土2層 1点
図N-15 276	拓影図 1群b-1順土層	No.82	合計	1点
			接合	小計 1点
			H-7	覆土2層 1点
図N-15 277	拓影図 1群b-1順土層	No.183	合計	1点
			接合	小計 1点
			P-43	覆土1層 1点
図N-15 278	拓影図 1群b-1順土層	No.171	合計	30点
			接合	小計 1点
			P-37	覆土層 1点
			未接合	小計 29点
			P-37	床面 3点
			P-37	覆土層 25点
図N-15 279	拓影図 1群b-1順土層	No.25	合計	1点
			接合	小計 1点
			H-2	覆土3層 1点
図N-15 280	拓影図 1群b-1順土層	No.18	合計	1点
			接合	小計 1点
			H-1	覆土2層 1点
図N-15 281	拓影図 1群b-1順土層	No.168	合計	1点
			接合	小計 1点
			P-36	覆土3層 1点
図N-15 282	拓影図 1群b-1順土層	No.136	合計	1点
			接合	小計 1点
			H-13	覆土2層 1点
図N-15 283	拓影図 1群b-1順土層	No.21	合計	1点
			接合	小計 1点
			H-1	覆土2層 1点
図N-15 284	拓影図 1群b-1順土層	No.312	合計	1点
			接合	小計 1点
			L-12-a	1点
図N-15 285	拓影図 1群b-1順土層	No.19	合計	3点
			接合	小計 3点
			H-1	覆土2層 3点
図N-15 286	拓影図 1群b-1順土層	No.150	合計	2点
			接合	小計 2点
			H-15	覆土1層 2点
図N-15 287	拓影図 1群b-1順土層	No.149	合計	11点
			接合	小計 1点
			H-15	覆土1層 1点
			未接合	小計 10点
			H-15	床面 1点
			H-15	覆土1層 8点
			グリッド不明	1点
図N-15 288	拓影図 1群b-1順土層	No.88	合計	1点
			接合	小計 1点
			H-8	覆土2層 1点
図N-15 289	拓影図 1群b-1順土層	No.69	合計	1点
			接合	小計 1点
			H-6	床面 1点

掲載番号	土層分類	整理番号	層位	集計
図N-15 290	拓影図 1群b-1順土層	No.311	合計	1点
			接合	小計 1点
			L-29-c	1点
図N-15 291	拓影図 1群b-1順土層	No.289	合計	1点
			接合	小計 1点
			M-12-c	1点
図N-15 292	拓影図 1群b-1順土層	No.325	合計	1点
			接合	小計 1点
			N-14-a	1点
図N-15 293	拓影図 1群b-1順土層	No.291	合計	1点
			接合	小計 1点
			L-13-d	1点
図N-15 294	拓影図 1群b-1順土層	No.190	合計	37点
			接合	小計 14点
			グリッド不明	4点
			P-44	床面 10点
			未接合	小計 23点
			P-44	床面 22点
			P-44	覆土層 1点
図N-15 295	拓影図 1群b-1順土層	No.44	合計	26点
			接合	小計 1点
			H-4	覆土1層 1点
			未接合	小計 25点
			H-4	覆土1層 25点
図N-15 296	拓影図 1群b-1順土層	No.288	合計	2点
			接合	小計 2点
			グリッド不明	1点
			P-15-a	1点
図N-15 297	拓影図 1群b-1順土層	No.290	合計	1点
			接合	小計 1点
			N-13-b	1点
図N-15 298	拓影図 1群b-1順土層	No.132	合計	1点
			接合	小計 1点
			H-12	覆土層 1点
図N-15 299	拓影図 1群b-1順土層	No.120	合計	2点
			接合	小計 2点
			H-11	覆土1層 2点
図N-15 300	拓影図 1群b-1順土層	No.130	合計	1点
			接合	小計 1点
			H-12	床面 1点
図N-15 301	拓影図 1群b-1順土層	No.129	合計	19点
			接合 a	小計 4点
			H-12	覆土層 4点
			接合 b	小計 3点
			H-12	覆土2層 1点
			H-12	覆土層 2点
			未接合	小計 12点
			H-12	覆土2層 3点
			H-12	覆土層 9点
図N-15 302	拓影図 1群b-1順土層	No.320	合計	2点
			接合	小計 2点
			N-12-d	2点
図N-15 303	拓影図 1群b-1順土層	No.145	合計	1点
			接合	小計 1点
			H-15	床面 1点
図N-15 304	拓影図 1群b-1順土層	No.307	合計	3点
			接合	小計 3点
			J-14-a	3点
図N-15 305	拓影図 1群b-1順土層	No.366	合計	1点
			接合	小計 1点
			グリッド不明	1点
図N-15 306	拓影図 1群b-1順土層	No.83	合計	1点

掲載番号	土器分類	整理番号	層位	集計	
	接合		小計	1点	
		H-7	覆土1層	1点	
図W-15 307	拓影図	I群 b-1類土器 No.309	合計	1点	
	接合		小計	1点	
		N-10-d		1点	
図W-15 308	拓影図	I群 b-1類土器 No.310	合計	1点	
	接合		小計	1点	
		L-14-c		1点	
図W-15 309	拓影図	I群 b-1類土器 No.365	合計	1点	
	接合		小計	1点	
		H-8-c		1点	
図W-16 310	拓影図	I群 b-1類土器 No.215	合計	36点	
	接合 a		小計	5点	
		グリッド不明		1点	
		R-28-d		3点	
		R-29-b		2点	
	接合 b		小計	3点	
		R-29-a		3点	
	接合 c		小計	1点	
		R-29-a		1点	
	未接合		小計	26点	
		R-29-d		6点	
		R-29-a		20点	
	図W-16 311	拓影図	I群 b-1類土器 No.286	合計	41点
		接合 a		小計	13点
		R-28-d		13点	
接合 b			小計	3点	
		Q-29-c		2点	
		R-28-d		1点	
未接合			小計	25点	
		R-28-d		23点	
	R-29-a		2点		
図W-16 312	拓影図	I群 b-1類土器 No.287	合計	106点	
	接合 a		小計	8点	
		M-37-d		8点	
	接合 b		小計	15点	
		グリッド不明		1点	
		M-37-d		9点	
		M-38-a		1点	
		O-32-a		2点	
		O-36-a		1点	
		O-38-a		1点	
	接合 c		小計	9点	
		O-38-a		9点	
	接合 d		小計	2点	
		O-38-a		2点	
	未接合		小計	72点	
		M-37-d		8点	
		M-38-d		1点	
		O-38-a		62点	
		R-29-b		1点	
	図W-16 313	拓影図	I群 b-1類土器 No.214	合計	11点
		接合 a		小計	1点
		P-104	覆土1層	1点	
接合 b			小計	2点	
		P-104	覆土1層	2点	
未接合			小計	8点	
		P-104	覆土1層	8点	
図W-16 314	拓影図	I群 b-1類土器 No.283	合計	55点	
	接合 a		小計	4点	
		R-39-a		4点	
	接合 b		小計	2点	

掲載番号	土器分類	整理番号	層位	集計
		R-39-a		2点
	未接合		小計	49点
		R-39-a		49点
図W-17 315	拓影図	I群 b-1類土器 No.285	合計	301点
	接合 a		小計	5点
		L-38-d		5点
	接合 b		小計	33点
		L-38-d		33点
	未接合		小計	263点
		グリッド不明		4点
		K-38-c		11点
	L-33-c		1点	
	L-38-d		247点	
図W-17 316	拓影図	I群 b-1類土器 No.284	合計	16点
	接合		小計	4点
		J-27-c		4点
	未接合		小計	12点
		J-27-c		12点
図W-17 317	拓影図	I群 b-1類土器 No.346	合計	1点
	接合		小計	1点
		R-26-c		1点
図W-17 318	拓影図	I群 b-1類土器 No.538	合計	1点
	接合		小計	1点
		S-28-d		1点
図W-17 319	拓影図	I群 b-1類土器 No.337	合計	2点
	接合		小計	2点
		Q-29-b		2点
図W-17 320	拓影図	I群 b-1類土器 No.351	合計	1点
	接合		小計	1点
		P-28-c		1点
図W-17 321	拓影図	I群 b-1類土器 No.350	合計	1点
	接合		小計	1点
		グリッド不明		1点
図W-17 322	拓影図	I群 b-1類土器 No.357	合計	1点
	接合		小計	1点
		Q-29-b		1点
図W-17 323	拓影図	I群 b-2類土器 No.355	合計	2点
	接合		小計	2点
		I-38-a		2点
図W-17 324	拓影図	I群 b-3類土器 No.558	合計	46点
	接合 a		小計	4点
		K-25-b		4点
	接合 b		小計	2点
		K-25-b		2点
	未接合		小計	40点
		K-25-b		40点
図W-17 325	拓影図	I群 b-3類土器 No.360	合計	6点
	接合		小計	4点
		O-27-d		4点
	未接合		小計	2点
		O-27-d		2点
図W-17 326	拓影図	I群 b-3類土器 No.361	合計	4点
	接合		小計	1点
		M-27-a		1点
	未接合		小計	3点
		M-27-a		3点
図W-17 327	拓影図	I群 b-3類土器 No.362	合計	4点
	接合		小計	1点
		J-26-a		1点
	未接合		小計	3点
		J-26-a		3点
図W-17 328	拓影図	I群 b-4類土器 No.369	合計	35点

掲載番号	土層分類	整理番号	層位	累計	掲載番号	土層分類	整理番号	層位	累計	
	接合 a		小計	4点		接合		小計	2点	
	J-24-a			4点		FC-5		V層	2点	
	接合 b		小計	2点		未接合			小計	12点
	J-23-d			2点		グリッド不明				3点
	未接合		小計	29点		FC-5		V層	1点	
	J-23-d			21点	FC-5		V層	8点		
	J-24-a			8点	合計			45点		
図N-17 329	拓影図 1群 b-4類土層 No.368		合計	2点	図N-18 336	拓影図 1群 b-4類土層 No.161		合計	45点	
	接合 a		小計	1点		接合 a		小計	1点	
	R-22-c			1点		P-14		覆土層	1点	
	接合 b		小計	1点		未接合			小計	7点
	R-22-c			1点	グリッド不明				1点	
図N-17 330	拓影図 1群 b-4類土層 No.367		合計	6点	I-24-c				2点	
	接合 a		小計	2点	P-14		覆土層		4点	
	O-27-d			2点	未接合			小計	37点	
	接合 b		小計	4点	I-24-c				8点	
	O-27-d			4点	P-14		覆土層		29点	
図N-17 331	拓影図 1群 b-4類土層 No.229		合計	21点	図N-18 337	拓影図 1群 b-4類土層 No.160		合計	232点	
	接合		小計	1点		接合 a		小計	17点	
	FC-5		V層	1点		O-23-a				7点
	未接合		小計	29点		P-13		覆土層		10点
	FC-5		V層	20点	接合 b			小計	4点	
図N-17 332	拓影図 1群 b-4類土層 No.378		合計	196点	O-23-a				4点	
	接合 a		小計	16点	接合 c			小計	5点	
	グリッド不明			3点	O-23-a				5点	
	L-25-c			6点	未接合			小計	205点	
	L-27-b			6点	グリッド不明				41点	
	M-26-a			1点	O-23-a				65点	
	接合 b		小計	3点	P-13		覆土層		21点	
	L-25-b			3点	P-85		覆土層		1点	
	未接合		小計	177点	Q-23-a				76点	
	H-10		覆土 2層	3点	Q-24-a				2点	
	グリッド不明			7点	図N-18 338	拓影図 1群 b-4類土層 No.372		合計	2点	
J-24-b			3点		接合			小計	2点	
J-27-a			1点		グリッド不明				1点	
L-24-d			2点	J-14-a					1点	
L-25-a			30点	図N-18 339	拓影図 1群 b-4類土層 No.32		合計	1点		
L-26-b			8点		接合			小計	1点	
L-27-a			17点		H-3		V層		1点	
O-27-b			54点	図N-18 340	拓影図 1群 b-4類土層 No.371		合計	2点		
P-24-d			1点		接合			小計	2点	
P-25-c			41点		O-27-d					2点
P-26-a			2点	図N-18 341	拓影図 1群 b-4類土層 No.231		合計	14点		
Q-26-a			3点		接合			小計	2点	
R-19-c			5点		FC-5		V層		1点	
図N-18 333	拓影図 1群 b-4類土層 No.369		合計	2点	N-25-d				1点	
	接合		小計	2点	未接合			小計	12点	
	G-18-a			2点	K-26-c				1点	
図N-18 334	拓影図 1群 b-4類土層 No.72		合計	73点	L-25-b				1点	
	接合		小計	8点	L-26-a				1点	
	H-6		床面	7点	M-25-a				1点	
	H-6		覆土 2層	1点	N-25-d				5点	
	未接合		小計	64点	N-26-c				1点	
	H-6		床面	4点	O-26-d				1点	
	H-6		覆土 2層	1点	P-19-d				1点	
	J-13-a			1点	図N-18 342	拓影図 1群 b-4類土層 No.71		合計	1点	
	K-12-a			43点		接合			小計	1点
	L-11-c			6点		H-6		覆土 2層		1点
	L-12-a			6点	図N-18 343	拓影図 1群 b-4類土層 No.373		合計	1点	
N-11-c			2点		接合			小計	1点	
P-25-a			1点		S-19-d				1点	
図N-18 335	拓影図 1群 b-4類土層 No.230		合計	14点	図N-18 344	拓影図 1群 b-4類土層 No.370		合計	1点	
					接合			小計	1点	

掲載番号	土葬分類	墓型番号	層位	累計
国N-18 345	拓影園	I群 b-4類土葬	J-14-a	1点
			No.38	合計 1点
			接合	小計 1点
			H-3	覆土2層 1点
国N-18 346	拓影園	I群 b-4類土葬	No.377	合計 14点
			接合	小計 5点
			グリッド不明	4点
			O-25-a	1点
			未接合	小計 9点
			グリッド不明	5点
			N-27-c	1点
			O-24-d	1点
			O-25-a	1点
			Q-24-a	1点
			国N-18 347	拓影園
			接合	小計 3点
			H-15	覆土 3点
国N-18 348	拓影園	I群 b-4類土葬	No.374	合計 3点
			接合	小計 3点
			J-21-a	3点
国N-18 349	実業園	I群 b-4類土葬	No.363	合計 339点
			接合	小計 106点
			H-19-b	106点
			未接合	小計 233点
			H-19-b	233点
国N-18 350	拓影園	I群 b-4類土葬	No.375	合計 1点
			接合	小計 1点
			I-8-b	1点
国N-19 1	拓影園	III群 a類土葬	No.381	合計 1点
			接合	小計 1点
			G-34-b	1点
国N-19 2	拓影園	III群 a類土葬	No.382	合計 1点
			接合	小計 1点
			L-37-c	1点
国N-19 3	拓影園	III群 a類土葬	No.379	合計 25点
			接合 a	小計 1点
			K-38-c	1点
			接合 b	小計 4点
			K-38-c	3点
			K-39-a	1点
			接合 c	小計 2点
			K-38-c	2点
			未接合	小計 28点
			J-34-a	2点
			PC-7	2点
			H-38-b	1点
			K-38-c	19点
			K-39-a	1点
L-37-c	1点			
L-38-b	2点			
国N-19 4	拓影園	III群 a類土葬	No.380	合計 27点
			接合 a	小計 1点
			L-38-d	1点
			接合 b	小計 1点
			L-38-d	1点
			接合 c	小計 1点
			L-37-b	1点
			未接合	小計 24点
			K-38-c	1点
			L-37-b	21点
			L-38-b	1点
R-40-b	1点			

掲載番号	土葬分類	墓型番号	層位	累計
国N-19 5	拓影園	III群 a類土葬	No.159	合計 1点
			接合	小計 1点
			P-9	覆土2層 1点
国N-19 6	拓影園	III群 a類土葬	No.213	合計 2点
			接合	小計 2点
			P-95	床面 1点
			P-95	覆土1層 1点
国N-19 7	拓影園	III群 a類土葬	No.384	合計 1点
			接合	小計 1点
			H-20-c	1点
国N-19 8	拓影園	III群 a類土葬	No.212	合計 2点
			接合	小計 2点
			P-95	覆土1層 2点
国N-19 9	拓影園	III群 a類土葬	No.385	合計 2点
			接合	小計 2点
			L-38-d	2点
国N-19 10	拓影園	III群 a類土葬	No.387	合計 5点
			接合	小計 5点
			K-35-a	5点
国N-19 11	拓影園	III群 b類土葬	No.383	合計 1点
			接合	小計 1点
			K-35-c	1点
国N-19 12	拓影園	III群 b類土葬	No.385	合計 1点
			接合	小計 1点
			L-36-d	1点
国N-19 13	拓影園	IV群 a+b類土葬	No.388	合計 8点
			接合 a	小計 5点
			N-27-b	1点
			N-28-b	1点
			O-27-b	3点
			接合 b	小計 3点
国N-19 14	拓影園	IV群 a+b類土葬	No.391	合計 1点
			接合	小計 1点
			N-27-b	1点
国N-19 15	拓影園	IV群 a+b類土葬	No.389	合計 7点
			接合	小計 7点
			N-27-a	4点
			N-28-a	3点
国N-19 16	拓影園	IV群 a+b類土葬	No.390	合計 4点
			接合	小計 4点
			L-31-a	4点
国N-19 17	拓影園	IV群 a+b類土葬	No.392	合計 1点
			接合	小計 1点
			K-34-c	1点
国N-19 18	拓影園	IV群 a+b類土葬	No.383	合計 1点
			接合	小計 1点
			J-32-b	1点
国N-20 1	拓影園	V群 c類土葬	No.398	合計 37点
			接合 a	小計 3点
			G-21-d	3点
			接合 b	小計 8点
			G-21-d	8点
			接合 c	小計 8点
			G-21-d	8点
			接合 d	小計 6点
			G-21-d	6点
			未接合	小計 12点
			G-19-a	1点
G-21-d	11点			
国N-20 2	拓影園	V群 c類土葬	No.211	合計 1点
			接合	小計 1点

掲載番号	土器分類	整理番号	層位	累計
		P-82	覆土層	1点
図N-20 3	拓影図 V群c類土器 No.200		合計	1点
	接合		小計	1点
		P-60	覆土層	1点
図N-20 4	拓影図 V群c類土器 No.199		合計	3点
	接合		小計	3点
		P-55	覆土層	3点
図N-20 5	拓影図 V群c類土器 No.195		合計	1点
	接合		小計	1点
		P-51	覆土層	1点
図N-20 6	拓影図 V群c類土器 No.198		合計	1点
	接合		小計	1点
		P-56	覆土層	1点
図N-20 7	拓影図 V群c類土器 No.208		合計	1点
	接合		小計	1点
		P-74	覆土層	1点
図N-20 8	拓影図 V群c類土器 No.193		合計	1点
	接合		小計	1点
		P-49	覆土層	1点
図N-20 9	拓影図 V群c類土器 No.209		合計	1点
	接合		小計	1点
		P-75	覆土層	1点
図N-20 10	拓影図 V群c類土器 No.192		合計	1点
	接合		小計	1点
		P-47	覆土層	1点
図N-20 11	実測図 V群c類土器 No.164		合計	37点
	接合		小計	35点
		グリッド不明	2点	
		G-18-d	3点	
		G-19-a	6点	
		P-26	覆土1層	10点
		P-26	覆土層	14点
	未接合		小計	2点
		P-26	覆土1層	2点
図N-20 12	拓影図 V群c類土器 No.165		合計	21点
	接合a		小計	9点
		G-19-a	2点	
		P-26	覆土1層	3点
		P-26	覆土層	4点
	接合b		小計	4点
		G-19-a	2点	
		P-26	覆土1層	2点
	未接合		小計	8点
		G-19-a	1点	
		P-26	覆土1層	6点
		P-26	覆土層	1点
図N-20 13	拓影図 V群c類土器 No.166		合計	34点
	接合		小計	24点
		G-19-a	2点	
		P-26	覆土1層	5点
		P-26	覆土層	16点
	未接合		小計	10点
		G-18-d	2点	
		G-19-a	2点	
		P-26	覆土1層	5点
		P-26	覆土層	1点
図N-20 14	拓影図 V群c類土器 No.167		合計	12点
	接合		小計	12点
		P-26	覆土1層	2点
		P-26	覆土層	10点
図N-20 15	拓影図 V群c類土器 No.174		合計	6点
	接合		小計	6点

掲載番号	土器分類	整理番号	層位	累計
		P-26	覆土層	6点
図N-20 16	拓影図 V群c類土器 No.173		合計	11点
	接合		小計	4点
		G-18-d	1点	
		G-19-a	1点	
		P-26	覆土1層	2点
	未接合		小計	7点
		G-19-a	6点	
		J-24-b	1点	
図N-20 17	拓影図 V群c類土器 No.157		合計	3点
	接合		小計	3点
		P-2	覆土層	3点
図N-20 18	拓影図 V群c類土器 No.397		合計	2点
	接合		小計	2点
		L-34-b	2点	
図N-20 19	拓影図 V群c類土器 No.197		合計	1点
	接合		小計	1点
		P-53	覆土層	1点
図N-20 20	拓影図 V群c類土器 No.210		合計	1点
	接合		小計	1点
		P-60	覆土層	1点
図N-20 21	拓影図 V群c類土器 No.196		合計	1点
	接合		小計	1点
		P-52	覆土層	1点
図N-20 22	拓影図 V群c類土器 No.394		合計	11点
	接合		小計	4点
		L-34-b	4点	
	未接合		小計	7点
		グリッド不明	1点	
		L-34-b	6点	
図N-20 23	拓影図 V群c類土器 No.395		合計	29点
	接合		小計	3点
		Q-21-c	3点	
	未接合		小計	26点
		Q-21-c	25点	
		Q-24-a	1点	
図N-20 24	拓影図 V群c類土器 No.201		合計	1点
	接合		小計	1点
		P-64	覆土層	1点
図N-20 25	拓影図 V群c類土器 No.194		合計	2点
	接合		小計	2点
		I-17-a	1点	
		P-49	覆土層	1点
図N-20 26	拓影図 V群c類土器 No.396		合計	12点
	接合		小計	7点
		G-21-d	7点	
	未接合		小計	5点
		G-21-d	5点	

表IV-7 掲載石器一覧

発掘層No.	分類	品名・説明	層位	形状	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備 考
図IV-25-1	石刃鏃	J-9-c-7	V		3.7×0.9×0.3	1.2	黒曜石	
図IV-25-2	石刃鏃	L-9-a-3	V		3.6×0.9×0.3	1.0	黒曜石	
図IV-25-3	石刃鏃	M-8-c-1	V		2.8×1.2×0.3	0.8	黒曜石	
図IV-25-4	スクレイパー	K-10-c-7	V	欠損品	(5.0)×3.7×1.0	(13.4)	黒曜石	石刃素材、5と同一個体
図IV-25-5	石刃	K-10-c-3	I b	欠損品	(2.9)×(3.6)×(0.7)	(5.5)	黒曜石	4と同一個体
図IV-25-6	スクレイパー	Q-8-b-1	I b	欠損品	(4.5)×2.3×0.5	(6.6)	黒曜石	石刃素材
図IV-25-7	石刃	R-8-d-5	V	欠損品	(2.1)×1.4×0.2	(0.8)	黒曜石	
図IV-25-8	石刃	K-34-a-2	V	欠損品	(2.8)×1.4×0.4	(1.6)	黒曜石	
図IV-25-9	石鏃	K-12-b-35	V		3.6×1.9×0.6	3.4	瑠璃頁岩	
図IV-25-10	石鏃	I-19-b-1	V	欠損品	(2.5)×1.5×0.4	(1.1)	瑠璃頁岩	
図IV-25-11	石鏃	K-19-a-4	V		2.7×1.1×0.3	0.7	瑠璃頁岩	
図IV-25-12	石鏃	I-15-a-16	V		2.2×1.2×0.2	0.6	瑠璃頁岩	
図IV-25-13	石鏃	N-13-a-8	V		2.2×1.1×0.4	0.6	瑠璃頁岩	
図IV-25-14	石鏃	L-14-a-7	I b	欠損品	(2.3)×1.1×0.3	(0.6)	瑠璃頁岩	
図IV-25-15	石鏃	P-49-19	-	欠損品	3.2×2.3×0.4	0.8	瑠璃頁岩	P-49(晩期のピット)出土
図IV-25-16	石鏃	K-12-b-29	V	欠損品	(3.2)×1.4×0.5	(1.7)	瑠璃頁岩	
図IV-25-17	石鏃	K-19-a-5	V	欠損品	3.1×1.0×0.4	0.7	瑠璃頁岩	
図IV-25-18	石鏃	J-12-b-16 風俣木	欠損品	(2.1)×1.6×0.3	(0.6)	瑠璃頁岩		
図IV-25-19	石鏃	Q-29-b-14	V	欠損品	(1.9)×1.5×0.4	(0.8)	瑠璃頁岩	
図IV-25-20	石鏃	R-9-d-5	V	欠損品	(2.2)×1.5×0.3	(0.7)	瑠璃頁岩	
図IV-25-21	石鏃	P-10-c-13	V		2.3×1.6×0.5	1.0	瑠璃頁岩	
図IV-25-22	石鏃	R-31-a-7	V		2.3×1.3×0.4	0.9	瑠璃頁岩	
図IV-25-23	石鏃	O-9-b-3	V	欠損品	(1.8)×1.1×0.3	(0.5)	瑠璃頁岩	
図IV-25-24	石鏃	M-10-c-2	V	欠損品	(1.8)×1.2×0.3	(0.5)	瑠璃頁岩	
図IV-25-25	石鏃	J-10-b-4	V		1.9×0.6×0.2	0.2	黒曜石	
図IV-25-26	石鏃	P-42-c-2	V	欠損品	(2.5)×1.1×0.2	(0.7)	黒曜石	
図IV-25-27	石鏃	N-24-a-9	V	欠損品	(2.8)×1.0×0.4	0.9	瑠璃頁岩	
図IV-25-28	石鏃	K-12-d-4	I b		3.2×1.0×0.4	1.4	黒曜石	
図IV-25-29	石鏃	K-12-a-27	V	欠損品	(3.5)×1.0×0.4	(1.6)	黒曜石	
図IV-25-30	石鏃	K-11-d-4	V		3.8×1.9×0.6	4.0	瑠璃頁岩	
図IV-25-31	石鏃	H-15-c-6	V	欠損品	(3.9)×1.7×0.3	2.6	瑠璃頁岩	
図IV-25-32	石鏃	P-18-3	-	欠損品	(2.4)×1.4×0.2	(0.5)	黒曜石	P-18(現代のピット)出土
図IV-25-33	石鏃	N-23-c-2	V	欠損品	2.3×1.1×0.4	0.7	めう	
図IV-25-34	石鏃	H-17-b-1	V	欠損品	(11.4)×4.7×1.3	(74.6)	瑠璃頁岩	M-17-d-1と接合
図IV-25-35	石鏃	I-15-a-17	V		4.8×2.7×0.5	6.7	瑠璃頁岩	
図IV-25-36	石鏃	O-37-b-1	V		5.6×3.3×0.8	16.0	瑠璃頁岩	
図IV-26-37	石鏃	K-12-b-10	V	欠損品	5.2×1.9×1.0	8.4	瑠璃頁岩	
図IV-26-38	石鏃	N-16-c-2	V		4.2×2.0×0.5	4.3	瑠璃頁岩	
図IV-26-39	石鏃	K-11-d-16	V		3.6×0.9×0.4	1.3	瑠璃頁岩	
図IV-26-40	石鏃	Q-21-c-3 風俣木	欠損品	(5.0)×1.7×0.6	4.6	瑠璃頁岩		
図IV-26-41	石鏃	Q-39-c-1	V		3.1×1.4×0.6	2.3	瑠璃頁岩	
図IV-26-42	石鏃	R-36-c-4	V		6.0×2.1×0.8	9.5	瑠璃頁岩	
図IV-26-43	石鏃	O-29-a-1	V		3.4×1.1×0.7	2.2	瑠璃頁岩	
図IV-26-44	石鏃	L-35-d-3	V		3.0×1.4×1.0	2.6	瑠璃頁岩	
図IV-26-45	石鏃	J-19-b-1	V		3.3×1.5×0.8	2.4	瑠璃頁岩	
図IV-26-46	石鏃	P-23-c-8	V		2.5×1.0×0.4	0.9	瑠璃頁岩	
図IV-26-47	石鏃	K-12-a-3	I b		4.5×1.7×0.7	3.8	瑠璃頁岩	
図IV-26-48	石鏃	I-9-c-1	V		6.3×5.6×1.5	43.9	瑠璃頁岩	
図IV-26-49	石鏃	N-23-c-3	V		4.2×2.6×0.7	4.8	瑠璃頁岩	
図IV-26-50	石鏃	O-17-d-1	V		3.6×2.3×0.5	2.3	頁岩	
図IV-26-51	つまみ付ナイフ	K-28-b-1	V		9.9×3.2×0.7	21.5	瑠璃頁岩	

集積區画 No.	分類	社名・機種	層位	形状	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
図N-26-52	つまみ付ナイフ	I-26-b9	V		10.1×3.8×0.9	29.2	珪質頁岩	
図N-26-53	つまみ付ナイフ	P-24-b9	V		7.9×3.3×0.7	13.5	珪質頁岩	
図N-26-54	つまみ付ナイフ	M-34-d3	V		6.4×2.4×0.7	8.7	珪質頁岩	
図N-26-55	つまみ付ナイフ	Q-6-b3	V		6.2×1.9×0.7	6.1	珪質頁岩	
図N-26-56	つまみ付ナイフ	N-22-c2	V		6.0×3.6×0.8	14.6	珪質頁岩	
図N-26-57	つまみ付ナイフ	N-15-c3	V		6.1×4.3×1.0	16.5	珪質頁岩	
図N-27-58	つまみ付ナイフ	P-11-a6	V		9.2×2.6×0.6	10.6	珪質頁岩	
図N-27-59	つまみ付ナイフ	I-19-a6	V		3.7×1.6×0.7	3.5	黒曜石	
図N-27-60	つまみ付ナイフ	Q-18-d1	I b		3.2×1.5×0.4	1.9	珪質頁岩	
図N-27-61	つまみ付ナイフ	J-12-a16	V		5.3×1.9×0.6	4.4	珪質頁岩	
図N-27-62	つまみ付ナイフ	J-13-a8	V		7.5×2.6×1.1	14.9	珪質頁岩	
図N-27-63	つまみ付ナイフ	L-8-d4	V		5.1×2.3×0.6	5.8	珪質頁岩	
図N-27-64	つまみ付ナイフ	M-10-b4	V		8.0×2.5×0.6	10.1	珪質頁岩	
図N-27-65	つまみ付ナイフ	I-12-b6	V		5.6×1.8×0.6	6.3	珪質頁岩	
図N-27-66	つまみ付ナイフ	G-18-d19	V		5.3×2.5×0.5	6.4	珪質頁岩	
図N-27-67	つまみ付ナイフ	J-12-a16	V		3.8×1.6×0.4	2.2	珪質頁岩	
図N-27-68	つまみ付ナイフ	N-10-c4	攪乱		6.7×3.2×0.4	9.3	珪質頁岩	
図N-27-69	つまみ付ナイフ	L-13-c8	V		5.4×4.2×1.0	15.3	珪質頁岩	
図N-27-70	つまみ付ナイフ	K-19-b2	V		4.7×2.6×0.4	3.7	珪質頁岩	
図N-27-71	つまみ付ナイフ	J-26-b3	V		4.5×1.8×0.3	1.8	珪質頁岩	
図N-27-72	つまみ付ナイフ	J-26-b5	V		3.9×2.0×0.6	2.8	珪質頁岩	
図N-27-73	つまみ付ナイフ	J-25-b4	V		3.1×1.8×0.5	1.8	珪質頁岩	
図N-27-74	つまみ付ナイフ	J-25-d2	V	欠損品	(4.0)×2.4×0.5	(3.6)	珪質頁岩	
図N-27-75	つまみ付ナイフ	O-17-a4	V	欠損品	(3.4)×(4.4)×0.4	(3.8)	珪質頁岩	
図N-27-76	鉗状石器	K-12-b41	V		6.7×4.8×1.4	33.0	珪質頁岩	トランシエ様石器
図N-27-77	鉗状石器	L-12-a4	V	欠損品	(4.8)×5.6×1.3	(23.4)	珪質頁岩	トランシエ様石器
図N-27-78	鉗状石器	N-36-d8	V		10.6×4.2×1.8	65.2	珪質頁岩	
図N-28-79	鉗状石器	J-11-c5	V		14.6×7.7×3.6	334.7	珪質頁岩	フレイク3点接合
図N-28-80	鉗状石器	J-18-c6	V		9.4×4.4×2.2	59.8	珪質頁岩	K-18-a-4と接合
図N-28-81	鉗状石器	J-12-a27	攪乱		9.2×3.7×1.5	47.6	珪質頁岩	
図N-28-82	鉗状石器	R-29-a2	V		9.1×3.6×1.6	44.5	珪質頁岩	
図N-28-83	鉗状石器	M-9-d10	V		5.6×2.6×0.9	12.9	珪質頁岩	
図N-28-84	鉗状石器	M-15-b8	V		6.8×4.0×1.2	31.9	珪質頁岩	
図N-28-85	鉗状石器	R-18-c1	V		3.5×2.1×1.0	7.8	珪質頁岩	
図N-28-86	鉗状石器	H-19-d3	V	欠損品	(4.1)×2.0×0.6	(5.0)	珪質頁岩	
図N-29-87	両面調整石器	J-13-a15	V		9.0×3.7×1.5	42.6	珪質頁岩	
図N-29-88	両面調整石器	L-38-c5	V		7.2×3.2×0.9	24.8	珪質頁岩	N-36-d-12と接合
図N-29-89	両面調整石器	L-28-d2	V		9.4×4.5×0.93	8.2	珪質頁岩	M-25-c-4と接合
図N-29-90	両面調整石器	L-31-b6	V		8.3×5.0×1.1	44.4	珪質頁岩	
図N-29-91	両面調整石器	L-39-d5	V		7.8×4.2×1.4	45.8	珪質頁岩	L-39-d-9と接合
図N-29-92	両面調整石器	N-26-b5	V		1.5×1.2×0.2	0.5	黒曜石	
図N-29-93	スクレイパー	R-30-d1	V		3.4×2.1×0.6	4.3	黒曜石	
図N-29-94	スクレイパー	N-13-a17	V		4.4×2.9×0.9	7.7	黒曜石	
図N-29-95	スクレイパー	N-13-a1	V		3.8×2.5×0.5	3.9	珪質頁岩	
図N-29-96	スクレイパー	L-16-a6	V		6.6×4.3×1.2	32.2	珪質頁岩	
図N-29-97	スクレイパー	P-25-c8	V		8.5×5.0×1.3	46.8	珪質頁岩	
図N-29-98	スクレイパー	L-30-d1	I b		6.5×3.7×1.0	19.1	珪質頁岩	
図N-29-99	スクレイパー	M-11-a4	V	欠損品	8.4×4.5×0.9	33.3	玄武岩	
図N-29-100	スクレイパー	J-24-b4	I b		4.1×2.4×1.0	10.9	珪質頁岩	
図N-30-101	石斧	M-33-a7	V	未成品	20.4×7.5×2.9	583.8	粘板岩	
図N-30-102	石斧	Q-9-c1	V	未成品	16.7×5.7×2.1	327.3	泥岩	H-26-d-1と接合
図N-30-103	石斧	K-27-d5	V	破損品	(10.2)×(5.5)×(1.6)	(50.2)	緑色頁岩	

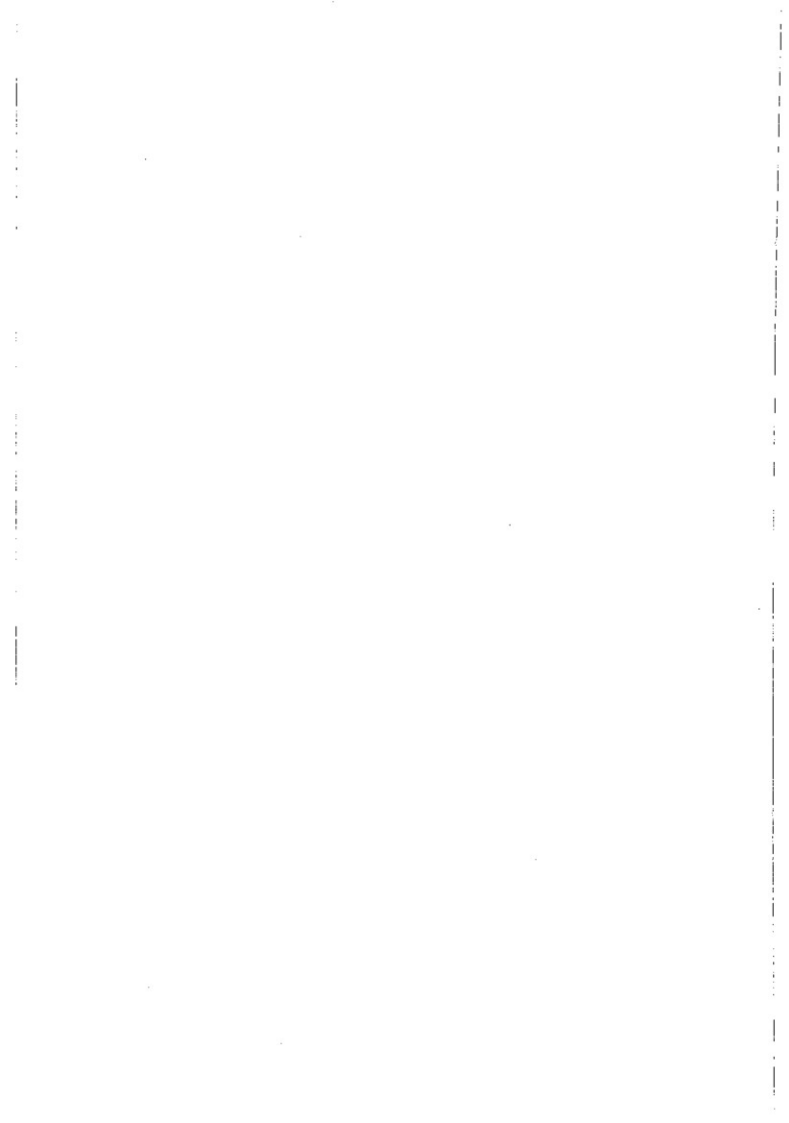
邦産調査No.	分類	出土地・産地	層位	形状	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
国産-30-104	石斧	J-15-a-6	V	破損品	(6.2)×(3.8)×(1.7)	(67.1)	蛇紋岩	
国産-30-105	石斧片	J-12-a-4	Ib	破損品	(5.7)×2.9×1.4	(34.1)	蛇紋岩	
国産-30-106	石斧	M-17-d-4	V	破損品	(8.1)×5.8×2.2	(154.5)	不明	
国産-30-107	石斧	M-12-a-10	V	破損品	(7.4)×2.1×1.2	(27.1)	蛇紋岩	
国産-30-108	石斧	I-16-c-6	V	破損品	(6.6)×(2.3)×(1.2)	(17.4)	蛇紋岩	
国産-30-109	石斧	I-14-d-9	V	破損品	(4.7)×3.1×0.9	(20.0)	蛇紋岩	
国産-30-110	石斧片	J-12-a-17	V	破損品	(4.9)×(1.9)×(0.7)	(7.8)	蛇紋岩	
国産-30-111	磨り切り残片	I-8-d-2	V		11.4×5.4×4.6	324.1	蛇紋岩	
国産-30-112	磨り切り残片	O-41-b-1	V	焼痕有	9.1×4.2×2.6	96.7	蛇紋岩	
国産-30-113	たたき石	I-14-b-8	V	黒染あり	17.1×5.7×2.2	94.1	不明	
国産-30-114	たたき石	K-14-b-6	Ib		10.4×4.3×2.1	96.9	泥岩	
国産-30-115	たたき石	N-5-c-1	V		8.2×5.9×4.0	239.2	珪岩	
国産-31-116	たたき石	K-8-c-6	V		9.7×5.9×3.7	304.5	安山岩	
国産-31-117	たたき石	M-42-b-2	V		18.6×5.8×4.2	258.9	珪岩	
国産-31-118	砥石	J-43-b-1	V	欠損品	8.9×(9.6)×5.2	(489.8)	凝灰岩	
国産-31-119	砥石	N-9-b-3	V		12.7×9.2×3.4	362.7	流紋岩	
国産-31-120	ナリ石	K-12-a-18	黒御木	欠損品	(17.3)×7.4×5.4	(889.8)	粘板岩	断面三角形
国産-31-121	ナリ石	K-14-a-12	Ib		17.3×6.4×4.7	697.7	安山岩	断面三角形
国産-31-122	ナリ石	R-24-a-1	V		15.0×8.0×6.1	828.3	安山岩	断面三角形
国産-31-123	ナリ石	N-25-c-4	V		17.7×8.4×5.9	1200.0	安山岩	断面三角形
国産-31-124	石磨	P-15-d-4	V	欠損品	(11.2)×(7.8)×3.2	(214.4)	凝灰岩	
国産-31-125	石磨	N-45-d-1	V	欠損品	(6.8)×6.2×1.3	(56.2)	凝灰岩	
国産-32-126	石磨	K-12-b-21	V		4.2×2.6×1.0	13.7	不明	
国産-32-127	石磨	J-21-b-4	Ib		4.6×3.4×0.9	14.5	安山岩	
国産-32-128	石磨	I-17-a-6	V		4.3×3.4×1.2	17.7	安山岩?	
国産-32-129	石磨	J-16-c-5	V		5.8×3.6×1.1	27.7	凝灰岩	
国産-32-130	石磨	N-14-a-3	V		4.7×4.4×1.4	28.9	流紋岩	
国産-32-131	石磨	J-17-a-6	黒御木		5.0×4.2×1.6	46.2	チャート	
国産-32-132	石磨	I-15-a-2	V		5.9×3.5×1.4	31.1	安山岩?	
国産-32-133	石磨	I-17-d-4	V		4.2×4.3×1.7	40.1	泥岩	
国産-32-134	石磨	I-18-a-10	V		5.0×4.7×1.8	46.8	泥岩	
国産-32-135	石磨	I-17-d-5	V		5.2×5.5×1.6	52.5	流紋岩	
国産-32-136	石磨	K-14-c-15	Ib		5.9×5.2×1.7	63.9	安山岩?	
国産-32-137	石磨	P-17-b-10	V		7.5×5.7×2.4	105.9	流紋岩	
国産-32-138	石磨	I-18-a-16	黒御木		7.4×5.3×1.5	77.4	安山岩?	
国産-32-139	石磨	H-17-c-7	V		6.5×4.9×2.2	69.7	安山岩	
国産-32-140	石磨	H-17-c-3	V		7.2×4.7×1.5	67.8	流紋岩	
国産-32-141	石磨	O-15-a-5	V		6.8×6.4×2.2	106.6	流紋岩	
国産-32-142	石磨	K-13-d-10	Ib		6.5×6.4×1.8	106.0	安山岩	
国産-32-143	石磨	G-15-a-1	V		6.4×6.0×1.8	74.1	流紋岩	
国産-32-144	石磨	L-12-a-10	V		8.3×6.7×2.3	191.0	安山岩	
国産-32-145	石磨	P-17-b-8	V		8.5×5.8×2.2	121.9	流紋岩	
国産-32-146	石磨	N-16-b-5	V		8.5×5.4×1.8	91.9	安山岩?	
国産-32-147	石磨	M-14-d-7	V		8.5×6.4×2.3	133.8	流紋岩	
国産-32-148	石磨	N-13-a-16	V		7.4×6.8×2.0	125.4	砂岩	
国産-32-149	石磨	L-12-a-8	V		8.7×8.4×1.8	138.2	安山岩?	
国産-33-150	石磨	I-15-c-11	V		8.7×7.4×2.3	174.3	安山岩	
国産-33-151	石磨	K-12-a-17	黒御木		7.8×8.4×2.3	187.1	流紋岩	
国産-33-152	石磨	L-12-d-7	V		8.3×7.6×3.0	224.6	安山岩	
国産-33-153	台石(くは石)	K-42-c-3	V	破損品	(22.1)×(20.4)×(5.3)	(2200.0)	凝灰岩	
国産-33-154	北海道式石冠	M-6-b-3	V		13.6×8.9×7.1	1200.0	安山岩?	
国産-33-155	備前打製石磨	M-6-b-1	V		13.1×18.7×3.2	1033.7	安山岩	

表IV-8 遺構出土土器規模一覽

遺構名	掲載番号	土器整理番号	器種	土器分類	器形	口縁部径	底径	高さ	備考
H-1	図Ⅲ-2-1	No. 1	実割図	1群a類土器	尖底深鉢形土器	28.9cm	—	(39.8)cm	
	図Ⅲ-2-5	No. 2	拓影復元図	1群a類土器	尖底深鉢形土器	21.1cm	—	(10.2)cm	
H-5	図Ⅲ-2-6	No. 6	拓影復元図	1群a類土器	尖底深鉢形土器	23.8cm	—	(7.3)cm	
	図Ⅲ-16-1	No. 46	拓影復元図	1群a類土器	尖底深鉢形土器	—	—	(33.2)cm	
	図Ⅲ-16-3	No. 48	拓影復元図	1群a類土器	尖底深鉢形土器	22.7cm	—	24.7cm	
	図Ⅲ-16-4	No. 47	拓影復元図	1群a類土器	尖底深鉢形土器	27.0cm	—	32.0cm	
	図Ⅲ-17-8	No. 51	拓影復元図	1群a類土器	尖底深鉢形土器	19.5cm	—	(11.9)cm	
H-15	図Ⅲ-17-9	No. 53	拓影復元図	1群a類土器	尖底深鉢形土器	19.8cm	—	29.0cm	
	図Ⅲ-42-2	No.138	実割図	1群b-1類土器	尖底深鉢形土器	31.0cm	—	34.3cm	
P-1	図Ⅲ-42-18	No.154	拓影復元図	1群b-1類土器	平底深鉢形土器	—	8.4cm	(7.3)cm	
	図Ⅲ-45-1	No.156	実割図	1群b-1類土器	尖底鉢形土器	13.9cm	—	12.7cm	
P-13	図Ⅲ-47-1	No.160	拓影復元図	1群b-4類土器	平底深鉢形土器	23.2cm	4.3cm	23.8cm	
P-26	図Ⅲ-50-1	No.164	実割図	V群c類土器	壺形土器	6.5cm	5.3cm	13.7cm	
	図Ⅲ-50-4	No.174	拓影復元図	V群c類土器	鉢形土器	—	6.2cm	(4.2)cm	
	図Ⅲ-50-5	No.166	拓影復元図	V群c類土器	鉢形土器	—	8.0cm	(7.8)cm	
	図Ⅲ-50-6	No.167	拓影復元図	V群c類土器	鉢形土器(高台)	—	12.0cm	(12.0)cm	
P-37	図Ⅲ-52-4	No.172	拓影復元図	1群b-1類土器	尖底鉢形土器	—	—	(7.5)cm	
P-42	図Ⅲ-54-1	No.175	拓影復元図	1群b-1類土器	尖底鉢形土器	31.8cm	—	(28.2)cm	
	図Ⅲ-54-2	No.176	拓影復元図	1群b-1類土器	尖底鉢形土器	—	9.9cm	(8.1)cm	
P-44	図Ⅲ-56-4	No.190	拓影復元図	1群b-1類土器	尖底鉢形土器	—	—	(9.0)cm	
	図Ⅲ-56-5	No.191	拓影復元図	1群b-1類土器	尖底鉢形土器	—	—	(10.8)cm	

表IV-9 包含層出土土器規模一覽

包含層	土器分類	掲載番号	土器整理番号	器種	器形	口縁部径	底径	高さ	備考		
I群a類土器	I群a類土器	図Ⅳ-4-1	No. 2	拓影復元図	尖底深鉢形土器	21.1cm	—	(10.2)cm			
		図Ⅳ-4-9	No. 46	拓影復元図	尖底深鉢形土器	—	—	(33.2)cm			
		図Ⅳ-4-12	No. 48	拓影復元図	尖底深鉢形土器	22.7cm	—	24.7cm			
		図Ⅳ-5-21	No. 6	拓影復元図	尖底深鉢形土器	23.8cm	—	(7.3)cm			
		図Ⅳ-5-22	No. 47	拓影復元図	尖底深鉢形土器	27.0cm	—	32.0cm			
		図Ⅳ-5-23	No. 1	実割図	尖底深鉢形土器	28.9cm	—	(39.8)cm			
		図Ⅳ-6-32	No. 51	拓影復元図	尖底深鉢形土器	19.5cm	—	(11.9)cm			
		図Ⅳ-6-41	No. 53	拓影復元図	尖底深鉢形土器	19.8cm	—	29.0cm			
		図Ⅳ-7-54	No.259	拓影復元図	尖底鉢形土器	22.4cm	—	(13.4)cm			
		図Ⅳ-7-65	No.248	拓影復元図	尖底鉢形土器	9.7cm	—	10.7cm			
		I群b-1類土器	I群b-1類土器	図Ⅳ-8-76	No.264	拓影復元図	平底深鉢形土器	34.2cm	9.1cm	32.4cm	
				図Ⅳ-8-88	No.175	拓影復元図	尖底鉢形土器	31.8cm	—	(28.2)cm	
				図Ⅳ-9-107	No.176	拓影復元図	尖底鉢形土器	—	9.9cm	(8.1)cm	
図Ⅳ-10-111	No.138			実割図	尖底深鉢形土器	31.0cm	—	34.3cm			
図Ⅳ-10-112	No.156			実割図	尖底深鉢形土器	13.9cm	—	12.7cm			
図Ⅳ-10-119	No.191			拓影復元図	尖底鉢形土器	—	—	(10.8)cm			
図Ⅳ-11-130	No.172			拓影復元図	尖底鉢形土器	—	—	(7.5)cm			
図Ⅳ-11-144	No.154			拓影復元図	平底深鉢形土器	—	8.4cm	(7.3)cm			
図Ⅳ-15-294	No.190			拓影復元図	尖底鉢形土器	—	—	(9.0)cm			
図Ⅳ-16-311	No.286			拓影復元図	平底深鉢形土器	—	9.6cm	(22.5)cm			
図Ⅳ-16-312	No.287			拓影復元図	平底深鉢形土器	28.7cm	9.2cm	34.7cm			
図Ⅳ-17-315	No.285			拓影復元図	平底深鉢形土器	30.5cm	11.4cm	39.7cm			
I群b-4類土器	I群b-4類土器			図Ⅳ-17-332	No.378	拓影復元図	平底深鉢形土器	25.5cm	—	(9.6)cm	
		図Ⅳ-18-337	No.160	拓影復元図	平底深鉢形土器	23.2cm	4.3cm	23.8cm			
V群a・b類土器	V群a・b類土器	図Ⅳ-18-349	No.363	実割図	尖底深鉢形土器	33.4cm	6.3cm	28.8cm			
		図Ⅳ-19-13	No.386	拓影復元図	深鉢形土器	11.9cm	—	(7.6)cm			
		図Ⅳ-20-1	No.398	拓影復元図	壺形土器	9.9cm	4.4cm	13.3cm	胴部径6.2cm		
		図Ⅳ-20-11	No.164	実割図	壺形土器	6.5cm	5.3cm	13.7cm			
		図Ⅳ-20-13	No.166	拓影復元図	鉢形土器	—	8.0cm	(7.8)cm			
		図Ⅳ-20-14	No.167	拓影復元図	鉢形土器(高台)	—	12.0cm	(12.0)cm			
		図Ⅳ-20-15	No.174	拓影復元図	鉢形土器	—	6.2cm	(4.2)cm			
		図Ⅳ-20-22	No.394	拓影復元図	鉢形土器	11.5cm	—	(7.4)cm			
		図Ⅳ-20-23	No.395	拓影復元図	鉢形土器	16.1cm	—	(5.7)cm			
		図Ⅳ-20-26	No.396	拓影復元図	浅鉢形土器	21.6cm	—	(3.6)cm			



V 自然科学的手法による分析結果

1 富野3遺跡出土の黒曜石製遺物の原産地分析

薬科 哲男

(京都大学原子炉実験所)

石器石材の産地を自然科学的手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光 X 線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石遺物の石材地推定を行っている^{1,2,3)}。

はじめに

黒曜石、サヌカイトなどの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行い、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して産地を推定する。この際多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。

蛍光 X 線分析法は試料を破壊せずに分析することができ、かつ、試料調製が単純で、測定の操作も簡単である。石器のような古代人の日用品で多数の試料を分析しなければ遺跡の正しい性格が分からないという場合にはことさら有利な分析法である。今回分析を行った試料は、長万部町に位置する富野3遺跡から出土した黒曜石製遺物13個の産地分析の結果が得られたので報告する。

黒曜石原石の分析

黒曜石原石の風化面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光 X 分析装置によって元素分析を行なう。主に分析した元素は K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nb の各元素である。塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zr の比量をそれぞれ用いる。黒曜石の原産地は北海道、東北、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に黒曜石の原産地は分布する。調査を終えた原産地を図1に示す。黒曜石原産地のほとんどすべてがつくされている。元素組成によってこれら原石を分類し表V-1-3に示す。この原石群に原産地は不明の遺物で作った遺物群を加えると163個の原石群になる。ここでは北海道地域および一部の東北地域の産地について記述すると、白滝地域の原産地は、北海道紋別郡白滝村に位置し、鹿野北方2kmの採石場の赤石山の露頭、鹿野東方2kmの幌加沢地点、また白土沢、八号沢などより転礫として黒曜石が採取できる。赤石山の大量産地の黒曜石は色に関係無く赤石山群(旧白滝第1群)にまとまる。また、あじさいの滝の露頭からは赤石山と肉眼観察では区別できない原石が採取でき、あじさい群を作った(旧白滝第2群)、また、八号沢の黒曜石原石と白土沢の転礫は梨肌の黒曜石で組成はあじさい滝群に似るが肌肌で区別できる。幌加沢よりの転礫の中で70%は幌加沢群になりあじさい滝群と元素組成から両群を区別できず、残りの30%は赤石山群に一致する。置戸産原石は、北海道常呂郡置戸町の清水の沢林道より採取され、この原石の元素組成は置戸群にまとまる。この原産地は、常呂川に通じる流域にあり、この常呂川流域で黒曜石の円礫が採取されるが現在まだ調査していない。十勝三股産原石は、北海道河東郡上土幌町の十勝三股の十三ノ沢の谷筋および沢の

中より原石が採取され、この原石の元素組成は十勝三股群にまとまる。この十勝三股産原石は十三の沢から音更川さらに十勝川に流れた可能性があり、十勝川から採取される黒曜石円礫の組成は、十勝三股産の原石の組成と相互に近似している。また、上士幌町のサンケオルベ川より採取される黒曜石円礫の組成も十勝三股産原石の組成と相互に近似している。これら組成の近似した原石の原産地は区別できず、遺物石材の産地分析でたとえ、この遺物の原産地が十勝三股群に同定されたとしても、これら十勝三股、音更川、十勝川、サンケオルベ川の複数の地点を考えなければならない。しかし、この複数の産地をまとめて、十勝地域としても、古代の地域間の交流を考察する場合、問題はないと考えられる。また、清水町、新得町、鹿追町にかけて広がる美蔓台地から産出する黒曜石から2個の美蔓原石群が作られた。この原石は産地近傍の遺跡で使用されている。名寄市の智南地域、智恵文川および忠烈布貯水池から上名寄にかけて黒曜石の円礫が採取される。これらを組成で分類すると88%は名寄第一群に、また12%は名寄第二群にそれぞれなる。旭川市の近文台、嵐山遺跡付近および雨文台北部などから採取される黒曜石の円礫は、20%が近文台第一群、69%が近文台第二群、11%が近文台第三群それぞれ分類された。また、滝川市江部乙で採取される粗指大の黒曜石の礫は、組成で分類すると約79%が滝川群にまとなり、21%が近文台第二、三群に組成が一致する。滝川群に一致する組成の原石は、北竜市恵袋別川増本社からも採取される。秩父別町の雨竜川に開析された平野を見下ろす丘陵中腹の緩斜面から小円礫の黒曜石原石が採取される。産出状況とか礫状は滝川産黒曜石と同じで、秩父別第一群は滝川第一群に組成が一致し、第二群も滝川第二群に一致しさらに近文台第二群にも一致する。赤井川産原石は、北海道余市郡赤井川村の土木沢上流域およびこの付近の山腹より採取できる。この原石には、少球果の列が何層にも重なり石器の原材として良質とはいえない原石で赤井川第一群を、また、球果の非常に少ない遅り半半分大の良質な原石などで赤井川第二群を作った。これら第1、2群の元素組成は非常に似ていて、遺物を分析したときしばしば、赤井川両群に同定される。豊泉産原石は豊浦町から産出し、組成によって豊泉第1、2群の2群に区別され、豊泉第2群の原石は斑晶が少なく良質な黒曜石である。豊泉産原石の使用圏は道南地方に広がり、一部は青森県に伝播している。出来島群は青森県西津軽群木造町七里長浜の海岸部より採取された円礫の原石で作られた群で、この出来島群と相互に似た組成の原石は、岩木山の西側を流れ鯉ヶ沢地区に流入する中村川の上流で1点採取され、また、青森市の鶴ヶ坂および西津軽群森田村鶴ばみ地区より採取されている。青森県西津軽郡深浦町の海岸とか同町の六角沢およびこの沢筋に位置する露頭より採取された原石で六角沢群をまた、八森山産出の原石で八森山群をそれぞれ作った。深浦の両群と相互に似た群は青森市戸門地区より産出する黒曜石で作られた戸門第二群である。戸門第一群、成田群、浪岡町泉民の森地区より産出の大釈迦群(旧浪岡群)は赤井川産原石の第1、2群と弁別は可能であるが原石の組成は比較的に似ている。戸門、大釈迦産黒曜石の産出量は非常に少なく、希に石礫が作れる大きさがみられる程度であるが、鷹森群は鷹森山麓の成田地区産出の黒曜石で中には5cm大のものもみられる。また、考古学者の話題になる下湯川産黒曜石についても原石群を作った。

結果と考察

遺跡から出土した石器、石片は風化しているが、黒曜石製のものは風化に対して安定で、表面に薄い水合層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。産地分析で水合層の影響は、軽い元素の分析ほど大きいと考えられるが、影響はほとんど見られない。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比重を除いて産地分析を行った場合、また除かず産地分析を行った場合同定される原産地に差はない。他の元素比重についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやや不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤

るようなことはない。

今回分析した富野3遺跡の黒曜石製石器の分析結果を表V-1-1に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためRb/Zrの一変量だけを考えると、表V-1-1の試料番号60246番の遺物ではRb/Zrの値は1.033で、赤井川第1群の[平均値]±[標準偏差]は、 0.969 ± 0.060 である。遺物と原石群の差を標準偏差値(σ)を基準にして考えると遺物は原石群から 1.0σ 離れている。ところで赤井川第1群原産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 1.0\sigma$ のずれより大きいものが31個ある。すなわち、この遺物が、赤井川第1群の原石から作られていたと仮定しても、 1.0σ 以上離れる確率は31%であると言える。だから、赤井川第1群の平均値から 1.0σ しか離れていないときには、この遺物が赤井川第1群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を赤石山群(旧白滝第1群)と比較すると、赤石山群の平均値からの隔たりは、約 5σ である。これを確率の言葉で表現すると、赤石山群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から 6σ 以上離れている確率は、10万分の1であると言える。このように、10万個に1個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、赤石山群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は赤井川第1群に31%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから赤井川原石が使用されていると同定され、さらに赤石山群に0.0001%の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たさないことから赤石山産原石でないと同定される」。遺物が1ヶ所の産地(赤井川産地)と一致したからと言って、例えば赤井川第1群と赤石山群の原石は成分が異なっているとしても、分析している試料は原石でなく遺物で、さらに分析誤差が大きくなる不定形(非破壊分析)であることから、他の産地に一致しないとは言えない、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地(赤井川)に一致したと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表V-1-3の163個すべての原石群について行ない、低い確率で帰属された原石群を消していくことにより、はじめて赤井川産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRb/Zrといった唯一の変量だけでなく、前述した8ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。例えばA原産地のA群で、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を量ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量が少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行うホテリングの T^2 検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する⁹⁾。産地の同定結果は1個の遺物に対して、黒曜石製では163個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、本研究ではこれら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる。すなわち、赤井川産原石と判定された遺物について、カムチャッカ産原石とかロシア、北朝鮮の遺跡で使用されている原石および信州和田峠産の原石の可能性を考慮する必要がない結果で、高い確率で同定された産地のみの結果を表V-1-2に記入した。原石群を作った原石試料は直径3cm以上であるが、多数の試料を処理するために、小さな遺物試料の分析に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。このため、得られた遺物の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには原石群の元素組成のパラツキの範囲を越えて大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としてい

る0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原産地(確率)の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離 D^2 の値を記した。この遺物については、記入された D^2 の値が原産地の中で最も小さな D^2 値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原産地の組成と似ていると言えるため、推定確率は低いが、そこの原産地と考えてほぼ間違いないと判断されたものである。赤井川および十勝産原石を使用した遺物の判定は複雑である。これは青森市戸門、鷹森山地区、浪岡町大釈迦より産出する黒曜石で作られた戸門第1、鷹森山、大釈迦の各群の組成が赤井川第1、2群、十勝三股群に比較的に似ているために、遺物の産地を同定したときに、戸門産地と赤井川または十勝産地、または、これら3ヶ所の原産地に同時に同定される場合がしばしば見られる。戸門産地の原石が使用されたか否かは、一遺跡で多数の遺物を分析し戸門第1群と第2群に同定される頻度を求め、これを戸門産地における第1群(50%)と第2群(50%)の産出頻度と比較し戸門産地の原石である可能性を推定する。今回分析した遺物のなかに全く戸門第2群に帰属される遺物が見られないことから戸門産地からの原石は使用されなかったと推測できる。また浪岡町大釈迦産原石は非常に小さく分析した遺物よりも小さい原石で本遺跡で使用された可能性は低いと推測された。鷹森山産地の原石、赤井川産原石と十勝産原石を使用した遺物の産地分析では、これら産地に同定された遺物の帰属確率の差が10分の1~100分の1がほとんどで、遺物の中には、赤井川、十勝、鷹森山の各群の帰属確率の差がほとんどない遺物があり原産地の特定に苦慮するが、この場合は、客観的な産地分析法により赤井川産、十勝産、鷹森山産と限定したうえで、肉眼観察により遺物と似た原石が赤井川産地、十勝産地、鷹森山産地のいずれに多いかを考慮して原産地を判定した遺物も一部ある。今回分析を行った富野3遺跡の黒曜石製遺物の中で赤井川産地に同定された黒曜石製遺物は7個と最も多くこの内、分析番号60247、60248、60249番の遺物は角礫で赤井川の麓頭から採取された可能性が推測された。次いで多いのが白流産地の原石、あじさい滝産が1個と赤岩山2個で分析番号60262番の遺物は角礫の自然面をもち赤岩山麓頭近くで取られた可能性が推測された。また、豊泉産が2個、置戸産が1個使用されていることが明らかになり、貴重な結果を報告書に記録として残すことができたことで、今後他の遺跡との関連を考察するための重要な資料の1つとなった。

参考文献

- 1) 藁科哲男・東村武信 (1975)、蛍光 X 線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定Ⅲ。考古学と自然科学、8: 61-69
- 2) 藁科哲男・東村武信・鎌木義昌 (1977)、(1978)、蛍光 X 線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定Ⅳ、Ⅴ。考古学と自然科学、10、11: 53-81: 33-47
- 3) 藁科哲男・東村武信 (1983)、石器原材の産地分析。考古学と自然科学、16: 59-89
- 4) 東村武信 (1976)、産地推定における統計的手法。考古学と自然科学、9: 77-90
- 5) 東村武信 (1990)、考古学と物理化学。学生社

表 V-1-1 長万部町富野 3 遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果

分析 番号	元 素 比									
	Ca/ K	Ti/ K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/ K	Si/ K
60246	0.261	0.066	0.108	2.382	1.033	0.469	0.267	0.000	0.023	0.353
60247	0.255	0.074	0.077	2.272	0.997	0.427	0.260	0.033	0.026	0.350
60248	0.257	0.074	0.074	2.202	0.989	0.436	0.235	0.000	0.026	0.363
60249	0.255	0.072	0.086	2.286	1.049	0.437	0.253	0.000	0.027	0.348
60250	0.264	0.065	0.086	2.143	1.013	0.475	0.228	0.000	0.000	0.335
60251	0.252	0.071	0.093	2.589	1.066	0.469	0.256	0.000	0.000	0.340
60252	0.496	0.150	0.065	1.778	0.406	0.604	0.199	0.000	0.033	0.475
60253	0.243	0.075	0.106	2.257	1.067	0.464	0.249	0.000	0.000	0.343
60254	0.472	0.138	0.062	1.842	0.478	0.673	0.175	0.038	0.030	0.444
60255	0.161	0.057	0.073	2.592	1.345	0.266	0.290	0.050	0.031	0.346
60261	0.135	0.021	0.098	2.796	1.688	0.109	0.428	0.155	0.027	0.356
60262	0.162	0.065	0.078	2.706	1.343	0.306	0.351	0.000	0.028	0.356
60263	0.329	0.120	0.050	1.807	0.821	0.430	0.183	0.023	0.000	0.365
JG-1	0.780	0.209	0.097	4.153	1.044	1.447	0.259	0.101	0.028	0.322

JG-1: 標準試料—Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal*, Vol. 8 175-192 (1974)

表V-1-2 長万部町高野3遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定結果

分析番号	遺物番号、出土区	遺物、層	原産地(標準)	判定	時代時期	遺物品名分類
60246	1、H-1	床	赤井川第1群 (18%)、赤井川第2群 (20%)、大釈迦 (2%)	赤井川	縄文時代早期	フレイク
60247	2、H-2 FC-2	覆土	赤井川第1群 (78%)、赤井川第2群 (52%)、十勝三股 (4%)	赤井川	縄文時代早期	フレイク
60248	3、H-2	床	赤井川第2群 (97%)、赤井川第2群 (9%)、大釈迦 (1%)	赤井川	縄文時代早期	フレイク
60249	4、H-7	床	赤井川第1群 (76%)、赤井川第2群 (40%)、十勝三股 (2%)	赤井川	縄文時代早期	フレイク
60250	5、H-10	床	大釈迦 (3%)、赤井川第1群 (2%)、鷹森山 (1%)	赤井川	縄文時代早期	フレイク
60251	6、H-14 FC-2	覆土	赤井川第1群 (1%)、大釈迦 (1%)、戸門第1群 (4%)	赤井川	縄文時代早期	フレイク
60252	7、P-20	覆土	豊泉第1群 (34%)	豊泉	縄文時代中期	フレイク
60253	8、P-49	覆土	赤井川第1群 (13%)、赤井川第2群 (6%)	赤井川	縄文時代中期	フレイク
60254	9、FC-11	V層	豊泉第1群 (33%)	豊泉	縄文時代早期	フレイク
60255	10、K-11-b	V層	赤石山 (41%)	赤石山	縄文時代早期	フレイク
60261	11、P-1	埴底	あじさい滝 (49%)、八号沢 (32%)	あじさい滝	縄文時代早期	両面磨製石器
60262	12、P-1	埴底	赤石山 (15%)	赤石山	縄文時代早期	フレイク
60263	13、K-34	V層	置戸 (55%)	置戸	縄文時代早期	フレイク

注意：近年産地分析を行う所が多くなりましたが、判定根拠が曖昧にも関わらず結果のみを報告される場合があります。本報告では日本における各遺跡の産地分析の判定基準を一定にして、産地分析を行っています。判定基準の異なる研究手法(土層様式の基準も研究方法で異なるように)にも関わらず、似た産地名のために同じ結果のように思われるが、全く関係(相互チェックなし)ありません。本研究結果に連続させるには本研究法で再分析が必要で、似た産地名のために考古学資料とする場合には常に同じ基準で判定されている結果で古代交流圏などを考察をする必要があります。本報告の分析結果を考古学資料とする場合には常に同じ基準で判定されている結果で古代交流圏などを考察をする必要があります。

表 V-1-3-1(1) 各黒曜石の産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地	分析個数	元素比									
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
北海道	114	0.478±0.011	0.121±0.005	0.035±0.007	2.011±0.063	0.614±0.032	0.574±0.022	0.120±0.017	0.024±0.016	0.033±0.002	0.451±0.010
	35	0.309±0.015	0.103±0.005	0.021±0.006	1.774±0.055	0.696±0.044	0.295±0.011	0.201±0.022	0.026±0.020	0.028±0.007	0.394±0.010
	130	0.178±0.014	0.010±0.003	0.079±0.013	2.714±0.142	1.340±0.059	0.293±0.019	0.341±0.030	0.973±0.026	0.028±0.002	0.374±0.010
	8	0.138±0.010	0.022±0.002	0.105±0.017	3.123±0.127	1.846±0.085	0.105±0.019	0.475±0.045	0.705±0.046	0.027±0.008	0.369±0.042
	23	0.139±0.009	0.023±0.001	0.099±0.015	2.975±0.102	1.794±0.077	0.104±0.010	0.470±0.037	0.103±0.027	0.030±0.002	0.350±0.007
	2	0.146±0.010	0.023±0.001	0.101±0.014	3.038±0.125	1.787±0.076	0.115±0.015	0.457±0.035	0.976±0.044	0.027±0.005	0.365±0.011
	30	0.819±0.013	0.165±0.006	0.081±0.010	3.265±0.117	0.941±0.031	0.941±0.030	0.639±0.020	0.039±0.002	0.029±0.002	0.467±0.008
	107	0.517±0.011	0.099±0.005	0.067±0.090	2.773±0.097	0.812±0.037	0.818±0.034	0.197±0.024	0.941±0.019	0.036±0.002	0.449±0.009
	17	0.514±0.012	0.098±0.005	0.066±0.014	2.765±0.125	0.816±0.068	0.816±0.068	0.199±0.029	0.978±0.008	0.034±0.002	0.448±0.011
	51	0.249±0.017	0.129±0.006	0.078±0.011	1.614±0.068	0.965±0.037	0.458±0.023	0.235±0.024	0.023±0.021	0.022±0.004	0.334±0.013
	25	0.506±0.016	0.098±0.005	0.070±0.011	2.750±0.099	0.805±0.042	0.808±0.032	0.197±0.026	0.027±0.003	0.027±0.003	0.371±0.010
31	0.253±0.018	0.122±0.006	0.077±0.009	1.613±0.090	1.017±0.045	0.469±0.025	0.233±0.020	0.036±0.018	0.025±0.002	0.370±0.023	
15	0.519±0.015	0.098±0.005	0.068±0.009	2.740±0.072	0.802±0.019	0.812±0.019	0.192±0.026	0.938±0.023	0.030±0.004	0.399±0.031	
65	0.350±0.008	0.129±0.005	0.045±0.008	1.813±0.062	0.824±0.034	0.454±0.020	0.179±0.023	0.944±0.020	0.030±0.002	0.412±0.010	
青森県	60	0.256±0.018	0.074±0.005	0.068±0.010	2.281±0.087	1.097±0.055	0.434±0.023	0.334±0.029	0.964±0.025	0.029±0.002	0.396±0.013
	41	0.499±0.020	0.124±0.007	0.052±0.010	2.635±0.181	0.802±0.061	0.707±0.044	0.199±0.029	0.039±0.023	0.033±0.002	0.449±0.015
	28	0.593±0.036	0.144±0.012	0.056±0.010	3.028±0.251	0.762±0.040	0.764±0.051	0.197±0.026	0.638±0.022	0.034±0.002	0.449±0.009
	50	0.254±0.029	0.070±0.004	0.085±0.010	2.213±0.104	0.969±0.060	0.428±0.021	0.249±0.024	0.058±0.020	0.027±0.002	0.371±0.009
	30	0.258±0.015	0.072±0.002	0.080±0.010	2.207±0.083	0.436±0.026	0.436±0.026	0.245±0.021	0.021±0.029	0.025±0.007	0.371±0.007
	75	0.473±0.019	0.148±0.007	0.060±0.015	1.764±0.072	0.438±0.027	0.607±0.028	0.157±0.020	0.025±0.017	0.032±0.002	0.469±0.013
	40	0.377±0.009	0.138±0.006	0.055±0.008	1.723±0.066	0.516±0.019	0.513±0.018	0.107±0.016	0.007±0.015	0.030±0.005	0.431±0.010
	30	0.190±0.015	0.075±0.003	0.040±0.008	1.575±0.066	1.241±0.046	0.318±0.014	0.141±0.033	0.076±0.021	0.024±0.002	0.348±0.010
	37	0.346±0.022	0.132±0.007	0.231±0.019	2.268±0.085	0.885±0.044	1.106±0.056	0.399±0.038	0.179±0.031	0.030±0.003	0.499±0.013
	36	0.090±0.008	0.097±0.011	0.013±0.002	0.697±0.021	1.128±0.008	0.002±0.002	0.064±0.002	0.035±0.004	0.026±0.002	0.379±0.010
	41	0.077±0.005	0.098±0.003	0.013±0.002	0.701±0.018	1.164±0.005	0.002±0.002	0.070±0.005	0.034±0.006	0.027±0.005	0.360±0.009
秋田県	28	0.250±0.024	0.069±0.003	0.068±0.012	2.388±0.237	1.168±0.062	0.521±0.063	0.277±0.065	0.076±0.025	0.026±0.002	0.362±0.025
	30	0.084±0.006	0.104±0.004	0.013±0.002	0.691±0.021	1.263±0.006	0.002±0.002	0.069±0.010	0.033±0.005	0.025±0.002	0.369±0.007
	33	0.344±0.017	0.132±0.007	0.232±0.023	2.261±0.143	0.881±0.052	1.081±0.060	0.390±0.039	0.186±0.037	0.037±0.002	0.496±0.018
	47	0.253±0.017	0.068±0.009	0.079±0.033	2.548±0.131	1.149±0.069	0.568±0.108	0.649±0.068	0.288±0.028	0.036±0.018	0.383±0.018
	36	0.673±0.479	2.703±0.149	3.267±0.149	21.648±1.500	0.960±0.021	1.708±0.102	1.058±0.015	0.169±0.031	0.053±0.042	0.356±0.018
	67	0.253±0.016	0.067±0.008	0.077±0.029	2.519±0.148	1.147±0.065	0.588±0.067	0.286±0.035	0.647±0.040	0.028±0.003	0.385±0.018
	43	0.294±0.009	0.087±0.004	0.220±0.018	1.644±0.081	1.493±0.081	0.930±0.043	0.287±0.039	0.068±0.040	0.029±0.002	0.368±0.006
	4	0.295±0.008	0.087±0.004	0.219±0.017	1.671±0.077	1.593±0.072	0.939±0.064	0.286±0.036	0.108±0.034	0.029±0.006	0.367±0.009
	44	0.285±0.021	0.120±0.007	0.182±0.016	1.672±0.069	1.022±0.071	2.276±0.036	0.119±0.033	0.033±0.002	0.443±0.014	

表 V-1-3-(2) 各隕石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差

原産地 原石群名	分析 個数	比									
		Ca/K	Tl/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
岩手県 折新	25	0.638±0.033	0.187±0.012	0.052±0.007	1.764±0.061	0.305±0.016	0.431±0.021	0.209±0.016	0.045±0.014	0.941±0.003	0.594±0.014
岩手県 折新	22	0.615±0.055	0.180±0.016	0.058±0.007	1.751±0.062	0.306±0.033	0.421±0.051	0.228±0.079	0.045±0.011	0.941±0.005	0.594±0.055
宮城県 花	30	0.596±0.046	0.170±0.018	0.056±0.008	1.742±0.072	0.314±0.029	0.220±0.016	0.194±0.016	0.044±0.003	0.941±0.003	0.596±0.030
宮城県 花	21	2.176±0.068	0.340±0.017	0.057±0.005	2.544±0.149	0.116±0.009	0.658±0.024	0.138±0.015	0.020±0.013	0.073±0.003	0.596±0.040
宮城県 花	37	4.620±0.395	1.630±0.104	0.178±0.017	11.362±1.150	0.188±0.018	1.298±0.063	0.155±0.016	0.037±0.018	0.077±0.002	0.720±0.032
新潟県 佐渡第一	34	0.228±0.013	0.020±0.006	0.020±0.005	1.493±0.079	0.821±0.047	0.288±0.018	0.192±0.018	0.046±0.017	0.024±0.004	0.330±0.009
新潟県 佐渡第一	12	0.265±0.032	0.097±0.018	0.020±0.006	1.501±0.075	0.717±0.106	0.326±0.029	0.149±0.022	0.026±0.002	0.026±0.002	0.330±0.009
新潟県 佐渡第一	4	0.321±0.007	0.070±0.003	0.069±0.017	2.051±0.042	0.981±0.042	0.638±0.034	0.182±0.047	0.038±0.027	0.069±0.007	0.350±0.009
新潟県 佐渡第一	44	0.232±0.011	0.068±0.011	0.169±0.017	2.178±0.110	0.172±0.098	1.773±0.046	0.374±0.043	0.154±0.034	0.027±0.002	0.350±0.009
新潟県 佐渡第一	46	0.569±0.012	0.140±0.007	0.033±0.005	1.608±0.049	0.261±0.012	0.332±0.011	0.180±0.015	0.036±0.003	0.049±0.014	0.491±0.014
新潟県 佐渡第一	22	0.331±0.011	0.097±0.037	0.039±0.007	1.711±0.066	0.628±0.027	0.283±0.012	0.151±0.016	0.035±0.018	0.027±0.009	0.402±0.012
徳島県 高	40	0.738±0.067	0.206±0.010	0.044±0.007	2.016±0.110	0.381±0.025	0.502±0.028	0.190±0.017	0.023±0.014	0.036±0.002	0.516±0.012
東京都 神島第一	56	0.381±0.014	0.136±0.005	0.102±0.011	1.729±0.079	0.471±0.027	0.689±0.037	0.247±0.021	0.090±0.026	0.036±0.003	0.504±0.012
東京都 神島第一	23	0.317±0.016	0.120±0.008	0.114±0.014	1.833±0.069	0.615±0.039	0.656±0.050	0.303±0.034	0.107±0.026	0.033±0.002	0.471±0.009
東京都 神島第一	40	0.318±0.020	0.120±0.005	0.118±0.014	1.805±0.056	0.614±0.036	0.664±0.045	0.291±0.029	0.093±0.025	0.034±0.006	0.476±0.012
神奈川 相模	30	6.765±0.254	2.219±0.057	0.228±0.019	9.282±0.622	0.048±0.017	1.757±0.061	0.252±0.017	0.025±0.019	0.140±0.008	1.520±0.046
神奈川 相模	41	2.056±0.064	0.669±0.019	0.076±0.007	2.912±0.104	0.062±0.007	0.680±0.029	0.202±0.010	0.011±0.010	0.080±0.005	1.126±0.031
神奈川 相模	31	1.663±0.071	0.381±0.019	0.056±0.007	2.139±0.097	0.073±0.008	0.629±0.025	0.154±0.009	0.011±0.009	0.067±0.005	0.904±0.020
静岡県 上	31	1.329±0.078	0.294±0.018	0.041±0.006	1.697±0.068	0.087±0.009	0.551±0.023	0.138±0.011	0.010±0.009	0.059±0.004	0.856±0.018
静岡県 上	35	1.213±0.154	0.314±0.028	0.031±0.004	1.699±0.167	0.113±0.007	0.391±0.022	0.143±0.007	0.009±0.009	0.047±0.004	0.663±0.020
富山県 小	40	0.110±0.008	0.052±0.004	0.297±0.038	3.211±0.319	0.829±0.088	0.154±0.030	0.547±0.054	0.087±0.057	0.025±0.014	0.429±0.016
富山県 小	12	0.278±0.013	0.065±0.004	0.064±0.008	2.064±0.095	0.926±0.057	0.641±0.046	0.194±0.014	0.102±0.021	0.027±0.002	0.372±0.009
富山県 小	36	0.319±0.017	0.113±0.006	0.040±0.008	1.720±0.080	0.740±0.052	0.665±0.029	0.121±0.026	0.047±0.031	0.015±0.014	0.392±0.018
富山県 小	40	0.710±0.017	0.209±0.008	0.054±0.011	1.994±0.152	0.413±0.028	0.840±0.050	0.118±0.025	0.051±0.031	0.020±0.020	0.599±0.024
長野県 田	45	0.441±0.052	0.108±0.014	0.079±0.021	2.251±0.138	0.794±0.155	1.222±0.088	0.127±0.041	0.067±0.035	0.015±0.014	0.412±0.025
長野県 田	171	0.138±0.009	0.060±0.003	0.104±0.011	1.329±0.011	1.076±0.047	0.380±0.023	0.112±0.030	0.112±0.023	0.026±0.002	0.361±0.013
長野県 田	143	0.167±0.028	0.049±0.008	0.117±0.016	1.346±0.085	1.043±0.124	0.112±0.056	0.409±0.048	0.026±0.002	0.026±0.002	0.356±0.016
長野県 田	17	0.146±0.003	0.032±0.003	0.151±0.010	1.461±0.039	2.479±0.135	0.036±0.012	0.317±0.044	0.186±0.025	0.027±0.002	0.348±0.007
長野県 田	62	0.248±0.048	0.065±0.012	0.114±0.011	1.520±0.182	1.673±0.140	0.774±0.104	0.374±0.048	0.122±0.024	0.025±0.003	0.366±0.017
長野県 田	37	0.144±0.017	0.063±0.004	0.094±0.009	1.373±0.085	1.311±0.037	0.296±0.030	0.263±0.038	0.060±0.022	0.023±0.002	0.331±0.019
長野県 田	47	0.176±0.019	0.075±0.010	0.079±0.011	2.822±0.086	1.053±0.196	0.275±0.058	0.184±0.042	0.066±0.023	0.021±0.002	0.306±0.013
長野県 田	53	0.158±0.011	0.055±0.005	0.025±0.012	1.333±0.064	1.523±0.093	0.134±0.031	0.279±0.030	0.010±0.017	0.021±0.002	0.310±0.012
長野県 田	53	0.138±0.004	0.049±0.002	0.123±0.010	1.259±0.041	1.076±0.067	0.045±0.010	0.442±0.039	0.142±0.022	0.020±0.002	0.360±0.012
長野県 田	119	0.223±0.026	0.102±0.010	0.059±0.008	1.169±0.081	0.701±0.109	0.409±0.052	0.128±0.024	0.063±0.017	0.026±0.002	0.354±0.008
長野県 田	86	0.263±0.020	0.138±0.011	0.049±0.008	1.603±0.069	0.562±0.062	0.764±0.031	0.111±0.018	0.056±0.016	0.029±0.002	0.401±0.017
長野県 田	83	0.252±0.027	0.120±0.007	0.069±0.010	1.600±0.179	0.639±0.048	0.807±0.058	0.101±0.024	0.037±0.032	0.027±0.007	0.401±0.017
長野県 田	42	1.481±0.117	0.446±0.021	0.042±0.006	2.005±0.135	0.182±0.011	0.841±0.044	0.105±0.010	0.009±0.008	0.033±0.005	0.459±0.012

表V-1-1-3-(3) 各黒曜石の産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差

産地	分析 個数	原石群名	比									
			Ca/K	Tl/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
石川県	17	那	0.370±0.014	0.087±0.004	0.060±0.009	2.699±0.167	0.639±0.028	0.534±0.023	0.172±0.028	0.652±0.018	0.032±0.002	0.396±0.017
福井県	21	島	0.407±0.007	0.123±0.005	0.038±0.006	1.628±0.051	0.643±0.041	0.875±0.030	0.113±0.020	0.661±0.015	0.032±0.002	0.450±0.010
三	21	星	0.350±0.018	0.123±0.008	0.036±0.006	1.561±0.081	0.608±0.031	0.798±0.039	0.069±0.020	0.602±0.013	0.028±0.002	0.381±0.006
鳥取県	20	茨	0.154±0.008	0.092±0.009	0.018±0.003	0.943±0.029	0.289±0.016	0.006±0.003	0.047±0.010	0.144±0.019	0.022±0.001	0.268±0.017
沖	30	井	0.150±0.008	0.100±0.003	0.015±0.002	0.919±0.033	0.305±0.010	0.013±0.003	0.046±0.013	0.132±0.007	0.022±0.001	0.290±0.006
久	31	見	0.142±0.004	0.061±0.002	0.020±0.002	0.981±0.048	0.398±0.013	0.001±0.002	0.093±0.015	0.229±0.010	0.023±0.002	0.317±0.006
福岡県	8	八女	0.261±0.010	0.211±0.007	0.033±0.003	0.798±0.027	0.326±0.013	0.283±0.015	0.071±0.009	0.034±0.008	0.024±0.006	0.279±0.009
佐賀県	39	中野	0.267±0.007	0.087±0.003	0.027±0.005	1.619±0.083	0.628±0.028	0.348±0.015	0.103±0.018	0.075±0.018	0.023±0.007	0.321±0.011
第一	40	群	0.346±0.007	0.104±0.003	0.027±0.005	1.535±0.039	0.465±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.669±0.014	0.026±0.006	0.328±0.008
第二	39	群	0.657±0.014	0.202±0.006	0.071±0.013	4.239±0.205	1.046±0.065	1.269±0.058	1.04±0.032	0.800±0.047	0.028±0.005	0.346±0.009
梅	56	野	0.214±0.015	0.029±0.001	0.076±0.012	2.694±0.110	1.686±0.065	0.441±0.030	0.293±0.039	0.257±0.029	0.027±0.002	0.366±0.008
原	59	谷	0.414±0.009	0.071±0.003	0.101±0.017	2.947±0.142	1.253±0.081	2.525±0.099	1.447±0.035	0.255±0.040	0.030±0.007	0.388±0.009
松	40	尾	0.600±0.067	0.153±0.029	0.126±0.018	4.692±0.369	1.170±0.114	2.023±0.122	1.171±0.032	0.255±0.037	0.033±0.003	0.376±0.008
第一	40	群	0.953±0.027	0.307±0.010	0.126±0.013	6.666±0.342	0.856±0.070	1.907±0.119	1.447±0.029	0.194±0.028	0.030±0.008	0.383±0.010
長崎県	37	久喜	0.165±0.012	0.066±0.002	0.034±0.003	1.197±0.030	0.403±0.012	0.005±0.004	0.114±0.012	0.326±0.048	0.024±0.002	0.294±0.008
第一	38	群	0.161±0.011	0.064±0.002	0.034±0.003	1.209±0.032	0.405±0.008	0.005±0.004	0.119±0.016	0.322±0.010	0.025±0.002	0.294±0.006
坂	29	角	0.138±0.010	0.037±0.002	0.026±0.002	1.741±0.083	1.860±0.076	0.012±0.012	0.303±0.018	0.626±0.036	0.026±0.002	0.358±0.010
島	49	員	0.138±0.010	0.037±0.002	0.026±0.009	1.746±0.123	1.854±0.064	0.022±0.013	0.384±0.046	0.714±0.040	0.021±0.009	0.359±0.015
松	23	清	0.218±0.010	0.029±0.002	0.065±0.013	2.692±0.175	1.674±0.064	0.238±0.027	0.284±0.047	0.266±0.028	0.027±0.002	0.320±0.012
第一	17	群	0.176±0.016	0.030±0.004	0.062±0.022	2.364±0.389	1.607±0.245	0.308±0.074	0.170±0.056	0.210±0.050	0.026±0.002	0.361±0.010
第二	16	群	0.245±0.019	0.040±0.006	0.045±0.012	1.975±0.240	0.678±0.099	0.421±0.081	0.130±0.030	0.146±0.023	0.026±0.002	0.358±0.013
西	22	第	0.287±0.019	0.067±0.004	0.044±0.007	1.906±0.106	0.765±0.074	0.484±0.034	0.115±0.023	0.117±0.018	0.028±0.001	0.367±0.007
淀	44	第	0.329±0.014	0.089±0.005	0.049±0.007	1.804±0.065	0.539±0.022	0.504±0.035	0.077±0.018	0.117±0.014	0.029±0.002	0.373±0.009
中	25	第	0.246±0.017	0.058±0.006	0.037±0.007	1.884±0.085	0.832±0.092	0.403±0.026	0.112±0.021	0.152±0.017	0.026±0.002	0.364±0.007
古	17	第	0.327±0.030	0.080±0.017	0.046±0.010	1.832±0.074	0.663±0.088	0.488±0.030	0.090±0.030	0.093±0.023	0.027±0.002	0.356±0.008
重	22	第	0.192±0.020	0.027±0.003	0.080±0.016	2.699±0.215	1.780±0.164	0.413±0.065	0.312±0.056	0.259±0.040	0.027±0.002	0.356±0.008
三	19	第	0.414±0.012	0.073±0.006	0.102±0.015	2.898±0.204	1.224±0.094	1.951±0.124	1.133±0.047	0.261±0.034	0.031±0.002	0.385±0.010
第	22	群	0.257±0.035	0.062±0.009	0.054±0.009	1.939±0.131	0.812±0.113	0.436±0.052	0.101±0.029	0.145±0.037	0.028±0.002	0.364±0.011
松	43	第	0.941±0.009	0.244±0.005	0.040±0.008	1.686±0.114	0.833±0.058	0.251±0.025	0.192±0.032	0.124±0.039	0.018±0.011	0.331±0.017
大	25	崎	0.161±0.011	0.051±0.002	0.037±0.006	1.718±0.056	0.948±0.030	0.179±0.018	0.191±0.026	0.137±0.019	0.024±0.002	0.340±0.005

表V-1-3-(4) 各隕石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差

原産地 原石群名	分析 個数	比										
		Ca/K	Tl/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
大分県	観音崎	0.216±0.017	0.045±0.003	0.428±0.057	6.887±0.806	1.829±0.220	1.572±0.180	0.325±0.008	0.622±0.099	0.055±0.002	0.418±0.011	
	延島第一	0.221±0.021	0.050±0.003	0.450±0.061	7.248±0.668	1.917±0.194	1.660±0.173	0.355±0.057	0.669±0.105	0.035±0.002	0.419±0.009	
	鳥島第二	0.034±0.047	0.140±0.013	0.194±0.026	3.399±0.321	1.614±0.077	3.162±0.189	0.144±0.031	0.408±0.041	0.038±0.002	0.451±0.011	
	鳥島第三	1.015±0.140	0.211±0.025	0.128±0.016	3.451±0.231	0.305±0.067	4.062±0.174	0.909±0.028	0.940±0.004	0.040±0.004	0.471±0.017	
	城ノオイ崎	2.074±0.110	0.224±0.024	0.180±0.012	3.640±0.301	0.286±0.048	4.124±0.197	0.113±0.022	0.940±0.003	0.040±0.003	0.469±0.014	
城ノオイ崎*	25	0.653±0.066	0.141±0.016	0.189±0.030	4.398±0.425	0.605±0.096	3.234±0.264	0.151±0.033	0.245±0.050	0.037±0.002	0.448±0.015	
塚台	30	0.313±0.023	0.127±0.009	0.065±0.010	1.489±0.124	0.600±0.051	0.686±0.082	0.175±0.018	0.102±0.020	0.028±0.002	0.371±0.009	
鉄台	54	0.615±0.042	0.096±0.008	0.096±0.008	5.509±0.269	0.284±0.031	1.526±0.053	0.032±0.018	0.032±0.018	0.032±0.006	0.310±0.011	
緒方下尾平	60	0.482±0.036	0.286±0.015	0.051±0.008	1.361±0.095	0.303±0.019	0.712±0.043	0.089±0.016	0.065±0.021	0.012±0.010	0.280±0.016	
熊本県	小南	0.357±0.023	0.127±0.005	0.063±0.007	1.441±0.070	0.611±0.032	0.703±0.044	0.175±0.233	0.097±0.017	0.023±0.002	0.320±0.007	
	南	30	0.261±0.016	0.214±0.007	0.034±0.003	0.788±0.033	0.326±0.012	0.278±0.015	0.069±0.012	0.031±0.009	0.021±0.002	0.243±0.008
	南	4	0.258±0.009	0.214±0.006	0.033±0.005	0.794±0.078	0.329±0.017	0.275±0.010	0.066±0.011	0.033±0.009	0.020±0.003	0.249±0.008
	冠	21	0.261±0.012	0.211±0.008	0.032±0.003	0.780±0.038	0.324±0.011	0.279±0.017	0.064±0.011	0.037±0.006	0.025±0.002	0.277±0.009
	一ノ宮滝	32	1.381±0.013	0.641±0.009	0.100±0.006	6.845±0.178	0.316±0.022	1.319±0.039	0.099±0.013	0.038±0.014	0.021±0.008	0.227±0.006
	一ノ宮滝	63	1.597±0.098	0.728±0.046	0.097±0.008	6.690±0.314	0.282±0.022	1.316±0.051	0.102±0.013	0.037±0.015	0.024±0.011	0.257±0.021
	一ノ宮滝	84	0.791±0.082	0.279±0.009	0.045±0.005	1.208±0.023	0.279±0.018	0.811±0.046	0.046±0.012	0.029±0.014	0.031±0.009	0.306±0.033
	一ノ宮滝	53	1.542±0.125	0.670±0.033	0.089±0.010	4.894±0.474	0.279±0.028	1.432±0.089	0.094±0.013	0.027±0.016	0.031±0.008	0.312±0.011
宮崎県	白	0.209±0.021	0.101±0.009	0.024±0.006	1.382±0.086	0.621±0.099	0.351±0.037	0.027±0.027	0.022±0.007	0.027±0.007	0.317±0.009	
	桑ノ木津留	47	0.207±0.015	0.094±0.006	0.070±0.009	1.521±0.075	1.080±0.048	0.418±0.020	0.266±0.034	0.063±0.024	0.020±0.003	0.314±0.011
	第一群	33	0.261±0.015	0.094±0.006	0.065±0.010	1.743±0.095	1.242±0.060	0.753±0.039	0.206±0.029	0.047±0.036	0.022±0.002	0.302±0.019
福岡県	第一群	36	35.158±1.118	5.901±0.175	0.041±0.002	0.038±0.002	0.069±0.004	0.155±0.005	0.035±0.019	0.000±0.000	0.035±0.019	0.446±0.022
	第二群	45	0.196±0.010	0.083±0.005	0.047±0.008	1.611±0.079	0.948±0.055	0.340±0.032	0.281±0.031	0.041±0.032	0.022±0.008	0.358±0.014
	第三群	45	0.247±0.018	0.108±0.006	0.047±0.008	1.488±0.074	0.788±0.034	0.428±0.049	0.295±0.020	0.049±0.027	0.024±0.008	0.370±0.013
	東	42	0.884±0.012	0.176±0.005	0.037±0.007	1.484±0.097	0.469±0.031	0.675±0.049	0.143±0.023	0.086±0.022	0.023±0.014	0.300±0.019
	日	42	0.262±0.018	0.143±0.006	0.022±0.004	1.178±0.040	0.712±0.028	0.408±0.025	0.100±0.018	0.028±0.013	0.019±0.001	0.270±0.006
	女	37	0.265±0.021	0.140±0.006	0.019±0.002	1.170±0.064	0.705±0.027	0.405±0.021	0.108±0.015	0.028±0.013	0.019±0.001	0.270±0.006
	上	41	1.629±0.098	0.804±0.037	0.062±0.005	3.342±0.215	1.183±0.013	1.105±0.056	0.087±0.009	0.022±0.009	0.036±0.002	0.391±0.011
	平	34	1.944±0.054	0.912±0.028	0.062±0.005	3.975±0.182	1.184±0.011	1.266±0.049	0.093±0.010	0.021±0.010	0.038±0.003	0.408±0.010
	竜	28	0.514±0.032	0.167±0.008	0.065±0.009	1.524±0.079	0.614±0.038	0.718±0.054	0.115±0.019	0.082±0.015	0.037±0.003	0.059±0.009
	長	30	0.553±0.032	0.137±0.006	0.062±0.010	1.815±0.062	0.649±0.028	0.553±0.029	0.146±0.021	0.066±0.020	0.037±0.003	0.524±0.012
台湾	台東	37	0.510±0.010	0.198±0.007	0.038±0.007	1.862±0.079	0.353±0.019	0.519±0.017	0.123±0.012	0.024±0.017	0.029±0.007	0.407±0.010
	玉山	72	0.473±0.012	0.166±0.007	0.046±0.007	1.572±0.059	0.199±0.011	0.497±0.016	0.126±0.011	0.009±0.014	0.039±0.010	0.460±0.030

表 V-1-4 各黒曜石の産地における黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差

原産地 原石群名	分析 個数	元素比																					
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K												
北海道																							
H S 1 遺物群	67	0.241±0.021	0.107±0.005	0.018±0.006	1.286±0.077	0.430±0.016	0.153±0.009	0.140±0.015	0.006±0.013	0.018±0.012	0.030±0.010	0.500±0.042											
H S 2 遺物群	60	0.453±0.011	0.135±0.008	0.044±0.008	1.765±0.075	0.448±0.021	0.419±0.019	0.130±0.015	0.015±0.019	0.034±0.010	0.500±0.015												
F R 1 遺物群	51	0.643±0.012	0.124±0.008	0.059±0.007	2.547±0.143	0.530±0.032	0.689±0.029	0.156±0.015	0.004±0.008	0.029±0.011	0.407±0.047												
F R 2 遺物群	59	0.535±0.061	0.106±0.012	0.053±0.009	2.545±0.138	0.557±0.051	0.685±0.029	0.165±0.021	0.016±0.022	0.027±0.009	0.373±0.047												
F R 3 遺物群	37	0.380±0.037	0.084±0.007	0.052±0.004	2.548±0.145	0.586±0.056	0.681±0.033	0.164±0.021	0.017±0.023	0.023±0.006	0.292±0.037												
F R 4 遺物群	44	0.261±0.043	0.074±0.010	0.051±0.008	2.500±0.117	0.639±0.057	0.679±0.032	0.155±0.021	0.009±0.017	0.018±0.008	0.258±0.036												
F H 1 遺物群	32	0.898±0.042	0.221±0.007	0.054±0.006	2.540±0.101	0.426±0.018	0.802±0.023	0.109±0.013	0.017±0.021	0.037±0.003	0.447±0.011												
K T 1 遺物群	56	1.103±0.050	0.146±0.007	0.081±0.008	2.942±0.133	0.314±0.053	0.775±0.082	0.133±0.016	0.019±0.021	0.043±0.007	0.516±0.015												
K T 2 遺物群	38	0.959±0.027	0.154±0.006	0.085±0.010	2.882±0.082	0.542±0.028	1.111±0.040	0.107±0.015	0.012±0.016	0.042±0.008	0.519±0.010												
秋田県																							
K N 遺物群	107	0.351±0.011	0.121±0.006	0.053±0.007	1.581±0.071	0.347±0.020	0.219±0.014	0.216±0.015	0.054±0.017	0.029±0.011	0.475±0.040												
A 1 1 遺物群	41	1.519±0.026	0.277±0.010	0.078±0.006	2.840±0.073	0.167±0.010	0.526±0.017	0.251±0.013	0.009±0.012	0.058±0.012	0.920±0.024												
A 1 2 遺物群	31	3.141±0.074	0.529±0.021	0.080±0.008	2.752±0.082	0.094±0.009	0.716±0.019	0.242±0.011	0.008±0.014	0.083±0.029	1.553±0.049												
A 1 3 遺物群	61	0.950±0.013	0.215±0.004	0.117±0.009	4.306±0.100	0.114±0.008	0.909±0.028	0.248±0.012	0.014±0.016	0.028±0.005	0.360±0.009												
A 1 4 遺物群	122	1.850±0.058	0.474±0.025	0.067±0.007	2.655±0.077	0.083±0.006	0.531±0.030	0.177±0.010	0.011±0.013	0.064±0.025	1.061±0.105												
A 1 5 遺物群	27	3.167±0.092	0.690±0.027	0.101±0.009	3.787±0.108	0.114±0.010	0.892±0.026	0.241±0.012	0.006±0.012	0.091±0.020	1.234±0.052												
長野県																							
N K 遺物群	57	0.163±0.019	0.163±0.007	0.086±0.011	1.822±0.084	0.467±0.031	0.691±0.064	1.102±0.021	0.041±0.028	0.038±0.003	0.500±0.014												
H Y 遺物群	31	0.238±0.011	0.131±0.006	0.048±0.008	1.636±0.066	0.418±0.028	1.441±0.015	0.482±0.024	0.029±0.028	0.020±0.015	0.481±0.065												
S N 1 遺物群	33	0.287±0.006	0.087±0.004	0.039±0.005	1.597±0.037	0.244±0.011	0.238±0.011	0.281±0.012	0.009±0.012	0.021±0.006	0.329±0.066												
S N 2 遺物群	29	0.209±0.006	0.116±0.006	0.076±0.008	1.571±0.082	0.174±0.035	0.252±0.017	0.264±0.029	0.028±0.030	0.023±0.009	0.363±0.015												
東京都																							
K 1 遺物群	40	0.363±0.010	0.098±0.004	0.056±0.010	1.937±0.060	1.028±0.041	0.538±0.026	0.169±0.025	0.032±0.033	0.029±0.010	0.451±0.010												
U T 遺物群	46	0.297±0.013	0.107±0.005	0.053±0.010	1.638±0.104	1.012±0.056	0.736±0.039	0.188±0.027	0.034±0.028	0.024±0.011	0.390±0.014												
北朝鮮																							
会寧外灘洞群	70	0.135±0.012	0.062±0.006	0.017±0.003	1.118±0.051	0.585±0.036	0.088±0.019	0.150±0.022	0.372±0.035	0.025±0.004	0.310±0.012												
ロシア																							
イリヌツカ遺物群	26	18.888±2.100	6.068±0.888	0.298±0.032	27.963±2.608	0.055±0.017	2.716±0.162	0.163±0.019	0.036±0.030	0.173±0.029	1.674±0.240												
朝鮮試料	J G - I ^{a)}	127	0.759±0.011	0.202±0.005	0.107±0.011	3.759±0.111	0.993±0.036	1.331±0.046	0.251±0.027	0.105±0.017	0.028±0.002	0.342±0.004											

平均値と標準偏差。* : ガラス質安山岩
 NK 遺物群 : 中ヶ原遺跡、HY 遺物群 : 日和山遺跡、SN 遺物群 : 三内丸山遺跡出土、KN 遺物群 : 杉積洞遺跡、HS 遺物群 : 北道遺跡、KI 遺物群 : 鶴木遺跡、UT 遺物群 : 内庭敷遺跡、AI 遺物群 : 相ノ久遺跡、FR 遺物群 : 東郷部 1、2 遺跡、FH 遺物群 : 東 H9 線遺跡、KT 遺物群 : 北区 1 遺跡出土などの産地不明の原石群
 a) : Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. (1974). 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal Vol.8, 175-192.

2 北海道富野3遺跡から出土した縄文時代の炭化種子

吉崎 昌一・椿板 恭代

1) 遺跡と調査の概要

遺跡の名称：富野3遺跡

遺跡の所在地：北海道山越郡長万部町字富野129ほか

調査期間：平成10年5月6日～平成10年10月28日

調査機関：財団法人北海道埋蔵文化財センター

調査担当者：佐藤和雄、皆川洋一、袖岡淳子、広田良成、立田 理

遺跡の年代：縄文時代 早期～縄文時代晩期

検出遺構：縄文時代早期物見台～鳴川式土器に類似する土器を出土する2軒の住居跡（H-1、H-5）、同じく早期後葉の赤御堂式類似の土器を伴う6軒の住居跡（H-3・6・7・10・14・15）、墓塚（P-1）、縄文時代早期の焼土、フラスコ状ピット2基、フレーク・チップの集中する地点が11箇所、縄文時代晩期大河C₂式土器相当時期の土壌50基

遺跡の立地と概要：日本海海岸から1.3km内陸に入ったオバルベツ川の河岸段丘上で標高25～27mの南西向き斜面に立地している。調査範囲は段丘縁辺にそって南西から北東方向に8500m²である。縄文時代早期前半～中葉の時期を主体とする多数の遺構、遺物が検出された。包含層はⅠ～Ⅶ層に区分されるが、文化層の主体はⅤ、Ⅵ層である。

2) 扱った資料

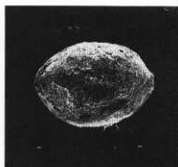
分析資料として扱った炭化種子は、主に縄文時代早期前～中葉の住居跡、墓塚、焼土跡などの採取土壌から抽出されたものである。土壌は、フローテーション法で処理され、第一次選別を経て同定者に送付されてきた。この資料を実体顕微鏡で観察し撮影も行った。種子の出土した遺構と地点については、表V-2-1に示しておく。

3) 出土した炭化種子（図版1）

検出された炭化種子は、タデ属 *Polygonum* L.（図V-2-1-1、計測値 長さ1.2mm、幅0.85mm）、タラノキ属 *Aralia* L.（図V-2-1-2、計測値 長さ1.35mm、幅1.0mm、0.7mm）、コナラ属 *Quercus* L.（図V-2-1-3a、3b、計測値 長さ13.56mm、幅10.33mm）のみで、同定不可能の資料を加えても量的に極めて少ない。タデ属は多数の種類があり、少数のサンプルでは種の決定は出来ない。タラノキ属にはタラノキ *Aralia elata* (Miq.) Seemann とウド *Aralia cordata* Thunb. があげられる。保存状態が悪いが種子の形態と表面組織の特徴からタラノキであろう。コナラ属 *Quercus* L. は一部破損しているが、子葉の形態と表面組織の特徴からミズナラ *Quercus crispula* Blume に類似する。

4) 若干の問題点

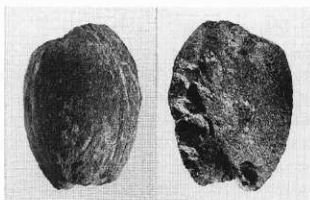
考古学的発掘調査では、正確な層準と遺構の平面形にはきわめて神経質である。しかし、発掘時に、いわゆる床面直上、つまり堅穴住居を作った時点での最深部のフレッシュな床まで追跡し掘りあげる結果、肝心の床よりも上位に堆積している生活物集中層の採取が欠落する場合がある。生活面堆積は、堅穴住居使用開始時の面でない場合の多いことに留意する必要があるかも知れない。他の遺物についても同様な傾向がありそうに思う。資料土壌の採取が、どの層準や地点がもっとも効率が良いのかは、遺跡によってかなり異なり、まだ教科書化が出来ていないのである。



1 タデ属



2 タラノキ属



3a コナラ属表面 3b 内面

図V-2-1 炭化種子

表V-2-1 富野3遺跡出土炭化種子一覧

資料No	遺構名	土壌採取区	層位	時 期	ダテ属 (粒)	タラノキ属 (粒)	コナラ属 (片)	資料のダメージ大きく 測定不可 (粒)
1-2	H-1	N-14-d-2	床	縄文時代早期前~中葉		1		
1-6	H-1	HF-1	焼土	//	1			
2-9	H-5	I-17-a-2	床	//	1			
2-18	H-5	I-17-c-4	床	//				1
2-23	H-5	I-18-b-2	床	//				1
2-24	H-5	I-18-b-3	床	//	1			
3-34	H-3	I-15-b-1	床	縄文時代早期中葉	2	1		
3-35	H-3	I-15-b-2	床	//		2		
4-47	H-7	P-16-a-3	床付近	//	2			
5-54	H-10	R-36-a-3	床	//	1			
6-60	H-14	H-19-b-1	床	//		1		
6-65	H-14	H-19-c-2	床	//	1			
7-71	H-6	HF-1	焼土	//	1			
9-77	包含層	L-11-b	V	//			1	

付編 フローテーション試料のサンプリングと成果について (付編図-1、付編表-1)

袖岡 淳子

富野3遺跡で確認した縄文時代早期の住居跡と墓塚について、炭化種子を検出する目的で土壌サンプリングを行った。

調査区内では住居跡が15軒確認された。炭化種子を検出するために対象とした住居跡は、土器を伴出した住居跡や重複、増改築の見られないものである。床面の土、地床炉と考えられる焼土跡などを中心に行った。そのほか、住居廃棄後、その窪みを利用した若干新しい時期の生活面から確認した焼土等も対象とした。

試料の採取に当たっては、発掘区の区画線を1m毎の16分割にし試料を採取した。床面の試料としたものは、黒褐色を呈する覆土を除去し、漸移層中もしくは黄褐色土中に形成される床面から、3-4cmの範囲内で、かつ壁の土を避けて土壌を採取した。

焼土は、被熱し褐色化した部分より上の炭化物の混じる暗褐色土を採取した。

採取した試料は容量測定後に数日間乾燥させ、ウォーターセパレーションによる選別を行った。得られた浮遊物と残渣は実顕顕微鏡とルーペによる選別作業を経て炭化種子、炭化物、土器片、チップなどに別けて記録した (付編表-1)。

選別した炭化種子は北海道大学椿坂泰代氏に分析を依頼した。

結果として、遺構からはタラノキ属、タデ属が僅かに検出された。炭化物、チップ類、土器類はどの住居からも検出されている。縄文時代早期の包含層からは炭化したコナラ属の炭化種子 (ドングリ?) が検出された。

概時期の調査事例では中野A遺跡があるが、ここでは遺構から堅果類(クルミ)、キハダなどの炭化種子が検出されている。

付編表-1 フローテーション成果試料一覧

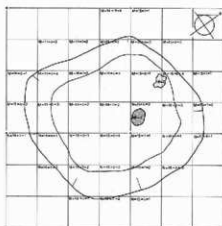
遺構No.	土壌採取位置・層位	土壌採取容量 (ℓ)	土壌水洗容量 (ℓ)	選別土壌容量 (乾燥重量g)	炭化種子	炭化物 (乾燥重量g)	チップ (g)	土器片 (g)
H-1	HF-1焼土	5.0	5.0	0.98	タデ属 1	0.23	2.61	1.78
	HF-2焼土	40.0	40.0	3.41		2.27	8.76	11.37
	HP-1柱穴覆土	10.0	10.0	1.70		0.91	2.63	0.52
	N-14-d-1床	5.0	5.0	17.10		0.12	0.06	0.05
	N-14-d-2床	15.0	15.0	4.77	タラノキ属 1	1.91	4.97	0.73
	N-14-d-3床	15.0	15.0	6.26		0.68	3.76	1.20
	N-14-d-4床	15.0	15.0	2.52		1.00	1.61	2.94
小計		105.0	105.0	36.74	2	7.12	24.40	14.31
H-3	F-1焼土	5.0	5.0	0.13		0.04	0.33	0.07
	F-2焼土	5.0	5.0	0.86		0.04	0.16	0.18
	I-15-b-1床	5.0	5.0	2.15	タデ属?タラノキ属 1	0.18	0.17	0.01
	I-15-b-2床	5.0	5.0	0.51	タラノキ属 2	0.14	0.15	0.14
	I-15-b-3床	5.0	5.0	0.55		0.06	0.60	0.08
	I-15-b-4床	5.0	5.0	1.88		0.09	3.14	0.69
	I-15-c-1床	5.0	5.0	2.37		1.03	0.17	0.12
	I-15-c-2床	5.0	5.0	2.76		0.43	0.40	

付編 フローテーション試料のサンプリングと成果について

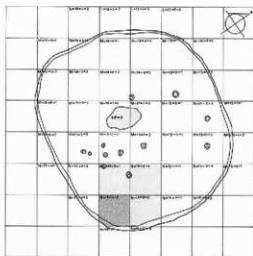
遺構 No.	土壌採取位置・層位	土壌採取容量 (ℓ)	土壌水洗容量 (ℓ)	過剰土壌容量 (乾燥重量 g)	炭化種子	炭化物 (乾燥重量 g)	チップ (g)	土器 (g)	礫片 (g)
	J-15-a-1床	5.0	5.0	1.39		0.06	0.33		0.60
	J-15-a-2床	5.0	5.0	0.94		0.05	0.14		0.39
	J-15-a-3床	5.0	5.0	0.86		0.10	0.26		0.04
	J-15-a-4床	5.0	5.0	0.30		0.04	0.32		0.14
	J-15-d-1床	5.0	5.0	0.31		0.27	0.22		0.12
	J-15-d-2床	5.0	5.0	0.48		0.15	0.04		
小計		70.0	70.0	15.49	5	2.68	6.43		2.58
H-5	床	5.0	5.0	3.30		0.11	22.60		0.07
	HF-2焼土	10.0	10.0	3.20		0.62	1.64	0.10	
	I-17-a-1床	5.0	5.0	1.10		0.10	0.05	0.67	0.06
	I-17-a-2床	5.0	5.0	0.40	タデ属 1	0.11	0.01		0.01
	I-17-a-3床	10.0	10.0	1.80		0.56	0.13		0.37
	I-17-a-4床	10.0	10.0	3.00		0.50	0.26		0.22
	I-17-b-1床	10.0	10.0	0.80		0.26	0.06		
	I-17-b-2床	5.0	5.0	0.80		0.35	0.22	1.40	0.02
	I-17-b-3床	5.0	5.0	0.30		0.17	0.20		0.12
	I-17-b-4床	5.0	5.0	0.40		0.04			
	I-17-c-1床	5.0	5.0	0.40		0.16	0.17		0.13
	I-17-c-2床	5.0	5.0	1.00		0.32	0.12		0.03
	I-17-c-3床	5.0	5.0	0.60		0.07	0.26		0.06
	I-17-c-4床	5.0	5.0	0.40	同定不可 1	0.23	0.30		
	I-17-d-1床	5.0	5.0	0.40		0.09	1.58		
	I-17-d-2床	5.0	5.0	0.30		0.15	0.28		0.07
	I-17-d-3床	5.0	5.0	2.60		0.15	0.09		0.05
	I-18-a-2床	5.0	5.0	0.80		0.27	0.14		0.04
	I-18-a-3床	5.0	5.0	0.10		0.01			
	I-18-b-1床	5.0	5.0	0.60		0.55	0.44		
	I-18-b-2床	5.0	5.0	0.20	同定不可 1	0.11	0.04		0.05
	I-18-b-3床	5.0	5.0	0.60	タデ属 1	0.40	0.02		
	I-18-b-4床	5.0	5.0	1.50		0.06			
	J-17-a-2床	5.0	5.0	0.30		0.06	0.04		0.03
	J-17-b-1床	5.0	5.0	0.40		0.10	0.12		
	J-17-d-2床	5.0	5.0	0.40		0.10	0.02	0.99	
	J-17-d-3床	5.0	5.0	1.20		0.30	0.08		0.02
	J-17-d-4床	10.0	10.0	1.20		0.82	1.39		0.12
	J-18-a-1床	5.0	5.0	1.00		0.40	0.58		0.08
	J-18-a-2床	5.0	5.0	0.30		0.08			
小計		175.0	175.0	29.40	4	7.25	30.84	3.16	1.55
H-6	HF-1焼土	10.0	10.0	26.07	タデ属 1	0.20	0.13	0.82	0.12

遺構 No.	土壌採取位置・層位	土壌採取容量 (ℓ)	土壌水洗容量 (ℓ)	選別土壌容量 (乾燥重量 g)	炭化種子	炭化物 (乾燥重量 g)	チップ (g)	土器 (g)	線片 (g)
	HF-2焼土	10.0	10.0	22.33		0.12	0.24		0.56
	HF-3焼土	10.0	10.0	9.45		0.26	0.83		0.79
小計		30.0	30.0	57.85	1	0.58	1.20	0.82	1.47
H-7	HF-1焼土	45.0	45.0	3.68		3.60	8.28		1.61
	No.168床	5.0	5.0	7.09		1.26	2.68	78.16	2.91
	P-16-a-3床	55.0	55.0	23.70	タテ属 2	12.53	14.66	1.37	2.80
	P-16-a-4床	15.0	15.0	12.86		8.43	19.72		0.17
	P-16-b-3床	15.0	15.0	5.07		3.36	0.91	1.08	0.34
	P-16-b-4床	25.0	25.0	22.20		7.27	27.16		3.25
	P-16-d-1床	20.0	20.0	9.70		4.79	4.66	1.66	0.14
	P-16-d-4床	10.0	10.0	10.22		4.07	2.39		0.81
	O-16-b-3床	10.0	10.0	5.32		3.65	2.00	6.24	0.12
小計		200.0	200.0	99.84	2	48.96	82.46	88.51	12.15
H-10	R-36-a-3床	5.0	5.0	1.53	タテ属 1	0.50	0.06		0.08
	R-36-a-4床	10.0	10.0	0.64		0.40	0.16		0.08
	R-36-c-1床	10.0	10.0	0.96		0.36	0.02		0.02
	R-36-c-4床	5.0	5.0	1.22		0.75	0.09		0.01
	R-36-d-1床	10.0	10.0	2.96		1.94	0.20		0.63
	R-36-d-2床	5.0	5.0	7.83		8.14	1.18		0.85
小計		45.0	45.0	15.14	1	12.09	1.71		1.67
H-14	H-19-b-1床	5.0	5.0	2.62	タテ属 1	0.43	0.05		0.09
	H-19-b-2床	5.0	5.0	0.95		0.22	0.08		0.05
	H-19-c-1床	5.0	5.0	0.53		0.08			0.09
	H-19-c-2床	5.0	5.0	0.48	タテ属 1	0.13	0.08		
	H19-c-3床	5.0	5.0	0.70		0.28			
	H-19-c-4床	5.0	5.0	0.86		0.09			0.10
	H-19-b-3床	5.0	5.0	0.27		0.22	0.12		0.05
	H-19-b-4床	5.0	5.0	0.05		0.03			
	I-19-a-1床	5.0	5.0	0.33		0.16	0.01		0.04
	I-19-a-4床	5.0	5.0	3.86		0.07	0.59		0.24
	I-19-d-1床	5.0	5.0	0.21		0.05	0.28		0.10
小計		55.0	55.0	10.86	2	1.76	1.21		0.76

H-1覆土中の生活面



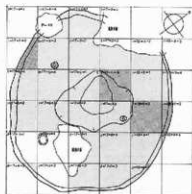
H-1



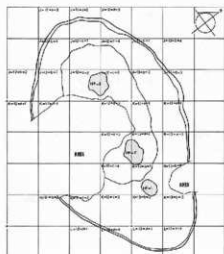
H-3



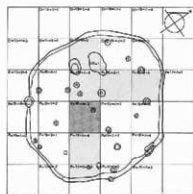
H-5



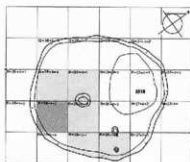
H-6



H-7



H-10



H-14



付編図-1 炭化種子を採取した住居跡と土壌サンプルメッシュ

3 富野3遺跡の放射性炭素年代測定結果

地球科学研究所

放射性炭素年代測定結果報告書

放射性炭素年代測定の依頼を受けました試料について、別表の結果を得ましたのでご報告申し上げます。

報告内容の説明

14Cage(y BP)	: 14C年代測定値 試料の14C/12C比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した年代。半減期として5568年を用いた。
補正14Cage(y BP)	: 補正14C年代値 試料の炭素安定同位体比(13C/12C)を測定して試料の炭素の同位体分別を知り14C/12Cの測定値に補正値を加えた上で、算出した年代。
δ13C(permil)	: 試料の測定14C/12C比を補正するための13C/12C比。 この安定同位体比は、下式のように標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表現する。 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰}) = \frac{(13\text{C}/12\text{C})_{\text{[試料]}} - (13\text{C}/12\text{C})_{\text{[標準]}}}{(13\text{C}/12\text{C})_{\text{[標準]}}} \times 1000$ ここで、13C/12C [標準] = 0.0112372である。
暦年代	: 過去の宇宙線強度の変動による大気中14C濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。 具体的には年代既知の樹木年輪の14Cの詳細な測定値により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。(Stuiver et al., 1993; Vogel et al., 1993; Talama and Vogel, 1993) ただし、この補正は約10,000y BPより古い試料には適用できない。

測定方法などに関するデータ

測定方法	AMS: 加速器質量分析 Radiometric: 液体シンチレーションカウンタによるβ-線計数法
処理・調製・その他: 試料の前処理、調製などの情報	
前処理	acid-alkali-acid: 酸-アルカリ-酸洗浄 acid washes: 酸洗浄 acid etch: 酸によるエッチング none: 未処理
調製・その他	Bulk-Low Carbon Material: 低濃度有機物処理 Bone Collagen Extraction: 骨、歯などのコラーゲン抽出 Cellulose Extraction: 木材のセルロース抽出 Extended Counting: Radiometricによる測定の際、測定時間を延長する
分析機関	: BETA ANALYTIC INC. 4985 SW 74 Court, Miami, FL 33155, U.S.A

3 高野3遺跡の放射性炭素年代測定結果

試料データ	C14年代 (y BP) (Measured C14 age)	$\delta^{13}C$ (permil)	補正 C14年代 (y BP) (Conventional C14 age)
Beta-126222	7050±50	-28.4	6990±50
試料名 (10396) TOM3-1 測定方法、期間 Standard-AMS 試料種、前処理など charred material	acid-alkali-acid		
Beta-126223	8090±50	-29.2	8030±50
試料名 (10397) TOM3-2 測定方法、期間 standaed-AMS 試料種、前処理など charred material	acid-alkali-acid		
Beta-126224	8210±50	-27.2	8170±50
試料名 (10398) TOM3-3 測定方法、期間 standard-AMS 試料種、前処理など charred material	acid-alkali-acid		
Beta-126225	8080±50	-27.3	8040±50
試料名 (10399) TOM3-4 測定方法、期間 Standard-AMS 試料種、前処理など charred material	acid-alkali-acid		
Beta-126226	7080±40	-28.1	7030±40
試料名 (10400) TOM3-5 測定方法、期間 Standard-AMS 試料種、前処理など charred material	acid-alkali-acid		
Beta-126227	6880±40	-25.0	6880±40
試料名 (10401) TOM3-6 測定方法、期間 Standard-AMS 試料種、前処理など charred material	acid-alkali-acid		

試料データ	C14年代 (y BP) (Measured C14 age)	$\delta^{13}C$ (permil)	補正 C14年代 (y BP) (Conventional C14 age)
Beta-126228	7090 ± 40	-27.3	7050 ± 40
試料名 (10402) TOM3-7 測定方法、期間 Standard-AMS 試料種、前処理など charred material acid-alkali-acid			
Beta-126229	7450 ± 40	-19.8	7530 ± 40
試料名 (10403) TOM3-8 測定方法、期間 standard-AMS 試料種、前処理など charred material acid-alkali-acid			
Beta-126230	7170 ± 40	-26.3	7150 ± 40
試料名 (10404) TOM3-9 測定方法、期間 standard-AMS 試料種、前処理など charred material acid-alkali-acid			
Beta-126231	7300 ± 40	-26.8	7270 ± 40
試料名 (10405) TOM3-10 測定方法、期間 Standard-AMS 試料種、前処理など charred material acid-alkali-acid			

表 V-3-1 放射性炭素年代測定資料一覧

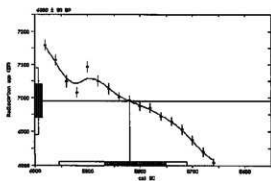
測定番号	試料名	遺跡の名称	遺跡番号	採取位置	採取年月日	測定時期	土器型式	外観観察	測定方法	誤差 (1 σ /2 σ 95% probability)
Beta-126222	TOM3-1	土 壘 基	P-1	遺跡中央付近	1996/5/29	縄文時代早期後葉	黒陶日式土器流行	炭化材?	AMS	BC 5620/BC 5670 to 5750
Beta-126223	TOM3-2	甕穴式土器群	H-1	遺跡中央部	1996/7/4	縄文時代早期中期	縄文式土器	炭化材?	AMS	BC 7010/BC 7025 to 6965 and BC 6925 to 6795
Beta-126224	TOM3-3	甕穴式土器群	H-1	遺跡中央一帯	1996/7/24	縄文時代早期中期	縄文式土器	炭化材?	AMS	BC 7060/BC 7055 to 7040
Beta-126225	TOM3-4	甕穴式土器群	H-1	遺跡中央一帯	1996/7/24	縄文時代早期中期	縄文式土器	硝子・産物類?	AMS	BC 7015/BC 7020 to 6960
Beta-126226	TOM3-5	甕穴式土器群	H-2	遺跡中央一帯	1996/7/20	縄文時代早期以前	不明	炭化材?	AMS	BC 5860/BC 5845 to 5820
Beta-126227	TOM3-6	甕穴式土器群	H-2	遺跡中央一帯	1996/7/7	縄文時代早期以前	不明	炭化材?	AMS	BC 5795/BC 5725 to 5690
Beta-126228	TOM3-7	甕穴式土器群	H-2	糸織器付区	1996/6/25	縄文時代早期以前	不明	炭化材?	AMS	BC 5925 and BC 5910 and BC 5880/BC 5955 to 5945
Beta-126229	TOM3-8	甕穴式土器群	H-7	床面	1996/10/21	縄文時代早期後葉	黒陶日式土器流行	土器口縁内面に付着 SP-9-1	AMS	BC 6280/BC 6400 to 6355
Beta-126230	TOM3-9	甕穴式土器群	H-7	遺跡中央付近	1996/10/21	縄文時代早期後葉	黒陶日式土器流行	炭化材?	AMS	BC 5980/BC 5995 to 5960
Beta-126231	TOM3-10	甕穴式土器群	H-10	遺跡中央付近	1996/10/7	縄文時代早期後葉	黒陶日式土器流行	炭化材?	AMS	BC 6065/BC 6145 to 6020

3 富野3遺跡の放射性炭素年代測定結果

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12 = -28.4 ‰, multi = 1)
 Laboratory Number: Beta-126223
 Conventional radiocarbon age: 6990 ± 50 BP
 Calibrated result: cal BC 6966 to 6710
 (2 sigma, 95% probability)

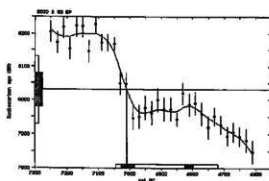
Intercept date:
 Intercept of radiocarbon age
 with calibration curve: cal BC 5820
 1 sigma calibrated result: cal BC 5870 to 5730
 (68% probability)



CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12 = -20.2 ‰, multi = 1)
 Laboratory Number: Beta-126223
 Conventional radiocarbon age: 8630 ± 30 BP
 Calibrated result: cal BC 7945 to 6720
 (2 sigma, 95% probability)

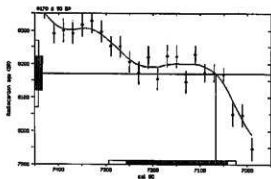
Intercept date:
 Intercept of radiocarbon age
 with calibration curve: cal BC 7010
 1 sigma calibrated result: cal BC 7025 to 6985 and
 cal BC 6823 to 6735



CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12 = -27.2 ‰, multi = 1)
 Laboratory Number: Beta-126224
 Conventional radiocarbon age: 8170 ± 50 BP
 Calibrated result: cal BC 7295 to 7025
 (2 sigma, 95% probability)

Intercept date:
 Intercept of radiocarbon age
 with calibration curve: cal BC 7065
 1 sigma calibrated result: cal BC 7255 to 7040
 (68% probability)



CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12 = -27.3 ‰, multi = 1)
 Laboratory Number: Beta-126225
 Conventional radiocarbon age: 8640 ± 50 BP
 Calibrated result: cal BC 7890 to 6735
 (2 sigma, 95% probability)

Intercept date:
 Intercept of radiocarbon age
 with calibration curve: cal BC 7015
 1 sigma calibrated result: cal BC 7030 to 6990
 (68% probability)

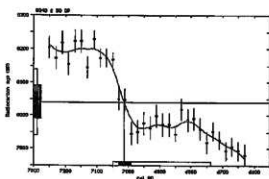


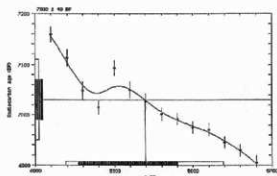
図 V-3-1 暦年代グラフ

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables C13/C12=28.1‰) mult.=1)
 Laboratory Number: Beta-126226
 Conventional radiocarbon age: 7930 ± 40 BP
 Calibrated results:
 (2 sigma, 95% probability) cal BC 8960 to 8760

Intercept date:
 Intercept of radiocarbon age
 with calibration curve: cal BC 5860

1 sigma calibrated result: cal BC 5945 to 5820

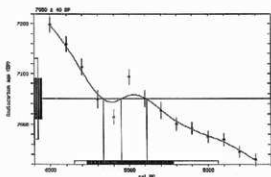


CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables C13/C12=27.3‰) mult.=1)
 Laboratory Number: Beta-126228
 Conventional radiocarbon age: 7050 ± 40 BP
 Calibrated results:
 (2 sigma, 95% probability) cal BC 5970 to 5785

Intercept date:
 Intercepts of radiocarbon age
 with calibration curve: cal BC 5935 and
 cal BC 5910 and
 cal BC 5880

1 sigma calibrated result: cal BC 5955 to 5845

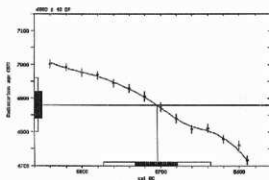


CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables C13/C12=25.4‰) mult.=1)
 Laboratory Number: Beta-126227
 Conventional radiocarbon age: 6880 ± 40 BP
 Calibrated results:
 (2 sigma, 95% probability) cal BC 5775 to 5635

Intercept date:
 Intercept of radiocarbon age
 with calibration curve: cal BC 5705

1 sigma calibrated result: cal BC 5735 to 5680



CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables C13/C12=19.8‰) mult.=1)
 Laboratory Number: Beta-126229
 Conventional radiocarbon age: 7830 ± 40 BP
 Calibrated results:
 (2 sigma, 95% probability) cal BC 6425 to 6225

Intercept date:
 Intercept of radiocarbon age
 with calibration curve: cal BC 6380

1 sigma calibrated result: cal BC 6400 to 6355

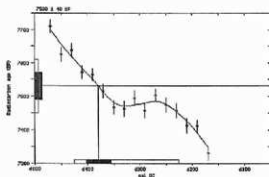
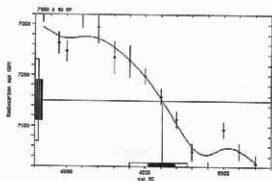


図 V-3-2 暦年代グラフ

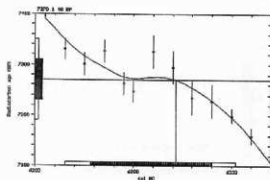
CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variable C13/C12 = -26.3 ‰ (±1))
 Laboratory Number: Hm-126230
 Conventional radiocarbon age: 7150 ± 46 BP
 Calibrated result: cal BC 6620 to 5945
 (2 sigma, 95% probability)
 Intercept date:
 Intercept of radiocarbon age
 with calibration curve: cal BC 5980
 1 sigma calibrated result:
 (68% probability) cal BC 5995 to 5960



CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variable C13/C12 = -26.8 ‰ (±1))
 Laboratory Number: Beta-126231
 Conventional radiocarbon age: 7270 ± 48 BP
 Calibrated result: cal BC 6170 to 5995
 (2 sigma, 95% probability)
 Intercept date:
 Intercept of radiocarbon age
 with calibration curve: cal BC 6055
 1 sigma calibrated result:
 (68% probability) cal BC 6145 to 6020



References:

- Pretest Calibration Curve for Short Lived Samples*
 Stuiver, J. C., Peck, L., Pearson, G. and Stuiver, B., 1993, *Radiocarbon* 35(1), p.73-86
- A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates*
 Stuiver, J. C. and Peck, J. C., 1993, *Radiocarbon* 35(2), p.17-32
- Calibration - 1993*
 Stuiver, M., Lang, A., Kra, R. S. and Reuter, J. M., 1993, *Radiocarbon* 35(1)
- Calibration of Radiocarbon Dates for the Late Pleistocene Using 13C/12C Data on Shagwag*
 Stuiver, J. C., Krueger, J., 1997, *Radiocarbon* 39(1), p.7-12

図 V-3-3 暦年代グラフ

4 長万部町富野3遺跡ローム層分析

古澤 明

(有限会社 古澤地質調査事務所)

はじめに

本分析の目的は、ローム層中にはさまれる肉眼では識別できない（一部は僅かに識別できる）火山灰の検出、ローム層の成因分析にある。

ローム層には目立った層相変化はみられないが、色調、特に彩度（色相と明度は大きく変化せず全体に褐色）には若干の変化がみられる。そこで、まず、ロームの色調（彩度）を基に細かい層序区分をおこない、各層ごとに試料採取間隔が2cmとなるように細かく採取したロームの構成鉱物を分析した。

分析に供する試料を後述する前処理方法で調製し、鉱物組成および火山碎屑物（火山ガラス、斜方輝石および角閃石）の屈折率を測定した。

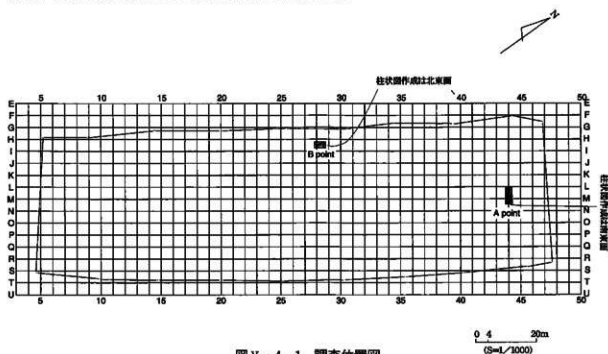
その結果、複数の火山灰を識別することができた。また、一部の火山灰については既知の火山灰との対比が可能となった。

本報告書は、これらの分析内容、結果および考察をとりまとめたものである。とりまとめに際しては、調査部の花岡正光氏にご教示をいただいた。

1. 分析方法

段丘上を覆うローム層を別紙「調査位置図」（図V-4-1）に示すA point（ローム層観察用ビット）にて観察し、色調の差異によるローム層の柱状図を作成した。また、同地点で鉛直方向に2cm間隔の連続試料採取を行った。

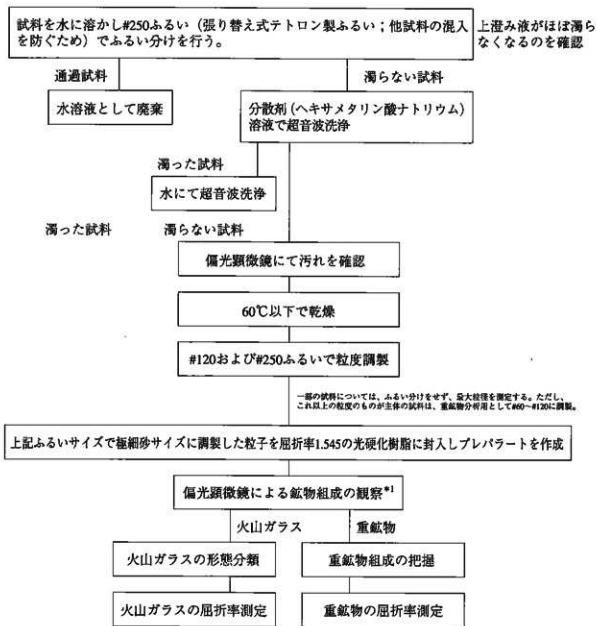
採取した試料は#250-#120メッシュ（1/16-1/8mm）に粒度調製し、鉱物組成分析ならびに、火山ガラス、斜方輝石および角閃石の屈折率を測定した。



図V-4-1 調査位置図

フロー

以下に示す分析フローチャートに従い分析を行った。



温度変化型屈折率測定装置MAIOTにて、30粒子を目処に測定（重鉱物は10粒子）

* 鉱物組成は表V-4-1のように分類した。

偏光顕微鏡による鉱物分類方法

本分析では、主に火山噴出物を検出する事を目的としている。多くの地域では広域テフラによくみられるタイプの火山ガラスのほかにローカルな火山噴出物で発泡の痕跡がみられないものを多く含む。また、リン灰石などの無色透明な重鉱物を識別（石英や斜長石の識別）する必要がある。このため、洗浄した試料は、光学レンズ用光硬化樹脂接着剤（屈折率1.545程度）で封入し、ベッケラインをみながら鉱物を識別した。

一般に火山灰分析を含む砂成分の分析では、識別できる出現鉱物を全て同定し定量化する。データは、目的に適した有意で最小の区分を用いて分類する。

今回の区分もこの手法に基づき表1のように鉱物区分で分類した。

表V-4-1 鉱物組成分類方法

火山ガラス										石英・長石類	火山岩片	重 鉱 物					岩片・ 風化粒	生 物 遺 骸
無色/有色					無色多微		有色多微					Opx	Cpx	GHo	BHo	Ol		
P	Bl	Tl	Bm	Tm	Bs	Ts	O	Qpx+Cpx+Il+Fl+	Fl+	鉱物付着	鉱物付着							

Opx: 斜方輝石, Cpx: 単斜輝石, GHo: 綠色普通角閃石, BHo: 褐色普通角閃石, Ol: カンラン石, Bi: 黒雲母, Opx: 不透明鉱物, OTH: その他

角閃石の色調はボラライザーとC軸とが平行となる位置での色調を示す。ガラスの形態分類は、「火山ガラスの形態分類方法」の項で述べる。

火山ガラスの形態分類方法

火山ガラスは無色透明、有色透明（主に淡褐色透明）、鉱物付着に区分した。

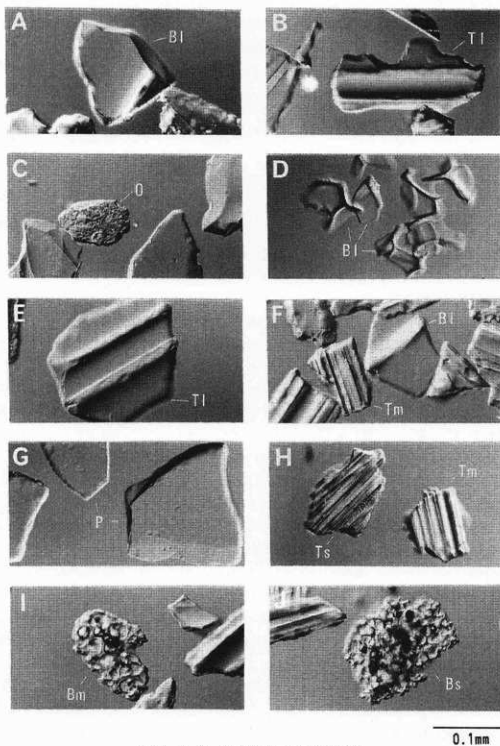
無色透明、有色透明（主に淡褐色透明）ガラスの形態分類方法

本分類では、Nikon製の微分干渉装置を用い、火山ガラスの形態を立体的に観察した。

形態の分類については、Ross (1928) や Heiken (1972) が、平板型、Y・X型、多孔質型の3タイプに分類している。吉川 (1976) はこの3タイプのうちのY・X型(H型)と多孔質型(T型)との間に中間型(C型)を設け、C型とT型では、球状の発泡(CaおよびTa型)とチューブ状の発泡(CbおよびTb型)とに区分した。町田・新井 (1978) は平板型およびY・X型をBubble wall (バブルウォール)型に、多孔質型をPumice (パミス)型に区分している。また、鎌田ほか (1994) はこのパミス型をマイクロパミスと表現して、本来のパミスとの区別を行っている。古澤 (1990) は、発泡の形態と大きさという2要素に着目して、吉川 (1976) の分類のうちH型を、球状の発泡とチューブ状の発泡とに区別し、発泡の大きさと形とを機械的に区分した。

今回の分類も基本的に古澤 (1990) に従った。すなわち、ガラス内に残る発泡跡の形態が、球状に発泡したバルーン型(B型)、チューブ状に発泡したチューブ型(T型)、おそらく大きな曲率のため泡の接合部がみられず、平板ないしはゆるく湾曲した扁平型(P型)、および発泡の痕跡がみられないその他(O型)の4型に区分した。また、発泡の大きさは、長さ0.1mmの中に発泡跡が1~2個しか入らない場合を大径(l)、3~7個入るものを中径(m)、8個以上入るものを小径(s)とし、たとえばチューブ型(T型)で中径(m)のものをTm型と表現した(図V-4-2)。この分類方法は、古澤 (1990) のそれにその他(O型)を追加したものである。ただし、発泡密度については発泡跡のあるガラスのほとんどがほぼ完全に発泡(泡と泡とが密着)しているため付記していない。特に密度の低いものについては、別に記載の章で低発泡と表現した。

以上の基準に従い、接眼レンズに方眼マイクロメーターを装着して、ステージを回転させながら分類を行った。測定する個数は1試料ごとに200個を目途とした。



図V-4-2 火山ガラスの形態分類法

P型：おそらく大きな曲率のため泡の接合部がみられず、平板ないしゆるく湾曲した扁平型、Bl：大径バルーン型、Bm：中径バルーン型、Bs：小径バルーン型、Tl：大径チューブ型、Tm：中径チューブ型、Ts：小径チューブ型、O：発泡跡のみられないその他の型。

曲折率測定方法

(装置の仕様)

測定には、浸液の温度を直接測定しつつ屈折率を測定する温度変化型測定装置^{マイオット}“MAIOT”を使用し

た(図V-4-3参照)。測定精度は火山ガラスで ± 0.0001 程度である(古澤, 1995)。

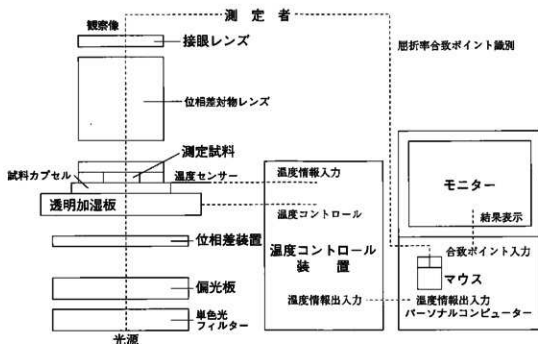
顕微鏡は、Nikonの顕微鏡X2シリーズ(偏光・位相差装置付)、位相差用対物レンズ(10倍)、光源は12V100Wハロゲンランプ、全誘電体干渉フィルター(589.3nm)を使用した。温度変化装置として全面等温度透明加温板(0.1°Cの精度で制御可能)、プログラム温度コントローラー(0.1°Cの精度で制御可能)、高感度熱電対(0.1°Cの精度で測定可能)、パーソナルコンピューターを使用した。

以下に測定の手順を示す。

顕微鏡ステージ上に設置した加温板に、浸液と試料および熱電対とを密封したごく薄いカプセルを載せる。カプセルは、大きさ 18×24 mm、厚さ0.12~0.17mmのガラス板(下板)と、直径18mmで同じ厚さのガラス板(上板)との間に、熱伝導性の高いシーリング材を使用して浸液と試料および熱電対を密封したもので、総厚が0.5~0.6mm程度である。浸液は単一化学式を有する有機化学合成液である。つぎに、加温板の温度を制御して、ほぼ一定の温度変化速度で、浸液および試料の温度を室温~60°Cの範囲で変化させる。この様子を、位相差状態の顕微鏡で観察する。観察時の波長はナトリウムD線(589.3nm)である。この画像を観察しながら、ガラスの輪郭が消失する温度を記録する。実際には温度上昇あるいは下降時に1回パーソナルコンピューターに接続されたマウスを左クリックする。屈折率は、あらかじめ作成した各浸液の温度と屈折率との一次式から変換され、パーソナルコンピューターに記録される。測定個数の目処はガラスが30片、斜方輝石が10片である。ただし、値にバラツキがある試料では、モードを把握できるまで測定した。記録された屈折率、熱電対の温度データはリアルタイムにパーソナルコンピューターに入力され、温度、測定個数などとともに屈折率ヒストグラムとしてモニターに表示される。

2. 分析結果

鉱物組成の分類結果を一覧した「鉱物組成一覧表(表V-4-2)」、ロームの色調変化柱状図と斜方輝石および緑色普通角閃石の含有率ヒストグラムを一覧した「ロームの色調と斜方輝石・角閃石の含



図V-4-3 温度変化型屈折率測定のご概念図

有率一覽図(図V-4-4)、および、柱状図と鉱物組成および屈折率測定結果をまとめた「分析結果総合図(図V-4-5)」を添付する。

火山灰層序(火山灰層の識別)

鉱物組成、ガラスの屈折率および斜方輝石の屈折率から、A pointのローム層中に4層準の火山灰を識別した。また、火山灰の混在を指摘できる1層準を検出した。

以下に、火山灰4層準および火山灰の混在する可能性が指摘できる1層準の岩石記載的特徴を記載する。

火山灰降灰層準

試料 No.33-36層準

この層準は当初 No.45-49層準と同一の火山灰であると露頭で想像した光沢のある彩度の高いローム層である。しかし、鉱物組成が斜方輝石を主体とし、角閃石をほとんど含まないことやガラスの屈折率など、No.45-49層準とは岩石記載が異なることが明らかとなった。また、上下位の層準とは明らかに斜方輝石の含有率がことなり、容易に識別できる。斜方輝石には詳細に観察すると火山ガラスが付着していることが多く、火山灰起源と識別できる。

鉱物組成:斜長石および斜方輝石、単斜輝石を主体とし、これに Bm タイプなどのいわゆるパミスタイプ火山ガラスが付着する場合が多い。緑色普通角閃石も少量含まれるが、屈折率により下位の層準からの混在粒子であると考えられる。

火山ガラスの屈折率:1.5127-1.5164。モードは1.512-1.516である。

斜方輝石の屈折率:1.7092-1.7119。モードは1.709-1.712である。

試料 No.45-49層準

この層準「調査位置図(図V-4-1)」の B point に分布する軽石層に対比される層準である(「B point 柱状図」(図V-4-6)参照)。明らかに他の層準に比し光沢があり彩度が高く、肉眼でかろうじてテフラと識別できる。

鉱物組成:斜長石、斜方輝石を主体とし、単斜輝石および緑色普通角閃石を含む。斑晶には Bl~Bm タイプの球形発泡跡のみられる火山ガラスが多量に付着している。同形態の火山ガラスも含まれる。直下の層準と比べて、本層準は火山ガラスの付着する斑晶が多産し、やや新鮮な角閃石の増加すること、容易に識別できる。

ガラスの屈折率:1.5001-1.5176。1.500-1.503、1.506-1.510、1.512-1.516にモードがみられ Tri-modal 状を呈する。

斜方輝石の屈折率:1.7096-1.7258。1.718から1.726に広く分布する。1.709-1.712を示すものを少量含む。

角閃石の屈折率:1.6809-1.6848。モードは1.680-1.685である。

試料 No.65-68層準

この層準には突然 Bl タイプ(いわゆるバブルウォールタイプ)の火山ガラスが多く産出する。この層準では斜方輝石が上下の層準より多く含まれ、角閃石は少ない。同層準には、バブルウォールタイプ火山ガラスで特徴づけられる火山灰が降灰している。

Bl タイプ火山ガラスの屈折率:1.5008-1.5024。モードは1.500-1.503である。なお、本層準には屈折率が1.495-1.496のOタイプガラスおよび1.504-1.514の Bm タイプでやや低発泡のガラスが含まれる。これらは上下層準の測定結果から、いずれも他層準からの混在粒子である可能性が指摘できる。斜方輝石の屈折率:1.7094-1.7272。広い範囲に分布する。

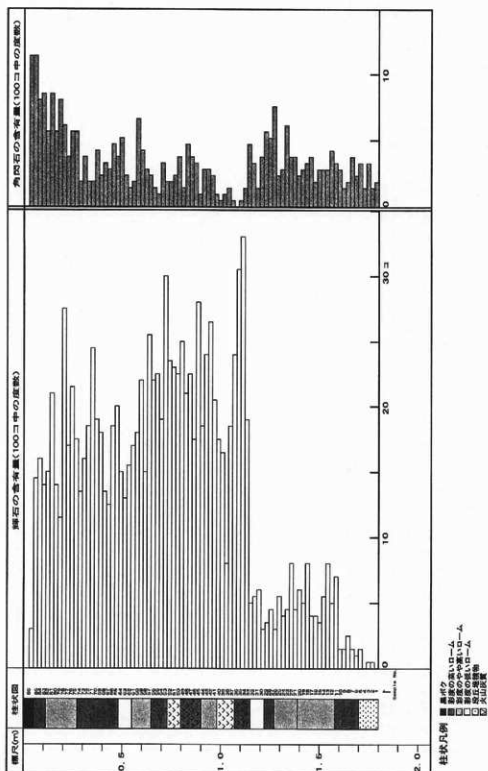


図 V-4-4 ロームの色調と斜方輝石、角閃石の含有率一覧図

試料 No.80-85

この層には多量の低発泡 Tm、Bm タイプ（細かい球形およびチューブ状の発泡跡がみられるもの）火山ガラスが含まれる。緑色～褐色普通角閃石も多量に含まれる。

鉱物組成：純層ではなく、上下層からの混在粒子が多いため鉱物組成は不明瞭であるが、上下の鉱物組成との違いから、本テフラは斜長石および緑色～褐色普通角閃石を主体とし、斜方輝石を含むと考えられる。

ガラスの屈折率：1.5007-1.5034。モードは1.500-1.503である。

斜方輝石の屈折率：1.7093-1.7159。モードは1.709-1.714である。

角閃石の屈折率：1.6743-1.6933。広い範囲に分布する。

火山灰の降灰する可能性が指摘できる1層準

試料 No.70-74層準

この層には低発泡 Bm タイプ火山ガラスおよびこのガラスの付着した斜方輝石がやや多く含まれる。この層準では斜方輝石が上下の層準より多く含まれ、角閃石は少ない。下位のテフラからの混在が著しいためその記載的特徴は際だって明瞭ではないが、屈折率1.508-1.513の低発泡 Bm タイプ火山ガラスおよび屈折率1.710-1.718の斜方輝石は上下層準からの合理的な混在では説明できない。本層準には火山灰が降灰している可能性が指摘できる。

3. 火山灰の対比

既に公表されている火山灰層序および岩石記載の特徴から、これまでに識別した4層準の火山灰の対比を試みる。

はじめに、肉眼で識別が可能な火山灰試料 No.45-49層準について対比を行う。次にこの火山灰の層位に基づき、上下層準の火山灰の対比を行う。

試料 No.45-49層準火山灰

本火山灰は、B point (図V-4-1、6)において肉眼で軽石層として識別できる。いっぽう、分析したローム層の上位には、駒ヶ岳起源の Ko-g 火山灰が分布していることがあきらかとなっている(本報告書の完新世テフラの項参照)、また、ローム下限からは表V-4-2および図V-4-5にみられるように屈折率1.493-1.497の B1 タイプを主体とした火山ガラスが産出する。これらは、ガラスの形態および屈折率から、洞爺テフラ起源の火山ガラスであると考えられる。以上から、試料 No.45-49層準火山灰は、洞爺テフラ降灰以降、駒ヶ岳 Ko-g テフラ降灰以前に降灰したと考えられる。

町田・新井(1992)の「火山灰アトラス」では、長万部周辺にこの時代テフラを降灰させる火山として駒ヶ岳、支笏およびクッタラ火山などをあげている。試料 No.45-49層準火山灰の最大の特徴は火山ガラスの多モードと角閃石を比較的多く含み、斜方輝石を主体とする点にある。このような特徴のテフラは前出の文献には記載されていない。しかし、鉱物組成やガラスの屈折率範囲、角閃石の屈折率は、クッタラ第2テフラのそれと類似する。下表に両記載を比較する。

テフラ名	ガラスの屈折率	斜方輝石の屈折率	角閃石の屈折率
試料 No.45-49層準火山灰	1.500-1.516	1.709-1.726	1.680-1.685
B pointの軽石層	1.502-1.514	1.712-1.725	
ガラスは1.501-1.505、1.506-1.508、1.511-1.515にモードがみられ Tri-modal 状			
クッタラ第2テフラ(町田・新井、1992)	1.505-1.515	1.712-1.718	1.678-1.684

クツラ第2テフラは同火山には例外的に西側に主分布軸を有する。駒ヶ岳や支笏など、北海道中・南西部に分布する火山のテフラに該当する特徴のものが存在しないことから、本火山灰は極めてクツラ第2テフラである可能性が高い。

そこで、日本第四紀学会編集(1996)の「第四紀頭集—日本のテフラ」に記載されているクツラ第2テフラの露出地点で、軽石層を採取し、極細砂サイズ粒子の鉱物の屈折率を測定した。結果を下表に示す。

テフラ名	ガラスの屈折率	斜方輝石の屈折率	角閃石の屈折率
伊達市館山町のクツラ第2テフラ	1.502-1.516	1.709-1.726	1.680-1.685
ガラスは1.502-1.503、1.505-1.508、1.513-1.516にモードがみられ Tri-modal 状			

A point の試料 No.45-49層準火山灰の純層である B point の記載と、伊達市のクツラ第2テフラの記載は全ての特徴において全く一致する。

したがって、試料 No.45-49層準火山灰は、クツラ第2テフラに対比できる。

試料 No.33-36層準火山灰

鉱物組成が斜方輝石を主体とし、角閃石をほとんど含まないことやガラスの屈折率など、No.45-49層準火山灰とは岩石記載が異なることが明らかとなった。本層準は、前述の対比から、クツラ第2テフラの下位、洞爺テフラの上位に位置する。

火山ガラスの屈折率はモードが1.512-1.516である。斜方輝石の屈折率はモードが1.709-1.712である。

これらの特徴を町田・新井(1992)の「火山灰アトラス」と対照した場合、北海道には、これと一致した記載の火山灰が見あたらない。したがって、既存の文献資料では対比困難である。

給源火山についても対比できないため不明である。駒ヶ岳では Ko-h2 が32000年前以前に噴出している(柳井・雁沢、1988)。同テフラは斜長石および斜方輝石を主体とする。

本火山灰と駒ヶ岳の噴出物との関係は興味深い。駒ヶ岳のテフラの詳細な調査が望まれる。

試料 No.65-68層準

この層準には突然 B1タイプ(いわゆるバブルウォールタイプ)の火山ガラスが多く産出することを既に記載した。本火山灰はバブルウォールタイプ火山ガラスの含有で特徴づけられる。このガラスの屈折率は1.500-1.503にモードがみられる。屈折率:1.709-1.727の斜方輝石も含まれるが、これは上下位の層準の分析結果により、下位からの混在粒子と考えられる。

したがって、本火山灰は火山ガラスを主体としてと考えられる。バブルウォールタイプのガラスおよび同鉱物主体の記載の特徴は、いわゆる広域テフラによく見られる、巨大な噴火の産物である。

層序的にはクツラ第2テフラの上位に位置し、後述する濁川テフラの識別から同テフラの下位に位置する。

この層準に降灰が知られている巨大な噴火の産物としては支笏第1テフラ(Spfa-1; fall)=支笏火砕流(Spfl)があげられる。同テフラは、前出の伊達市館山にも火砕流堆積物として分布している。同露頭で採取した火砕流のガラスは、Tm、Bmタイプなどのバミスタタイプも含むがバブルウォールタイプのものを多く含む。斑晶は斜長石と斜方輝石を主体とするが、その量はガラスに比し非常に少ない(伊達市での古澤の記載;未公表)。火山ガラスの屈折率は、伊達市の試料の実測値が1.5006-

1.5080。モードは1.500-1.502である。この火山ガラスの屈折率のモードは、本層準、伊達市の支笏火砕流、町田・新井(1992)のそれとてほぼ一致する。

ほかにこの層準近辺で上記屈折率のバブルウォールタイプ火山ガラスを主体とする火山灰がこれまでに記載されていないことや、支笏火砕流が給源から数10km以上西側に離れた位置にまで流下していることなどから、本火山灰は支笏火砕流あるいはその灰かぐらに対比できる可能性が極めて高い。

試料 No.80-85火山灰

この層準には多量の低発泡 Tm、Bm タイプ火山ガラスおよび緑色〜褐色普通角閃石が含まれることは既に記載した。

クッタラ第2テフラの上位で、Ko-g 火山灰の下位において、斑晶に角閃石を多量に含む火山灰としては濁川テフラがあげられる(柳井ほか、1992)。同テフラは fall ユニットによりその岩石記載が大きく異なるが、このうち最も本層準に記載が類似するユニット b-5(柳井ほか、1992)の記載と試料 No.80-85火山灰との記載を下記に記載する。

テフラ名	ガラスの屈折率	斜方輝石の屈折率	角閃石の屈折率
本分析による試料 No.80-85層準火山灰	1.501-1.503	1.709-1.714	1.674-1.693
濁川テフラユニット b-5(柳井ほか、1992)	1.500-1.504	—	1.677-1.687

両記載は著しく類似する。前述のように、濁川テフラの記載は fall ユニットごとに大きく異なる(柳井ほか、1992)。このため、濁川テフラの詳細な分布状況を把握できない現状では、対比の精度は若干低くなる可能性もあるが、角閃石(緑色のものに一部褐色のものを含む)を主体とすること、低発泡のガラスを多く含むこと、および層序に矛盾がないことなどから、本火山灰は濁川テフラに対比できる。町田・新井(1992)の濁川テフラのアイソパックもこの対比を支持する。ただし、同テフラの各ユニットの分布状況についてはさらに詳しく調査する必要がある。柳井ほか(1992)では、濁川テフラの各 fall ユニットごとのアイソパックを示している。これによれば、もともと分布が北に広い(濁川カルデラから長万部への方向)ユニットは、a ユニットであり、b ユニットが長万部に降灰する可能性は、柳井ほか(1992)の調査では低い(噴火湾北部では確認されていない)。今回の分析で、ユニット b-5に類似した鉱物が長万部に分布することが明らかとなった意義は大きい。

試料 No.70-74

この層準には屈折率1.508-1.513の低発泡 Bm タイプ火山ガラスおよびこのガラスの付着した屈折率1.710-1.718の斜方輝石がやや多く含まれる。

この内、斜方輝石の屈折率は、濁川テフラの下位に位置し、クッタラ第2および支笏火砕流堆積物の上位に分布する駒ヶ岳 Ko-h1テフラのそれ(町田・新井、1992)と一致する。

対比の可能性についての資料の蓄積がまたれる。

なお、段丘堆積物には洞爺テフラが混在する。ガラスの屈折率および斜方輝石の屈折率は非常に特徴的で、対比には問題ないと考える。このテフラは、ロームの上部にまで混在する。

また、不明瞭ながら試料 No.53-56には、斜方輝石が多く含まれる。その含有量は上下の層準とやや異なる。緑色普通角閃石はこれとは逆に減少する。この変化は試料 No.45-49層準の混在で説明しづらい。この層準には1.505-1.508の屈折率の火山ガラスが産出する。このガラスは、Bm タイプ(細かい球形の発泡跡が多くみられるもの)の形態を呈する。屈折率1.708-1.711の斜方輝石も含まれる。以

上の記載の変化は、試料 No.33-36層準および試料 No.45-49層準の混在で説明できるが、この層準については他の地域での火山灰層序との慎重な対比が望まれる。

4. ロームの色調変化の原因

「分析結果総合図」(図V-4-5)のロームの色調(彩度)と、上記のテフラ識別層準との間には、やや相関性が認められる。テフラ降灰層準では、彩度が一律に高く、低い層準は見あたらない。

彩度の高い色調の層準とこれを覆う彩度の低い色調の層準との間には共通した鉱物組成変化も見られる。各テフラの鉱物組成については既に概略を記述したが、「ロームの色調と斜方輝石、角閃石の含有量一覽図」(図V-4-4)から明らかなように、彩度の高い色調を形成するテフラの重鉱物(斜方輝石および角閃石)は、下方から上方へと減少する。これは、あるいは、軽鉱物の相対的な上方への増加によるものと考えられるが、テフラ起源の軽鉱物の含有率は、下方から上方へ増加する傾向がみられない。

したがって、この組成変化は、彩度の高い層準にテフラ本質鉱物(上下の層準に比し相対的に多く含まれる斜方輝石や角閃石)が多く、彩度の低い層準に少ないことを示すと考えられる。また、「分析結果総合図」(図V-4-5)にみられるように、彩度の高い層準から低い層準へと、不透明鉱物(主に鉄鉱物)の増加する傾向もみられる。これは、彩度の低い層準の構成鉱物が、彩度の高い層準に比し、相対的に風化が進んでいるか、あるいは長い期間地表付近にさらされていた可能性を示している。

今回の分析は、あくまでも極細砂粒子という限られたサイズでの議論であるため、彩度差と構成鉱物との関係は明確に議論できないが、鉱物組成および鉱物の屈折率の層序による系統的な変化は、火山噴火の影響を示すと考えられ、これらの変化が明確に識別できない層準で、ローム層の色調に変化がみられる場合、それは、火山噴火以外の影響(たとえば気候、レスの含有量、ロームの堆積速度など)を示すと考えられる。

ローム層の岩石学的特徴としては、シルト～粘土などの細粒分中の石英の酸素同位体比から推定されるレスの含有量の比較が、ロームの成因を解明するのに有効であることはいうまでもない。

このほか、今回の分析手法を地域的に拡大し、調査地点を増加させ、同様な記載資料を充実させれば、ローム層と火山灰層序との関係がより明瞭となり、テフラの噴出期との比較から、ローム層の堆積速度が明瞭になる可能性がある。また、テフラ層序が詳細に把握できれば、これまでに知られているテフラ層序と海水準変動との関係から、ローム層の層準ごと古気候が明瞭になる可能性もあると考えられる。

5. まとめ

- (1) 長万部富野3遺跡の図V-4-1に示す位置で、ローム層を鉛直方向に約3cm間隔で採取し、含まれる極細砂サイズ砂の鉱物組成を行った。分類結果を「鉱物組成一覽表(表V-4-2)」および「ロームの色調と斜方輝石・角閃石の含有率一覽図(図V-4-4)」に示した。
- (2) (1)で得られた結果を基に、火山灰起源である火山ガラス、および、火山灰起源の可能性のある斜方輝石および角閃石の屈折率を温度変化型屈折率測定装置で測定した。結果を柱状図と鉱物組成とまとめ「分析結果総合図(図V-4-5)」に添付した。
- (3) 試料 No.45-49層準火山灰は、洞爺テフラ降灰移行、駒ヶ岳 Ko-g テフラ降灰以前に降灰したと考えられ、クツラ第2テフラに対比できる可能性が高い。

試料 No.33-36層準火山灰は、対比不明である。鉱物組成は、駒ヶ岳のテフラと類似する。駒ヶ岳のテフラの詳細な調査が望まれる。

試料 No.65-68層準は、支笏第1テフラ (Spfa-1:fall) = 支笏火砕流 (Spfl) に対比できる可能性

が極めて高い。

試料 No.80-85 火山灰は、瀧川テフラに対比できる。本火山灰は、同テフラの fall ユニット b-5 に類似した鉱物である。

試料 No.70-74 は、駒ヶ岳 Ko-h1 テフラに対比できる可能性がある。

(4) ロームの色調(彩度)と、(3)に示したテフラ識別層準との間には、やや相関性が認められる。テフラ降灰層準では、彩度が一律に高く、低い層準は見あたらない。

(5) 鉱物組成および鉱物の屈折率の層序による系統的な変化は、火山噴火の影響を示すと考えられ、これらの変化が明瞭に識別できない層準で、ローム層の色調に変化がみられる場合、それは、火山噴火以外の影響(たとえば気候、レスの含有量、ロームの堆積速度など)を示すと考えられる。

(6) 今回の分析手法を地域的に拡大し、調査地点を増加させ、同様な記載資料を充実させれば、ローム層と火山灰層序との関係がより明瞭となり、テフラの噴出期との比較から、ローム層の堆積速度が明瞭になる可能性がある。また、テフラ層序が詳細に把握できれば、これまでに知られているテフラ層序と海水準変動との関係から、ローム層の層準ごとの古気候が明瞭になる可能性もあると考えられる。

引用文献

- 古澤 明(1990) 瀧尾平野南西部地下における東海層群および海部累層・弥富累層の火山灰層とその対比。地質学雑誌、96、p.883-901。
- 古澤 明(1995) 火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別。地質学雑誌、101、p.123-133。
- Heiken (1972) Morphology and petrography of volcanic ashes. *Bull. Geol. Soc. Amer.* 83, p. 1961-1988.
- 鎌田浩毅・榎原 徹・山下 透・星住英夫・林田 明・竹村恵二(1994) 大阪層群アズキ火山灰および上総層群 Ku6C 火山灰と中部九州の今市火砕流堆積物との対比—猪年田カルデラから噴出した coignimbrite ash—。地質学雑誌、100、p.848-866。
- 町田 洋・新井秀夫(1978) 南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ—アカホヤ火山灰。第四紀研究、17、p.143-163。
- 町田 洋・新井秀夫(1992) 火山灰アトラス [日本列島とその周辺]、276p.、東京大学出版会。
- 吉川周作(1976) 大阪層群の火山灰層について。地質学雑誌、82、p.497-515。
- 日本第四紀学会編集(1996) 第四紀露頭集—日本のテフラ、日本第四紀学会、p.50。
- Ross, C.S. (1928) Altered Palaeozoic Volcanic materials and their recognition. *Bull. Amer. Ass. Petrol. Geol.*, 12, p.143-164.
- 山縣耕太郎(1994) 支笏およびクッタラ火山のテフロクロロジー。地学雑誌、103、p.268-285。
- 柳井清治・藤澤好博(1988) 北海道駒ヶ岳山麓における化石林の発見とその意義。地球科学、42、p.25-28。
- 柳井清治・藤澤好博・古森康晴(1992) 最終氷期末期に噴出した瀧川テフラの層序と分布。地質学雑誌、98、p.125-136。

標尺 (m)

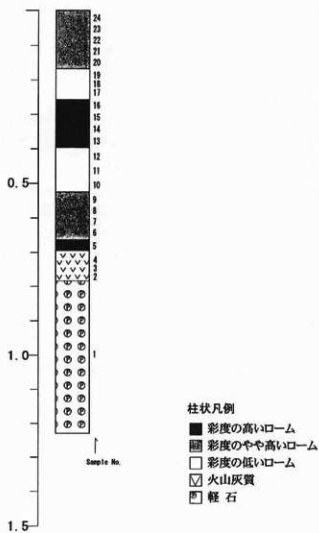
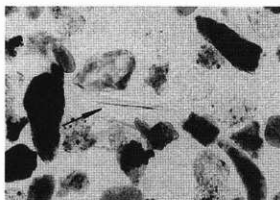
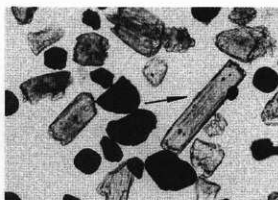


図 V-4-6 B point 柱状図



試料No. 11に含まれる洞窟テフラ起源の火山ガラス(矢印)



試料No. 34に含まれるガラスの付着した斜方輝石(矢印)



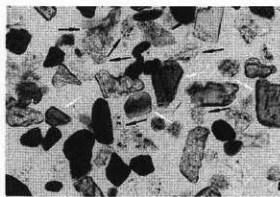
試料No. 46に含まれるクッタラ第2テフラ起源の斜方輝石(黒矢印), 角閃石(白矢印)



試料No. 54に含まれるBnタイプ火山ガラス(矢印)



試料No. 68に含まれる支那火神流起源の火山ガラス(矢印)



試料No. 81に含まれる濁川テフラ起源の火山ガラス(黒矢印), 角閃石(白矢印)

0.1mm

図V-4-7 ローム層に含まれる火山灰の顕微鏡写真

ローム層採取地点 (A point) ; 白色の線は採取位置左端を示す。



白色調が目立つ層準の基底 (くさびのさし込まれている位置) は試料 No.37に相当する。

図 V-4-8 ローム層採取地点写真

5 富野3遺跡の完新世テフラについて

花岡 正光

本遺跡で認められた完新世のテフラと、一見テフラ層と誤認されやすかった地層について記載する。採取試料は、水洗、超音波洗浄、篩い分け後、エポキシ樹脂ペトロポキシ154で封じたプレパラートを作成し、粒径1/8-1/16mmについて検鏡した。また、EPMAによる鉱物化学分析をアースサイエンス株式会社に依頼した(表V-5-1~3、図V-5-1~3)。

2.5Y7/4(浅黄)のシルト質降下テフラ(試料T1):層厚1cm。グリッドO-27-cの風倒木跡(?)の凹地で採取した。基本土層のⅢ層より上位の層準で産出すると考えられ、Ⅱ層以上がほとんど削刺されているので遺跡内ではほとんど確認されていない。

構成物は、ほとんど火山ガラスから成り、少量のアルカリ長石を含む。火山ガラスの形態はバブルウォール型が多く、繊維状、平板状、網目状のものも含む。火山ガラスの化学組成は K_2O が多い(表V-5-1、図V-5-1)。このような特異なテフラは、約1000年前の白頭山起源のB-Tm(町田・新井、1992)である。

基本土層のⅢ層(試料T2):10YR4/3(にぶい黄褐)の土壌化した粘土質層、層厚10cm。遺跡全域で連続した地層で、一見テフラ層のようにみえる。グリッドK-36-aで採取した。

構成物は、斜長石と火山ガラスが多く、少量の角閃石、斜方輝石、単斜輝石、不透明鉱物、プラントオパール、僅量の石英、アルカリ長石、軽石、炭化植物片を含む。火山ガラスの形態は、バブルウォール型が多く、繊維状、網目状、平板状のものも含む。鉱物粒子は破片状が多く、円磨されたものも含む。斜方輝石の化学組成は、 MgO/FeO が1.50~2.63でばらつきが大きい(表V-5-2、図V-5-2)。

さまざまな種類の鉱物や物質を含み、粒子が円磨されているものがあること、鉱物化学組成にばらつきが大きいことから、Ⅲ層は純粋なテフラ層ではなく、周辺から主として風で運搬された物質が堆積してきた地層と考えられる。

10YR7/8(黄橙)のシルト質降下テフラ(試料T3):最大層厚22cm。グリッドI-15-bの住居跡H-3で採取した。この地点のみならず、縄文時代早期の住居跡の覆土中にレンズ状に厚く堆積していることで、遺構検出の目印ともなっている。

構成物は、火山ガラスと斜長石に富み、少量の斜方輝石、単斜輝石、不透明鉱物を含んでいる。火山ガラスの形態は、ほとんどが泡壁の薄い網目状で、気泡径0.01mm±である。斜方輝石の化学組成は、 MgO/FeO が1.92~2.15で、値の集中度が高い(表V-5-3、図V-5-3)。

このテフラと、産出層準、岩石記載の特徴が同じテフラが、函館市の中野A、B遺跡、七飯町の鳴川右岸遺跡、桜町遺跡で確認され、駒ヶ岳起源のKo-gに対比されると考えられた(北海道埋蔵文化財センター、1993・1997)。Ko-gの年代は5000~6000年前である(町田・新井、1992)。

このほか、I層(耕作による攪乱層)中に白色の砂質降下テフラが斑状に産出する。これは駒ヶ岳起源のKo-d(A.D.1640)と考えられるが、本来の層準を保っていないので記載を省略した。

文献

北海道埋蔵文化財センター(1993):「函館市中野A遺跡(Ⅱ)、本文編」。424pp。

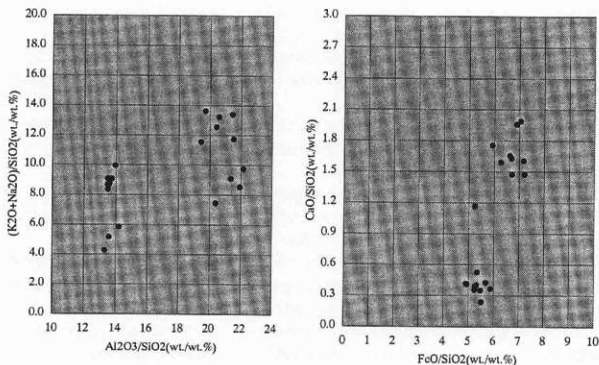
北海道埋蔵文化財センター(1997):「七飯町鳴川右岸遺跡・桜町遺跡」。229pp。

町田 洋・新井房夫(1992):「火山灰アトラス」。東京大学出版会、276pp。

表V-5-1 B-Tmの火山ガラスの化学分析値

火山ガラスEPMA分析結果一覧表																								
試料名：T1, 富野3遺跡																								
分析項目	分析要素																				平均値	標準偏差	δ(m)	
	wt.%	wt.%	wt.%	wt.%	wt.%	wt.%	wt.%	wt.%	wt.%	wt.%	wt.%	wt.%	wt.%	wt.%	wt.%	wt.%	wt.%	wt.%	wt.%	wt.%				
SiO ₂	77.20	77.25	76.57	76.62	77.66	66.57	70.75	74.26	68.97	75.42	68.17	75.68	70.48	68.68	76.18	76.71	70.46	66.99	76.89	75.75	73.11	3.76	5.97	
TiO ₂	0.30	0.03	1.15	0.22	0.18	0.38	0.54	0.27	0.40	0.46	0.50	0.21	0.27	0.41	0.24	0.11	0.25	0.25	0.16	0.27	0.32	0.23	71.16	
Al ₂ O ₃	20.97	24.52	13.69	16.59	16.54	14.75	15.11	16.37	15.28	16.25	14.24	16.25	14.39	14.78	16.32	16.28	13.68	15.36	16.46	16.21	13.89	2.17	17.35	
FeO	3.79	4.32	4.86	4.24	4.38	4.82	4.68	4.37	4.87	3.73	4.68	4.19	3.76	4.62	4.87	4.91	4.42	4.83	4.68	4.31	4.33	0.39	9.07	
MnO	0.07	0.09	0.06	0.14	-0.03	0.04	0.13	0.02	0.15	0.03	0.10	0.05	-0.04	0.03	0.14	0.01	0.13	0.17	-0.06	0.02	0.06	0.07	116.00	
MgO	0.05	0.15	0.18	0.03	0.13	0.27	0.16	0.17	0.04	0.03	0.16	0.15	0.08	0.05	0.15	-0.08	-0.07	0.46	-0.05	0.01	0.10	0.12	120.46	
CaO	0.32	1.28	1.61	0.22	0.27	1.10	1.17	0.27	1.37	0.31	1.02	0.18	0.82	1.12	0.40	0.27	1.12	1.27	0.36	0.22	0.72	0.48	62.32	
Na ₂ O	0.98	1.68	2.81	0.61	0.84	1.71	1.71	3.08	1.92	2.14	3.89	2.41	3.47	3.68	2.60	2.61	2.83	1.69	2.52	2.79	2.26	0.99	41.86	
K ₂ O	2.54	4.26	4.82	2.78	3.18	5.20	4.79	4.38	4.81	4.69	5.26	3.83	5.37	5.37	4.88	4.91	5.30	4.29	4.24	4.12	4.47	0.78	17.53	
CO ₂	-0.20	0.00	-0.16	-0.11	-0.11	-0.11	-0.04	-0.16	0.17	-0.04	-0.03	0.09	0.09	0.03	-0.07	0.11	-0.05	0.13	0.17	-0.24	-0.03	0.12	-483.35	
H ₂ O	-0.21	0.35	0.14	0.09	0.26	0.15	0.17	0.13	-0.32	0.04	0.12	0.25	0.10	-0.26	0.04	0.19	-0.08	-0.05	-0.18	0.28	0.05	0.19	370.85	
TOTAL	96.81	97.17	98.69	98.95	97.22	98.06	98.82	97.00	97.68	97.14	98.02	97.57	98.31	98.88	98.02	97.85	98.09	98.69	98.50	97.80	98.00	0.68	0.70	
Al ₂ O ₃ /SiO ₂	%	14.21	20.38	19.68	13.90	13.67	21.53	21.36	13.96	22.15	13.72	20.29	13.48	20.42	21.46	13.53	13.47	19.42	21.95	13.60	13.48	17.26	3.78	21.61
FeO/SiO ₂	%	4.91	5.92	7.24	3.33	5.48	7.16	6.63	5.88	7.06	4.94	6.72	5.52	5.25	6.71	5.34	5.25	6.27	6.90	5.27	5.69	5.98	0.79	13.19
CaO/SiO ₂	%	0.41	1.75	1.47	0.40	0.35	1.81	1.65	0.36	1.99	0.41	1.47	0.24	1.16	1.63	0.53	0.35	1.59	1.96	0.39	0.42	1.01	0.66	65.50
Na ₂ O/SiO ₂	%	1.27	1.47	3.56	0.79	1.08	4.01	2.42	4.04	5.78	2.84	5.62	3.18	4.92	5.30	3.28	3.42	4.02	2.41	3.28	3.63	3.27	1.44	44.25
K ₂ O/SiO ₂	%	4.59	5.98	6.05	3.49	4.09	7.74	6.69	5.90	6.97	6.22	7.60	5.18	7.62	8.09	5.36	5.25	7.52	6.13	5.51	5.44	6.17	1.34	21.72
(K ₂ O+Na ₂ O)/SiO ₂	%	5.85	7.43	13.61	4.26	5.18	11.75	9.10	9.94	9.76	10.25	13.23	8.36	12.54	13.39	8.64	8.68	11.54	8.54	8.79	9.07	9.44	2.65	28.03
(FeO+CaO)/SiO ₂	%	5.32	7.68	8.71	3.73	5.83	8.79	8.20	6.25	9.05	5.36	8.20	5.76	6.41	8.32	5.87	5.61	7.86	8.66	5.66	6.11	6.98	1.39	19.87

注* δ(m) : 標準偏差/平均値



図V-5-1 B-Tmの火山ガラスの化学分析値散布図

表 V-5-2 III層の斜方輝石の化学分析値

斜方輝石EPMA分析結果一覧表															
試料名: T2 (III層), 富野3遺跡 分析鉱物: 斜方輝石; 分子式: (Mg,Fe)SiO ₃ ; 少量Ca, Al, Mn含有.													分析点数: 20		
分析点数号	元素	SiO ₂ wt.%	TiO ₂ wt.%	Al ₂ O ₃ wt.%	FeO wt.%	MnO wt.%	MgO wt.%	CaO wt.%	Na ₂ O wt.%	K ₂ O wt.%	Cr ₂ O ₃ wt.%	NiO wt.%	Total wt.%	MgO/FeO (mol/mol)	(MgO+FeO)/SiO ₂ (mol/mol)
1		53.68	0.22	1.14	19.68	0.66	23.43	1.67	-0.16	-0.01	0.08	0.00	101.13	2.12	0.96
2		54.13	0.01	0.84	20.63	0.67	22.90	1.48	-0.18	-0.08	0.02	-0.10	100.03	1.98	0.95
3		53.27	0.13	0.95	21.34	0.62	22.40	1.55	0.10	0.04	-0.11	0.15	100.79	1.87	0.96
4		53.55	0.32	0.89	20.33	0.57	23.32	1.44	0.29	0.11	-0.14	0.26	99.87	2.04	0.97
5		53.18	0.26	0.77	21.78	0.65	22.54	1.26	0.25	-0.07	-0.03	-0.17	100.02	1.84	0.97
6		52.86	0.29	0.77	21.53	0.71	21.57	1.40	0.13	0.20	0.13	0.09	100.34	1.79	0.95
7		53.04	0.37	0.90	21.42	0.65	22.65	1.53	0.09	-0.04	-0.03	0.29	100.22	1.90	0.98
8		53.46	0.23	0.77	21.44	0.88	22.16	1.25	0.23	0.00	0.08	0.07	100.19	1.84	0.96
9		52.58	0.49	1.30	23.04	0.97	21.06	1.97	0.36	0.09	0.01	0.19	99.78	1.63	0.96
10		53.77	0.16	1.18	20.94	0.64	23.20	1.30	0.22	0.03	-0.28	-0.07	101.18	1.97	0.97
11		53.32	0.14	1.47	17.25	0.39	25.45	1.73	-0.06	0.02	0.00	0.04	99.59	2.63	0.98
12		52.00	0.10	0.84	21.90	0.59	22.82	1.48	0.14	-0.03	-0.07	-0.01	99.59	1.86	1.01
13		52.54	0.33	0.89	23.98	0.51	20.21	1.53	0.25	-0.06	-0.12	0.18	99.29	1.50	0.96
14		53.65	0.20	0.88	20.49	0.62	23.40	1.42	0.23	-0.08	0.04	0.04	101.00	2.04	0.97
15		53.14	0.22	0.87	21.11	0.67	22.29	1.38	0.21	0.00	0.22	-0.30	99.58	1.88	0.96
16		53.36	0.13	0.80	20.69	0.55	23.59	1.42	0.27	-0.02	-0.01	0.01	99.78	2.03	0.98
17		53.23	0.32	1.13	21.70	0.39	22.68	1.67	0.08	0.04	-0.13	-0.06	100.68	1.86	0.98
18		53.70	0.09	0.78	19.62	0.73	23.33	1.36	0.15	-0.12	-0.07	0.00	100.88	2.12	0.95
19		52.94	0.09	0.57	22.58	0.60	22.00	1.49	0.22	-0.08	0.06	0.01	99.31	1.74	0.98
20		53.06	0.05	0.74	21.74	0.63	22.35	1.51	0.19	-0.12	0.08	0.12	100.78	1.83	0.97
平均値		53.21	0.21	0.92	21.16	0.61	22.68	1.49	0.15	-0.01	-0.01	0.01	100.42	1.92	0.97
標準偏差		0.50	0.12	0.22	1.39	0.12	1.07	0.17	0.14	0.08	0.11	0.15	0.61	0.23	0.01

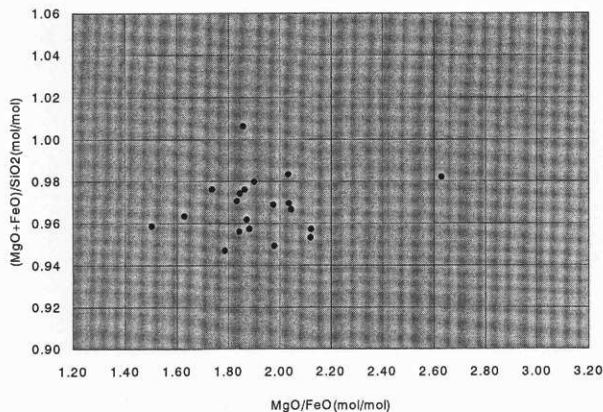
Total Fe as FeO; Fe₂O₃=1.1113FeO.

図 V-5-2 III層の斜方輝石の化学分析値散布図

表 V-5-3 Ko-g の斜方輝石の化学分析値

斜方輝石EPMA分析結果一覧表																
試料名: T3, 富野3遺跡		分析鉱物: 斜方輝石; 分子式: (Mg,Fe)SiO ₃ ; 少量Ca, Al, Mn含有。											分析点数: 20			
分析点番号	元素		SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	Cr ₂ O ₃	NiO	Total	MgO/FeO	(MgO+FeO)/SiO ₂
	wt. %	wt. %	wt. %	wt. %	wt. %	wt. %	wt. %	wt. %	wt. %	wt. %	wt. %	wt. %	wt. %	wt. %	(mol/mol)	(mol/mol)
1	53.67	0.19	1.07	20.36	0.60	22.79	1.41	0.33	0.04	-0.06	-0.17	101.13	2.00	0.95		
2	53.65	0.10	0.87	20.21	0.40	23.18	1.36	0.04	0.02	0.00	0.03	100.83	2.04	0.95		
3	53.15	-0.04	0.87	20.63	0.61	23.03	1.66	0.32	0.03	-0.14	0.05	100.79	1.99	0.97		
4	53.62	0.12	1.01	20.26	0.70	23.05	1.46	0.23	0.13	0.11	0.26	99.87	2.03	0.96		
6	52.55	0.31	1.02	20.79	0.65	22.54	1.50	0.27	0.09	-0.17	0.06	100.34	1.93	0.97		
7	53.33	0.16	0.90	20.43	0.53	22.63	1.71	0.03	0.06	-0.19	0.07	100.22	1.97	0.95		
8	52.85	0.05	0.98	20.18	0.71	23.11	1.33	0.06	0.09	-0.14	-0.02	100.19	2.04	0.97		
9	52.99	0.36	1.15	20.50	0.85	22.75	1.42	0.14	0.00	-0.06	0.13	99.78	1.98	0.96		
10	53.82	0.17	1.52	20.63	0.75	22.55	1.61	0.11	0.05	-0.05	-0.02	101.18	1.95	0.95		
11	52.73	0.37	0.96	20.34	0.47	23.65	1.21	0.33	-0.10	-0.11	0.27	99.59	2.07	0.99		
12	54.22	0.28	0.43	20.47	0.63	23.10	1.55	0.07	-0.01	-0.08	-0.08	99.59	2.01	0.95		
13	52.90	0.06	0.90	20.83	0.83	22.45	1.44	0.22	0.04	0.03	-0.13	99.29	1.92	0.96		
14	52.91	0.30	0.83	19.47	0.67	23.51	1.69	0.12	0.03	0.04	0.02	101.00	2.15	0.97		
15	53.23	0.17	0.83	21.01	0.58	23.01	1.27	0.18	-0.02	-0.19	0.00	99.58	1.95	0.97		
16	52.95	0.24	1.03	20.10	0.59	22.50	1.33	0.31	0.04	0.02	0.14	99.78	2.00	0.95		
17	54.11	0.37	0.86	20.26	0.75	22.85	1.53	0.38	0.02	-0.02	-0.35	100.68	2.01	0.94		
18	53.68	0.26	1.04	20.71	0.57	23.17	1.50	0.21	-0.07	0.06	-0.19	100.88	1.99	0.97		
19	52.88	0.41	0.93	20.03	0.58	23.29	1.28	0.15	-0.08	0.01	0.01	99.31	2.07	0.97		
20	52.34	0.11	1.76	20.90	0.68	23.62	1.52	0.00	0.06	0.23	0.02	100.78	1.93	0.98		
5*	56.70	0.25	2.37	15.37	0.39	19.37	1.61	0.72	0.42	-0.10	-0.15	100.02	2.25	0.71		
平均値	53.26	0.21	1.00	20.43	0.64	22.94	1.46	0.18	0.02	-0.02	0.01	100.13	2.00	0.96		
標準偏差	0.54	0.13	0.27	0.36	0.10	0.35	0.14	0.12	0.06	0.11	0.15	0.63	0.06	0.01		

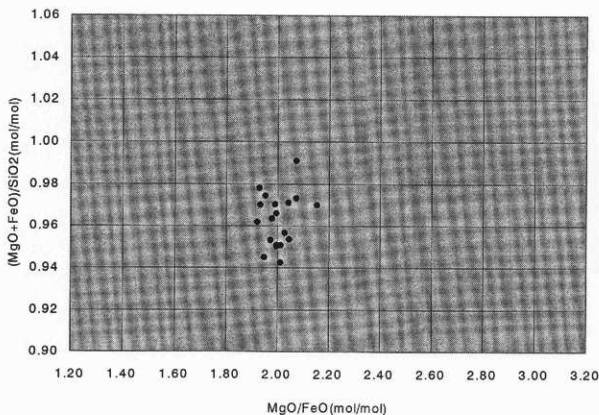
Total Fe as FeO; Fe₂O₃=1.113FeO. *rejected

図 V-5-3 Ko-g の斜方輝石の化学分析値散布図

VI まとめ

1 住居跡

本遺跡で検出された住居跡は、全て縄文時代早期に属するものである。時期の詳細はI群a類土器の住居跡が、2軒、I群b-1類土器の住居跡が13軒の合わせて15軒検出された。後者は、このほかにI群a類の時期のH-1、H-5のくぼみを利用した生活痕跡が2ヵ所ある。この時期の住居跡は道南地方では検出例がなく、その形状も極めて特徴があるものである。

I群b-1類土器の時期の住居跡は、H-2・3・6・7・8・9・10・11・13・14・15である。このうちH-3・9・11・13と、H-6・15は重複関係にある。

これらは平面形、床面の形状、炉跡の有無等から4つに分類できる。

1類) 平面形は隅丸方形を呈し、床面は平坦で、壁の立ち上がりが明瞭であるもの。炉はない(H-10)。
2類) 平面形は楕円形を基調とする不整形で、断面形は中央付近に向かってくぼむすり鉢状か、ベンチ状の数段の平坦面が作られる。またそうでない場合でも、床面は平らなところがなく、でこぼこしており、壁の立ち上がりは不明瞭である。炉はあるものとなないものがある。あるものは地床炉が住居跡のくぼみの中央付近に1ヵ所以上あり、長軸上の直線に並ぶように検出されるものもある(H-3、H-6)。また、覆土はIV層を基調とし、覆土中から土器が比較的多く出土するもの(H-3・6・8・9・11・13・14・15)。

3類) 床面が平坦で、壁の立ち上がりは比較的明瞭であり、隅丸方形を基調とする平面形を持つもの。柱穴が比較的明瞭に多数検出されるもの(H-2・7)。

4類) 古い住居跡のくぼみを利用して、作られるもの(H-1、H-5覆土中)。

これらの4類型のうち、分布からそれ以外と明瞭に区別できるものは、1類である。H-10は調査区の東端に独立して存在しており、そのほかの住居跡の分布とは約60m離れている。調査区の東側の段丘上のより高い位置に分布の広がる可能性があり、他の3類とは別の単位として読み取れる。

そのほかの3類型は、調査区の南西部の緩斜面に集中して検出されている。このうち2類と4類は建築方法についての違いはあるが、その平面形、断面形はほぼ違いはないといつてもよいものである。このことから、調査区南西部の住居跡の集中には、大きくみれば2類型の住居跡があったことになる。これらの位置関係をみてみると、3類が段丘上の平坦面に、2類がやや段丘縁の緩斜面上に両者とも南北方向の帯状に並んでいることがわかる。このことは性格は不明であるものの、何らかの住居の役割の違いを示していると思われる。

近年、青森県での縄文時代早期の住居の集成が試みられた(中村・坂本1998)。本遺跡で最も多いI群b-1類土器の時期はⅦ期とされた赤御堂式の時期とみることができ、Ⅶ期は前時期のⅥ期と比べ、平面形が円形を基調とし、楕円形を呈するものの割合が増えるという。また、長軸または1辺が7m以上の大型の住居とそれ以外の住居に別れているとされている。本遺跡の検出例も長軸が7mを超える住居跡は3棟あり、平面形に関しても楕円形が多く、その時期の特徴をよく表していると思われる。

また、前掲論文中で表館(1)SI302とされる住居跡の平面形、地床炉の検出状況などを見ると、本遺跡検出のH-3・9・11・13の集合、H-6・15の集合も、1つの住居跡であったかもしれない。またそうでなかったとしても、短期間の立て替え又は増設の結果であった可能性は高い。(立田 理)

2 土器

ここでは、主に成果のあったI群a類土器とI群b-1類土器について述べる。

I群a類土器

今回調査を行ったH-1では、床面からわらび状の文様が施されたキャリバー状の器形のもので、その上の覆土層からは幾何学的な菱形構成の文様を持つ砲弾型の器形の土器が出土しており、これらには若干の時間差があると考えられる。また、H-1から出土したキャリバー状のものは、H-5覆土中から出土した砲弾型のもの、文様構成や胎土などが類似している。これら異なる器形のもので同じ時期に使われていたことや、同じ作者による可能性も考慮する必要があるかもしれない。

施文される文様の多くは函館市中野A遺跡(道埋文1992・1993)の資料に見られるものであるが、当遺跡のそれはクランク状の文様の出現率が低い。函館市周辺以外で「物見台式」相当の土器が出土しているのは伊達市稀府川遺跡(道埋文1989)や南稀府5遺跡(道文化財保護協会1983)、静内町中野台地B遺跡(静内町教委1985)などであるが、これらの土器群にもクランク状の文様は認められず、時間の違いや地域的な差で施文される文様に偏りが生じた可能性がある。また、貫通孔の施される土器も比較的多く、類別が静内町中野台地B遺跡(静内町教委1985)に限られるという点からも、それらとの関連が考えられる。

口唇部に見られる連続した貝殻復縁の刻みや多数の刺突文を伴う沈線などは中野A遺跡でも少なく、函館市石倉貝塚(道埋文1995)で比較的多く見られる特徴である。このような特徴を合せ持つことから、富野3遺跡出土のI群a類は「物見台式」の中でも比較的新しい段階を主体とする土器群と考えられる。

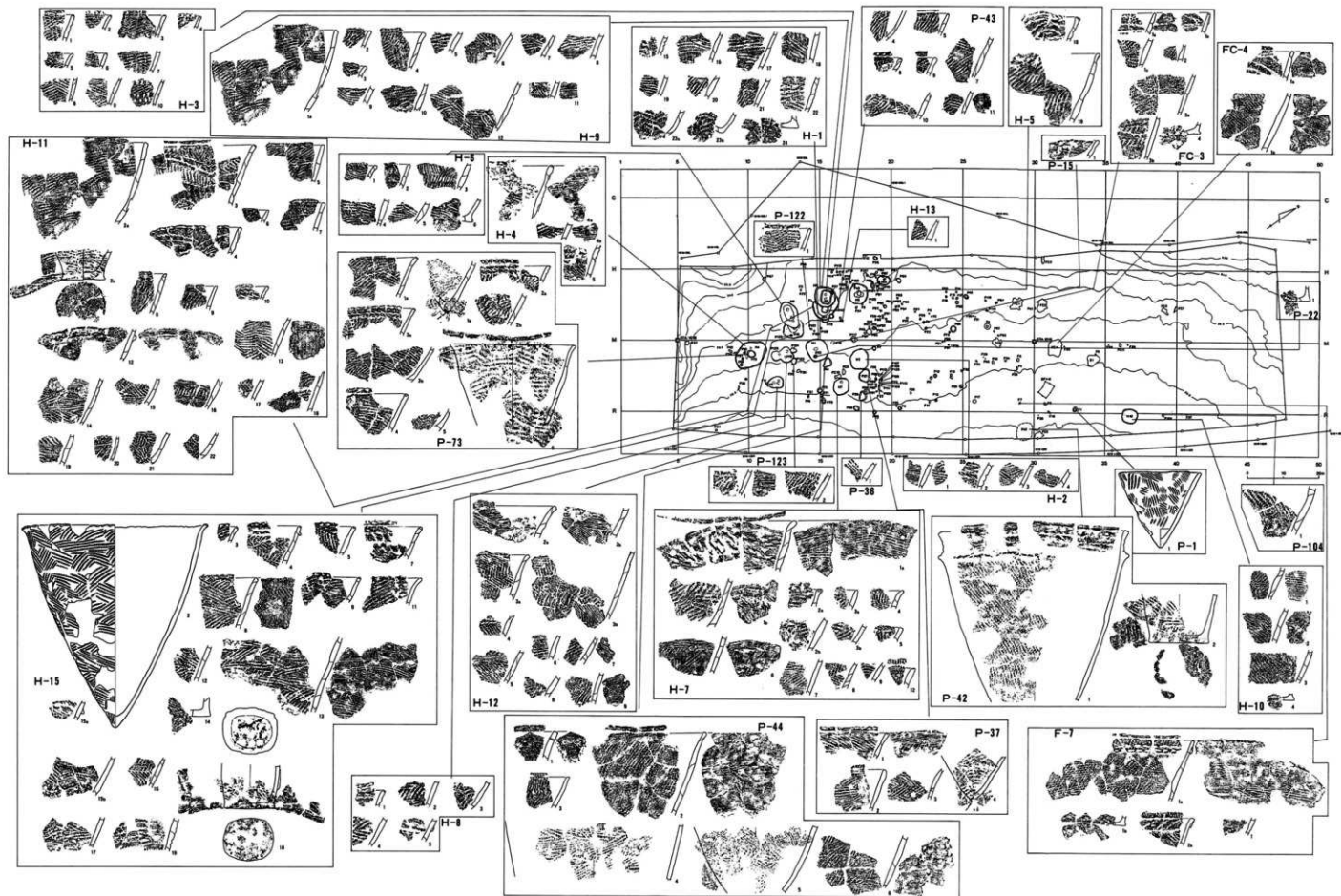
I群b-1類

今回最も興味深い成果のあった土器群である。先に述べた第1グループの多くは「仮称西桔梗式」、第2グループはA:尖底深鉢形土器群が「赤御堂式」新手、B:平底深鉢形土器群が「東釧路Ⅱ式」新手、第3グループは「東釧路Ⅲ式」に相当する土器群である。先後の関係が明らかなのは、第2グループ「東釧路Ⅱ式」と第3グループ「東釧路Ⅲ式」の土器で、第2グループ→第3グループの順であるが、以下の特徴から第1グループは、これらに先行するものと考えられる。次に古いと考えられる第1グループから順に北海道と青森県の土器群との関連を検討する。

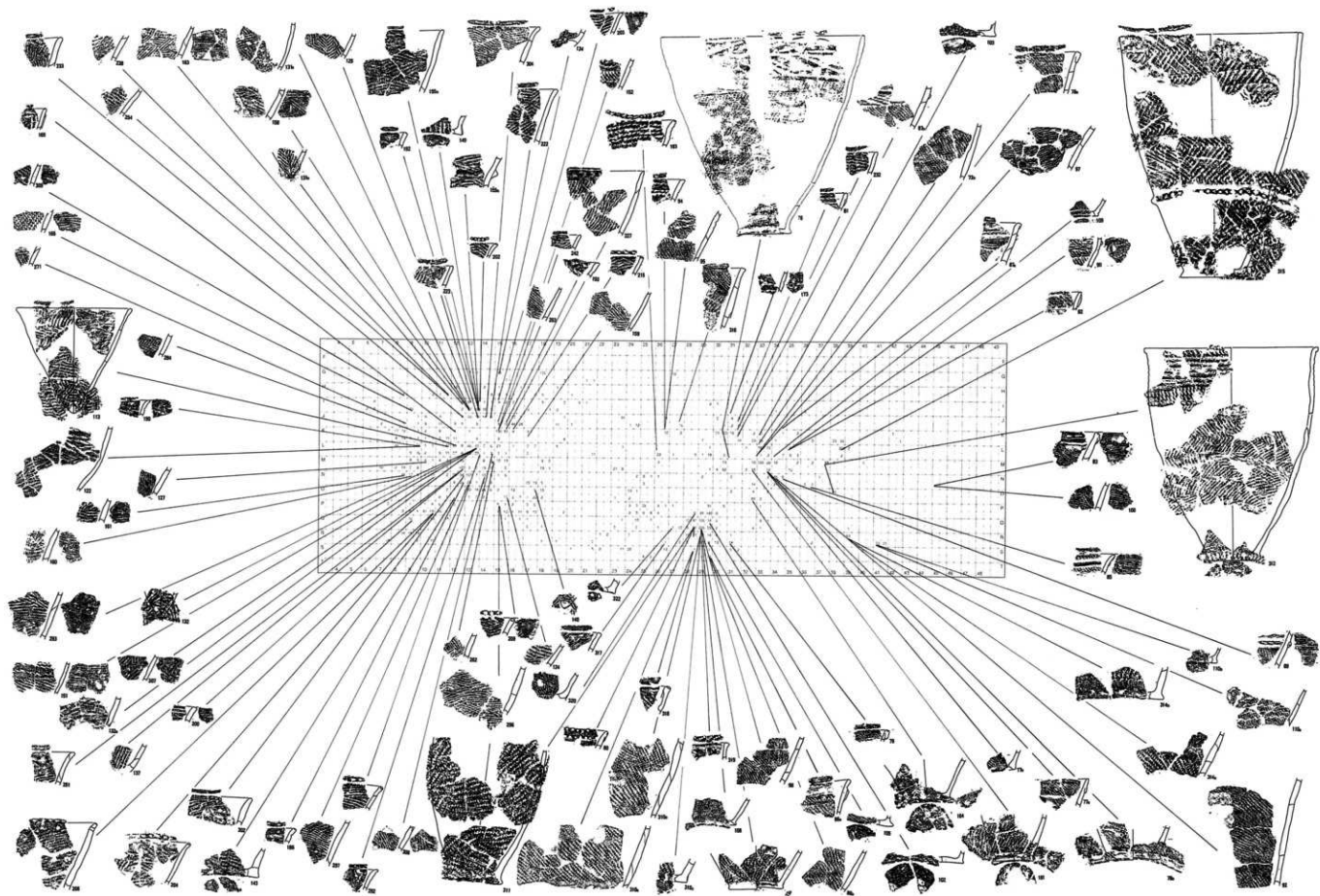
第1グループ

A土器群は、口縁の肥厚帯が口唇の折り返しによるもので表裏に条痕文が施されるものである。B土器群は口縁の肥厚帯がA土器群と同じで条痕文が内面に施されるか全く見られないものである。A・B土器群の肥厚帯には地紋の上から刺突文や縄線文が施され、幅の狭い文様帯そのものでもある。C土器群は、器面に粘土紐を貼付するもので条痕文が内面に施されるか全く見られないものである。粘土紐の貼付帯は、主にそれ自体が比較的幅の広い文様帯を持つ口縁部と胴部とを区切る様に使われており、文様帯の縄線文や結条体丘瓦文が施される部分は無地が多い。これらの特徴から見て各土器群の変遷は、A土器群が古段階・B土器群が中段階・C土器群が新段階になると考えられる。

本遺跡出土の第1グループは、内外面に見られる条痕文の変遷と口縁の肥厚帯から考えて、アルトリ式・浦幌式に後続すると考えられる土器群で、東釧路貝塚の東釧路Ⅱ式の比較的古い段階から中段階や「仮称西桔梗式」第1~3類に相当する。青森県出土のものでは、ムシリ2式a~b類土器、表館VI群1~3類土器に相当すると考えられ、「赤御堂式古段階」は第1グループのC土器群(新段階)に相当する可能性がある。よって、第2・3グループに先行する時期とできよう。なお、「仮称西桔梗式」(岡島1975)は、今回の資料をもって「西桔梗式」とみなせるものと考えられる。



図VI-1 遺構出土の1群b-1類土器



図VI-2 包含層出土のI群b-1類土器

第2グループ

早期後葉の竪穴住居群とその周辺から出土した土器群である。この土器群には、A、尖底深鉢形土器とB、平底深鉢形土器とが併せて出土している。C、器形の不明なもので、尖底深鉢形土器に属する可能性の高いものは、口縁が外に向かって開き気味で、内面に条痕や縄文が見られるものである。これ以外では器壁が薄く口唇に大柄な刺突や刻みの施されるもの、縄線文、組紐瓦直文、撚糸文、綾杉状縄文、羽状縄文（0段多条）、刺突文などが施されるものも、比較的可能性が高い。

平底深鉢形土器に属する可能性の高いものは、口縁部が直立するもので、条の一部が水平近くまで寝る縄文が施されるものに多い。貼付帯は裾野が壁にすり付けられて広がるものが平底、大きく飛び出すのが尖底のようだ。

これらから判断して、約8～9割が尖底の器形を呈すると考えられ平底は圧倒的に少ないが、H-15では明らかに尖底のものに伴って出土しており、同じ時期の尖底土器と平底土器が併存する事例としてとらえられよう。

A、尖底土器は「赤御堂式」新手に相当し、B、平底土器は「東釧路Ⅱ式」の末期で、標茶町元村遺跡（標茶町教委1998）出土の東釧路Ⅱ式に相当すると考えられる。

第3グループ

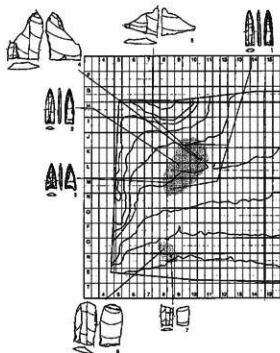
東釧路Ⅲ式に相当する土器群である。これらは東釧路Ⅲ式の極めてオーソドックスな特徴を示すもので、純然たる東釧路Ⅲ式の文化が渡島半島にも根付いていたことの証と言える。

（皆川洋一）

3 剣片石器

本遺跡ではⅠ群b-1類土器の時期の遺構が多数検出されている。そこで、遺構等の遺物出土状況からⅠ群b-1類土器に伴う可能性がある石器を取り上げてみる。石鏃では柳葉形のもの（図Ⅲ-21 H-6 10ほか）が伴う可能性が高い。柳葉形のものほとんどが黒曜石製である。石槍では細身で長いもの（図Ⅲ-3 H-1 37）と、やや幅広のもの（図Ⅲ-9 H-2 6）がある。石鎌は両面加工のもの（図Ⅲ-43 H-15 21）も少量認められるが、定型的なものは少なく素材の一端に機能部を作り出すものがほとんどである。篋状石器は両面加工のものが（図Ⅲ-26 H-8）1点出土しているが、遺構に伴うものは少ない。両面調整石器は1点（図Ⅲ-26 H-7 13）出土している。

今回の調査で、本遺跡から石刃鏃3点を含む石刃鏃石器群が11点確認された。石刃鏃石器群を出土する遺跡としては、現在の時点では北海道最南端の出土例となる。以下、石刃鏃石器群の特徴および本遺跡での出土状況を見る。石刃鏃は全て完形品である。3点中2点の形状は半柳葉形の浅い凹基で、石刃鏃の形状としては最も一般的なものである。残る1点は幅が広めで



図Ⅵ-3 石刃鏃石器群分布図

4 石鏝

基部の内湾が深く、形状が他の2点とやや異なる。石刃の種類は幅を基準にして、大きく3つに分けられる。1. 石刃鏝の素材として使われる、幅約1cm程度の小形のもの。2. 1よりやや大きく、幅1.4cm程度のもの。3. 幅が2cm以上の大形のもの。1は石刃鏝の素材としてのみ認められる。2はP-1出土例以外は、側縁に微細な剝離痕が認められる。3はいずれも側縁に二次加工もしくは微細な剝離痕が認められる。石刃鏝石器群は全て黒曜石製で、他の黒曜石製石器のほとんどが赤井川産もしくは豊泉産であるのに対し、白滝産もしくは置戸産と考えられる点が異なる(Ⅴ章1節参照)。また、H-4出土の石刃はいわゆる花十勝で、石質が他のものと異なる。石刃鏝石器群の出土状況は遺構出土と包含層出土がある。遺構出土としてはP-1墳底出土と、H-4の覆土1層出土例がある。P-1の石刃は出土状況から一緒に出土したI群b-1類土器に伴うものと考えられる。ただし、P-1の石刃は、石刃として典型的なものではなく、石刃剝離工程において比較的初期の段階で得られたものである可能性が高い。墳底出土ということからも墓の副葬品の可能性があり、他の石刃鏝石器群とはやや性格が異なる。H-4はI群b-1類土器の時期と考えられ、覆土1層からI群a類及びI群b-1類土器が出土しており、H-4出土の石刃はI群土器に伴う可能性が高い。包含層出土の石刃鏝石器群はK-34-aグリッド出土の石刃1点を除き、調査区南西部付近からまとまって出土している。特に石刃鏝3点を含む5点は出土位置が比較的近接している。石刃鏝石器群の出土層位はIb層出土の2点を除きV層から出土しており、層位的に縄文時代早期の所産と考えられる。土器の分布と比較すると、I群b-1類土器の分布の周縁部とほぼ重なる。ただし、I群b-1類土器の分布の中心からは外れている。

以上から、本遺跡出土の石刃鏝石器群はI群b-1類に伴う可能性があるが、P-1出土例は典型的な石刃とは少し異なるため、現段階では可能性の指摘にとどめ、今後の資料の増加を待ちたい。

(広田良成)

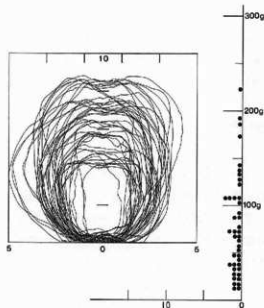
4 石鏝

富野3遺跡から出土した石鏝は総数118点である。そのうち、包含層出土のものは63点、遺構出土のものは55点である。時期は縄文時代早期のものと考えられる。

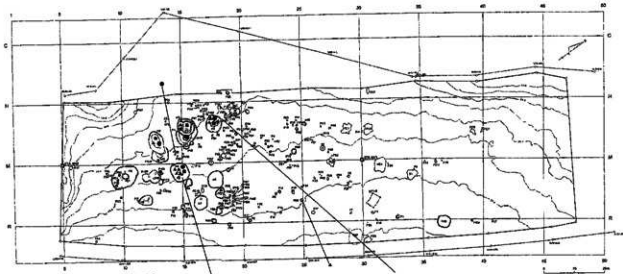
これらの石鏝について、その特徴をいくつか示す。

形態・重量

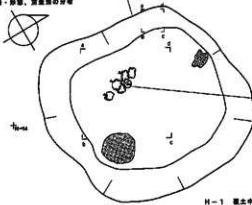
図VI-4に示している形態、重量分布は包含層出土のもので、完形品の42点を図示した。挾入部はほとんどのものが長軸方向に1対作られている。形態を見ていくと、最大のもので長軸が8.7cm、最小のもので4.2cmであるが、4段階の大きさに分かれる。長軸が①4.2cm~5.2cm、②5.8cm~6.5cm、③6.8cm~7.5cm、④8.5cm~8.7cmのものである。重量は、最小のもので16.3g、最大のもので225gのものであるが圧倒的に150g以下のものが多い。なかでも30g台、70g台、100g台のものが多い。形態別に重量の平均値をみていくと、①37.1g、②57.7g、③102.5g、④145.3gである。①~④の調査区内における分布と出土状況を見ていくと(図VI-5)、包含層出土のものは住居跡などの遺構が多い調査区南西側に散在する形で出土する。遺構覆土出土のものもほぼ同じよ



図VI-4 石鏝の形態と重量分布



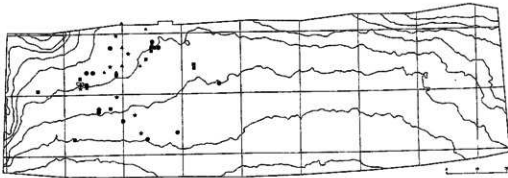
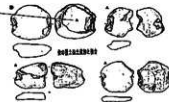
調査から出土した石鏝・砂鏝、調査地の分布



H-1 遺跡中の石鏝出土状況とその遺物



H-5 原野田北の石鏝



調査から出土した石鏝・砂鏝、調査地の分布

- 遺物 8.7m~7.5m (例14.7g)
- 遺物 7.5m~6.5m (例12.1g)
- ▲遺物 6.5m~5.5m (例17.1g)
- ◆遺物 5.5m~4.5m (例17.1g)

図VI-5 石鏝

表VI-1 石鍾屬性一覽

形類	Grid-器物番号-層位	長軸×短軸×厚さ(測定) cm	重量(測定) g	執入部の数・位置	圖版番号	石質	縞或の有無	素材の形状
1	平均値	4.7×4.2×1.5	37.1					
	J-18-a. 10.V	5.0×4.7×1.8	46.9	2・長軸	N-32-134	泥岩	無	扁平盤
	K-14-d. 6.V	5.3×5.1×2.2	72.3	2・長軸	W-4	安山岩	無	扁平盤
	G-17-b. 1.V	5.1×5.2×1.6	38.3	2・短軸	W-4	流紋岩	無	薄片
	J-17-d. 5.V	5.2×5.5×1.6	52.5	2・短軸	N-32-135	流紋岩	無	扁平盤
	J-21-b. 3.Ib	4.4×4.3×1.9	57.0	2・長軸	W-4	流紋岩	無	扁平盤
	L-8-b. 1.V	4.5×4.2×1.5	35.8	2・長軸	W-4	安山岩	無	扁平盤
	J-17-a. 6.II	5.0×4.2×1.6	46.2	2・長軸	N-32-131	チャート	無	薄片
	I-17-d. 4.V	4.2×4.3×1.7	40.1	2・短軸	N-32-133	泥岩	無	薄片
	K-14-d. 8.V	5.1×4.0×1.6	32.8	2・長軸	W-4	流紋岩	無	扁平盤
	P-11-b. 5.V	4.7×3.7×1.3	23.1	2・長軸	W-4	安山岩	無	扁平盤
	J-17-a. 5.V	4.3×3.4×1.2	17.7	2・長軸	N-32-128	安山岩?	無	薄片
	J-21-b. 4.Ib	4.8×3.4×0.9	14.5	2・長軸	N-32-127	安山岩	無	扁平盤
	K-12-b. 21.V	4.2×2.6×1.0	13.7	2・長軸	N-32-126	凝灰岩?	無	扁平盤
	N-14-a. 3.V	4.7×4.4×1.4	28.8	2・長軸	N-32-130	流紋岩	無	扁平盤
2	平均値	6.0×4.8×1.5	57.7					
	G-15-a. 1.V	6.4×6.0×1.8	74.1	2・長軸	N-32-143	流紋岩	無	扁平盤
	K-13-d. 10.Ib	6.5×6.4×1.8	106.1	2・長軸	N-32-142	安山岩	無	扁平盤
	O-15-a. 7.V	6.3×6.7×2.0	102.6	2・短軸	W-4	安山岩	無	扁平盤
	K-14-c. 15.Ib	5.9×5.2×1.7	53.9	2・長軸	N-32-136	安山岩?	無	扁平盤
	I-14-a. 11.V	5.3×4.0×1.6	39.8	2・長軸	W-4	流紋岩	無	薄片
	I-15-a. 2.V	5.9×3.5×1.4	31.1	2・長軸	N-32-132	安山岩?	無	薄片
	J-15-b. 1.V	6.2×3.0×0.7	16.3	2・長軸	W-4	粘板岩	無	薄片
	J-16-c. 5.V	5.8×3.6×1.1	27.6	2・長軸	N-32-129	凝灰岩	無	扁平盤
3	平均値	7.2×5.8×2.0	102.5					
	K-12-a. 17.II	7.5×8.3×2.1	187.3	2・短軸	N-32-151	流紋岩	無	扁平盤
	N-13-a. 16.V	7.4×6.8×2.0	125.4	2・長軸	N-32-148	砂岩	無	扁平盤
	O-15-a. 6.V	6.8×6.4×2.2	108.7	2・長軸	N-32-141	流紋岩	無	扁平盤
	P-17-b. 10.V	7.5×5.7×2.4	105.9	2・長軸	N-32-137	流紋岩	無	扁平盤
	P-19-d. 1.V	7.0×5.1×1.8	85.1	2・長軸	W-4	流紋岩	無	扁平盤
	I-14-a. 4.Ib	7.7×5.6×1.7	65.9	2・長軸	W-4	凝岩	無	扁平盤
	L-23-a. 2.V	7.1×5.1×1.4	72.1	2・長軸	W-4	流紋岩	無	扁平盤
	H-17-c. 7.V	6.5×4.9×2.2	89.7	2・長軸	N-32-139	安山岩	無	扁平盤
	H-17-c. 3.V	7.2×4.7×1.5	67.8	2・長軸	N-32-140	流紋岩	無	扁平盤
	I-18-a. 16.II	7.4×5.8×1.5	77.4	2・長軸	N-32-138	安山岩?	無	扁平盤
	N-18-a. 26.攪乱	7.2×5.1×2.8	142.6	2・長軸	W-4	安山岩	無	扁平盤
4	平均値	8.6×6.8×2.1	145.3					
	I-15-c. 11.V	8.7×7.4×2.4	174.5	2・長軸	N-32-150	安山岩	無	扁平盤
	L-12-d. 1.V	8.3×7.6×3.0	225.1	2・長軸	N-32-152	安山岩	無	扁平盤
	L-12-a. 8.V	8.7×8.4×1.8	138.4	2・長軸	N-32-149	安山岩?	無	扁平盤
	M-14-d. 7.V	9.5×6.4×2.2	133.8	2・長軸	N-32-147	流紋岩	無	扁平盤
	H-14-d. 3.V	8.5×6.5×1.5	107.7	2・長軸	W-4	安山岩	無	薄片
	J-14-b. 9.V	8.3×6.9×1.8	123.6	2・長軸	W-4	凝灰岩	無	薄片
	N-19-b. 5.V	8.5×5.4×1.8	91.9	2・長軸	N-32-146	安山岩?	無	扁平盤
	P-17-b. 8.V	8.5×5.8×2.2	121.9	1長軸・2短軸	N-32-145	流紋岩	無	扁平盤
	L-12-a. 10.V	8.3×6.7×2.3	151.0	2・長軸	N-32-144	安山岩	無	扁平盤

うな傾向を示す。

包含層出土の石鍾の属性を表VI-1に示した。これをみていくと③、④の大きいものは凝灰岩製のものを除いて偏平礫をそのまま使用しているのに対し、①、②の小さいものは1/3が礫片を使用している。

遺構から石鍾が集中して出土したのはH-1覆土中の生活面(I群b-1類期)である。6点出土したもののうち、図示した4点が完形のものである。この形態は③に当てはまるもので、4つの平均重量は53gである。ここではこの大きさのものを選択していると考えられる。H-5住居跡の床面(I群a類期)から出土した石鍾は②で、重量は155.5gである。

H-1覆土中の生活面から出土のものと、H-5住居跡の床面のものでは形態・重量に違いがみられる。時期の差を反映しているものとも推測される。

偏平礫・礫片

石鍾の素材にしているのは主に偏平礫や礫片である。図示できなかったが、石鍾の素材となりえる偏平礫・礫片の出土総数は包含層出土のもので121点、住居跡覆土出土のもので139点である。

包含層出土の偏平礫・礫片の分布を見ていくと調査区南西側の住居跡などの遺構の多い区域と、I群a類土器が多く検出された東側の区域に多い。また、接合関係など検証できなかったが石鍾製作時に生じたと考えられる礫片は32点出土している。住居跡覆土出土の礫・礫片の分布は素材となる礫・礫片の出土が多いのはH-1である。石鍾製作時に出土と考えられる礫片が多く出土しているのはH-5、次いでH-1である。

その他

富野3遺跡とほぼ同時期の函館市中野A遺跡、青森県八戸市赤御堂遺跡の石鍾と比較してみる。中野A遺跡(平成3、4年調査・I群a類期)の場合、石質は流紋岩30.5%、門緑岩20.1%、凝灰岩13.9%、安山岩18%、泥岩2.8%、片岩1.4%、珪岩1%、不明18.1%である。素材も偏平礫のほか角礫、礫片等を使用している。挿入部に関しては、2対が1点ある他はすべて1対である。重量に関しては20g未満のものから600gのものまでである。もっとも多いのは80g~100gのものである。

赤御堂遺跡(I群b類期)の場合、各層から13点出土している。石鍾の記載を引用すると、「大部分が扁平な不正角礫片を利用している。礫の長軸方向を打ち欠いて、挿入を有するものがほとんどである(中略)。なかに、1点だけ短軸方向の両端に挿入を有するものがある。石材は砂岩、安山岩、頁岩、粘板岩、チャートである。」という内容である。重量について報告されている11点は最大で312g、最小で72gである。内訳は300g前後のもの3個、200g前後のもの4個、100g前後前後のもの4個である。

これら使用する礫の形状に関しては中野A遺跡と同じである。挿入部の数は両遺跡ともほぼ一致し1対である。挿入部の方向については中野A遺跡においては長軸方向につけられているものが多く、短軸方向のものもある。赤御堂遺跡においてはほとんどが短軸方向である。

富野3遺跡で石鍾に用いられている石材は安山岩36.5%、流紋岩34.9%、泥岩6.3%、凝灰岩4.8%、粘板岩3.2%、砂岩、チャート各々1.6%、その他不明11.1%である。

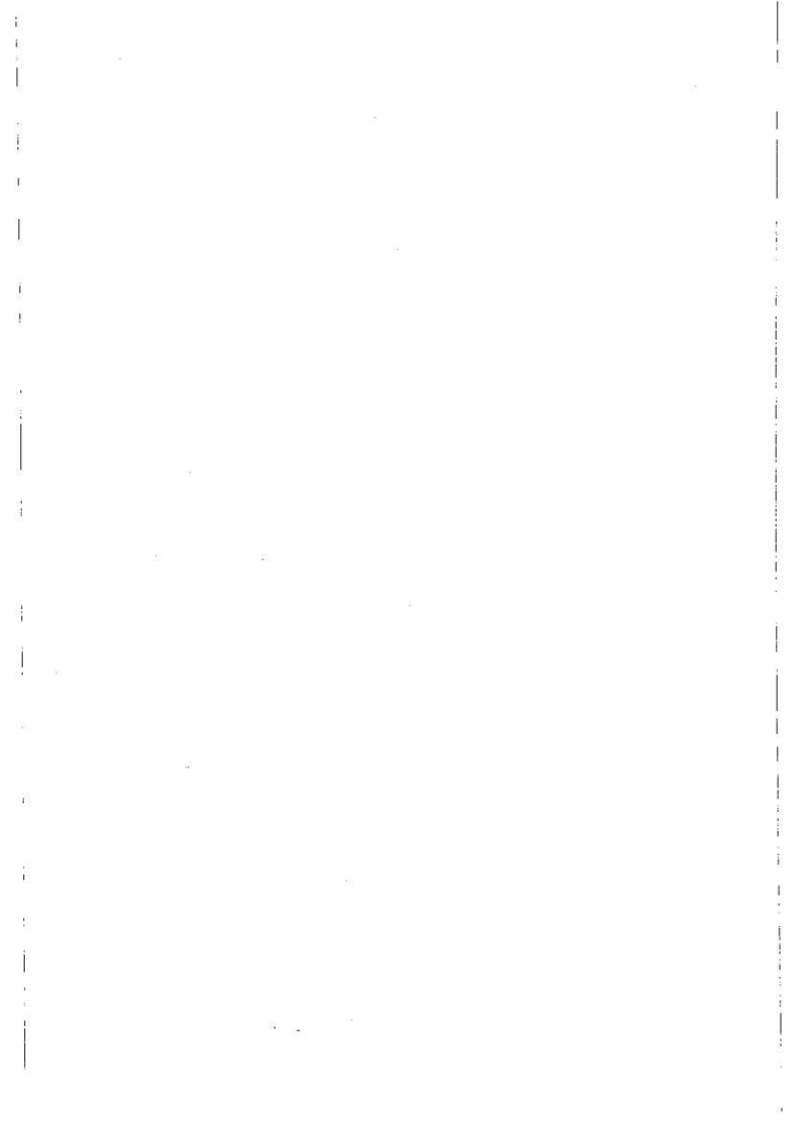
石材に関しては、流紋岩、安山岩が中野A遺跡と共通して多い。割合が少ないものでは赤御堂遺跡と、富野3遺跡の粘板岩、チャートの出土が挙げられよう。

重量を見ていくと、大型のものを除き中野A遺跡と同様の傾向を示すのに対し、赤御堂遺跡では比較的大型のものが多い。これらの類似点、相違点は必ずしも時期差などの違いとはいえないが、傾向としてみることができると考えられる。このことから富野3遺跡の石鍾は縄文時代早期の一時例として捉えることができる。(袖岡淳子)

引用・参考文献

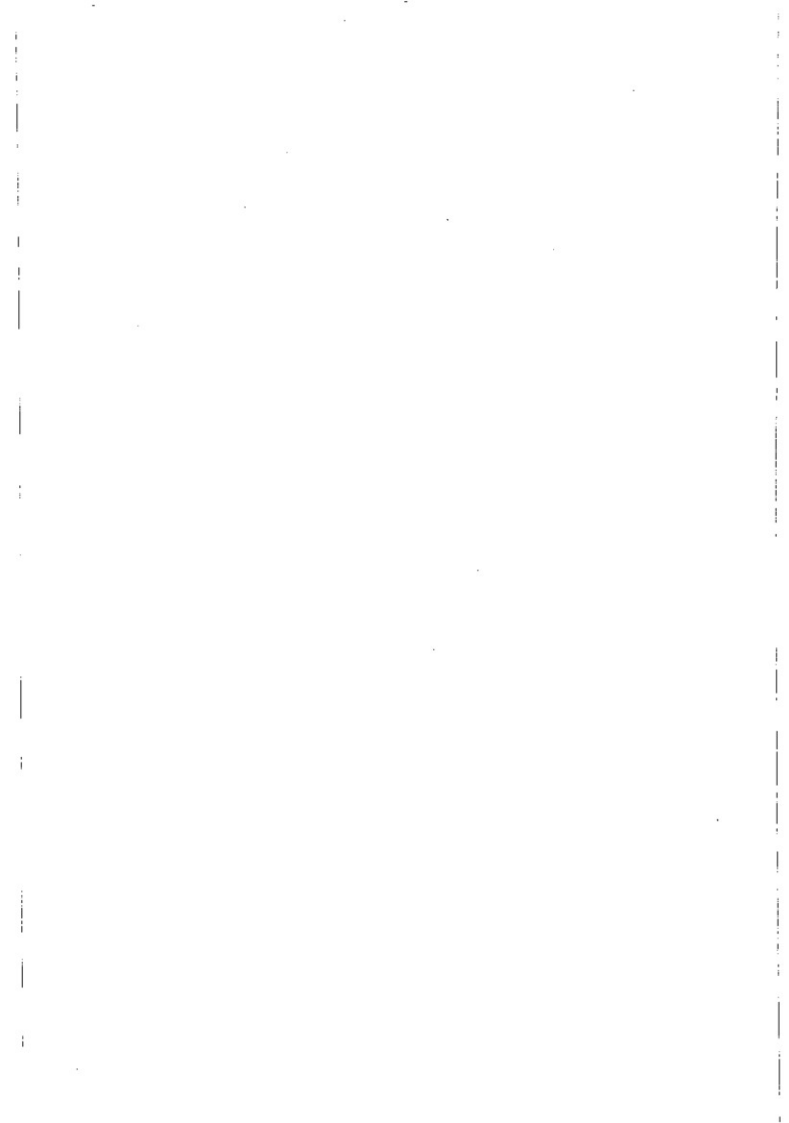
- 青森県教育委員会 1985 「売場遺跡発掘調査報告書」青森県埋蔵文化財調査報告書第93集
- 青森県教育委員会 1988 「上尾跡(1)遺跡 A 地区」青森県埋蔵文化財調査報告書第112集
- 青森県教育委員会 1988 「表館(1)遺跡Ⅲ」青森県埋蔵文化財調査報告書第120集
- 赤石慎三 1988 「短町2遺跡発見の石刃鏃について」『ショップ遺跡』三石町教育委員会・苫小牧市埋蔵文化財調査センター
- 大沼忠春 1984 「道南の縄文前期土器群の編年について」『北海道考古学』第20輯
- 大沼忠春 1986 「道南の縄文前期土器群の編年について(Ⅱ)」『北海道考古学』第22輯
- 大沼忠春 1986 「施文原体の変遷 東釧路式土器」『季刊考古学』第17号
- 長万部町史編集室 1977 『長万部町史』
- 小林達雄編 1989 『縄文土器大観1 草創期 早期 前期』小学館
- 熊谷仁志 1994 「縄文前半期 早期・前期・中期」『北海道考古学』第30輯
- 佐藤一夫・工藤 肇 1980 「白老町発見の石刃鏃の新例について」『北海道考古学』第16輯
- 佐藤一夫編 1988 「ショップ遺跡」三石町教育委員会・苫小牧市埋蔵文化財調査センター
- 佐藤達男他 1957 「青森県上北郡早稲田貝塚」『考古学雑誌』43巻2号
- 佐藤 稔他 1996 「ナイベコシナイ2遺跡」長万部町教育委員会
- 佐藤 稔他 1997 「栄原2遺跡」長万部町教育委員会
- 杉浦重信 1989 「西達布遺跡」富良野市文化財調査報告第6輯
- 地学団体研究会道南班 編 1989 「道南の自然を歩く」
- 田中熊雄 1953 「石鏃考」宮崎大学開学記念論文集
- 田中熊雄 1963 「北海道に於ける石鏃の研究(1)」宮崎大学学芸学部紀要15
- 田中熊雄 1963 「北海道に於ける石鏃の研究(2)」宮崎大学学芸学部紀要16
- 千代 肇 編 1974 『西栲樔』函館閣開発事業団
- 千代 肇 編 1995 『オバルベツ2遺跡 栄原2遺跡 ナイベコシナイ2遺跡』縦貫自動車道長万部埋蔵文化財調査概要報告書 長万部町教育委員会
- 中村哲也・坂本真弓 1998 「青森県の縄文早期住居跡集成」『研究紀要 第3号』青森県埋蔵文化財調査センター
- 中村公宣・佐藤智雄 1994 『豊原2遺跡』函館市教育委員会
- 西田 茂 1993 「ふたたび東釧路Ⅱ式について」潮見浩先生退官記念論文集『集考古論集』
- 野村 崇 1974 『札刈』木古内町教育委員会
- 八戸市教育委員会 1988 『赤御堂遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第33集
- 松岡達郎・中田清彦・横山英介 1977 『礫石鏃考—礫石鏃から網魚具を再現するひとつの試みとして—』考古学研究第24巻第1号 考古学研究会
- 横山英介 1998 「北海道における縄文文化の形成」野村 崇先生選層記念論集『北方の考古学』
- 縄北海道埋蔵文化財センター 1982 白老町 『虎杖浜3遺跡』北埋調報11
- 縄北海道埋蔵文化財センター 1985 登別市 『川上B遺跡』北埋調報20
- 縄北海道埋蔵文化財センター 1988 函館市 『石川1遺跡』北埋調報45
- 縄北海道埋蔵文化財センター 1988 函館市 『栲樔2遺跡』北埋調報46
- 縄北海道埋蔵文化財センター 1988 木古内町 『新道4遺跡』北埋調報47

- 北海道埋蔵文化財センター 1992 函館市 「中野 A 遺跡」 北埋調報79
 北海道埋蔵文化財センター 1993 函館市 「中野 A 遺跡Ⅱ」 北埋調報84
 北海道埋蔵文化財センター 1996 函館市 「西桔梗 1 遺跡」 北埋調報99
 北海道埋蔵文化財センター 1996 函館市 「石倉貝塚」 北埋調報109
 北海道埋蔵文化財センター 1997 七飯町 「鳴川右岸遺跡・桜町遺跡」 北埋調報112
 北海道埋蔵文化財センター 1998 函館市 「西桔梗 1 遺跡(2)」 北埋調報122
 静内町教委 1985 「静内町清水丘における考古学的調査」 静内町教育委員会
 標茶町教委 1998 「元村遺跡」 標茶町教育委員会
 北海道埋蔵文化財センター 1989 伊達市 「牛舎川右岸遺跡・稀府川遺跡」 北埋調報61
 北海道文化財保護協会 1983 「南稀府川 5 遺跡」



報告書抄録

ふりがな	おしやまんべちようとののさいせき							
書名	長万部町富野3遺跡							
副書名	北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	北海道埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第131集							
編著者名	佐藤和雄・皆川洋一・袖岡淳子・広田良成・立田 理							
編集機関	北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒064-0926 北海道札幌市中央区南26条西11丁目 TEL011-561-3131							
発行年月日	西暦1999年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とみのさいせき 富野3遺跡	おつかいどうおしやまんべちよう 北海道長万部町 とみの 富野	01347	30	42度 30分 57秒	140度 21分 55秒	19980506～ 19981028	8,500	道路(縦貫自動車道)建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
富野3遺跡	集落跡 散布地	縄文時代 早期 中～晩期	住居跡	15	縄文土器			
			土壇墓	1	石器			
			土壇	126				
			小ピット	8				
			焼土	40				
			フレイク・チップ集中	11				
			集石	1				



財北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第131集

長万部町 富野3遺跡

北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書
平成11年3月31日

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター

〒064-0926 札幌市中央区南26条西11丁目

TEL 011(561)3131

印刷 興国印刷株式会社

〒060-0041 札幌市中央区大道理東2丁目3番地1

札幌松村ビル2号館2F

TEL 011(252)2221

